

茨城県教育財団文化財調査報告第120集

(仮称)島名・福田坪地区土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

熊の山遺跡

平成9年3月

茨城県
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第120集

(仮称)島名・福田坪地区土地区画整理 事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

くま の やま 遺 跡
熊 の 山

平成 9 年 3 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団



熊の山遺跡全景（南から北方向を望む）



和鏡（山吹双鳥鏡・瑞花八稜鏡）

序

茨城県は、昭和38年に筑波研究学園都市計画地域の指定を受けて以来、我が国最大のサイエンスシティとして、国や民間の研究機関、大学、また関連の工場等を集中的に誘致し、日本の科学技術の研究開発の核として、さらに、国際交流の拠点としての国際都市にふさわしい町づくりを進めております。

この新しい町づくりに欠かせない新しい鉄道である常磐新線の整備は、つくばと東京圏を直結し、人・物・情報の交流を盛んにするだけでなく、地域活性化の大きな力となります。そこで、平成6年7月に県、市、地権者の三者協議が合意し、新線開発と沿線開発を一体的に進める土地区画整理事業が進められております。

この予定地内に熊の山遺跡が存在していたため、財団法人茨城県教育財団は、茨城県から埋蔵文化財発掘調査についての委託を受け、平成7年4月から翌年3月まで発掘調査を実施いたしました。この調査によって貴重な遺構、遺物が確認され、つくば市の歴史を解明する上に多大な成果をあげることができました。

本書は、熊の山遺跡の調査成果を収録したものであります。本書を研究資料としてはもとより、郷土史の理解を深め、ひいては教育、文化の向上の一助として広く御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査及び報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県からいただいた多大なる御協力に対し心から御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力をいただいたことに、衷心より感謝の意を表します。

平成9年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 橋本 昌

例 言

- 1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が、平成7年4月から平成8年3月まで発掘調査を実施した茨城県つくば市大字島名1611-1ほかに所在する熊の山遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 熊の山遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は、次のとおりである。

理 事 長	橋 本 昌	平成7年4月～
副 理 事 長	小 林 秀 文	平成6年4月～平成8年3月
	中 島 弘 光	平成7年4月～
	齋 藤 佳 郎	平成8年4月～
常 務 理 事	一 木 邦 彦	平成7年4月～平成8年3月
	梅 澤 秀 夫	平成8年4月～
事 務 局 長	齋 藤 紀 彦	平成7年4月～平成8年3月
	小 林 隆 郎	平成8年4月～
埋 蔵 文 化 財 部 長	安 藏 幸 重	平成5年4月～平成8年3月
	沼 田 文 夫	平成8年4月～
埋蔵文化財部長代理	河 野 佑 司	平成6年4月～
企 画 管 理 課	課 長	水 飼 敏 夫 平成4年4月～平成8年3月
	課 長 代 理	小 幡 弘 明 平成8年4月～
		根 本 達 夫 平成7年4月～
	係 長	清 水 薫 平成8年4月～
	主 任 調 査 員	海老澤 稔 平成6年4月～平成8年3月
		小 高 五十二 平成8年4月～
経 理 課	課 長	小 幡 弘 明 平成5年4月～平成8年3月
	主 査	河 崎 孝 典 平成8年4月～
		鈴 木 三 郎 平成7年4月～平成8年3月
		田 所 多 佳 男 平成8年4月～
	課 長 代 理	大 高 春 夫 平成7年4月～
	主 任	小 池 孝 平成7年4月～
	主 事	軍 司 浩 作 平成5年4月～平成8年3月
		柳 澤 松 雄 平成8年4月～
調 査 二 課	課 長	阿久津 久 平成7年4月～平成8年3月
	調 査 第 一 班 長	後 藤 哲 也 平成7年4月～
	主 任 調 査 員	新 井 聡 平成7年4月～平成8年3月 調査
	主 任 調 査 員	川 津 法 伸 平成7年4月～平成7年9月 調査
	主 任 調 査 員	川 村 満 博 平成7年10月～平成8年3月 調査

整理課	課長	山本 静 男	平成7年4月～
	首席調査員	川井 正 一	平成8年4月～
	主任調査員	新井 聡	平成8年4月～平成9年3月 整理・執筆・編集
		川村 満 博	平成8年4月～平成8年9月 整理・執筆

3 本書で使用した記号等については、凡例を参照されたい。

4 本書の作成にあたり、編集は新井が行い、第1章～3章第2節、第3節1の調査2区と4区、2～7は川村が執筆し、第3章第3節1の1区と3区、第4章は新井が執筆し、新井が補筆訂正を加えた。

5 本書の作成にあたり、第61号住居跡内出土の赤色顔料（ベンガラ）は、国立歴史民俗博物館助教授の永嶋正春氏に分析をしていただいた。また、第7号土坑、第45号土坑出土の和鏡は國學院大學講師の青木豊氏に鑑定をしていただいた。須恵器については湖西市教育委員会の後藤建一氏に御教示をいただいた。

6 発掘調査及び整理に際して、御指導、御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

7 遺跡の概略

ふりがな	(かしょう) しまな・ふくだつぼちくとちかくせいりじぎょうちないまいぞうふんかざいちようさほうこくしよ						
書名	(仮称) 島名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書						
副書名	熊の山遺跡						
巻次	I						
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告						
シリーズ番号	第120集						
著者名	新井 聡 川村 満 博						
編集機関	財団法人 茨城県教育財団						
所在地	〒310 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587						
発行日	1997(平成9)年3月25日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
くまのやまいせき 熊の山遺跡	いばらきけんつくばしおおあぎ 茨城県つくば市大字 しまな ばんち ほか 島名1611番地の1ほか	08220 -214	36度 3分 40秒	140度 3分 50秒	19950401 ～ 19960331	17,167㎡	(仮称) 島名・福田坪地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財記録保存のための発掘調査

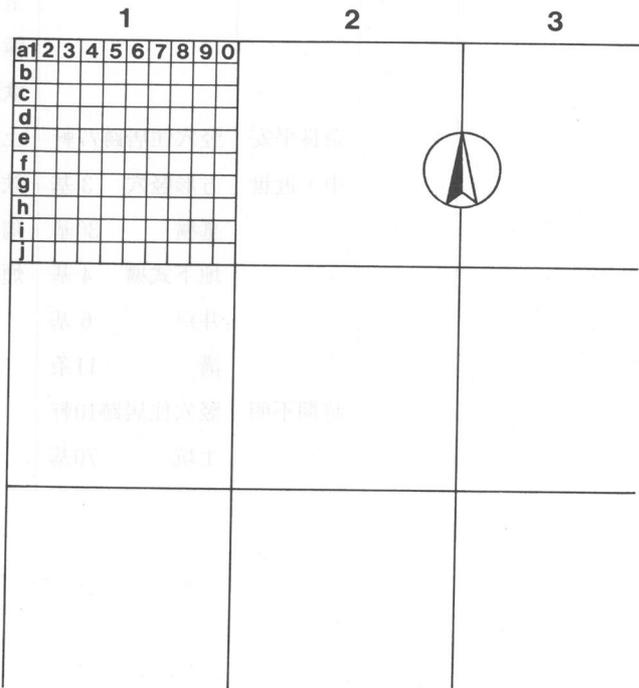
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
熊の山遺跡	集落跡	古墳 奈良平安 中・近世 時期不明	竪穴住居跡47軒 土坑 1基 竪穴住居跡77軒 方形竪穴 3基 墓壙 30基 地下式壙 4基 井戸 6基 溝 11条 竪穴住居跡10軒 土坑 70基	土師器 須恵器 支脚 土玉 勾 玉 切子玉 紡 錘車 双孔円板 鉄鏃 土師器 須恵器 鉄鏃 刀子 鏡 陶器片 五輪塔 煙管 古銭	古墳時代～平安時代の集落跡及び中世の墓跡等の複合遺跡である

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし、X軸＝＋57,400m、Y軸＝＋54,000mの交点を基準点 (A1a1) とした。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C……、西から東へ1、2、3……とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は、北から南へa、b、c……j、西から東へ1、2、3……0とし、名称は、大調査区の名称を冠し、「A1a1区」、「B2b2区」のように呼称した。



第1図 調査区呼称方法概念図

2 遺構、遺物、土層に使用した記号は、次のとおりである。

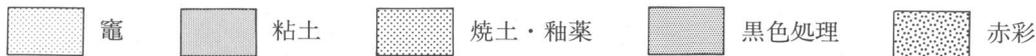
遺構 住居跡-S I 土坑-S K

不明遺構-S X 井戸-S E 溝-S D ピット-P

遺物 土器・陶器-P 土製品-D P 石製品-Q 金属製品・古銭-M 拓本土器-T P
自然遺物-N

土層 攪乱-K

3 遺構・遺物の実測図中の表示は、次のとおりである。



● 土器 □ 石器・石製品 ○ 土製品 △ 金属製品 ☆ 拓本記録土器

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

5 遺構・遺物実測図の作成方法と掲載方法については、次のとおりである。

(1) 遺跡の全体図は縮尺200分の1、住居跡や土坑、不明遺構は60分の1に縮尺し掲載した。

(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、個々にS=1/○と表示した。

(3) 「主軸方向」は長径方向とし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E, N-10°-W)。なお、[]を付したものは推定である。

(4) 土器の計測値は、A-口径 B-器高 C-底径 D-高台径 E-高台高 F-つまみ径 G-つまみ高とし、単位はcmである。なお、現存値は()で、推定値は[]を付して示した。

(5) 遺物観察表の備考の欄は、土器の残存率、実測(P)番号、出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

目 次

序	
例 言	
凡 例	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 遺跡	8
第1節 遺跡の概要	8
第2節 基本層序	8
第3節 遺構と遺物	9
1 竪穴住居跡	9
(1) 古墳時代	9
(2) 奈良時代	116
(3) 平安時代	151
(4) 時期不明	268
2 方形竪穴遺構	278
3 土坑	280
(1) 墓壙	280
(2) 墓壙の可能性のある土壙	287
(3) その他の土坑	298
4 地下式壙	312
5 井戸	316
6 溝	322
7 その他の遺構	328
8 遺構外出土遺物	338
第4節 まとめ	343

挿 図 目 次

第1図	調査区呼称方法概念図	第36図	第16号住居跡出土遺物実測図	42
第2図	熊の山遺跡調査区割図	第37図	第18・19号住居跡実測図	43
第3図	周辺遺跡位置図	第38図	第18号住居跡出土遺物実測図	44
第4図	基本土層図	第39図	第20・21・22・23号住居跡実測図	45
第5図	第40号住居跡実測図	第40図	第20号住居跡出土遺物実測図	46
第6図	第40号住居跡出土遺物実測図	第41図	第21号住居跡出土遺物実測図	47
第7図	第48号住居跡実測図	第42図	第30・31号住居跡実測図	48
第8図	第48号住居跡出土遺物実測図	第43図	第31号住居跡出土遺物実測図	49
第9図	第54・55・56号住居跡実測図	第44図	第39号住居跡実測図	51
第10図	第54号住居跡出土遺物実測図	第45図	第39号住居跡出土遺物実測図	52
第11図	第61号住居跡実測図	第46図	第44・45・46・47号住居跡実測図	53
第12図	第61号住居跡出土遺物実測図	第47図	第44号住居跡出土遺物実測図	54
第13図	第115-C号住居跡出土遺物実測図	第48図	第46号住居跡出土遺物実測図	55
第14図	第115-A・B・C号住居跡実測図	第49図	第49号住居跡実測図	56
第15図	第1・4・5号住居跡実測図	第50図	第49号住居跡出土遺物実測図	57
第16図	第1・4号住居跡竈実測図	第51図	第55号住居跡出土遺物実測図	58
第17図	第1号住居跡出土遺物実測図(1)	第52図	第60号住居跡実測図	60
第18図	第1号住居跡出土遺物実測図(2)	第53図	第60号住居跡出土遺物実測図	61
第19図	第2号住居跡実測図	第54図	第64号住居跡実測図	63
第20図	第2号住居跡出土遺物実測図	第55図	第64号住居跡出土遺物実測図(1)	64
第21図	第4号住居跡出土遺物実測図	第56図	第64号住居跡出土遺物実測図(2)	65
第22図	第6・7号住居跡実測図	第57図	第64号住居跡出土遺物実測図(3)	66
第23図	第6・7号住居跡竈実測図	第58図	第66・67・68・69号住居跡実測図	68
第24図	第7号住居跡出土遺物実測図	第59図	第66・67・68号住居跡竈実測図	69
第25図	第9-A号住居跡実測図	第60図	第68号住居跡出土遺物実測図	70
第26図	第9-A号住居跡竈実測図	第61図	第78・79号住居跡実測図	72
第27図	第9-A号住居跡出土遺物実測図	第62図	第78号住居跡出土遺物実測図	74
第28図	第9-B号住居跡実測図	第63図	第79号住居跡出土遺物実測図	75
第29図	第9-B号住居跡出土遺物実測図	第64図	第86号住居跡実測図	77
第30図	第10号住居跡実測図	第65図	第86号住居跡出土遺物実測図	78
第31図	第10号住居跡出土遺物実測図	第66図	第88号住居跡実測図	79
第32図	第11・12・14号住居跡実測図	第67図	第88号住居跡出土遺物実測図(1)	80
第33図	第11号住居跡出土遺物実測図	第68図	第88号住居跡出土遺物実測図(2)	81
第34図	第12号住居跡出土遺物実測図	第69図	第90号住居跡実測図	82
第35図	第15・16・17号住居跡実測図	第70図	第90号住居跡出土遺物実測図	83

第71图	第123号住居跡実測図	84	第108图	第37号住居跡出土遺物実測図	124
第72图	第123号住居跡出土遺物実測図	85	第109图	第38号住居跡実測図	126
第73图	第124号住居跡実測図	86	第110图	第38号住居跡出土遺物実測図	127
第74图	第124号住居跡出土遺物実測図	88	第111图	第42号住居跡実測図	128
第75图	第130号住居跡出土遺物実測図	89	第112图	第42号住居跡出土遺物実測図	129
第76图	第118・127・128・129・130号 住居跡実測図	90	第113图	第52号住居跡実測図	130
第77图	第3号住居跡実測図	91	第114图	第52号住居跡出土遺物実測図	130
第78图	第3号住居跡竈実測図	92	第115图	第57・59号住居跡実測図	132
第79图	第3号住居跡出土遺物実測図	93	第116图	第57号住居跡出土遺物実測図	133
第80图	第15号住居跡出土遺物実測図	95	第117图	第62号住居跡実測図	135
第81图	第19号住居跡出土遺物実測図	96	第118图	第62号住居跡出土遺物実測図	136
第82图	第22号住居跡出土遺物実測図	97	第119图	第66号住居跡出土遺物実測図	137
第83图	第24・25・26号住居跡実測図(1)	98	第120图	第69号住居跡竈実測図	138
第84图	第24・25・26号住居跡実測図(2)	99	第121图	第69号住居跡出土遺物実測・拓影図	139
第85图	第24号住居跡出土遺物実測図	100	第122图	第70号住居跡実測図	141
第86图	第25・26号住居跡竈実測図	101	第123图	第70号住居跡出土遺物実測図	142
第87图	第26号住居跡出土遺物実測図	102	第124图	第72-A・B号住居跡実測図	144
第88图	第29号住居跡実測図	104	第125图	第72-A号住居跡出土遺物実測図	145
第89图	第29号住居跡出土遺物実測図	104	第126图	第77-B号住居跡出土遺物実測図	146
第90图	第50号住居跡実測図	105	第127图	第83・84号住居跡実測図	148
第91图	第50号住居跡出土遺物実測図	106	第128图	第83号住居跡出土遺物実測図	149
第92图	第56号住居跡出土遺物実測図	108	第129图	第129号住居跡出土遺物実測図	151
第93图	第76・77-A・B号住居跡実測図	110	第130图	第13-A・B号住居跡実測図	152
第94图	第76・77-B号住居跡竈実測図	111	第131图	第13-A号住居跡 出土遺物実測図	153
第95图	第76号住居跡出土遺物実測図	111	第132图	第13-B号住居跡出土遺物実測図	154
第96图	第89号住居跡実測図	112	第133图	第41号住居跡 出土遺物実測図(1)	155
第97图	第89号住居跡出土遺物実測図	113	第134图	第41号住居跡 出土遺物実測・拓影図(2)	156
第98图	第119号住居跡実測図	115	第135图	第51号住居跡出土遺物実測図	157
第99图	第119号住居跡出土遺物実測図	115	第136图	第51号住居跡実測図	158
第100图	第6号住居跡出土遺物実測図	116	第137图	第59号住居跡出土遺物実測図(1)	160
第101图	第8号住居跡実測図	117	第138图	第59号住居跡出土遺物実測図(2)	161
第102图	第8号住居跡出土遺物実測図	118	第139图	第59号住居跡出土遺物実測図(3)	162
第103图	第25号住居跡出土遺物実測図	119	第140图	第65号住居跡実測図	165
第104图	第28号住居跡実測図	120	第141图	第65号住居跡出土遺物実測図	166
第105图	第28号住居跡出土遺物実測図	121	第142图	第67号住居跡出土遺物実測図	166
第106图	第37・41号住居跡実測図	122			
第107图	第37号住居跡竈実測図	123			

第143图	第72-B号住居跡 出土遺物実測図(1)·····168	第179图	第35号住居跡出土遺物実測図·····206
第144图	第72-B号住居跡 出土遺物実測図(2)·····169	第180图	第36号住居跡出土遺物実測図·····208
第145图	第73号住居跡実測図·····171	第181图	第47号住居跡出土遺物実測図·····209
第146图	第73号住居跡出土遺物実測図·····172	第182图	第63号住居跡実測図·····210
第147图	第74号住居跡実測図·····174	第183图	第63号住居跡出土遺物実測図·····210
第148图	第74号住居跡出土遺物実測図·····175	第184图	第85号住居跡実測図·····212
第149图	第75号住居跡実測図·····177	第185图	第85号住居跡出土遺物実測図·····212
第150图	第75号住居跡出土遺物実測図·····178	第186图	第91号住居跡実測図·····214
第151图	第80·81号住居跡実測図·····179	第187图	第91号住居跡出土遺物実測図·····214
第152图	第80号住居跡出土遺物実測図·····179	第188图	第92号住居跡実測図·····216
第153图	第81号住居跡出土遺物実測図·····180	第189图	第92号住居跡出土遺物実測図·····217
第154图	第82号住居跡実測図·····181	第190图	第93号住居跡実測図·····217
第155图	第82号住居跡出土遺物実測図·····182	第191图	第93号住居跡出土遺物実測図·····218
第156图	第99号住居跡実測図·····184	第192图	第94号住居跡実測図·····219
第157图	第99号住居跡出土遺物実測図·····184	第193图	第94号住居跡出土遺物実測図·····220
第158图	第111号住居跡実測図·····185	第194图	第95号住居跡実測図·····221
第159图	第111号住居跡出土遺物実測図·····185	第195图	第95号住居跡出土遺物実測図·····222
第160图	第112号住居跡実測図·····187	第196图	第97号住居跡実測図·····224
第161图	第112号住居跡出土遺物実測図·····188	第197图	第97号住居跡出土遺物実測図·····225
第162图	第122号住居跡実測図·····189	第198图	第98号住居跡実測図·····226
第163图	第122号住居跡出土遺物実測図·····190	第199图	第100号住居跡実測図·····227
第164图	第125号住居跡実測図·····192	第200图	第100号住居跡出土遺物実測図·····228
第165图	第125号住居跡竈実測図·····193	第201图	第101·102号住居跡実測図·····230
第166图	第125号住居跡出土遺物実測図·····194	第202图	第101号住居跡出土遺物実測図·····231
第167图	第14号住居跡出土遺物実測図·····195	第203图	第102号住居跡竈実測図·····231
第168图	第27号住居跡実測図·····196	第204图	第102号住居跡出土遺物実測図·····232
第169图	第27号住居跡出土遺物実測図·····197	第205图	第103号住居跡実測図·····233
第170图	第30号住居跡竈実測図·····198	第206图	第103号住居跡出土遺物実測図·····234
第171图	第30号住居跡出土遺物実測図·····198	第207图	第105号住居跡実測図·····236
第172图	第32号住居跡実測図·····199	第208图	第105号住居跡出土遺物実測図·····237
第173图	第32号住居跡出土遺物実測図·····200	第209图	第106号住居跡実測図·····239
第174图	第33号住居跡実測図·····202	第210图	第106号住居跡出土遺物実測図·····240
第175图	第33号住居跡出土遺物実測図·····202	第211图	第107-A·B·108号住居跡実測図·····241
第176图	第34号住居跡実測図·····203	第212图	第107-A·B·108号 住居跡竈実測図·····242
第177图	第34号住居跡出土遺物実測図·····204	第213图	第107-B号住居跡 出土遺物実測図·····244
第178图	第35·36号住居跡実測図·····205	第214图	第108号住居跡出土遺物実測図·····245

第215图	第109号住居跡出土遺物実測図 ……246	第248图	第24・45号土壙・出土遺物 実測・拓影図 ……284
第216图	第109・110号住居跡実測図 ……247	第249图	第78号土壙・出土遺物実測図 ……286
第217图	第110号住居跡 出土遺物実測図(1) ……249	第250图	第103号土壙実測図 ……287
第218图	第110号住居跡 出土遺物実測図(2) ……250	第251图	第11号土壙実測図 ……288
第219图	第113号住居跡実測図 ……252	第252图	第12号土壙実測図 ……288
第220图	第113号住居跡出土遺物実測図 ……253	第253图	第14号土壙実測図 ……289
第221图	第114号住居跡実測図 ……254	第254图	第16号土壙実測図 ……289
第222图	第114号住居跡出土遺物実測図 ……254	第255图	第17号土壙実測図 ……289
第223图	第115-B号住居跡 出土遺物実測図 ……256	第256图	第23号土壙・出土遺物実測図 ……290
第224图	第116号住居跡実測図 ……258	第257图	第36号土壙実測図 ……290
第225图	第116号住居跡出土遺物実測図 ……258	第258图	第40・41号土壙実測図 ……291
第226图	第117号住居跡実測図 ……259	第259图	第88号土壙実測図 ……292
第227图	第117号住居跡出土遺物実測図 ……260	第260图	第95号土壙実測図 ……292
第228图	第118号住居跡出土遺物実測図 ……261	第261图	第96号土壙実測図 ……293
第229图	第120号住居跡実測図 ……262	第262图	第104号土壙実測図 ……293
第230图	第120号住居跡出土遺物実測図 ……262	第263图	第107号土壙実測図 ……294
第231图	第121号住居跡実測図 ……263	第264图	第109号土壙実測図 ……294
第232图	第126-A・B号住居跡実測図 ……265	第265图	第110号土壙実測図 ……294
第233图	第126-A号住居跡 出土遺物実測図 ……266	第266图	第112・114号土壙・出土遺物実測図 ……295
第234图	第126-B号住居跡 出土遺物実測図 ……267	第267图	第115・116・117号土壙実測図 ……296
第235图	第23号住居跡出土遺物実測図 ……269	第268图	第123号土壙実測図 ……297
第236图	第43号住居跡実測図 ……269	第269图	第124号土壙実測図 ……298
第237图	第84号住居跡出土遺物実測図 ……271	第270图	土坑実測図(1) ……299
第238图	第87号住居跡実測図 ……271	第271图	土坑実測図(2) ……300
第239图	第87号住居跡出土遺物実測図 ……272	第272图	土坑実測図(3) ……301
第240图	第96号住居跡実測図 ……273	第273图	土坑実測図(4) ……302
第241图	第96号住居跡出土遺物実測図 ……273	第274图	土坑実測図(5) ……303
第242图	第1号方形竪穴遺構実測図 ……278	第275图	土坑実測図(6) ……304
第243图	第2号方形竪穴遺構実測図 ……279	第276图	土坑出土遺物実測図 ……307
第244图	第3号方形竪穴遺構実測図 ……279	第277图	第1号地下式壙実測図 ……312
第245图	第7号土壙実測・出土遺物拓影図 ……280	第278图	第2号地下式壙実測図 ……313
第246图	第9号土壙・出土遺物実測図 ……281	第279图	第3号地下式壙実測図 ……314
第247图	第18号土壙・出土遺物実測図 ……282	第280图	第4号地下式壙実測図 ……315
		第281图	第1号井戸実測・出土遺物拓影図 ……316
		第282图	第2号井戸実測図 ……317
		第283图	第3号井戸実測図 ……318
		第284图	第4号井戸実測図 ……318

第285図	第5号井戸実測図	319	第294図	第12号溝断面図	328
第286図	第6号井戸・出土遺物実測・拓影図	320	第295図	性格不明遺構実測図	329
第287図	第1号溝断面図	322	第296図	第1号塚・出土遺物実測図	330
第288図	第2号溝断面図	322	第297図	2区ピット群実測図	332
第289図	第3号溝断面図	323	第298図	3区ピット群実測図(1)	333
第290図	第4・5号溝断面・出土遺物実測図	324	第299図	3区ピット群実測図(2)	334
第291図	第6号溝断面図	325	第300図	4区ピット群実測図	337
第292図	第8・9・10号溝断面・ 出土遺物実測図	326	第301図	遺構外出土遺物実測図(1)	338
第293図	第11号溝断面・出土遺物実測図	327	第302図	遺構外出土遺物実測図(2)	339
			第303図	遺構外出土遺物実測図(3)	340

表 目 次

表1	熊の山遺跡周辺遺跡一覧表	6	表6	熊の山遺跡土坑一覧表	310~311
表2	熊の山遺跡住居跡一覧表	275~277	表7	熊の山遺跡地下式壙一覧表	316
表3	熊の山遺跡方形竪穴遺構一覧表	280	表8	熊の山遺跡井戸一覧表	321
表4	熊の山遺跡墓壙一覧表	287			
表5	熊の山遺跡墓壙の可能性のある 土坑一覧表	298			

写真図版目次

P L 1	現地説明会, 1区遺構確認状況, 2区全景	住居跡遺物出土状況	
P L 2	3区全景, 4区全景, 4区遺構確認状況	P L 10	第33号住居跡, 第33号住居跡遺物出土状況, 第34号住居跡
P L 3	第1・4・5号住居跡, 第1号住居跡遺物 出土状況, 第2号住居跡遺物出土状況	P L 11	第34号住居跡遺物出土状況, 第35号住居跡, 第35号住居跡遺物出土状況
P L 4	第3号住居跡, 第3号住居跡遺物出土状況, 第6・7号住居跡	P L 12	第36号住居跡, 第36号住居跡遺物出土状況, 第37号住居跡
P L 5	第8・9-A・10・12号住居跡	P L 13	第38・39・40号住居跡
P L 6	第15号住居跡, 第15・16・17号住居跡・第3 号土坑, 第18・19号住居跡	P L 14	第41号住居跡, 第42号住居跡, 第42号 住居跡遺物出土状況
P L 7	第19号住居跡竈, 第24~27号住居跡, 第25号住居跡	P L 15	第43・48・51号住居跡
P L 8	第26号住居跡遺物出土状況, 第27号住居跡 遺物出土状況, 第28号住居跡	P L 16	第52号住居跡・第5号土坑, 第54~56号 住居跡, 第54号住居跡遺物出土状況
P L 9	第31号住居跡, 第32号住居跡, 第32号	P L 17	第55号住居跡, 第55号住居跡遺物出土状況,

- 第56号住居跡竈
- P L 18 第57・59号住居跡, 第57号住居跡遺物
出土狀況, 第59号住居跡遺物出土狀況
- P L 19 第59号住居跡遺物出土狀況, 第60号住居跡,
第60号住居跡遺物出土狀況
- P L 20 第61・62・63号住居跡
- P L 21 第64号住居跡, 第64号住居跡遺物出土狀況,
第68・69・80・82号住居跡
- P L 22 第68・69・82・70号住居跡
- P L 23 第73号住居跡遺物出土狀況, 第75号住居跡,
第77-A号住居跡
- P L 24 第77-B号住居跡遺物出土狀況, 第78号
住居跡, 第83・84号住居跡
- P L 25 第85号住居跡, 第86号住居跡, 第88号
住居跡遺物出土狀況
- P L 26 第89号住居跡, 第89号住居跡遺物出土狀況,
第90号住居跡
- P L 27 第91号住居跡, 第92号住居跡・第68・74号
土坑, 第92号住居跡遺物出土狀況
- P L 28 第93号住居跡・第30号土坑, 第94号住居跡,
第95・111号住居跡
- P L 29 第95号住居跡遺物出土狀況, 第96号住居跡・
第43号土坑・第2号井戸, 第97号住居跡・
第3号井戸
- P L 30 第98号住居跡・第44号土坑, 第100号住居跡,
第100号住居跡遺物出土狀況
- P L 31 第101号住居跡・第27号土坑, 第102号
住居跡, 第103号住居跡・第56号土坑
- P L 32 第105号住居跡, 第105号住居跡遺物
出土狀況, 第106号住居跡
- P L 33 第107-A・B・108・109号住居跡
- P L 34 第110・112・114号住居跡
- P L 35 第116号住居跡, 第117号住居跡・第93・
127号土坑, 第118・130号住居跡
- P L 36 第119号住居跡, 第120号住居跡遺物出土状
況, 第121号住居跡・第75・105・113号土坑
- P L 37 第122号住居跡, 第122号住居跡遺物
出土狀況, 第123号住居跡
- P L 38 第124号住居跡, 第124・125号住居跡,
第124号住居跡遺物出土狀況
- P L 39 第124号住居跡遺物出土狀況, 第126-A・
B号住居跡, 第1号方形竪穴遺構
- P L 40 第2号方形竪穴遺構, 第3号方形竪穴遺構,
第7号土壙遺物出土狀況
- P L 41 第18号土壙, 第45号土壙遺物出土狀況,
第78号土壙
- P L 42 第11・14・17号土壙
- P L 43 第40・41・88・95号土壙
- P L 44 第96号土壙, 第107号土壙, 第10号土坑
- P L 45 第13号土坑, 第15号土坑, 第20号土坑遺物
出土狀況
- P L 46 第27・31・38・39号土坑
- P L 47 第46・47・52・53号土坑
- P L 48 第54・58・60号土坑
- P L 49 第61・62・63号土坑
- P L 50 第64・65・66号土坑
- P L 51 第71・72・73号土坑
- P L 52 第76・81・82号土坑
- P L 53 第83・91・92号土坑
- P L 54 第94・108・113号土坑
- P L 55 第1号地下式壙, 第2号井戸, 第3号井戸
- P L 56 第1号溝・第1号土坑, 第1号塚, 第1号
塚遺物出土狀況
- P L 57 第1・2号住居跡出土遺物
- P L 58 第2~4・6号住居跡出土遺物
- P L 59 第4・7・9-A・B・13-A・B~15・
18・20号住居跡出土遺物
- P L 60 第22・25・26・29・31~34号住居跡出土遺物
- P L 61 第32・36・37号住居跡出土遺物
- P L 62 第35・36・38~42号住居跡出土遺物
- P L 63 第46・48~50・54号住居跡出土遺物
- P L 64 第55~57・59・61号住居跡出土遺物
- P L 65 第59~62号住居跡出土遺物
- P L 66 第59・60・64・65号住居跡出土遺物
- P L 67 第64・66・68・69・72-B~74号住居跡出
土遺物

- P L 68 第74・75・77-B・80・82・83号住居跡出土遺物
- P L 69 第88・89・95号住居跡出土遺物
- P L 70 第91・95・97・100・102・103・105・108号住居跡出土遺物
- P L 71 第108・110~112・115-B・C・117号住居跡出土遺物
- P L 72 第117・122~126-B・130号住居跡出土遺物
- P L 73 出土土器・磁器
- P L 74 出土土器・土製品
- P L 75 出土土製品・石製品
- P L 76 出土石製品
- P L 77 出土石製品・金属製品
- P L 78 出土金属製品
- P L 79 出土金属製品
- P L 80 出土古銭・鉄滓・瓦・自然遺物

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経過

茨城県では、西暦2000年開通をめざし、常磐新線の建設とそれに伴う沿線開発に取り組んでいる。

当遺跡のある島名地区については、平成6年8月18日、茨城県知事は茨城県教育委員会あてに、常磐新線沿線地域の土地区画整理事業地域内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。

これに対して茨城県教育委員会は、平成6年9月19日から27日にかけて現地踏査を行った。平成7年3月8日、茨城県教育委員会から茨城県知事に、常磐新線沿線地域の島名・福田坪土地区画整理事業地域内に熊の山遺跡が所在する旨回答した。

同日、茨城県知事から茨城県教育委員会あてに、島名・福田坪特定土地区画整理事業に係わる熊の山遺跡(17,167㎡)の取扱いについて協議があり、文化財保護の立場から再三協議を重ねた。

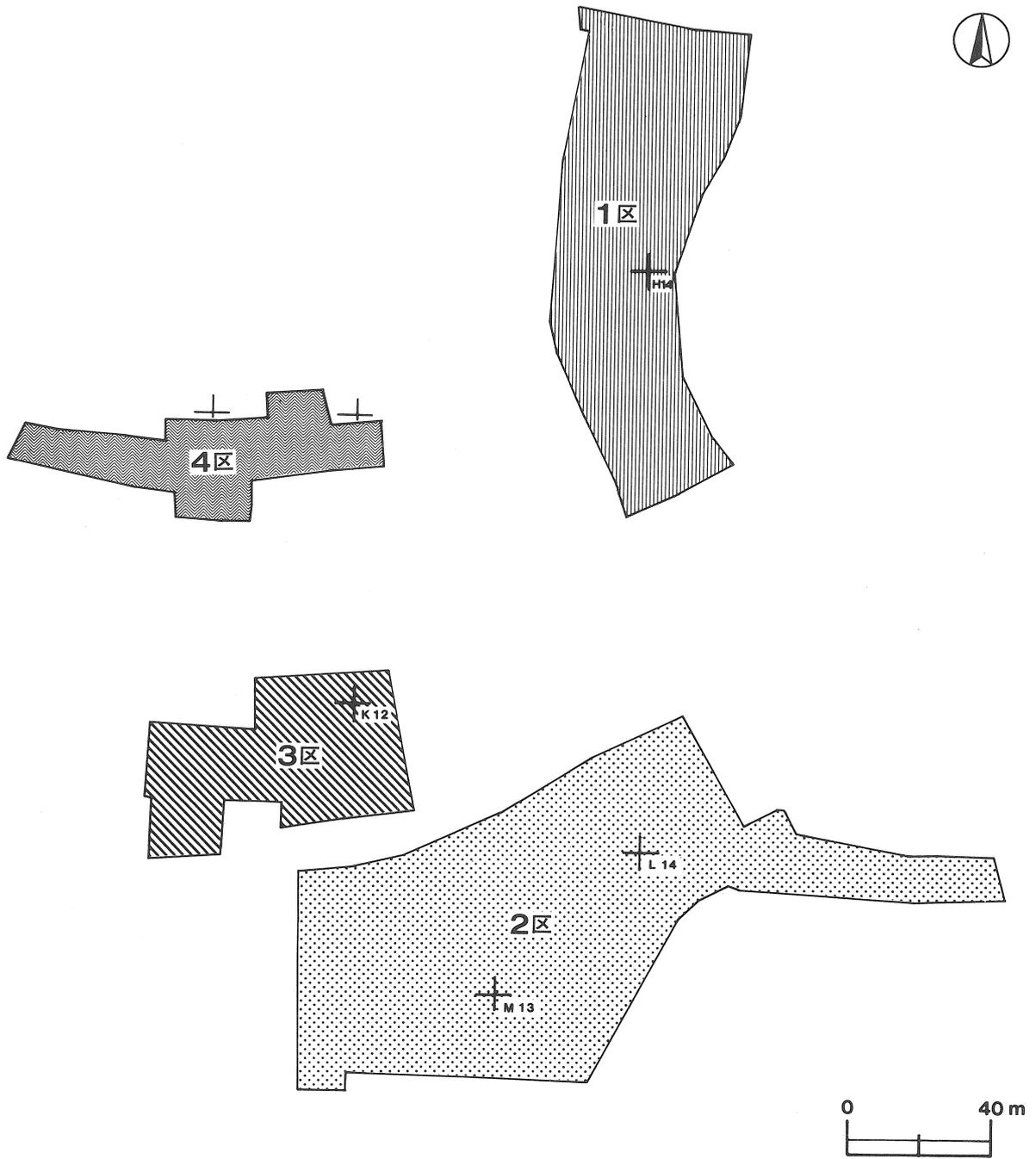
その結果、現状保存が困難であることから、平成7年3月9日、茨城県教育委員会から茨城県知事あてに、熊の山遺跡を記録保存とする旨回答し、調査機関として、財団法人茨城県教育財団が紹介された。

第2節 調査経過

熊の山遺跡の発掘調査を、平成7年4月1日から平成8年3月30日までの1年間にわたって実施した。以下、調査経過について、その概要を記述する。

- 4月 発掘調査を開始するため、現場倉庫の設置、調査器材の搬入・作業員募集等の諸準備を行った。
- 5月 11日に発掘調査の円滑な推進と安全を祈願して、鍬入れ式を挙行了した。
- 5月 17日に事務所を開設し、18日から作業員を投入して表採・試掘を開始した。土捨て場確保のため、2区東側斜面部の表土除去を人力で行い、26日に遺構確認調査を行った。
- 6月 2日に3区の人力による表土除去及び遺構確認を行う。5軒の住居跡を確認し、ベルトを設定し掘込みを開始した。また、12日から2区の試掘を開始した。
- 7月 3区の人力による表土除去・遺構確認を引き続き行うとともに、2区東側斜面の遺構調査を実施し、5号住居跡までの調査をほぼ終了した。
- 8月 1・2・4区の重機による表土除去と遺構確認を開始し、98軒の住居跡と120基の土坑を確認した。また、3区の遺構調査も始め、20号住居跡までの調査をほぼ終了した。18日には、つくば市市長公室広報公聴課による見学会が行われ、38名の見学者が訪れた。
- 9月 7日、作業員研修を実施し、整理センター、ひたちなか市三反田遺跡を見学した。36号住居跡まで調査し、3区の遺構調査をほぼ終了した。3区は奈良時代を中心とする集落跡であることが確認できた。
- 10月 1区の遺構調査に入り、北側から調査を開始した。土坑はほとんど確認できなかったが、住居跡は重複が激しく、調査に困難を極めたが、60号住居跡、6号溝までの調査をほぼ終了した。
- 11月 1区の調査をほぼ終了した。1区は、古墳時代後期を中心とする集落跡であることが確認できた。
- 12月 2区の遺構調査と1区の補足調査を始めた。8日、つくば市市長公室広報公聴課による遺跡見学会が実施され、20名の見学者が訪れた。100号住居跡、55号土坑、10号溝までの調査をほぼ終了した。

- 1月 117号住居跡，85号土坑までの調査を終え，2区の遺構調査をほぼ終了した。7号土坑から山吹双鳥鏡と骨粉が，45号土坑から瑞花八稜鏡と骨粉が出土し，平安時代末から中世初期の墓壙とかがえられる。2区には他にも遺物や平面形から墓壙と思われる土坑が多数あり，奈良・平安時代の住居跡と中世の墓域であることが確認できた。
- 2月 4区の調査を開始したが，西側が土取りによりほとんど攪乱されていたが，東側は中世の墓壙と考えられる土坑が多数あり，中世の墓域であることが確認できた。下旬には4区の調査をほぼ終了し，遺跡全景の撮影や現地説明会に向けての諸準備を行った。29日にはつくば市市長公室広報公聴課による見学会があり，40名の見学者が訪れた。
- 3月 2日に当遺跡の現地説明会を行った。7日には航空写真撮影を実施し，14日から撤収の準備を開始した。19日には遺構調査が終了した。現場事務所では諸帳簿や諸記録の点検，調査区では安全対策を行い，22日には現場事務所を閉鎖した。



第2図 熊の山遺跡調査区割図

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

熊の山遺跡は、茨城県つくば市大字島名1611-1ほかに所在している。昭和62年11月の4町村合併（桜村、谷田部町、大穂町、豊里町、昭和63年3月に筑波町も編入）によるつくば市誕生以前は、筑波郡谷田部町に属していた。

つくば市は、茨城県南西部に位置し、北は真壁郡明野町、同郡真壁町、新治郡八郷町に、東は同郡新治村、土浦市、南は牛久市、稲敷郡茎崎町、筑波郡伊奈町、同郡谷和原村に、西は水海道市、結城郡石下町、同郡千代川村、下妻市に接している。

つくば市の地形は、北は茨城県と福島県境にある八溝山から南に伸びる八溝山地の南端部に位置する筑波山を中心とする筑波山塊に接し、東の東流して霞ヶ浦に流入する桜川と、西端を緩流して利根川に合流する小貝川に挟まれた、筑波・稲敷台地上にあり、市街地の大部分がここに形成されている。この台地は常総台地の一部をなし、竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層が主体をなし、その上に板橋層または常総粘土層と呼ばれる灰白色粘土層（0.3～5.0m）、その上に関東ローム層（0.5～2.5m）が堆積し、最上部は腐食土層となっている。標高は河川流域に展開する沖積低地や浸食谷を除けばどこも20m前後を示しており、ほとんど高低差のない平坦な地形である。

当遺跡は、筑波研究学園都市の西側を南北に流れる東谷田川右岸の標高約19mの台地上に立地している。この台地は東を東谷田川、西を西谷田川に挟まれ、牛久沼まで南東方向に細長舌状に伸び、両河川等が開析し、沖積低地を形成している。低地は主に水田に利用されている。今回調査した1区は台地の東側斜面部、2、3、4区は台地の東側端部にあたり、東谷田川を挟んだ対岸は、科学万博つくば85の会場となった水堀地区である。水田との比高は約4m。調査前の現況は畑であった。

第2節 歴史的環境

つくば市谷田部地区には、東谷田川、西谷田川流域の台地上縁辺部や中央部と、東谷田川支流の蓮沼川右岸台地上に遺跡が数多く存在しているが、これまでの谷田部地区の遺跡分布調査の結果では、縄文時代以降の遺跡のみで、旧石器時代の遺構はまだ確認されていない。

縄文時代の遺跡は、^{さかいまつかいづか}境松貝塚<1>、^{やまだいせき}山田遺跡<3>など中期から後期にかけての遺跡が中心である。境松貝塚は谷田部地区の代表的な貝塚であり、縄文時代中期から後期の土器や石器が出土している。貝類は、オキシジミ、ヤマトシジミ、ムラサキガイ、シオフキなど、淡鹹両産で構成されている。山田遺跡からは縄文時代中期から後期の土器や石器が広範囲にわたって出土し、大規模な集落跡の可能性が予想される。熊の山遺跡周辺では、当遺跡から約1km南下した東谷田川と西谷田川に挟まれた台地の中央部に^{まえのいせき}前野遺跡<2>、さらに500m南に^{いっちょうだいせき}タカドロ遺跡<20>、一町田遺跡<21>が確認されている。タカドロ遺跡と一町田遺跡からは中期から後期にかけての遺物が出土しており、小貝川右岸の台地と東谷田川、西谷田川に挟まれた台地では縄文時代中期から人々の生活が営まれていたと考えられる。

弥生時代の遺跡は、2か所確認されているが、熊の山遺跡周辺にはない。

古墳時代の遺跡は、^{しもよこばいせき}下横場遺跡、^{おものいこふんぐん}面の井古墳群、^{せきのだいいふんぐん}関の台古墳群<8>、^{しもかわらぎきこふんぐん}下河原崎古墳群<10>などの中小の古墳群が数多く確認されている。古墳は大半が径7～25mの円墳である。

熊の山遺跡周辺では、当遺跡のすぐ北側に^{しまなくまのやまこふんぐん}島名熊の山古墳群<15>、約1km北に関の台古墳群と関の台遺跡<24>がある。当遺跡の南東約500mには^{やくしいせき}薬師遺跡<5>、南東約1.5kmには^{えのきうちいせき}榎内遺跡<6>がある。どの遺跡も東谷田川左岸の台地上に位置している。また、対岸の台地上には、東南東約1kmに水掘遺跡<25>、南東約1.5kmに^{やなはしいせき}柳橋遺跡がある。特に島名熊の山古墳群は、当遺跡1区のすぐ北に位置しており、径7～12m、高さ0.5～1.2mの円墳が11基群在している。1区は古墳時代後期の遺構が数多く確認されており、当遺跡との関連が考えられる。

平安時代は、「和名類聚抄」によれば、谷田部地区は河内郡八部郷といい、仁徳天皇の妃、^{やたのわかひいらつめ}八田若郎女のため八田部を置いた所と言われる。また、島名も「和名類聚抄」にある「鳴名郷」に比定されている。

奈良・平安時代の遺跡はこれまで確認されていなかったが、平成7年度、茨城県教育財団の調査により、熊の山遺跡の他に、当遺跡から北東約3kmの^{じんてんいせき}神田遺跡<27>、約3.5km南の^{にしくりやまいせき}西栗山遺跡<29>、^{ねさきいせき}根崎遺跡<28>にこの時代の遺構が存在することが明らかになった。平安時代末には苜間、谷田部、小野崎などに開発領主が出現したという言い伝えもあり、今後の調査の成果が期待できる。

12世紀後半には、常陸西南部をおおう広大な^{つねやすほ}常安保は^{みなみのまき}南野牧とともに村田荘の一部であったが、南野牧の分離とともに村田荘そのものになり、12世紀末にはさらに下妻荘、田中荘を分出し、八条院領として伝領された。谷田部地区の大部分は田中荘域に入る。常安保の開発領主は^{たいらのなおもと}平直幹と考えられ、下妻荘、村田荘の^{げすしき}下司職は下妻広幹に、田中荘の下司職は^{たけよしもと}多気義幹に伝えられたと推測されている。しかし、鎌倉幕府の成立後、八田知家^{はったとも}の入部により義幹は没落し、田中荘は小田氏の支配下に入る。^{しもつきそうどう}霜月騒動(1285年)により、一時北条得宗家^{ほうじょうとくそうけ}の手に移るが、室町時代になり、また小田氏の手に戻る。当時、小田氏配下の土豪に小野崎の荒井氏、苜間の野中瀬氏、島名・^{おものい}面野井の^{ひらいで}平井手氏がいたと伝えられる。

中世以降として確認された遺跡は城館跡がほとんどであるが、熊の山遺跡周辺では北北東へ約2kmの位置に平井手氏の居城と伝えられる^{おものいじょうあと}面野井城跡が確認されており、当遺跡との関連も考えられる。

註

- (1) 谷田部の歴史編纂委員会『谷田部の歴史』1975年9月

参考文献

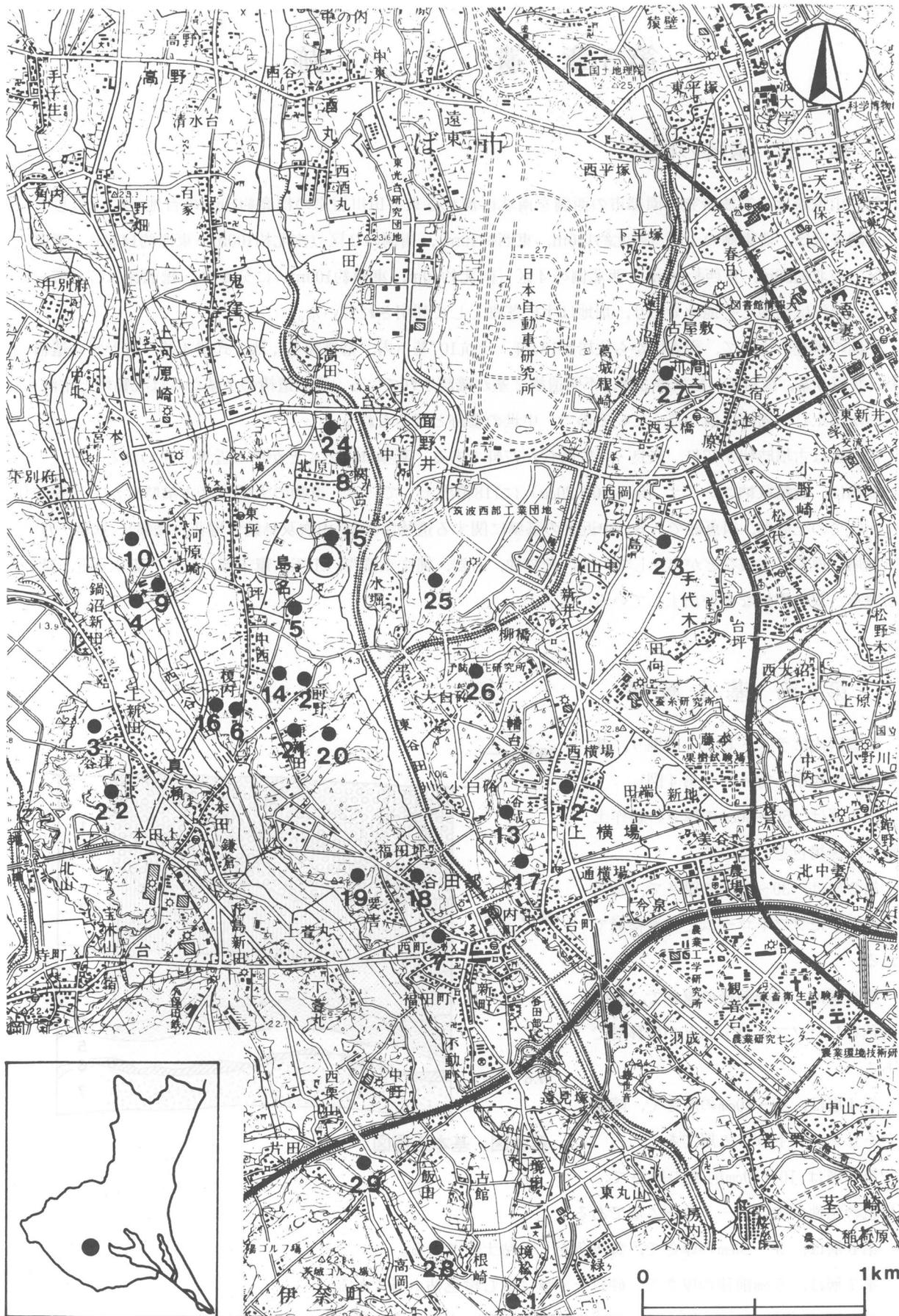
- ・ 註(1)同掲書
- ・ 茨城県史編纂会『茨城県史中世編』1976年3月
- ・ 池邊彌『和名類聚抄郡里驛名考證』吉川弘文館 1981年2月
- ・ 竹内理三『角川日本地名大辞典 8 茨城県』角川書店 1973年12月
- ・ 中山信名『新編常陸国誌』崙書房 1978年12月
- ・ 鬼澤大海『常陸旧地考』崙書房 1976年10月
- ・ 江原忠昭『増補 茨城の地名』耕人社 1976年1月
- ・ 茨城県教育財団『研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(I)』茨城県教育財団文化財調査報告第54集 1989年9月
- ・ 茨城県教育財団『研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(II)』茨城県

教育財団文化財調査報告第63集 1991年3月

- ・ 茨城県教育財団『研究学園都市計画桜柴崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)』茨城県教育財団文化財調査報告第72集 1992年3月
- ・ 茨城県教育財団『研究学園都市計画桜柴崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅳ)』茨城県教育財団文化財調査報告第93集 1994年9月
- ・ 茨城県教育委員会『茨城県遺跡地図』1991年3月
- ・ 大森昌衛 蜂須紀夫『茨城の地質をめぐって』築地書館 1979年9月

表1 熊の山遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	県遺跡番号	時代						番号	遺跡名	県遺跡番号	時代							
			旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	鎌室				江戸	旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	鎌室	江戸
◎	熊の山遺跡	当遺跡				○	○	○	○	15	島名熊の山古墳群	2120				○			
1	境松貝塚	2098		○						16	ツバタ遺跡	2906				○			
2	前野遺跡	2100		○						17	台成井遺跡	2910		○					
3	山田遺跡	2101		○						18	福田前遺跡	2911		○					
4	高山遺跡	2103			○					19	福田坪池の台遺跡	2912		○					
5	薬師遺跡	2105				○				20	タカドロ遺跡	2914		○					
6	榎内遺跡	2106				○				21	一町田遺跡	2915		○					
7	谷田部城跡	2110						○		22	真瀬新田谷津遺跡	2916		○					
8	関の台古墳群	2112				○				23	荇間遺跡	2917				○			
9	高山古墳群	2114				○				24	関の台遺跡	2919				○			
10	下河原崎古墳群	2115				○				25	水堀遺跡	5838				○			
11	羽成古墳群	2116				○				26	柳橋遺跡	5839				○			
12	道心塚古墳群	2117				○				27	神田遺跡	5841	○	○	○	○	○	○	○
13	台町古墳群	2118				○				28	根崎遺跡		○	○		○	○	○	
14	榎内古墳群	2119				○				29	西栗山遺跡		○	○		○			



第3図 周辺遺跡位置図

第3章 遺跡

第1節 遺跡の概要

熊の山遺跡は、筑波研究学園都市の西側を南北に流れる東谷田川右岸の標高約19mの台地上に位置している。調査区は、北東側の1区（南北約130m，東西約40m），南側の2区（南北約100m，東西約140m），西側の3区（南北約50m，東西約60m），西北側の4区（南北約40m，東西約100m）に分かれ，総面積は17,167㎡である。現況は畑地と平地林であり，畑地は主に芝畑として利用されていた。

今回の調査によって，調査区から住居跡134軒，土坑101基（内，墓壙30基），地下式壙4基，方形竪穴遺構3基，井戸6基，溝11条，柱穴群3群，不明遺構2基が確認されている。不明遺構の1基からは五輪塔と常滑片，骨粉が出土し，周囲に溝が巡っているため，中世の墓跡と考えられる。

住居跡は古墳時代が47軒，奈良・平安時代が77軒である。墓壙はほとんどが中・近世と思われる。

遺物は，遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に118箱出土している。遺物の大部分は古墳時代から平安時代にかけての土師器，須恵器である。中近世の墓壙に関する遺物は和鏡（山吹双鳥鏡と瑞花八稜鏡），鉄鏃，刀子，五輪塔，煙管，古銭などが出土している。その他，石器，縄文土器片，土玉，竈支脚，勾玉，切り子玉，砥石，紡錘車，双孔円板などが出土している。

第2節 基本層序

調査区内にテストピットを掘り，基本土層の観察を行った（第4図）。

第1層は，50～80cmの厚さの耕作土層で，黒褐色をしている。

第2層は，30～45cmの厚さで，暗褐色をしたソフトロームとの漸移層である。

第3層は，50cm前後の厚さで，極暗褐色をしたソフトロームとの漸移層である。

第4層は，20～40cmの厚さで，暗褐色をしたソフトローム層である。

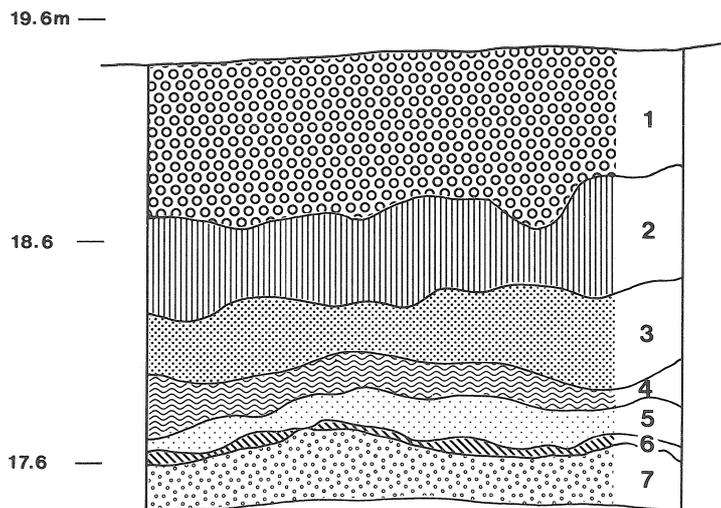
第5層は，10～40cm前後の厚さで，褐色の粘性の強いハードローム層である。

第6層は，5～20cmの厚さで，黄褐色をした粘土層である。

第7層は，5cm前後の厚さで，砂質を多量に含む橙色粘土層である。

第8層は，20～30cmの厚さで，海底堆積の状況を示す幾層もの層状を呈する砂層である。

住居跡などの遺構は，第2層上面で確認した。



第4図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

今回の調査では、古墳時代の竪穴住居跡47軒、奈良時代の竪穴住居跡18軒、平安時代の竪穴住居跡59軒、時期不明の竪穴住居跡10軒を検出した。以下、検出した遺構と遺物について記載する。

(1) 古墳時代

第40号住居跡（第5図）

位置 調査1区の北部，F14i₂区。

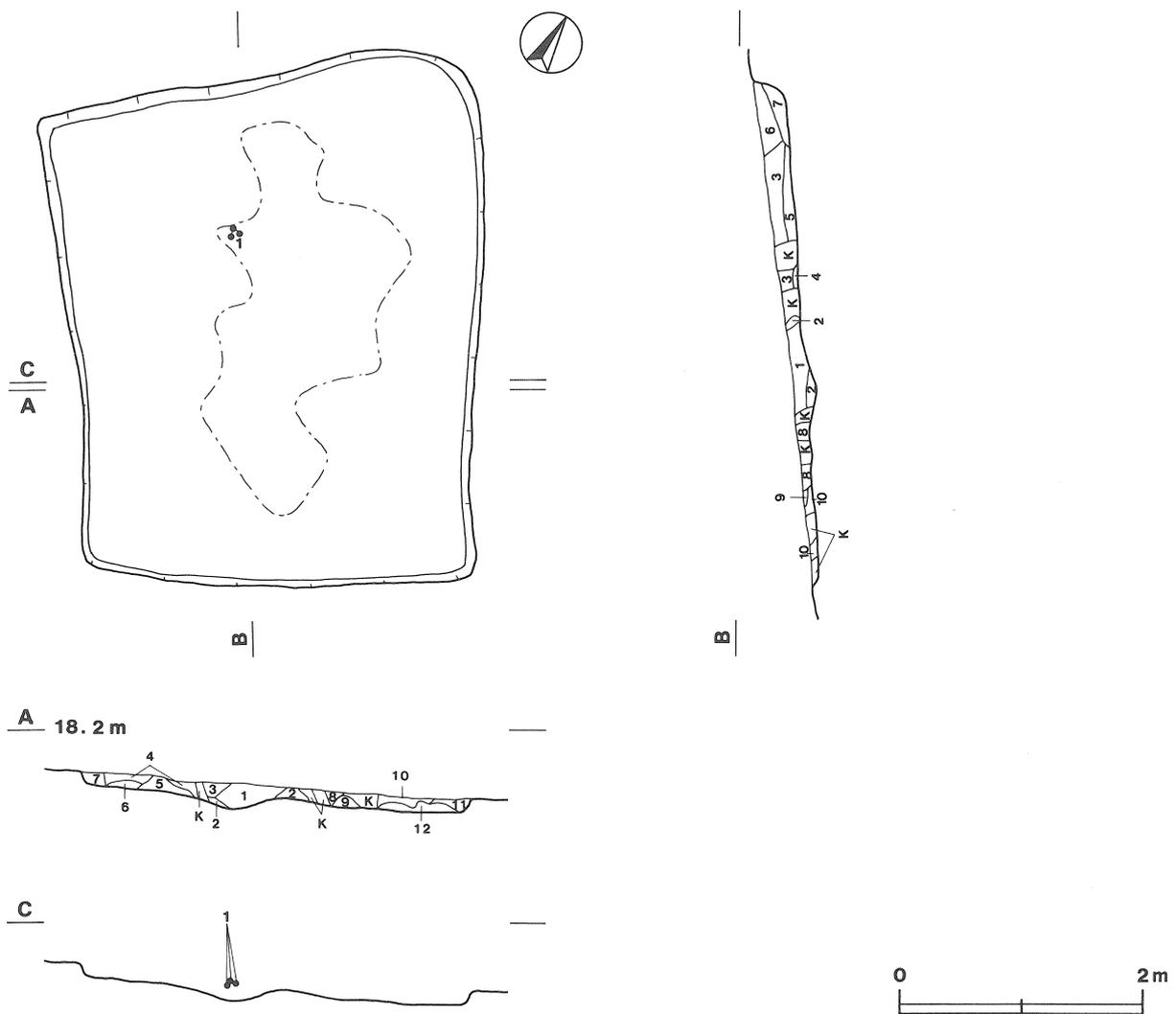
規模と平面形 長軸4.41m，短軸3.18mの長方形である。

主軸方向 N-34°-W

壁 壁高は6～25cmで，外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で，中央部が踏み固められている。

覆土 12層からなり，人為堆積である。



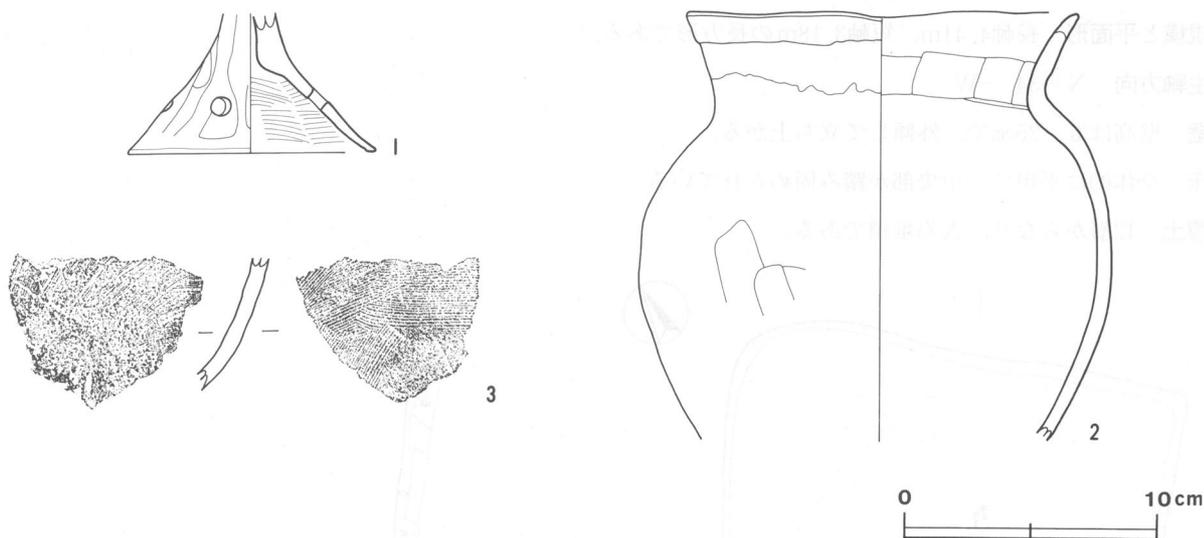
第5図 第40号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子微量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量 | 8 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 10 褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子微量, 焼土小ブロック微量 | 12 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物 土師器片128点, 須恵器片2点, 陶器片1点が出土している。1の土師器器台は中央部覆土下層から, 2の土師器甕は覆土中からそれぞれ出土している。3は覆土中から出土した土師器甕の体部破片で, 外面は刷毛目整形が施されている。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



第6図 第40号住居跡出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第6図 1	器台 土師器	D 9.8 E (5.8)	脚部破片。台部は「ハ」の字状に強く開く。脚部中位に4単位の円孔が付く。	脚部外面ナデ。内面刷毛目整形後ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母, にぶい橙色 普通	P145 60% 覆土下層
2	甕 土師器	A 15.4 B (17.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 頸部で「く」の字状に折れ, 口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面削り後ナデ。体部内ナデ。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P146 50% 覆土中

第48号住居跡 (第7図)

位置 調査1区の北部, F13i6区。

規模と平面形 長軸2.87m, 短軸2.26mの長方形である。

主軸方向 N-13°-E

壁 壁高は7~11cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

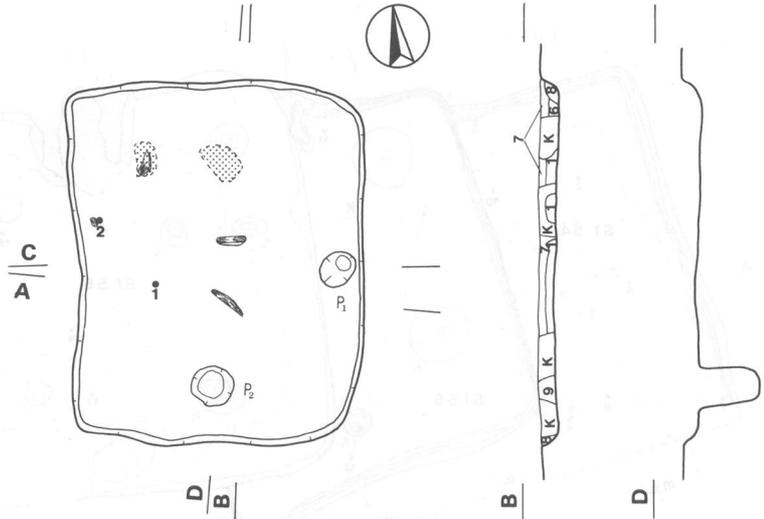
ピット 2か所 (P1, P2)。P1は東壁中央付近にあり, 長径30cm, 短径25cmの楕円形, 深さ70cmである。

P2は南壁中央付近にあり, 径35cmの円形, 深さ53cmである。

覆土 9層からなり、自然堆積である。

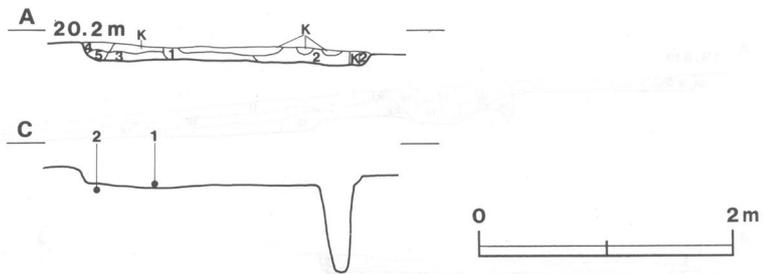
土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土中ブロック中量, 焼土粒子中量, 炭化物少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子少量, 炭化物微量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子中量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子微量

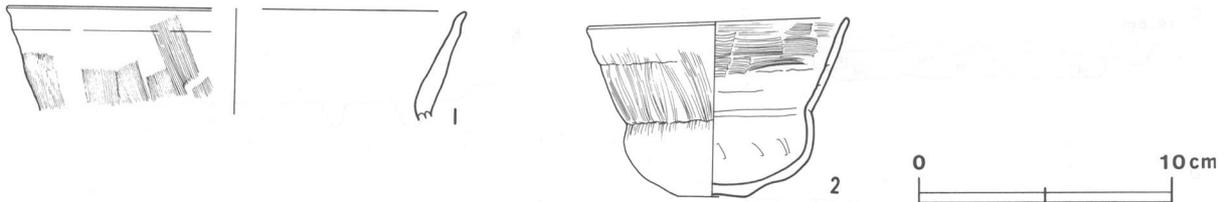


遺物 土師器片5点, 須恵器片25点が出土している。2の土師器埴と1の土師器甕は床面から出土している。

所見 本跡は、床面に焼土や炭化材が堆積している状況から、焼失家屋と考えられる。本跡の時期は、1, 2が床面から出土していることから、古墳時代前期と考えられる。



第7図 第48号住居跡実測図



第8図 第48号住居跡出土遺物実測図

第48号住居跡出土遺物観察表

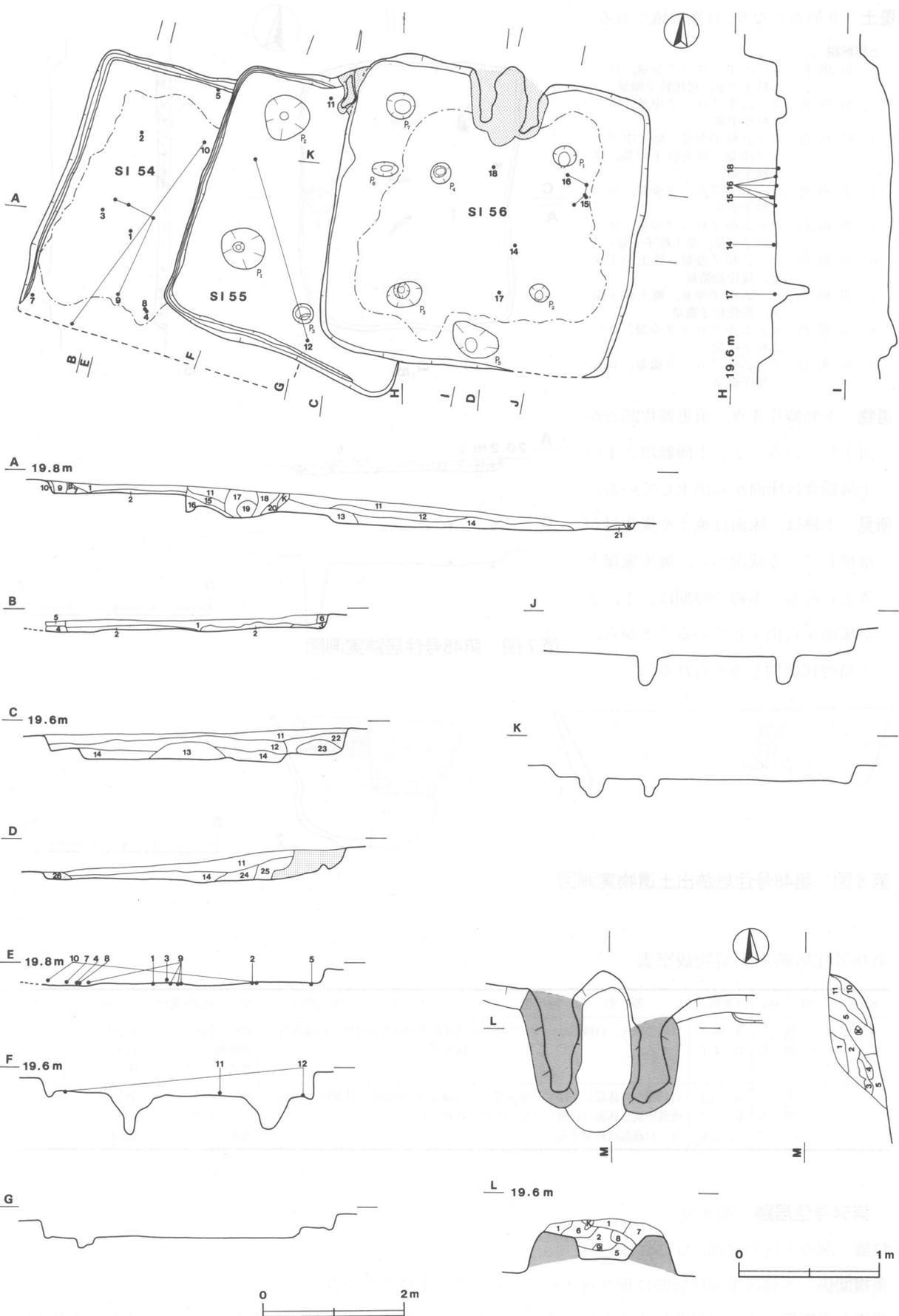
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8図 1	甕 土師器	A [18.0] B (4.1)	口縁部破片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面刷毛目調整。口縁部内面横ナデ。	砂粒・長石 黒褐色 普通	P 166 10% 床直
2	埴 土師器	A 10.3 B 7.2 C 2.6	口縁部から体部にかけて一部欠損。底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面刷毛目調整。体部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石 にふい橙色 普通	P 165 70% 床直

第54号住居跡 (第9図)

位置 調査1区の北部, G13c5区。

重複関係 本跡は第55住居跡に掘り込まれているので、本跡の方が古い。

規模と平面形 重複や耕作による攪乱を受けているため、規模や平面形は明確ではないが、残存する壁や床から長軸 [4.00] m, 短軸 (1.95) mで、方形または長方形と考えられる。



第9图 第54·55·56号住居跡実测图

主軸方向 N-18°-E

壁 壁高は16cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は、北東壁下、北西壁下に確認され、上幅9~16cm、下幅2~7cm、深さ8cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、中央部が踏み固められている。

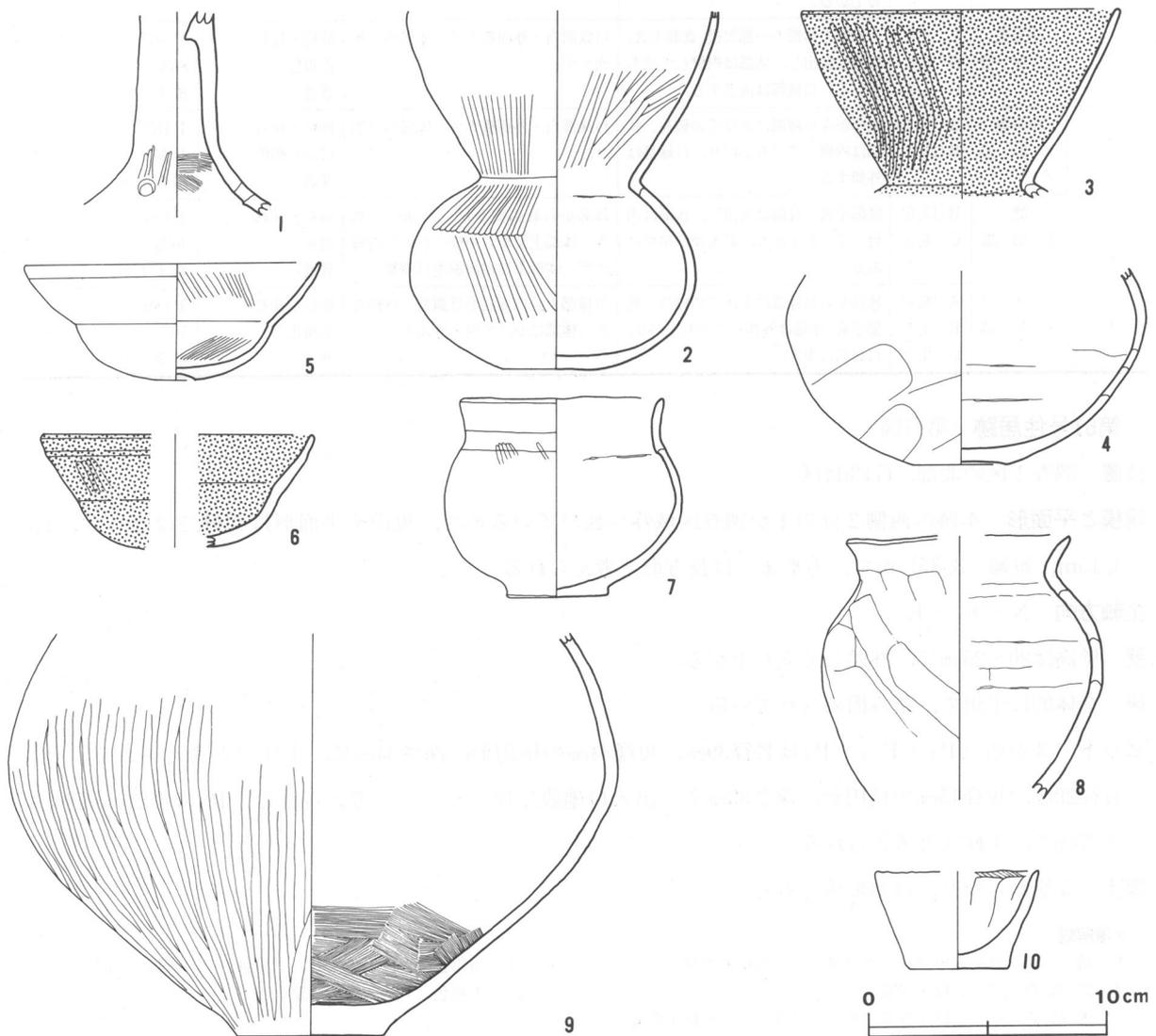
覆土 10層からなり、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|-------|--------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ローム小ブロック微量、ローム粒子微量 | 7 褐色 | ローム中ブロック中量、ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 極暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 極暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子少量 | 10 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物 土師器片140点、須恵器片4点が出土している。2~5の埴、7と9の土師器小型甕、10のミニチュア土器及び1の器台は、いずれも覆土下層から、8の土師器小型壺は南壁付近の覆土下層から、6の土師器埴は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



第10図 第54号住居跡出土遺物実測図

第54号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第10図 1	器台 土師器	E (8.0)	脚部破片。裾部は「ハ」の字状に開き、複数の円孔を有する。脚部は円柱形である。	脚部から裾部にかけて外面へラ磨き。裾部内面刷毛目調整後ナデ。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P188 20% 覆土下層
2	埴 土師器	B (15.2) C 3.0	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径が体部中位にある。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面へラ磨き。体部から底部にかけて外面へラ磨き。内面ナデ。	砂粒・石英・長石 明赤褐色 普通	P180 80% 覆土下層
3	埴 土師器	A 13.4 B (8.0)	口縁部破片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面へラ磨き。赤彩。	砂粒・石英・バミス にふい黄橙色 普通	P182 50% 覆土下層
4	埴 土師器	B (8.3) C 3.9	底部から体部にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P184 60% 覆土下層
5	埴 土師器	A 12.5 B 5.0 C 1.6	底部丸底。底部の中心にくぼみがある。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は頸部から外傾して立ち上がる。	口縁部上位内・外面横ナデ。口縁部中位から底部にかけて内・外面へラ磨き。	砂粒・長石 にふい橙色 普通	P181 100% 覆土下層
6	埴 土師器	A [11.4] B (4.8)	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は、頸部から外傾して立ち上がる。	口縁部から底部にかけて内・外面へラ磨き。赤彩。	砂粒・石英 赤褐色 普通	P183 20% 覆土下層
7	小型甕 土師器	A 8.4 B 8.4 C 4.2	口縁部と体部の一部欠損。底部平底。底部は突出し、体部は内彎して立ち上がる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P186 85% 覆土下層
8	小型甕 土師器	A [9.3] B (11.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部へラ削り。	砂粒・長石 にふい褐色 普通	P187 40% 覆土下層
9	甕 土師器	B (17.0) C 6.0	底部平底。底部は突出し、体部は内彎して立ち上がり、最大径が中位にある。	体部から底部にかけて外面へラ磨き。体部上位から中位にかけて内面ナデ。体部下位内面刷毛目調整。	砂粒・長石 橙色 普通	P185 40% 覆土下層
10	ミニチュア 土師器	A [6.9] B 4.1 C [4.2]	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部上位内面刷毛目調整。口縁部から体部にかけて内・外面ナデ。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P189 50% 覆土下層

第61号住居跡 (第11図)

位置 調査1区の北部、G13d5区。

規模と平面形 本跡の西側2分の1が調査区域外へ延びているので、規模や平面形は明確ではないが、長軸4.15m、短軸(3.35)mで、方形または長方形と考えられる。

主軸方向 N-8°-E

壁 壁高は20~25cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

ピット 3か所(P1~P3)。P1は長径39cm、短径34cmの楕円形、深さ34cmで、支柱穴と考えられる。P2は長径20cm、短径15cmの楕円形、深さ33cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。P3は径21cm円形、深さ27cmで、支柱穴と考えられる。

覆土 5層からなり、自然堆積である。

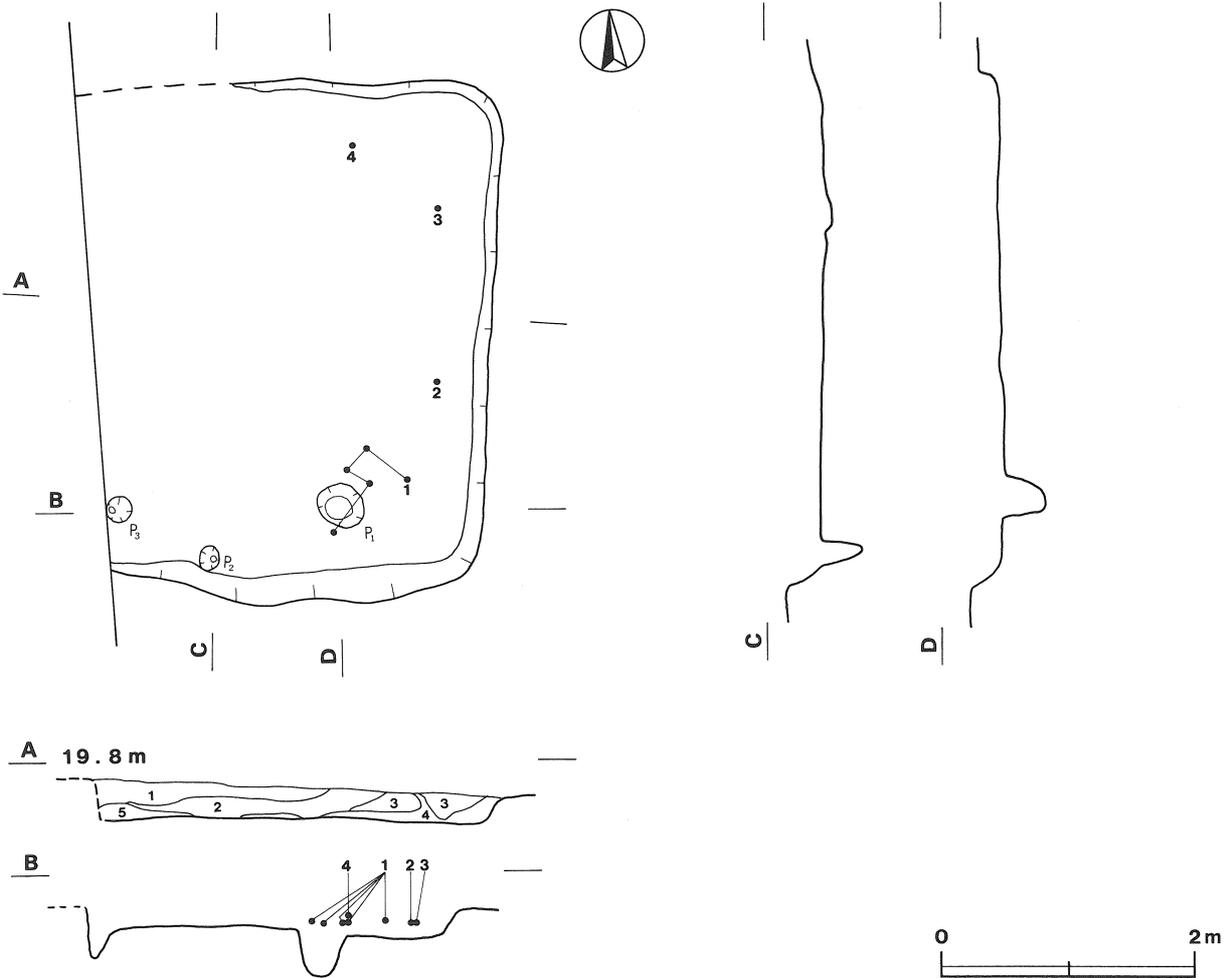
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|--------------------|
| 1 褐色 | ローム中ブロック中量、ローム粒子中量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量、炭化粒子微量 | | |

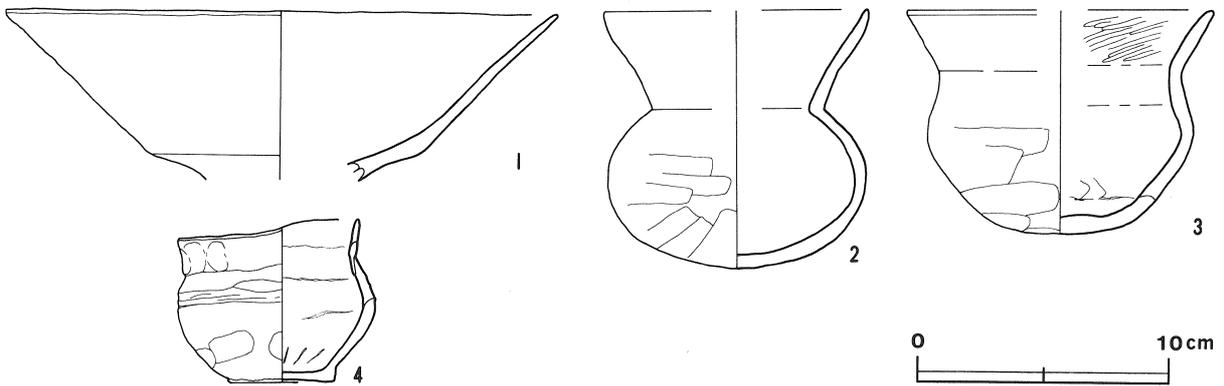
遺物 土師器片86点、須恵器片2点が出土している。4の土師器小型壺は、北壁付近の覆土下層から多量のべ

ンガラが詰まった状況で出土している。1の土師器坏はピット1付近の覆土下層から、2、3の埴は東壁付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から、古墳時代中期と考えられる。



第11図 第61号住居跡実測図



第12図 第61号住居跡出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第12図 1	高坏 土師器	A 21.8 B (6.7)	坏部破片。坏底部と坏体部の境に稜がある。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石 明褐色 普通	P 229 20% 覆土下層
2	埴 土師器	A [10.5] B 10.3	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、最大径が体部中位にある。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へラナデ。	砂粒・石英 にふい橙色 普通	P 230 60% 覆土下層
3	埴 土師器	A [12.2] B 8.9	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部外面ナデ。口縁部内面へラ磨き。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	砂粒・石英・長石 にふい橙色 普通	P 231 40% 覆土下層
4	小型壺 土師器	A 7.1 B 6.5 C 4.0	底部から口縁部にかけての破片。底部は平底で、やや突出している。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。一部に指頭圧痕。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・パミス にふい橙色 普通	P 228 60% 覆土下層 多量のベンガラ

第115-C号住居跡 (第14図)

位置 調査2区南部, M12j7区。

重複関係 本跡は第115-B号住居跡と第9号溝に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 第115-B号住居跡と第9号溝に掘り込まれており規模は不明であるが、長軸 [5.13] m, 短軸4.69mの方形と推定される。

主軸方向 N-50°-W

壁 壁高は8~11cmで、緩斜して立ち上がる。

床 全体的に平坦で、あまり踏み固められていない。北西側に長径60cm, 短径45cmの楕円形に焼土が確認されているが、床面は硬化しておらず、炉であるかは不明である。

ピット 2か所。P₁, P₂とも径38cm前後の円形で、深さは20~41cmである。位置から、支柱穴と考えられる。

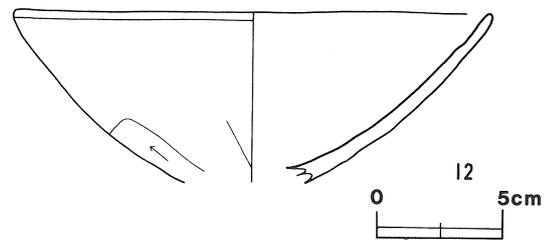
覆土 単一層からなり、自然堆積である。

土層解説

13 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片152点, 須恵器片14点が出土している。12の土師器の高坏がP₁の覆土中から出土している。

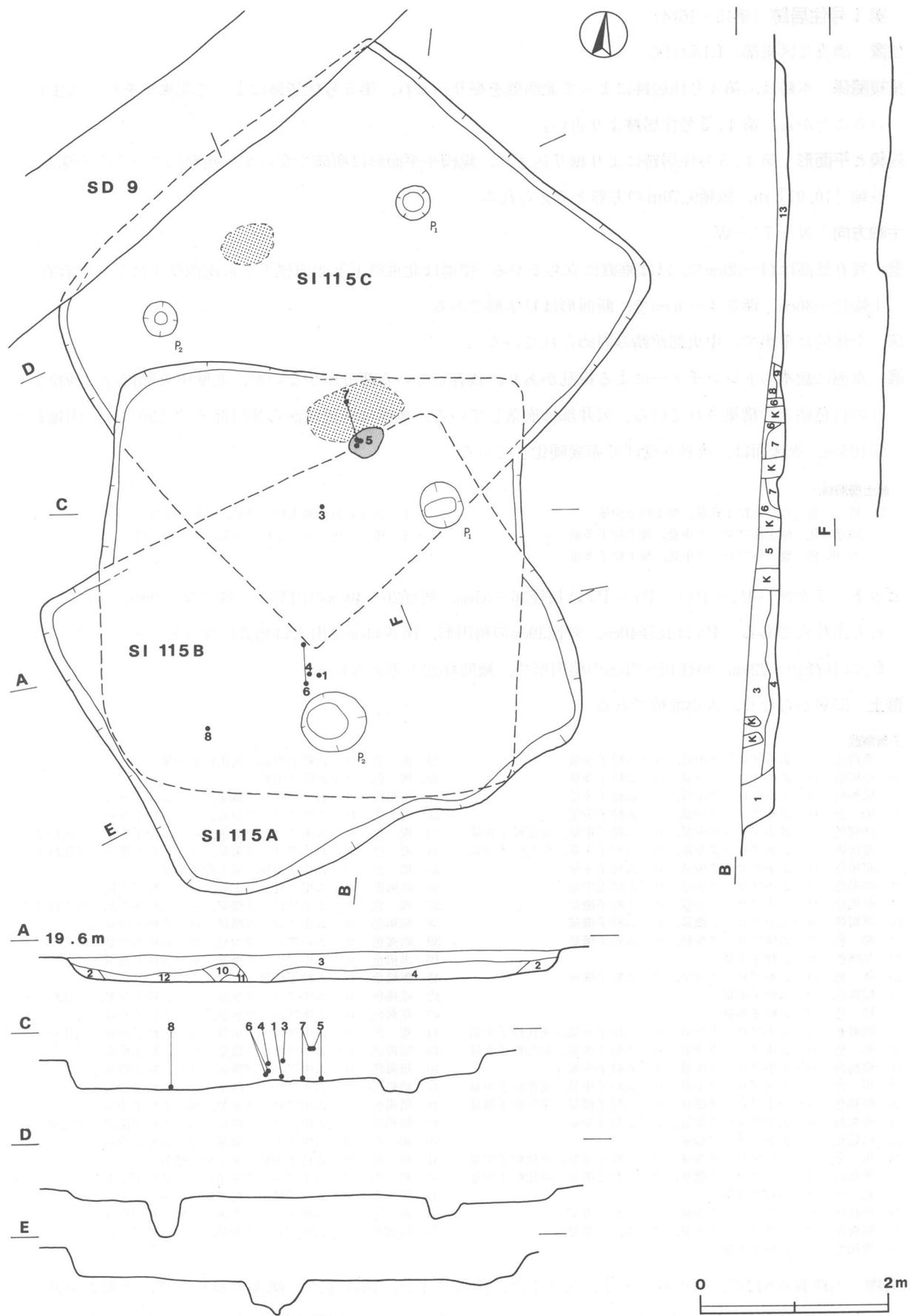
所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期と思われる。



第13図 第115-C号住居跡出土遺物実測図

第115-C号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第13図 12	高坏 土師器	A 18.7~ 19.6 B (6.8)	坏部破片。坏体部は外傾して立ち上がる。	坏体部上半内・外面横ナデ。坏体部下半外面へラ削り。	砂粒 明赤褐色 普通	P 411 60% ピット内



第14图 第115-A·B·C号住居迹实测图

第1号住居跡（第15・16図）

位置 調査2区東部，L15a3区。

重複関係 本跡は，第4号住居跡によって北西壁を掘り込まれ，第5号住居跡によって北東壁を掘り込まれていることから，第4，5号住居跡より古い。

規模と平面形 第4，5号住居跡により掘り込まれ，規模や平面形は明確でないが，残存している壁や床から，長軸 [10.01] m，短軸9.70mの方形と考えられる。

主軸方向 N-7°-W

壁 残存壁高は14～30cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は北東壁下と北西壁下から南西壁下にかけて存在し，上幅12～30cm，深さ4～6cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 東西に数本のトレンチャーによる攪乱があり，残存している部分が少ないが，北壁中央部付近に砂粒まじりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで [90] cm，両袖最大幅105cm，火床面は，火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|-------|----------------|
| 1 褐色 | ローム粒子微量，焼土粒子少量 | 4 灰白色 | 焼土粒子少量，灰粒子中量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量，焼土粒子多量 | 5 褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子多量 |
| 3 赤褐色 | 焼土中ブロック中量，焼土粒子多量 | | |

ピット 7か所（P1～P7）。P1～P4は長径36～55cm，短径20～40cmの円形で，深さ50～98cmである。いずれも支柱穴である。P5は長径40cm，短径39cmの楕円形，深さ44cmで出入口施設に伴うピットである。P6，P7は長径19～22cm，短径16～21cmの楕円形で，補助柱穴と考えられる。

覆土 55層からなり，人為堆積である。

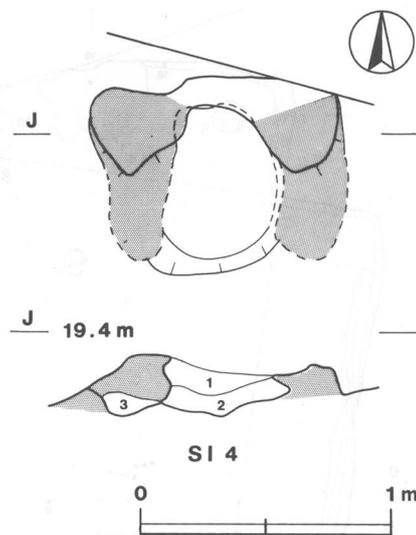
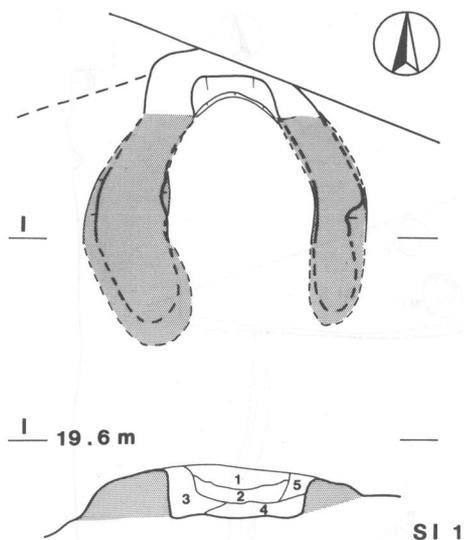
土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック中量，ローム粒子少量 | 29 褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子多量 | 30 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック中量，ローム粒子多量 | 31 暗褐色 | ローム小ブロック微量，ローム粒子少量 |
| 4 褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子少量 | 32 褐色 | ローム中ブロック少量，ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子中量，炭化粒子少量 | 33 褐色 | ローム中ブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ローム大ブロック少量，ローム粒子中量，炭化粒子少量 | 34 褐色 | ローム小ブロック微量，ローム粒子微量，炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子少量 | 35 褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子少量 | 36 暗褐色 | ローム中ブロック中量，ローム粒子中量 |
| 9 暗褐色 | ローム大ブロック少量，ローム粒子微量 | 37 褐色 | ローム小ブロック微量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 10 黒褐色 | ローム小ブロック微量，ローム粒子微量 | 38 暗褐色 | ローム小ブロック微量，ローム粒子少量 |
| 11 褐色 | ローム中ブロック少量，ローム粒子微量 | 39 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子少量 |
| 12 黒褐色 | ローム粒子少量 | 40 黒褐色 | ローム小ブロック微量，ローム粒子微量 |
| 13 褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子微量 | 41 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 14 暗褐色 | ローム粒子中量 | 42 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 15 褐色 | ローム粒子多量 | 43 暗褐色 | ローム中ブロック少量，ローム粒子少量 |
| 16 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子少量 | 44 褐色 | ローム中ブロック少量，ローム粒子中量，炭化粒子少量 |
| 17 褐色 | ローム中ブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子少量 | 45 暗褐色 | ローム小ブロック微量，ローム粒子中量 |
| 18 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子少量 | 46 暗褐色 | ローム中ブロック微量，ローム粒子微量 |
| 19 褐色 | ローム大ブロック中量，ローム粒子中量，炭化粒子少量 | 47 暗褐色 | ローム小ブロック微量，ローム粒子少量 |
| 20 暗褐色 | ローム小ブロック微量，ローム粒子微量，炭化粒子微量 | 48 暗褐色 | ローム中ブロック少量，ローム粒子少量 |
| 21 暗褐色 | ローム中ブロック少量，ローム粒子少量 | 49 暗褐色 | ローム中ブロック微量，ローム粒子微量，炭化粒子微量 |
| 22 暗褐色 | ローム小ブロック微量 | 50 褐色 | ローム中ブロック微量，ローム粒子少量 |
| 23 褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子多量，炭化粒子少量 | 51 褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 24 黒褐色 | ローム小ブロック微量，ローム粒子微量，炭化粒子少量 | 52 褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子少量 |
| 25 褐色 | ローム粒子多量 | 53 褐色 | ローム粒子微量，焼土粒子少量 |
| 26 黒褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子微量 | 54 褐色 | ローム中ブロック多量，ローム粒子中量 |
| 27 暗褐色 | ローム中ブロック少量，ローム粒子微量 | 55 暗褐色 | ローム中ブロック少量，ローム粒子少量 |
| 28 黒褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物 土師器片642点，須恵器片8点，瓦片1点，陶器片1点，鉄滓4点，縄文土器片3点，土製品6点，石製品4点，鉄製品1点が出土している。1，2の土師器環，4の土師器高環及び5の埴は覆土中層から，6，7の土師器甕と14の土製勾玉は中央部覆土中層から，13の不明土製品と16の砥石は覆土中から，17の鉄鏃は



第15图 第1·4·5号住居跡実測图



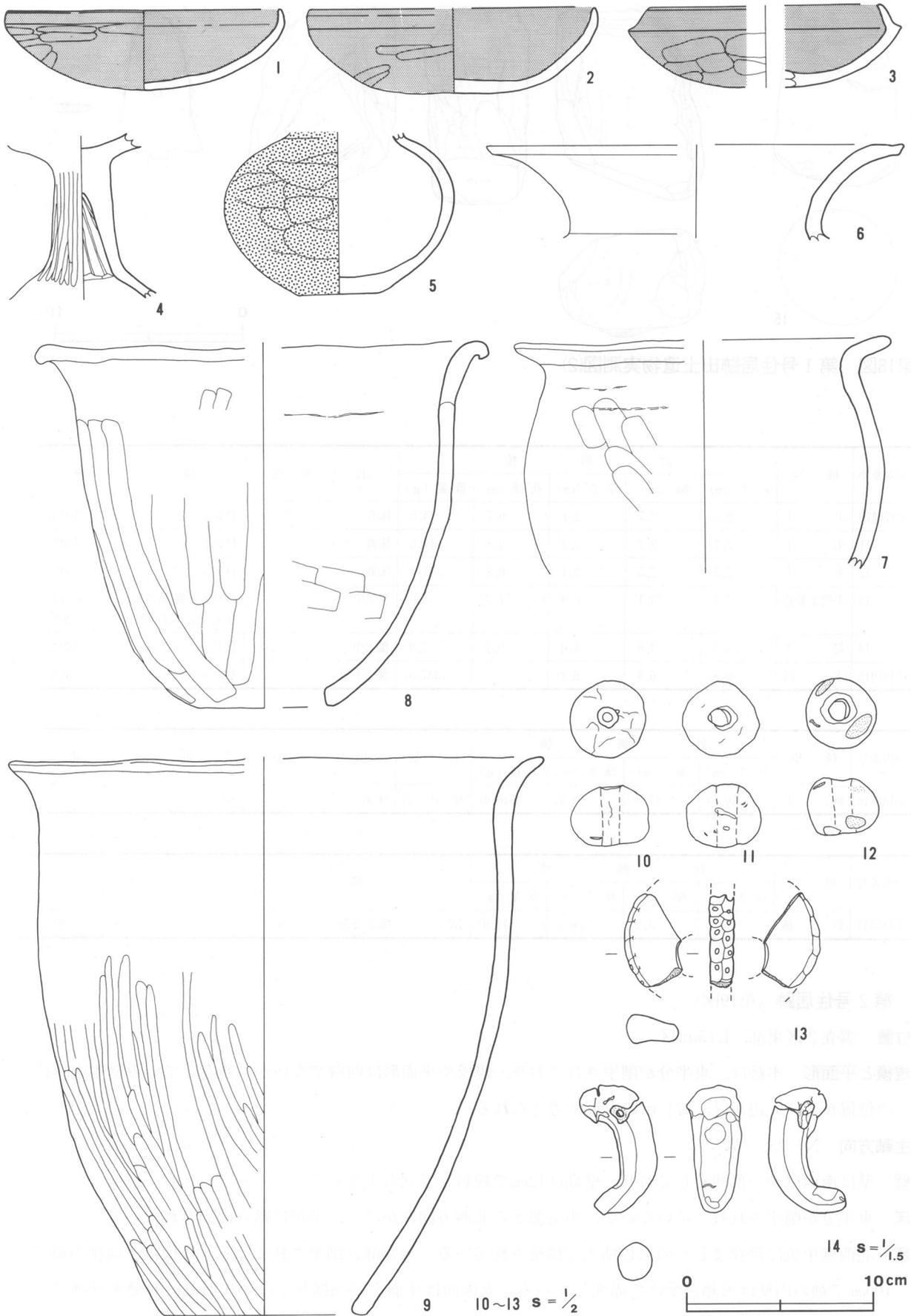
第16図 第1・4号住居跡竈実測図

中央部南寄りの覆土下層から、3の土師器坏、8、9の土師器甌及び10~12の土玉は床面からそれぞれ出土している。

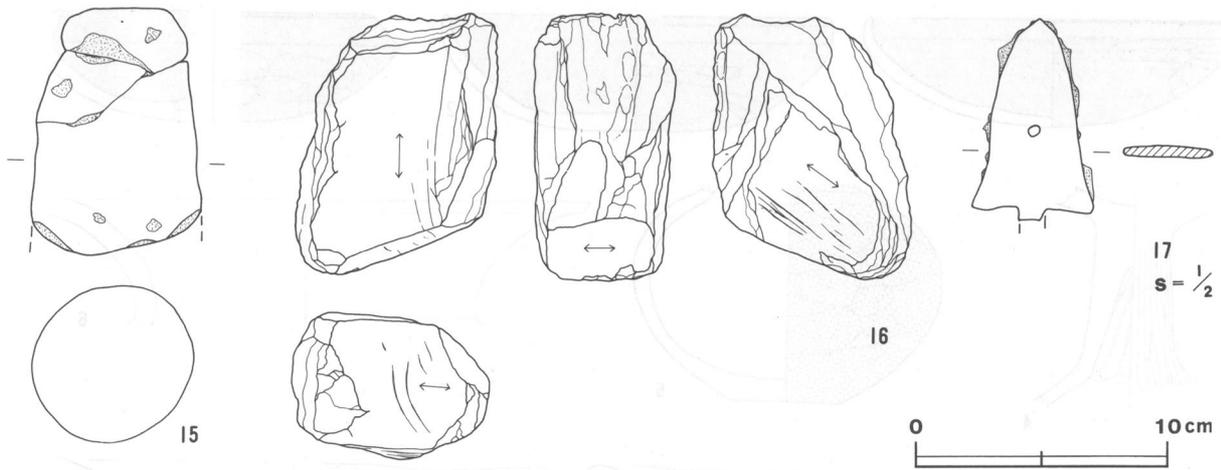
所見 本跡の時期は、3、8、9が床面から出土していることから、古墳時代後期と考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第17図 1	土師器 坏	A 14.6 B 4.3	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・石英・雲母にふい黄褐色 普通	P 1 60% 覆土中層
2	土師器 坏	A [15.3] B 4.5	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・石英・雲母にふい褐色 普通	P 2 50% 覆土中層
3	土師器 坏	A [12.2] B (4.4)	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に強い稜がある。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 極暗赤褐色 普通	P 3 40% 床直
4	土師器 高坏	B (8.0) E (7.1)	脚部破片。裾部は「ハ」の字状に開く。脚部は円柱形である。	脚部外面へラ磨き。内・外面へラ削り。	砂粒・長石 橙色 普通	P 6 40% 覆土中層
5	土師器 埴	B (8.5) C 4.5	口縁部欠損。底部平底。体部は球形を呈し、最大径が体部中位にある。	体部外面へラ削り。内面ナデ。底部削り後ナデ。体部外面赤彩処理。	砂粒・長石 暗赤色 普通	P 7 80% 覆土中層
6	土師器 甕	A [22.4] B (5.0)	口縁部破片。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母、橙色 普通	P 5 5% 覆土中
7	土師器 甕	A [20.2] B (12.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石にふい褐色 普通	P 9 20% 覆土上層
8	土師器 甌	A [23.0] B 19.6 C 7.3	無底式。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	砂粒・石英・長石 灰褐色 普通	P 11 60% 床直
9	土師器 甌	A [28.4] B 29.9 C 10.8	無底式。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ。中位から下位へラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母、褐色 普通	P 10 70% 竈内



第17图 第1号住居跡出土遺物実測図(1)



第18図 第1号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第17図10	土玉	2.8	2.7	2.1	0.7	14.0	床直	DP 1 100%
11	土玉	2.7	2.7	2.3	0.8	14.0	床直	DP 2 100%
12	土玉	2.5	2.5	2.1	0.8	11.0	床直	DP 3 100%
13	不明土製品	(3.1)	(3.1)	0.9	[1.2]	(6.0)	覆土中	DP 4 側面に径1cmの尖突のある粘土を貼り付けている。 20%
14	勾玉	4.3	2.0	1.0	0.1	7.0	覆土中	DP 6 100%
第18図15	支脚	(9.8)	6.9	6.3		(337.0)	覆土下層	DP 5 50%

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第18図16	砥石	(10.5)	(7.8)	(5.5)	(646.0)	凝灰岩	床直	Q 1

図版番号	種別	計測値				備考	
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第18図17	鉄鎌	(5.4)	3.2	0.3	(11.0)	M 1	覆土下層 90%

第2号住居跡 (第19図)

位置 調査2区東部, L15a5区。

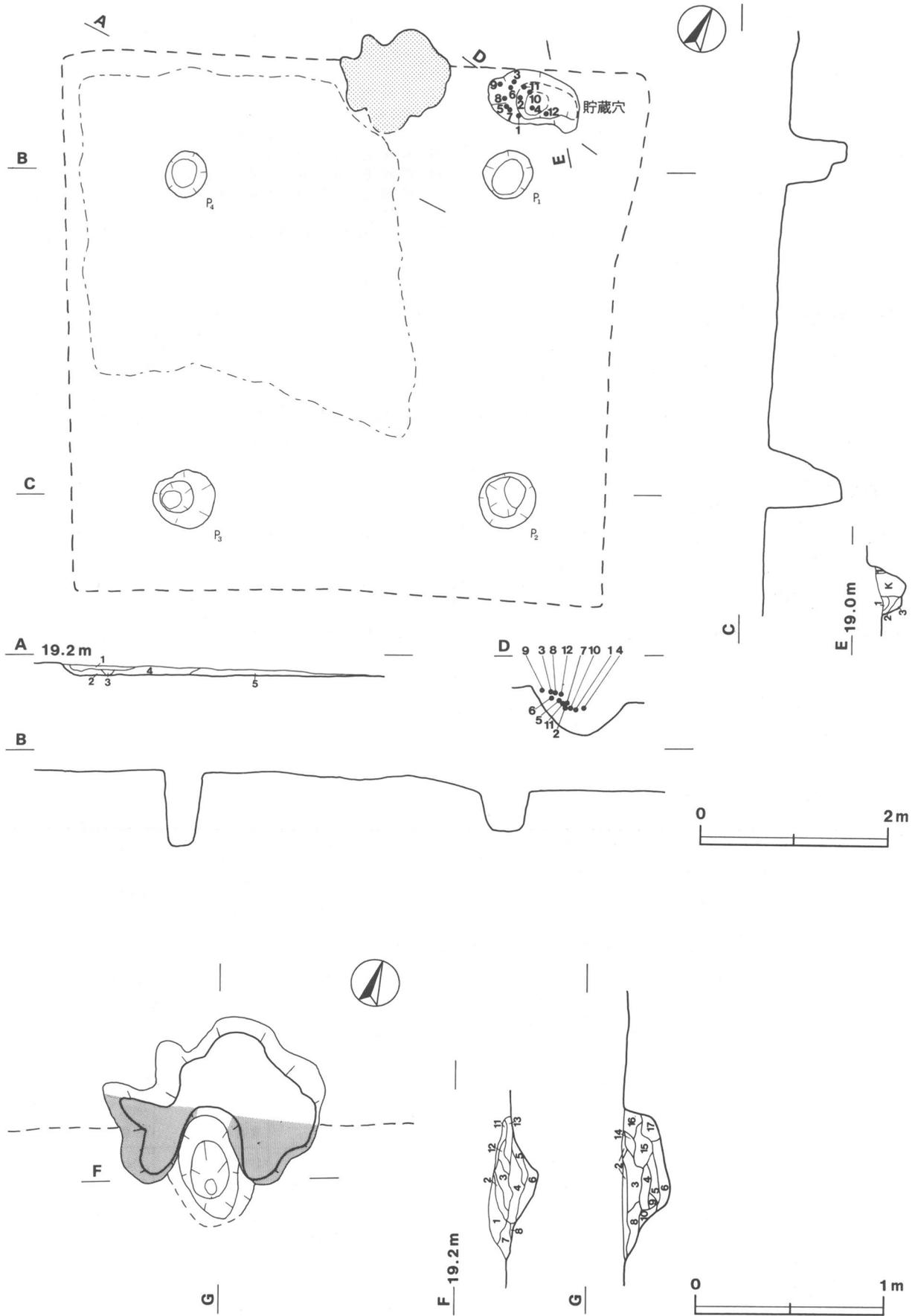
規模と平面形 本跡は、東半分が削平されており、規模や平面形は明確でないが、残存している壁や床、柱穴の位置から、一辺が [5.57] m の方形と考えられる。

主軸方向 N-23°-W

壁 壁は南西壁が一部残存しており、壁高は12cmで緩斜して立ち上がる。

床 東半分が削平され残っていないが、中央部から北西方向にかけて、平坦に踏み固められている。

竈 北西壁中央に砂粒まじりの白色粘土で構築されている。天井部は削平されている。規模は、両袖の最大幅100cmで袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床面は床面を15cm掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。



第19图 第2号住居跡実測图

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|---------|--------------------------------|
| 1 褐色 | 焼土小ブロック少量, 粘土粒子中量, 砂少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, 砂中量 | 11 暗赤褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子中量 | 12 赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量 |
| 4 明赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化粒子中量 | 13 暗赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量 |
| 5 明赤褐色 | 焼土中ブロック・焼土粒子多量 | 14 橙色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量 |
| 6 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子少量 | 15 赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック少量 |
| 7 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 16 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子少量 |
| 8 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子中量 | 17 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 9 赤褐色 | 焼土中ブロック中量 | | |

貯蔵穴 北東壁コーナー付近に位置し、平面形は楕円形である。規模は長径103cm, 短径51cm, 深さ54cmで底面は皿状である。耕作により東西2本の攪乱を受けている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 | 3 褐色 | ローム粒子少量, 粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

ピット 4か所(P1~P4)。長径44~60cm, 短径49~65cmの楕円形, 深さ43~84cmで、いずれも主柱穴である。

覆土 5層からなり、自然堆積である。

土層解説

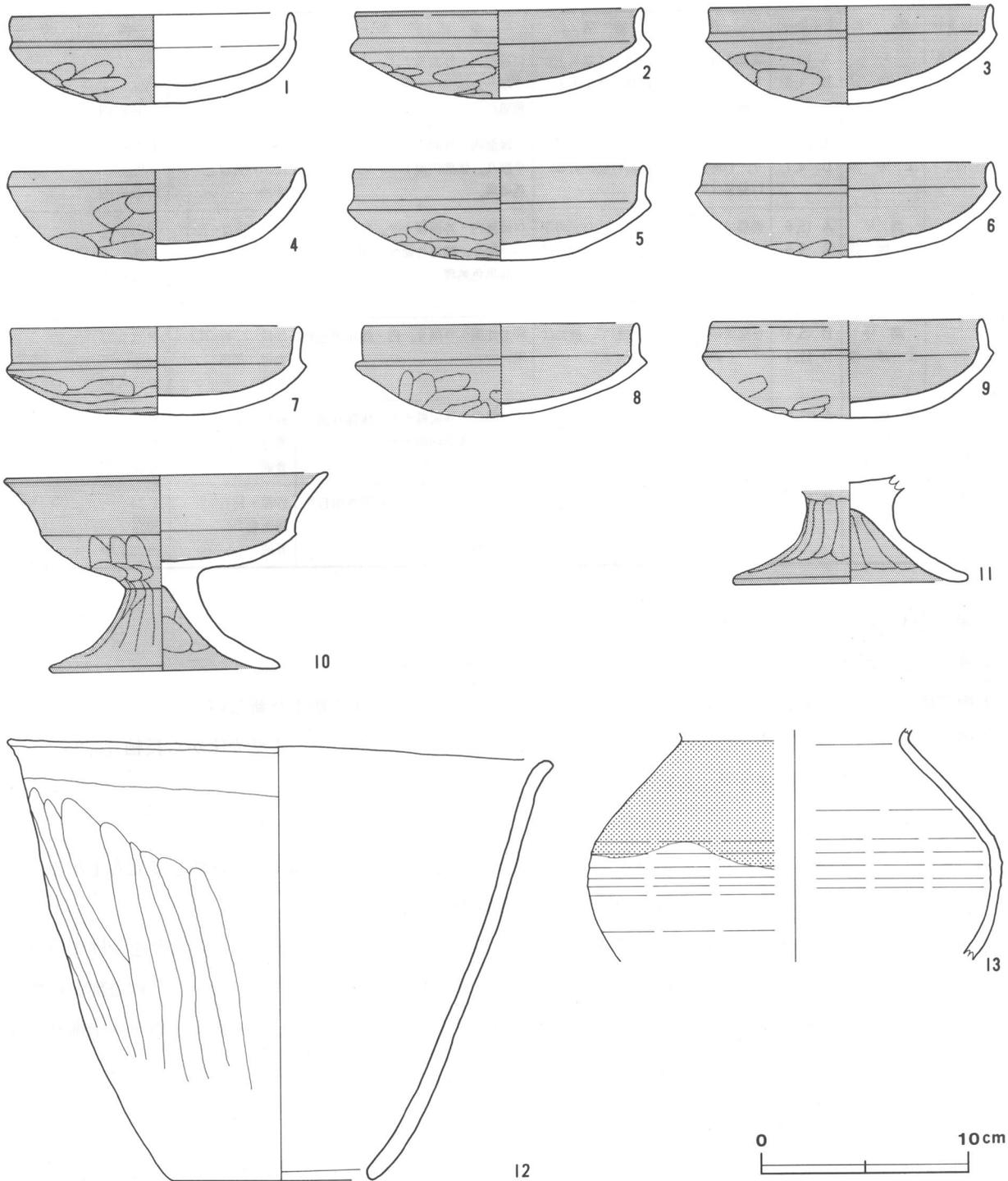
- | | | | |
|-------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 黒色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック微量, ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 | | |

遺物 土師器片741点, 須恵器片4点, 陶器片5点, 瓦片1点が出土している。1~9の土師器坏と12の土師器甌は、竈右側に構築された貯蔵穴内から出土している。13の須恵器短頸壺は、第3号住居跡から出土した破片と接合しており、流れ込みと考えられる。陶器片と瓦片は混入したものである。

所見 本跡の時期は、貯蔵穴内の遺物から、古墳時代後期と考えられる。

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 1	坏 土師器	A 13.4 B 4.3	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜がある。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。外面黒色処理。	砂粒・長石・石英・雲母、にぶい・橙色普通	P12 100% 貯蔵穴内
2	坏 土師器	A 13.7 B 4.4	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に強い稜がある。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英・雲母、黒褐色普通	P13 100% 貯蔵穴内
3	坏 土師器	A 13.5 B 4.8	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に強い稜がある。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・石英 黒褐色普通	P14 95% 貯蔵穴内
4	坏 土師器	A 13.8 B 4.4	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・石英 黒褐色普通	P15 95% 貯蔵穴内
5	坏 土師器	A 14.0 B 4.5	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に強い稜がある。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・石英 黒褐色普通	P16 95% 貯蔵穴内
6	坏 土師器	A 13.7 B 4.6	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に強い稜がある。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・石英 にぶい褐色普通	P17 90% 貯蔵穴内
7	坏 土師器	A 14.0 B 4.3	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に強い稜がある。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・石英 にぶい褐色普通	P18 90% 貯蔵穴内



第20图 第2号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 8	坏 土師器	A 13.2 B 4.5	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に強い稜がある。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・スコリア、にぶい赤褐色普通	P19 85% 貯蔵穴内
9	坏 土師器	A [13.0] B 4.7	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に強い稜がある。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石にぶい黄橙色普通	P20 70% 貯蔵穴内
10	高坏 土師器	A 15.6 B 9.5 D 11.0	脚部は円柱形で、裾部は「ハ」の字状に強く開く。坏体部は、内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜がある。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。坏体部外面へラ削り。脚部外面へラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・雲母にぶい褐色普通	P21 90% 貯蔵穴内
11	高坏 土師器	B (5.1) D 11.4	坏部欠損。脚部は円柱形で、裾部は「ハ」の字状に強く開く。	脚部外面へラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・石英・長石・雲母、黒色普通	P22 40% 貯蔵穴内
12	甗 土師器	A 22.0 B 20.3 C 9.4	無底式。体部は直線的に外傾して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母、にぶい橙色普通	P23 95% 貯蔵穴内
13	短頸壺 須恵器	B (11.0)	肩部破片。肩部は内彎して立ち上がる。	内・外面ロクロナデ。肩部外面自然釉。	砂粒・長石 褐灰色 普通	P24 20% 覆土上層

第4号住居跡 (第15・16図)

位置 調査2区東部, K15j2区。

重複関係 本跡は、第1号住居跡を掘り込んでいることから、第1号住居跡より新しい。

規模と平面形 北壁コーナー付近が調査区域外にかかっているが、残存している壁や床から長軸 [5.25] m、短軸 [3.90] mの長方形と考えられる。

主軸方向 N-8°-W

壁 重複により北西コーナー付近と北壁が部分的に残っている。壁高は10~30cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で、出入り口から竈にかけての中心部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に砂粒まじりの白色粘土で構築されているが、中央部を東西に耕作による攪乱を受けている。

天井部は崩落している。規模は煙道部の一部が調査区域外へ延びているため明確でないが、煙道部から焚口部まで68cm、両袖最大幅96cmである。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床面は床面を4cm掘りくぼめており、火熱を受けて部分的に赤変している。

竈土層解説

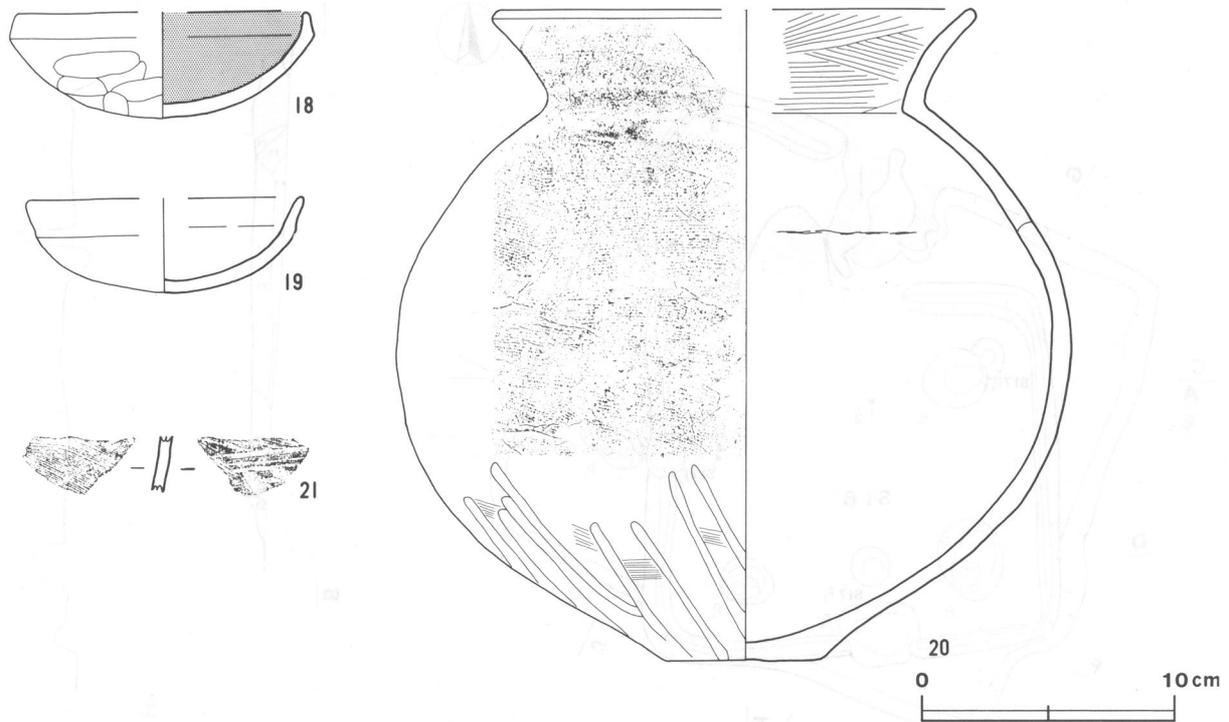
- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1 赤褐色 焼土中ブロック中量, 焼土粒子多量 | 3 赤褐色 焼土粒子少量 |
| 2 灰褐色 焼土中ブロック少量, 焼土粒子多量 | |

ピット 3か所 (P1~P3)。P1, P2は径30~35cmの円形、深さ25~57cmであり、いずれも支柱穴と考えられる。P3は長径25cm、短径23cmの楕円形、深さ50cmの補助柱穴と考えられる。

貯蔵穴 竈の東側に位置し、規模と平面形は、長径65cm、短径55cmの不整楕円形で、深さは55cmである。壁は外傾して立ち上がる。

遺物 土師器片11点が出土している。18の土師器坏は竈左側の壁際から、19の土師器坏は竈内から、20の土師器甕は竈右側覆土上層から出土している。21は覆土中から出土した土師器甕の体部破片で、外面に刷毛目整形が施されている。

所見 本跡の時期は、18, 19から古墳後期と考えられる。



第21図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第21図 18	坏 土師器	A [11.6] B 4.2	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。内面黒色処理。	砂粒・石英・長石・雲母、にふい黄褐色 普通	P 4 40% 床直
19	坏 土師器	A [10.8] B 3.6	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜がある。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・長石にふい黄橙色 普通	P 33 70% 竈内
20	甕 土師器	A [19.0] B 25.9 C 6.1	底部から口縁部にかけての破片。底部は突出した平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面刷毛目整形。体部外面上位刷毛目整形。下位へラ削り。体部内面ナデ。底部削り。	砂粒・石英・長石 黒褐色 普通	P 8 60% 覆土上層

第7号住居跡 (第22・23図)

位置 調査3区西部, K10i9区。

重複関係 本跡は、第6号住居跡に掘り込まれていることから、本跡が古い。

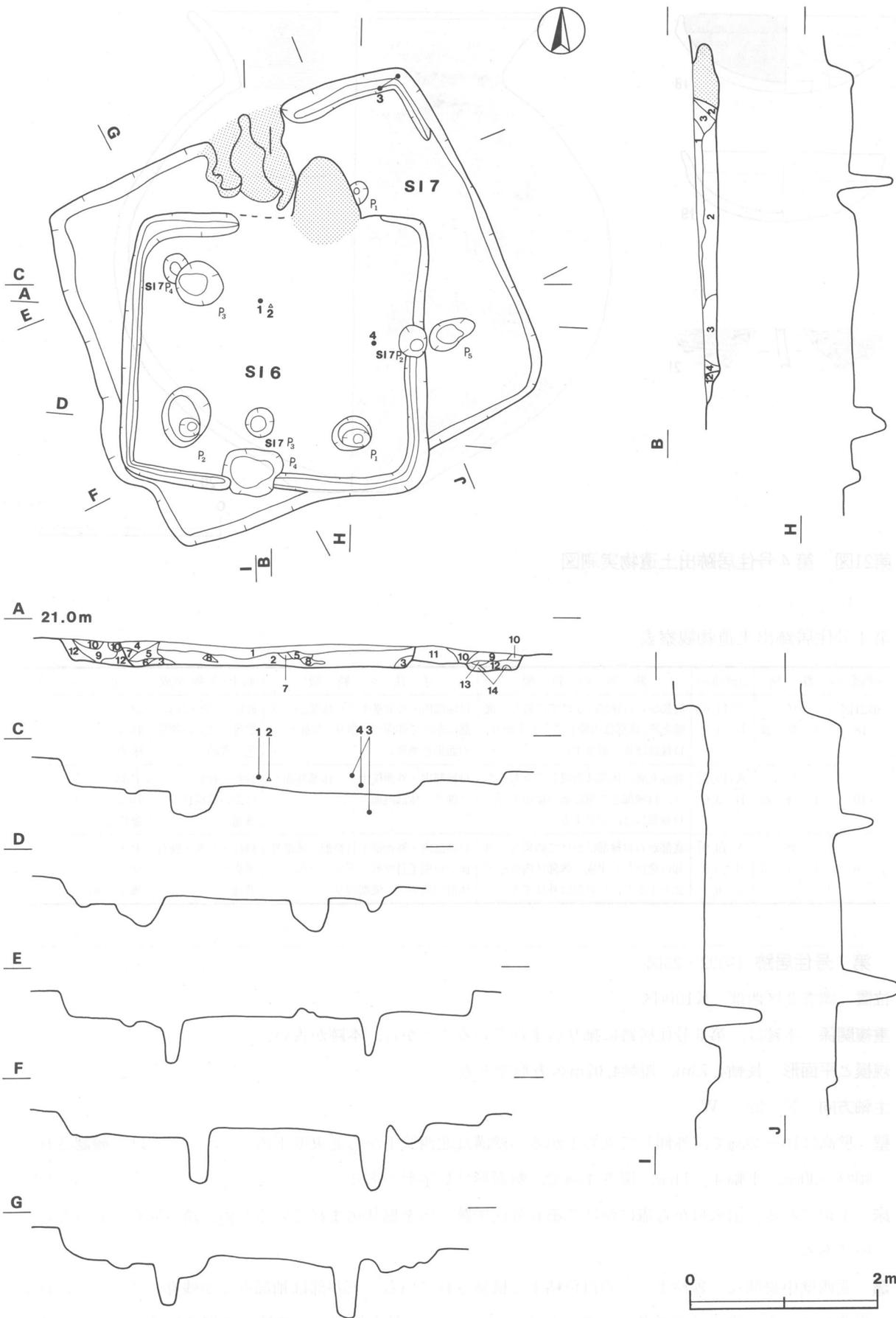
規模と平面形 長軸4.73m, 短軸4.07mの方形である。

主軸方向 N-22°-W

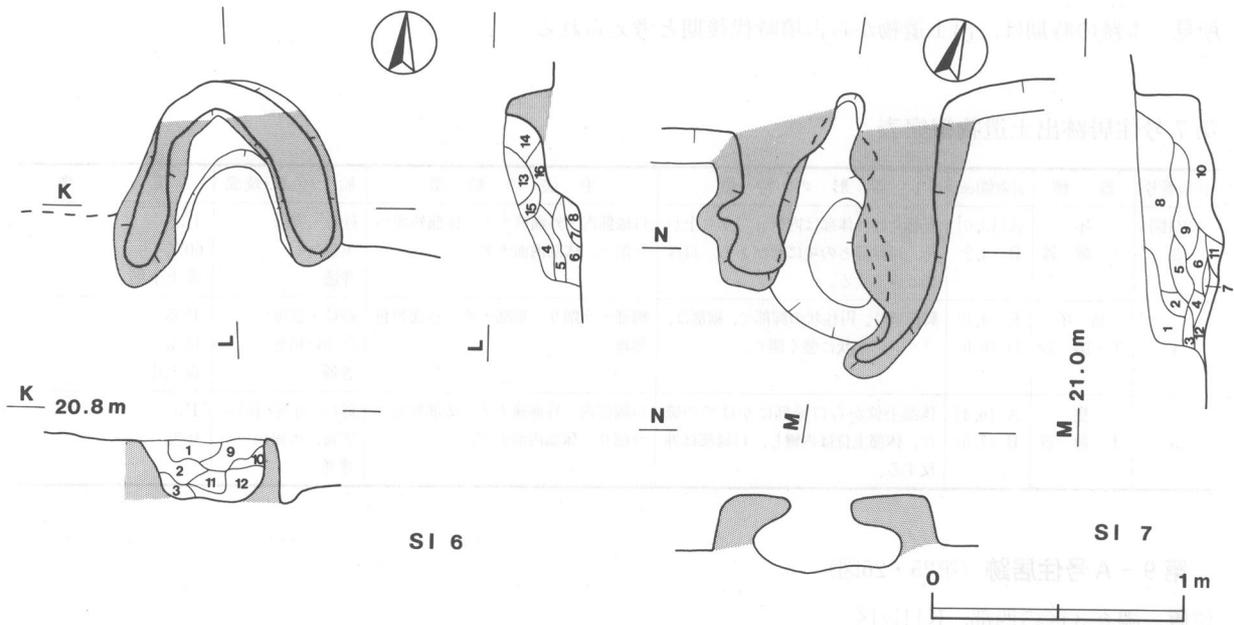
壁 壁高は10~29cmで、外傾して立ち上がる。壁溝は北西壁下から北東壁下のコーナーにかけて確認され、上幅21~30cm, 下幅4~11cm, 深さ4cmで、断面形はU字形である。

床 平坦である。出入口から竈にかけて第6号住居跡に床を掘り込まれているため、踏み固めてあったかは不明である。

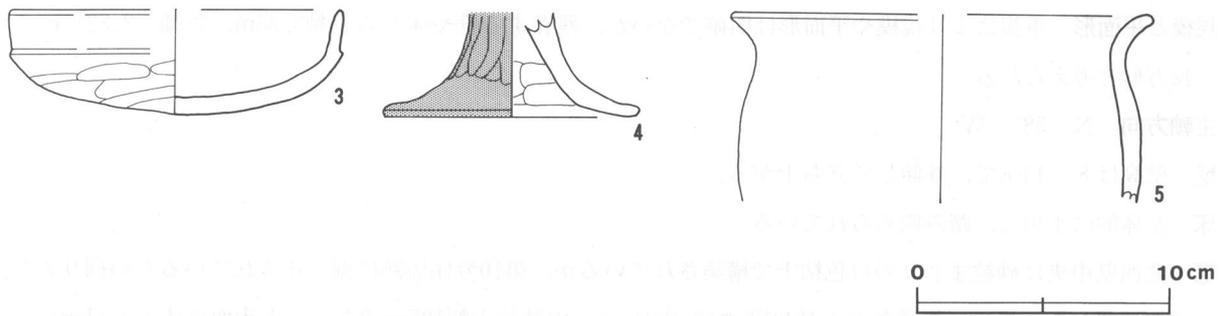
竈 北西壁中央部に、砂粒まじりの白色粘土で構築されている。天井部は袖部近くが残存しているが、ほかは崩落している。規模は煙道部から焚口部まで110cm, 両袖最大幅92cm, 壁外への掘り込みは11cmである。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床面は床面を9cm掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。



第22图 第6·7号住居跡実測図



第23図 第6・7号住居跡竈実測図



第24図 第7号住居跡出土遺物実測図

煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 褐色 | ローム中ブロック少量, 焼土小ブロック少量 | 7 赤褐色 | 焼土小ブロック多量 |
| 2 極暗褐色 | ローム中ブロック少量, 焼土粒子中量, 粘土粒子中量 | 8 黄褐色 | 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量, 粘土粒子多量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 粘土粒子少量 | 9 暗褐色 | 焼土中ブロック少量, 炭化粒子少量, 粘土粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子中量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック多量, 灰粒子中量 | 11 暗赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子中量, 炭化物微量 |
| 6 赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土中ブロック中量, 灰粒子中量 | 12 赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子微量 |

ピット 5か所(P1~P4)。P1からP4は長径27~32cm, 短径23~32cmの円形及び楕円形, 深さ43~47cmで, 主柱穴である。P5は長径52cm, 短径32cm, 深さ24cmで, 補助柱穴もしくは主柱穴の立て替え穴と考えられる。

覆土 6層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|---------|-----------------------------|
| 9 赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック多量, 焼土粒子多量 | 12 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子少量 |
| 10 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 13 暗赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック多量, 焼土粒子多量 |
| 11 褐色 | ローム中ブロック中量, ローム粒子多量, 焼土粒子微量 | 14 赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック中量, 焼土粒子中量 |

遺物 土師器片120点が出土している。4土師器高坏と5の土師器甕は覆土中から, 3の土師器坏は北コーナー一部際からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代後期と考えられる。

第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第24図 3	坏 土師器	A [13.0] B 4.2	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜がある。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・雲母 黒色 普通	P36 60% 覆土下層
4	高坏 土師器	E (4.0) D 10.0	脚部破片。円柱状の脚部で、裾部は、「ハ」の字状に強く開く。	脚部へラ削り。裾部ナデ。外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P35 15% 覆土中
5	甕 土師器	A [16.4] B (7.5)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部上位は内彎し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、灰褐色 普通	P37 10%

第9-A号住居跡（第25・26図）

位置 調査3区の西部，K11i2区。

重複関係 本跡は第8，10号住居跡に掘り込まれ，第9-B号住居跡を掘り込んでいるので，第8，10号住居跡より古く，第9-B号住居跡より新しい。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確でないが，残存する壁や床から長軸3.35m，短軸（2.82）mの長方形と考えられる。

主軸方向 N-38°-W

壁 壁高は8～14cmで，外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で，踏み固められている。

竈 北西壁中央に砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，第10号住居跡に掘り込まれているため掘り方だけを確認した。規模は煙道部から焚口部まで（98）cm，両袖最大幅105cmである。火床面は床面を11cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック微量，焼土粒子少量，炭化粒子少量，粘土粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック少量，焼土粒子中量，炭化粒子微量
- 3 赤褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，焼土粒子少量，炭化粒子少量
- 4 赤褐色 焼土中ブロック少量，焼土粒子多量，炭化物微量
- 5 暗赤褐色 ローム粒子微量，焼土小ブロック微量，焼土粒子少量
- 6 暗赤褐色 ローム粒子微量，焼土小ブロック少量，焼土粒子少量，炭化粒子少量

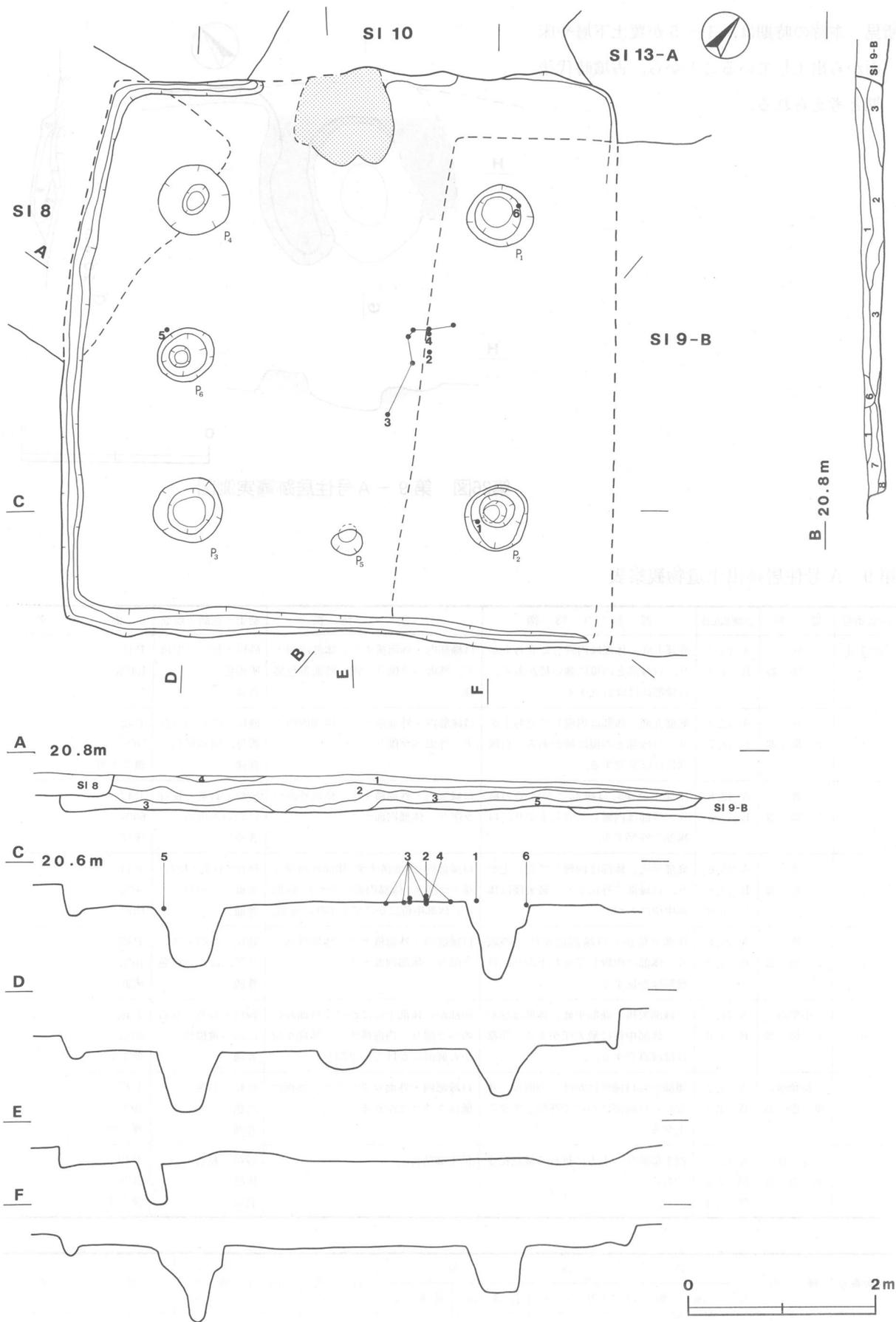
ピット 6か所（P1～P6）。P1からP4は径71～76cmの円形，深さ53～75cmで，支柱穴である。P5は長径34cm，短径26cmの楕円形，深さ49cmで，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は径62cmの円形，深さ31cmで，補助柱穴と考えられる。

覆土 8層からなり，自然堆積である。

土層解説

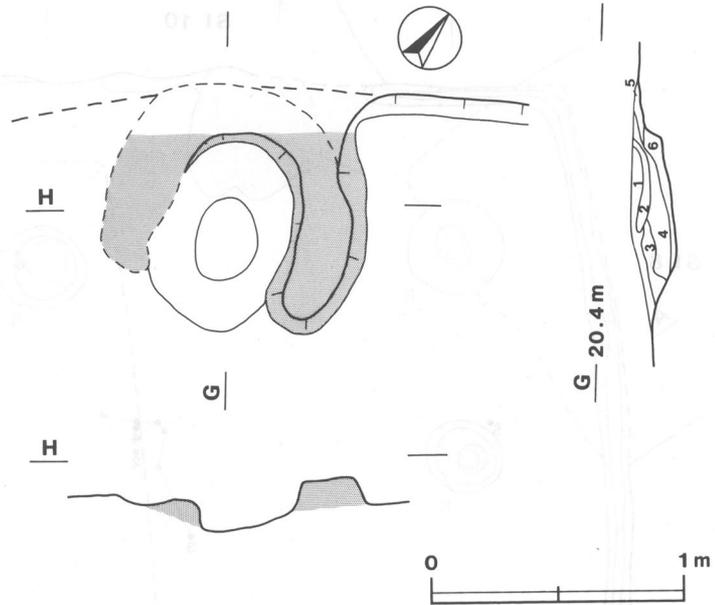
- 1 灰褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック微量，ローム小ブロック少量，焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック微量，ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
- 5 褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子中量
- 6 褐色 ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
- 7 褐色 ローム中ブロック微量，ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微粒

遺物 土師器片723点，須恵器片4点，陶器片1点，鉄滓1点が出土している。1の土師器坏はピット2内から，2の土師器坏は中央部覆土下層から，3～5の土師器甕は床面から，6の土師器小型壺はピット1上から，7の須恵器長頸壺と8の須恵器提瓶と10の双孔円板は覆土中から出土している。9は覆土中から出土した須恵器提瓶の体部破片で，外面はロクロナデである。



第25图 第9-A号住居迹夷测图

所見 本跡の時期は、1～5が覆土下層や床面から出土していることから、古墳時代後期と考えられる。

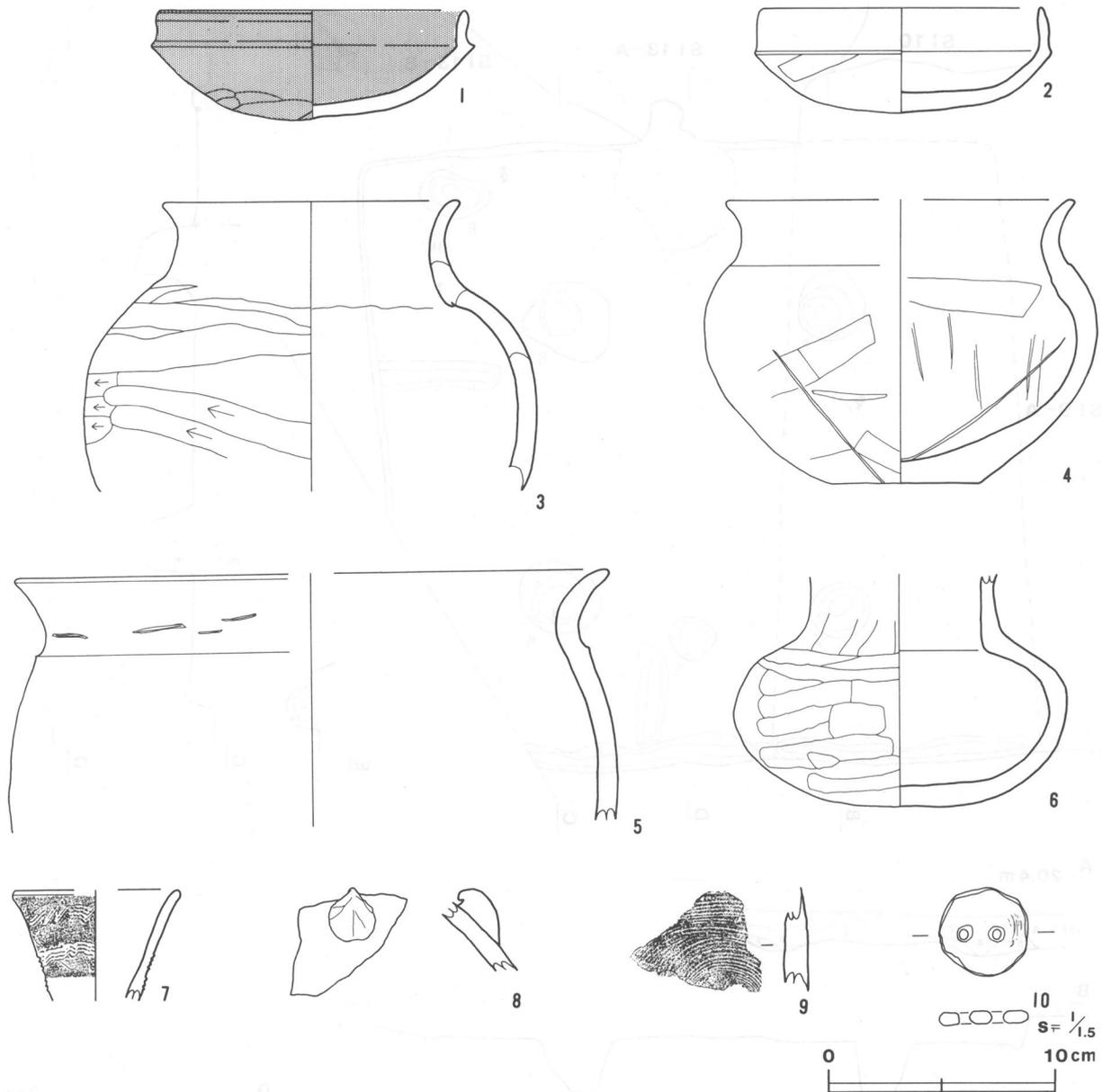


第26図 第9-A号住居跡竈実測図

第9-A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第27図 1	坏 土師器	A 13.3 B 4.9	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に強い稜がある。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へら削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・雲母 灰褐色 普通	P 41 100% ピット2内
2	坏 土師器	A 12.3 B (4.7)	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜がある。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へら削り。	砂粒・石英・長石・雲母、明赤褐色 普通	P 42 70% 覆土下層
3	甕 土師器	A 12.8 B (12.8)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石にふい赤褐色 普通	P 43 60% 床直
4	甕 土師器	A [15.2] B 12.6 C 6.9	底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部で外反する。最大径は体部中位にもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面削り後へら磨き。体部内面へらナデ。底部から体部中位にかけて十字状の線刻。	砂粒・石英・長石・雲母、赤褐色 普通	P 44 60% 床直
5	甕 土師器	A 25.8 B 11.2	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。体部内面ナデ。	砂粒・長石・スコリア、にふい橙色 普通	P 45 10% 床直
6	小型壺 土師器	A [10.3] B 4.6	口縁部欠損。底部平底。体部は球形で、体部中位に最大径がある。頸部はほぼ直立する。	頸部から体部上位にかけて外面縦位のへら削り。内面横ナデ。体部中位から底部にかけてへら削り。	砂粒・石英・長石にふい黄橙色 普通	P 46 80% 覆土中
7	長頸壺 須恵器	A [7.2] B (4.9)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面クロナデ。外面に櫛描き波状文が巡る。	砂粒・石英 灰色 普通	P 47 10% 覆土中
8	提瓶 須恵器	長さ1.1 幅 2.1 厚さ2.4	把手部破片。上方に折れる鍵状把手である。	把手部貼付。	砂粒・長石 灰色 普通	P 49 5% 覆土中

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第27図10	双孔円板	2.0	2.0	0.3	0.3	2.5	凝灰岩	覆土中	Q 3 100%



第27図 第9-A号住居跡出土遺物実測図

第9-B号住居跡 (第28図)

位置 調査3区の西部, K11h2区。

重複関係 本跡は, 第9-A, 13-A, 13-B号住居跡に掘り込まれているので, 本跡が古い。

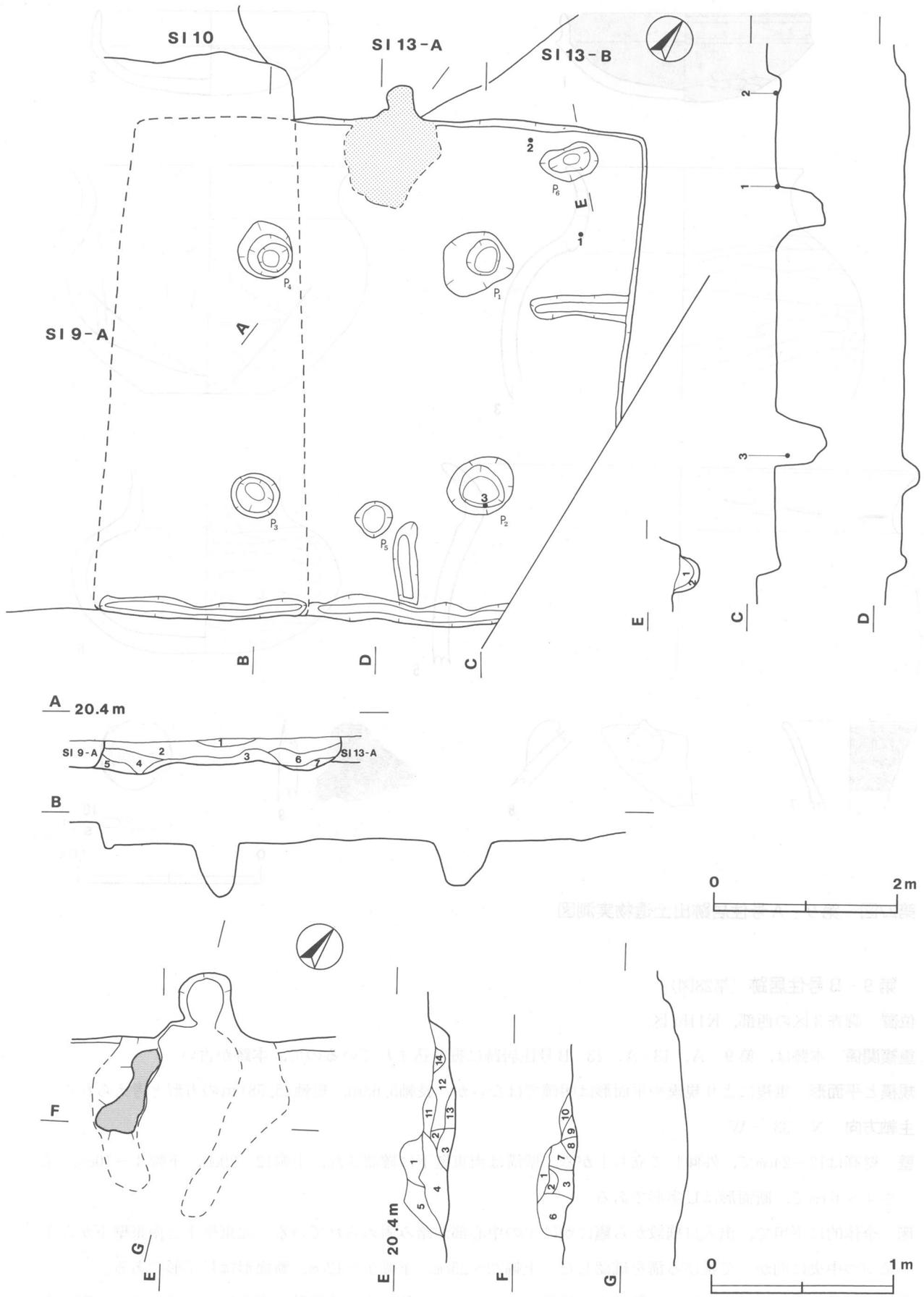
規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが, 長軸5.68m, 短軸(5.58)mの方形と考えられる。

主軸方向 N-33°-W

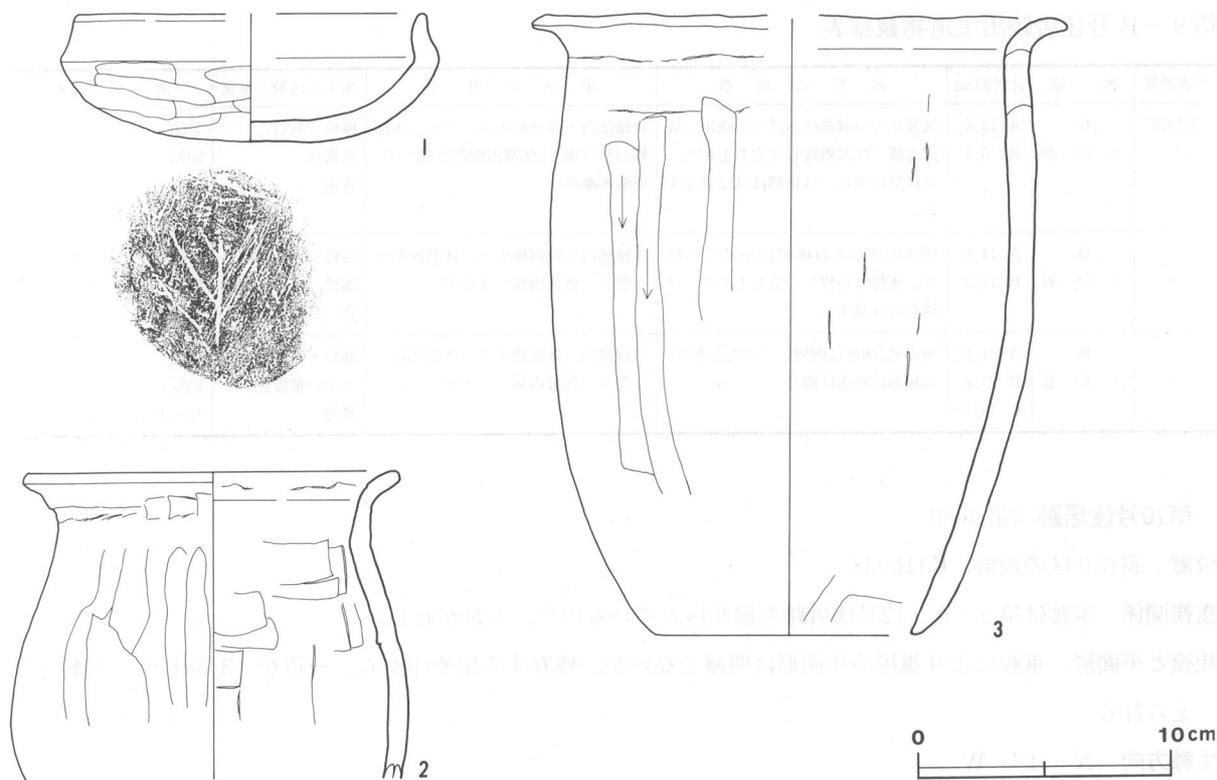
壁 壁高は12~24cmで, 外傾して立ち上がる。壁溝は南東壁下に確認され, 上幅12~29cm, 下幅4~10cm, 深さ4~6cmで, 断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で, 出入口施設から竈にかけての中心部が踏み固められている。北東壁下と南東壁下から1条ずつ中央に向かって延びる溝を確認した。上幅22~25cm, 下幅7~12cm, 断面形はU字形である。

竈 北西壁中央に砂粒まじりの白色粘土で構築されているが, 第13A号住居跡に掘り込まれているため掘り方だけを確認した。規模は煙道部から焚口部まで132cm, 最大幅92cm, 壁外への掘り込みは32cmである。火床



第28图 第9-B号住居迹实测图



第29図 第9-B号住居跡出土遺物実測図

面は床面を3cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて一部が赤変している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|---------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土粒子少量, 粘土粒子中量 | 8 赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 粘土小ブロック少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子多量 | 9 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子中量, 炭化物微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック微量, 炭化物微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化物少量, 粘土粒子中量 | 11 極暗褐色 | 焼土小ブロック微量, 炭化粒子少量, 粘土粒子中量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 粘土小ブロック少量, 粘土粒子中量 | 12 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化物少量, 粘土粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 粘土粒子多量 | 13 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック中量, 粘土粒子少量 | 14 灰褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土粒子少量, 粘土粒子少量 |

ピット 6か所(P1~P6)。P1からP4は長径51~77cm, 短径49~62cmの円形及び楕円形, 深さ51~61cmで、いずれも支柱穴である。P5は径40cmの円形, 深さ19cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は長径63cm, 短径36cmの不整楕円形, 深さ31cmで、上層はローム粒子中量, 炭化粒子少量を含む褐色土, 下層はローム粒子を多量に含む明褐色土で、性格は不明である。

覆土 7層からなり、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 粘土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量 |
| 6 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土中ブロック少量, 炭化物少量 |
| 7 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量 |

遺物 土師器片109点が出土している。1の土師器坏は北コーナー部付近の床面から、2の土師器甕は竈右側の北西壁際から、3の土師器甕はピット2内からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代後期と考えられる。

第9-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第29図 1	坏 土師器	A [13.6] B 5.1	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。ナデ。体部外面へラ削り。体部内面削り後ナデ。底部木葉痕。	砂粒・長石 灰褐色 普通	P50 50% 床直
2	甕 土師器	A 14.6 B (12.2)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨き。体部内面へラナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、にふい黄橙色、普通	P51 50% 床直
3	甕 土師器	A [21.0] B 24.6 C 10.1	無底式。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外方に開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	砂粒・石英・長石 にふい黄橙色 普通	P52 85% ビット2内

第10号住居跡 (第30図)

位置 調査3区の西部, K11h1区。

重複関係 本跡は第9-A, 12号住居跡を掘り込んでいるので, 本跡が新しい。

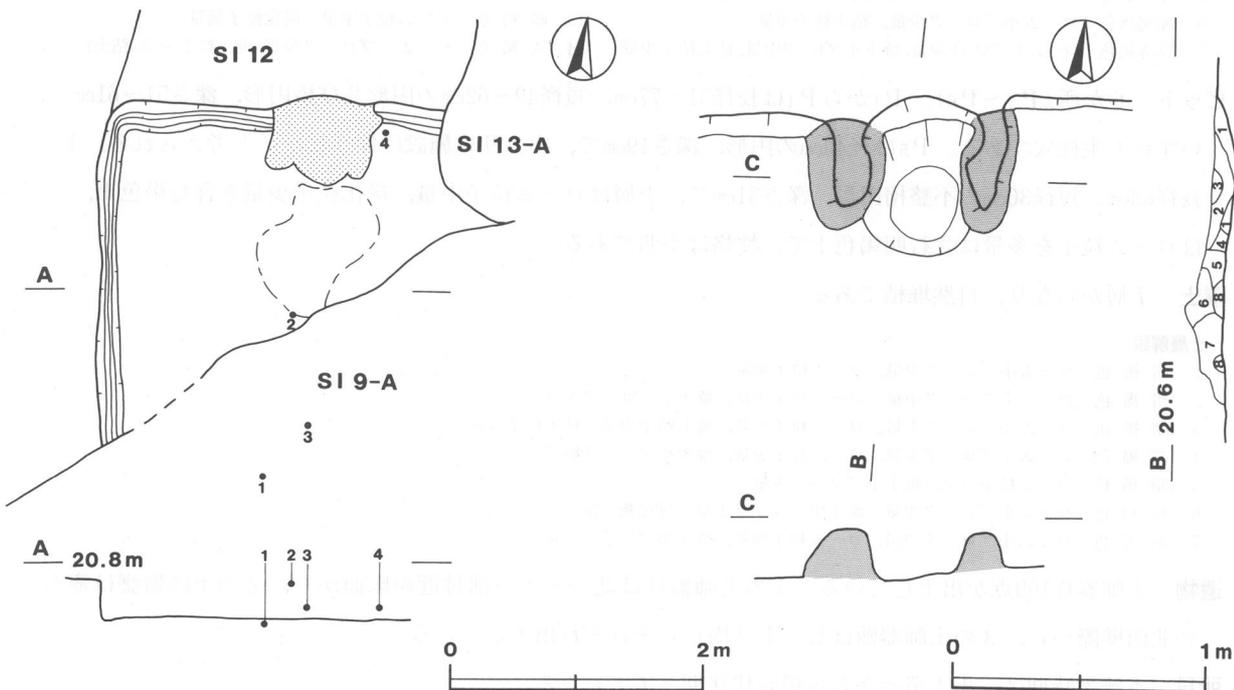
規模と平面形 重複により規模や平面形は明確でないが, 残存する壁や床から, 一辺が [3.30] mの方形と考えられる。

主軸方向 N-4°-W

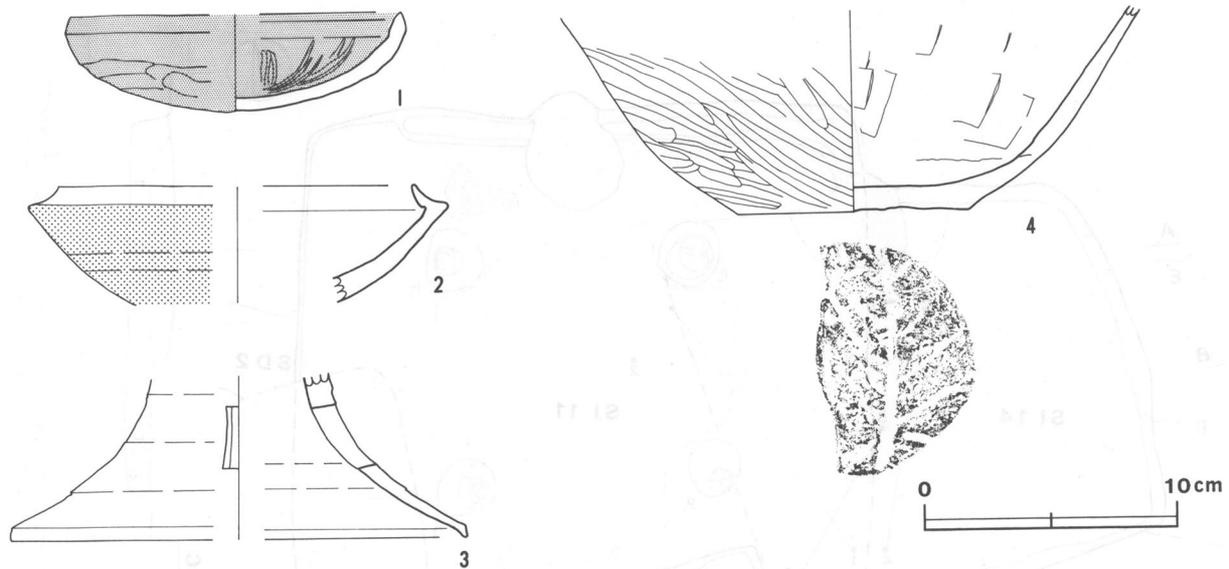
壁 壁高は29cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は北壁下と西壁下に確認され, 上幅11~21cm, 下幅2~7cm, 深さ4cmで, 断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で, 竈の南側が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂粒まじりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで63cm, 両袖最大幅81cm, 壁外への掘り込みは8cmである。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床面は床面を2cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変している。



第30図 第10号住居跡実測図



第31図 第10号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焦土中ブロック少量, 焼土粒子中量, 炭化粒子中量 | 5 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子中量, 粘土粒子少量 |
| 2 赤褐色 焼土中ブロック少量, 焼土粒子多量, 炭化粒子少量 | 6 褐色 ローム小ブロック少量, 粘土粒子多量 |
| 3 褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量, 粘土粒子少量 | 7 暗褐色 焼土粒子微量, 粘土粒子中量 |
| 4 暗赤褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子中量, 灰粒子少量 | 8 暗赤褐色 焼土中ブロック多量, 灰粒子少量, 粘土粒子少量 |

遺物 土師器片343点, 須恵器片3点, 鉄滓1点が出土している。1の土師器坏と2の須恵器高坏と3の須恵器高坏は, 中央部覆土中層から, 4の土師器甕は竈右側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代後期と考えられる。

第10号住居跡出土遺物観察表

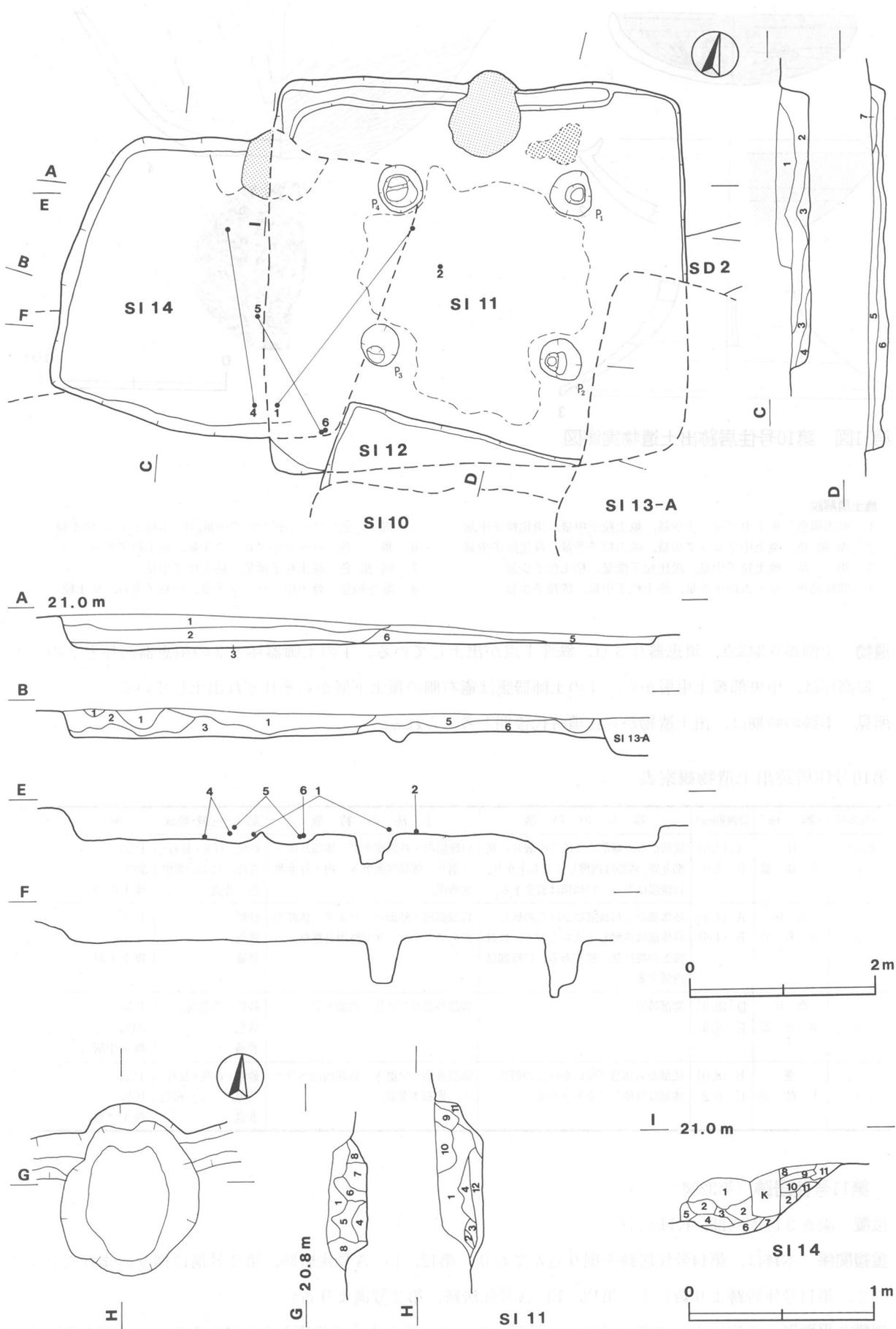
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第31図 1	土師器 坏	A [13.0] B 3.9	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・石英・長石・雲母, にぶい黄褐色 普通	P53 30% 覆土中層
2	須恵器 高坏	A [14.0] B (4.6)	坏体部から口縁部にかけての破片。坏体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に強い稜がある。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面クロナデ。体部内面クロナデ。体部外面自然釉。	砂粒 灰色 普通	P55 5% 覆土上層
3	須恵器 高坏	D [18.0] E (6.5)	脚部破片。	脚部外面ロクロ目。内面ナデ。	砂粒・黒色斑点 灰色 普通	P56 30% 覆土中層
4	土師器 甕	B [8.0] C 9.2	底部から体部下位にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面へラ磨き。体部内面へラナデ。底部木葉痕。	砂粒・石英・長石・雲母, にぶい褐色 普通	P54 10% 覆土下層

第11号住居跡 (第32図)

位置 調査3区南西部, K11g1区。

重複関係 本跡は, 第14号住居跡を掘り込んでおり, 第12, 13-A号住居跡, 第2号溝に掘り込まれているので, 第14号住居跡より新しく, 第12, 13-A号住居跡, 第2号溝より古い。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確でないが, 残存する壁や床から長軸が4.24m, 短軸4.22mの方形と考えられる。



第32图 第11・12・14号住居跡実測图

主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は13~15cmで、外傾して立ち上がる。壁溝は北壁下に確認され、上幅26~32cm、下幅9~15cm、深さ4~7cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、出入り口から竈にかけての中心部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂粒まじりの白色粘土で構築されているが、上部は耕作により攪乱を受けているため掘り方だけ確認した。規模は煙道部から焚口部まで93cm、壁外への掘り込みは20cmである。火床面は床面を6cm掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土中ブロック少量、焼土粒子少量、粘土粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量、粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック微量、焼土粒子少量、炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック微量、炭化粒子少量、粘土小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック少量、炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック少量
- 8 褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、焼土小ブロック少量、粘土粒子少量
- 9 赤褐色 ローム粒子少量、焼土中ブロック少量、焼土粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック少量、炭化粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 12 赤褐色 焼土小ブロック中量、焼土粒子中量

ピット 4か所(P1~P4)。P1からP4は長径46~50cm、短径41~50cmの円形及び楕円形、深さ40~65cmで、いずれも支柱穴である。

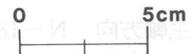
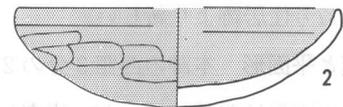
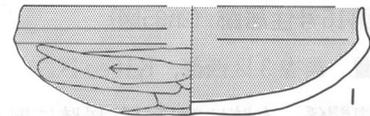
覆土 3層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 5 褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、焼土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 7 赤褐色 ローム小ブロック微量、ローム粒子少量

遺物 土師器片109点、須恵器片10点が出土している。1の土師器坏は西壁際の覆土下層から、2の土師器坏は中央部床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、2が床面から出土していることから、古墳時代後期と考えられる。



第33図 第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第33図 1	土師器 坏	A[13.4] B 4.3	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜がある。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア、にふい橙色普通	P57 30% 覆土下層
2	土師器 坏	A[12.7] B 4.0	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 黒色 普通	P58 20% 床直

第12号住居跡 (第32図)

位置 調査3区の西部、K11h1区。

重複関係 本跡は、第11号住居跡を掘り込み、第10号住居跡に掘り込まれているので、第11号住居跡より新しく、第10号住居跡より古い。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確でないが、長軸 (2.58) m, 短軸 (0.98) mで、方形または長方形と考えられる。

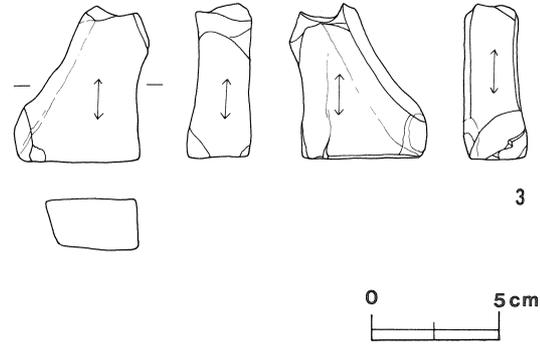
主軸方向 N-8°-E

壁 壁高7cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

遺物 土師器片2点, 石製品1点が出土している。3の砥石は覆土中から出土している。

所見 時期は、本跡に伴う遺物がないので不明であるが、第11号住居跡より新しく第10号住居跡より古いことから、古墳時代後期と考えられる。



第34図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考	
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)				
第34図1	砥石	(6.2)	5.0	2.7	(104.0)	凝灰岩	覆土中	Q4	30%

第16号住居跡 (第35図)

位置 調査3区西部, K10e7区。

重複関係 本跡は第15号住居跡に掘り込まれ, 第17号住居跡を掘り込んでいるので, 第15号住居跡より古く, 第17号住居跡より新しい。

規模と平面形 本跡の西側3分の2が調査区域外に延びており, さらに2軒の住居跡と重複しているので規模や平面形は明確でないが, 残存している壁や床から, 長軸 [3.84] m, 短軸 (3.00) mで方形と考えられる。

主軸方向 N-18°-W

壁 残存する壁高は35~40cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体的に平坦である。

ピット P1は径37cmの円形, 深さ51cmで支柱穴である。

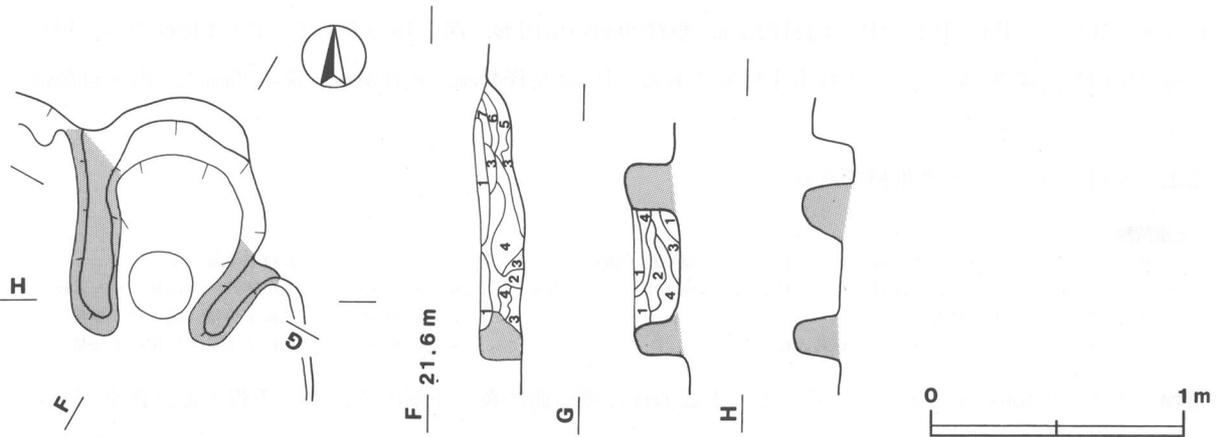
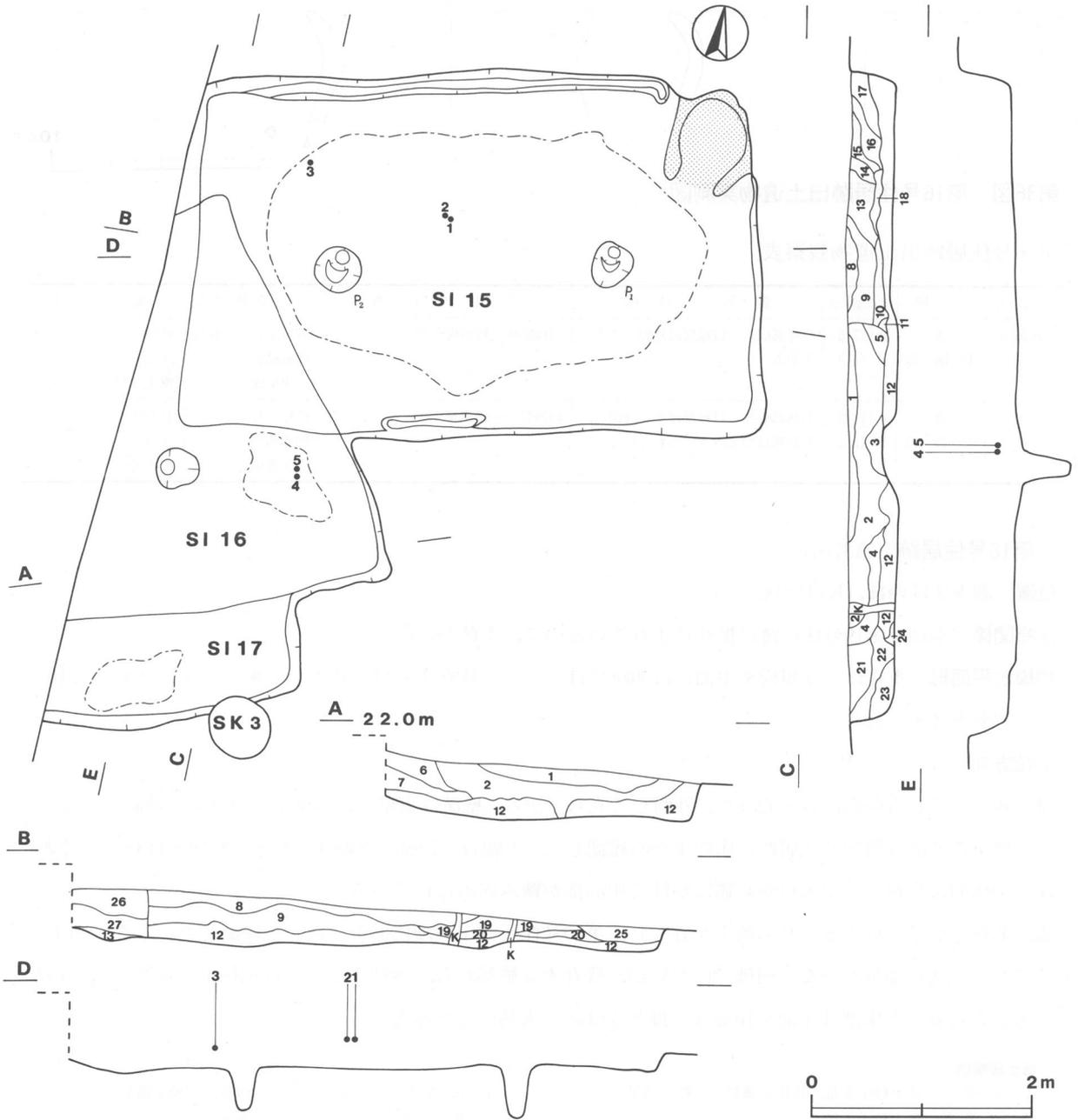
覆土 9層からなり, 自然堆積である。

土層解説

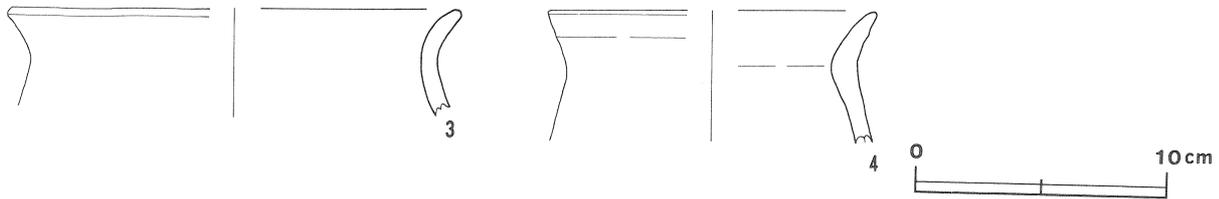
- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量, 炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 炭化粒子中量
- 6 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
- 7 極暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 26 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量
- 27 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子中量

遺物 土師器片200点, 須恵器片4点が出土している。3, 4の土師器甕は, 東部覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代後期と考えられる。



第35图 第15・16・17号住居跡実测图



第36図 第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第36図 3	甕 土師器	A [17.6] B (4.3)	口縁部破片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・長石 明赤褐色 2次焼成	P69 5% 覆土中層
4	甕 土師器	A [12.9] B (5.2)	口縁部破片。口縁部は短く外傾し、口唇部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英 明赤褐色 2次焼成	P70 5% 覆土中層

第18号住居跡 (第37図)

位置 調査3区西部, K11f1区。

重複関係 本跡は第19号住居跡に掘り込まれているので、本跡が古い。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが、残存する壁や床から長軸3.39m、短軸 [3.10] m の方形と考えられる。

主軸方向 N-3°-W

壁 残存している壁高は17~32cmで、外傾して立ち上がる。壁溝は東壁下、南壁下、西壁下に確認されている。

東壁下の壁溝は第19号住居跡の床の下から確認した。上幅17~25cm、下幅4~14cm、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、出入口から竈にかけて中心部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に粘土まじりの焼土が存在し、第19号住居跡床の硬化面をはがして確認した。上部が削平されており、残存部分が少なく明確ではないが、残存する袖部から、砂粒まじりの白色粘土で構築されていたと考えられる。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめ、火熱により赤変している。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1 赤褐色 焼土粒子多量, 炭化物微量, 灰粒子微量 | 4 褐灰色 ローム小ブロック微量, 灰粒子微量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子少量 | 5 褐色 ローム小ブロック微量 |
| 3 灰褐色 灰粒子少量 | |

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は長径25cm、短径20cmの楕円形、深さ19cmである。P2は長径32cm、短径28cmの楕円形、深さ23cmで、いずれも主柱穴である。P3は長径41cm、短径31cm、深さ20cmで、出入口施設に伴うピットである。

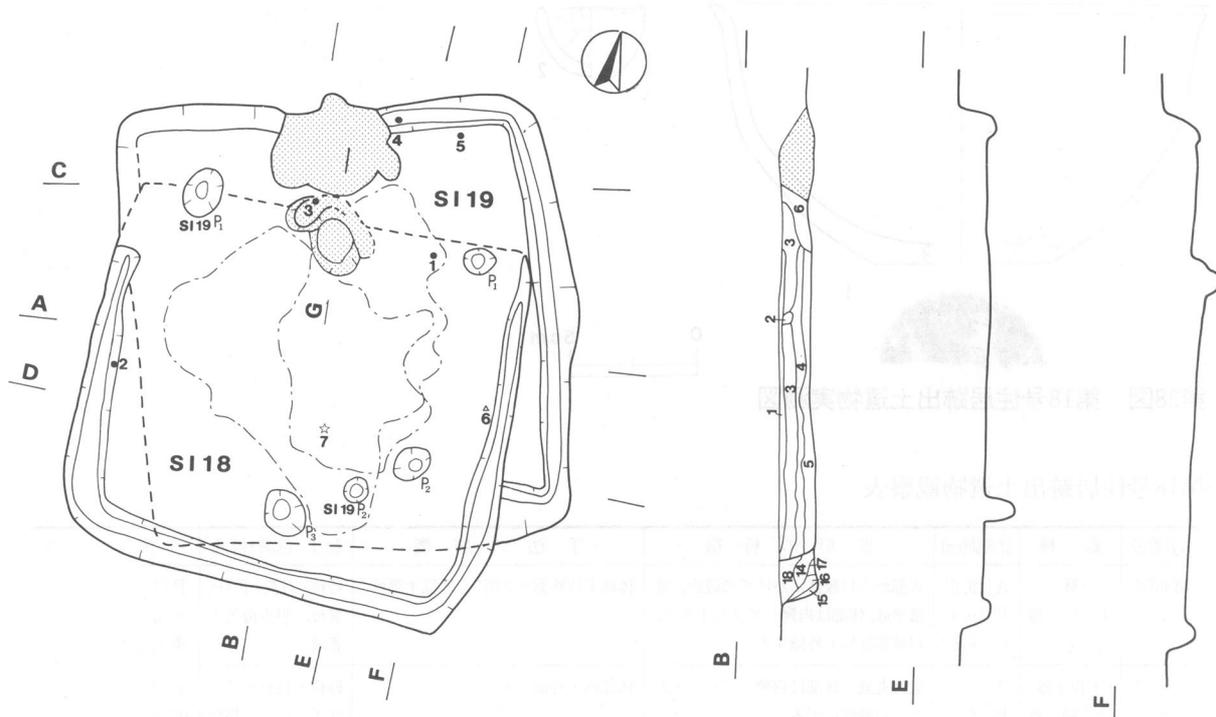
覆土 8層からなり、自然堆積である。

土層解説

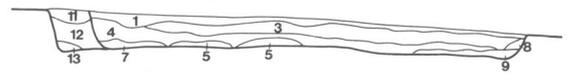
- | | |
|--------------------------------------|----------------------------|
| 11 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | 15 褐色 ローム粒子多量 |
| 12 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 16 黒褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子少量 |
| 13 明褐色 ローム粒子中量 | 17 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子少量 |
| 14 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 | 18 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |

遺物 土師器片106点が出土している。1の土師器鉢は竈右側の覆土下層から、2の手捏土器は西壁下からそれぞれ出土している。

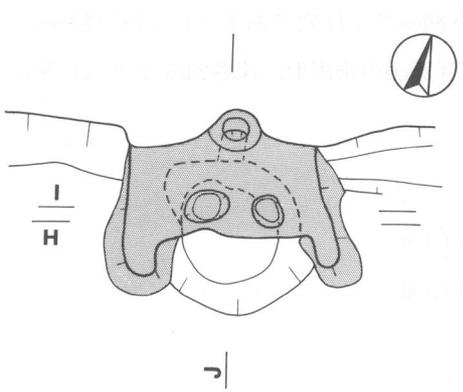
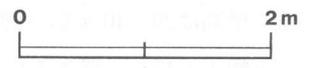
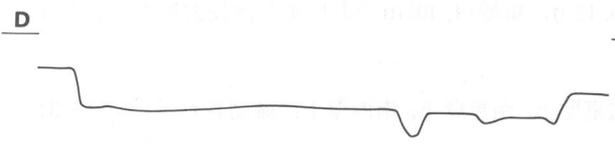
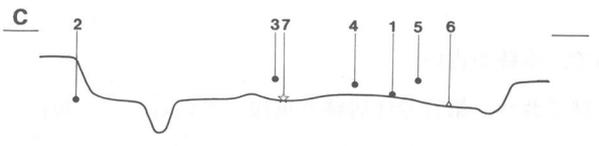
所見 本跡の時期は、出土遺物から、古墳時代後期と考えられる。



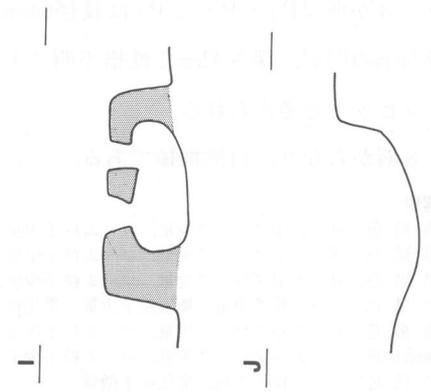
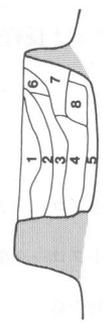
A 21.2 m



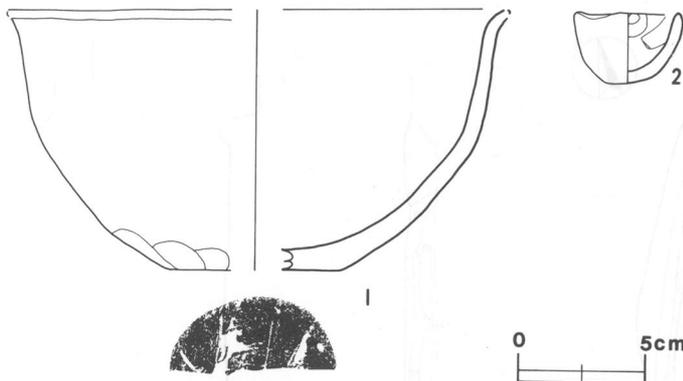
G 20.8 m



H 21.2 m



第37图 第18・19号住居跡実測図



第38図 第18号住居跡出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第38図 1	鉢 土師器	A [19.6] B 10.4 C 6.6	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外傾する。	体部下位外面へラ削り。底部木葉痕。	砂粒・石英・長石・雲母、明赤褐色 普通	P71 40% 覆土下層
2	手捏土器 土師器	A 4.1 B 2.8	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。	砂粒・長石・スコリア、にふい褐色 普通	P72 95% 床直

第20号住居跡（第39図）

位置 調査3区西部，K11c1区。

重複関係 本跡は、第21号住居跡に掘り込まれているので、本跡が古い。

規模と平面形 本跡の北西側2分の1は調査区域外に延びており、第21号住居跡と重複しているので、規模や

平面形は明確ではないが、残存する壁や床から長軸6.12m、短軸(4.40)mで方形または長方形と考えられる。

主軸方向 N-19°-W

壁 壁高は20~40cmで、外傾して立ち上がる。壁溝は北東壁下、南東壁下、南西壁下に確認され、上幅14~31cm、下幅1~15cm、深さ5~7cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、全体的にやや踏み固められている。

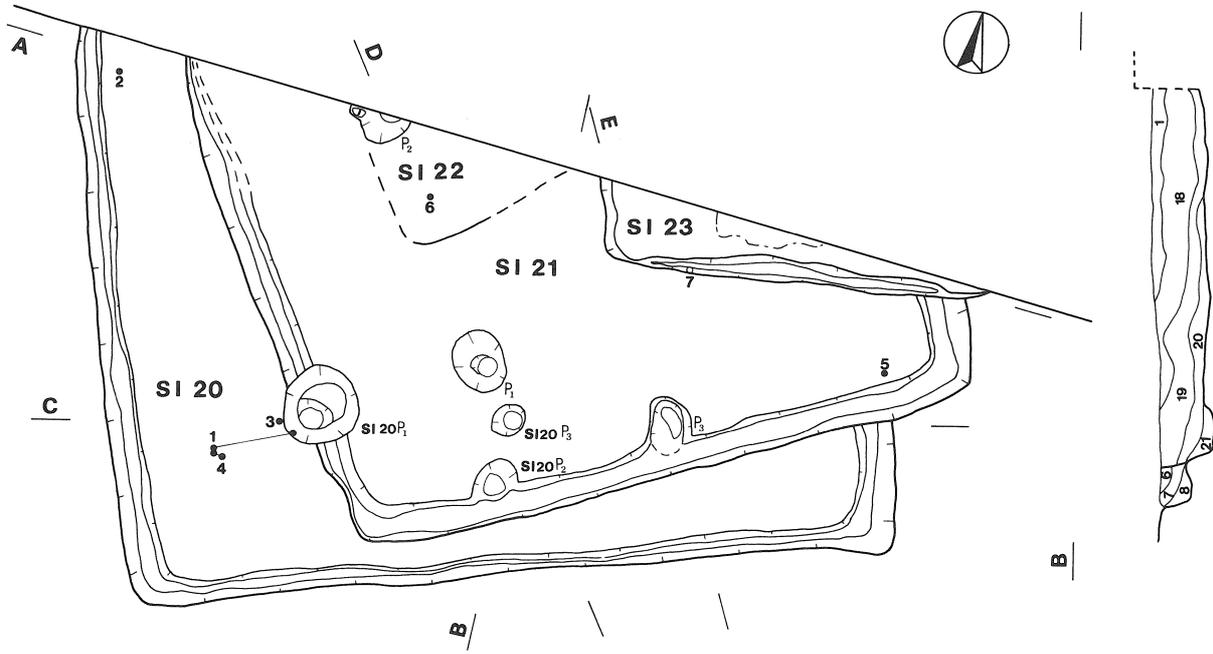
ピット 3か所(P1~P3)。P1は長径64cm、短径60cmの円形、深さ80cmで支柱穴である。P2は長径29cm、短径24cmの円形、深さ32cmで性格不明である。P3は長径39cm、短径26cmの楕円形、深さ24cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなり、自然堆積である。

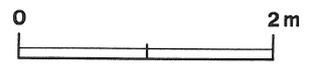
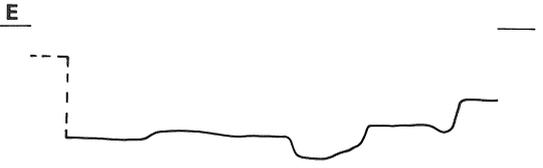
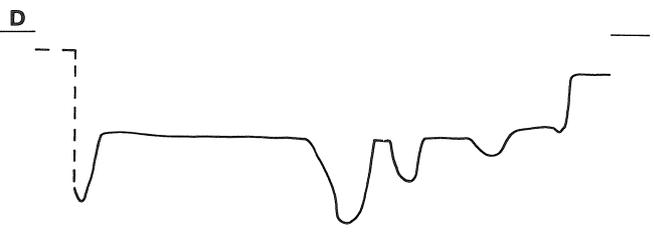
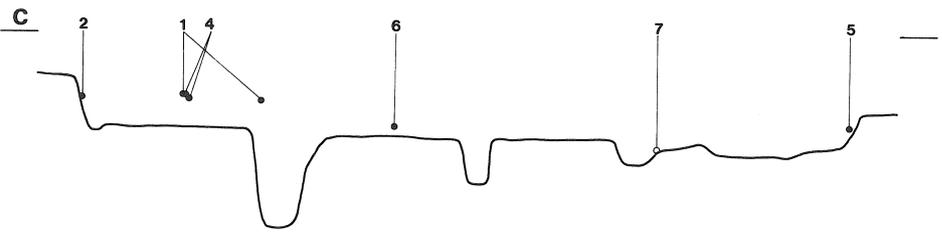
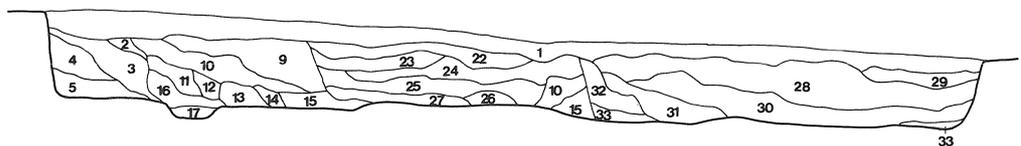
土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，焼土小ブロック微量，炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，炭化物少量
- 6 極暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子少量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，炭化粒子少量

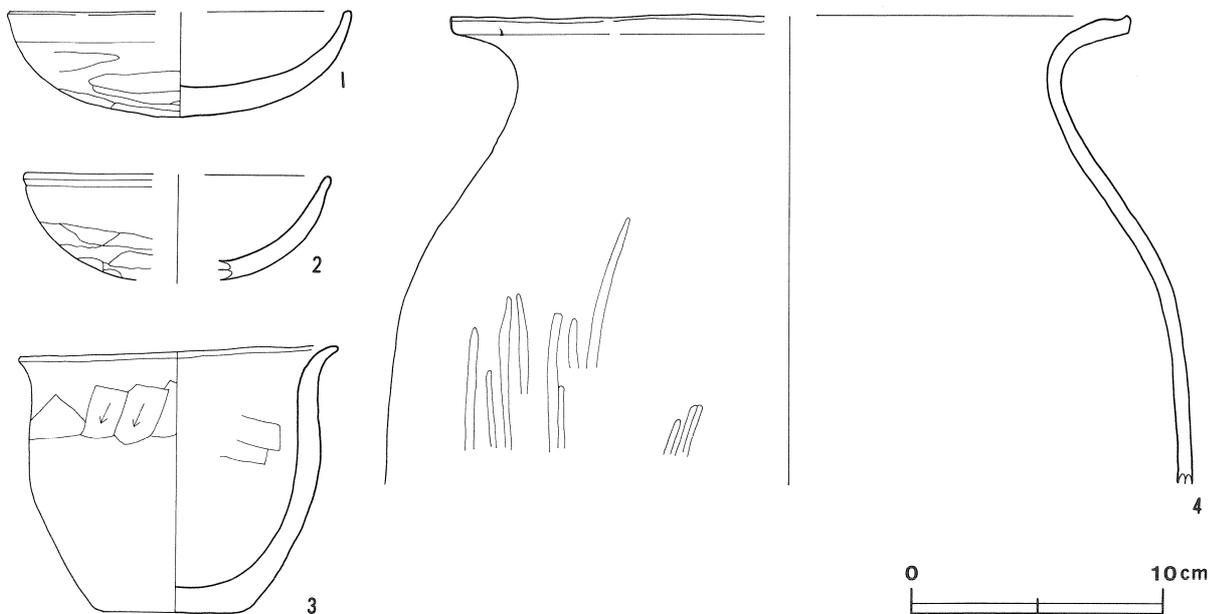
遺物 土師器片518点，須恵器片3点，陶器片1点が出土している。3の土師器小型甕はピット1近くの覆土中から，4の土師器甕は南西部覆土下層から，1の土師器坏は南西部覆土中層から，2の土師器坏は南西壁際からそれぞれ出土している。



A 21.4 m



第39图 第20・21・22・23号住居跡実測図



第40図 第20号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡の時期は、出土遺物から、古墳時代後期と考えられる。

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第40図 1	坏 土師器	A [13.6] B 4.2	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	砂粒・長石 黒褐色 普通	P 76 30% 覆土中層
2	坏 土師器	A [12.0] B (4.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部直下に沈線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・長石 にふい橙色 普通	P 77 20% 覆土中層
3	小型甕 土師器	A 12.4 B 10.7 C 5.7	底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石 にふい黄橙色 普通	P 78 100% 覆土中
4	甕 土師器	A [27.0] B (18.7)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は外傾し、端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部中位へラ磨き。	砂粒・石英・長石・ 雲母、褐色 普通	P 80 30% 覆土下層

第21号住居跡 (第39図)

位置 調査3区西部, K11c1区。

重複関係 本跡は第20号住居跡を掘り込み、第22、23号住居跡に掘り込まれているので、第20号住居跡より新しく、第22、23号住居跡より古い。

規模と平面形 本跡の北東側2分の1は調査区域外に延びており、他の住居跡と重複しているので規模や平面形は明確ではないが、長軸5.30m、短軸(3.86)mの方形または長方形と考えられる。

主軸方向 N-29°-W

壁 壁高は45cmで、外傾して立ち上がる。壁溝は北東壁下、南東壁下、南西壁下に確認され、上幅15~29cm、下幅3~9cm、深さ8~9cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、全体的に踏み固められている。

ピット 3か所(P1~P3)。P1とP2は径37~50cm、深さ56~59cmで支柱穴である。P3は長径45cm、短径34cm、深さ19cmで出入りに伴うピットと考えられる。

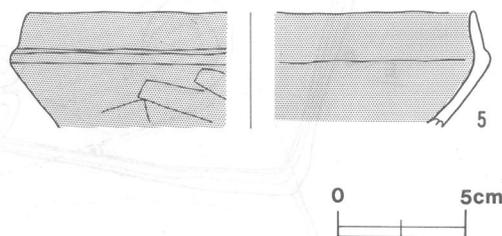
覆土 13層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 9 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック少量、焼土粒子少量
- 10 暗褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック少量、焼土粒子少量、炭化粒子少量
- 11 黒褐色 ローム小ブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子少量
- 12 極暗褐色 ローム中ブロック微量、焼土粒子少量、炭化粒子少量
- 13 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子少量、炭化粒子少量、粘土粒子少量
- 14 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子少量
- 15 黒褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子少量
- 16 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、炭化粒子少量
- 17 極暗褐色 ローム中ブロック少量、ローム粒子少量
- 18 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、焼土小ブロック少量、炭化物少量
- 19 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化物少量
- 20 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 21 暗褐色 ローム小ブロック微量、ローム粒子少量

遺物 土師器片69点が出土している。5の土師器坏は、東コーナー近くの覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物が少なく時期を判断することはできないが、第20号住居跡より新しいことから、古墳時代以降と考えられる。



第41図 第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第41図 5	坏 土師器	A [17.7] B (4.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜がある。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・雲母 黒褐色 普通	P79 10% 覆土中層

第31号住居跡 (第42図)

位置 調査3区の中央部、K11c4区。

重複関係 本跡は第30号住居跡に掘り込まれているので、本跡が古い。

規模と平面形 本跡の北側5分の1が調査区域外に延びており、南西コーナー部から南壁中央部にかけて第30号住居跡と重複しているため、規模や平面形は明確ではないが、一辺が5.00mの方形と考えられる。

主軸方向 N-20°-W

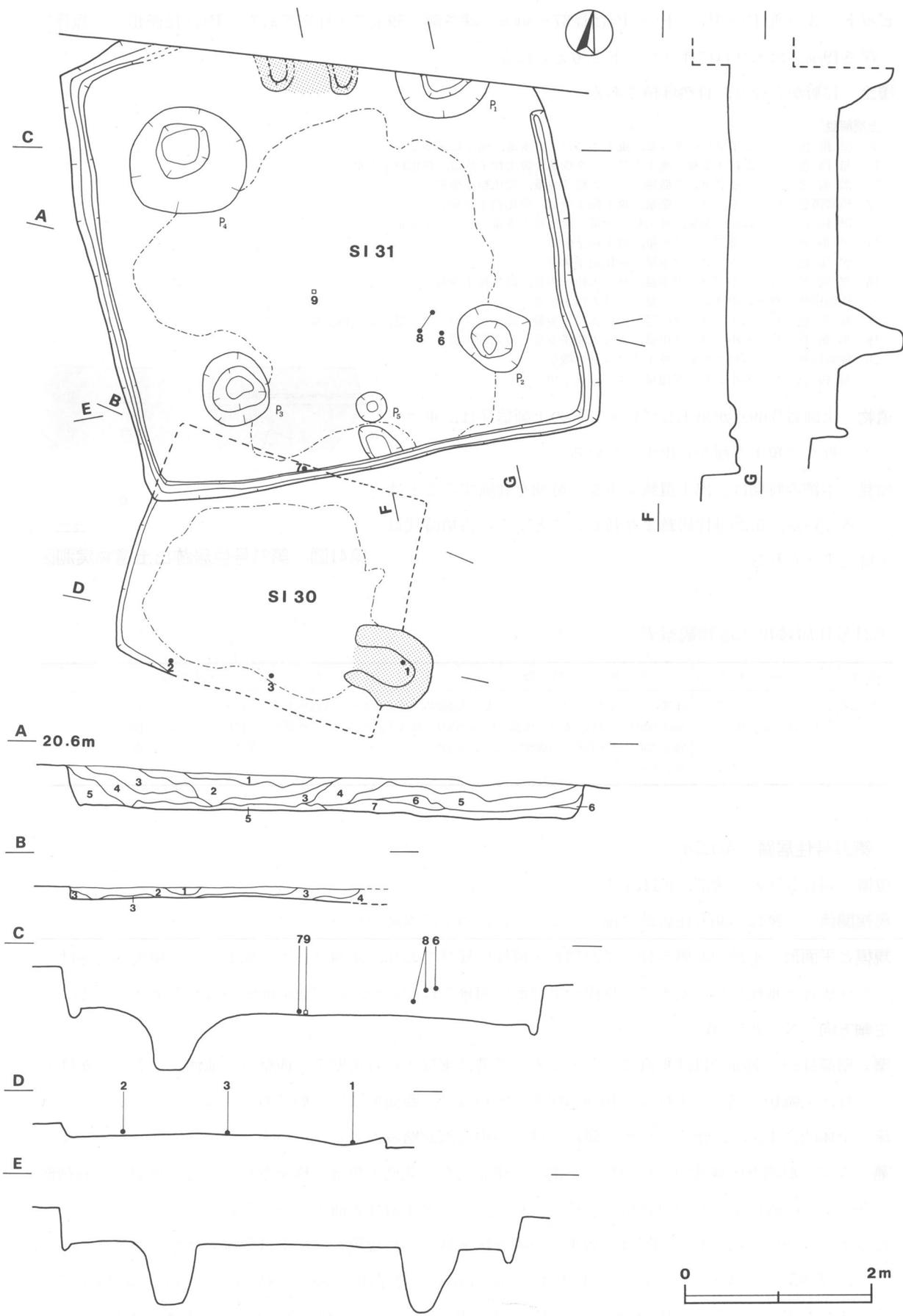
壁 壁高は29~36cmでほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は東壁下から南壁下、西壁下、北西コーナーにかけて確認され、上幅10~24cm、下幅4~10cm、深さ5~14cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、出入り口から竈にかけての中心部が踏み固められている。

竈 大部分が調査区域外のため袖部の一部だけ確認した。北壁中央部に構築されている。確認した右袖部は幅26cmで、砂粒まじりの白色粘土で構築されている。火床面は床面を4cmほど掘りくぼめている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1は北側半分が調査区域外のため規模や平面形は明確ではないが、径95cmの円形で、深さ55cmと考えられ、P2からP4は長径78~126cm、短径70~78cmの円形及び楕円形、深さ66~73cmで、いずれも支柱穴である。P5は径32cmの円形、深さ9cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層からなり、自然堆積である。



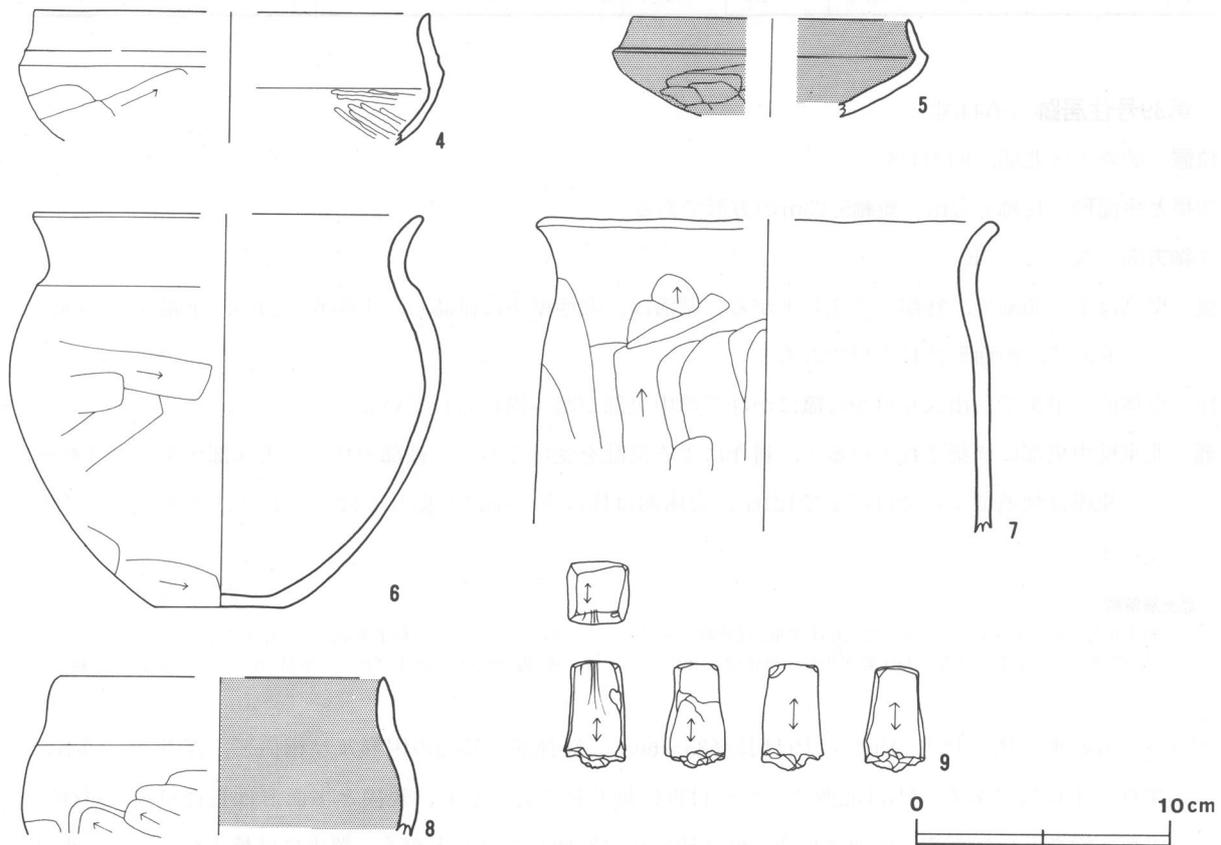
第42图 第30・31号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子少量 | 6 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ローム中ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子少量 | 7 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック微量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | | |

遺物 土師器片570点, 須恵器片53点, 陶器片2点, 石製品1点が出土している。7の土師器甕は南壁下覆土下層から, 6, 8の土師器甕は覆土中層から, 4, 5の土師器坏は覆土中から, 9の砥石は中央部床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代後期と考えられる。



第43図 第31号住居跡出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第43図 4	土師器 坏	A [15.8] B (5.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 体部と口縁部の境に稜がある。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラ磨き。	砂粒・石英・長石にふい橙色普通	P109 10% 覆土中
5	土師器 坏	A [11.0] B (3.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 体部と口縁部の境に稜がある。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・雲母赤褐色普通	P110 10% 覆土中
6	土師器 甕	A [15.4] B 15.7 C 5.0	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は球形で, 最大径は体部中位にある。頸部は外反し, 口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石にふい橙色普通	P111 30% 覆土中層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第43図 7	甌 土師器	A [17.6] B (12.2)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部はほぼ直立する。頸部はやや外反する。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石 赤褐色 普通	P112 20% 覆土下層
8	甌 土師器	A [12.8] B (6.3)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部上位は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜がある。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。内面黒色処理。	砂粒・長石 にふい黄褐色 普通	P113 10% 覆土中層

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第43図9	砥石	(4.2)	(2.4)	2.5	(32.0)	安山岩	床面	Q7 80%

第39号住居跡 (第44図)

位置 調査1区北部, F14f4区。

規模と平面形 長軸5.47m, 短軸5.23mの方形である。

主軸方向 N-21°-E

壁 壁高は7~30cmで, 外傾して立ち上がる。壁溝は, 北西壁下に確認し, 上幅6~24cm, 下幅3~9cm, 深さ3~5cmで, 断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で, 出入口から竈にかけての中央部が踏み固められている。

竈 北東壁中央部に構築されているが, 耕作による攪乱を受けており, 袖部の粘土と火床部の焼土だけを確認した。規模は煙道部から焚口部まで121cm, 火床面は床面を7cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土中ブロック少量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 | 3 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 炭化粒子中量 | 4 灰褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子少量 |

ピット 6か所 (P1~P6)。P1からP4は長径35~60cm, 短径35~55cmの円形及び楕円形, 深さ32~50cmで, いずれも主柱穴である。P5は北西コーナー付近に掘り込まれており, 規模と平面形は長径81cm, 短径78cmの円形, 深さ5cmである。底面は平底, 壁は緩やかに外傾して立ち上がる。覆土には焼土粒子や粘土小ブロックが少量含まれており, 性格は不明である。P6は南西壁中央部付近に掘り込まれており, 長径91cm, 短径72cmの隅丸長方形, 深さ40cmである。覆土にはローム小ブロックや粘土粒子が少量含まれており, 性格は不明である。

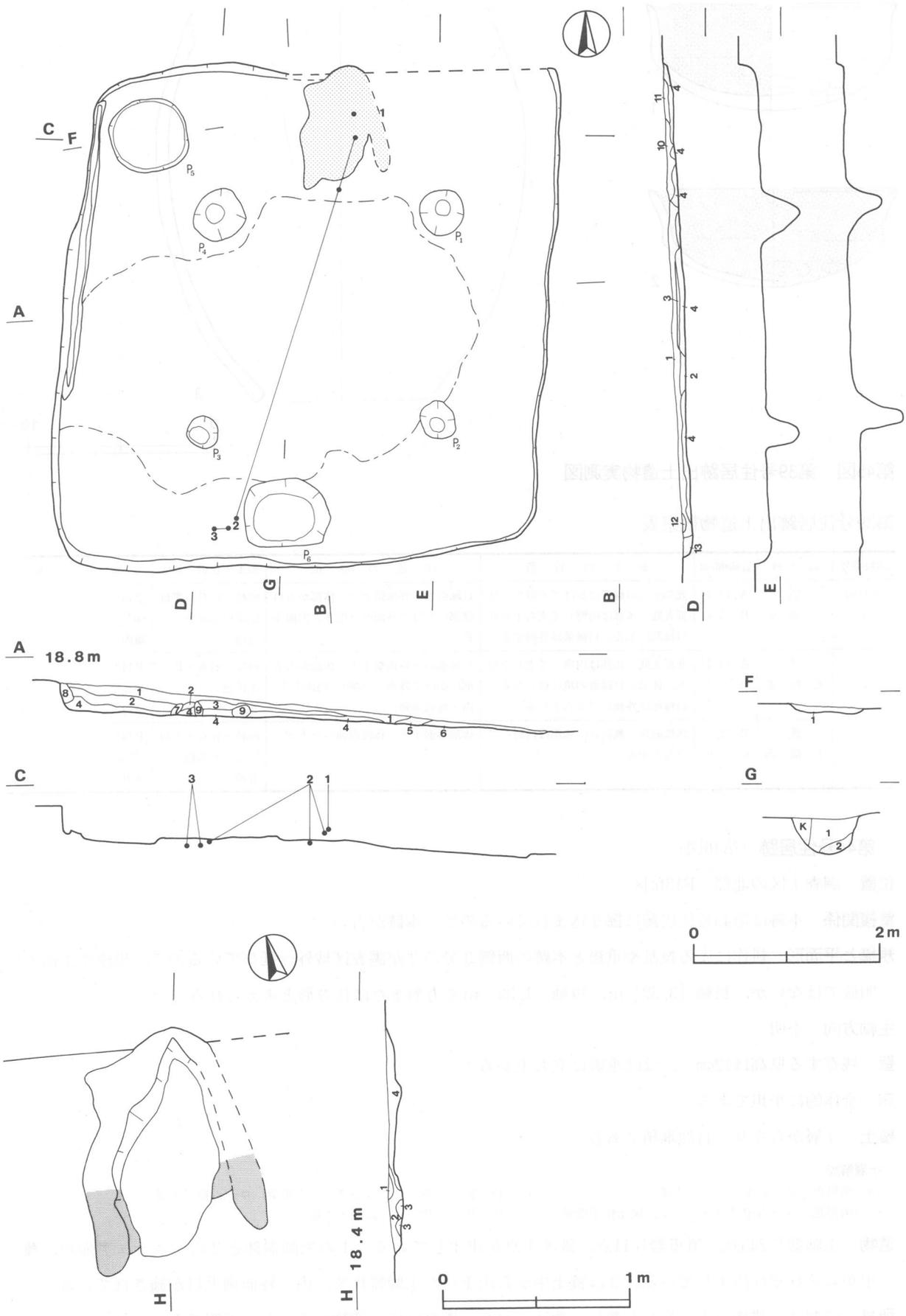
覆土 13層からなり, 自然堆積である。

土層解説

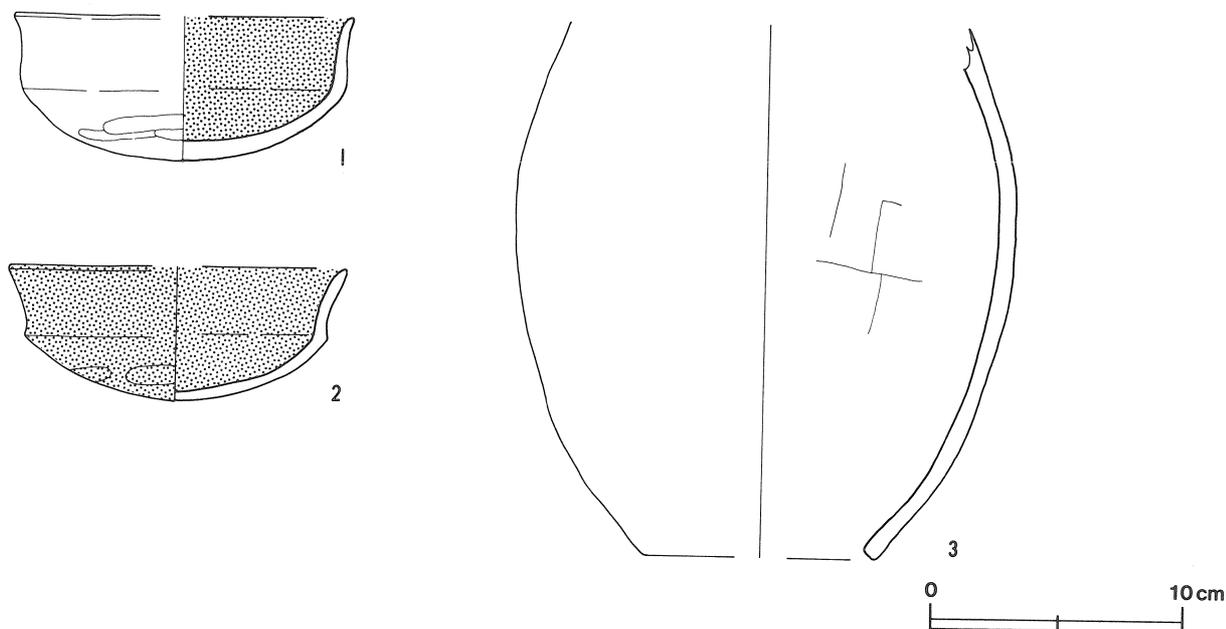
- | | |
|-----------------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量, 粘土小ブロック微量 | 8 褐色 ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 粘土粒子少量 | 9 黄橙色 粘土中ブロック多量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量 | 10 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量 |
| 4 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 11 極暗褐色 ローム粒子中量, 粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子少量 | 12 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 6 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量 | 13 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 |
| 7 黒褐色 ローム粒子少量, 粘土粒子少量 | |

遺物 土師器片132点, 須恵器片9点が出土している。1の土師器坏は竈内から, 2の土師器坏は竈内と南壁付近の床面から出土した破片と接合している。3の土師器甌は床面から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から, 古墳時代後期と考えられる。



第44图 第39号住居跡実測图



第45図 第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 1	坏 土師器	A [13.4] B 5.8	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり口縁部に至る。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から口縁部にかけて外面へラ削り。内面赤彩。	砂粒・長石・雲母にふい赤褐色普通	P 141 60% 竈内
2	坏 土師器	A [13.4] B 5.3	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜がある。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・石英・長石赤褐色普通	P 142 40% 竈内
3	甌 土師器	B (21.2) C [9.0]	体部破片。無底式。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ナデ。体部内面へラナデ。	砂粒・長石・雲母にふい赤褐色普通	P 143 20% 床直

第44号住居跡 (第46図)

位置 調査1区の北部, F13f6区。

重複関係 本跡は第45号住居跡に掘り込まれているので、本跡が古い。

規模と平面形 耕作による攪乱や重複と本跡の西側3分の2が調査区域外へ延びているので、規模や平面形は明確ではないが、長軸 [3.52] m, 短軸 (1.32) mで方形または長方形と考えられる。

主軸方向 不明

壁 残存する壁高は12cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体的に平坦である。

覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説

16 暗褐色 ローム小ブロック中量

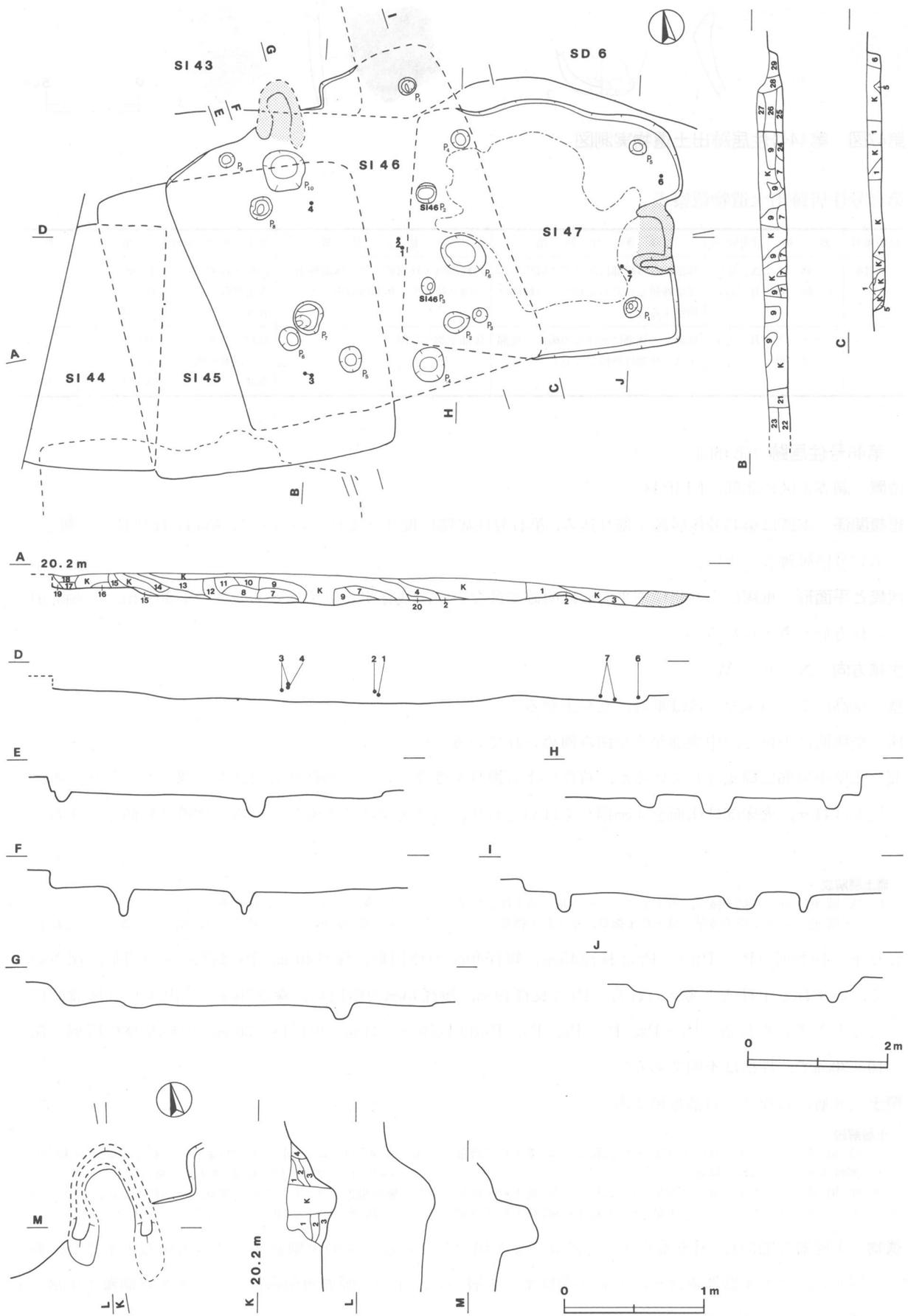
18 褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子中量

17 暗褐色 ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量

19 褐色 ローム粒子多量

遺物 土師器片245点, 須恵器片11点, 鉄滓1点が出土している。1の土師器鉢と2のミニチュア壺が、覆土中からそれぞれ出土している。3は覆土中から出土した土師器片で、内・外面刷毛目が施されている。

所見 時期は、耕作による攪乱を激しく受けており、本跡に伴う遺物がないため不明である。



第46图 第44·45·46·47号住居跡実測图



第47図 第44号住居跡出土遺物実測図

第44号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第47図 1	鉢 土師器	A [10.0] B (4.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。体部内面横ナデ。	砂粒・石英・長石 浅黄橙色 普通	P158 10% 覆土中
2	ミニチュア 土師器	B (2.5) C 2.2	底部から体部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下端へラ削り。	砂粒・石英・パミス、浅黄橙色 普通	P159 30% 覆土中

第46号住居跡 (第46図)

位置 調査1区の北部，F13f7区。

重複関係 本跡は第45号住居跡を掘り込み，第47号住居跡に掘り込まれているので，第45号住居跡より新しく，第47号住居跡より古い。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが，残存する壁や床から長軸 [4.80] m，短軸3.91mの長方形と考えられる。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は7~24cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体的に平坦で，中央部がやや踏み固められている。

竈 北壁中央部に構築されているが，耕作による攪乱を受けているため掘り方だけを確認した。壁外への掘り込みは41cm，火床部は床面を4cm掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|-----------------------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子微量，焼土小ブロック少量，粘土粒子少量 | 3 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量，焼土粒子微量，粘土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化粒子微量 |

ピット 10か所 (P1~P10)。P7は長径45cm，短径40cmの楕円形，深さ40cm。P8は径32cmの円形，深さ44cmで，いずれも支柱穴と考えられる。P4は長径49cm，短径45cmの楕円形，深さ20cmで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P1~P3，P5，P6，P9，P10は長径18~34cm，短径18~30cmの円形及び楕円形，深さ10~30cmで，性格は不明である。

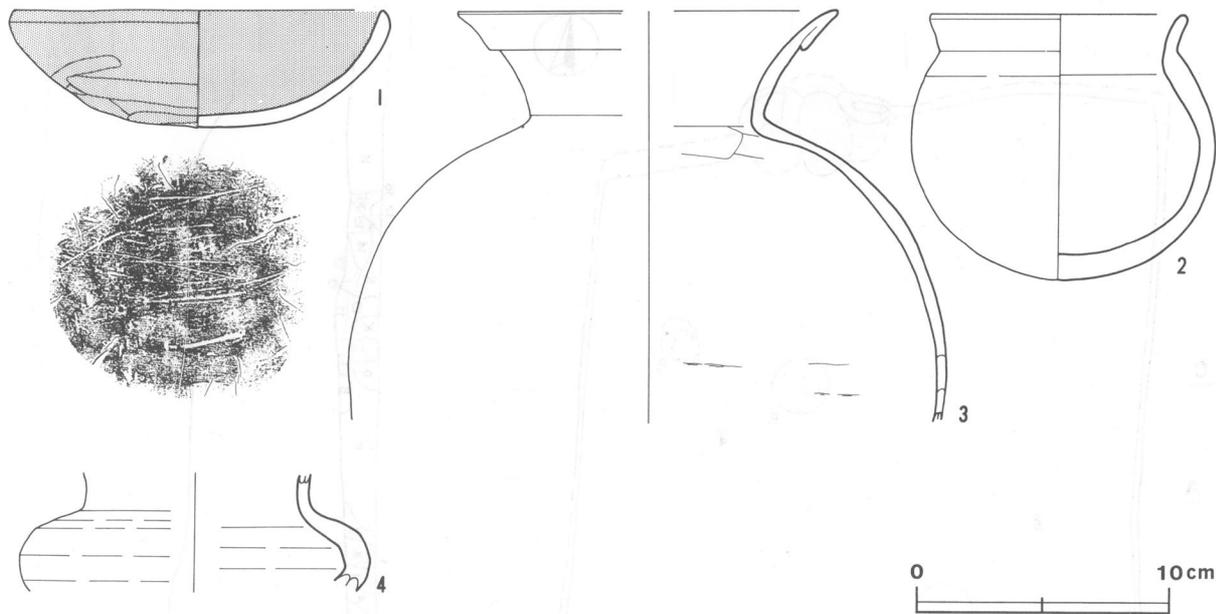
覆土 8層からなり，自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|---------|---------------------------|
| 7 暗褐色 | ローム小ブロック微量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 26 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，粘土粒子微量 |
| 9 極暗褐色 | ローム粒子微量 | 27 黒褐色 | ローム粒子微量，焼土粒子微量 |
| 24 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 28 極暗褐色 | ローム小ブロック微量，ローム粒子微量，焼土粒子微量 |
| 25 褐色 | ローム小ブロック中量，ローム粒子中量，粘土粒子少量 | 29 暗褐色 | ローム中ブロック中量，ローム粒子中量 |

遺物 土師器片325点，須恵器片3点，鉄滓2点が出土している。1の土師器坏と2の土師器小型甕が，覆土下層から，3の土師器壺はピット6の南側覆土中層から，4の土師器短頸壺はピット8の東側覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，1，2が覆土下層から出土していることから，古墳時代後期と考えられる。



第48図 第46号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第48図 1	坏 土師器	A 14.4 B 4.7	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。内・外面に「十」字の線刻。黒色処理。	砂粒 黒褐色 普通	P160 100% 覆土下層
2	小型甕 土師器	A 10.1 B 10.6	底部丸底。体部は球形で、最大径は中位にある。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・長石 にふい褐色 普通	P161 50% 覆土下層
3	甕 土師器	A [15.0] B (16.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は強く外反し、端部を折り返えされている。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石 赤褐色 2次焼成	P162 10% 覆土中
4	小型壺 須恵器	B (4.7)	体部から頸部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は直立する。	頸部内・外面ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P163 20% 覆土下層

第49号住居跡 (第49図)

位置 調査1区の北部, F13g6区。

規模と平面形 長軸4.56m, 短軸(4.42)mで, 方形と考えられる。

主軸方向 N-14°-E

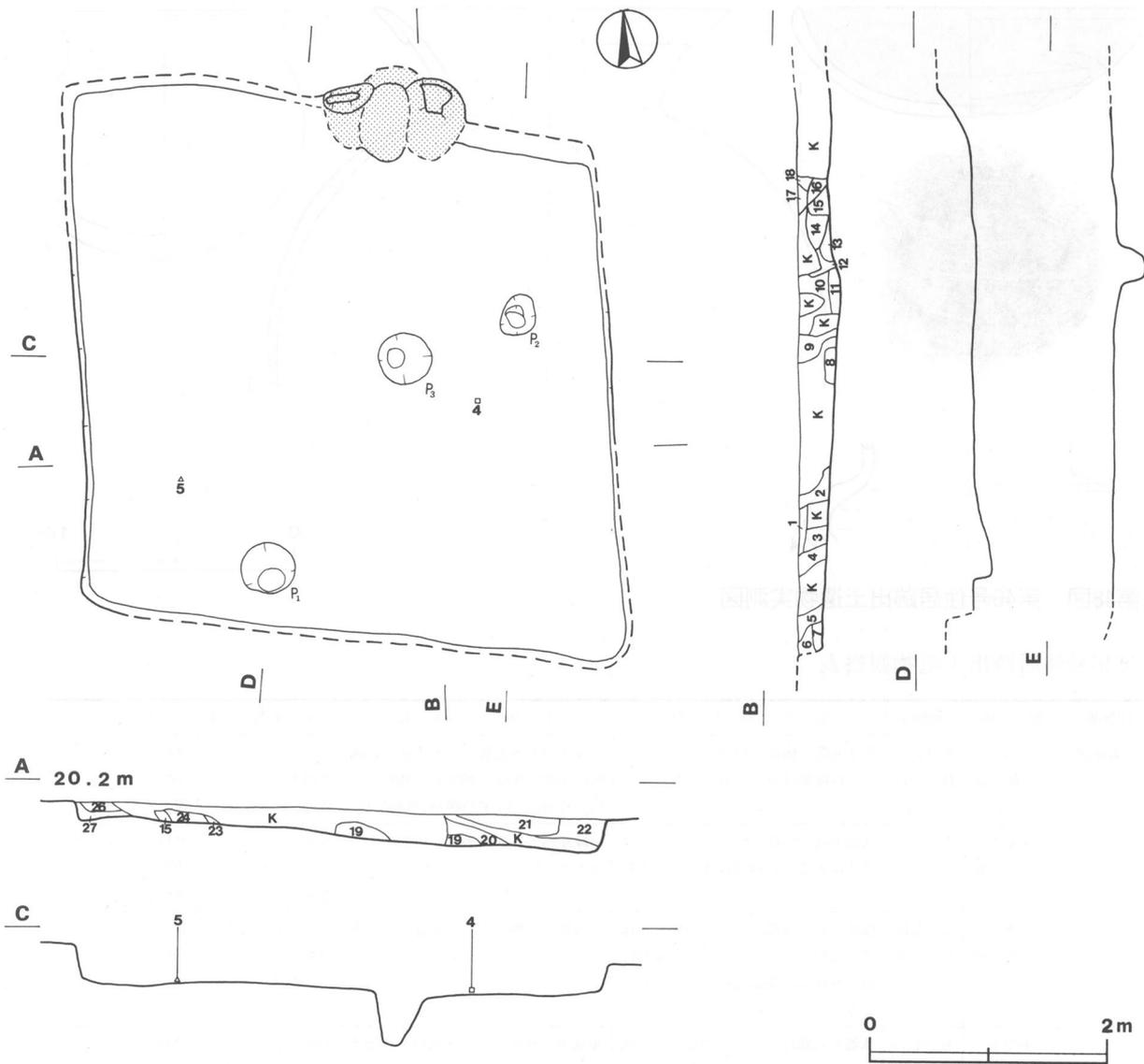
壁 壁高は23~29cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈 北壁中央部に砂粒まじりの白色粘土で構築されているが, 耕作による攪乱を受けており, 袖部はほとんど残存していない。規模は煙道部から焚口部まで83cm, 火床部は床面を10cm掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変している。

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は径2cmの円形, 深さ13cmで, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は長径17cm, 短径14cmの楕円形, 深さ23cmで, 支柱穴と考えられる。P3は径22cmの円形, 深さ46cmである。

覆土 27層からなり, 人為堆積である。



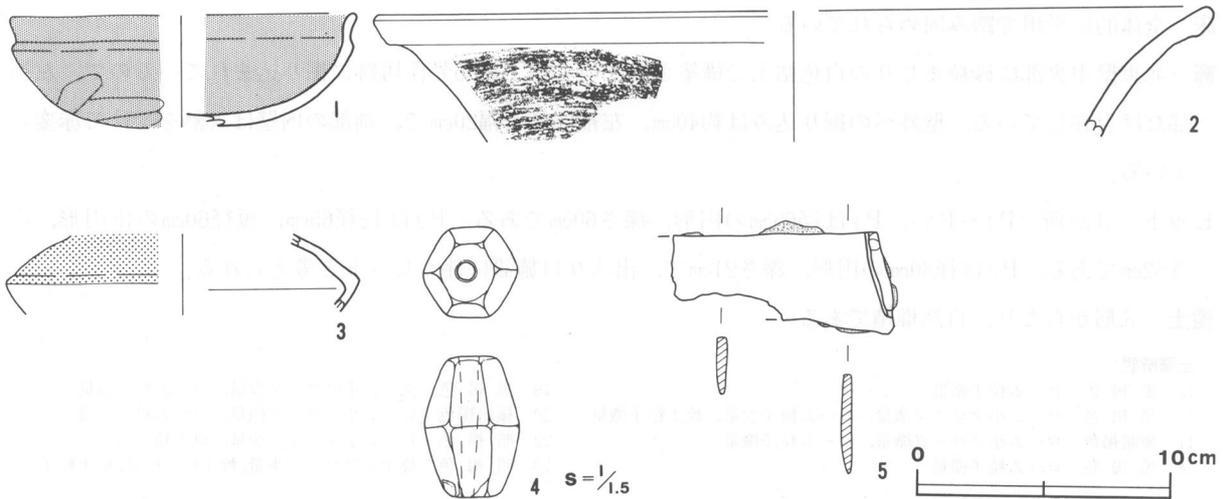
第49図 第49号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 | 15 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 16 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム中ブロック少量, ローム粒子中量 | 17 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 |
| 4 褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子中量 | 18 黒褐色 | ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子中量 | 19 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子少量 | 20 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量 | 21 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 22 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック微量 | 23 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 10 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子少量 | 24 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 11 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子少量 | 25 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子中量 |
| 12 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 26 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 13 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 | 27 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子中量 |
| 14 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 | | |

遺物 土師器片1094点, 須恵器片72点, 陶器片4点, 石製品1点, 鉄製品1点が出土している。1の土師器坏, 3の平瓶及び2の須恵器甕は, いずれも覆土中から出土している。4の水晶切り子玉と5の鉄鏃は床面から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代後期と考えられる。



第50図 第49号住居跡出土遺物実測図

第49号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第50図 1	坏 土師器	A [13.6] B (4.4)	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜がある。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 黒色 普通	P167 40% 覆土中
2	甕 須恵器	A [33.0] B (5.1)	口縁部破片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面横位の平行叩き。内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 灰色 普通	P169 5% 覆土中
3	平瓶 須恵器	B (3.2)	体部破片。体部は外傾して立ち上がり、上位で「く」の字状に折れて内傾する。	体部外面施釉。内面クロロナデ。	砂粒・長石 灰オリーブ 普通	P168 5% 覆土中

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第50図4	切子玉	2.8	1.9	3.0	0.2~0.4	12.0	水晶	覆土下層	Q9 100%

図版番号	種別	計測値				備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
第50図5	鉄鎌	(8.8)	4.1	0.4	(46.0)	M9 床面 50%

第55号住居跡 (第9図)

位置 調査1区の北部, G13c6区。

重複関係 本跡は第54号住居跡を掘り込み、第56号住居跡に掘り込まれているので、第54号住居跡より新しく、第56号住居跡より古い。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが、残存する壁や床から長軸 [3.87] m、短軸 [3.53] m の方形と考えられる。

主軸方向 N-21°-E

壁 壁高は14~18cmで、外傾して立ち上がる。壁溝は、南西壁下から北西壁下にかけて確認され、上幅7~22cm、下幅3~8cm、深さ3~5cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈 北東壁中央部に砂粒まじりの白色粘土で構築されているが、第56号住居跡に掘り込まれているので、左袖部だけ存在している。壁外への掘り込みは約40cm、左袖部最大幅20cmで、袖部の内壁は火熱を受けて赤変している。

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁は径65cmの円形、深さ60cmである。P₂は長径65cm、短径60cmの楕円形、深さ52cmである。P₃は径30cmの円形、深さ21cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなり、自然堆積である。

土層解説

15 黒褐色	ローム粒子微量	19 黒褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
16 黒褐色	ローム小ブロック微量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量	20 極暗褐色	ローム小ブロック微量, ローム粒子少量
17 極暗褐色	ローム小ブロック微量, ローム粒子微量	22 暗褐色	ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
18 黒褐色	ローム粒子微量	23 暗褐色	焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量, 粘土粒子少量

遺物 土師器片295点, 須恵器片4点が出土している。11の土師器甕は、竈左袖部脇に直立する状況で出土している。12の土師器小型甕と13の甌は、覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、11が竈左袖脇の床面から出土していることから、古墳時代後期と考えられる。



第51図 第55号住居跡出土遺物実測図

第55号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第51図 11	甕 土師器	A 22.8 B 35.7 C [8.5]	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。端部はややつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ。中位から下位にかけてヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。底部削り後ナデ。	砂粒・石英・長石 雲母 にふい橙色 普通	P190 80% 甕内
12	小型甕 土師器	A [11.1] B 9.0	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。外面黒色処理。体部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P191 75% 覆土中
13	甗 土師器	B (2.0) C [5.8]	底部から体部下位にかけての破片。底部平底。中央に円孔を有する。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P192 5% 覆土中

第60号住居跡 (第52図)

位置 調査1区の北部, F13h9区。

規模と平面形 長軸5.32m, 短軸3.38mの長方形である。

主軸方向 N-13°-E

壁 壁高は25~32cmで, 外傾して立ち上がる。壁溝は, 南西コーナーから西壁下にかけて確認され, 上幅12~25cm, 下幅4~9cm, 深さ4cmで, 断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部よりやや東寄りに砂粒まじりの白色粘土で構築されているが, 耕作による攪乱を受けている。

規模は煙道部から焚口部まで136cm, 両袖最大幅117cm, 壁外への掘り込みは40cmである。火床部は床面を2cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック微量, ローム粒子少量 | 6 極暗褐色 | 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量, 粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子少量 |
| 3 極暗褐色 | 焼土粒子微量, 炭化物少量, 粘土粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土小ブロック多量, 焼土粒子多量 |
| 4 灰褐色 | 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量, 粘土粒子少量 | 9 褐灰色 | 焼土小ブロック少量, 粘土粒子多量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | | |

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₁は径20cmの円形, 深さ37cmである。P₂は径24cmの円形, 深さ19cmである。床面を丁寧に精査したが, 他にピットを確認することはできなかった。

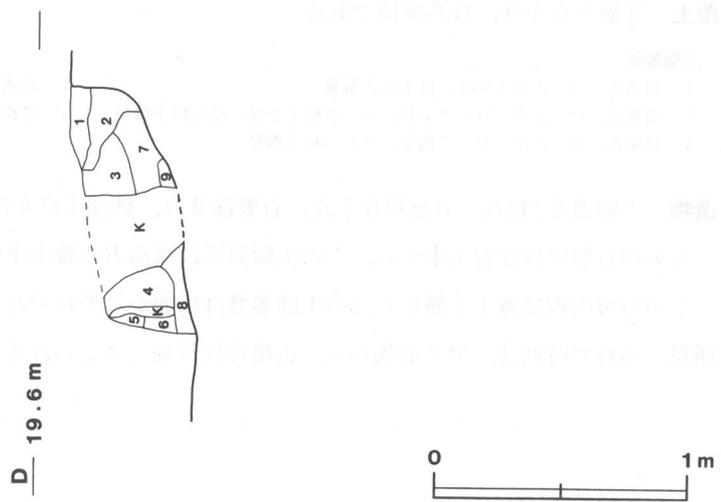
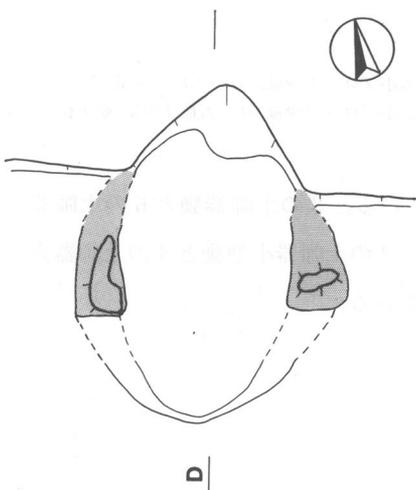
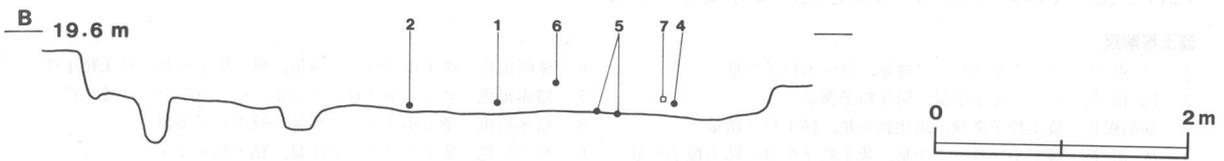
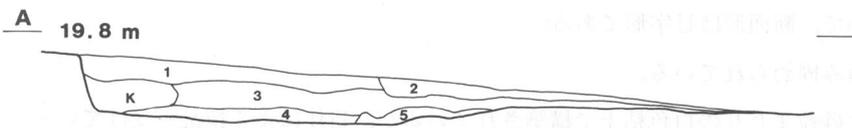
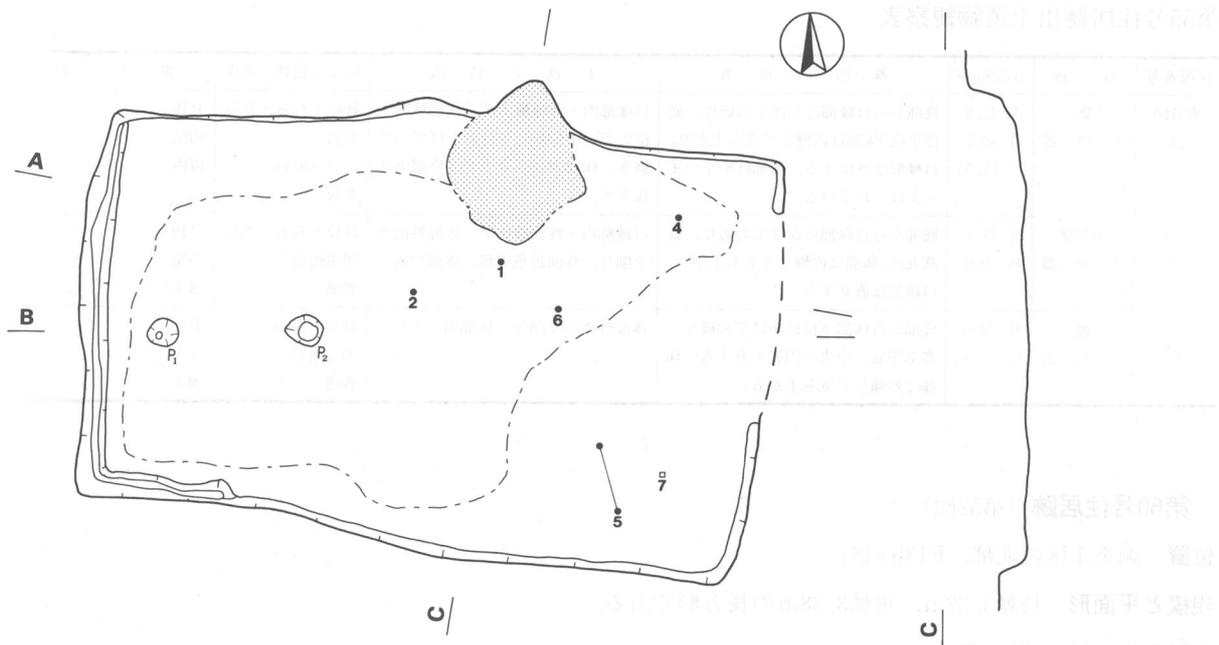
覆土 5層からなり, 自然堆積である。

土層解説

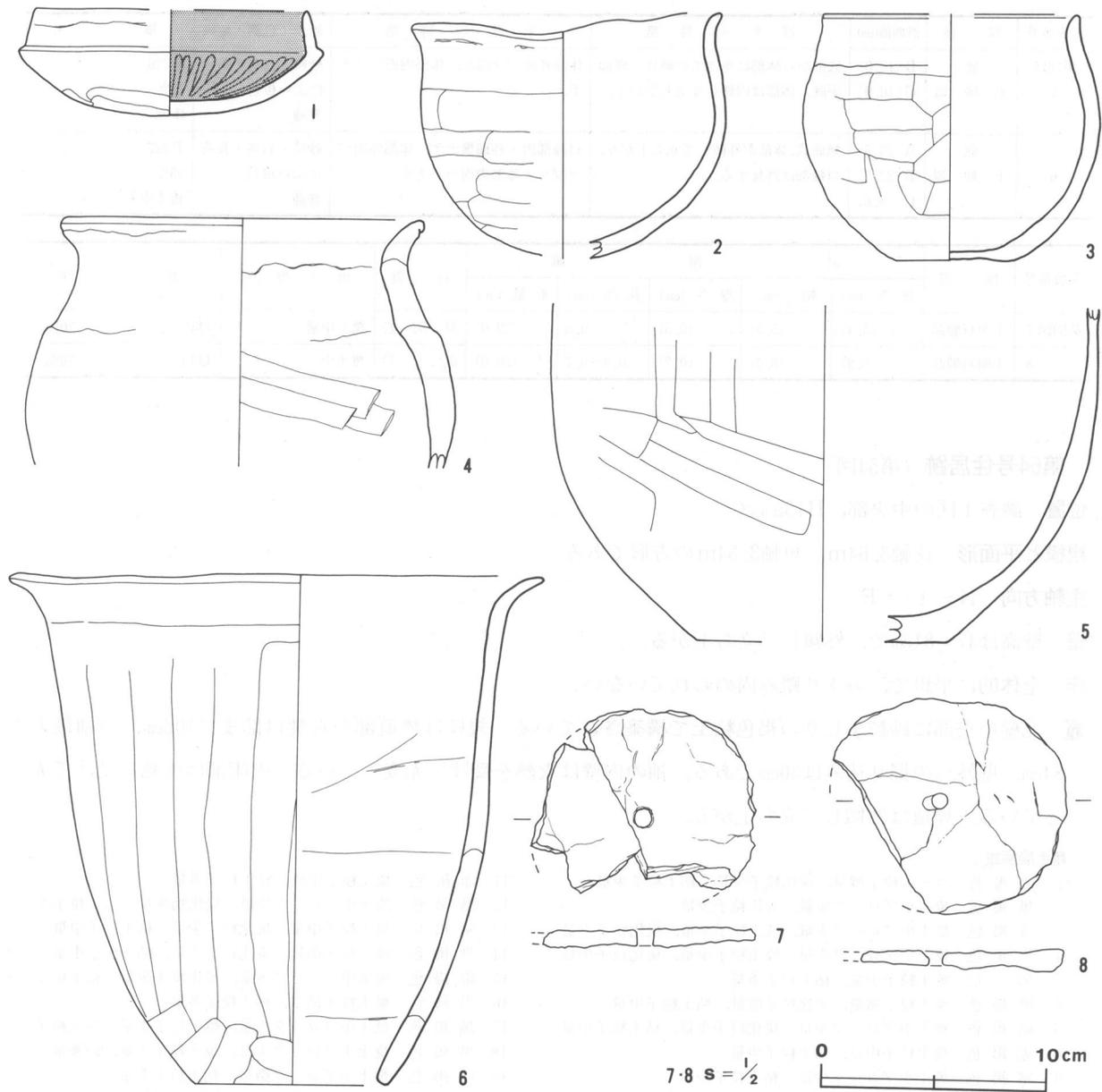
- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック微量, ローム粒子微量 | | |

遺物 土師器片742点, 須恵器片7点, 石製品2点, 鉄滓1点が出土している。3の土師器甕と6の土師器甗と8の石製円板は覆土中から, 1の土師器坏は竈前方の覆土下層から, 2の土師器小型甕と4の土師器甕と7の石製円板は覆土下層から, 5の土師器甕は床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から, 古墳時代後期と考えられる。



第52图 第60号住居跡実测图



第53図 第60号住居跡出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第53図 1	坏 土師器	A [12.0] B 4.8	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に強い稜がある。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面へラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・石英・長石・雲母、橙色 普通	P 222 70% 覆土下層
2	小型甕 土師器	A 13.6 B (11.0)	体部と口縁部の一部欠損。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石にふい赤褐色 2次焼成	P 223 85% 覆土下層
3	小型甕 土師器	A [11.2] B 11.0 C 5.1	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石 黒褐色 普通	P 224 50% 覆土中
4	甕 土師器	A 15.7 B (11.0)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石にふい黄褐色 普通	P 225 30% 覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第53図 5	甕 土師器	B (15.0) C [10.9]	底部から体部にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	砂粒・長石・雲母 にふい橙色 普通	P226 10% 床直
6	甌 土師器	A 23.5 B 22.7 C 8.6	無底式。体部が外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	砂粒・石英・長石 にふい橙色 普通	P227 95% 覆土中層

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考	
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)				
第53図 7	不明石製品	(6.4)	(5.5)	(0.5)	0.5	(29.0)	凝灰岩	覆土中層	Q12	20%
8	不明石製品	(6.9)	(6.4)	(0.7)	0.4~0.7	(30.0)	泥岩	覆土中	Q13	20%

第64号住居跡 (第54図)

位置 調査1区の中央部, H13a9区。

規模と平面形 長軸3.64m, 短軸3.54mの方形である。

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は47~81cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で, あまり踏み固められていない。

竈 北壁中央部に砂粒まじりの褐色粘土で構築されている。規模は煙道部から焚口部まで106cm, 両袖最大幅84cm, 壁外への掘り込みは30cmである。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床部は火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量, 炭化粒子少量, 粘土粒子少量 | 11 赤褐色 | 焼土粒子中量, 粘土粒子多量 |
| 2 黒褐色 | 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量 | 12 黒褐色 | 焼土小ブロック少量, 炭化物少量, 粘土粒子中量 |
| 3 黄褐色 | 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量 | 13 暗褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, 粘土粒子中量 |
| 4 黒褐色 | 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量 | 14 黒褐色 | 焼土粒子微量, 炭化粒子少量, 粘土粒子中量 |
| 5 褐色 | 焼土粒子少量, 粘土粒子多量 | 15 暗褐色 | 焼土中ブロック少量, 炭化粒子少量, 粘土粒子多量 |
| 6 暗褐色 | 焼土粒子微量, 炭化粒子微量, 粘土粒子中量 | 16 黒褐色 | 焼土粒子微量, 粘土粒子多量 |
| 7 暗褐色 | 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量, 粘土粒子中量 | 17 黒褐色 | 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量, 粘土粒子多量 |
| 8 赤褐色 | 焼土粒子中量, 粘土粒子少量 | 18 黒褐色 | 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量, 砂多量 |
| 9 暗褐色 | 焼土小ブロック少量, 粘土粒子少量 | 19 暗褐色 | 焼土小ブロック微量, 粘土粒子多量 |
| 10 黄褐色 | 粘土粒子多量 | 20 黒色 | ローム粒子微量, 炭化粒子少量, 粘土粒子少量 |

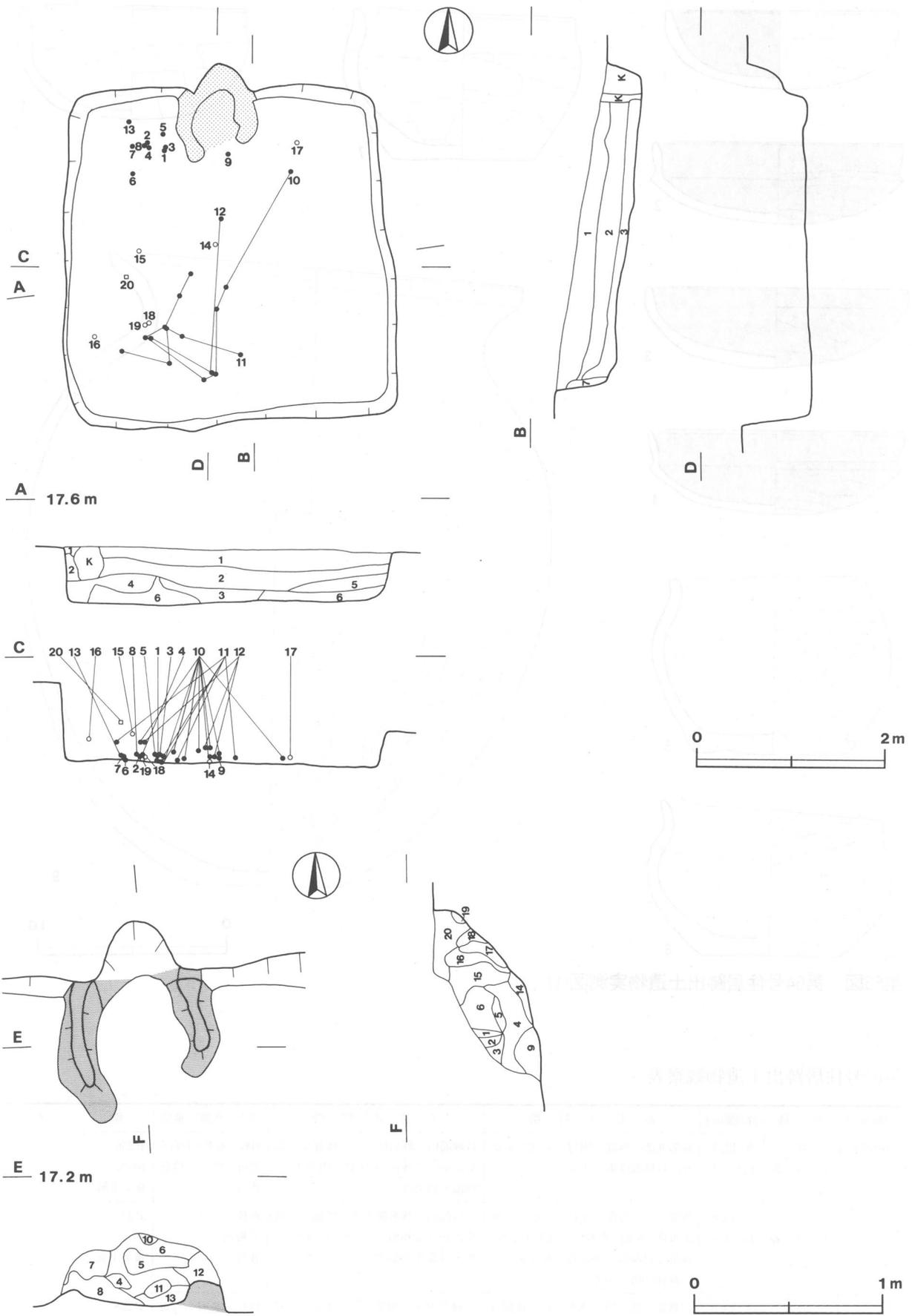
覆土 7層からなり, 自然堆積である。

土層解説

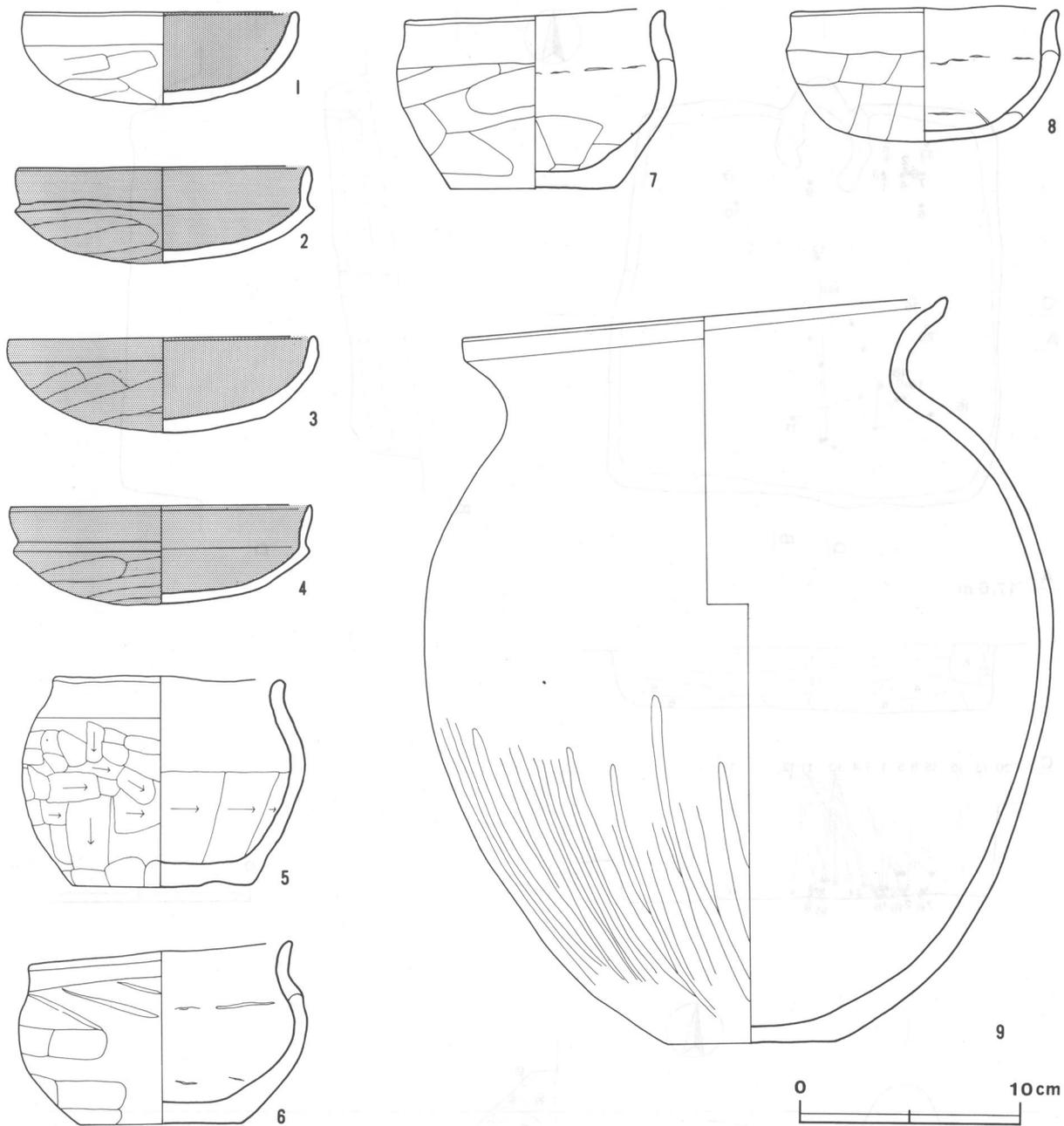
- | | | | |
|-------|---------------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 極暗褐色 | 粘土中ブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量, 焼土小ブロック微量 | 6 黒褐色 | 粘土中ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量, 焼土粒子微量 | 7 黒色 | 粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック微量, ローム粒子少量 | | |

遺物 土師器片784点, 須恵器片9点, 土製品6点, 石製品2点が出土している。1~4の土師器坏, 5, 7の土師器小型壺及び8の土師器碗と13の土師器甌は, 竈左側の覆土下層から集中して出土している。6の土師器碗は同じ位置の床面から, 14の支脚と18, 19の土玉は中央部床面から, 9の土師器甕は竈前の覆土下層から, 10~12の土師器甕は中央部覆土下層から, 15, 16の土製勾玉は中央部と西壁付近の覆土中層から, 17の土玉は竈右側の覆土下層から, 20の白玉は覆土中層から, 21の剥片は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡は, 覆土下層に焼土が堆積している状況から, 焼失家屋と考えられる。本跡の時期は, 床面や覆土下層から出土した遺物から, 古墳時代後期と考えられる。



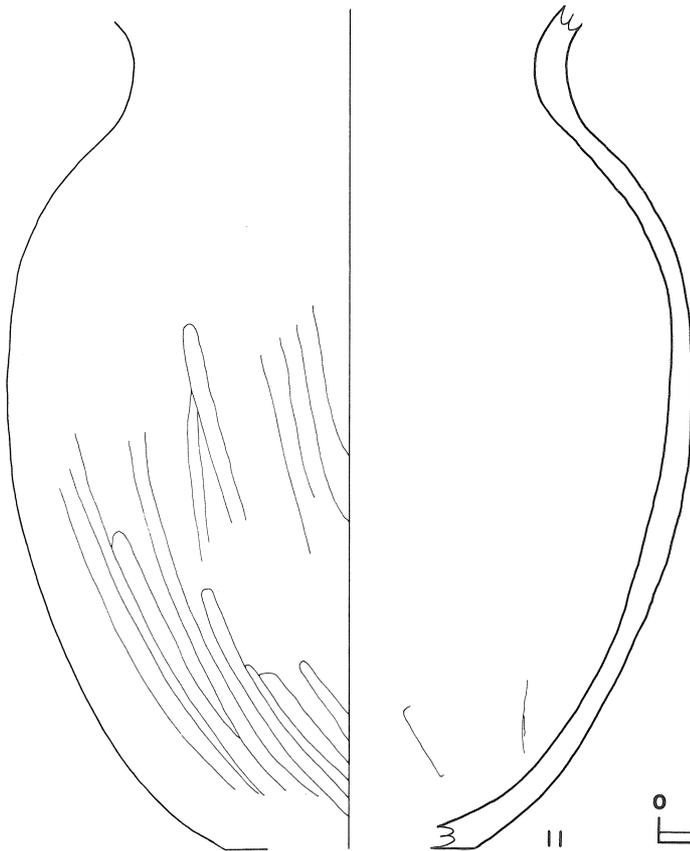
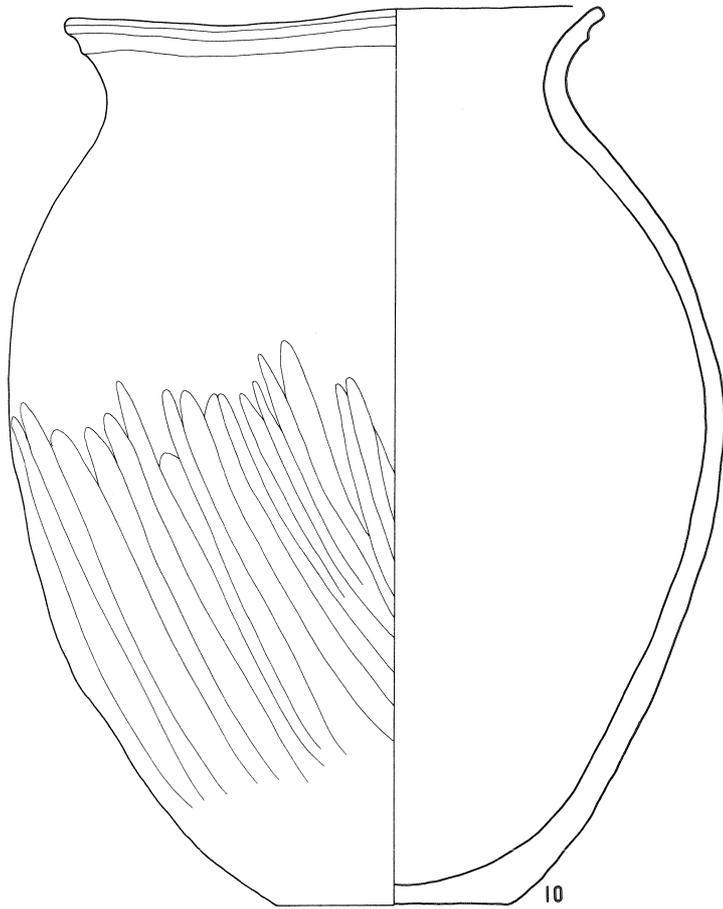
第54图 第64号住居跡実測图



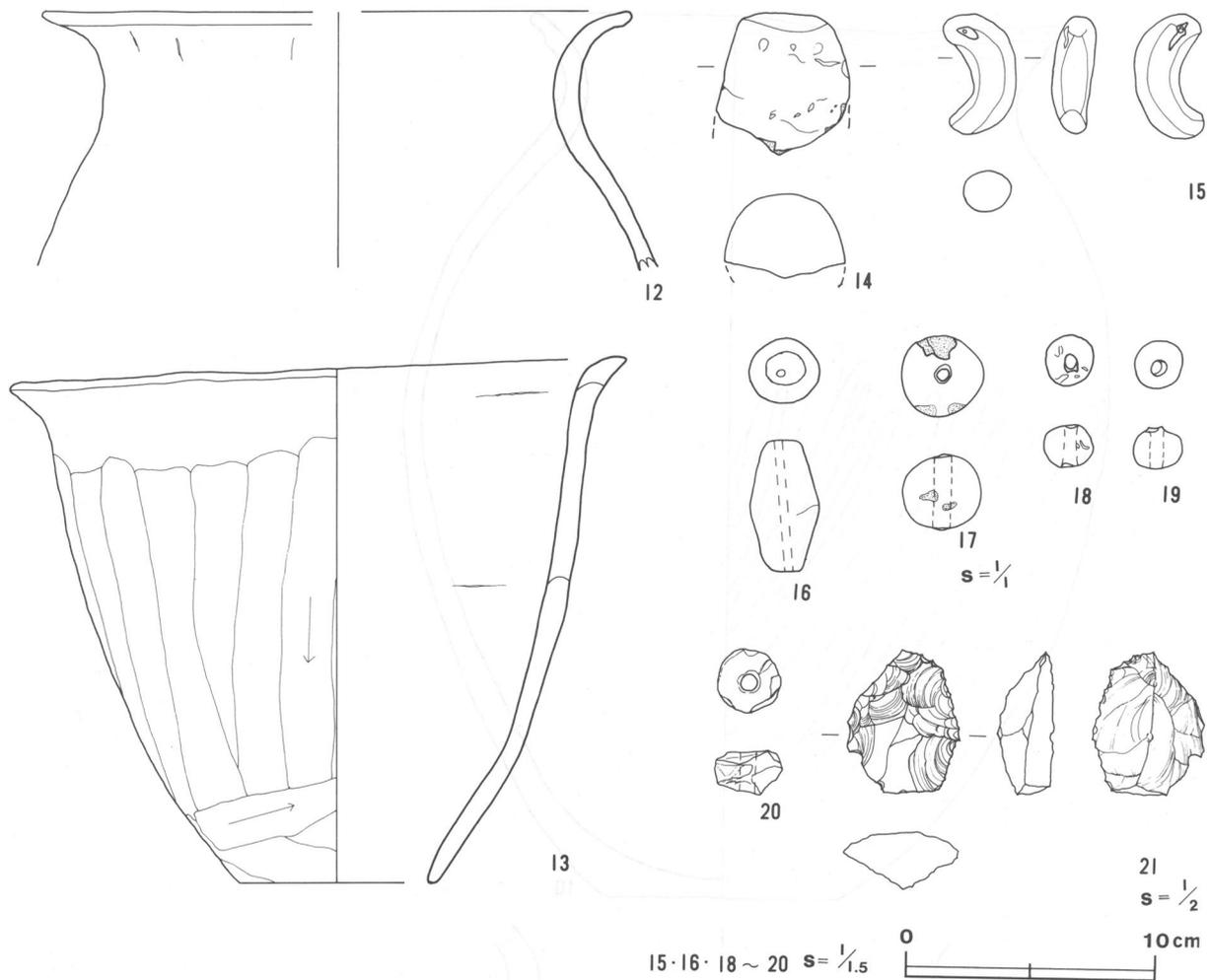
第55図 第64号住居跡出土遺物実測図(1)

第64号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第55図 1	坏 土師器	A 12.4 B 4.2	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。内面黒色処理。	砂粒・石英・長石・雲母、にふい橙色普通	P236 100% 覆土下層
2	坏 土師器	A 13.0 B 4.4	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に強い稜がある。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 黒褐色 普通	P237 90% 覆土下層
3	坏 土師器	A 13.8 B 4.4	口縁部一部欠損。体部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・雲母 黒褐色 普通	P238 80% 覆土下層



第56图 第64号住居跡出土遺物実測図(2)



第57図 第64号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第55図 4	坏 土師器	A 13.6 B 4.5	底部から口縁部にかけての破片。底部九底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に強い稜がある。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 黒色 普通	P 239 70% 覆土下層
5	小型甕 土師器	A 10.5 B 9.4 C 8.2	口縁部一部欠損。底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。底部へラ削り。	砂粒・石英・雲母 にふい褐色 普通	P 240 95% 覆土下層
6	碗 土師器	A 11.9 B 8.3 C 7.3	底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。擦痕。体部内面へラナデ。底部へラ削り後ナデ。	砂粒・長石・スコリア、 にふい黄橙色 普通	P 241 100% 床直
7	小型甕 土師器	A 11.8 B 7.7 C 7.4	底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。底部へラ削り。	砂粒・石英・長石 にふい褐色 普通	P 242 100% 覆土下層
8	小型甕 土師器	A 12.0 B 6.0 C 7.2	底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。底部削り後ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、にふい黄橙 色、普通	P 243 100% 覆土下層
9	甕 土師器	A 22.0 B 33.9 C 7.8	底部平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は上方に短くつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ。下位へラ磨き。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、黒褐色 普通	P 244 90% 床直
第56図 10	甕 土師器	A 20.6 B 35.8 C 9.0	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径が中位にある。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨き。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、にふい橙 色 普通	P 245 60% 覆土下層

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第56図 11	甕 土 師 器	B (33.0) C [9.9]	底部から体部にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部中位から下位にかけて外面へラ磨き。体部内面へラナデ。	砂粒・石英・長石・雲母、黒褐色 普通	P247 40% 覆土下層
第57図 12	甕 土 師 器	A [23.5] B (10.4)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石にふい褐色 普通	P246 30% 覆土中層
13	甕 土 師 器	A 24.1 B 21.0 C 8.0	無底式。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石にふい褐色 普通	P248 90% 覆土下層

図版番号	種 別	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	孔 径 (cm)	重 量 (g)		
第57図14	支 脚	(5.7)	(5.3)	(3.4)		(68.0)	床面	D P16 10%
15	勾 玉	2.5	1.5	0.8	0.2	2.0	覆土中層	D P17 100%
16	切 子 玉	2.7	1.4	1.4	0.2	(5.0)	覆土中層	D P18 90%
17	丸 玉	1.1	1.1	1.0	0.2	(2.0)	覆土下層	D P19 90%
18	丸 玉	1.0	0.9	0.9	0.2	1.0	覆土下層	D P20 100%
19	丸 玉	1.0	1.0	0.8	0.3	1.0	覆土下層	D P21 100%

図版番号	種 別	計 測 値					石 質	出 土 地 点	備 考
		長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	孔 径 (cm)	重 量 (g)			
第57図20	白 玉	1.3	1.3	(0.9)	0.3	(2.0)	泥 質 片 岩	覆土中層	Q14
21	剥 片	3.8	3.0	1.5		12.0	黒 曜 石	覆土中	Q15 100%

第68号住居跡 (第58・59図)

位置 調査1区の中央部，G13f5区。

重複関係 本跡は第66，69，82号住居跡に掘り込まれているので，本跡が古い。

規模と平面形 重複と本跡の西側2分の1が調査区域外へ延びているので，規模や平面形は明確ではないが，残存する壁や床から長軸(8.10)m，短軸(5.10)mで，方形と考えられる。

主軸方向 N-21°-W

壁 壁高は14~23cmで，外傾して立ち上がる。

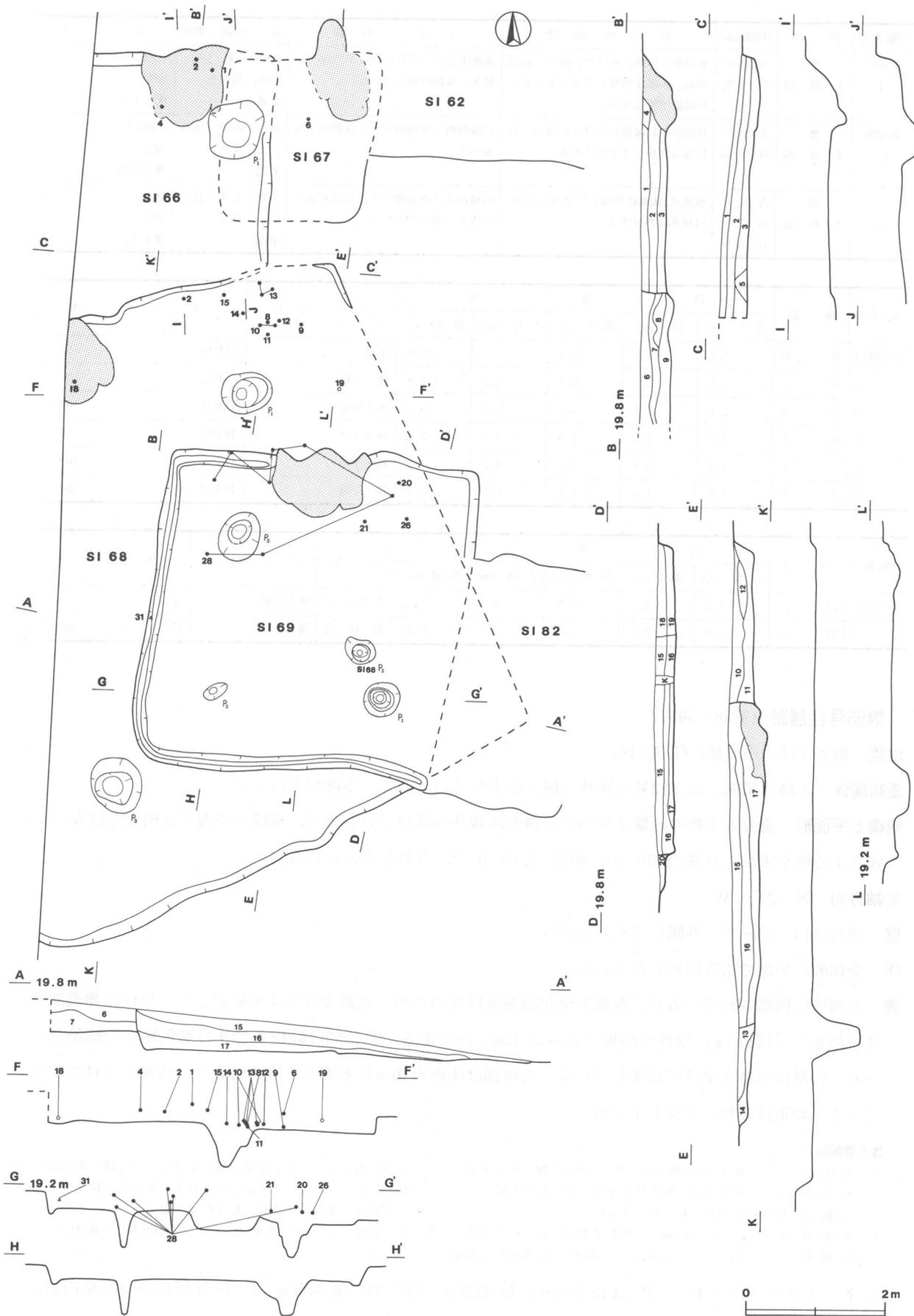
床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈 北西壁に構築されているが，西側半分が調査区域外のため，東側半分だけを確認した。規模は煙道部から焚口部まで[121]cm，壁外への掘り込みは[30]cmである。右袖部は砂粒まじりの褐色粘土で構築されている。内壁は火熱を受けて赤変している。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

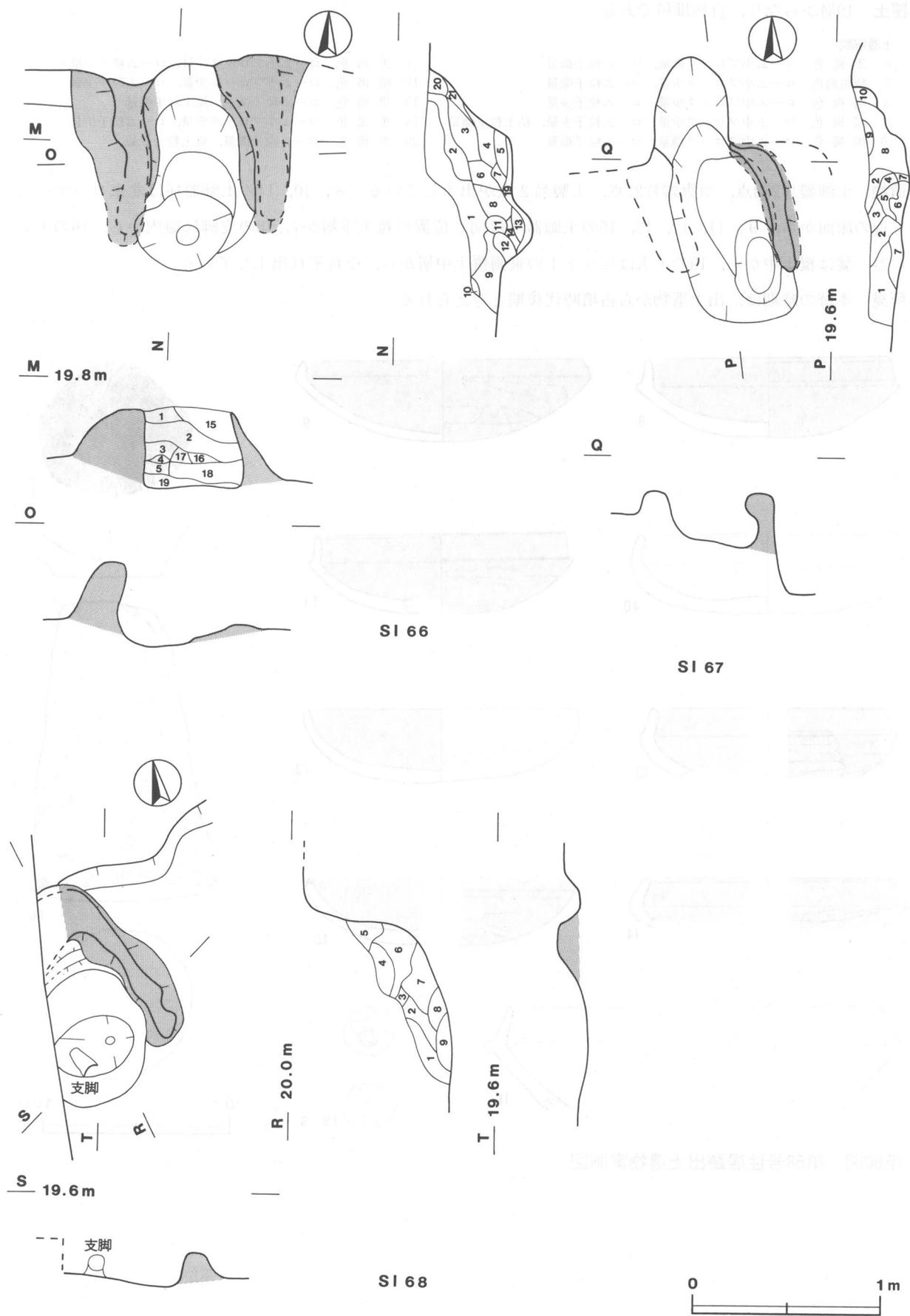
竈土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|--------|------------------------------|
| 1 黄褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，焼土粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，炭化物少量 |
| 2 赤褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子中量，炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子少量，粘土粒子少量 |
| 3 黄褐色 | 焼土粒子微量，粘土粒子多量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子多量，粘土粒子少量 |
| 4 黄褐色 | 焼土小ブロック微量，炭化粒子微量，粘土粒子多量 | 9 暗赤褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化粒子少量，粘土粒子少量 |
| 5 灰褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量 | | |

ピット 3か所(P1~P3)。P1は長径71cm，短径56cmの楕円形，深さ58cm。P2は長径45cmの不整形円形，短径36cm。P3は長径80cm，短径70cmの楕円形，深さ66cmで，いずれも主柱穴と考えられる。



第58图 第66·67·68·69号住居跡実測图



第59图 第66・67・68号住居跡竈実測図

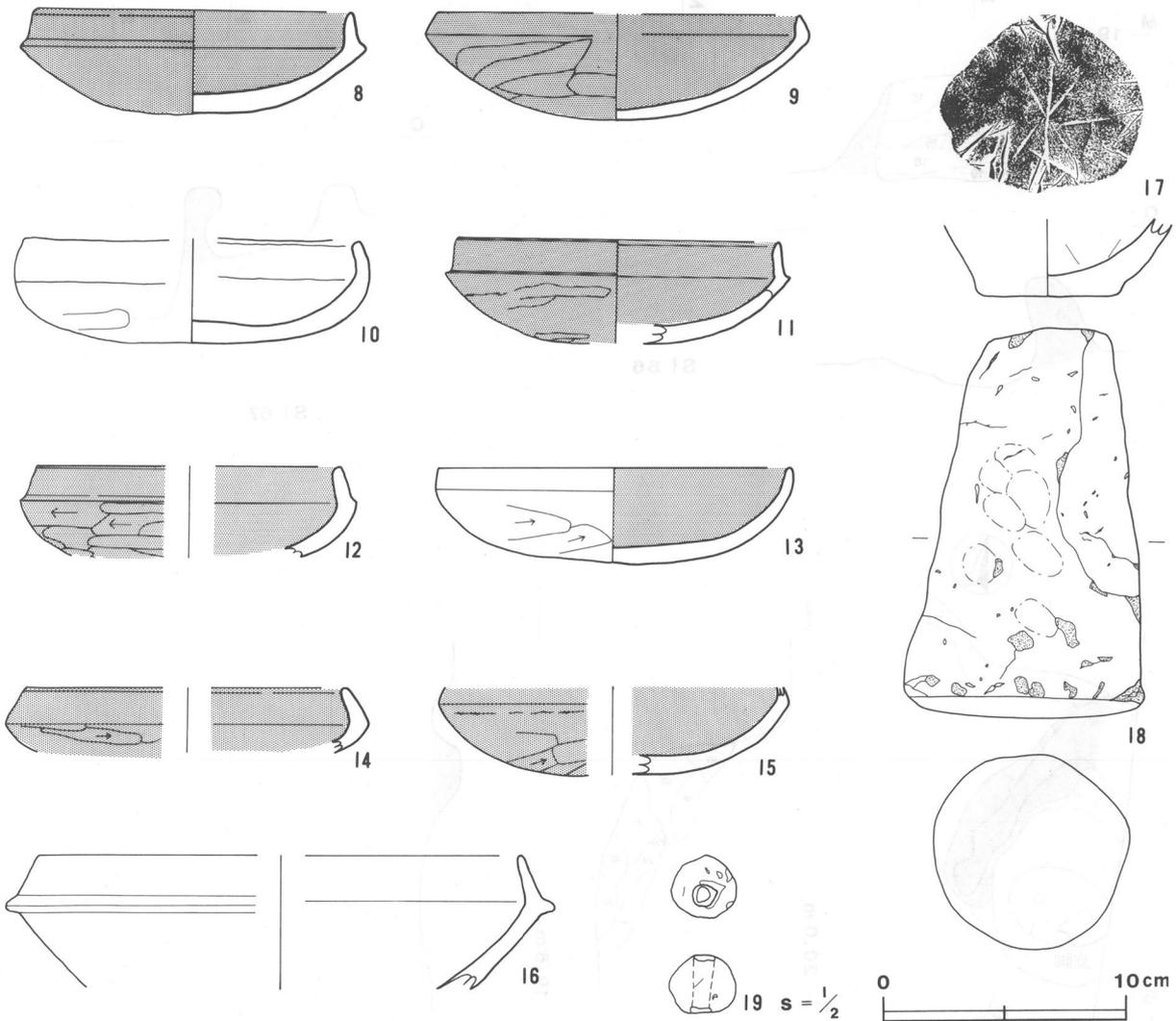
覆土 10層からなり、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|---------------------|
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック微量, ローム粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 |
| 7 極暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ローム中ブロック少量, ローム粒子少量 | 13 黒褐色 | ローム粒子微量, 焼土粒子微量 |
| 9 暗褐色 | ローム中ブロック少量, ローム粒子少量, 粘土粒子微量 | 14 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 |
| 10 黒褐色 | ローム中ブロック微量, ローム粒子微量 | 20 黒褐色 | ローム粒子微量, 焼土粒子少量 |

遺物 土師器片283点, 須恵器片27点, 土製品2点が出土している。8, 10, 14の土師器片は北東コーナー付近の床面から, 9, 11, 12, 13, 15の土師器片は同じ位置の覆土下層から, 18の支脚は竈内から, 16の土師器甕は覆土中から, 19の土玉はピット1の東側覆土中層から, それぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代後期と考えられる。



第60図 第68号住居跡出土遺物実測図

第68号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第60図 8	坏 土師器	A 13.0 B 4.3	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜がある。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 黒褐色 普通	P 256 100% 床直
9	坏 土師器	A [14.9] B 4.4	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・石英・長石・スコリア、明赤褐色、普通	P 257 55% 覆土下層
10	坏 土師器	A [13.7] B 4.2	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英・長石 にふい黄褐色 普通	P 258 45% 床直
11	坏 土師器	A 13.2 B (4.3)	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に強い稜がある。口縁部はやや内傾する。	口縁部内面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・石英・パミス 黒褐色 普通	P 259 50% 覆土下層
12	坏 土師器	A [12.4] B (3.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に強い稜がある。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 黒褐色 普通	P 514 20% 覆土下層
13	坏 土師器	A 14.6 B 4.0	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。体部内面ナデ。内面黒色処理。	砂粒・石英・長石・雲母、にふい黄褐色、普通	P 511 60% 覆土下層
14	坏 土師器	A [13.0] B (2.7)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にふい橙色 普通	P 513 20% 床直
15	坏 土師器	B (3.6)	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・スコリア にふい褐色 普通	P 512 20% 覆土下層
16	坏 土師器	A [19.8] B (5.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に強い稜がある。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。体部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 灰黄褐色 普通	P 261 5% 覆土下層
17	甕 土師器	B (3.0) C 5.9	底部から体部下位にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ナデ。内面へラナデ。内面へラ記号。	砂粒・長石・雲母 にふい黄橙色 普通	P 260 10% 覆土中

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第60図18	支脚	16.2	10.0	8.1		(1150.0)	竈内	D P 22
19	土玉	1.8	1.8	1.6	0.6	4.0	覆土下層	D P 23 100%

第78号住居跡 (第61図)

位置 調査1区の南部，H13d5区。

重複関係 本跡は第79号住居跡を掘り込み，第77A号住居跡に掘り込まれているので，第79号住居跡より新しく，第77A号住居跡より古い。

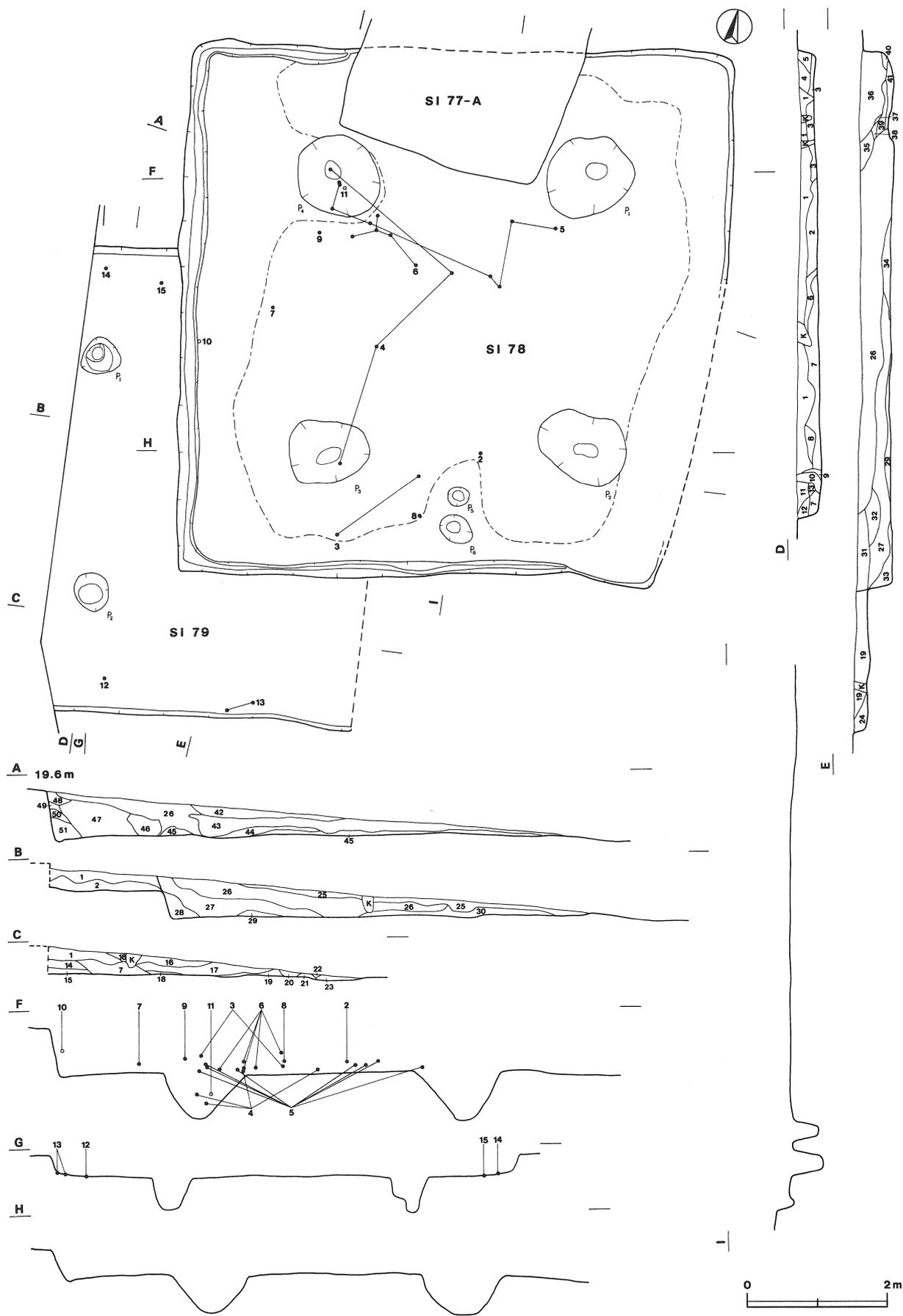
規模と平面形 長軸7.90m，短軸7.68mの長方形である。

主軸方向 N-16°-W

壁 壁高は20~25cmで，外傾して立ち上がる。壁溝は，南東西壁下から南西壁下，北西壁下にかけて確認され，上幅22~37cm，下幅8~16cm，深さ5~9cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

ピット 6か所 (P1~P6)。P1からP4は，長径111~133cm，短径85~115cmの楕円形，深さ53~70cmで，い



第61图 第78・79号住居跡実測図

ずれも支柱穴である。P5は径6cmの円形、深さ42cmである。P6は長径50cm、短径39cmの楕円形、深さ47cmで、どちらも出入口施設に伴うものと考えられる。

覆土 27層からなり、自然堆積である。

土層解説

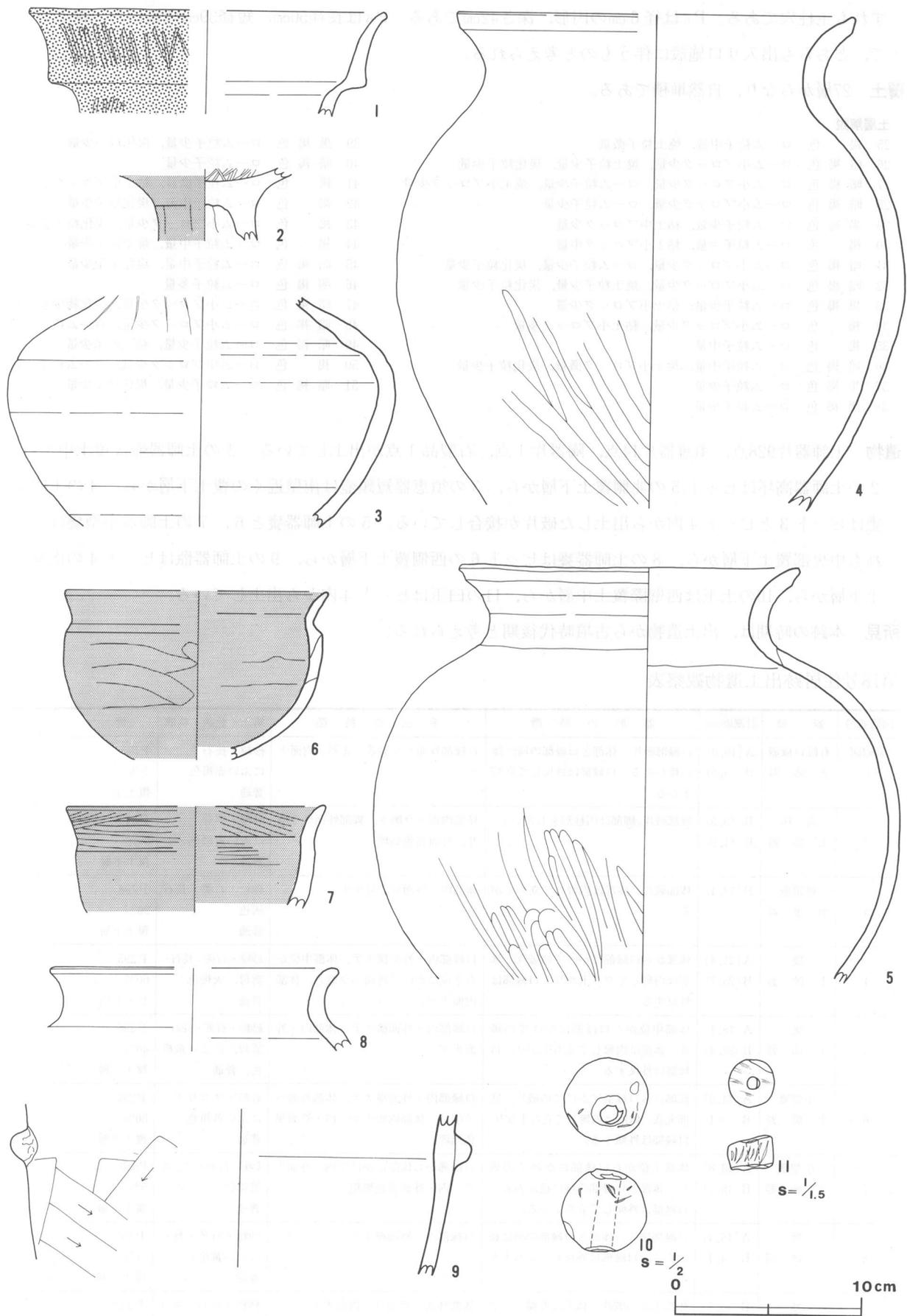
25 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量	39 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子少量
26 暗褐色	ローム小ブロック少量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量	40 暗褐色	ローム粒子少量
27 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量	41 褐色	ローム粒子微量, 粘土中ブロック中量
28 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子少量	42 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量
29 黒褐色	ローム粒子少量, 粘土中ブロック少量	43 褐色	ローム小ブロック少量, 炭化粒子少量
30 褐色	ローム粒子少量, 粘土小ブロック中量	44 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量
31 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 炭化粒子少量	45 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量
32 暗褐色	ローム小ブロック少量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量	46 明褐色	ローム粒子多量
33 黒褐色	ローム粒子少量, 粘土小ブロック少量	47 暗褐色	ローム小ブロック少量, 炭化物少量
34 褐色	ローム小ブロック少量, 粘土小ブロック多量	48 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
35 褐色	ローム粒子中量	49 暗褐色	ローム粒子少量, 粘土粒子少量
36 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土小ブロック微量, 炭化粒子少量	50 褐色	ローム中ブロック少量, ローム粒子少量
37 黒褐色	ローム粒子少量	51 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子少量
38 黒褐色	ローム粒子少量		

遺物 土師器片928点, 須恵器片14点, 陶器片1点, 石製品1点が出土している。1の土師器壺は覆土中から、2の土師器高坏はピット5の北側覆土下層から、3の須恵器短頸壺は南壁近くの覆土下層から、4の土師器甕はピット3とピット4内から出土した破片が接合している。5の土師器甕と6、7の土師器小型甕はいずれも中央部覆土下層から、8の土師器甕はピット6の西側覆土下層から、9の土師器甌はピット4の南側覆土下層から、10の土玉は西壁際覆土中層から、11の白玉はピット4内から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代後期と考えられる。

第78号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 1	有段口縁壺 土師器	A [19.0] B (5.6)	口縁部破片。体部と口縁部の境に強い稜がある。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部外面へラ磨き。赤彩。内面ナデ。	砂粒・長石 にふい赤褐色 普通	P548 5% 覆土中
2	高坏 土師器	B (3.5) E (1.9)	脚部破片。脚部は円柱形をしている。	坏部内面へラ磨き。脚部外面へラ削り。外面黒色処理。	砂粒・雲母 にふい黄橙色 普通	P549 30% 覆土下層
3	短頸壺 須恵器	B (12.4)	体部破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・石英・長石 灰色 普通	P298 20% 覆土下層
4	甕 土師器	A [21.4] B (25.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部中位から下位にかけて外面へラ磨き。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母, 灰褐色 普通	P295 60% ピット内
5	甕 土師器	A 18.1 B (22.4)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母, にふい黄橙 色, 普通	P296 40% 覆土下層
6	小型甕 土師器	A [14.0] B (9.1)	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・スコリア にふい黄橙色 普通	P297 50% 覆土下層
7	小型甕 土師器	A [13.8] B (5.7)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部と口縁部の境に稜がある。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部から体部にかけて内・外面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・パミス 黒褐色 普通	P550 5% 覆土下層
8	甕 土師器	A [15.4] B (4.1)	口縁部破片。体部と口縁部の境に稜がある。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・長石 にふい黄橙色 普通	P551 5% 覆土下層
9	甌 土師器	B (8.7)	体部上位の破片。体部は外傾して立ち上がり、瘤状の把手を有する。	体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石・スコ リア, にふい橙 色 普通	P552 5% 覆土下層



第62図 第78号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第62図10	土玉	3.0	3.0	3.0	0.8	22.0	覆土中層	D P 27 100%

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第62図11	白玉	1.2	1.2	(0.8)	0.3	(2.0)	緑泥片岩	ビット4内 Q38	

第79号住居跡 (第61図)

位置 調査1区の南部, H13e5区。

重複関係 本跡は第78号住居跡に掘り込まれているので, 本跡が古い。

規模と平面形 重複と本跡の西側5分の1が調査区域外へ延びているため, 規模や平面形は明確ではないが, 残存する壁や床から長軸6.76m, 短軸 [4.60] mの長方形と考えられる。

主軸方向 N-15°-W

壁 壁高は25cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

ピット 2か所 (P1~P2)。P1は長径56cm, 短径53cmの楕円形, 深さ52cmである。P2は長径55cm, 短径49cmの楕円形, 深さ44cmで, いずれも主柱穴と考えられる。

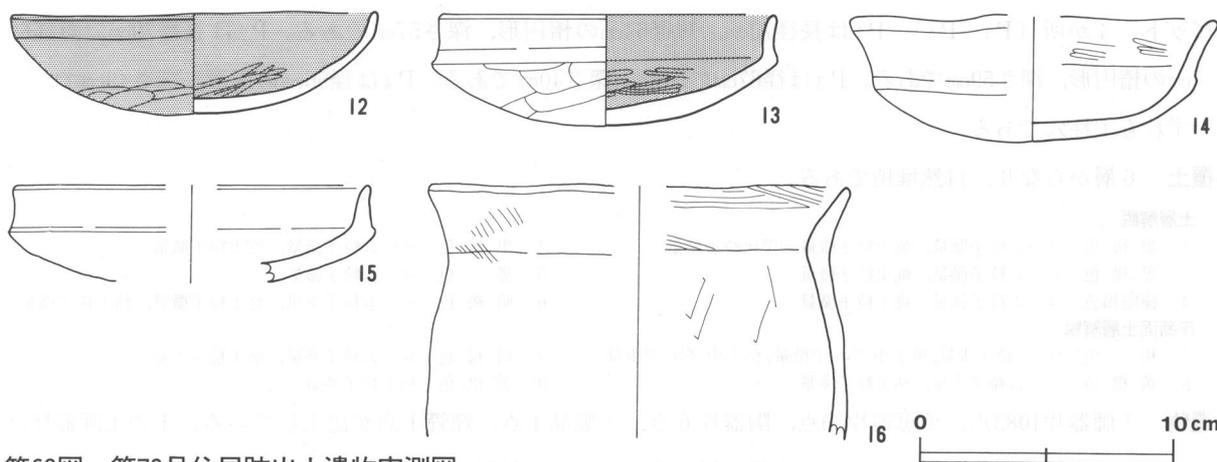
覆土 24層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 炭化粒子少量 | 13 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 14 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 | 15 黒褐色 | ローム小ブロック微量, ローム粒子少量 |
| 4 灰褐色 | ローム小ブロック微量, ローム粒子少量 | 16 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化物微量 |
| 5 褐色 | ローム小ブロック微量, ローム粒子少量, 炭化粒子少量 | 17 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 18 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 7 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子少量 | 19 褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 炭化粒子少量 |
| 8 極暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子少量 | 20 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 9 褐色 | ローム粒子中量 | 21 褐色 | ローム粒子多量 |
| 10 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 炭化粒子少量 | 22 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子中量 |
| 11 暗褐色 | ローム粒子少量 | 23 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 12 暗褐色 | ローム小ブロック微量, ローム粒子少量, 炭化粒子少量 | 24 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |

遺物 土師器片147点, 須恵器片5点が出土している。12, 13の土師器坏は南壁近くの床面から, 14, 15の土師器坏は, 北壁近くの床面から, 16の土師器甕は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代後期と考えられる。



第63図 第79号住居跡出土遺物実測図

第79号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第63図 12	坏 土師器	A 14.3 B 4.0	口縁部一部欠損。底部丸底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面へラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・雲母にふい褐色普通	P299 90% 床直
13	坏 土師器	A 13.0 B 4.4	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に強い稜がある。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面へラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・石英・長石・雲母、にふい橙色普通	P300 90% 床直
14	坏 土師器	A [14.4] B 4.9	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜がある。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面へラ磨き。	砂粒・石英・長石・礫、にふい黄褐色普通	P301 50% 床直
15	坏 土師器	A [14.0] B (3.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部と口縁部の境に稜がある。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面削り後ナデ。内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母、にふい赤褐色、普通	P553 30% 床直
16	小型甕 土師器	A [16.4] B (10.0)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部が外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。体部内面へラナデ。	砂粒・長石・雲母にふい黄褐色普通	P554 10% 覆土中

第86号住居跡（第64図）

位置 調査1区の南部，H13e7区。

重複関係 本跡は第88号住居跡を掘り込んでいるので，本跡が新しい。

規模と平面形 耕作による攪乱を受け規模や平面形は明確ではないが，残存する壁や床から長軸（4.95）m，短軸（4.90）mで，方形と考えられる。

主軸方向 N-20°-W

壁 壁高は21～30cmで，外傾して立ち上がる。壁溝は，西壁下，北壁下の一部で確認され，上幅17～20cm，下幅4～6cm，深さ3cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で，褐色粘土を10～25cmの厚さで貼っている。

竈 北西壁中央部に構築されている。天井は崩落している。規模は，両袖最大幅110cm，壁外への掘り込みは13cmである。袖部は褐色粘土で構築され，内壁は火熱を受けて赤変している。火床部は床面を5cm程掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 黄褐色 焼土小ブロック少量，焼土粒子少量，粘土粒子多量 | 4 黄褐色 ローム粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子少量 |
| 2 黄橙色 焼土小ブロック少量，焼土粒子少量，粘土粒子多量 | 5 褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子中量，焼土粒子微量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量，粘土粒子少量 | |

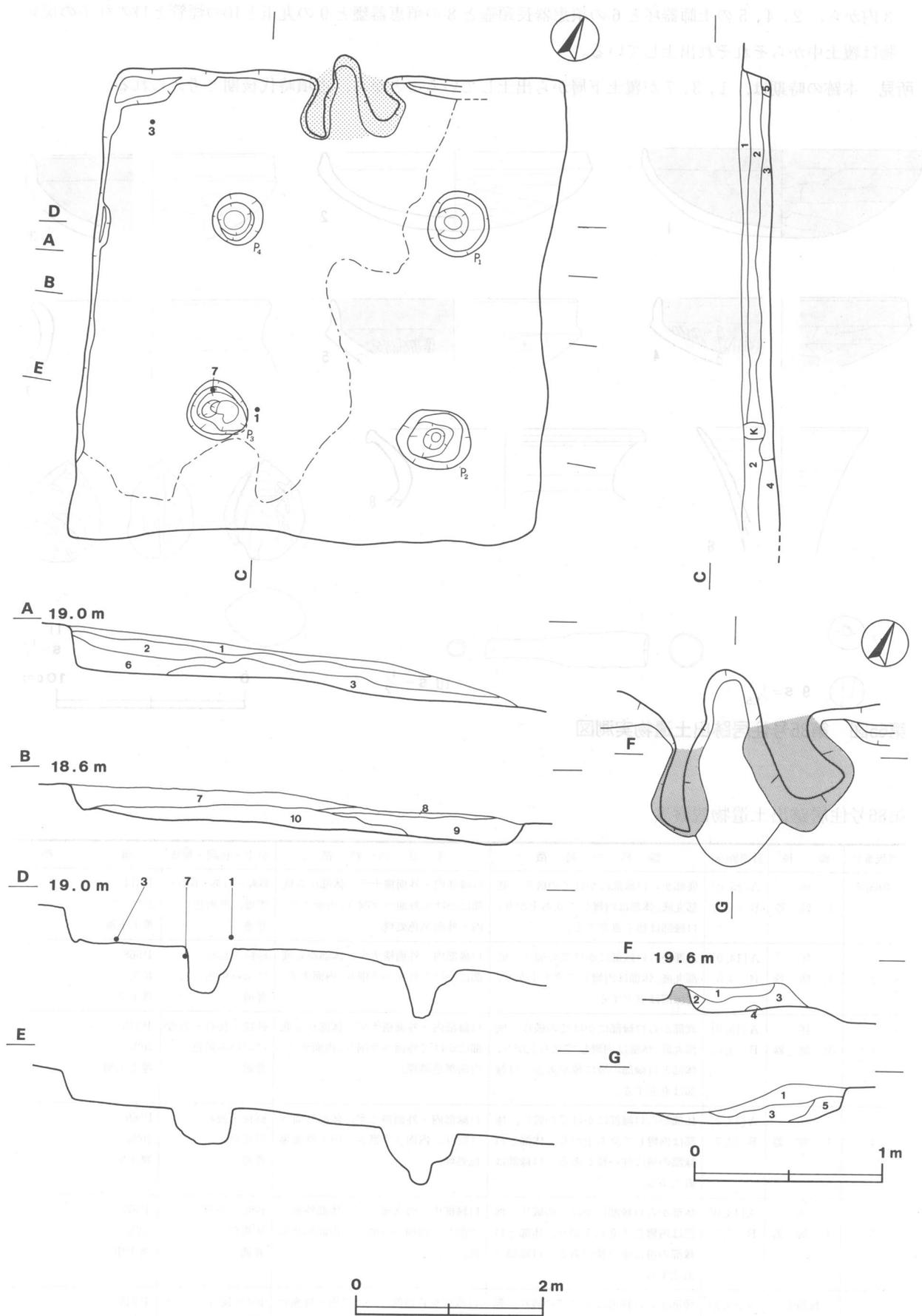
ピット 4か所（P1～P4）。P1は長径70cm，短径64cmの楕円形，深さ57cmである。P2は長径79cm，短径69cmの楕円形，深さ59cmである。P3は径67cmの円形，深さ40cmである。P4は径56cmの円形，深さ49cmで，いずれも主柱穴である。

覆土 6層からなり，自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子微量，焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子微量，焼土粒子微量 | 5 黒色 ローム粒子微量 |
| 3 極暗褐色 ローム粒子微量，焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量，粘土粒子微量 |
| 7 褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック微量，粘土中ブロック少量 | 9 暗褐色 ローム粒子多量，粘土粒子少量 |
| 8 黄橙色 ローム粒子少量，粘土粒子多量 | 10 黄橙色 粘土粒子多量 |

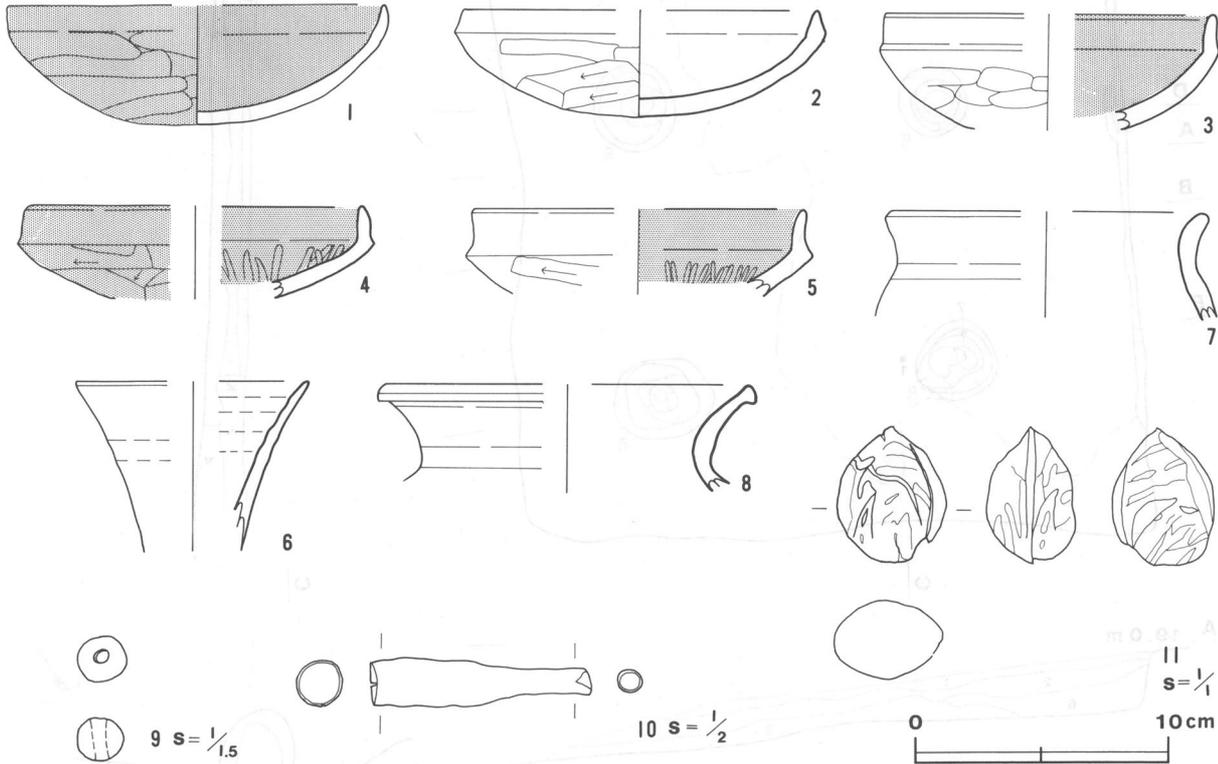
遺物 土師器片1083点，須恵器片30点，陶器片6点，土製品1点，煙管1点が出土している。1の土師器坏はピット3東側の覆土下層から，3の土師器坏は北西コーナー付近の覆土下層から，7の土師器甕は，ピット



第64図 第86号住居跡実測図

3内から、2, 4, 5の土師器坏と6の須恵器長頸壺と8の須恵器甕と9の丸玉と10の煙管と11の種子の炭化物は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、1, 3, 7が覆土下層から出土していることから、古墳時代後期と考えられる。



第65図 第86号住居跡出土遺物実測図

第86号住居跡出土遺物観察表

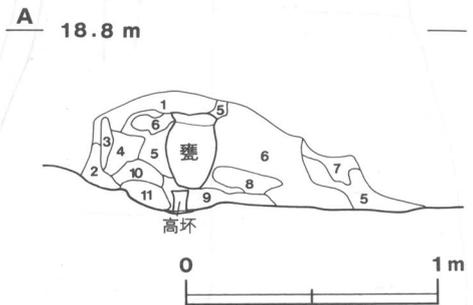
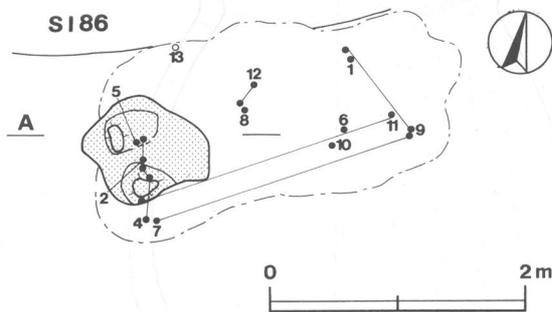
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第65図 1	土師器 坏	A [15.0] B (4.8)	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・石英・長石・雲母、黒褐色 普通	P314 30% 覆土下層
2	土師器 坏	A [14.0] B 4.3	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石 にふい褐色 普通	P568 40% 覆土中
3	土師器 坏	A [13.0] B (4.6)	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜がある。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。内面黒色処理。	砂粒・長石・雲母 にふい赤褐色 普通	P315 20% 覆土下層
4	土師器 坏	A [13.2] B (3.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に強い稜がある。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 黒褐色 普通	P569 10% 覆土中
5	土師器 坏	A [13.0] B (3.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に強い稜がある。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・長石 灰褐色 普通	P570 10% 覆土中
6	須恵器 長頸壺	A [9.2] B (6.8)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から頸部にかけて内・外面クロナデ。	砂粒・長石・バミス 灰色 普通	P316 10% 覆土中

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第65図 7	甕 土師器	A [12.2] B (4.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。	体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	砂粒・長石 にふい褐色 普通	P571 10% ピット3内
8	甕 須恵器	A [14.4] B (4.3)	口縁部破片。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石 黄灰色 普通	P317 5% 覆土中

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第65図9	丸玉	0.9	0.9	0.9	0.3	1.0	覆土中	D P29 100%

図版番号	種別	計測値				備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
第65図10	煙管	(5.7)	1.3	0.6~1.2	(6.0)	M26 覆土中 40%

第88号住居跡 (第66図)



第66図 第88号住居跡実測図

位置 調査1区の南部，H13f7区。

重複関係 本跡は第86号住居跡に掘り込まれているので，本跡が古い。

規模と平面形 重複と耕作による攪乱を受け，規模や平面形は明確ではないが，残存する床から長軸 (2.61) m，短軸 (2.60) mで，方形または長方形と考えられる。

床 全体的に平坦で，やや踏み固められている。

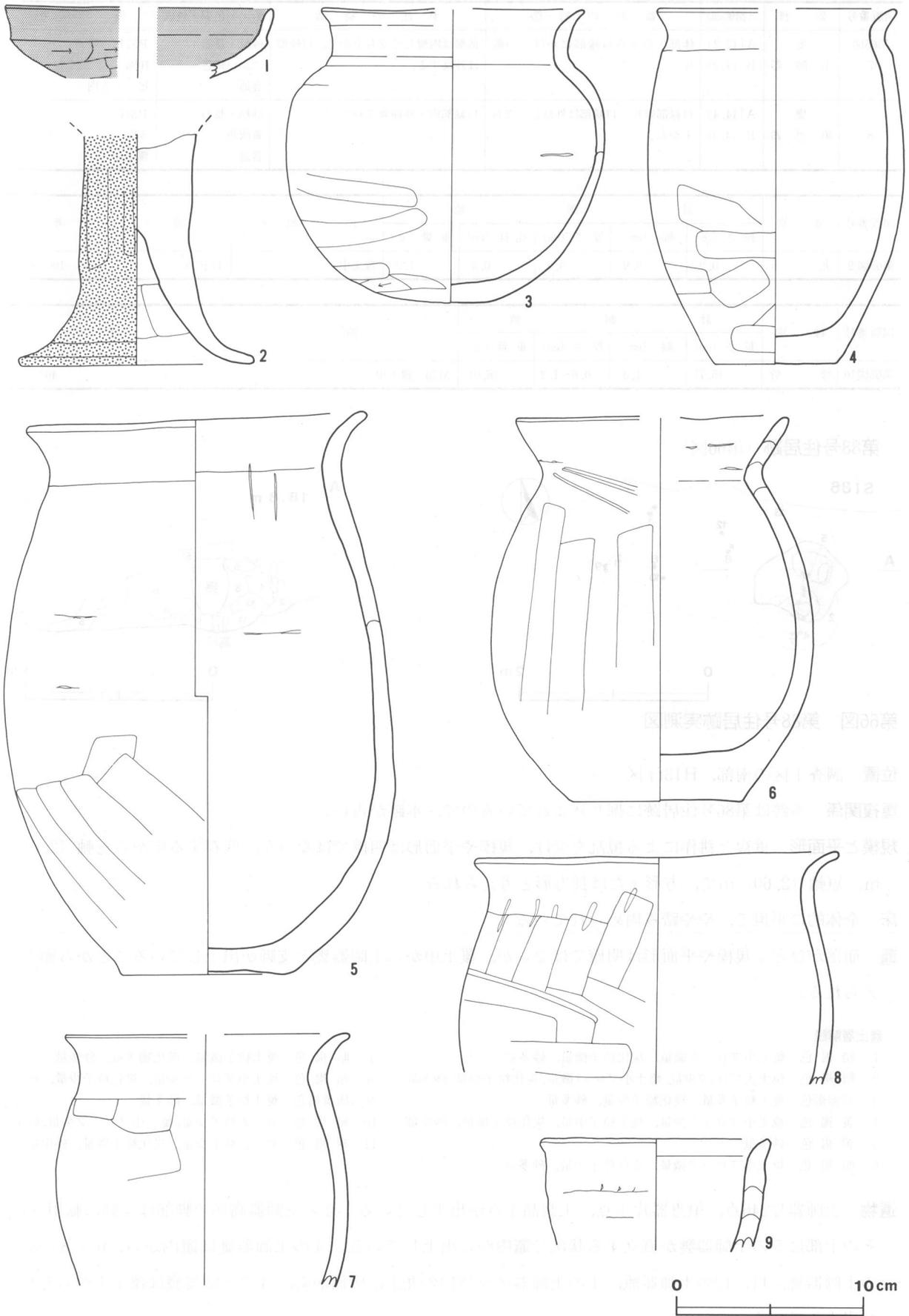
竈 崩落がひどく規模や平面形は明確ではないが，覆土中から土師器甕と支脚が出土していることから竈と考えられる。

竈土層解説

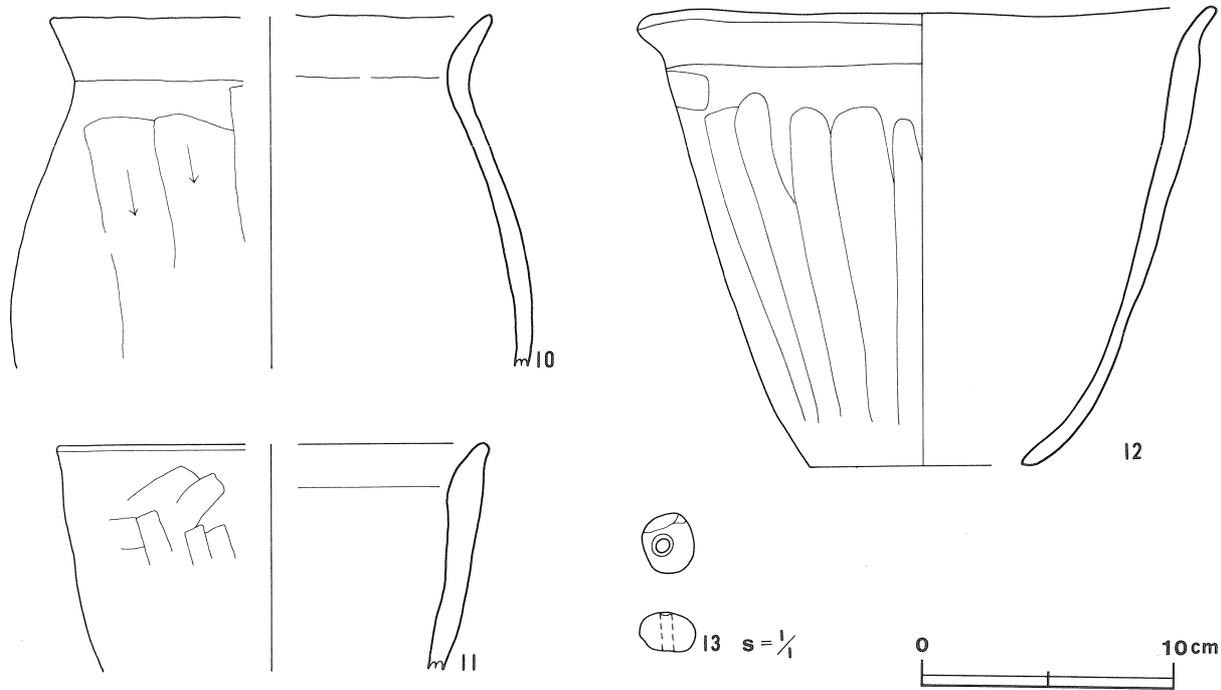
- | | |
|--------------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土小ブロック微量，炭化粒子微量，砂多量 | 7 暗褐色 焼土粒子微量，炭化物少量，砂多量 |
| 2 暗褐色 焼土大ブロック少量，焼土小ブロック微量，炭化粒子少量，砂多量 | 8 暗褐色 焼土小ブロック少量，炭化粒子少量，砂多量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子少量，砂多量 | 9 灰黄褐色 焼土粒子微量，砂多量 |
| 4 黄褐色 焼土小ブロック少量，焼土粒子中量，炭化粒子微量，砂多量 | 10 暗褐色 ローム粒子少量，焼土中ブロック少量，砂中量 |
| 5 黄褐色 砂多量 | 11 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量，砂中量 |
| 6 暗褐色 焼土小ブロック微量，炭化粒子少量，砂多量 | |

遺物 土師器片246点，須恵器片1点，土製品1点が出土している。2の土師器高坏の脚部は支脚に転用され，その上部に5の土師器甕が直立する状態で竈内から出土している。4の土師器甕は竈内から，6~8，9，10の土師器甕，11，12の土師器甕，1の土師器坏及び13の丸玉は床面から，3の土師器甕は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から古墳時代後期と考えられる。



第67图 第88号住居跡出土遺物実測図(1)



第68図 第88号住居跡出土遺物実測図(2)

第88号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第67図 1	坏 土師器	A [14.2] B (3.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に強い稜がある。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・スコリア、灰褐色 普通	P573 10%
2	高坏 土師器	D 12.2 E (12.4)	坏部欠損。裾部は緩やかに開く。脚部は円柱形である。	脚部外面へラ削り後ナデ。裾部内・外面ナデ。外面赤彩。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P318 50% 竈内（支脚転用）
3	甕 土師器	A [14.0] B 15.8	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は球形で、最大径が中位にある。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部上位外面ナデ。下位へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石 にふい橙色 普通	P320 80% 覆土中
4	甕 土師器	A [12.6] B 19.0 C 6.3	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部中位から下位にかけて外面へラ削り。体部内面ナデ。底部へラ削り。	砂粒・長石・雲母 にふい橙色 普通	P321 50% 竈内
5	甕 土師器	A 18.0 B 30.3 C 9.3	底部平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径が中位にある。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部下位外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母、黒褐色 普通	P319 100% 竈内
6	甕 土師器	A [14.6] B 20.6 C 9.0	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部から体部上位擦痕。体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石 にふい黄橙色 普通	P322 40% 床直
7	甕 土師器	A [15.0] B (13.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母、にふい赤褐色、普通	P324 30% 床直
8	甕 土師器	A 19.3 B (12.5)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石 にふい橙色 普通	P323 35% 床直
9	小型甕 土師器	A 11.8 B (5.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・長石・スコリア、にふい赤褐色 2次焼成	P576 30%
第68図 10	甕 土師器	A [17.3] B (13.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部が外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・スコリア、にふい橙色 普通	P574 20%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第68図 11	甌 土師器	A [16.8] B (9.0)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア、にふい橙色普通	P575 20%
12	甌 土師器	A 22.9 B 18.3 C 9.4	無底式。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・長石・スコリア、にふい黄橙色普通	P325 80% 床直

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第68図13	丸玉	0.7	0.7	0.5	0.2	1.0	覆土下層	D P30 100%

第90号住居跡 (第69図)

位置 調査1区の南部, H13b9区。

規模と平面形 耕作による攪乱を受け規模や平面形は明確ではないが、残存する壁や床から長軸 [2.84] m, 短軸 [2.80] mの方形と考えられる。

主軸方向 N-10°-W

壁 残存する壁高は20~25cmで、外傾して立ち上がる。

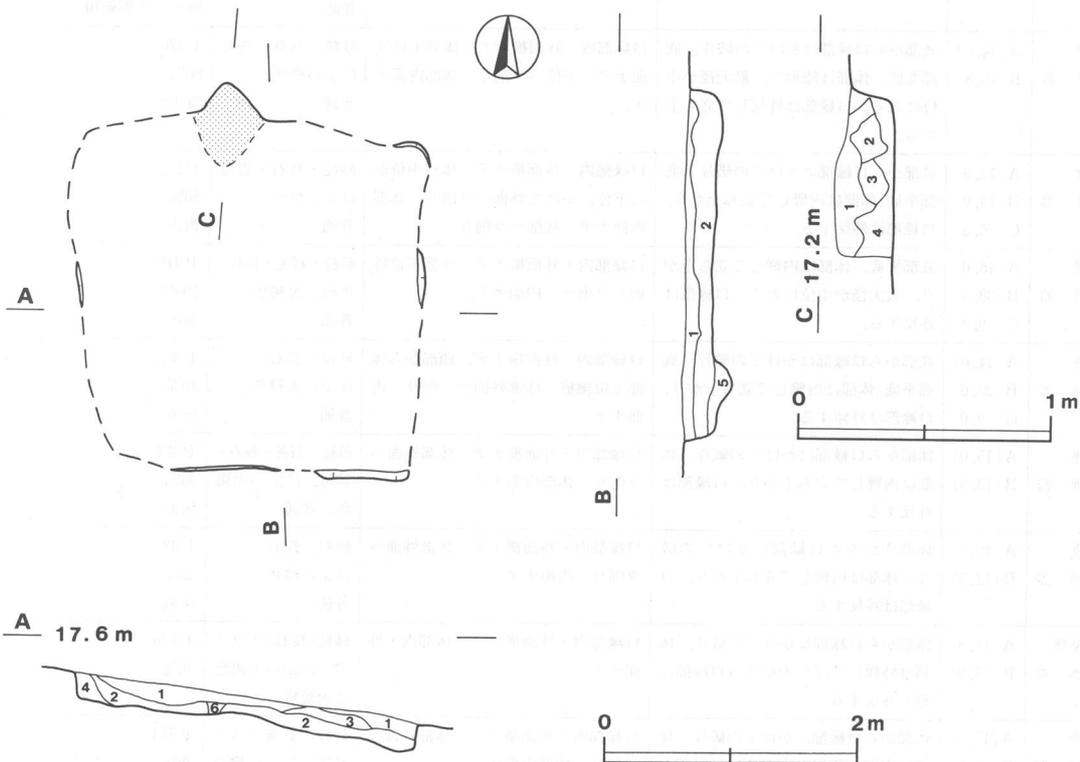
床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈 北壁中央部に構築されているが、攪乱を受けほとんど残存していない。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量, 砂少量 | 3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量 | 4 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |

覆土 6層からなり、自然堆積である。



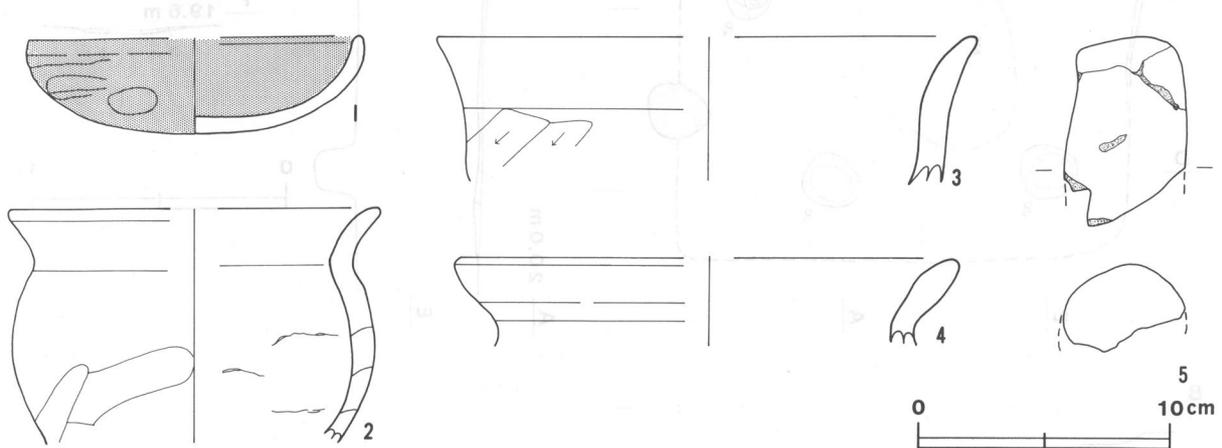
第69図 第90号住居跡実測図

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子微量, 粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量
- 5 黒色 ローム粒子微量, 焼土粒子微量
- 6 黒色 焼土粒子微量, 粘土粒子微量

遺物 土師器片301点, 須恵器片17点, 土製品1点, 鉄滓1点が出土している。2の土師器甕は中央部覆土下層から, 1の土師器坏, 3, 4の土師器甕及び5の支脚は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 2が覆土下層から出土していることから, 古墳時代後期と考えられる。



第70図 第90号住居跡出土遺物実測図

第90号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第70図 1	坏 土師器	A [13.2] B 3.8	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 黒褐色 普通	P 328 50% 覆土中
2	小型甕 土師器	A [14.4] B (9.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石 にふい赤褐色 普通	P 329 20% 覆土下層
3	甕 土師器	A [21.2] B (5.7)	口縁部破片。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石 にふい橙色 普通	P 579 5% 覆土中
4	甕 土師器	A [20.0] B (3.5)	口縁部破片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・長石 橙色 普通	P 580 5% 覆土中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第70図5	支脚	(7.6)	(5.0)	3.4	(131.0)	覆土中	DP 31 30%

第123号住居跡 (第71図)

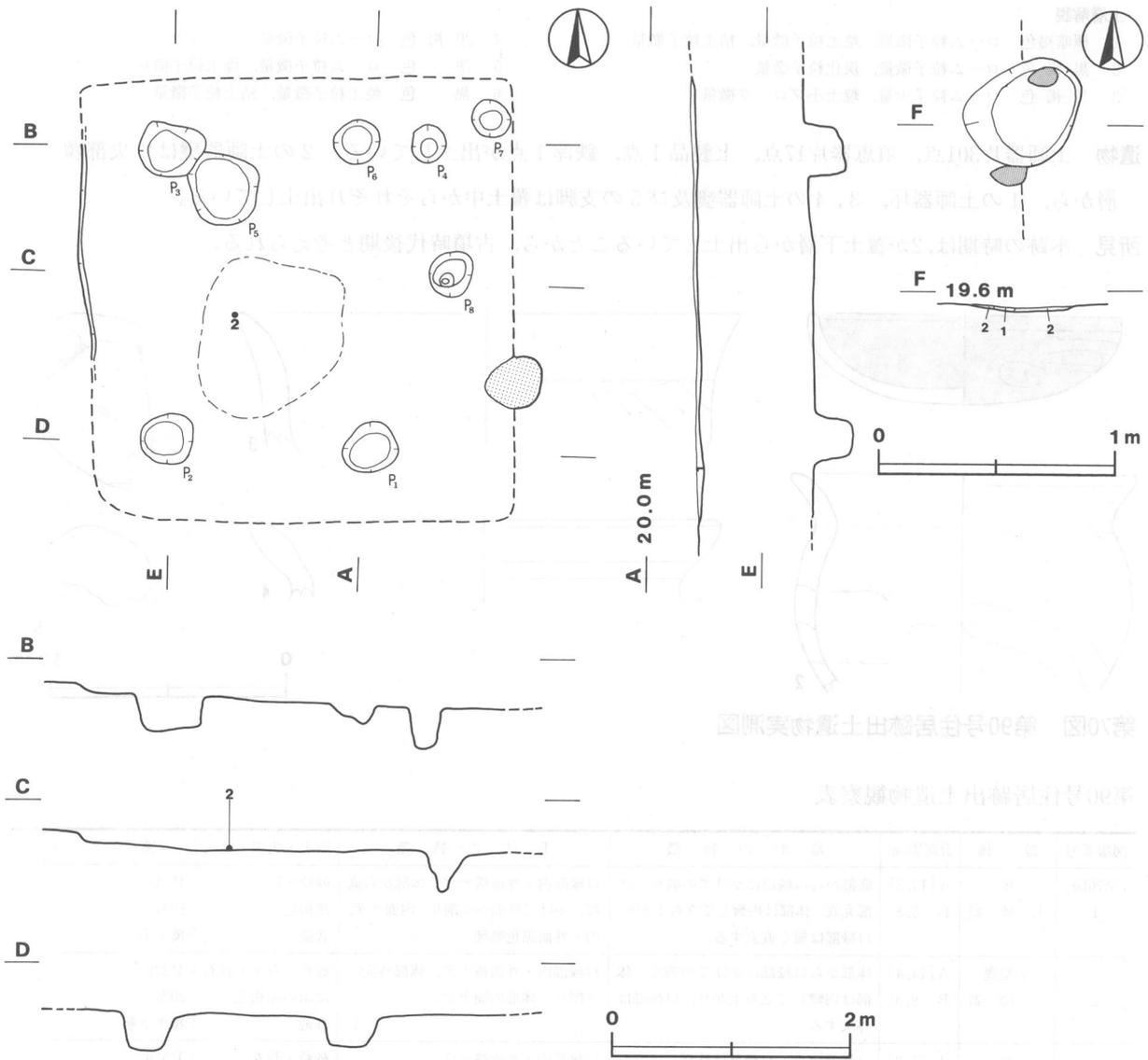
位置 調査4区東部, I11c0区。

規模と平面形 ほとんどの壁が残存しておらず規模も平面形も不明であるが, 柱穴や床面から, 長軸 [3.75] m, 短軸 [3.66] mの方形と推定される。

主軸方向 竈や支柱穴の位置から, N-91°-Eと推定される。

壁 西壁の一部がわずかに残存し, 壁高は10cmで緩斜して立ち上がる。

床 全体的に平坦で, 中央部西寄りがよく踏み固められてる。



第71図 第123号住居跡実測図

竈 東壁推定ラインの南東コーナー部近くに、長径50cm、短径40cmの楕円形に焼土と粘土が確認されており、ここに竈が存在したと思われるが、天井部、袖部、煙道とも残存していない。

竈土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子多量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 8か所。P1～P4は長径45～55cm、短径30～45cmの楕円形で、深さは26～38cmである。位置から支柱穴と考えられる。P5～P8は長径35～65cm、短径30～60cmの楕円形で、深さは13～35cmである。性格は不明である。

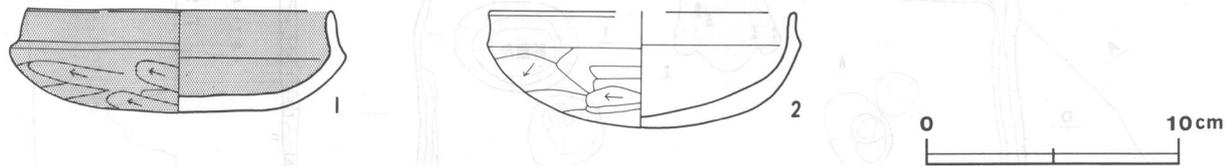
覆土 単一層からなるが、覆土が薄く、人為堆積か自然堆積かは不明である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片11点が出土している。1の土師器の坏が覆土中から、2の土師器の坏が中央部の床面直上から出土している。

所見 本跡は出土遺物が少なく、遺構の残存状況も良好ではないが、出土遺物の時期が限られていることから、時期は古墳時代後期と思われる。



第72図 第123号住居跡出土遺物実測図

第123号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第72図 1	坏 土師器	A 11.9 B 4.9	丸底気味の平底で、体部は内彎して立ち上がる。口縁部は稜を持ち、わずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部、底部外面へラ削り。体部内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 黒褐色 普通	P430 70% 覆土中
2	坏 土師器	A [12.0] B 4.6	丸底で底部は内彎して立ち上がり、口縁部は稜を持ち、わずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ。体部、底部外面へラ削り。	砂粒・雲母 にふい橙色 普通	P431 80% 床直

第124号住居跡 (第73図)

位置 調査4区中央部, I11b1区。

重複関係 第125号住居跡の下にあり、本跡が古い。

規模と平面形 長軸6.57m, 短軸6.33mの方形である。

主軸方向 N-27° -W

壁 壁高は10~32cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 幅17~35cm, 深さ4~7cmで、断面形はU字形である。北西壁下の一部を除き、各壁下に確認されている。

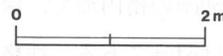
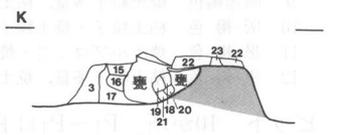
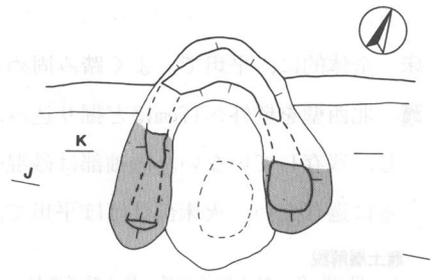
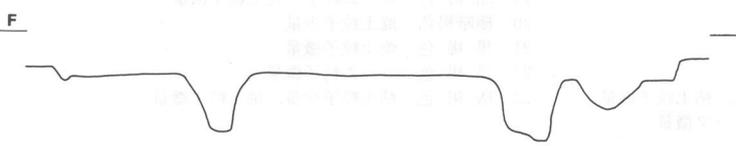
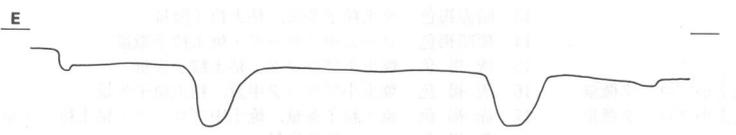
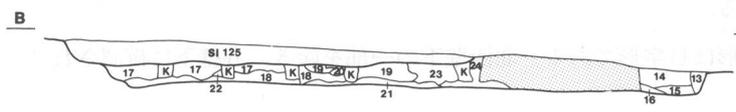
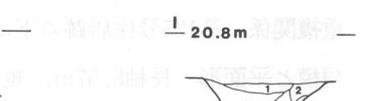
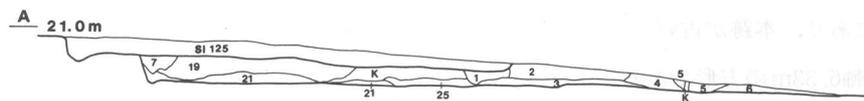
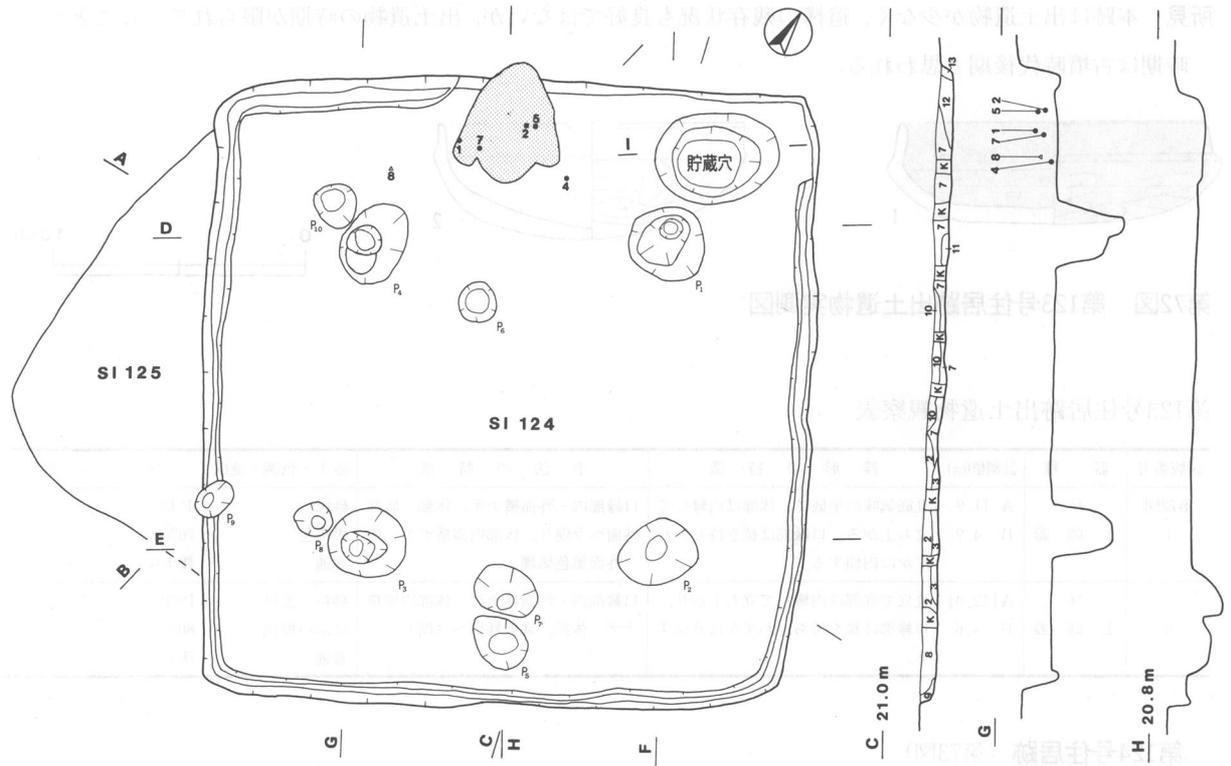
床 全体的に、平坦で、よく踏み固められている。

竈 北西壁を壁外へ17cmほど掘り込み、付設されている。規模は、長さ123cm, 幅118cmである。天井部は崩落し、残存していない。両袖部は砂混じりの灰色粘土で構築されているが、攪乱を受け、一部が残存しているに過ぎない。火床部はほぼ平坦で、火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 13 暗赤褐色 焼土粒子多量, 粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土粒子・焼土粒子微量 | 14 極暗褐色 ローム中ブロック・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子・焼土粒子微量 | 15 灰褐色 焼土小ブロック・粘土粒子少量 |
| 4 黒褐色 粘土粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック微量 | 16 灰褐色 焼土小ブロック中量, 粘土粒子少量 |
| 5 黒褐色 粘土粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック微量 | 17 赤褐色 焼土粒子多量, 焼土中ブロック・粘土粒子少量 |
| 6 極暗褐色 ローム粒子少量 | 18 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 7 暗褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量 | 19 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 8 暗褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子少量 | 20 極暗褐色 焼土粒子少量 |
| 9 暗赤褐色 焼土粒子多量, 粘土粒子少量 | 21 黒褐色 焼土粒子微量 |
| 10 灰褐色 粘土粒子・焼土粒子少量 | 22 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 11 黒褐色 焼土小ブロック・焼土中ブロック少量, 粘土粒子微量 | 23 灰褐色 粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 12 灰褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子・焼土大ブロック微量 | |

ピット 10か所。P1~P4は長径80~90cm, 短径66~88cmの楕円形で、深さは62~72cmである。位置から主柱穴と考えられる。P5は長径70cm, 短径50cmの楕円形で、深さは25cmある。位置から、出入り口ピットと考えられる。P6は径42cmの円形で、深さは64cmである。性格は不明である。P7は長径70cm, 短径50cmの楕円形で、深さは36cmである。位置から、P5の移し替えの可能性も考えられる。P8~P10は長径40~48cm, 短径



第73图 第124号住居跡実測图

32～45cmの楕円形で、深さは26～51cmである。位置から、補助柱穴と思われる。

貯蔵穴 北コーナー部に付設されており、長径130cm、短径95cmの楕円形で、深さは40cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は5層からなり、人為堆積である。1層はローム小ブロックを少量、焼土小ブロックを微量含む黒褐色土、2層はローム小ブロックとローム中ブロックを少量含む黒褐色土である。3層はローム中ブロックを少量含む黒褐色土、4層はローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロックを多量に含む褐色土、ローム小ブロック・ローム中ブロックを中量、焼土小ブロック・焼土中ブロックを微量に含む暗褐色土である。

覆土 25層からなり、攪乱を受けているが自然堆積である。

土層解説

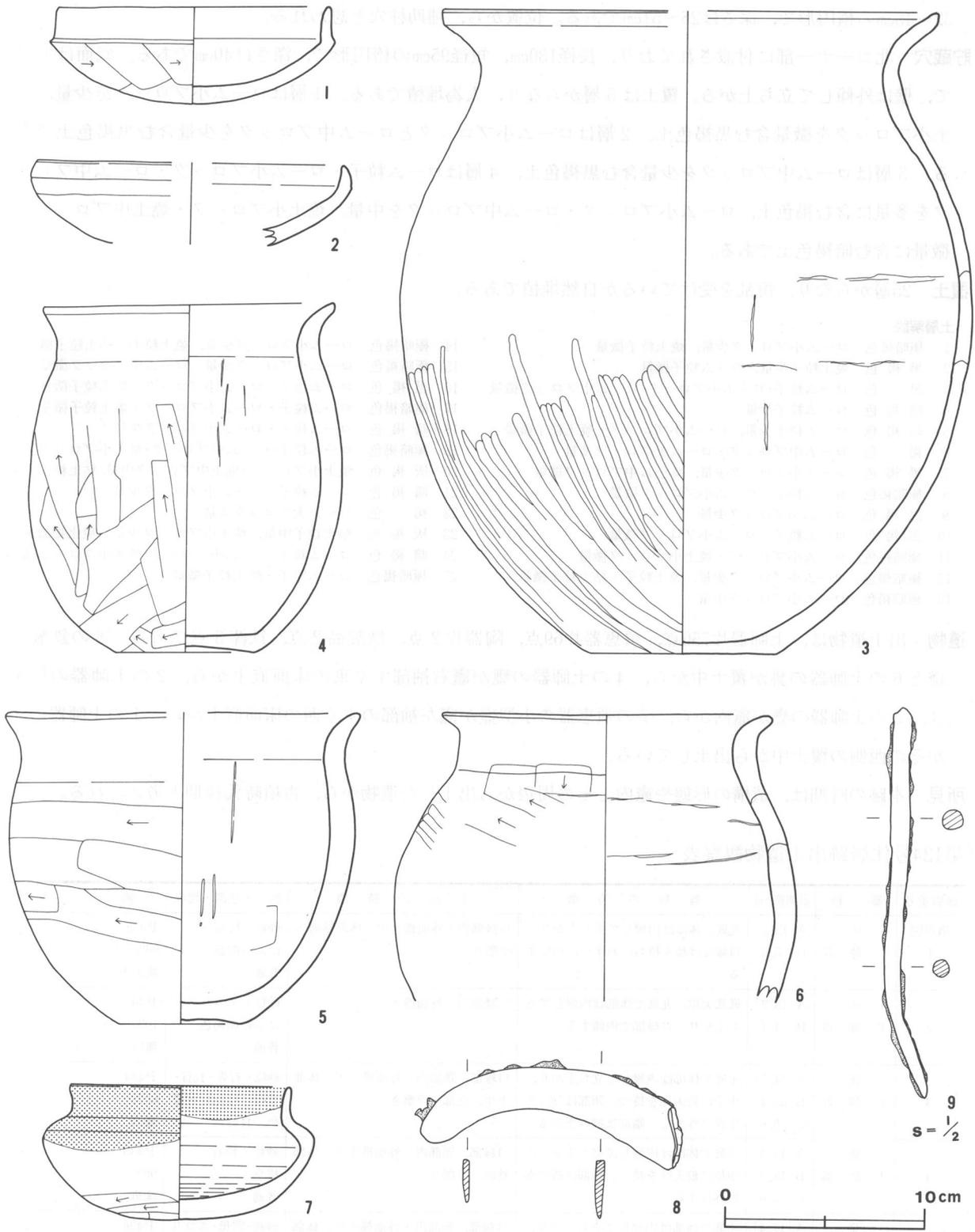
- | | | | |
|---------|---------------------------|---------|--------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子微量 | 14 極暗褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 15 極暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 |
| 3 黒色 | ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック微量 | 16 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量 | 17 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量 | 18 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 6 褐色 | ローム中ブロック・ローム大ブロック多量 | 19 極暗褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック・焼土小ブロック少量 |
| 7 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 | 20 灰褐色 | 焼土小ブロック・焼土中ブロック中量、粘土粒子少量 |
| 8 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック微量 | 21 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 9 黒褐色 | ローム小ブロック少量 | 22 褐色 | ローム大ブロック多量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック微量 | 23 灰褐色 | 粘土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化物微量 |
| 11 極暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック微量 | 24 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロック微量 |
| 12 極暗褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量 | 25 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 13 極暗褐色 | ローム小ブロック中量 | | |

遺物 出土遺物は、土師器片750点、須恵器片69点、陶器片2点、鉄製品2点、鉄滓3点である。8の鉄製の鎌と6の土師器の甕が覆土中から、4の土師器の甕が竈右袖部すぐ東の床面直上から、2の土師器の坏と3、5の土師器の甕が竈内から、7の須恵器の小型壺が竈左袖部のすぐ西の床面直上から、1の土師器の坏がその西側の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や竈内とその周辺から出土した遺物から、古墳時代後期と考えられる。

第124号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第74図 1	坏 土師器	A 13.5 B 5.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は稜を持ち、わずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	砂粒・長石 にふい橙色 普通	P432 60% 覆土中
2	坏 土師器	A [15.2] B (4.1)	底部欠損。丸底で体部は内彎して立ち上がり、口縁部で内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・スコリア にふい赤褐色 普通	P433 10% 竈内
3	甕 土師器	A [24.7] B 32.4 C 9.6	平底で体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径を持つ。頸部は「く」の字状に外反し、端部は摘み上がる。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部下半、底部へラ磨き。	砂粒・石英・長石・雲母、にふい黄橙色、良好	P434 60% 竈内
4	甕 土師器	A 14.4 B 18.2 C 7.0	平底で体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径を持つ。頸部は緩やかに外反する。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	砂粒・長石 橙色 普通	P435 90% 床直
5	甕 土師器	A [17.4] B 15.7 C 6.2	平底で体部は内彎して立ち上がり、頸部はゆるく外反する。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	砂粒・雲母・スコリア・長石・石英、にふい橙色、普通	P436 40% 竈内
6	甕 土師器	A 16.2 B (14.5)	底部、体部下半欠損。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径を持つ。頸部は外反し、口縁部で外に大きく開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。頸部に輪積み痕。	砂粒・長石・石英・雲母 にふい赤褐色 普通	P437 40% 覆土中
7	小型壺 須恵器	A 10.8 B 6.8	丸底で体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立した後、わずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロロナデ。口縁部、体部内・外面に自然釉がかかる。	砂粒・長石 灰色 普通	P438 95% 床直



第74図 第124号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
第74図 8	鉄 鎌	(13.0)	5.1	0.4	40.0	M38 覆土中層 70%
9	不明鉄製品	(13.1)	0.7	0.6	20.0	M39 覆土中

第130号住居跡 (第76図)

位置 調査4区中央部, I10b0区。

重複関係 本跡は, 第129号住居跡に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 本跡は北側が調査区外であり, 西側が第130号住居跡に掘り込まれ, 規模も平面形も不明であるが, 長軸 [3.93] m, 短軸 (3.50) mと推定される。

主軸方向 N-23°-W

壁 壁高は18cm前後で, ほぼ垂直に立ち上がる。南壁の一部と東壁が残存するが, 他は第129号住居跡の掘り込みや調査区外のため, 残存していない。

床 全体的に, 平坦で, よく踏み固められている。

ピット 2か所。P1は長径40cm, 短径25cmの楕円形で, 深さは37cmである。位置から支柱穴と考えられる。P2は径75cmの円形で, 深さは97cmある。性格は不明である。

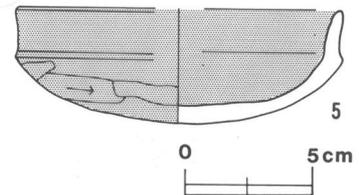
覆土 単一層で, 自然堆積である。

土層解説

6 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片63点, 須恵器片5点が出土している。5の土師器の坏が南東部の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代後期と考えられる。



第75図 第130号住居跡出土遺物実測図

第130号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第75図 5	坏 土師器	A [13.0] B 4.6	丸底。体部は内彎して立ち上がる。 口縁部は稜を持ち, 外反気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部, 底部 外面へラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 暗赤灰色 普通	P454 50% 覆土中

第3号住居跡 (第77・78図)

位置 調査2区の東部, L14a9区。

規模と平面形 一辺が6.20mの方形である。

主軸方向 N-14°-W

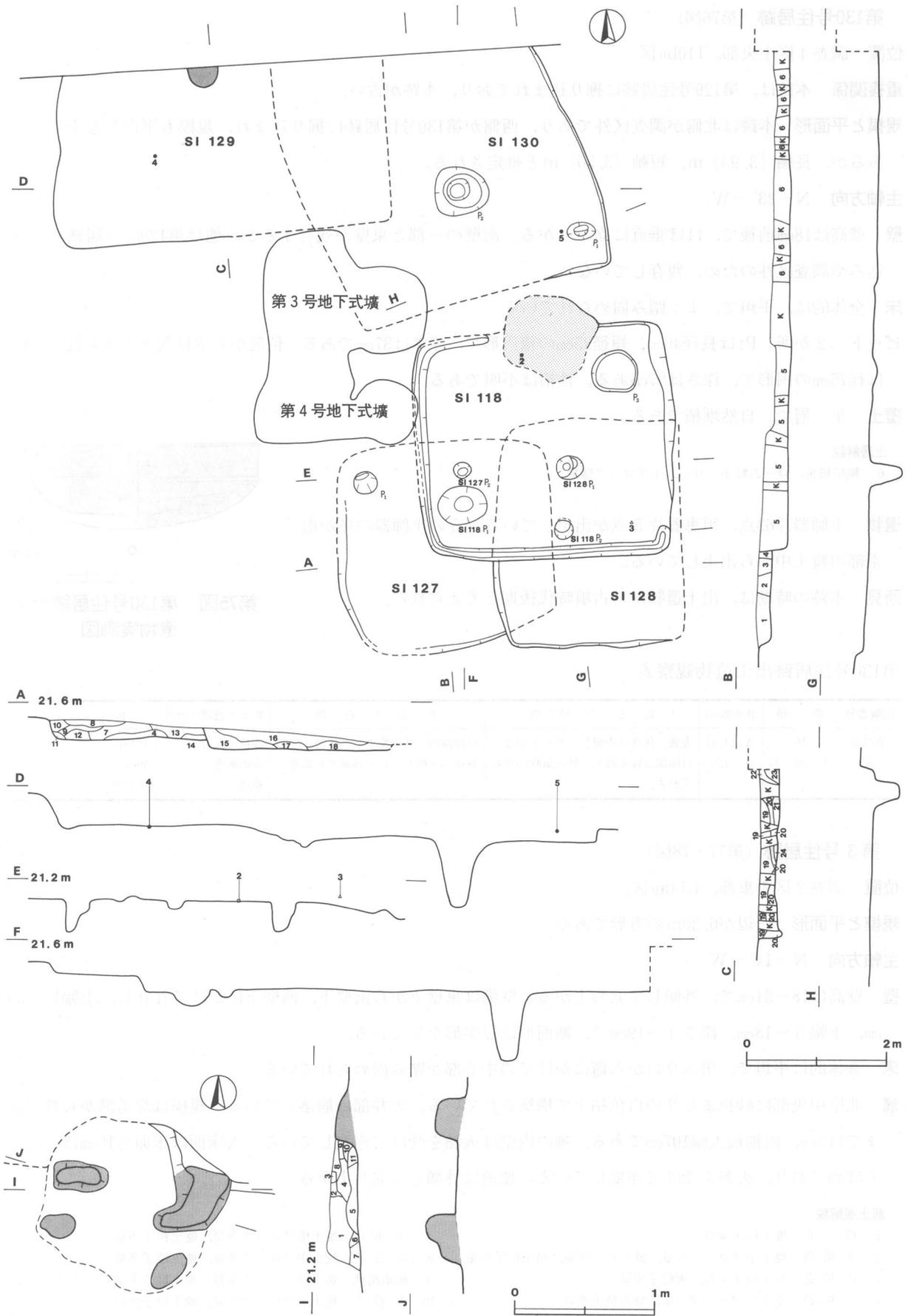
壁 壁高は18~31cmで, 外傾して立ち上がる。壁溝は東壁下から南壁下, 西壁下にかけて存在し, 上幅16~35cm, 下幅5~18cm, 深さ4~19cmで, 断面形はU字形をしている。

床 全体的に平坦で, 出入り口から竈にかけての中心部が踏み固められている。

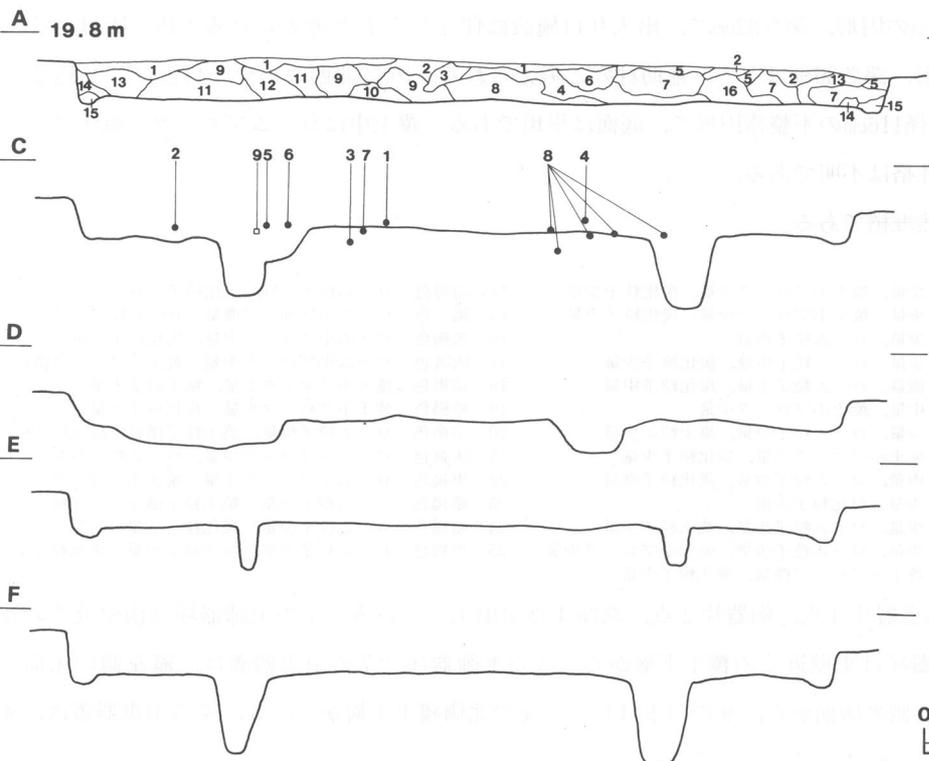
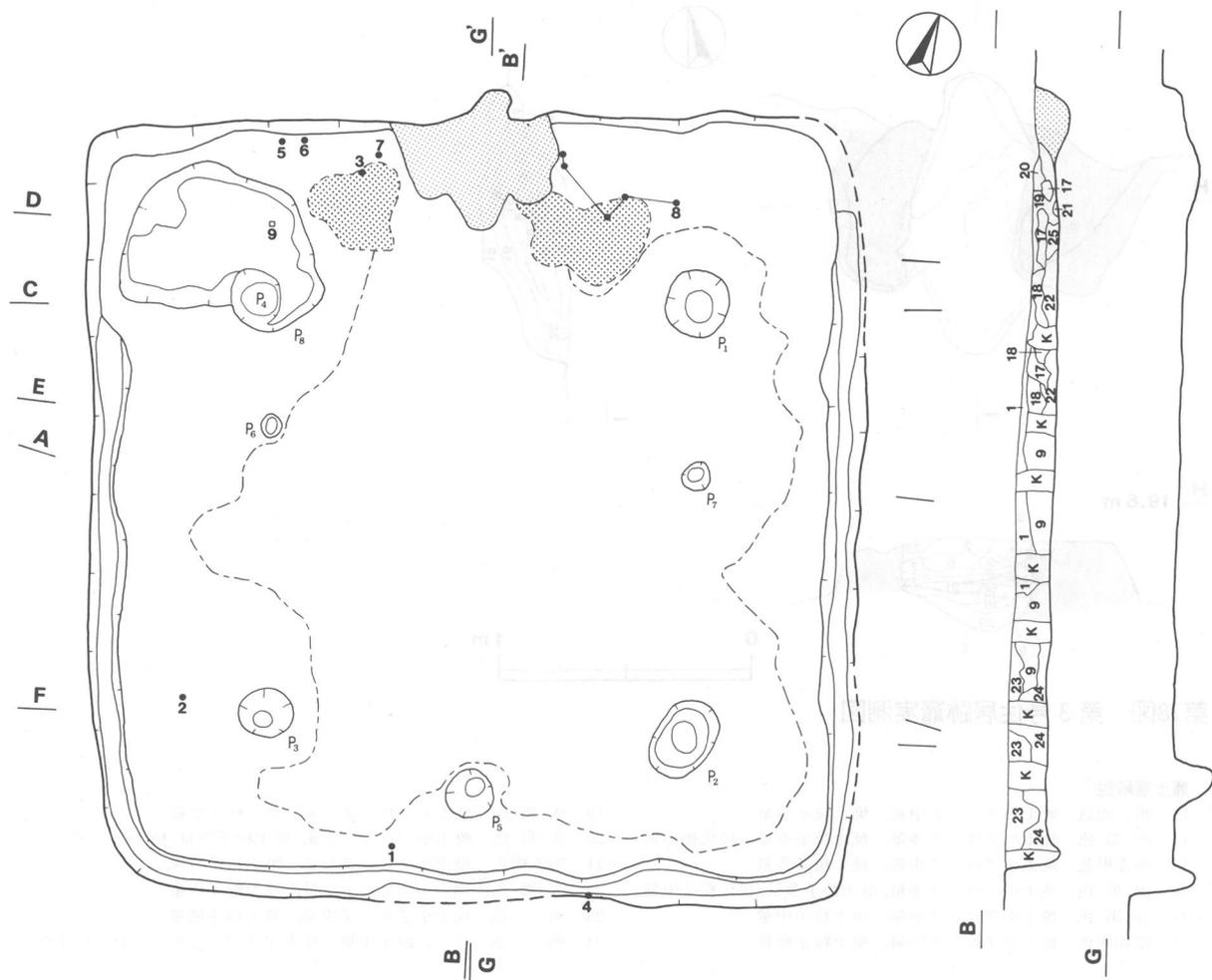
竈 北壁中央部に砂粒まじりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで112cm, 両袖最大幅107cmである。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床面は床面を10cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

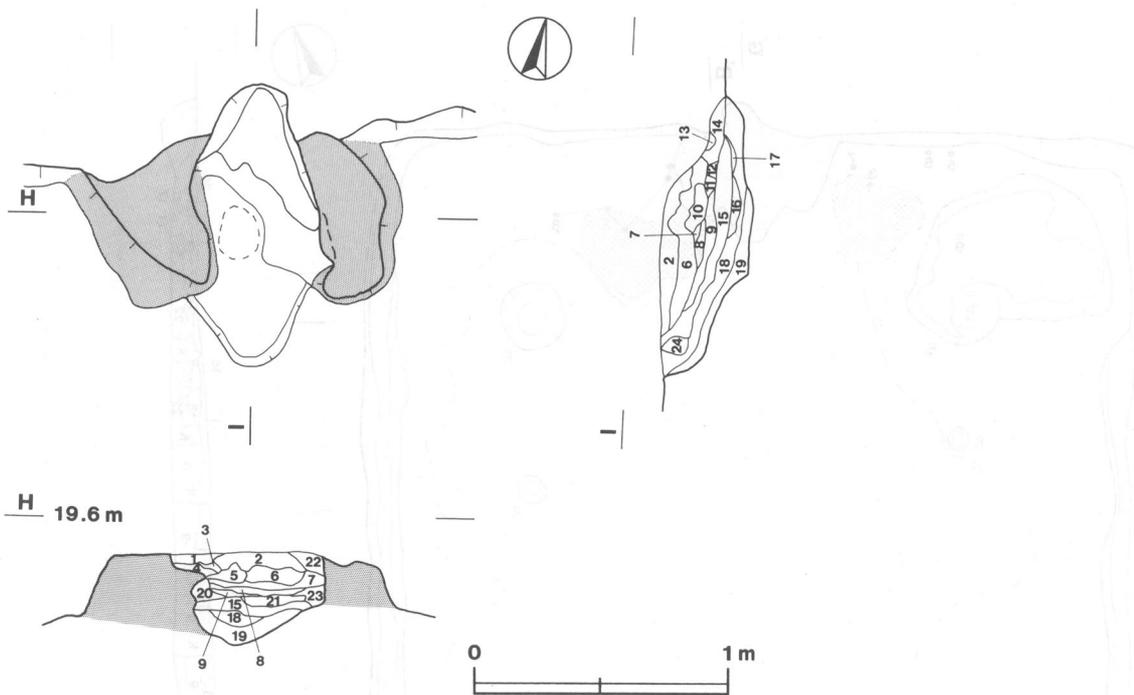
- | | |
|----------------------------------|---------------------------|
| 1 橙 色 焼土粒子少量 | 7 赤 褐色 焼土中ブロック多量, 焼土粒子多量 |
| 2 赤 褐色 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量, 粘土粒子少量 | 8 暗 黒 色 焼土中ブロック多量, 焼土粒子多量 |
| 3 赤 褐色 焼土粒子少量, 灰粒子少量 | 9 極暗褐色 焼土中ブロック多量, 焼土粒子多量 |
| 4 赤 褐色 焼土小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 10 赤 褐色 焼土中ブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 5 灰 赤 色 焼土粒子少量, 灰粒子少量 | 11 暗 褐色 焼土中ブロック中量, 焼土粒子中量 |
| 6 暗赤褐色 焼土粒子少量 | 12 赤 褐色 焼土大ブロック中量, 焼土粒子中量 |



第76图 第118・127・128・129・130号住居跡実測図



第77图 第3号住居跡実測图



第78図 第3号住居跡竈実測図

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------------|
| 13 暗赤灰色 焼土中ブロック中量, 焼土粒子中量 | 19 灰褐色 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量 |
| 14 赤黒色 焼土小ブロック多量, 焼土粒子多量, 炭化物少量 | 20 赤褐色 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量, 粘土中ブロック少量 |
| 15 暗赤褐色 焼土小ブロック少量, 焼土粒子多量 | 21 明赤褐色 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量 |
| 16 赤黒色 焼土小ブロック多量, 焼土粒子多量, 炭化粒子中量 | 22 赤褐色 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量 |
| 17 赤黒色 焼土小ブロック少量, 焼土粒子中量 | 23 褐色 焼土小ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 18 暗赤灰色 焼土小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 24 褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子微量 |

ピット 8か所 (P1~P8)。P1からP4は長径45~65cm, 短径40~44cmの円形及び楕円形, 深さ52~70cmで支柱穴である。P5は径37cmの円形, 深さ32cmで, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P6, P7は, 径15~24cmの円形及び楕円形, 深さ36cmほどで, 補助柱穴と考えられる。P8は北西コーナー付近に掘り込まれており, 長径155cm, 短径116cmの不整楕円形で, 底面は平坦である。覆土中にロームブロック, 焼土ブロック, 炭化粒子を含み, 性格は不明である。

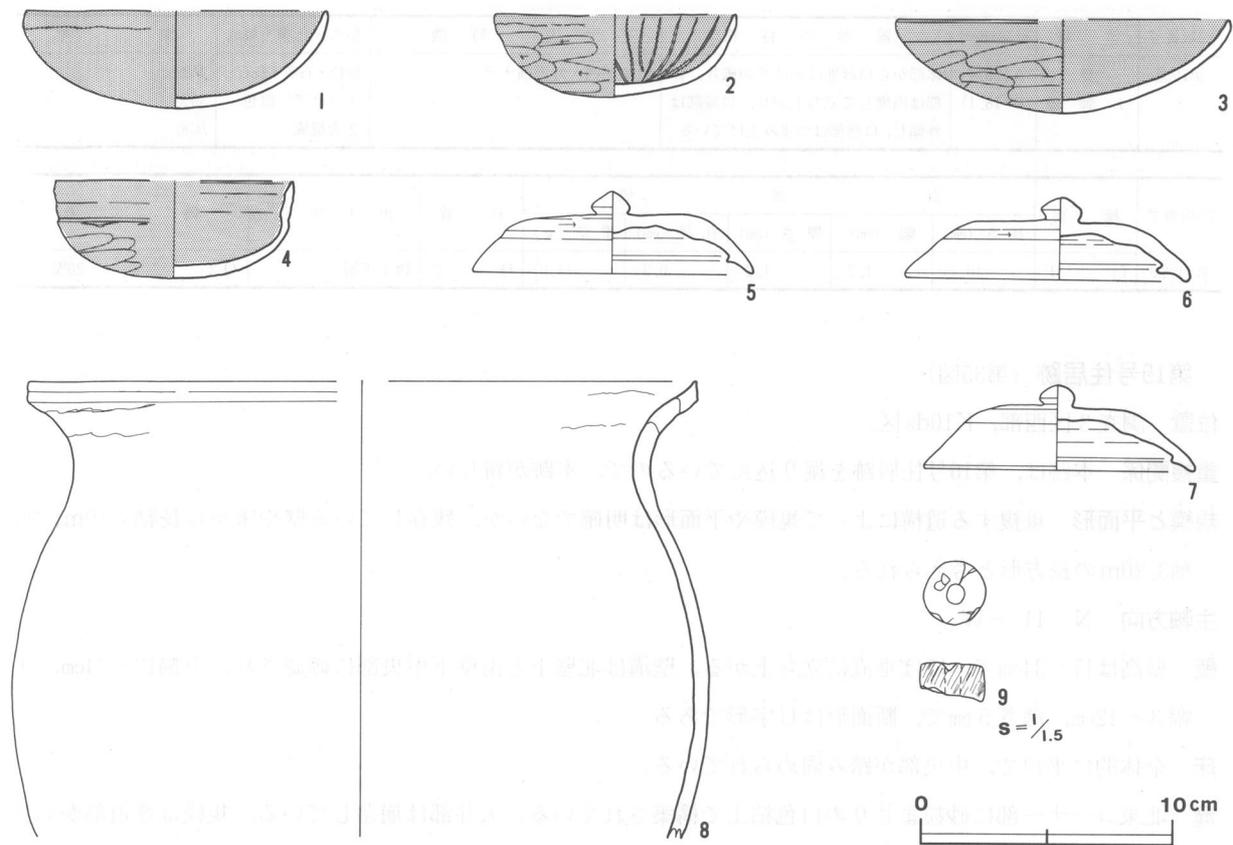
覆土 25層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量 | 14 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量 | 15 褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 | 16 黒褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子中量 |
| 4 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 炭化粒子少量 | 17 灰黄色 ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量 |
| 5 黒褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子少量, 炭化粒子中量 | 18 暗褐色 焼土小ブロック少量, 粘土粒子中量 |
| 6 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック少量 | 19 暗褐色 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量 |
| 7 暗褐色 ローム中ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子少量 | 20 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量 | 21 灰黄色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 |
| 9 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 22 黒褐色 ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック少量 |
| 10 黒褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子少量 | 23 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子少量 |
| 11 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子少量 | 24 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子少量 |
| 12 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量 | 25 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量 |
| 13 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック微量, 炭化粒子少量 | |

遺物 土師器片171点, 須恵器片4点, 陶器片2点, 鉄滓4点が出土している。1の土師器坏は南壁近くの覆土下層から, 2の土師器坏は東壁近くの覆土下層から, 3の土師器坏と7の須恵器蓋は, 竈左側の床面から, 8の土師器甕は竈右側の床面から, 9の白玉はピット4の北側覆土下層から, 5, 6の須恵器蓋は, 竈左側の覆土下層に並ぶように正位で出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から, 古墳時代後期と考えられる。



第79図 第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第79図 1	坏 土師器	A 12.0 B 3.9	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・石英・長石 黒色 普通	P25 95% 覆土下層
2	坏 土師器	A 9.6 B 3.3	底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ後、放射状のへラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・石英・長石 橙色 普通	P26 80% 覆土下層
3	坏 土師器	A [13.2] B 3.7	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・石英・長石・ 雲母、にぶい赤褐色、普通	P27 40% 床直
4	坏 土師器	A [9.4] B 4.2	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜がある。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P28 50% 覆土中層
5	蓋 須恵器	A 11.2 B 3.3 F 1.6 G 1.0	中央部に乳頭状のつまみが付く。頂部は平坦で、天井部は緩やかに開く。口縁部内面に短いかえりが付く。	頂部回転へラ削り。内・外面クロコナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P30 100% 覆土下層
6	蓋 須恵器	A 11.2 B 3.3 F 1.6 G 0.9	中央部に突出したつまみが付く。頂部は平坦で、天井部は緩やかに開く。口縁部内面に短いかえりが付く。	頂部回転へラ削り。内・外面クロコナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、灰色 普通	P31 100% 覆土下層
7	蓋 須恵器	A 10.6 B 3.4 F 1.3 G 0.8	中央部に乳頭状のつまみが付く。頂部は平坦で、天井部は緩やかに開く。口縁部内面に短いかえりが付く。	頂部回転へラ削り。内・外面クロコナデ。	砂粒・石英・長石 灰色 普通	P32 100% 床直

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第79図 8	甕 土師器	A [26.4] B (18.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾し、口唇部はつまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・長石・スコリア、橙色 2次焼成	P29 30% 床直

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第79図9	白玉	(0.7)	1.2	1.2	0.3	(1.0)	珪岩	覆土下層	Q2 20%

第15号住居跡 (第35図)

位置 調査3区西部, K10d8区。

重複関係 本跡は、第16号住居跡を掘り込んでいるので、本跡が新しい。

規模と平面形 重複する遺構によって規模や平面形は明確でないが、残存している壁や床から長軸5.19m, 短軸3.20mの長方形と考えられる。

主軸方向 N-11°-W

壁 壁高は17~34cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は北壁下と南壁下中央部に確認され、上幅12~24cm, 下幅3~12cm, 深さ5cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北東コーナー部に砂粒まじりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで100cm, 両袖最大幅80cm, 壁外への掘り込みは40cmである。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床面は床面を2cm掘りくぼめており、火熱を受けて部分的に赤変した面がみられる。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子微量, 焼土小ブロック少量, 粘土粒子多量 | 5 褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子中量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック多量, 粘土粒子中量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 赤褐色 | 焼土小ブロック多量, 炭化粒子少量, 灰粒子少量 | 7 明褐色 | ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量 |
| 4 灰赤褐色 | 焼土小ブロック多量, 炭化粒子中量, 灰粒子中量 | | |

ピット 2か所 (P1, P2)。P1は長径40cm, 短径35cmの円形で、深さ48cmである。P2は径40cmの円形で、深さ42cmであり、いずれも主柱穴と考えられる。

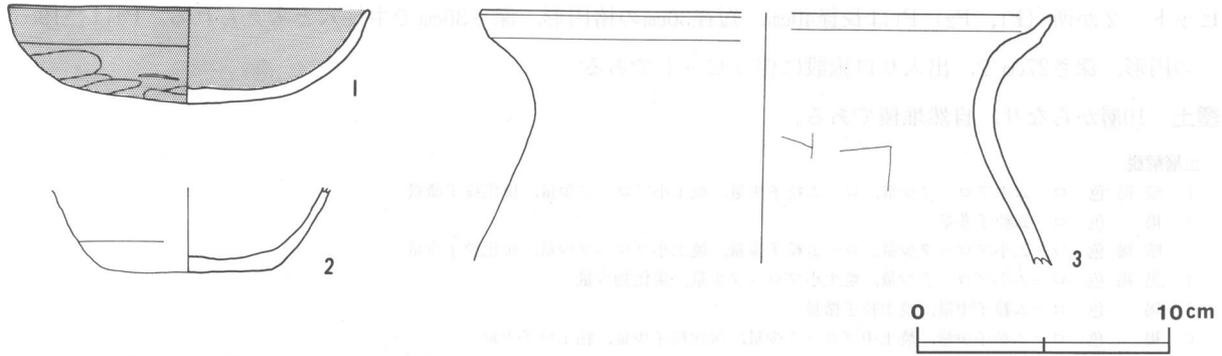
覆土 14層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 8 褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量
- 9 褐色 ローム中ブロック微量, ローム粒子中量
- 10 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土中ブロック中量, 焼土小ブロック少量
- 11 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量
- 12 暗褐色 ローム中ブロック少量, ローム粒子中量
- 13 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量
- 14 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 炭化粒子少量
- 15 暗褐色 ローム中ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 16 暗褐色 ローム中ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量, 炭化粒子少量
- 17 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量
- 18 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量, 粘土粒子少量
- 19 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 20 赤褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック中量, 焼土粒子中量
- 25 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片524点, 須恵器片3点, 鉄滓4点が出土している。1の土師器坏は中央部覆土上層から、3の土師器甕は北西壁際覆土中層から、2の須恵器坏は中央部覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、床面に焼土が堆積している状況から、焼失家屋と考えられる。本跡の時期は、1~3から古墳時代後期と考えられる。



第80図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第80図 1	坏 土師器	A 14.1 B 3.8	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・石英・長石 黒色 普通	P66 60% 覆土上層
2	坏 須恵器	B (3.4) C 6.0	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面クロナデ。底部回転へラ切り。	砂粒・石英・長石 灰色 普通	P68 40% 覆土上層
3	甕 土師器	A [22.6] B (10.0)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は外反する。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横ナデ。体部内面へラナデ。	砂粒・石英 灰褐色 普通	P67 10% 覆土中層

第19号住居跡 (第37図)

位置 調査3区西部, K11f1区。

重複関係 本跡は第18号住居跡を掘り込んでいるので、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.38m, 短軸3.08mの方形である。

主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は15~26cmで、外傾して立ち上がる。壁溝は竈東側の北西壁下から北東壁と南東壁のコーナー付近にかけて確認されており、上幅22~34cm, 下幅6~14cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、中心部から竈にかけて踏み固められている。

竈 北西壁中央に砂粒まじりの白色粘土で構築されている。天井部の上面が耕作により削平され、焚口部付近の天井が崩落している。規模は、煙道部から焚口部まで76cm, 天井幅74~83cm, 奥行48~52cmの長方形をしている。床から天井部までの高さ19cm, 残存する天井部の厚さ6~9cmである。天井部には2か所の掛け口(K1, K2)が東西に並んであけられている。K1は長径19cm, 短径12cm, K2は長径13cm, 短径11cmの楕円形で、内側は火熱を受け赤変している。甕を掛ける穴と考えられる。両袖部は最大で101cm, 右袖幅22~25cm, 左袖幅21~22cmで下部が厚く、上部はやや細くなる形状をしている。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床面は床面を7cm掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。煙道は径7~8cmで外傾して立ち上がる。壁外への掘り込みは12cmである。

竈土層解説

1 暗赤褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量, 粘土粒子中量	5 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
2 赤褐色 焼土粒子多量, 粘土粒子少量	6 赤褐色 焼土粒子多量, 粘土粒子少量
3 暗赤褐色 焼土粒子少量, 粘土粒子微量	7 極暗褐色 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量, 粘土粒子中量
4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	8 黒色 焼土小ブロック少量, 炭化粒子中量, 粘土小ブロック少量

ピット 2か所 (P1, P2) P1は長径40cm, 短径30cmの楕円形, 深さ30cmで主柱穴と考えられる。P2は径19cmの円形, 深さ27cmで, 出入口施設に伴うピットである。

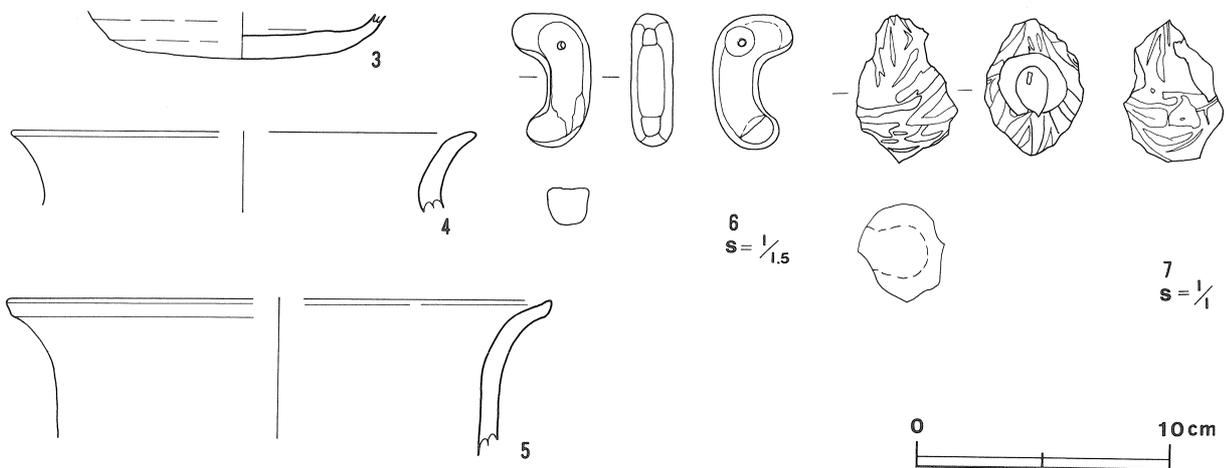
覆土 10層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック少量, 炭化物少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子少量, 焼土中ブロック少量, 炭化粒子少量, 粘土粒子少量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量
- 8 褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子中量
- 9 褐色 ローム粒子中量
- 10 黒褐色 ローム粒子微量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片368点, 須恵器片6点, 石製品1点, 炭化物1点が出土している。3の須恵器坏は竈前の覆土中層から, 5の土師器甕は北東コーナー付近の覆土中層から, 4の土師器甕は竈右側の北壁際から, 6の勾玉は東壁近くの覆土下層から, 7の種子の炭化物は中央部床面から出土している。

所見 本跡の時期は, 3~5から古墳時代後期と考えられる。



第81図 第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第81図 3	坏 須恵器	B (1.9) C 8.0	底部破片。底部平底。	底部回転ヘラ切り。	砂粒・石英・長石・ 雲母, 灰色 普通	P75 40% 覆土中層
4	甕 土師器	A [18.0] B (3.2)	口縁部破片。口縁部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・ スコリア, にぶい 褐色, 普通	P74 5% 覆土下層
5	甕 土師器	A [21.4] B (6.2)	頸部から口縁部にかけての破片。口縁部は短く外傾し, 口唇部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母, 黒褐色 普通	P73 5% 覆土中層

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第81図6	勾玉	2.6	1.6	0.7	0.2	5.0	緑泥片岩	覆土下層	Q5 100%

第22号住居跡（第39図）

位置 調査3区西部，K11c1区。

重複関係 本跡は第21号住居跡を掘り込んでいるので，本跡が新しい。

規模と平面形 本跡の北側5分の1が調査区域外に延びており，規模や平面形は明確ではないが，残存する床から長軸（1.24）m，短軸（1.14）mで方形または長方形と考えられる。

主軸方向 N-38°-W

壁 壁高は44cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，全体的に踏み固められている。

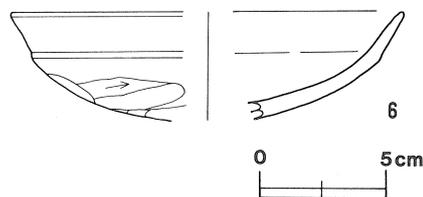
覆土 6層からなり，自然堆積である。

土層解説

- 22 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，焼土小ブロック少量
- 23 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，焼土粒子少量
- 24 極暗褐色 ローム中ブロック少量，ローム粒子微量，焼土小ブロック微量，焼土粒子少量
- 25 極暗褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
- 26 極暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 27 極暗褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック微量

遺物 土師器片64点が出土している。6の土師器坏は，南コーナー付近の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物が少なく不明であるが，第21号住居跡より新しいことから，古墳時代以降と考えられる。



第82図 第22号住居跡出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第82図 6	土師器 坏	A [15.1] B (4.3)	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，体部と口縁部との境に稜がある。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	砂粒・スコリア 灰褐色 普通	P81 60% 覆土下層

第24号住居跡（第83・84図）

位置 調査3区西部，K11e1区。

重複関係 本跡は第25号住居跡に掘り込まれ，第26号住居跡を掘り込んでいるので，第25号住居跡より古く，第26号住居跡より新しい。

規模と平面形 本跡の北東部が第25号住居跡と重複しており，規模や平面形は明確ではないが，残存する壁や床から一辺が5.30mの方形と考えられる。

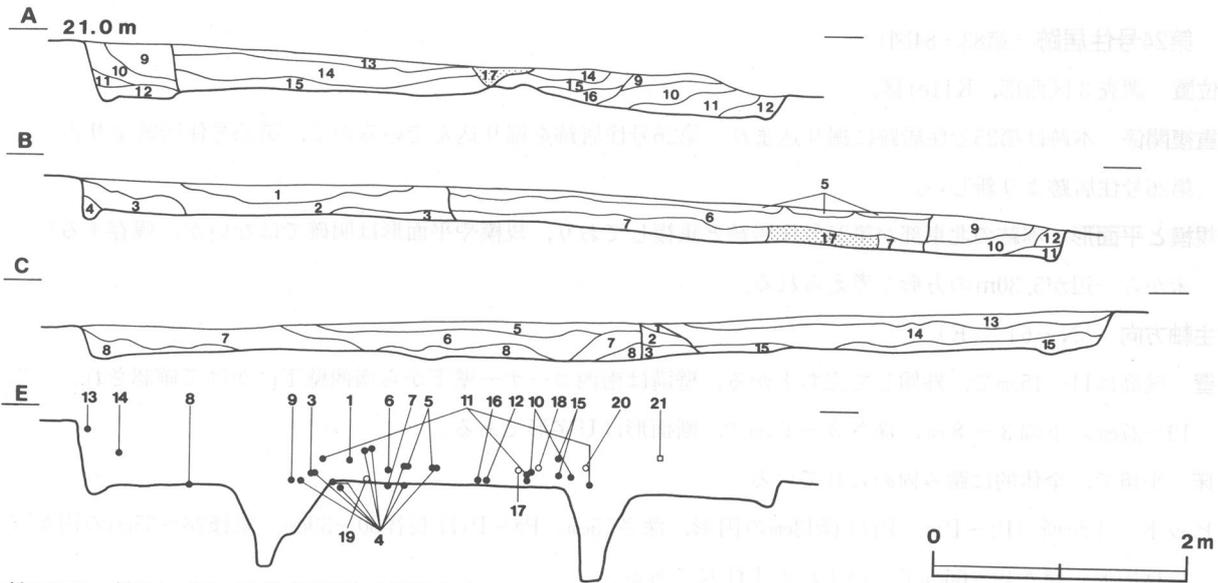
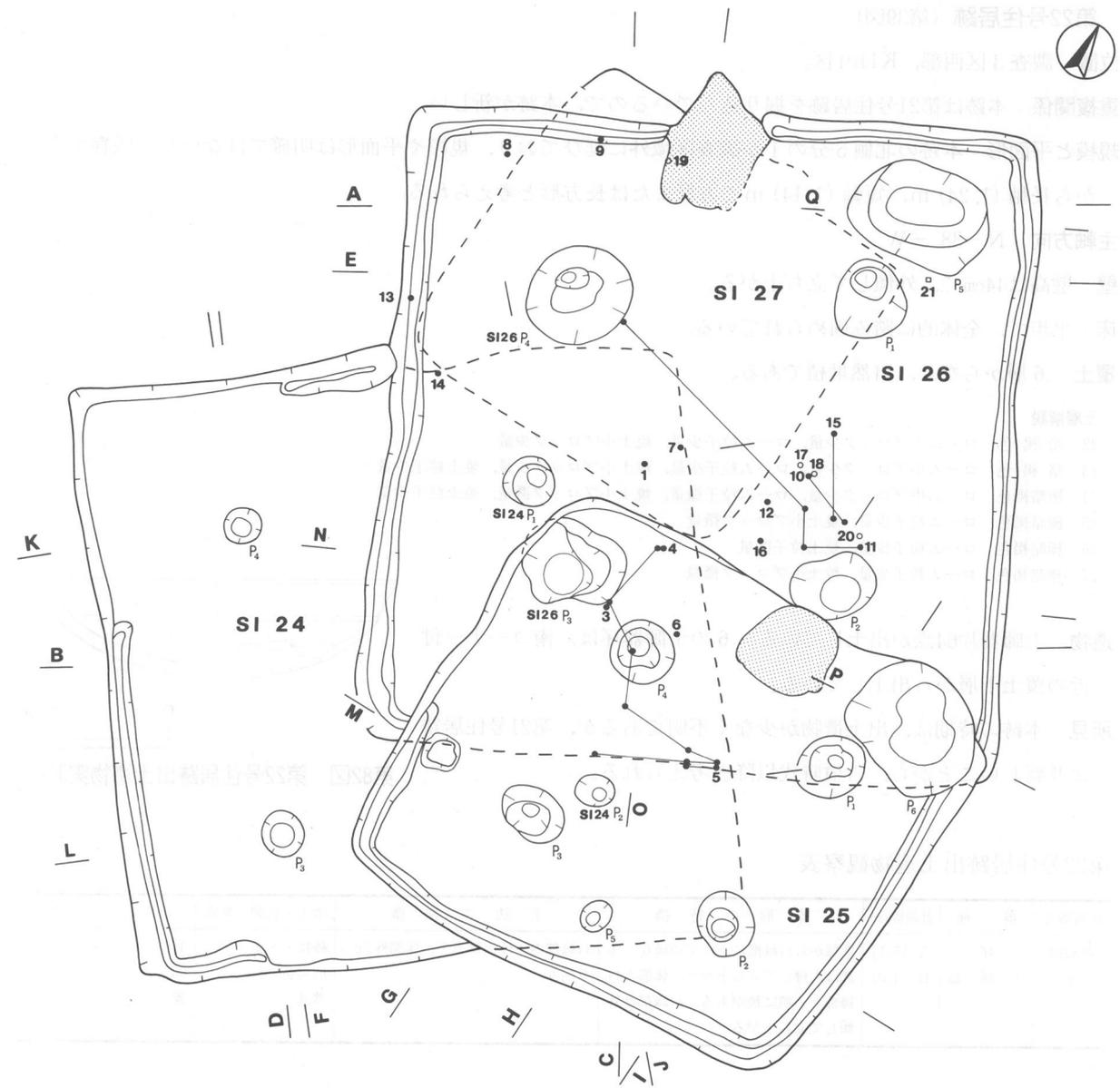
主軸方向 (N-64°-E)

壁 壁高は11~15cmで，外傾して立ち上がる。壁溝は南西コーナー壁下から南西壁下にかけて確認され，上幅19~27cm，下幅3~8cm，深さ3~6cmで，断面形はU字形である。

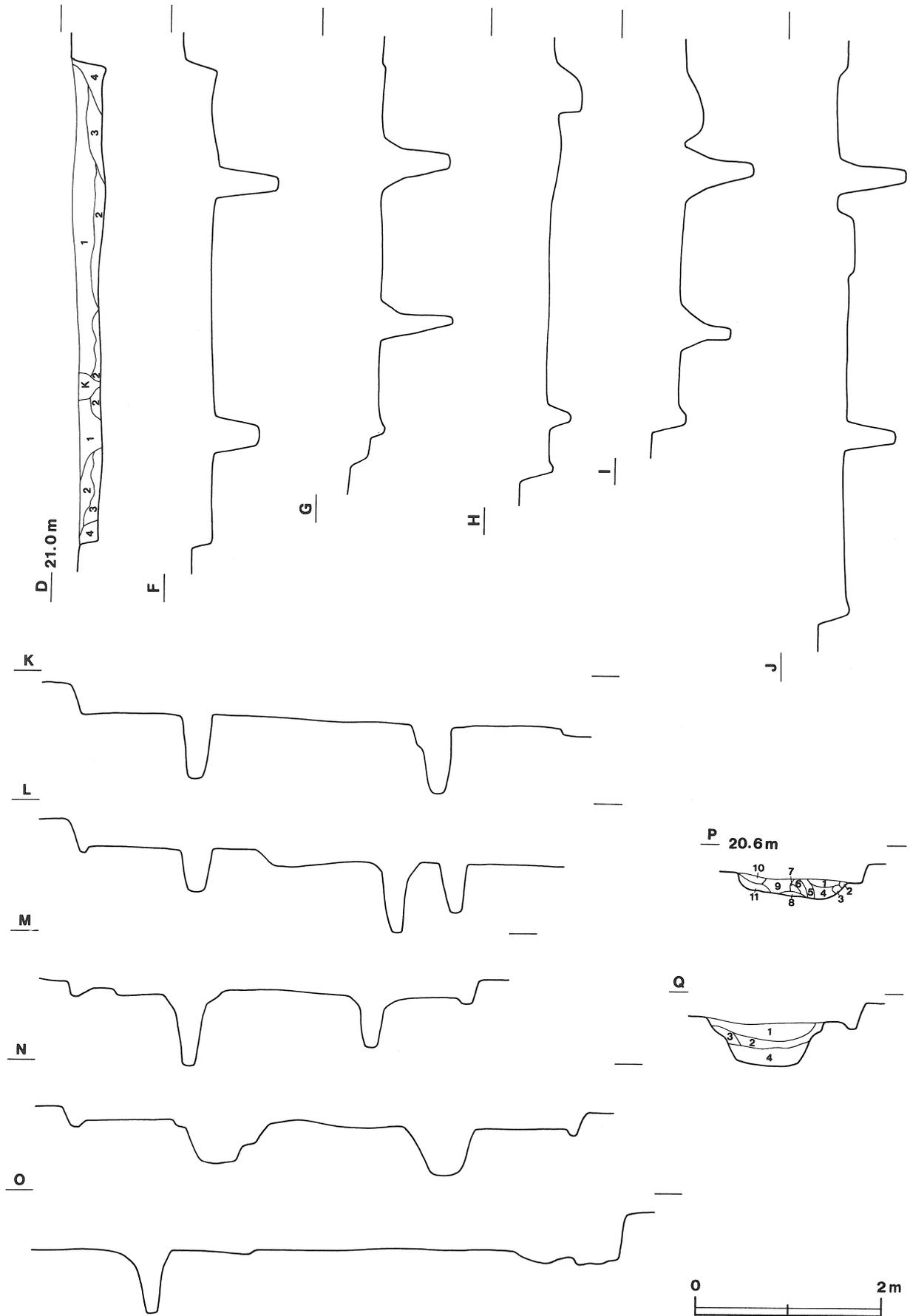
床 平坦で，全体的に踏み固められている。

ピット 4か所（P1~P4）。P1は径43cmの円形，深さ75cm。P2~P4は長径30~39cm，短径28~35cmの円形及び楕円形，深さ49~66cmで，いずれも支柱穴である。

覆土 4層からなり，自然堆積である。



第83图 第24·25·26号住居跡実測图(1)



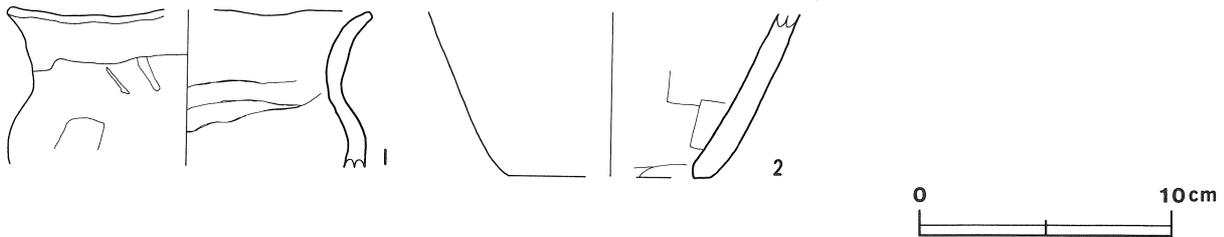
第84图 第24·25·26号住居迹实测图(2)

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
 2 暗褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子少量
 3 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
 4 黒褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量

遺物 土師器片909点, 須恵器片12点, 鉄滓1点が出土している。1の土師器甕は覆土下層から, 2の土師器甕は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡は竈が確認できなかったが, 第25, 27号住居跡と重複している北西壁, または北東壁に構築されていたと考えられる。時期は, 1, 2から古墳時代後期と考えられる。



第85図 第24号住居跡出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第85図 1	甕 土師器	A [14.2] B (6.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・長石 黒褐色 普通	P84 10% 覆土下層
2	甕 土師器	B (6.5) C [8.1]	体部下位の破片。無底式。体部下位は外傾して立ち上がる。	体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・長石 にふい橙色 普通	P85 5% 覆土中層

第26号住居跡 (第83・84・86図)

位置 調査3区西部, K11d2区。

重複関係 本跡は第24, 25, 27号住居跡に掘り込まれているので, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸 [5.82] m, 短軸5.62mで方形と考えられる。

主軸方向 N-22°-W

壁 壁高は14~19cmで外傾して立ち上がる。壁溝は北東壁下, 南西壁下, 北西壁下に確認され, 上幅11~35cm, 下幅4~14cm, 深さ3~7cmで, 断面形はU字形である。

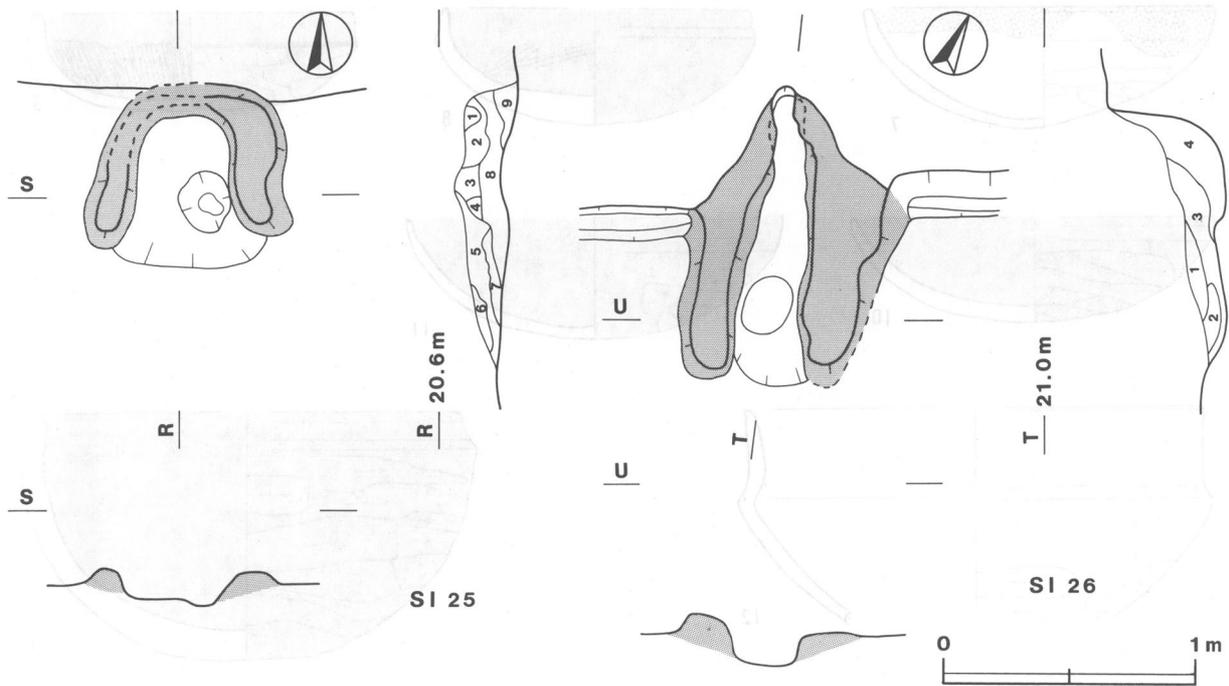
床 全体的に平坦で, 出入り口から竈にかけての中心部が踏み固められている。

竈 北西壁中央部に砂粒まじりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで112cm, 両袖最大幅78cm, 壁外への掘り込みは40cmである。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床面は床面を11cm掘りくぼめており, 火熱を受けて部分的に赤変した面がみられる。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量, 粘土粒子少量
 2 赤褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子微量
 3 黒褐色 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量, 粘土粒子少量
 4 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量, 炭化粒子微量

ピット 5か所 (P1~P5)。P1からP4は長径68~95cm, 短径50~80cmの円形及び楕円形, 深さ42~70cmで, いずれも主柱穴である。P5は北コーナー付近に掘り込まれており, 規模と平面形は長径125cm, 短径86cmの楕円形, 深さ44cmで, 底面は皿状をしている。性格は不明である。



第86図 第25・26号住居跡竈実測図

P 5 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 粘土小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子少量

- 3 黒色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量

覆土 4層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- 9 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 10 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

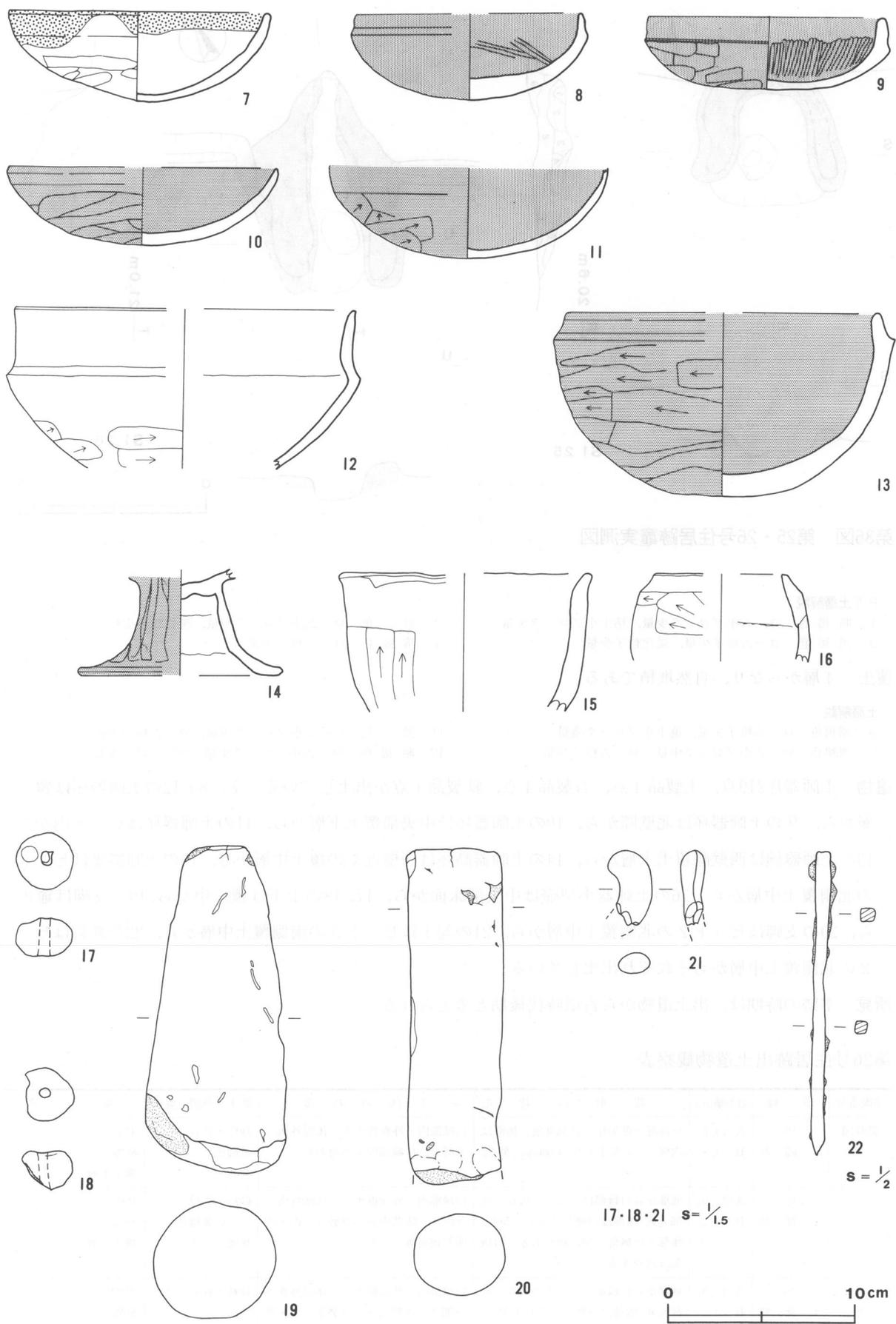
- 11 褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量

遺物 土師器片219点, 土製品4点, 石製品1点, 鉄製品1点が出土している。7, 8, 12の土師器坏は覆土下層から, 9の土師器坏は北壁際から, 10の土師器坏は中央部覆土下層から, 11の土師器坏はピット内から, 13の土師器碗は西壁際覆土上層から, 14の土師器高坏は西壁近くの覆土中層から, 15の土師器甕はピット2の北側覆土中層から, 16の土師器小型壺は中央部床面から, 17, 18の土玉は覆土中から, 19の支脚は竈内から, 20の支脚はピット2の北側覆土中層から, 21の勾玉はピット5の南側覆土中層から, 22の鉄釘はピット2の北側覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代後期と考えられる。

第26号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第87図 7	坏 土師器	A 13.8 B 4.8	口縁部一部欠損。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。口縁部内・外面赤彩	砂粒・長石 黒褐色 普通	P 82 80% 覆土下層
8	坏 土師器	A [12.0] B 4.2	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり, 体部と口縁部の境に稜がある。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にふい黄橙色 普通	P91 80% 覆土下層
9	坏 土師器	A 12.9 B 4.2	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり, 体部と口縁部の境に稜がある。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・スコリア にふい褐色 普通	P 92 80% 北西壁際



第87图 第26号住居跡出土遺物実測图

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第87図 10	坏 土師器	A [14.4] B 4.2	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・スコリア、黒褐色 普通	P93 60% 覆土中層
11	坏 土師器	B (4.8)	底部から口縁部下位にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・雲母 黒褐色 普通	P96 50% ピット4内
12	坏 土師器	A [18.0] B (8.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜がある。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石 にふい褐色 普通	P94 20% 覆土下層
13	鉢 土師器	A [16.6] B 9.9	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜がある。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・スコリア 黒褐色 普通	P99 40% 覆土上層
14	高坏 土師器	B (5.7) D [11.0]	脚部破片。脚部は短い円柱形で、裾部は強く開く。	脚部外面へラ削り。脚部内面ナデ。外面黒色処理。	砂粒・石英・長石 にふい褐色 普通	P83 30% 覆土中層
15	小型壺 土師器	A [13.0] B (7.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 黒色 普通	P98 20% 覆土中層
16	小型壺 土師器	A [7.0] B (4.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・長石・スコリア、橙色 普通	P97 30% 床直

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第87図17	土玉	1.5	1.5	1.0	0.2	2.0	覆土中	D P 8 100%
18	土玉	1.4	1.4	(1.1)	0.3	(1.0)	覆土中	D P 9 55%
19	支脚	17.5	7.5	6.3		(737.0)	覆土中	D P 10 90%
20	支脚	18.0	5.3	4.5		(526.0)	覆土中	D P 11 90%

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第87図21	勾玉	(2.0)	1.1	0.6	(2.0)	緑泥片岩	覆土上層	Q 6 80%

図版番号	種別	計測値				備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
第87図22	鉄釘	(10.8)	0.5	0.5	(8.0)	M 3 覆土中 90%

第29号住居跡 (第88図)

位置 調査3区西端部，K10g7区。

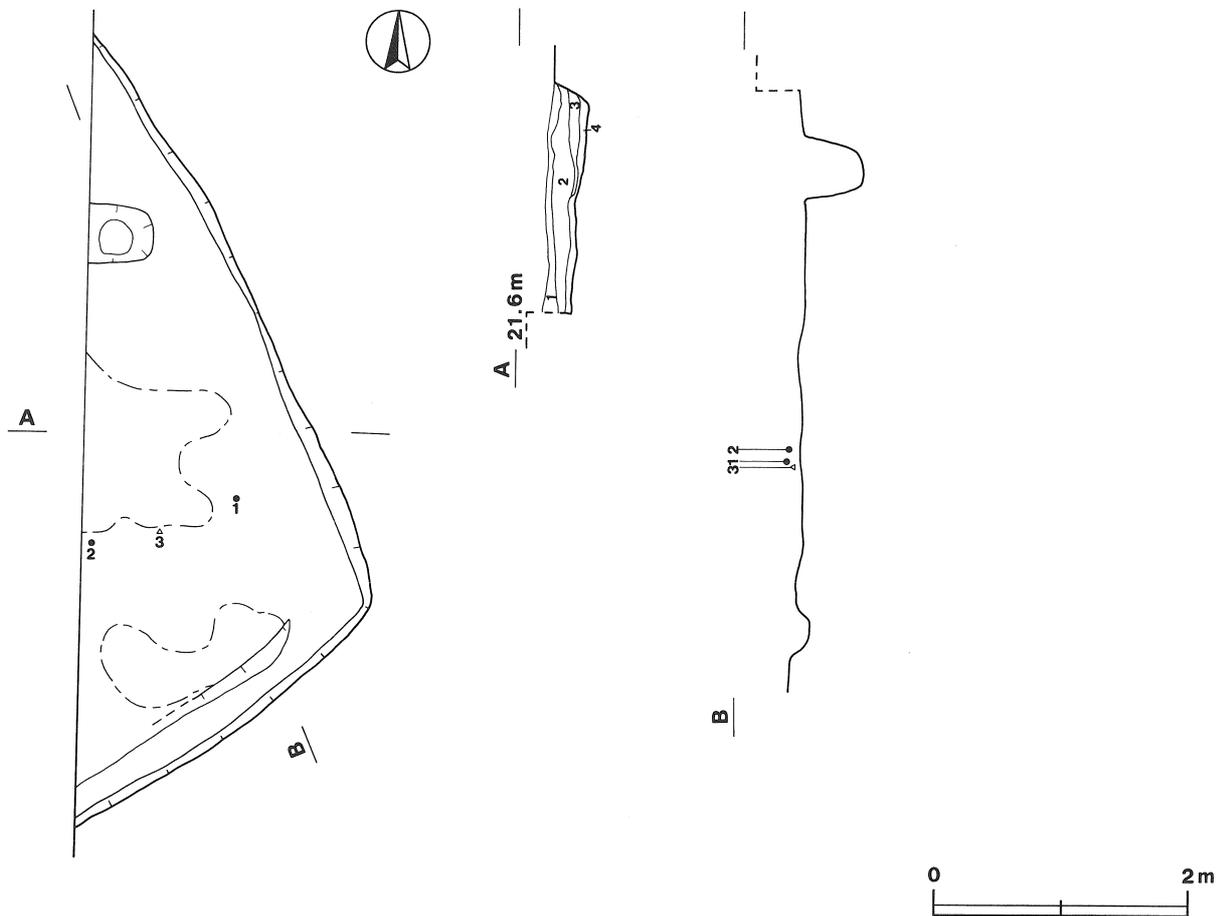
規模と平面形 本跡の西側3分の2が調査区域外へ延びているので，規模や平面形は明確ではないが，残存する壁や床から，長軸(4.90)m，短軸(2.55)mで，方形または長方形と考えられる。

主軸方向 N-30°-W

壁 壁高は9cmで，外傾して立ち上がる。壁溝は南東壁下に一部確認され，上幅39cm，下幅16cm，深さ5cmで断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で，中心部が踏み固められている。

覆土 4層からなり，自然堆積である。



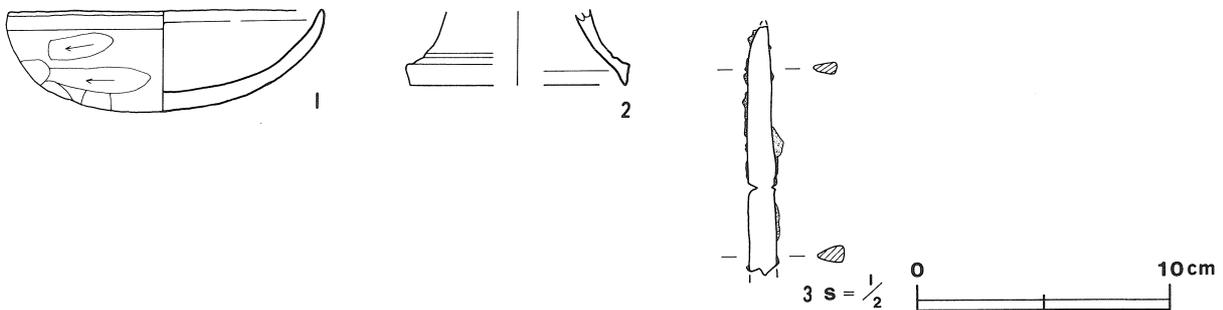
第88図 第29号住居跡実測図

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量, 炭化粒子少量 | 3 褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子少量 | 4 褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 |

遺物 土師器片365点, 須恵器片4点, 鉄製品1点が出土している。1の土師器坏と2の須恵器高坏が中央部覆土下層から, 3の鉄製品が覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代と考えられる。



第89図 第29号住居跡出土遺物実測図

第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第89図 1	坏 土師器	A 12.4	口縁部一部欠損。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P104 90% 覆土下層
		B 4.0				
2	高坏 須恵器	D [8.6] E (2.9)	裾部破片。裾部は「ハ」の字状に開き、屈曲して短く垂下する。	内・外面クロロナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P105 5% 覆土下層

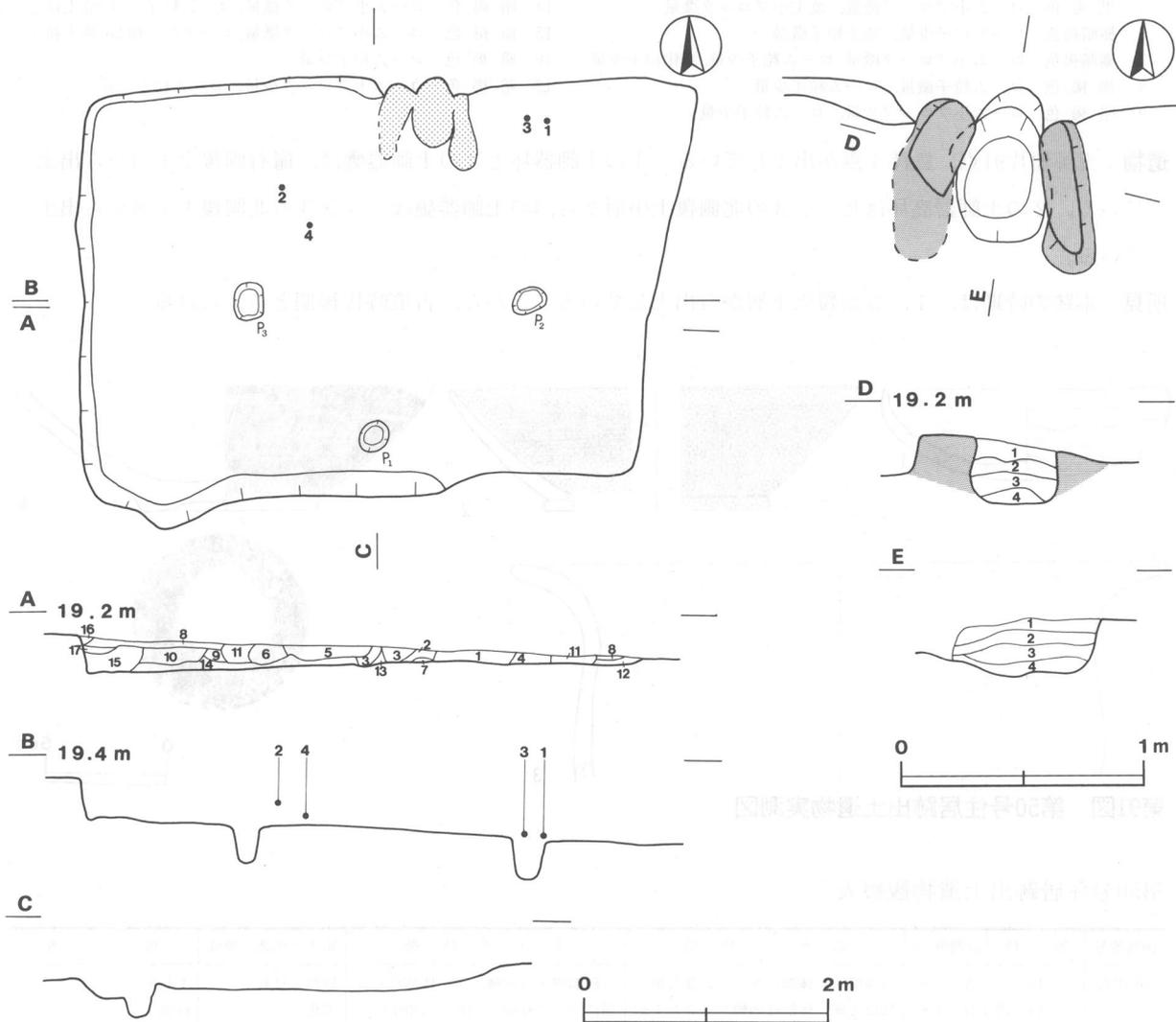
図版番号	種別	計測値				備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
第89図3	刀子	(6.6)	0.8	0.5	(4.0)	M4 覆土下層 30%

第50号住居跡 (第90図)

位置 調査1区の北部, G13b8区。

規模と平面形 長軸4.40m, 短軸3.45mの長方形である。

主軸方向 N-12°-E



第90図 第50号住居跡実測図

壁 壁高は16～30cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦である。

竈 北壁中央部に砂粒まじりの白色粘土で構築されているが、耕作による攪乱を受けている。天井部は崩落しほとんど残存していない。規模は煙道部から焚口部まで65cm、両袖最大幅86cm、壁外への掘り込みは10cmである。袖の内壁は火熱を受けて部分的に赤変している。火床面は床面を8cm掘りくぼめており、火熱を受けて部分的に赤変している。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子微量, 焼土小ブロック少量
- 2 暗赤褐色 焼土中ブロック少量, 焼土小ブロック少量
- 3 暗赤褐色 ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック中量, 焼土粒子中量
- 4 暗赤褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子多量

ピット 3か所 (P1～P3)。P1は長径25cm, 短径20cmの楕円形, 深さ25cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は長径30cm, 短径20cmの楕円形, 深さ34cmである。P3は長径31cm, 短径24cmの楕円形で、いずれも支柱穴と考えられる。床面を丁寧に精査したが、他にピットを確認することはできなかった。

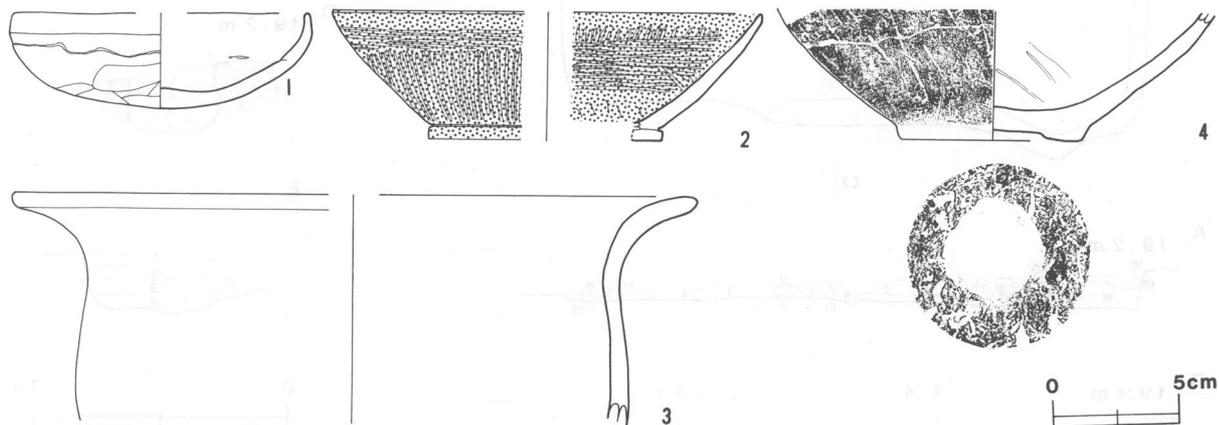
覆土 17層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック微量, 焼土小ブロック微量
- 6 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 7 極暗褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子少量, 炭化粒子少量
- 8 黒褐色 ローム粒子微量, ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
- 10 黒褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子少量, 炭化粒子少量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 12 褐色 ローム粒子多量
- 13 暗褐色 ローム中ブロック中量
- 14 暗褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 15 暗褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子微量, 焼土粒子微量
- 16 暗褐色 ローム粒子少量
- 17 暗褐色 ローム大ブロック少量, ローム粒子少量

遺物 土師器片91点, 鉄滓1点が出土している。1の土師器坏と3の土師器甕は、竈右側覆土下層から出土している。2の土師器高坏はピット3の北側覆土中層から、4の土師器甕はピット3の北側覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、1, 3が覆土下層から出土していることから、古墳時代後期と考えられる。



第91図 第50号住居跡出土遺物実測図

第50号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第91図 1	土師器 坏	A[11.8] B 3.8	口縁部から体部にかけて一部欠損。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石 赤色 普通	P170 60% 覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第91図 2	高坏 土師器	A [17.0] B (5.1)	坏部破片。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	坏部内・外面へラ磨き。赤彩。	砂粒・長石 赤色 普通	P171 20% 覆土中層
3	甕 土師器	A [26.6] B (9.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、橙色 普通	P172 20% 覆土下層
4	甕 土師器	B (5.1) C 7.2	底部から体部下位にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラナデ。内面ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、にぶい褐色 普通	P173 10% 覆土中

第56号住居跡（第9図）

位置 調査1区の北部，G13c7区。

重複関係 本跡は第55号住居跡を掘り込んでいるので，本跡が新しい。

規模と平面形 一辺が4.81mの方形と考えられる。

主軸方向 N-7°-E

壁 壁高は10～22cmで，外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で，出入口から竈にかけての中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に砂粒まじりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで116cm，両袖最大幅106cm，壁外への掘り込みは22cmである。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子微量，焼土小ブロック少量	7 極暗褐色	ローム粒子微量，焼土中ブロック微量
2 灰褐色	ローム粒子微量，焼土小ブロック少量，粘土小ブロック中量	8 赤褐色	ローム粒子微量，焼土小ブロック中量
3 暗褐色	焼土小ブロック少量，焼土粒子少量，粘土小ブロック少量	9 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子少量
4 極暗褐色	ローム粒子微量，焼土小ブロック微量，粘土粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子少量
5 暗赤褐色	ローム粒子微量，焼土中ブロック中量，焼土粒子中量	11 暗褐色	焼土小ブロック中量，焼土粒子中量
6 褐色	ローム小ブロック少量，焼土小ブロック少量，粘土小ブロック少量		

ピット 7か所（P₁～P₇）。P₁は径30cmの円形で，深さ40cm，P₂は長径30cm，短径25cmの楕円形で，深さ43cm，P₃は長径50cm，短径35cmの楕円形で，深さ51cm，P₄は径30cmの円形，深さ25cmで，いずれも支柱穴である。P₅は長径75cm，短径45cmの楕円形，深さ25cmで，出入口施設に伴うピットと考えられる。P₆とP₇は長径40～42cm，短径20～36cmの楕円形，深さ16～29cmで，性格は不明である。

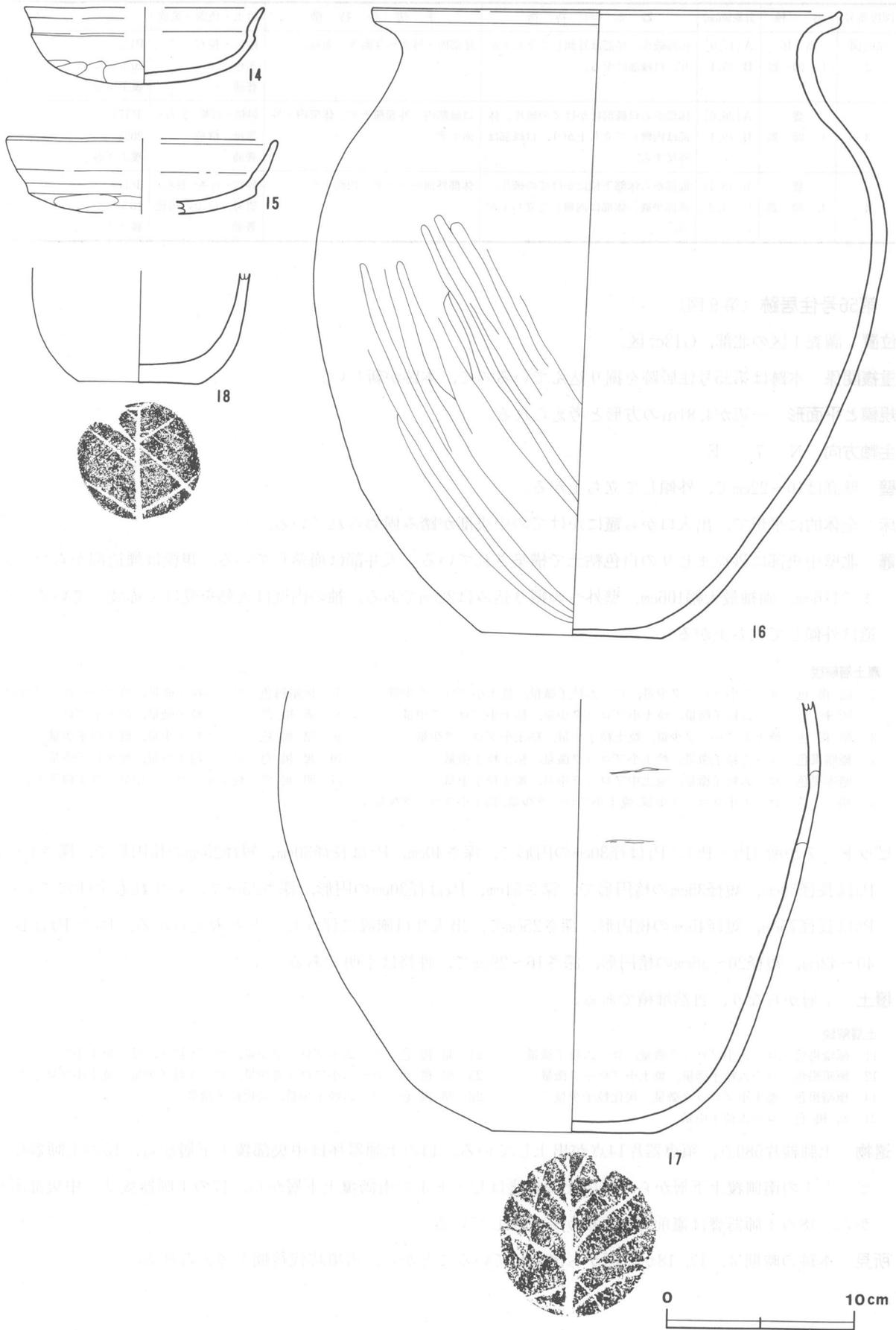
覆土 7層からなり，自然堆積である。

土層解説

11 極暗褐色	ローム小ブロック微量，ローム粒子微量	24 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，焼土小ブロック少量
12 極暗褐色	ローム粒子微量，焼土小ブロック微量	25 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，焼土小ブロック中量
14 極暗褐色	焼土小ブロック微量，炭化粒子少量	26 暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
21 暗褐色	ローム粒子中量		

遺物 土師器片580点，須恵器片14点が出土している。14の土師器坏は中央部覆土下層から，15の土師器坏はピット1の南側覆土下層から，16の土師器甕はピット1の南側覆土下層から，17の土師器甕は，中央部床面から，18の土師器甕は竈前方の床面から出土している。

所見 本跡の時期は，17，18が床面から出土していることから，古墳時代後期と考えられる。



第92図 第56号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第92図 14	坏 土師器	A [12.7] B 4.1	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜がある。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・スコリア にふい黄橙色 普通	P193 60% 覆土下層
15	坏 土師器	A [14.2] B (4.0)	底部から口縁部にかけての破片。底部丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜がある。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部から底部にかけて外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 にふい黄橙色 普通	P195 30% 覆土下層
16	甕 土師器	A 24.8 B 33.9 C 9.7	底部平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾し、端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部上位外面ナデ。中位から底部にかけてへラ磨き。内面へラナデ。	砂粒・石英・長石 にふい橙色 普通	P196 70% 床直
17	甕 土師器	B (23.2) C 8.6	底部から体部中位にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ磨き。体部内面へラナデ。底部木葉痕。	砂粒・石英・長石・ 雲母、黒褐色 普通	P197 40% 床直
18	小型甕 土師器	B (6.0) C 6.4	底部から体部下位にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P194 30% 覆土下層

第76号住居跡 (第93・94図)

位置 調査1区の中央部，H13b6区。

重複関係 本跡は第77-A，77-B号住居跡に掘り込まれているので，本跡が古い。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが，残存する壁や床から長軸 [3.65] m，短軸 [3.20] m で方形と考えられる。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は10cmで，外傾して立ち上がる。壁溝は，東壁下から南壁下にかけて確認され，上幅10~18cm，下幅5~8cm，深さ3~8cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で，出入口から竈にかけての中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に構築されているが，耕作による攪乱を受けているので掘り方だけを確認した。規模は煙道部から焚口部まで88cm，火床部は床面を5cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 灰褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子中量，粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，粘土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量，焼土大ブロック中量，焼土粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子中量，炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，焼土粒子少量，炭化粒子少量，粘土粒子少量
- 6 灰褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック少量
- 8 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量，粘土粒子中量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量，粘土粒子少量

ピット P1は長径71cm，短径60cmの楕円形，深さ60cmで，北東コーナー付近に掘り込まれている。底面は平坦，壁は外傾して立ち上がる。性格は不明である。

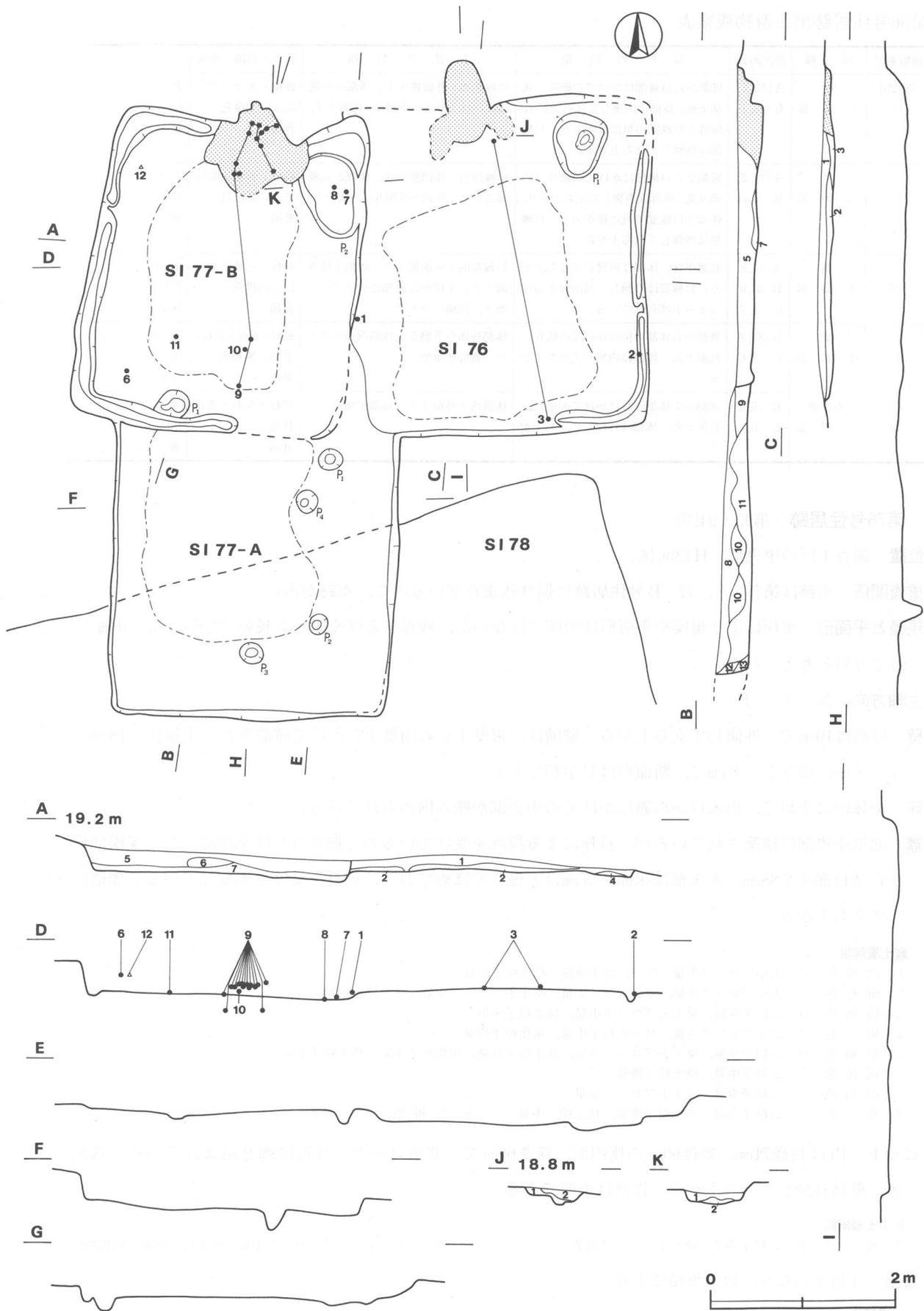
P1土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量，焼土小ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック少量，焼土粒子少量，炭化物微量

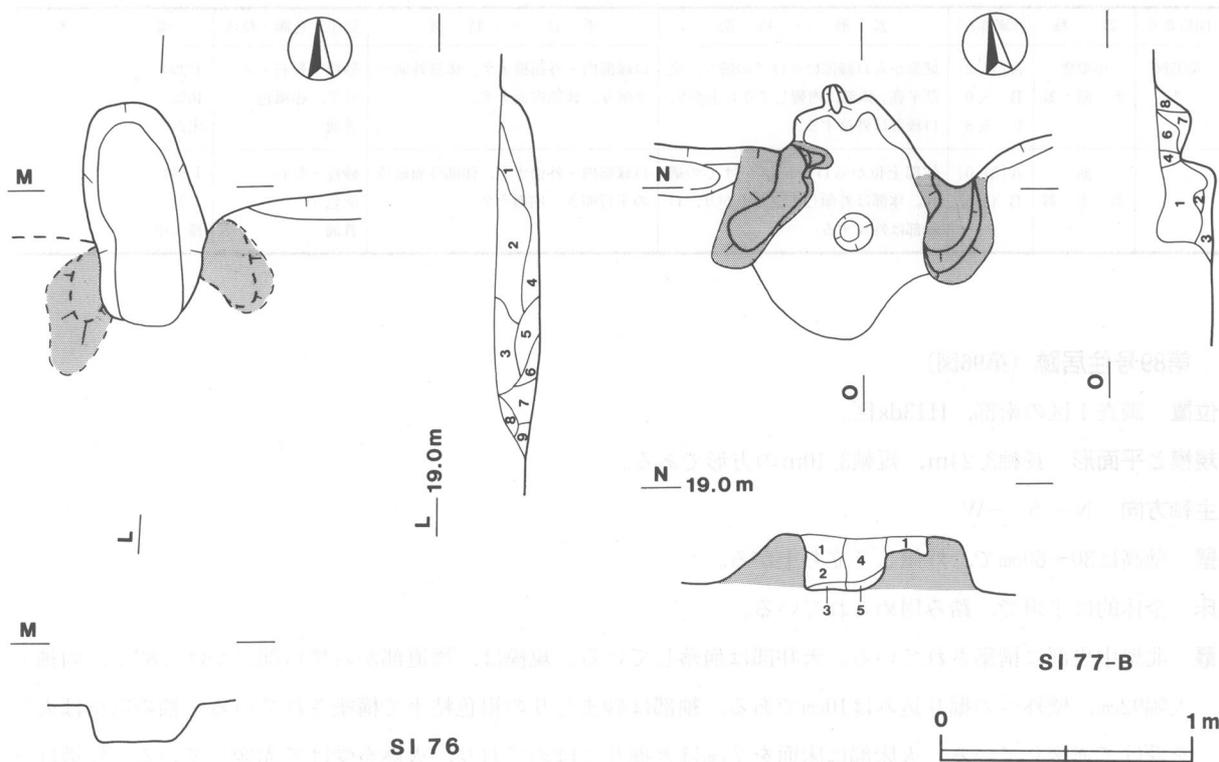
覆土 4層からなり，自然堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
- 3 灰褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，粘土粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量



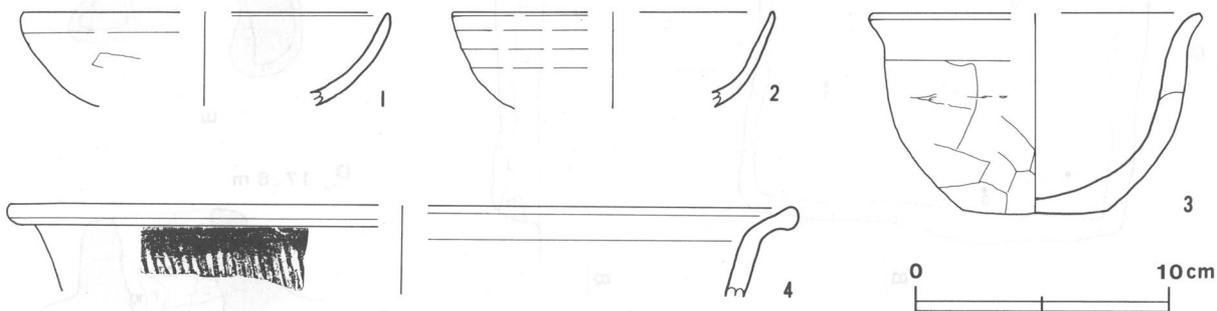
第93图 第76·77-A·B号住居跡実測図



第94図 第76・77-B号住居跡竈実測図

遺物 土師器片120点，須恵器片18点，鉄滓1点が出土している。3の土師器小型甕は，竈前方と南壁際から出土した破片が接合している。1の土師器坏は西壁際から，2の須恵器坏は東壁際から，4の須恵器甕は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，3が床面から出土していることから，古墳時代後期と考えられる。



第95図 第76号住居跡出土遺物実測図

第76号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第95図 1	土師器 坏	A [14.4] B (3.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石・スコリア，橙色 普通	P542 10% 西壁際
2	須恵器 坏	A [12.6] B (3.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。	砂粒・長石・雲母 灰色 普通	P543 10% 東壁際

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第95図 3	小型甕 土師器	A [13.2] B 8.0 C 5.8	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・長石・スコリア、赤褐色 普通	P 290 40% 床直
4	瓶 須恵器	A [31.0] B (3.5)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。内面ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P 544 5% 覆土中

第89号住居跡（第96図）

位置 調査1区の南部，H13d8区。

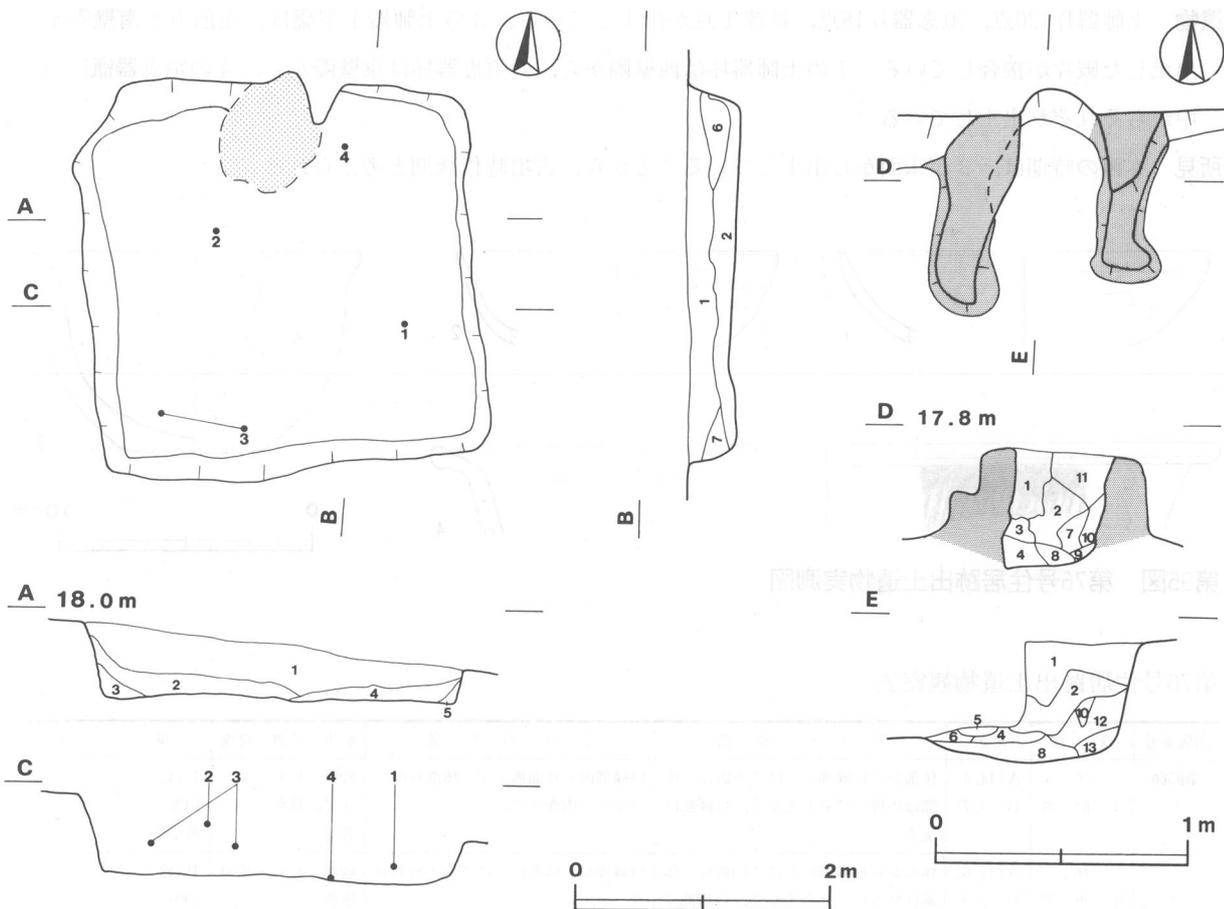
規模と平面形 長軸3.24m，短軸3.10mの方形である。

主軸方向 N-5°-W

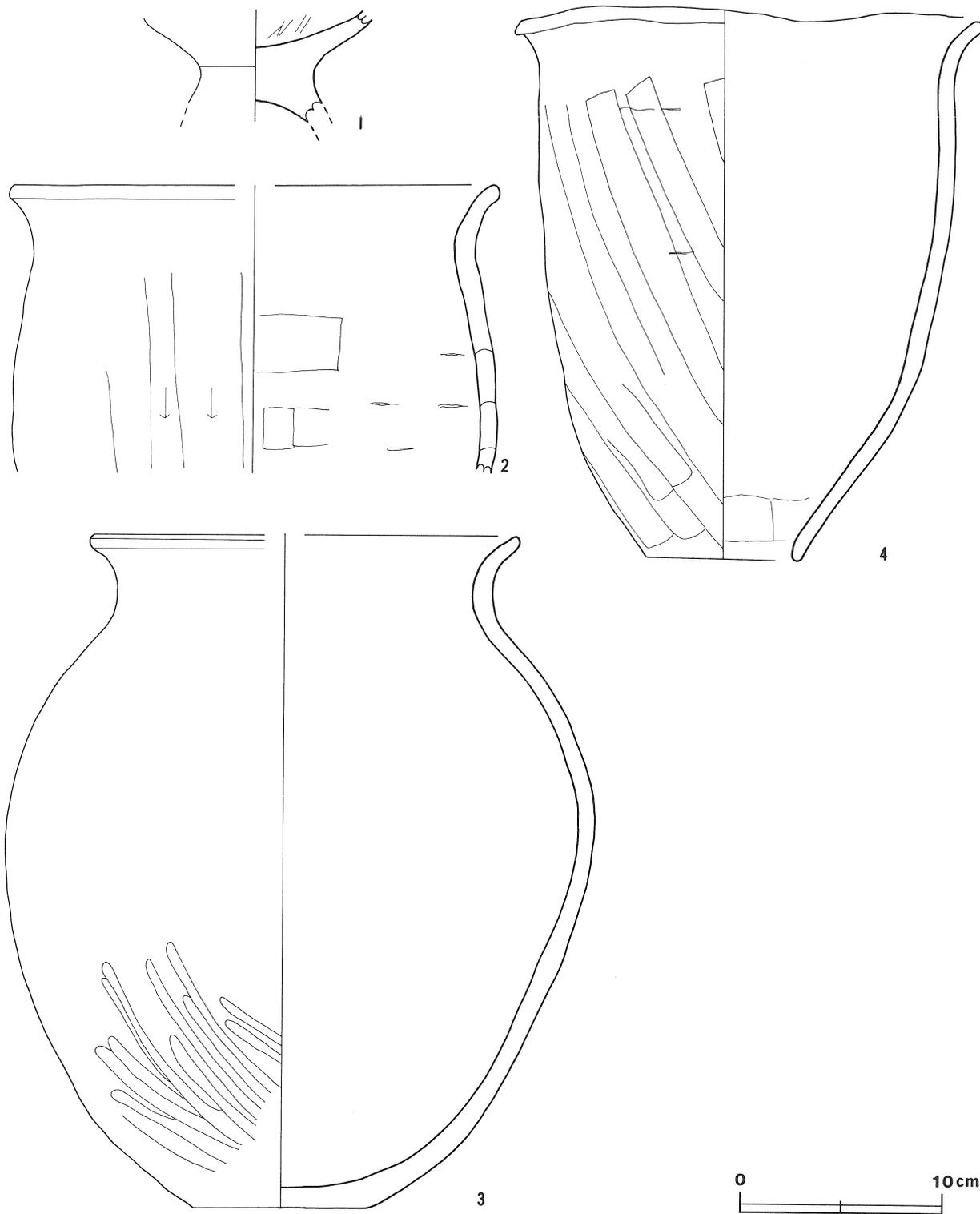
壁 壁高は30~60cmで，外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で，踏み固められている。

竈 北壁中央部に構築されている。天井部は崩落している。規模は，煙道部から焚口部にかけて82cm，両袖最大幅92cm，壁外への掘り込みは10cmである。袖部は砂まじりの褐色粘土で構築されている。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床部は床面を7cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。左袖部最大幅20cmで，袖部の内壁は火熱を受けて赤変している。



第96図 第89号住居跡実測図



第97図 第89号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|----------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 砂多量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子微量, 炭化粒子少量, 砂多量 |
| 2 褐色 | 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量, 砂多量 | 9 褐色 | 焼土粒子微量, 砂多量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 砂多量 | 10 赤褐色 | 焼土粒子多量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量, 砂多量 | 11 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 砂中量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 灰粒子少量, 砂中量 | 12 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 6 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 砂中量 | 13 褐色 | ローム粒子多量, 焼土小ブロック微量, 炭化粒子微量 |
| 7 赤褐色 | 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量, 砂多量 | | |

覆土 7層からなり、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|-------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 炭化物少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子少量 | 7 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 |
| 4 極暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 | | |

遺物 土師器片300点, 須恵器片5点, 鉄滓3点が出土している。4の土師器甑は竈右側の床面から, 1の土師器高坏は覆土下層から, 2, 3の土師器甕は覆土中層から, それぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 4が床面から出土していることから, 古墳時代後期と考えられる。

第89号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第97図 1	高坏 土師器	B (4.2) E (1.8)	脚部上位から坏部下位にかけての破片。坏体部は内彎して立ち上がる。	坏部外面へラ削り後ナデ。内面へラ磨き。	砂粒・長石・スコリア, 暗褐色 普通	P 577 15% 覆土下層
2	甕 土師器	A [23.6] B (14.3)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	砂粒・石英・長石にふい黄橙色 普通	P 578 10% 覆土中層
3	甕 土師器	A [21.0] B 33.3 C 8.8	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位から中位にかけてナデ。下位へラ磨き。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母, にふい赤褐色, 普通	P 326 85% 覆土中層
4	甕 土師器	A 22.9 B 27.4 C 7.8	無底式。体部下位は内彎し, 中位から直立する。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	砂粒・長石・スコリア, 橙色 普通	P 327 95% 床直

第119号住居跡 (第98図)

位置 調査4区中央部, I11f2区。

規模と平面形 長軸3.80m, 短軸3.55mの方形である。

主軸方向 N-11°-W

壁 壁高は15~20cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で, あまり踏み固められていない。

竈 北壁中央部付近に径30cmの半円形に焼土が確認され, その両脇に砂混じりの灰色粘土で構築された袖部の一部が残存しており, ここに竈が存在したと思われる。攪乱により, 規模や火床部とも不明である。

竈土層解説

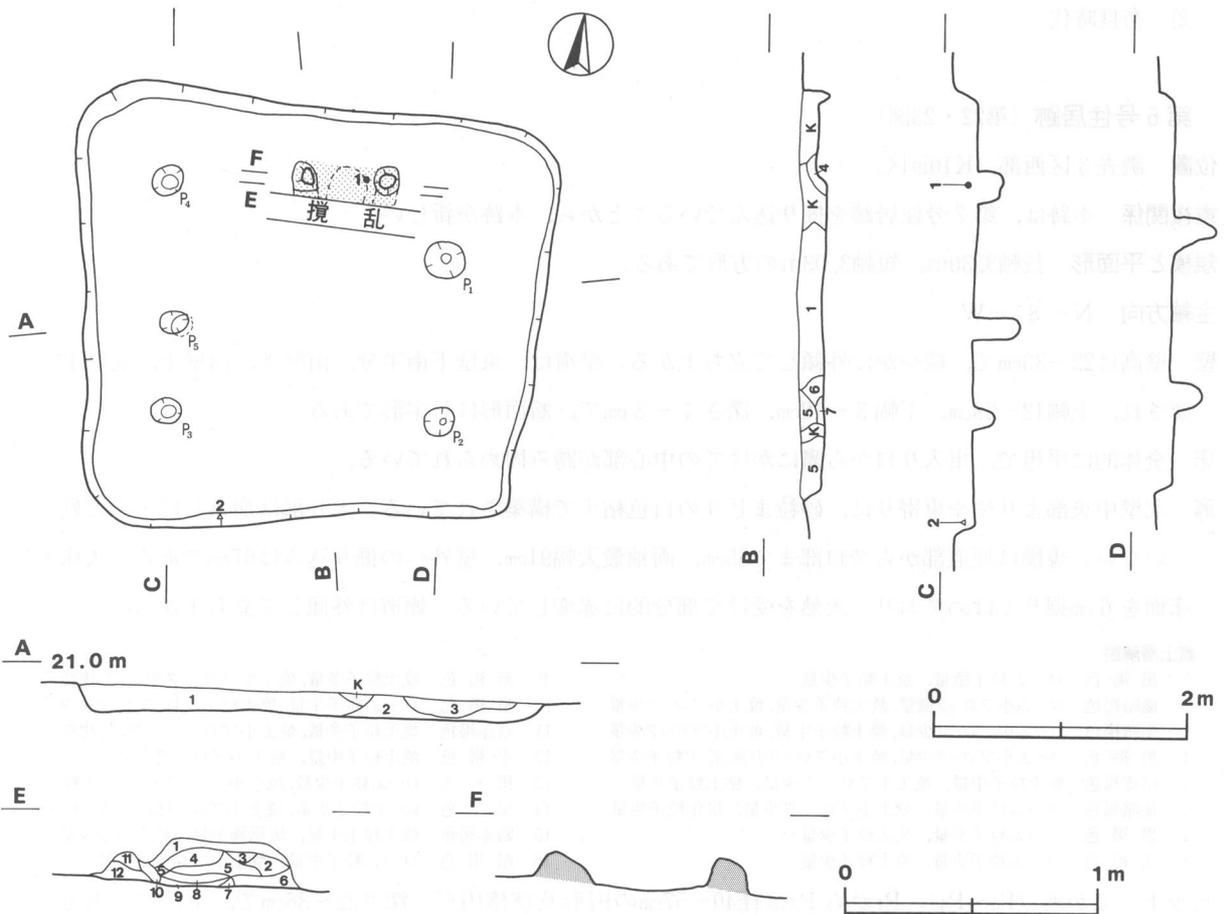
- | | | | |
|--------|---------------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子多量 |
| 2 灰褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 明褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 3 灰赤色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子少量 | 9 灰白色 | 粘土粒子・灰多量, 焼土粒子中量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・粘土粒子微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 5 灰褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子微量 | 11 鈍い褐色 | ローム粒子・粘土粒子・粘土小ブロック少量 |
| 6 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 12 鈍い褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量 |

ピット 5か所。P1~P4は長径33~43cm, 短径20~40cmの楕円形で, 深さは18~37cmである。位置から支柱穴と考えられる。P5は長径22cm, 短径18cmの楕円形で, 深さは37cmである。位置から, 出入り口ピットと考えられる。

覆土 7層からなるが, 攪乱を受けており, 人為堆積か自然堆積かは不明である。

土層解説

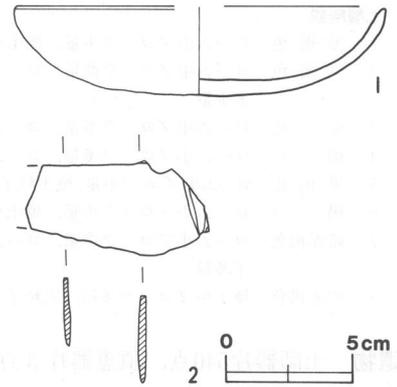
- | | | | |
|-------|--------------------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子・粘土粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム中ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 灰褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量 | 7 褐色 | ローム大ブロック多量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子微量 | | |



第98図 第119号住居跡実測図

遺物 土師器片18点，須恵器片2点，灰釉陶器片2点，鉄器1点が出土している。攪乱による流れ込みの遺物が多いと思われるが，2の鉄製の鎌が南壁の覆土中から，1の土師器の坏が竈内から出土している。

所見 本跡は攪乱が激しく，出土遺物の多くが流れ込みと思われるが，竈内からの出土遺物から時期は古墳時代後期と思われる。



第99図 第119号住居跡出土遺物実測図

第119号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第99図 1	坏 土師器	A [14.8] B 3.5	丸底気味で，体部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石 にふい橙色 普通	P 421 30% 竈内

図版番号	種別	計測値				備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
第99図2	鉄鎌	(7.5)	3.7	0.4	32.0	M37 覆土下層 20%

(2) 奈良時代

第6号住居跡 (第22・23図)

位置 調査3区西部, K10i9区。

重複関係 本跡は, 第7号住居跡を掘り込んでいることから, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.30m, 短軸3.03mの方形である。

主軸方向 N-8°-W

壁 壁高は22~33cmで, 緩やかに外傾して立ち上がる。壁溝は, 東壁下南半分, 南壁下, 西壁下, 北壁下で確認され, 上幅12~29cm, 下幅3~12cm, 深さ4~8cmで, 断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で, 出入り口から竈にかけての中心部が踏み固められている。

竈 北壁中央部よりやや東寄りに, 砂粒まじりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しほとんど残存していない。規模は煙道部から焚口部まで65cm, 両袖最大幅91cm, 壁外への掘り込みは67cmである。火床面は床面を6cm掘りくぼめており, 火熱を受けて部分的に赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

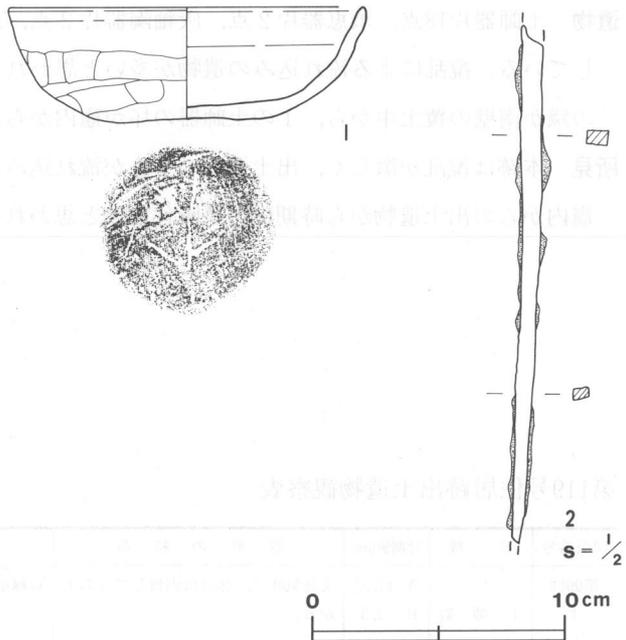
- | | | | |
|--------|-------------------------------|---------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量, 焼土粒子少量 | 9 赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ローム小ブロック微量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量 |
| 3 極暗褐色 | ローム中ブロック少量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック少量, 粘土粒子少量 | 12 赤褐色 | 焼土粒子中量, 粘土小ブロック少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 粘土粒子少量 | 13 褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 粘土粒子少量 |
| 6 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量 | 14 褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量, 粘土粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子少量 | 15 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化物少量, 粘土粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子少量 | 16 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック微量 |

ピット 4か所 (P1~P4)。P1からP3は径40~57cmの円形及び楕円形, 深さ22~36cmで, 支柱穴である。P4は長径60cm, 短径49cmの楕円形, 深さ19cmで, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム中ブロック微量, ローム粒子少量, 焼土粒子少量 |
| 3 褐色 | ローム中ブロック多量, ローム粒子多量 |
| 4 褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子多量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量 |
| 6 褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック少量 |
| 7 暗赤褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子多量 |
| 8 明赤褐色 | 焼土小ブロック多量, 灰粒子多量 |



遺物 土師器片540点, 須恵器片3点, 陶器片2点, 鉄製品1点が出土している。1の土師器坏は中央部覆土下層から, 2の鉄製品は床面から出土している。

所見 本跡の時期は, 1が覆土下層から出土していることから, 奈良時代と考えられる。

第100図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第100図 1	坏 土師器	A 14.0 B 4.6	底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラ削り。底部木葉痕。	砂粒・石英・長石・雲母、褐灰色 普通	P34 70% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
第100図2	鉄釘	(13.7)	0.5	0.4	(13.7)	M2 覆土下層 90%

第8号住居跡 (第101図)

位置 調査3区南西部, K11j1区。

重複関係 本跡は第9-A号住居跡を掘り込んでいるので、本跡が新しい。

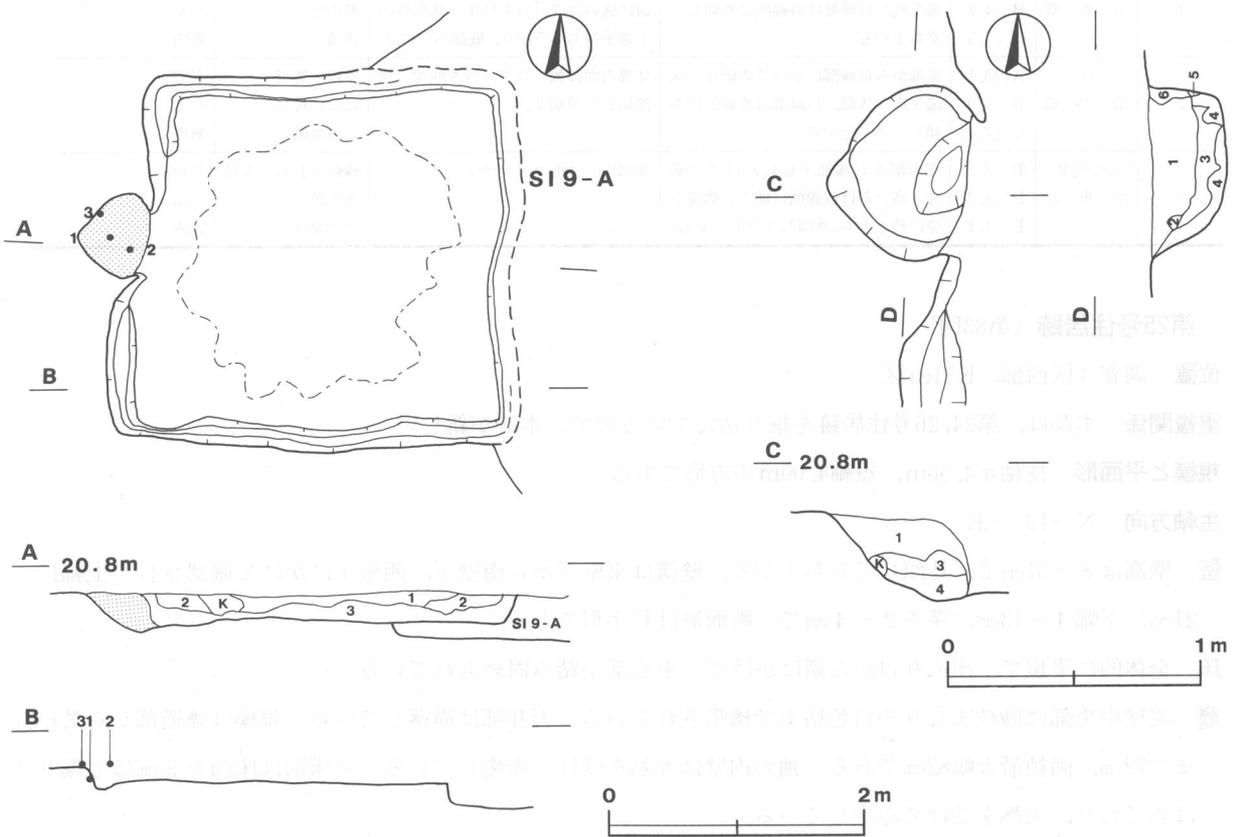
規模と平面形 長軸 [3.23] m, 短軸 [3.03] mの方形と考えられる。

主軸方向 N-90°-W

壁 壁高は最大で14cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で、出入口口から竈にかけての中心部が踏み固められている。

竈 西壁に構築されている。天井部と両袖部はほとんど残存しておらず、掘り方だけを確認した。規模は煙道部から焚口部まで70cm, 最大幅60cm, 壁外への掘り込みは23cmである。火床面は床面を4cm掘りくぼめており、火熱を受けて部分的に赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。



第101図 第8号住居跡実測図

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土中ブロック少量, 焼土粒子少量
- 2 明赤褐色 焼土粒子多量
- 3 黄褐色 焼土粒子中量, 粘土粒子多量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック多量, 焼土粒子多量, 灰粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック中量, 焼土粒子中量, 灰粒子多量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック少量, 焼土粒子中量, 灰粒子少量

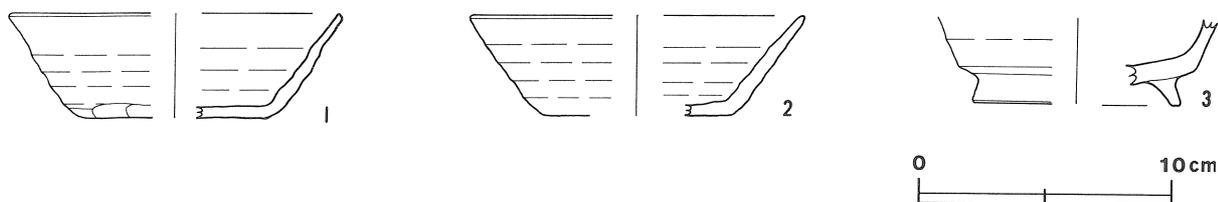
覆土 3層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック微量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量

遺物 土師器片265点が出土している。1, 2の須恵器坏と3の須恵器高台付坏は, いずれも竈内から出土している。

所見 本跡は, 西壁中央に竈を構築した住居跡である。時期は, 1~3が竈内から出土していることから奈良時代と考えられる。



第102図 第8号住居跡出土遺物実測図

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第102図 1	坏 須恵器	A [13.3] B 4.2 C [7.5]	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目を残す。体部外面下端手持ちへら削り。底部へら切り。	砂粒・雲母 褐灰色 普通	P38 20% 竈内
2	坏 須恵器	A [13.1] B 4.0 C [7.4]	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部, 口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面に強いロクロ目を残す。底部回転へら切り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 2次焼成	P39 20% 竈内
3	高台付坏 須恵器	B (3.5) D [8.2] E 1.1	高台部から体部下位にかけての破片。高台部は直線的に開く。体部下位に稜をもち, 外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・雲母 褐灰色 2次焼成	P40 5% 竈内

第25号住居跡 (第83図)

位置 調査3区西部, K11e2区。

重複関係 本跡は, 第24, 26号住居跡を掘り込んでいるので, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸が4.50m, 短軸4.00mの方形である。

主軸方向 N-12°-E

壁 壁高は8~31cmで, 外傾して立ち上がる。壁溝は東壁下から南壁下, 西壁下にかけて確認され, 上幅15~21cm, 下幅4~13cm, 深さ2~4cmで, 断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で, 出入り口から竈にかけての中心部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に砂粒まじりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで72cm, 両袖最大幅82cmである。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床面は床面を5cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

- 1 灰褐色 焼土粒子少量, 粘土粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子少量, 粘土粒子少量
- 3 灰褐色 焼土小ブロック微量, 粘土粒子中量
- 4 褐色 焼土小ブロック少量, 粘土粒子少量
- 5 灰褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 粘土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量, 粘土粒子少量
- 7 赤褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子中量, 粘土粒子少量
- 8 赤褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子中量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量

ピット 6か所 (P1~P6)。P1からP4は長径55~65cm, 短径39~51cm円形及び楕円形, 深さ55~79cmで、いずれも主柱穴である。P5は長径28cm, 短径24cmの円形, 深さ24cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は北東コーナー付近に掘り込まれており, 長径120cm, 短径95cmの不整形円形で、深さ17cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。性格は不明である。

P6土層解説

- 1 灰褐色 ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック少量, 炭化物少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子少量
- 3 黒色 ローム粒子少量, 炭化粒子中量
- 4 灰褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 粘土粒子中量
- 5 褐色 ローム粒子多量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子中量
- 9 黒褐色 ローム中ブロック少量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量
- 10 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子少量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量

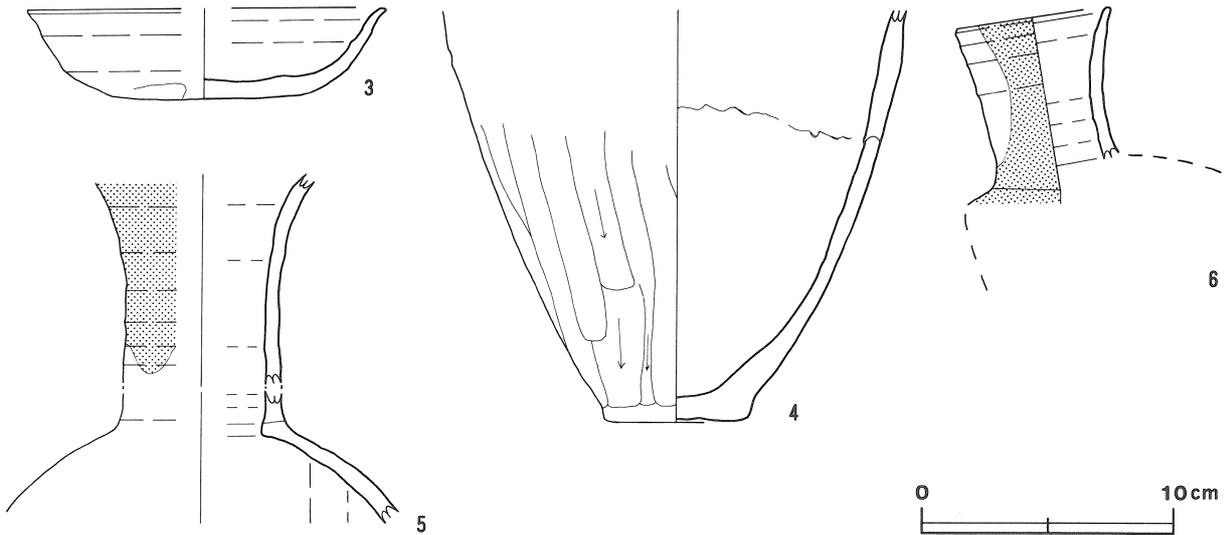
覆土 4層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- 5 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 極暗褐色 焼土中ブロック少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土小ブロック多量, 焼土粒子多量, 炭化粒子中量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量

遺物 土師器片60点, 須恵器片7点が出土している。4の土師器甕は, 中央部覆土下層と竈内から出土した破片が接合している。3の須恵器坏は, ピット4の西側覆土下層から, 5の須恵器長頸壺は中央部覆土中層から, 6の須恵器平瓶はピット4の北側覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は, 3, 4が覆土下層から出土していることから奈良時代と考えられる。



第103図 第25号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第103図 3	須恵器 坏	A [14.2] B 3.6	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。口縁部は外傾する。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・石英・長石・雲母, 褐色 普通	P 87 40% 覆土下層
4	土師器 甕	B (16.4) C 5.6	底部から体部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	砂粒・石英・長石 にふい橙色 普通	P 86 60% 覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第103図 5	長頸壺 須恵器	B (13.1)	体部から頸部にかけての破片。	外面自然釉。内面ロクロナデ。	砂粒・長石 オリーブ灰色 普通	P89A・89B 20% 覆土中
6	平瓶 須恵器	A 6.2 B (7.9)	口縁部破片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ロクロナデ。自然釉。	砂粒・長石 灰色 普通	P88 10% 覆土中

第28号住居跡 (第104図)

位置 調査3区の南西端部, L10a8区。

規模と平面形 南側3分の2が調査区域外へ延びているので規模や平面形は明確ではないが、残存する壁や床から長軸(4.10)m, 短軸(2.40)mで、方形または長方形と考えられる。

主軸方向 N-30°-E

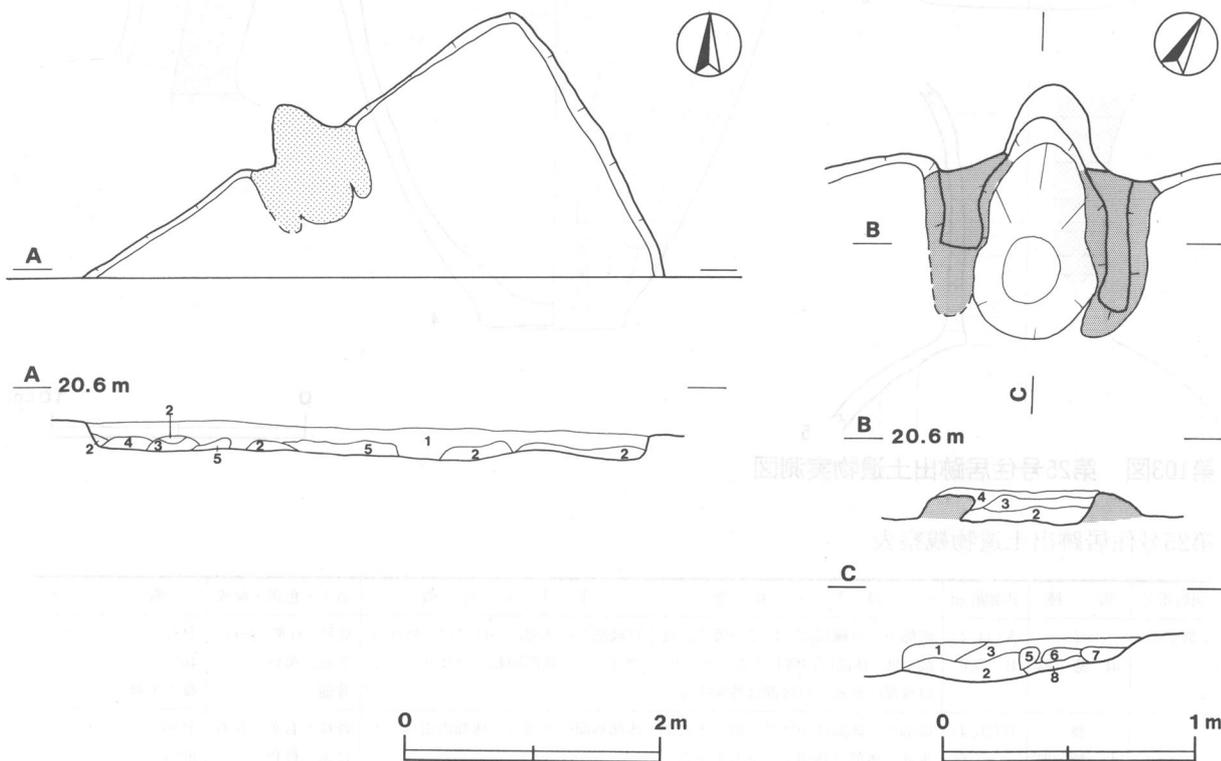
壁 残存する壁高は18~20cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

竈 北西壁中央部に砂粒まじりの白色粘土で構築されている。上部は耕作により削平され、天井部と両袖部はほとんど残存しておらず、掘り方だけを確認した。規模は煙道部から焚口部まで102cm, 両袖最大幅86cm, 壁外への掘り込みは30cmである。火床面は床面を3cm掘りくぼめており、火熱を受けて部分的に赤変した面がみられる。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|---|---------------------------|
| 1 褐色 焼土小ブロック微量, 焼土粒子少量, 粘土粒子多量 | 5 暗褐色 焼土小ブロック多量, 粘土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土小ブロック少量, 焼土粒子多量, 炭化粒子多量, 灰粒子多量 | 6 暗赤褐色 焼土大ブロック中量, 炭化物少量 |
| 3 赤褐色 焼土小ブロック多量, 焼土粒子多量, 粘土粒子少量 | 7 暗赤褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 4 赤褐色 焼土粒子中量, 粘土粒子少量 | 8 暗赤褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子微量 |



第104図 第28号住居跡実測図

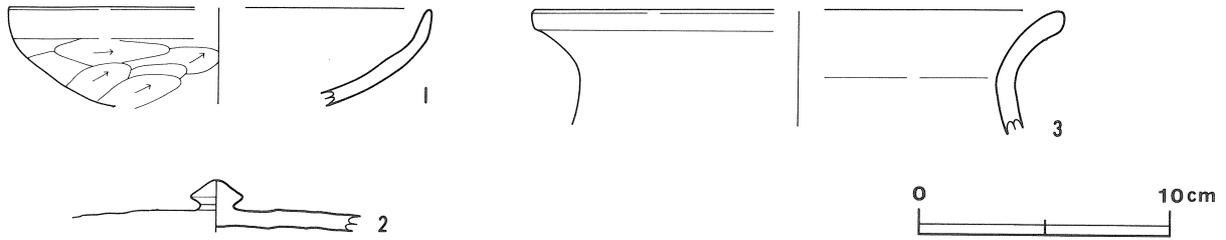
覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|-----------------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子多量, 炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | 粘土小ブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム中ブロック少量, ローム粒子中量, 炭化物微量 | | |

遺物 土師器片149点, 須恵器1点, 鉄滓1点が出土している。2の須恵器蓋, 1の土師器坏及び3の土師器甕が, 覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 住居形態や出土遺物から明確にすることはできないが, 覆土中の遺物から古墳時代と考えられる。



第105図 第28号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第105図 1	坏 土師器	A [16.6] B (3.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石にふい橙色 普通	P 502 20% 覆土中
2	蓋 須恵器	B (2.1) F 2.0 G 1.1	頂部破片。つまみは宝珠状で, 頂部は平坦である。	頂部回転へラ削り。	砂粒・石英・長石・ 黒色斑点, 灰色 普通	P 103 20% 覆土中
3	甕 土師器	A [21.0] B (4.6)	口縁部破片。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母, にふい褐色 普通	P 503 5% 覆土中

第37号住居跡 (第106・107図)

位置 調査1区の北部, F14f1区。

重複関係 本跡は第41号住居跡に掘り込まれているので, 本跡の方が古い。

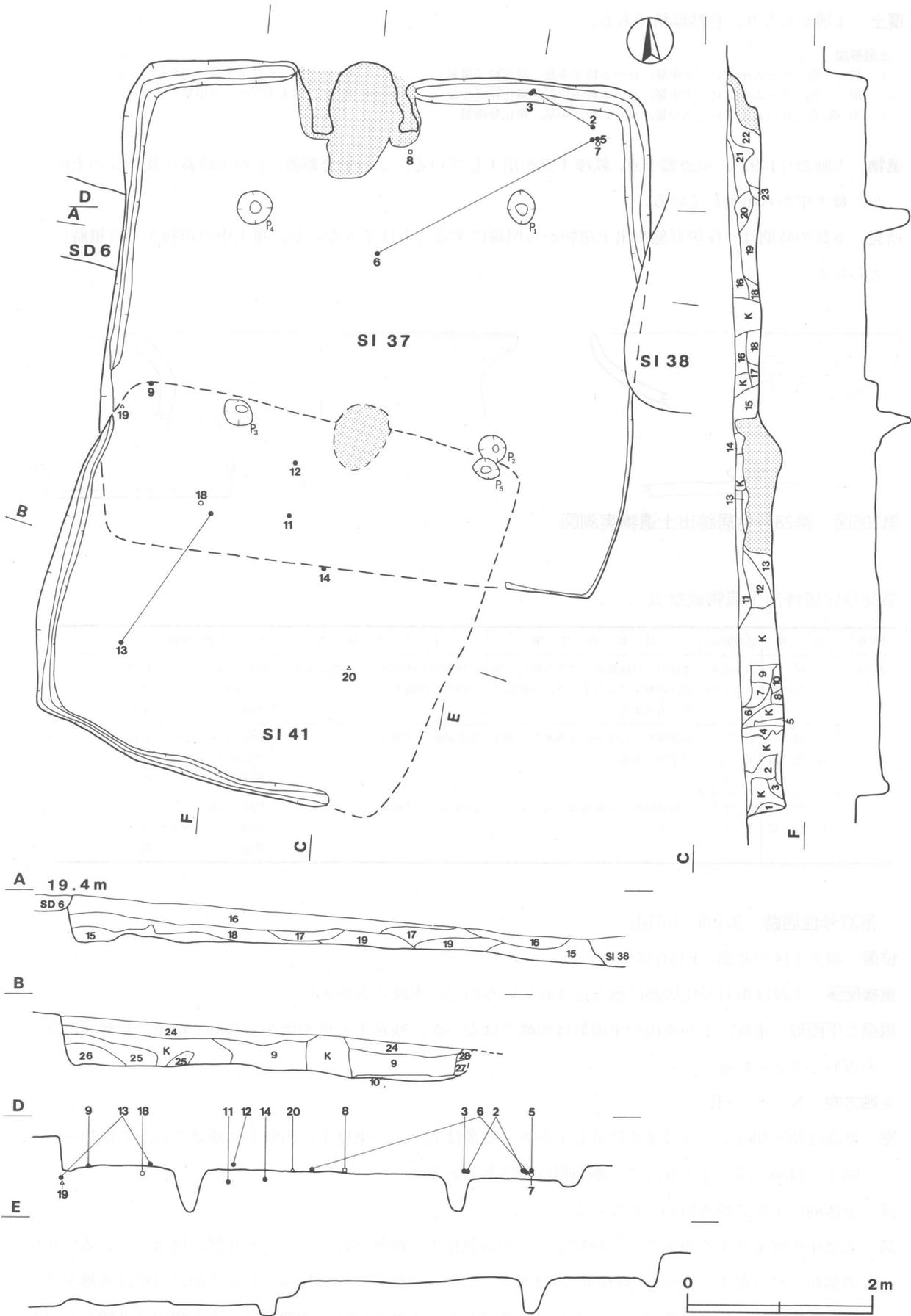
規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが, 残存する壁や床から長軸5.69m, 短軸 [5.50] m の方形と考えられる。

主軸方向 N-8°-E

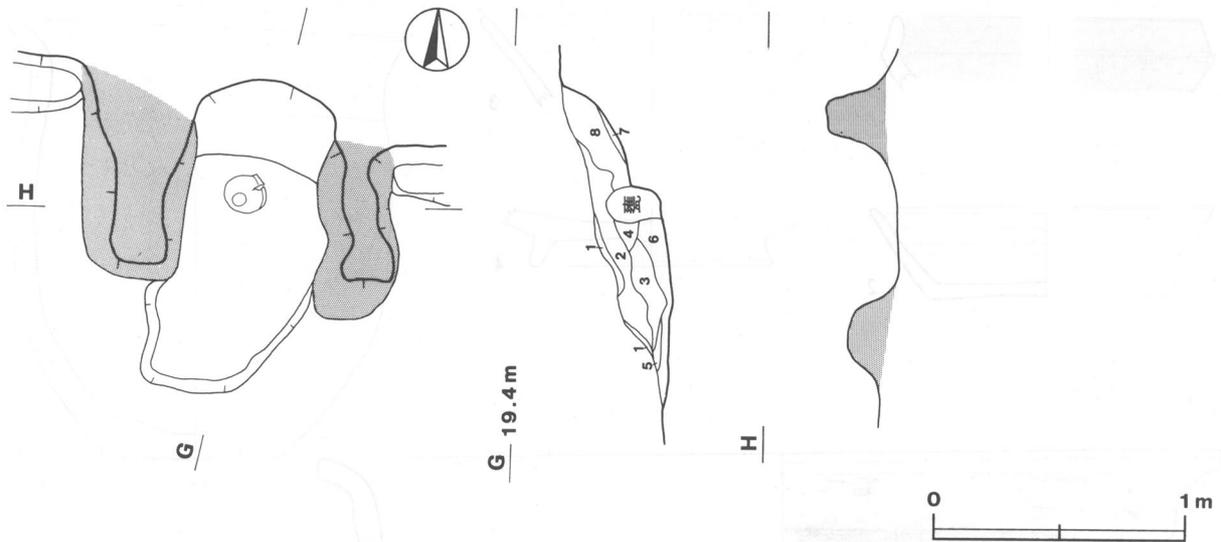
壁 壁高は25~50cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は北壁下, 東壁下, 西壁下に確認され, 上幅12~27cm, 下幅5~14cm, 深さ4~6cmで, 断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈 北壁中央部よりやや西寄りに, 砂粒まじりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで129cm, 両袖最大幅136cm, 壁外への掘り込みは10cmである。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床部は床面を6cm掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。



第106图 第37·41号住居迹实测图



第107図 第37号住居跡竈実測図

竈土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量, 粘土粒子少量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子微量, 粘土小ブロック中量, 粘土粒子中量 | 6 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量, 焼土小ブロック少量 | 7 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土小ブロック中量, 粘土小ブロック少量 | 8 暗赤褐色 | 焼土小ブロック多量, 粘土小ブロック少量 |

ピット 5か所 (P1~P5)。P1からP4は径40~57cmの円形で、深さ22~36cmであり、いずれも支柱穴である。

P5は長径30cm, 短径21cmの楕円形, 深さ19cmで、補助柱穴と考えられる。

覆土 9層からなり、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|--------|---------------------------|
| 15 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量 | 20 暗褐色 | ローム粒子少量, 粘土粒子少量 |
| 16 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子少量 | 21 暗褐色 | 焼土小ブロック少量, 粘土粒子少量 |
| 17 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 22 暗褐色 | 焼土粒子少量, 粘土小ブロック少量, 粘土粒子中量 |
| 18 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量 | 23 赤褐色 | 焼土中ブロック中量, 焼土粒子多量 |
| 19 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 粘土粒子少量 | | |

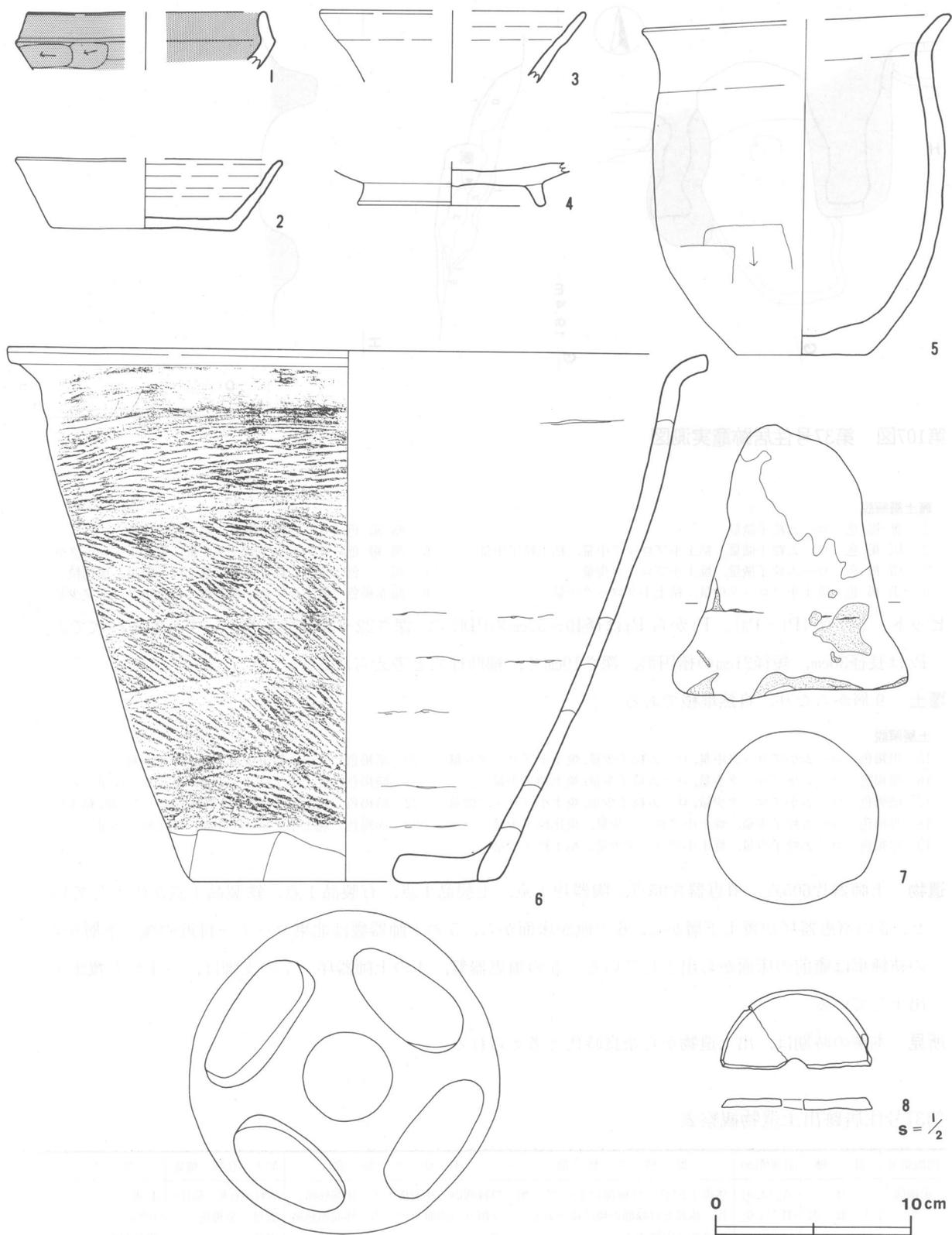
遺物 土師器片605点, 須恵器片95点, 陶器片1点, 土製品1点, 石製品1点, 鉄製品1点が出土している。

2, 3の須恵器坏が覆土下層から, 6の甌が床面から, 5の土師器甕は北東コーナー付近の覆土下層から, 8の紡錘車は竈前の床面から出土している。5の須恵器盤, 4の土師器坏, 7の支脚は、いずれも覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から奈良時代と考えられる。

第37号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第108図 1	土師器 坏	A [12.0] B (3.0)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部と口縁部の境に稜がある。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・石英・長石・雲母, 黒褐色 普通	P 505 10% 竈袖部内
2	須恵器 坏	A [13.5] B 3.7 C 9.4	底部平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。底部回転へラ切り後ナデ。	砂粒・長石・雲母 にふい黄橙色 普通	P 134 50% 覆土下層
3	須恵器 坏	A [13.4] B (3.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。	砂粒・長石・雲母 褐灰色 普通	P 135 20% 覆土下層



第108図 第37号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第108図 4	盤 須恵器	B 1.8 D 9.4 E 1.2	高台部から体部下位についての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母，黄灰色 普通	P144 30% 竈内

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第108図 5	甕 土師器	A (15.8) B 12.6 C 6.6	底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石 明赤褐色 2次焼成	P133 90% 竈内
6	甗 須恵器	A 35.5 B 27.5 C 15.9	多孔式。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面上位横位の平行叩き。中位から下位にかけて斜位の平行叩き。叩き後4条の沈線。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、黒色 普通	P136 60% 床直

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第108図7	支脚	14.1	7.0	9.0	(961.0)	覆土下層	D P12

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第108図8	紡錘車	5.1	(2.7)	(0.5)	0.8	(5.0)	泥岩	竈内	Q 8 20%

第38号住居跡 (第109図)

位置 調査1区北部，F14f2区。

規模と平面形 長軸4.40m，短軸3.83mの長方形である。

主軸方向 N-13°-E

壁 壁高は16～35cmで，外傾して立ち上がる。壁溝は，北東壁下，北西壁下に確認し，上幅14～26cm，下幅5～12cm，深さ5cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で，出入り口から竈にかけての中央部が踏み固められている。

竈 北東壁中央部に砂粒まじりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで105cm，両袖最大幅135cm，壁外への掘り込みは75cmである。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床面は床面を8cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

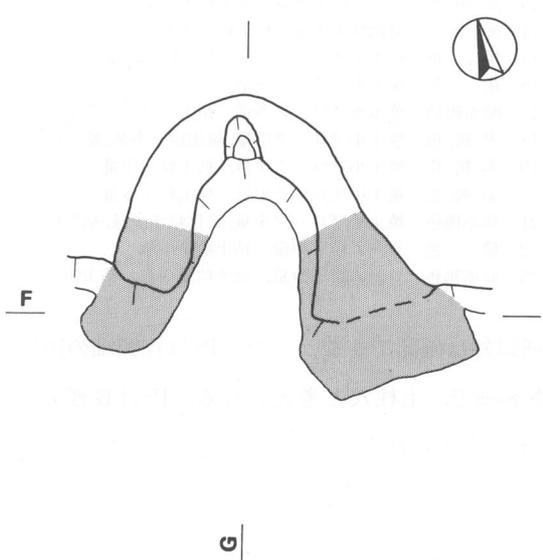
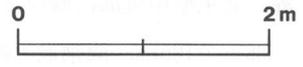
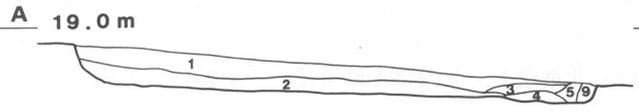
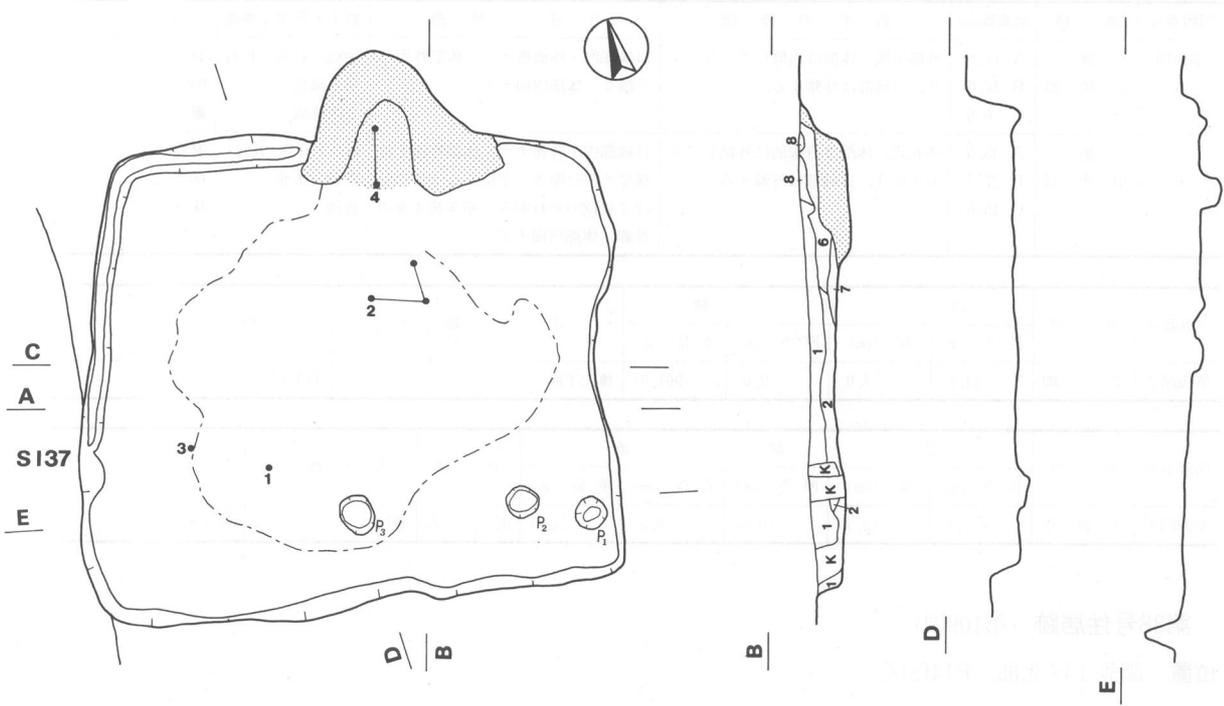
- | | | | |
|--------|-----------------------------|---------|-------------------------|
| 1 黄橙色 | ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物少量，粘土粒子多量 | 13 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | 炭化粒子少量，粘土粒子多量 | 14 褐色 | 炭化粒子少量，粘土粒子多量 |
| 3 黄橙色 | 炭化物少量，粘土小ブロック微量，粘土粒子多量 | 15 褐色 | 焼土小ブロック少量，粘土粒子多量 |
| 4 褐色 | 焼土小ブロック微量，炭化粒子少量，粘土粒子多量 | 16 褐色 | 焼土小ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量，粘土粒子中量 | 17 暗赤褐色 | 焼土小ブロック少量，粘土小ブロック少量 |
| 6 極暗褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，炭化粒子少量 | 18 黒褐色 | 焼土小ブロック中量，炭化粒子多量，粘土粒子少量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量，粘土粒子中量 | 19 赤褐色 | 焼土小ブロック中量，粘土粒子中量 |
| 8 暗褐色 | ローム小ブロック少量，焼土中ブロック中量，焼土粒子少量 | 20 赤褐色 | 焼土中ブロック中量，焼土粒子多量 |
| 9 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化物少量，粘土粒子少量 | 21 暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量，炭化粒子少量，粘土粒子少量 |
| 10 褐色 | ローム粒子中量，焼土小ブロック少量，粘土粒子少量 | 22 橙褐色 | ローム粒子中量，粘土粒子中量 |
| 11 赤褐色 | 焼土粒子多量，粘土粒子少量 | 23 暗赤褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子中量，粘土粒子中量 |
| 12 褐色 | 焼土粒子少量，粘土粒子多量 | | |

ピット 3か所 (P1～P3)。床面を丁寧に精査したが，3か所以外は確認できなかった。P1は径25cmの円形，深さ9cmで，性格は不明である。P2は径26cmの円形，深さ8cmで，主柱穴と考えられる。P3は長径32cm，短径25cmの楕円形，深さ11cmで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

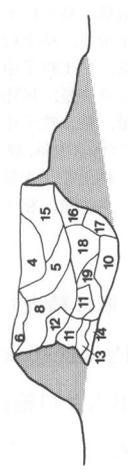
覆土 9層からなり，自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|-------------------------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，炭化粒子少量 | 6 褐色 | 焼土粒子少量，粘土小ブロック微量，粘土粒子多量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，焼土小ブロック少量 | 7 暗褐色 | 炭化粒子微量，粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量，焼土粒子微量 | 8 灰褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量 | 9 褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | | |



F 19.0 m



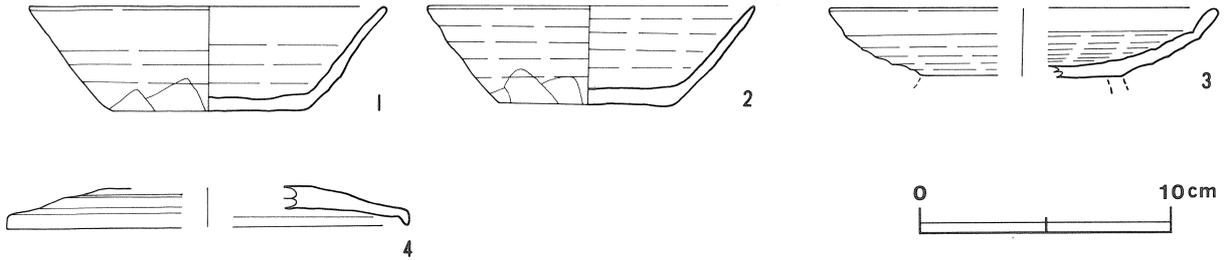
G



第109图 第38号住居跡実测图

遺物 土師器片604点, 須恵器片108点, 陶器片1点, 土製品1点, 鉄滓1点が出土している。1, 2の須恵器
 坏は中央部覆土下層から, 3の須恵器盤は中央部覆土中層から, 4の須恵器蓋は竈内からそれぞれ出土して
 いる。

所見 本跡の時期は, 4が竈内から出土していることから, 奈良時代と考えられる。



第110図 第38号住居跡出土遺物実測図

第38号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第110図 1	坏 須恵器	A 14.2 B 4.2 C 7.6	底部平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部回転へら切り後ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母, 灰黄色 普通	P137 80% 覆土下層
2	坏 須恵器	A 12.7 B 4.1 C 6.8	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部回転へら切り後ナデ。	砂粒・石英 褐灰色 普通	P138 70% 覆土下層
3	盤 須恵器	A [15.4] B (2.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 体部と口縁部の境に稜がある。口縁部は直線的に外傾する。	体部から口縁部にかけて内・外面口クロナデ。	砂粒・石英・長石・雲母, 褐灰色 普通	P139 50% 覆土中層
4	蓋 須恵器	A [15.8] B (1.6)	つまみ欠損。天井部は緩やかに開き, 屈曲して垂下する。	頂部へら削り。天井部口クロナデ。内面口クロナデ。	砂粒・石英・長石 灰色 普通	P140 30% 竈内

第42号住居跡 (第111図)

位置 調査1区の北部, G13a6区。

規模と平面形 長軸3.30m, 短軸3.03mの方形である。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は19~40cmで, 外傾して立ち上がる。壁溝は全周し, 上幅18~25cm, 下幅3~12cm, 深さ7~10cmで断面形はU字形である。

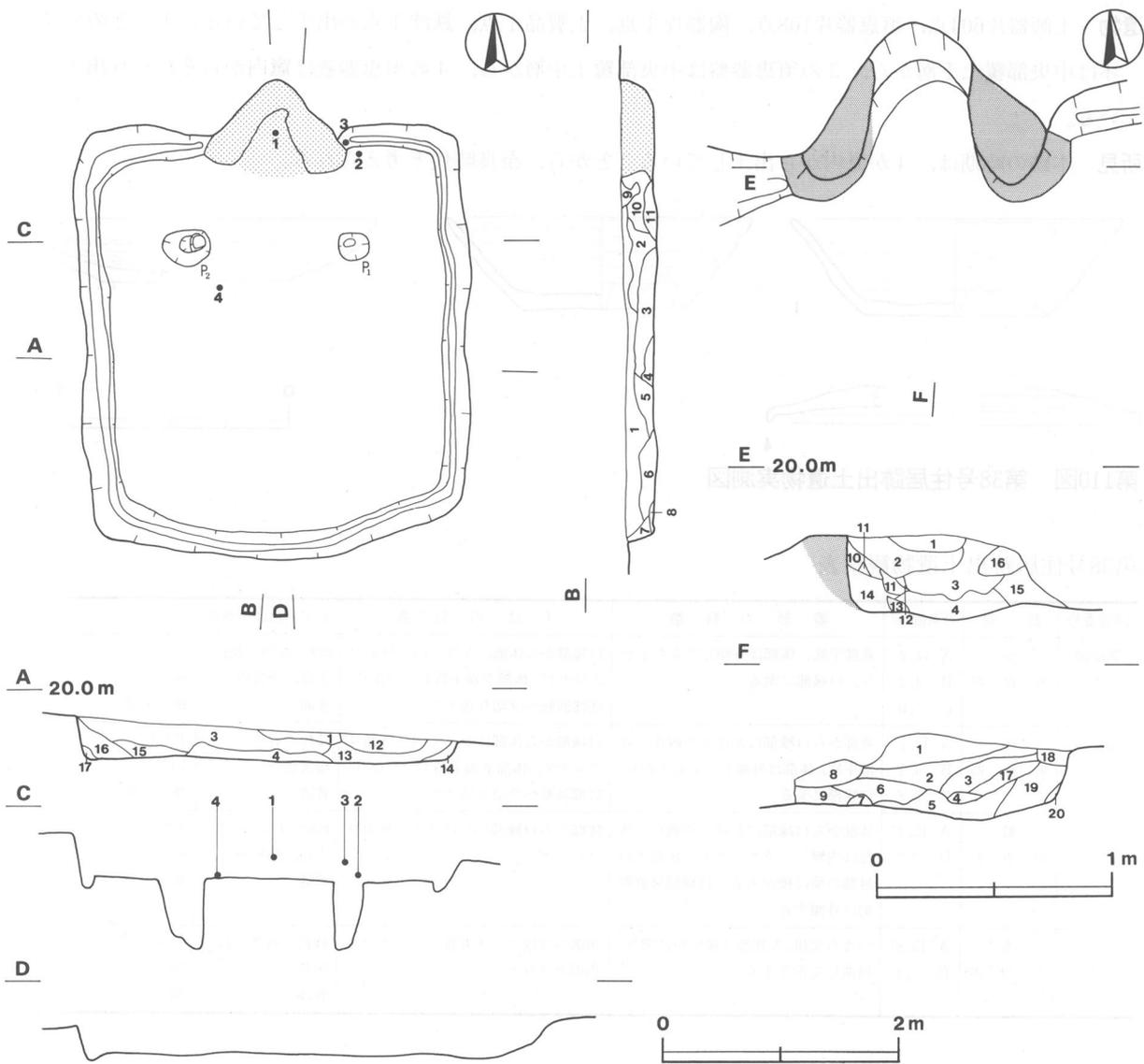
床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈 北壁中央部に砂粒まじりの白色粘土で構築されているが, 耕作による攪乱を受け, 掘り方だけを確認した。

壁外への掘り込みは50cmである。火床部は床面を3cm掘りくぼめており, 火熱を受けて部分的に赤変している。

竈土層解説

1 褐色	ローム小ブロック微量, 炭化粒子少量, 粘土粒子少量	11 暗赤褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム中ブロック微量, 焼土粒子少量, 粘土粒子微量	12 褐色	ローム粒子少量, 粘土粒子多量
3 暗褐色	ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック少量	13 褐色	ローム粒子多量
4 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土中ブロック少量, 炭化粒子中量	14 暗褐色	焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量, 炭化粒子中量
5 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子中量	15 褐色	ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量
6 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 粘土粒子少量	16 褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
7 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土大ブロック少量, 炭化粒子少量	17 暗褐色	ローム粒子微量, 粘土粒子少量
8 褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子中量, 炭化粒子少量	18 暗赤褐色	ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック少量
9 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量	19 暗赤褐色	ローム小ブロック微量, 焼土小ブロック少量
10 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量	20 褐色	ローム粒子多量



第111図 第42号住居跡実測図

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₁は長径26cm, 短径22cmの隅丸方形で, 深さ58cmである。P₂は長径40cm, 短径30cmの楕円形, 深さ62cmで, いずれも支柱穴と考えられる。床面を丁寧に精査したが, 他にピットは確認できなかった。

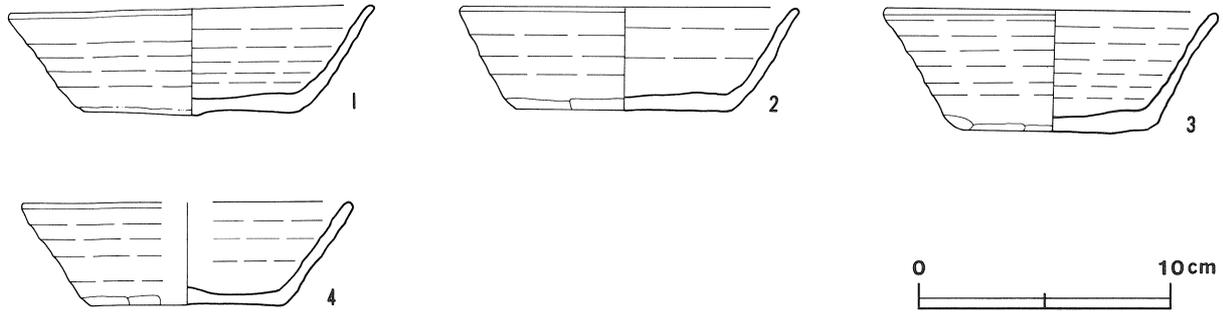
覆土 17層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 10 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム小ブロック微量, ローム粒子中量 | 11 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子少量 |
| 3 褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 炭化粒子少量 | 12 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子中量 |
| 4 褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子中量 | 13 褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土中ブロック微量, 炭化粒子少量 | 14 褐色 | ローム粒子多量 |
| 6 暗褐色 | ローム中ブロック少量, ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | 15 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 炭化粒子少量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子少量 | 16 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 |
| 8 褐色 | ローム粒子多量 | 17 褐色 | ローム粒子中量 |
| 9 極暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子少量 | | |

遺物 土師器片41点, 須恵器片15点が出土している。1の須恵器坏は竈内から, 2の須恵器坏は竈右袖部脇の覆土下層から, 3の須恵器坏は竈右袖部に張り付くように, 4の須恵器坏は床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 竈内の出土遺物から奈良時代と考えられる。



第112図 第42号住居跡出土遺物実測図

第42号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第112図 1	須恵器	A 14.4 B 4.5	口縁部一部欠損。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石・雲母 灰白色 普通	P 154 90% 竈内
2	須恵器	A 13.2 B 4.1 C 8.4	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り後ナデ。	砂粒・石英・長石 灰色 普通	P 155 70% 覆土下層
3	須恵器	A 13.2 B 4.8 C 8.0	口縁部一部欠損。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り後ナデ。	砂粒・石英・長石 灰色 普通	P 156 90% 覆土下層
4	須恵器	A [13.2] B 4.1 C 7.6	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り後ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母、灰色 普通	P 157 40% 床直

第52号住居跡 (第113図)

位置 調査1区の北部, G13a9区。

重複関係 本跡は第51号住居跡と第5号土坑に掘り込まれているので、本跡の方が古い。

規模と平面形 長軸 [4.95] m, 短軸4.50mの長方形と考えられる。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は23~25cmで、外傾して立ち上がる。壁溝は西壁下で確認され、上幅16~32cm, 下幅6~14cm, 深さ3~5cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦である。

竈 北壁中央部に構築されているが、耕作による攪乱を受けているため、ほとんど残存していない。

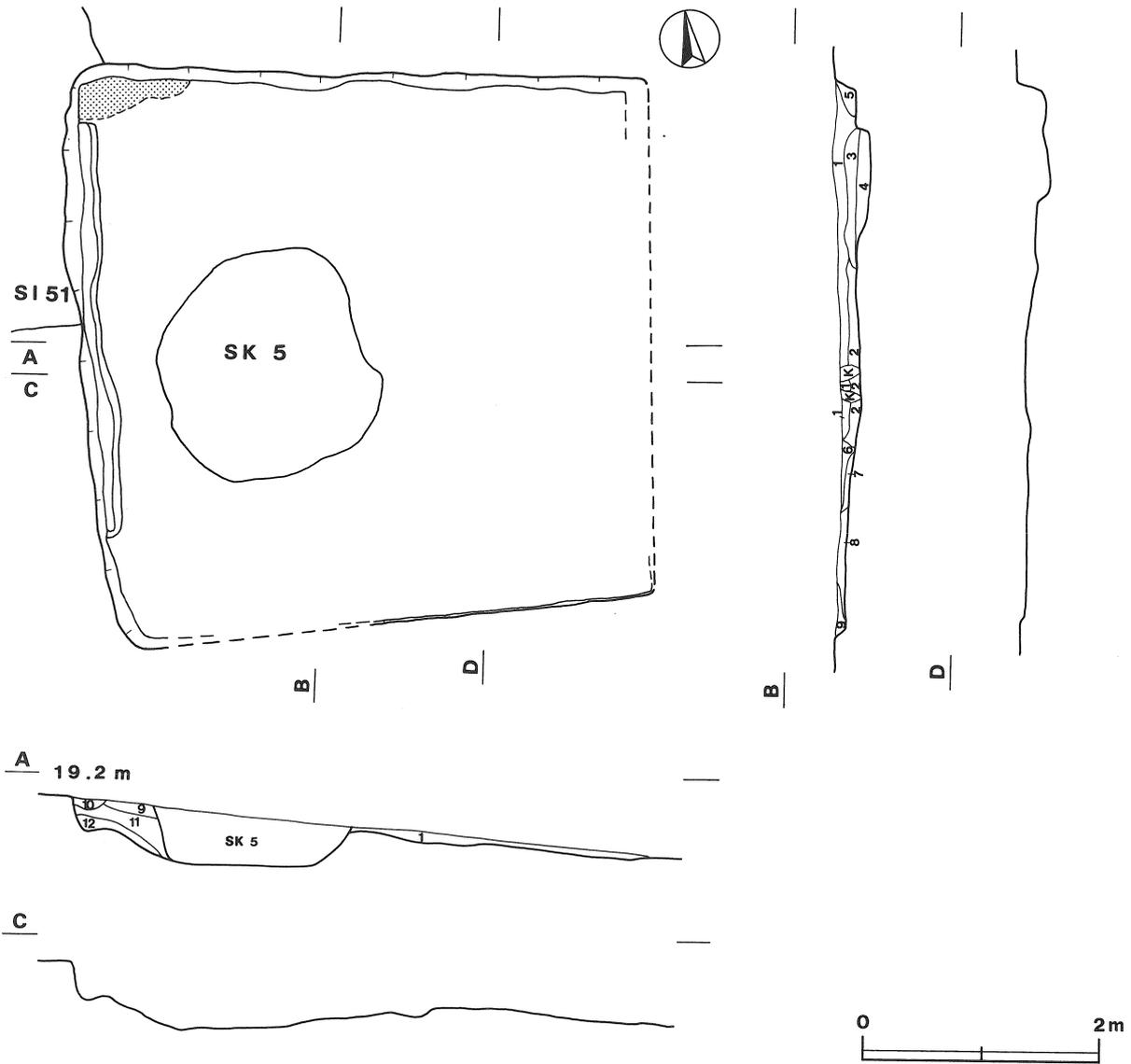
覆土 12層からなり、自然堆積である。

土層解説

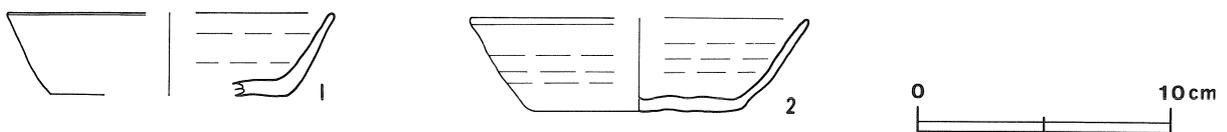
- | | |
|-----------------------------------|----------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 粘土粒子中量 | 7 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子少量 |
| 2 極暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量, 粘土粒子少量 | 8 褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック微量 |
| 3 褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 9 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 |
| 4 褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 10 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 5 褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量 | 11 暗褐色 焼土小ブロック少量, 炭化物微量 |
| 6 暗褐色 ローム粒子少量 | 12 暗褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子微量 |

遺物 土師器片354点, 須恵器片21点が出土している。1, 2の須恵器坏は、いずれも覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、1, 2が出土していることから奈良時代と考えられる。



第113図 第52号住居跡実測図



第114図 第52号住居跡出土遺物実測図

第52号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第114図 1	坏 須恵器	A [13.0] B 3.3 C [9.4]	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面ロクロナデ。底部ナデ。	砂粒・雲母・スコリア、にふい褐色普通	P178 20% 覆土中
2	坏 須恵器	A [13.4] B 3.7 C 8.1	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけてロクロナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 灰色 普通	P179 60% 覆土中

第57号住居跡（第115図）

位置 調査1区の中央部，G13e9区。

重複関係 本跡は第59号住居跡に掘り込まれているので，本跡が古い。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが，長軸4.10m，短軸 [4.06] mの方形と考えられる。

主軸方向 N-21°-E

壁 壁高は8～50cmで，外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に砂まじりの白色粘土で構築されている。天井部と袖部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで143cm，壁外への掘り込みは15cmである。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|---------|--------------------------|
| 1 極暗褐色 | 焼土粒子少量，炭化粒子少量，粘土粒子少量 | 11 暗褐色 | ローム粒子微量，焼土粒子少量 |
| 2 赤褐色 | 焼土小ブロック少量，炭化物少量，粘土粒子少量 | 12 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，炭化粒子少量 | 13 赤褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，焼土粒子中量 |
| 4 赤褐色 | 焼土小ブロック少量，焼土粒子中量，炭化粒子少量 | 14 暗赤褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，焼土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子少量，粘土粒子少量 | 15 赤褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，焼土粒子中量 |
| 6 暗赤褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物少量 | 16 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土中ブロック少量，焼土粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 17 赤褐色 | 焼土中ブロック中量，焼土粒子多量 |
| 8 赤褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子中量 | 18 赤褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子少量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，炭化粒子少量 | 19 赤褐色 | 焼土粒子中量，炭化粒子少量 |
| 10 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物少量 | | |

覆土 7層からなり，自然堆積である。

土層解説

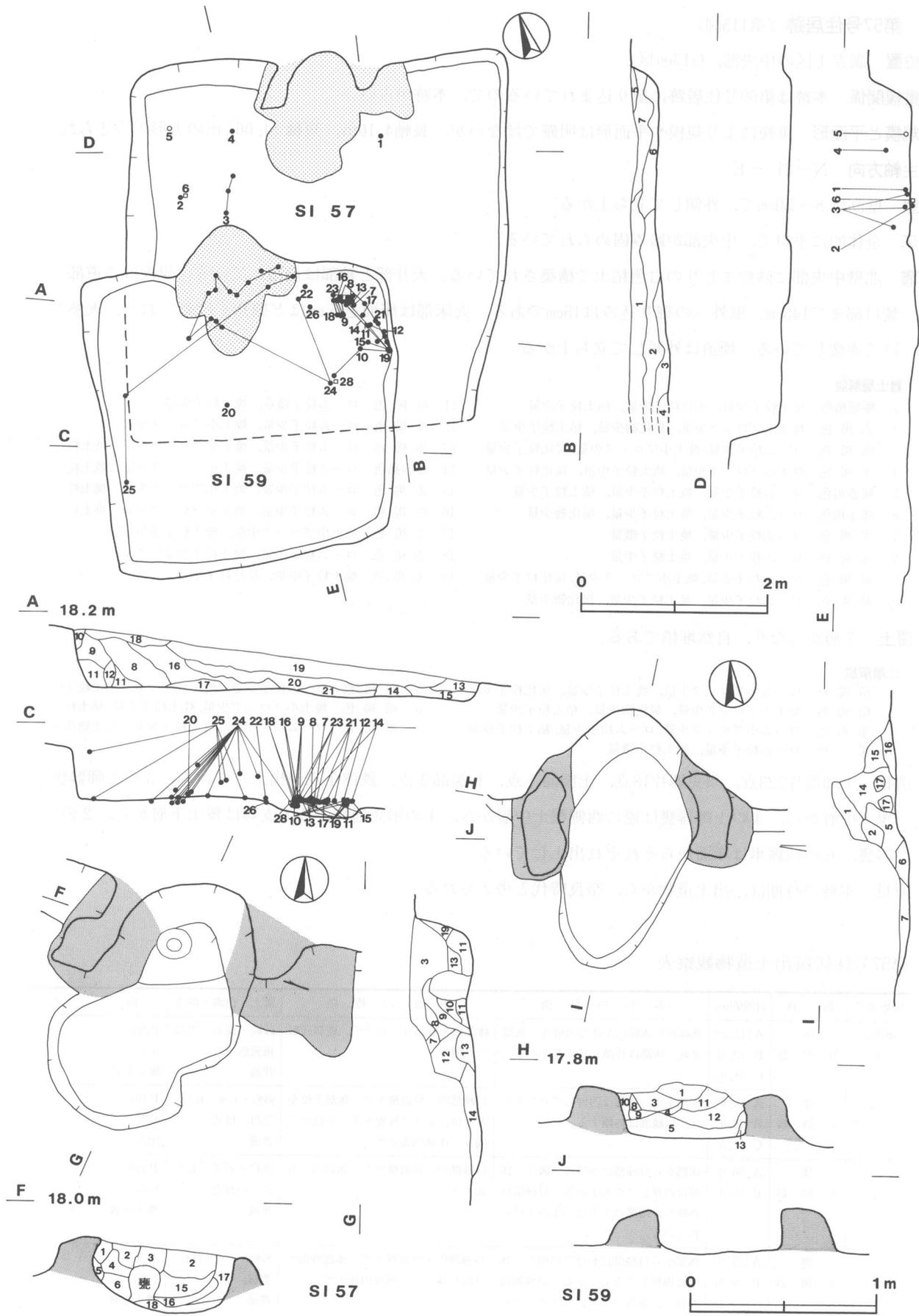
- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量，焼土粒子少量，炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子少量，粘土粒子中量 |
| 2 暗褐色 | 焼土小ブロック少量，炭化物少量，粘土粒子少量 | 6 暗褐色 | 焼土小ブロック少量，焼土粒子少量，粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，粘土粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子微量 | | |

遺物 土師器片223点，須恵器片18点，土製品1点，石製品1点，鉄滓1点が出土している。3の土師器甕は，覆土中層から，4の土師器甕は竈の西側覆土中層から，1の須恵器杯，5の支脚は覆土下層から，2の土師器甕，6の紡錘車は床面からそれぞれ出土している。

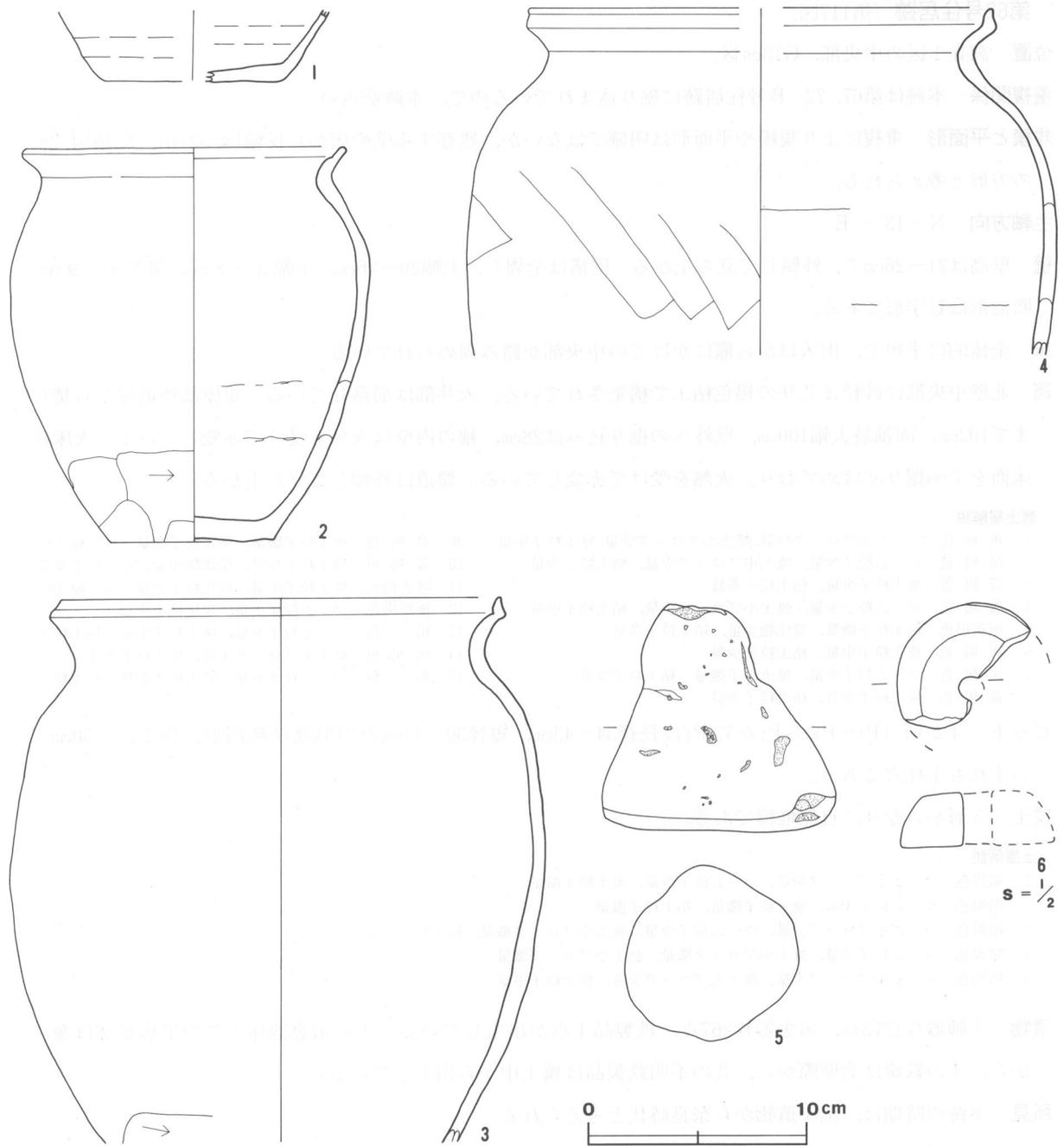
所見 本跡の時期は，出土遺物から，奈良時代と考えられる。

第57号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第116図 1	環 須恵器	A [12.2] B (3.3) C [8.0]	底部から体部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 褐灰色 普通	P201 5% 覆土下層
2	甕 土師器	A 14.9 B 18.0 C 7.5	底部平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部上位から中位にかけて外面ナデ。下位ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母，橙色 普通	P198 95% 床直
3	甕 土師器	A 20.0 B (25.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾し，端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石 にふい橙色 普通	P199 60% 覆土中層
4	甕 土師器	A [21.2] B (16.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾し，端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母，橙色 普通	P200 15% 覆土中層



第115图 第57・59号住居跡実測図



第116図 第57号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第116図5	支脚	(10.4)	10.7	8.0	(754.0)	覆土下層	DP15	90%

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考	
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)				
第116図6	紡錘車	(4.7)	(3.0)	(1.5)	0.7	(23.0)	凝灰岩	床直	Q10	30%

第62号住居跡（第117図）

位置 調査1区の中央部，G13e6区。

重複関係 本跡は第67，72-B号住居跡に掘り込まれているので，本跡が古い。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが，残存する壁や床から長軸[4.52]m，短軸[4.20]mの方形と考えられる。

主軸方向 N-13°-E

壁 壁高は21~26cmで，外傾して立ち上がる。壁溝は全周し，上幅20~26cm，下幅3~8cm，深さ6~9cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で，出入口から竈にかけての中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に砂粒まじりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで102cm，両袖最大幅100cm，壁外への掘り込みは28cm，袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床部は床面を7cm掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|---------|-----------------------|
| 1 黄褐色 | ローム小ブロック少量，焼土小ブロック少量，粘土粒子中量 | 9 黄褐色 | 焼土粒子微量，炭化粒子微量，粘土粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土中ブロック少量，粘土粒子少量 | 10 黄褐色 | 焼土粒子少量，炭化物少量，粘土粒子多量 |
| 3 黄褐色 | 焼土粒子少量，粘土粒子多量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，炭化粒子少量，粘土粒子少量 |
| 4 灰褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，粘土粒子中量 | 12 極暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子少量 |
| 5 灰黄褐色 | 焼土粒子微量，炭化物少量，粘土粒子多量 | 13 褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子少量，粘土粒子多量 |
| 6 灰褐色 | 焼土粒子中量，粘土粒子少量 | 14 灰褐色 | 焼土小ブロック少量，粘土粒子多量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量，粘土粒子少量 | 15 褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子少量，粘土粒子少量 |
| 8 黄褐色 | 焼土粒子少量，粘土粒子少量 | | |

ピット 4か所（P1~P4）。P1からP4は長径34~43cm，短径30~41cmの円形及び楕円形，深さ28~50cmで，いずれも主柱穴である。

覆土 5層からなり，自然堆積である。

土層解説

- 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量，粘土粒子微量
- 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，焼土小ブロック微量，粘土粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック微量，粘土小ブロック微量
- 灰褐色 ローム小ブロック少量，焼土大ブロック少量，粘土粒子中量

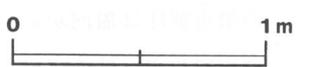
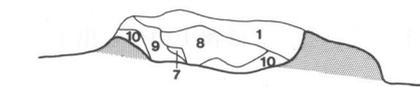
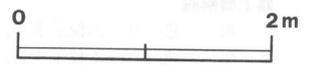
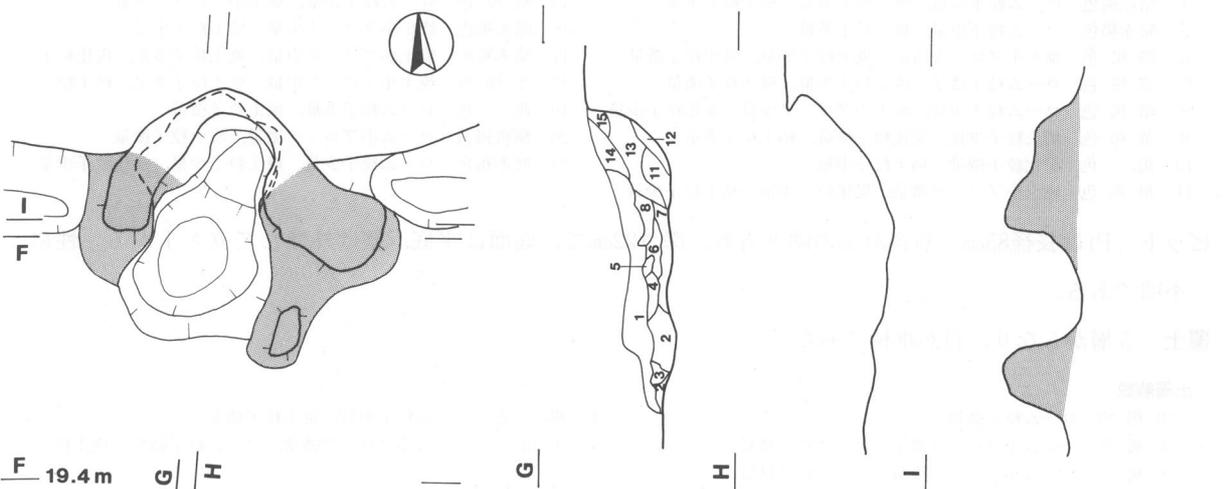
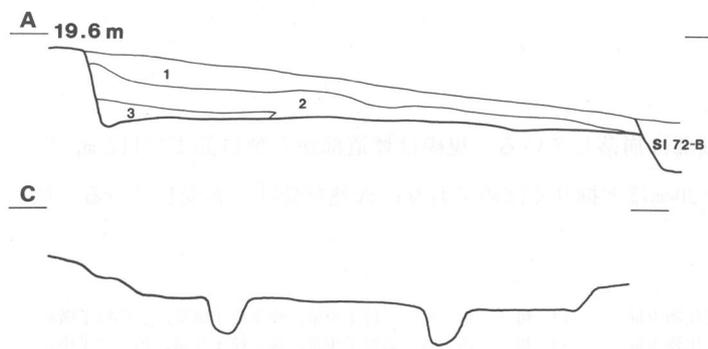
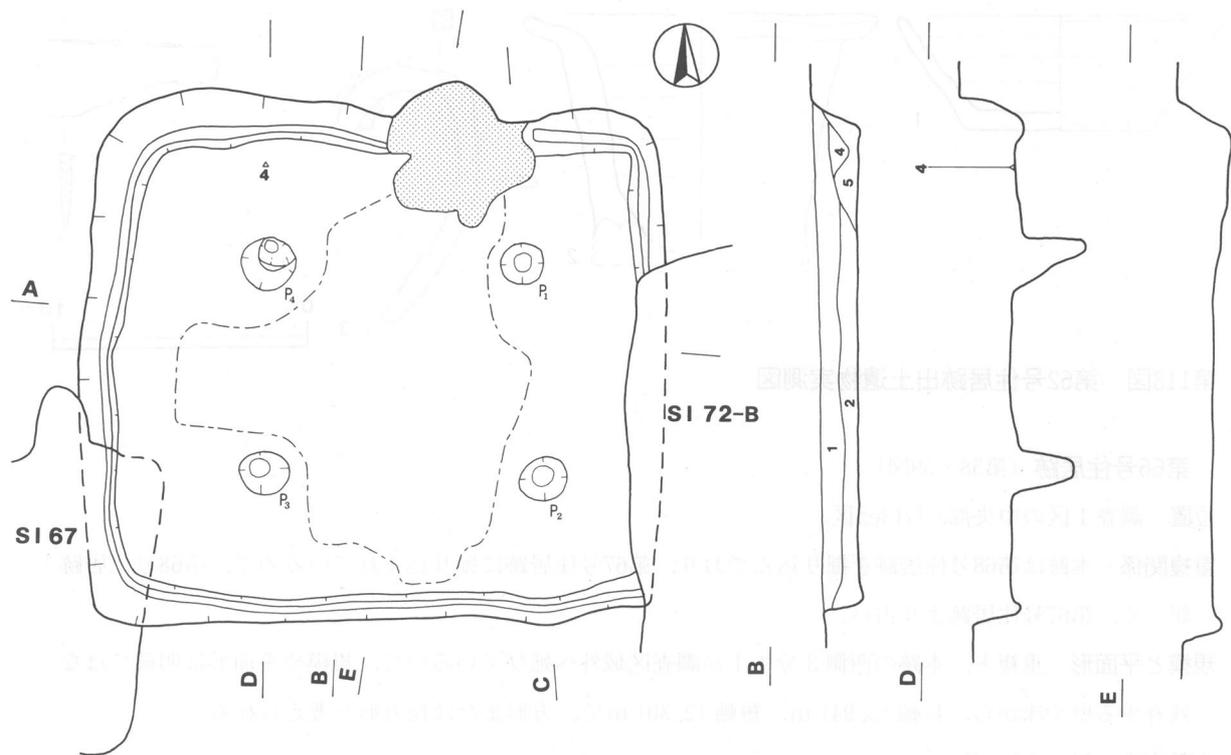
遺物 土師器片1273点，須恵器片267点，鉄製品1点が出土している。1の須恵器坏と2の須恵器鉢は覆土中から，4の鉄鎌は北壁際から，3の不明鉄製品は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から奈良時代と考えられる。

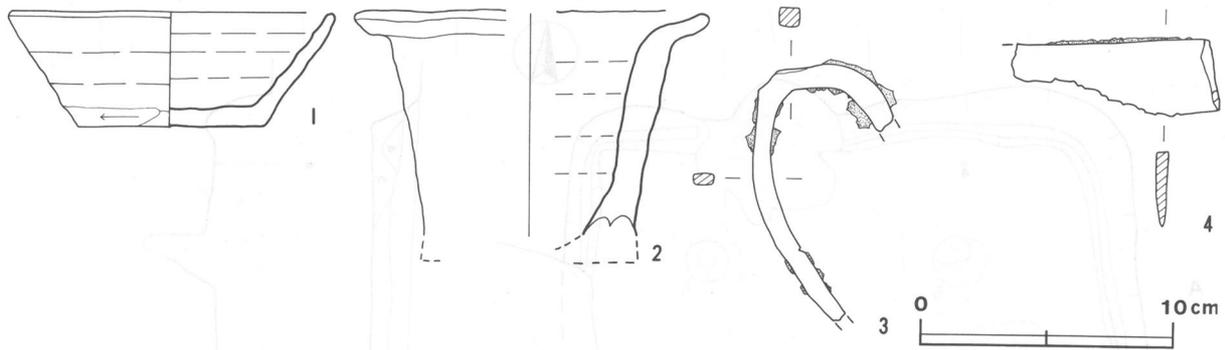
第62号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第118図 1	坏 須恵器	A 12.7	口縁部一部欠損。底部平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口ロナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・石英・長石・雲母，灰色 普通	P232 80% 覆土中
		B 4.6				
		C 7.2				
2	鉢 須恵器	A [13.8]	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾し，口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部から体部にかけて内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母，黄灰色 普通	P233 30% 覆土中
		B (9.0)				

図版番号	種別	計測値				備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
第118図3	不明鉄製品	(10.2)	5.7	0.7	(26.0)	M54 覆土中
4	鉄鎌	(8.4)	(2.8)	0.4	(22.0)	M11 覆土中層 30%



第117图 第62号住居跡実測图



第118図 第62号住居跡出土遺物実測図

第66号住居跡 (第58・59図)

位置 調査1区の中央部, G13e5区。

重複関係 本跡は第68号住居跡を掘り込んでおり, 第67号住居跡に掘り込まれているので, 第68号住居跡より新しく, 第67号住居跡より古い。

規模と平面形 重複と, 本跡の西側3分の1が調査区域外へ延びているので, 規模や平面形は明確ではないが 残存する壁や床から, 長軸(3.94)m, 短軸(2.30)mで, 方形または長方形と考えられる。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は10cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈 北壁中央部に構築されている。天井部と袖部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで112cm, 壁外への掘り込みは10cmである。火床部は床面を20cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|---------|---------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子多量, 焼土小ブロック少量, 炭化物少量 | 12 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 炭化物少量 | 13 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 粘土粒子中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量 | 14 赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, 粘土粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子多量, 粘土粒子少量 | 15 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量 |
| 5 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子多量 | 16 暗赤褐色 | 焼土小ブロック少量, 焼土粒子中量 |
| 6 暗褐色 | 焼土小ブロック微量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 17 暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量, 焼土粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子微量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 18 赤褐色 | 焼土小ブロック中量, 焼土粒子多量, 粘土粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量 | 19 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 9 黄褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子少量, 粘土粒子多量 | 20 極暗褐色 | ローム小ブロック微量, 焼土粒子微量 |
| 10 褐色 | 炭化粒子微量, 粘土粒子中量 | 21 暗赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量 |
| 11 黒褐色 | 焼土小ブロック微量, 炭化粒子少量, 粘土粒子少量 | | |

ピット P1は長径85cm, 短径81cmの隅丸方形, 深さ22cmで, 底面は平底, 壁は外傾して立ち上がる。性格は不明である。

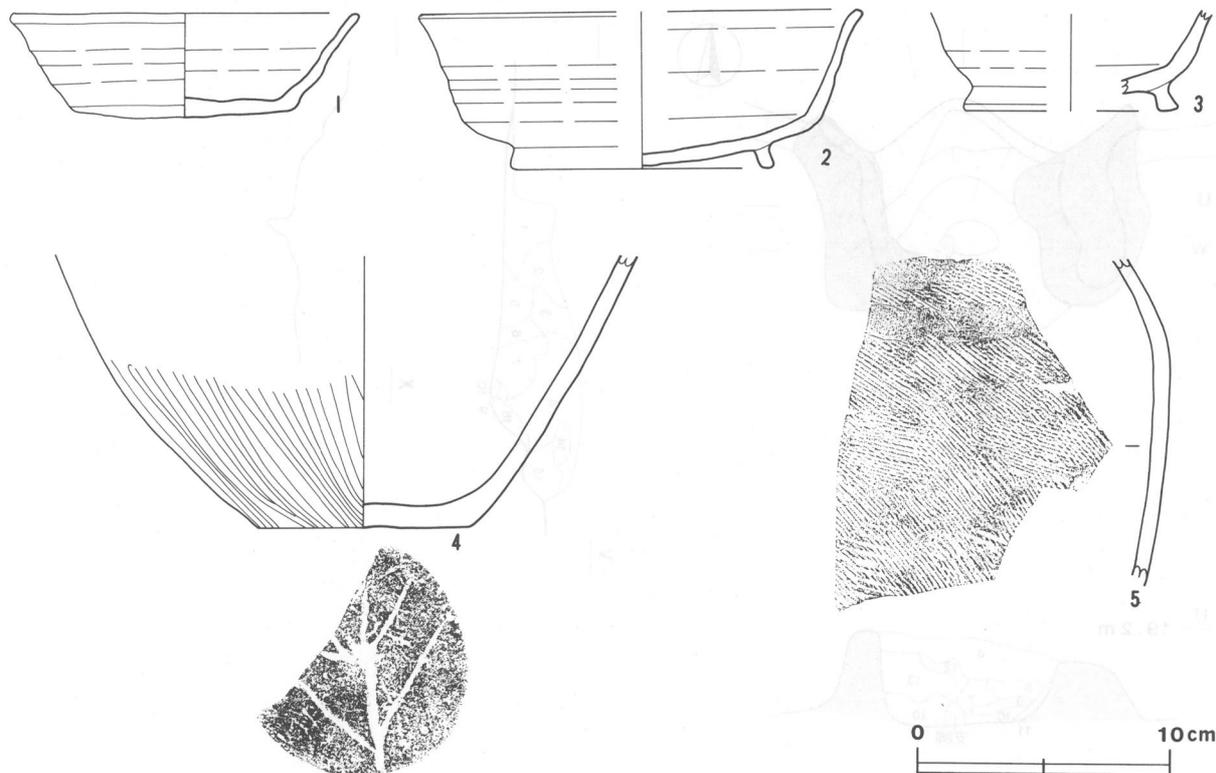
覆土 5層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック微量, ローム粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム小ブロック微量, ローム粒子微量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 | | |

遺物 土師器片1000点, 須恵器片242点, 鉄滓1点が出土している。4の土師器甕と2の須恵器高台付坏と1の須恵器坏は竈内から, 3の土師器高台付坏は覆土中からそれぞれ出土している。5は覆土中から出土した須恵器片で, 外面にカキ目痕が施されている。

所見 本跡の時期は, 1, 2, 4が床面や竈内から出土していることから, 奈良時代と考えられる。



第119図 第66号住居跡出土遺物実測図

第66号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第119図 1	坏 須恵器	A 13.5 B 4.2 C 8.6	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石 黄灰色 普通	P254 85% 竈内
2	高台付坏 須恵器	A [17.6] B 6.3 D 10.4 E 1.0	底部から口縁部にかけての破片。高台部は短く「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台部内・外面ナデ。貼付。	砂粒・長石・雲母 灰黄色 普通	P252 50% 竈内
3	高台付坏 須恵器	B (3.9) D [8.6] E 1.0	高台部から体部下位にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。高台部内・外面ナデ。	砂粒・石英・雲母 灰色 普通	P253 5% 覆土中
4	甗 土師器	B (10.8) C 8.4	底部から体部下位にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下位外面へラ磨き。内面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・石英・長石・雲母、 にふい赤褐色 普通	P251 30% 竈内

第69号住居跡 (第58・120図)

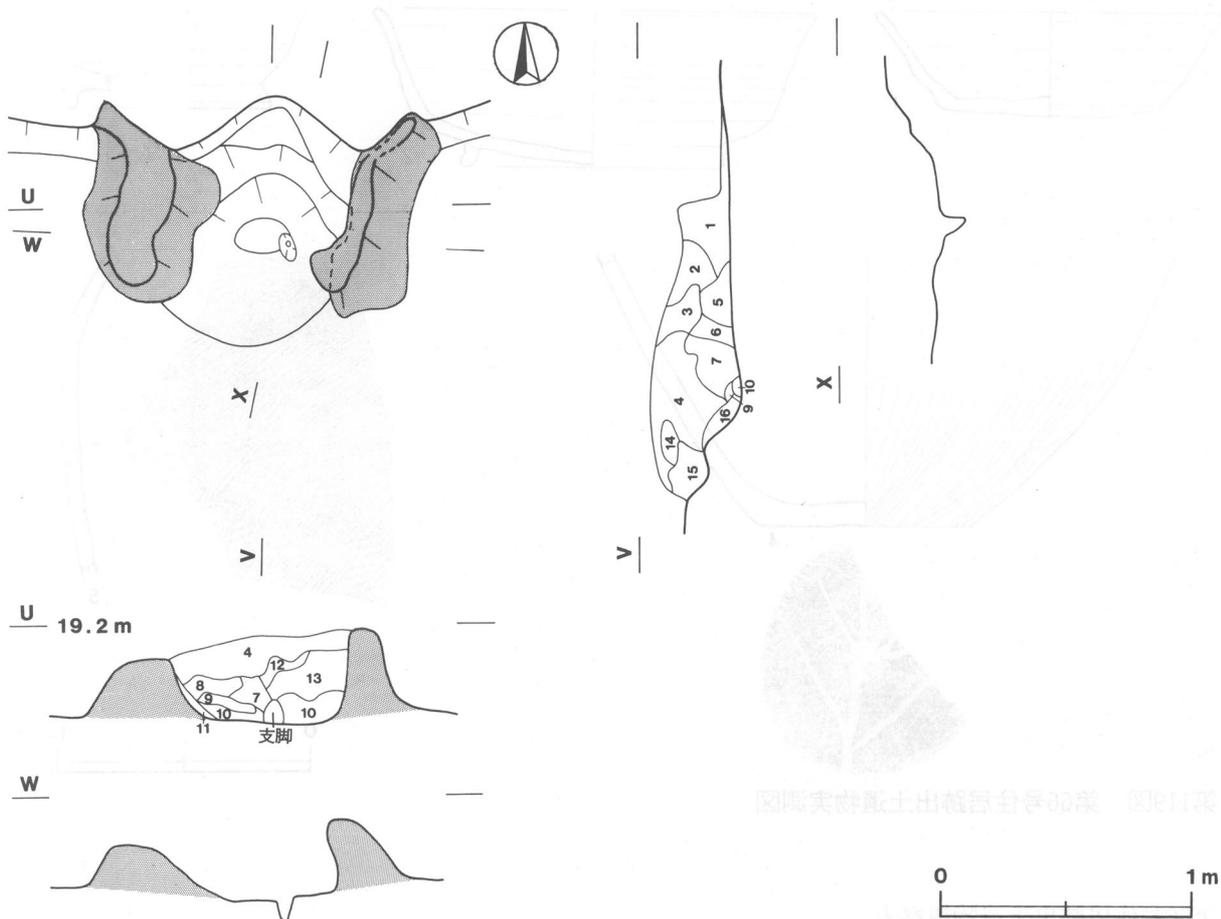
位置 調査1区の中央部, G13g5区。

重複関係 本跡は第68, 82号住居跡を掘り込んでいるので, 本跡が新しい。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが, 残存する壁や床から長軸 [4.57] m, 短軸 [4.50] mの方形と考えられる。

主軸方向 N-8°-E

壁 壁高は15~25cmで外傾して立ち上がる。壁溝は, 南壁下, 西壁下, 北壁下にかけて確認され, 上幅21~24 cm, 下幅5~9 cm, 深さ4~6 cmで, 断面形はU字形である。



第120図 第69号住居跡竈実測図

床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈 北壁中央部に構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで101cm，両袖最大幅130cm，壁外への掘り込みは10cmである。袖部は砂粒まじりの褐色粘土で構築されている。袖部の内壁は火熱を受けて赤変している。火床部は床面を6cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

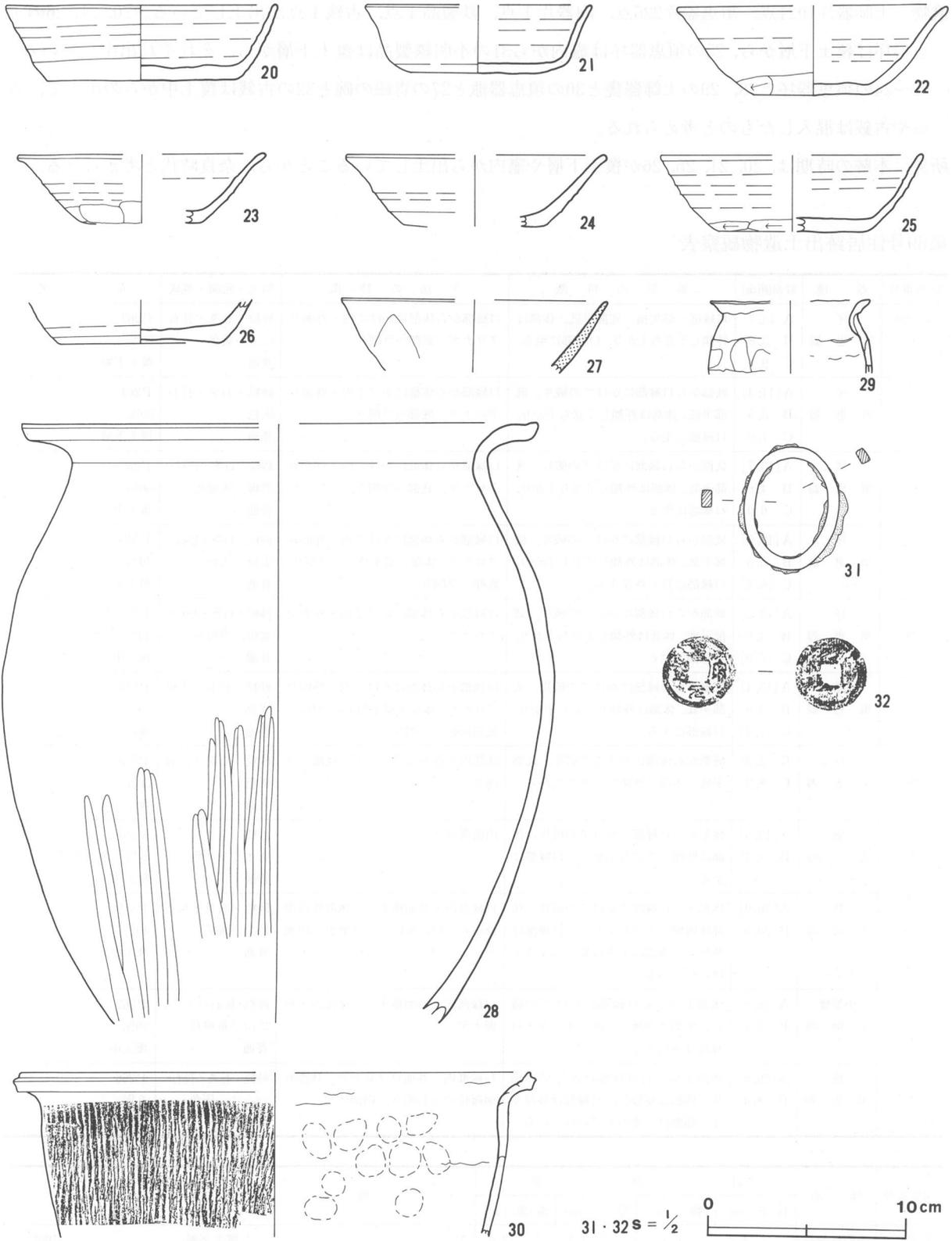
- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 灰褐色 焼土小ブロック微量，炭化物少量，粘土粒子多量 | 9 灰褐色 焼土粒子微量，灰粒子中量，粘土粒子中量 |
| 2 褐色 ローム小ブロック少量，焼土粒子微量，粘土粒子多量 | 10 暗褐色 ローム小ブロック少量，焼土小ブロック少量 |
| 3 褐色 ローム小ブロック少量，焼土粒子微量，粘土粒子中量 | 11 灰褐色 ローム粒子多量，焼土粒子少量 |
| 4 褐色 ローム小ブロック少量，焼土粒子少量，粘土粒子中量 | 12 暗褐色 ローム小ブロック少量，焼土粒子少量，粘土粒子中量 |
| 5 灰褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，炭化粒子少量 | 13 暗褐色 ローム小ブロック少量，焼土粒子少量，粘土粒子中量 |
| 6 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子少量，粘土粒子少量 | 14 暗褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，粘土粒子少量 |
| 7 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，粘土粒子少量 | 15 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量，粘土粒子中量 |
| 8 極暗褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック中量，粘土粒子少量 | 16 灰褐色 ローム粒子少量，焼土粒子少量，粘土粒子少量 |

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は径46cmの円形，深さ47cmである。P2は長径38cm，短径21cmの楕円形，深さ51cmである。P3は長径73cm，短径55cmの楕円形，深さ48cmで，いずれも主柱穴である。

覆土 5層からなり，自然堆積である。

土層解説

- | |
|---------------------------------|
| 15 極暗褐色 ローム粒子微量，焼土粒子微量 |
| 16 極暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化粒子微量 |
| 17 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化粒子微量 |
| 18 黒褐色 ローム粒子微量，焼土小ブロック微量 |
| 19 黒褐色 ローム粒子微量，焼土小ブロック少量，焼土粒子少量 |



第121图 第69号住居跡出土遺物実測・拓影図

遺物 土師器片1021点, 須恵器片225点, 陶器片1点, 鉄製品1点, 古銭1点が出土している。20, 21, 26の須恵器坏は覆土下層から, 25の須恵器坏は竈内から31の不明鉄製品は覆土下層から, それぞれ出土している。22~24の須恵器坏と28, 29の土師器甕と30の須恵器甌と27の青磁の碗と32の古銭は覆土中からの出土で, 青磁や古銭は混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は, 20, 21, 25, 26が覆土下層や竈内から出土していることから, 奈良時代と考えられる。

第69号住居跡出土遺物観察表

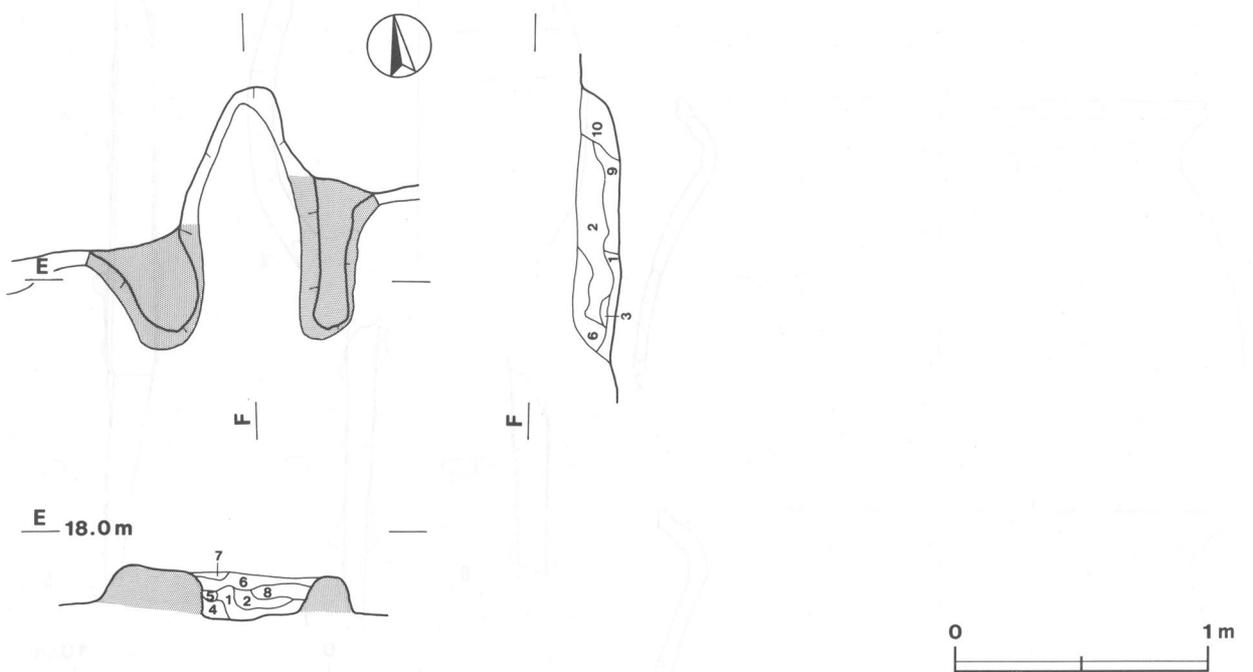
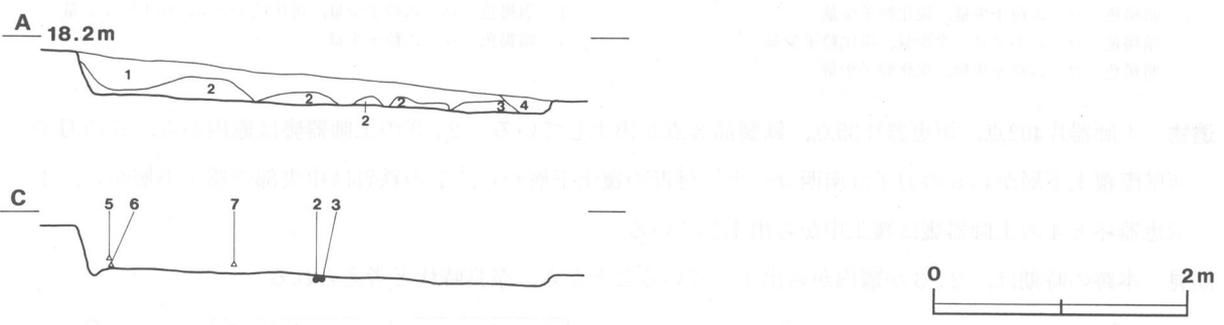
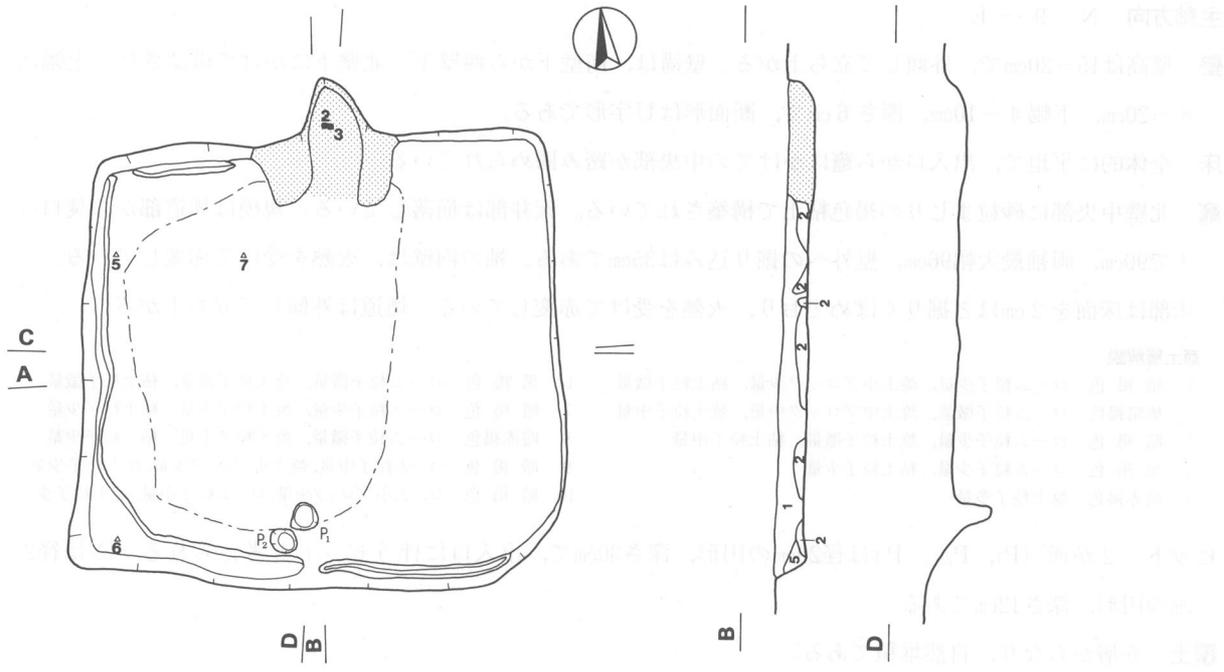
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第121図 20	坏 須恵器	A 13.7 B 3.8 C 9.8	口縁部一部欠損。底部平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。底部へラ削り。	砂粒・石英・長石 にふい黄色 普通	P263 80% 覆土下層
21	坏 須恵器	A [11.3] B 3.5 C 7.0	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。底部へラ削り。	砂粒・石英・長石 灰色 普通	P264 50% 覆土下層
22	坏 須恵器	A [13.7] B 4.6 C 6.0	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。底部へラ削り。	砂粒・石英・長石・ 雲母, 灰褐色 普通	P265 50% 覆土中
23	坏 須恵器	A [12.6] B 3.5 C [6.2]	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部は短く外反する。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部へラ削り。	砂粒・石英・長石・ 雲母, 灰色 普通	P517 30% 覆土中
24	坏 須恵器	A [13.2] B 3.6 C [7.0]	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母, 黒褐色 普通	P515 30% 覆土中
25	坏 須恵器	A [13.4] B 3.9 C [7.4]	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部回転へラ削り。	砂粒・長石・雲母 灰色 普通	P516 30% 竈内
26	坏 須恵器	B (2.2) C 8.2	底部から体部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部へラ削り。	砂粒・石英・長石 灰色 普通	P518 30% 覆土下層
27	碗 青磁	A [13.5] B (4.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	内面連弁文。	砂粒 灰オリーブ色 普通	P267 5% 龍泉窯系 覆土中
28	甕 土師器	A [26.0] B (30.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し, 端部は上方に短くつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位から下位にかけてへラ磨き。内面ナデ。	砂粒・石英・長石 にふい褐色 普通	P519 40% 覆土中層
29	小型甕 土師器	A [8.0] B (3.7)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・長石・バミス にふい黄褐色 普通	P262 20% 覆土中
30	甌 須恵器	A [26.8] B (8.4)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾し, 口縁部は外反する。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面口クロナデ。体部外面縦位の平行叩き。内面ナデ。	砂粒・石英・長石・ バミス, 灰色 普通	P266 5% 覆土中

図版番号	種別	計測値				備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
第121図31	不明鉄製品	4.2	3.1	0.5	13.0	M12 覆土下層 100%
32	古銭	2.4	2.4	0.1	2.1	M13 銅銭 判読不明 覆土中 100%

第70号住居跡 (第122図)

位置 調査1区の中央部, H13c8区。

規模と平面形 長軸3.85m, 短軸3.70mの方形である。



第122図 第70号住居跡実測図

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は15~20cmで、外傾して立ち上がる。壁溝は、南壁下から西壁下、北壁下にかけて確認され、上幅は8~20cm、下幅4~10cm、深さ6cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、出入口から竈にかけての中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に砂粒まじりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで90cm、両袖最大幅96cm、壁外への掘り込みは35cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は床面を2cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 粘土粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子微量, 焼土粒子微量, 粘土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子微量, 焼土中ブロック中量, 焼土粒子中量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 粘土粒子中量 | 8 暗赤褐色 | ローム粒子微量, 焼土粒子中量, 粘土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量, 粘土粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子多量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |

ピット 2か所 (P1, P2)。P1は径20cmの円形、深さ30cmで、出入口に伴うピットと考えられる。P2は径21cmの円形、深さ12cmである。

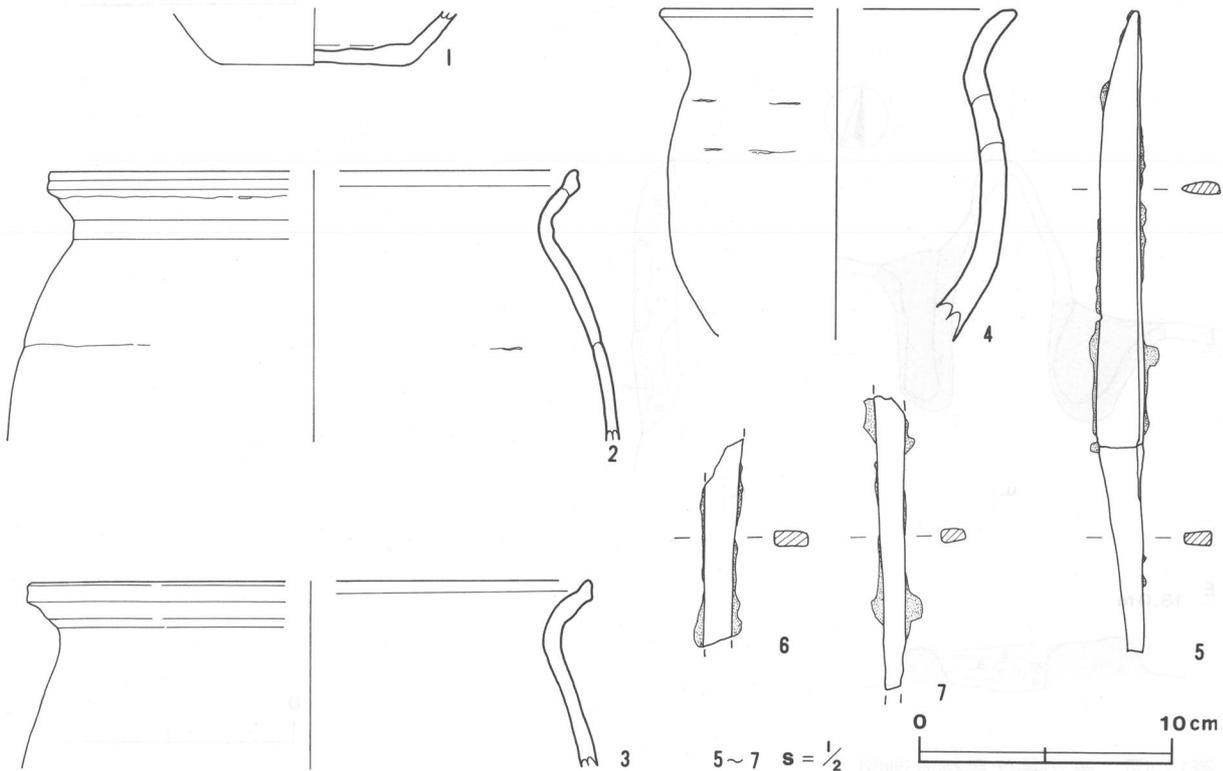
覆土 5層からなり、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子少量, 粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子少量 | | |

遺物 土師器片402点, 須恵器片35点, 鉄製品3点が出土している。2, 3の土師器甕は竈内から、5の刀子は西壁際覆土下層から6の刀子は南西コーナー付近の覆土下層から、7の鉄釘は中央部の覆土下層から、1の須恵器坏と4の土師器甕は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、2, 3が竈内から出土していることから、奈良時代と考えられる。



第123図 第70号住居跡出土遺物実測図

第70号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第123図 1	坏 須恵器	B (2.1) C [7.7]	底部から体部下位にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面クロナテ。底部ヘラ削り。	砂粒・石英・長石 灰色 普通	P 269 20% 覆土中
2	甕 土師器	A [20.8] B (10.8)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナテ。体部外面ナテ。体部内面ヘラナテ。	砂粒・石英・長石・ 雲母 明赤褐色 普通	P 268 5% 竈内
3	甕 土師器	A [22.4] B (7.5)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外反し、端部は上方に短くつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナテ。体部内・外面ナテ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、にぶい赤褐色、普通	P 520 10% 竈内
4	甕 土師器	A [14.0] B (13.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナテ。体部内・外面ナテ。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P 521 30% 覆土中

図版番号	種別	計測値				備考			
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)				
第123図5	刀子	(16.9)	1.2	0.4	(23.0)	M14	鉄製	覆土下層	90%
6	刀子	(5.5)	1.0	0.4	(8.0)	M15	鉄製	覆土下層	20%
7	鉄釘	(7.8)	0.7	0.4	(8.0)	M16	鉄製	覆土下層	

第72-A号住居跡 (第124図)

位置 調査1区の中央部, G13f7区。

重複関係 本跡は、第72-B号住居跡に掘り込まれているので、第72-B号住居跡より古い。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが、残存する壁や床から長軸3.57m, 短軸 (2.45) m の方形と考えられる。

主軸方向 N-7°-E

壁 壁高は18cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈 北東壁中央部に構築されているが、重複によりほとんど残存していない。

覆土 3層からなり、自然堆積である。

土層解説

5 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 7 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量

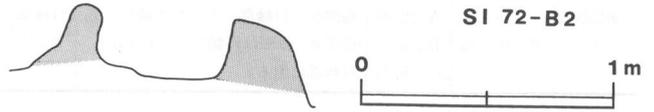
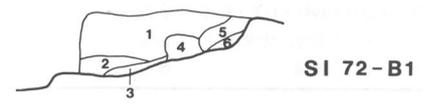
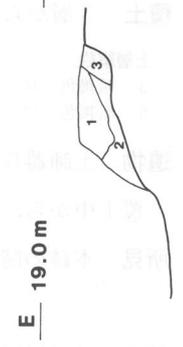
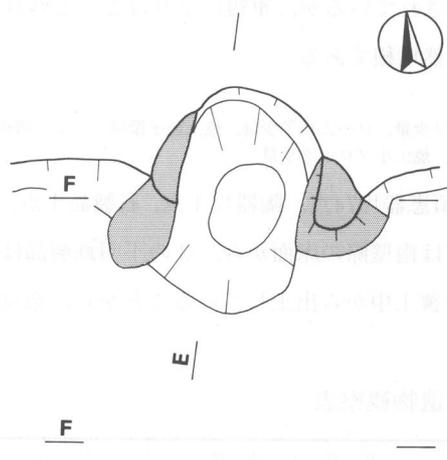
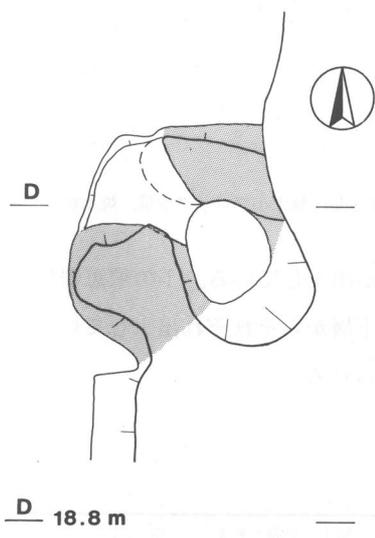
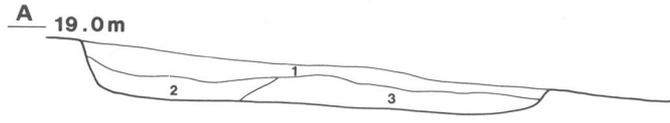
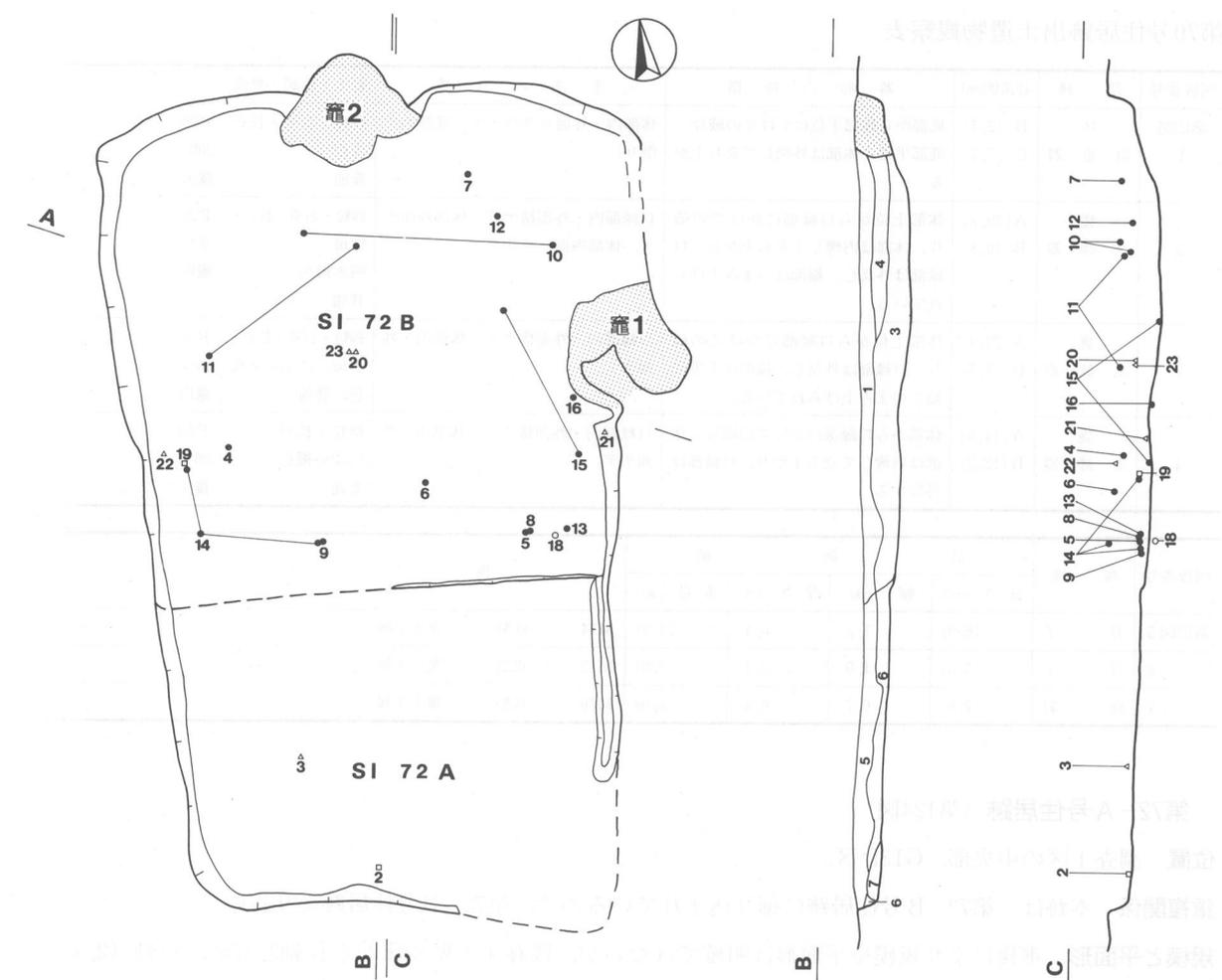
6 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量

遺物 土師器片400点, 須恵器片74点, 陶器片1点, 石製品1点, 鉄製品1点が出土している。1の須恵器坏は覆土中から、2の砥石は南壁際の床面から、3の不明鉄製品は中央部覆土下層からそれぞれ出土している。

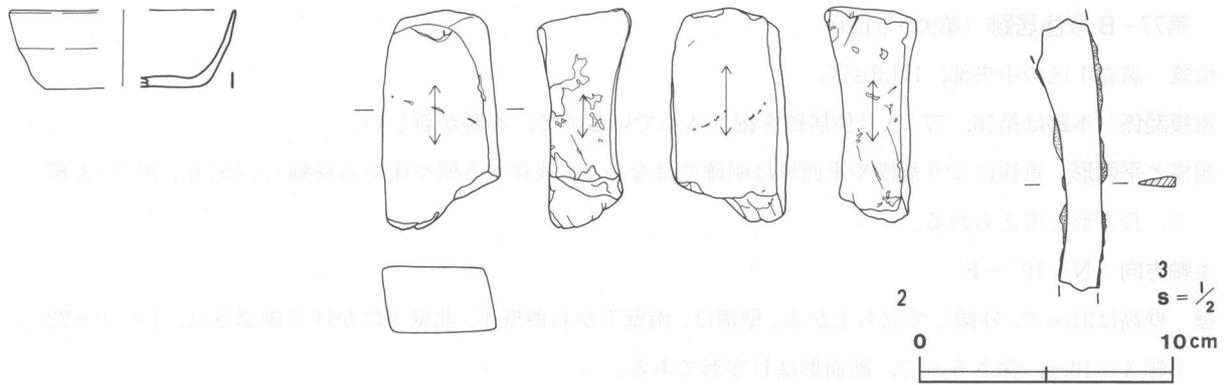
所見 本跡の時期は、1が覆土中から出土していることから、奈良時代と考えられる

第72-A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第125図 1	坏 須恵器	A [9.0] B 3.1 C [6.2]	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面クロナテ。底部ヘラ削り。	砂粒・石英・長石・ 雲母, 灰黄色 普通	P 270 10% 覆土中



第124图 第72-A·B号住居跡実测图



第125図 第72-A号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第125図2	砥石	(8, 8)	4.7	2.5	(170.0)	凝灰岩	床直	Q16 80%

図版番号	種別	計測値				備考	
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第125図3	不明鉄製品	(7, 2)	(1.5)	0.3	(9.0)	M17	鉄製 覆土下層

第77-A号住居跡 (第93図)

位置 調査1区の中央部, H13c5区。

重複関係 本跡は第76, 78号住居跡を掘り込み, 第77-B号住居跡に掘り込まれているので, 第76, 78号住居跡より新しく, 第77-B号住居跡より古い。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが, 残存する壁や床から長軸 (3.06) m, 短軸3.05mで, 方形または長方形と考えられる。

主軸方向 N-3°-E

壁 壁高は16~20cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット 4か所 (P1~P4)。P1は長径25cm, 短径22cmの楕円形, 深さ14cmで, 支柱穴である。P2は長径25cm, 短径19cmの楕円形, 深さ8cmで, 支柱穴である。P3は径23cmの円形, 深さ22cmで, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P4は径24cmの円形, 深さ13cmで, 性格は不明である。

覆土 6層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|-----------------------------|
| 8 褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 11 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子少量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土中ブロック微量 | 12 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 10 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土中ブロック微量 | 13 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |

遺物 土師器片215点, 須恵器片21点が出土しているが, いずれも本跡に伴うものではない。

所見 時期は, 本跡に伴う遺物がないため不明であるが, 第78号住居跡より新しく, 第76, 77-B号住居跡より古いことから, 奈良時代と考えられる。

第77-B号住居跡 (第93・94図)

位置 調査1区の中央部, H13b5区。

重複関係 本跡は第76, 77-A号住居跡を掘り込んでいるので, 本跡が新しい。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが, 残存する壁や床から長軸 [3.45] m, 短軸 [2.87] mで, 長方形と考えられる。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は31cmで, 外傾して立ち上がる。壁溝は, 南壁下から西壁下, 北壁下にかけて確認され, 上幅10~22cm, 下幅3~10cm, 深さ6cmで, 断面形はU字形である。

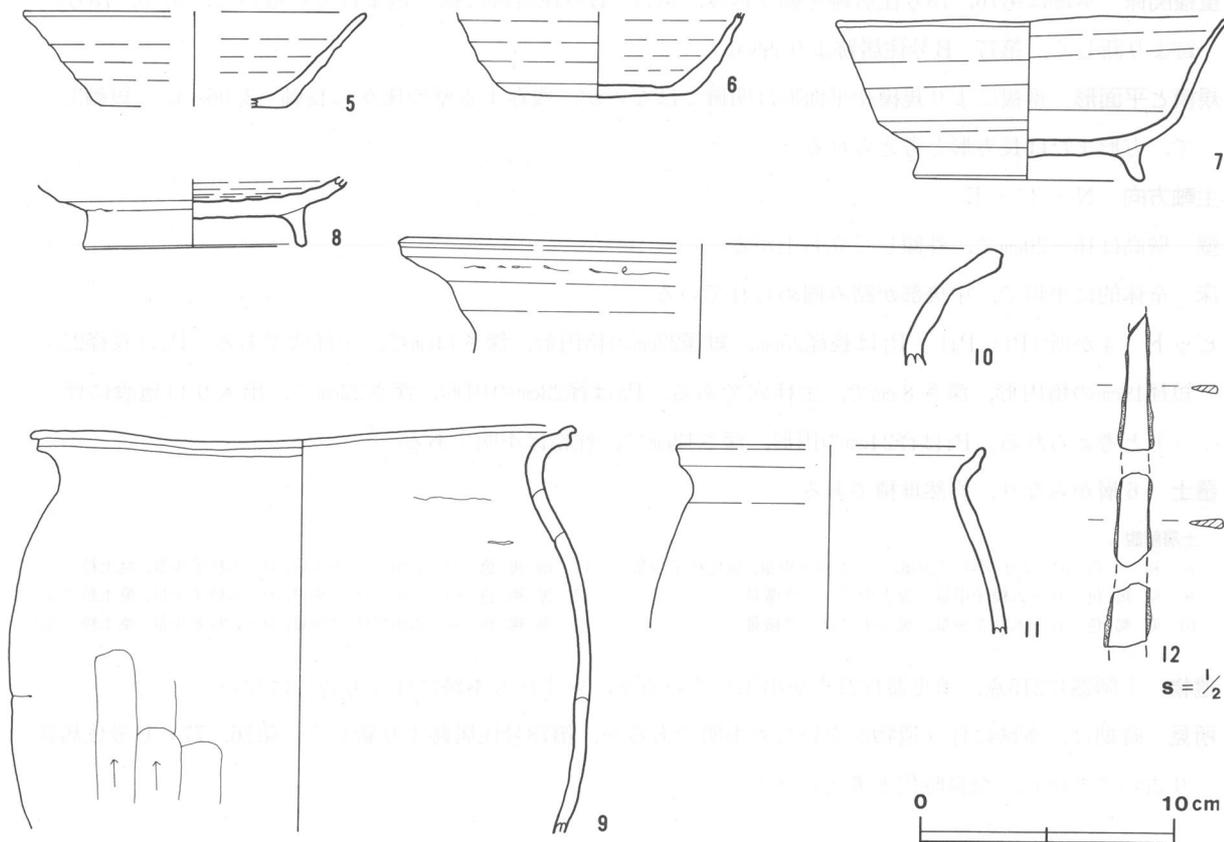
床 全体的に平坦で, 出入口から竈にかけての中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで97cm, 両袖最大幅108cm, 壁外への掘り込みは25cmである。袖部は砂粒まじりの褐色粘土で構築されている。火床部は床面を3cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて一部が赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

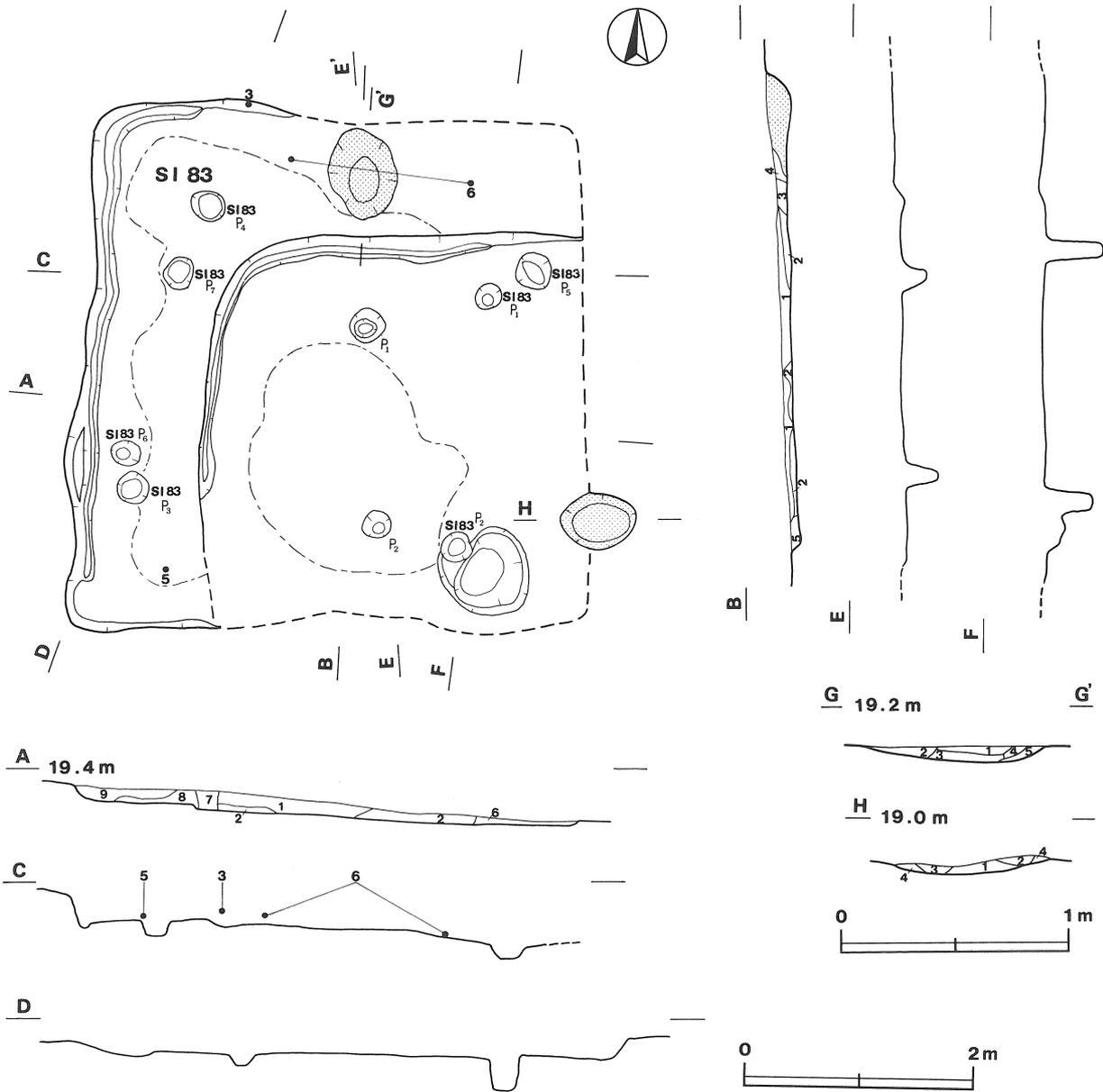
竈土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|-------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量 | 5 赤褐色 | 焼土中ブロック少量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 2 赤褐色 | 焼土中ブロック中量, 焼土粒子中量, 炭化粒子・灰粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子微量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒色 | ローム粒子微量, 焼土粒子少量, 炭化粒子多量 | 7 暗褐色 | ローム粒子微量, 焼土小ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量 | | |

ピット P1は長径30cm, 短径26cmの楕円形, 深さ14cmで, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は長径95cm, 短径60cmの楕円形, 深さ7cmで, 北東コーナー近くに掘り込まれている。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。性格は不明である。



第126図 第77-B号住居跡出土遺物実測図



第127図 第83・84号住居跡実測図

26cm, 下幅4~8cm, 深さ6cmで, 断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

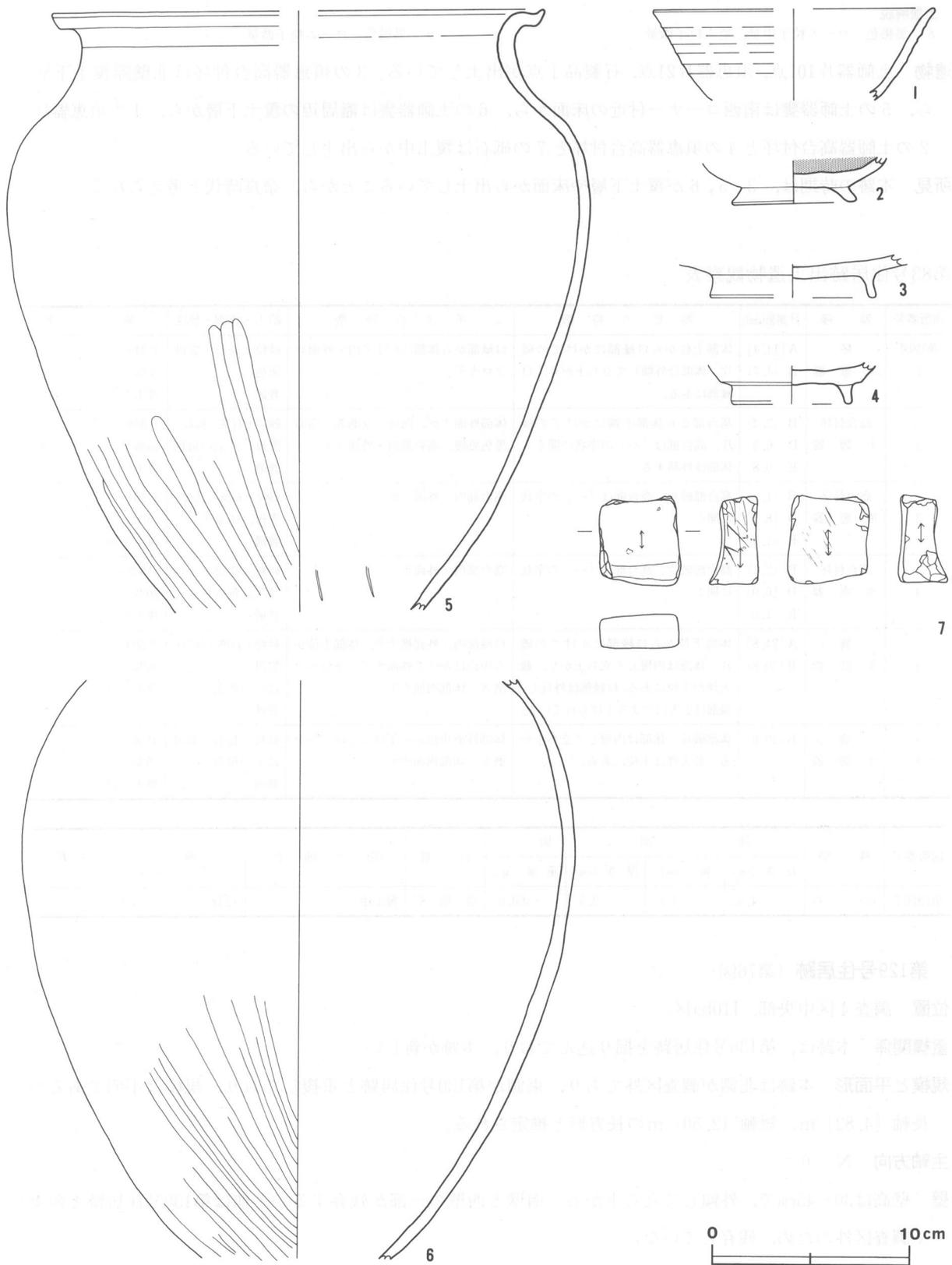
竈 北壁中央部に構築されているが, 重複によりほとんど残存しておらず, 掘り方だけを確認した。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子少量, 灰粒子多量 | 4 暗赤褐色 焼土粒子中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土中ブロック中量, 焼土粒子多量 | |

ピット 7か所 (P1~P7)。P1は長径25cm, 短径11cmの楕円形, 深さ53cm。P2は径28cmの円形, 深さ43cm。P3は長径28cm, 短径23cmの楕円形, 深さ35cm。P4は径30cmの円形, 深さ34cmで, いずれも主柱穴と考えられる。P5は径34cmの円形, 深さ14cm。P6は長径27cm, 短径20cmの楕円形, 深さ12cm。P7は径27cmの円形, 深さ12cmで, いずれも性格不明である。

覆土 2層からなる。



第128图 第83号住居跡出土遺物実測図

土層解説

8 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量

9 黒褐色 ローム粒子微量

遺物 土師器片101点, 須恵器片21点, 石製品1点が出土している。3の須恵器高台付坏は北壁際覆土下層から, 5の土師器甕は南西コーナー付近の床面から, 6の土師器甕は竈周辺の覆土下層から, 1の須恵器坏と2の土師器高台付坏と4の須恵器高台付坏と7の砥石は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 3, 5, 6が覆土下層や床面から出土していることから, 奈良時代と考えられる。

第83号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第128図 1	須恵器 坏	A [14.4] B (4.7)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。	砂粒・長石・雲母 灰色 普通	P310 5% 覆土中
2	土師器 高台付坏	B (2.2) D 6.3 E 0.8	高台部から体部下端にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は外傾する。	体部外面ナデ。内面へラ磨き。内面黒色処理。高台部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母, にふい褐色 普通	P308 10% 覆土中
3	須恵器 高台付坏	B (1.7) D [8.2] E (1.1)	高台部破片。高台部は「ハ」の字状に開く。	高台部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母, 灰黄色 普通	P561 20% 覆土下層
4	須恵器 高台付坏	B (2.1) D [6.0] E 1.0	高台部破片。高台部は「ハ」の字状に開く。	高台部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア, 黄灰色 普通	P562 30% 覆土中
5	土師器 甕	A [24.8] B (30.8)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 最大径が上位にある。口縁部は外反し, 端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部上位から中位にかけて外面ナデ。下位へラ磨き。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 にふい褐色 普通	P309 40% 覆土下層
6	土師器 甕	B (29.6)	体部破片。体部は内彎して立ち上がる。最大径は上位にある。	体部外面中位から下位にかけてへラ磨き。体部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 にふい橙色 普通	P563 35% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第128図7	砥石	(4.5)	4.3	2.5	(60.0)	凝灰岩	覆土中	Q18

第129号住居跡 (第76図)

位置 調査4区中央部, I10b9区。

重複関係 本跡は, 第130号住居跡を掘り込んでおり, 本跡が新しい。

規模と平面形 本跡は北側が調査区外であり, 東側が第130号住居跡と重複しており, 規模は不明であるが, 長軸 [4.82] m, 短軸 (2.50) mの長方形と推定される。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は30~45cmで, 外傾して立ち上がる。南壁と西壁の一部が残存するが, 他は第130号住居跡との重複や調査区外のため, 残存していない。

床 全体的に平坦で, あまり踏み固められていない。西壁近くに, 長径88cm, 短径50cmの範囲で楕円形に粘土が確認されている。

竈 北側調査区境界に, 径43cmで半円形に粘土が確認されており, ここに竈が存在したと考えられるが, 天井部, 袖部, 煙道とも残存しない。

覆土 5層からなり, 自然堆積である。

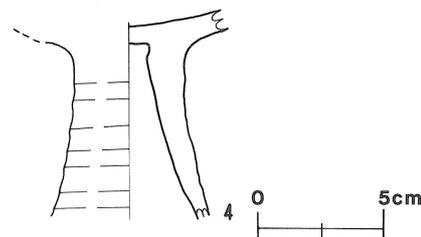
土層解説

- 19 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 20 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 21 黒褐色 ローム粒子微量
- 22 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 23 黒褐色 ローム中ブロック少量

遺物 土師器片246点，須恵器片45点，陶器片3点が出土している。

4の須恵器高盤が西部床面直上から出土している。

所見 遺構の残存状態が悪く，本跡の時期判断は難しいが，時期は出土遺物から奈良時代と思われる。



第129図 第129号住居跡出土遺物実測図

第129号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第129図 4	高盤 須恵器	B (7.4) E (6.4)	脚部破片。脚部は円錐形で坏部に至る。	脚部外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石にふい黄橙色普通	P420 10% 覆土中

(3) 平安時代

第13-A号住居跡 (第130図)

位置 調査3区の西部，K11h2区。

重複関係 本跡は第11，12号住居跡を掘り込み，第13-B号住居跡に掘り込まれているので，第11，12号住居跡より新しく，第13-B号住居跡より古い。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確でないが，長軸 [3.35] m，短軸 (2.82) mの方形または長方形と考えられる。

主軸方向 N-13°-E

壁 壁高は18cmで，外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で，踏み固められている。

竈 北壁中央に砂粒まじりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで95cm，両袖最大幅104cm，壁外への掘り込みは43cmである。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床部は床面を5cm掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量，焼土小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 ローム粒子少量，焼土中ブロック中量，焼土粒子少量
- 5 赤褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，焼土粒子少量
- 6 赤褐色 ローム小ブロック少量，焼土粒子多量，炭化粒子少量
- 7 暗赤褐色 ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化粒子少量
- 8 赤褐色 ローム粒子少量，炭化粒子少量，粘土小ブロック中量

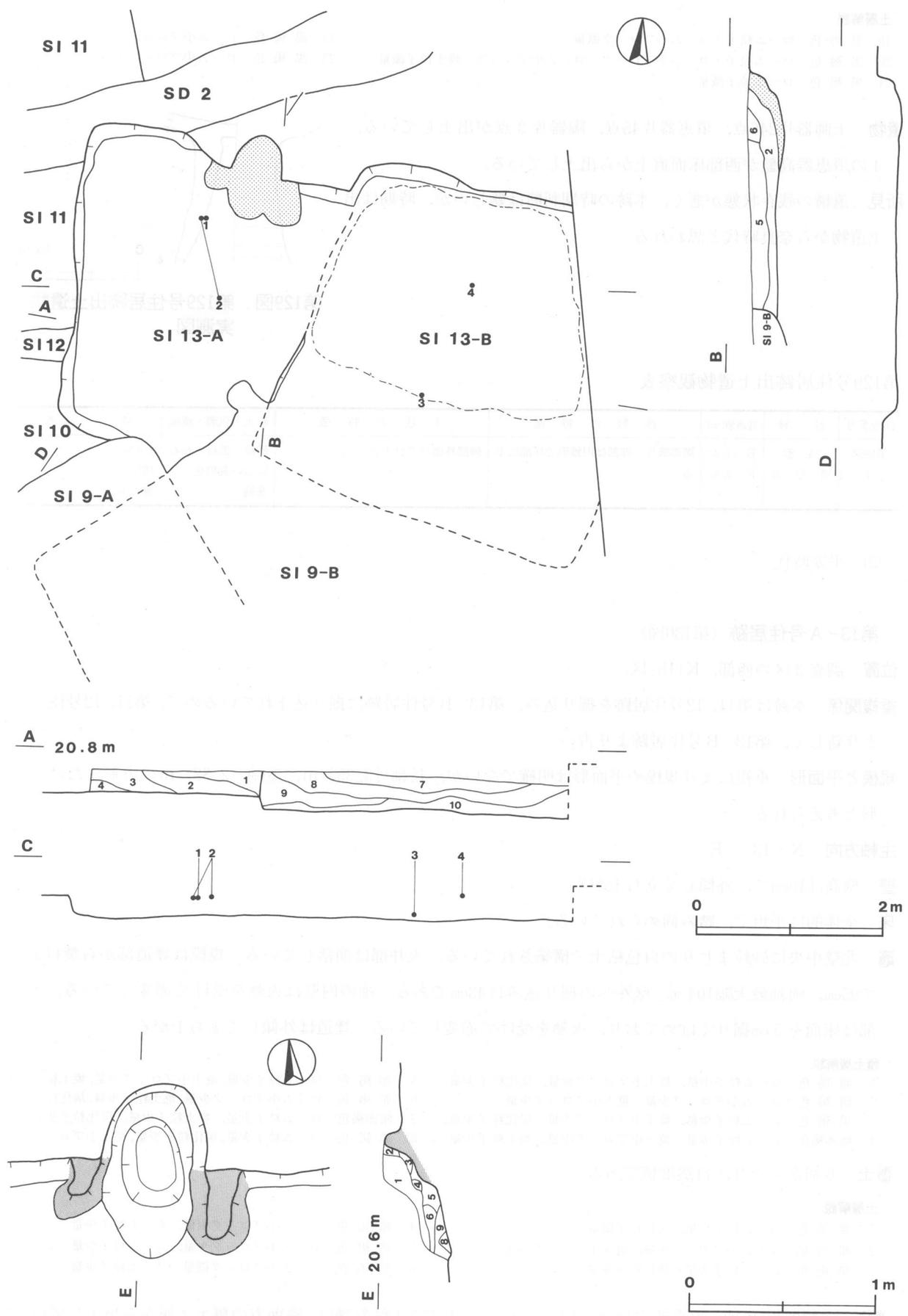
覆土 6層からなり，自然堆積である。

土層解説

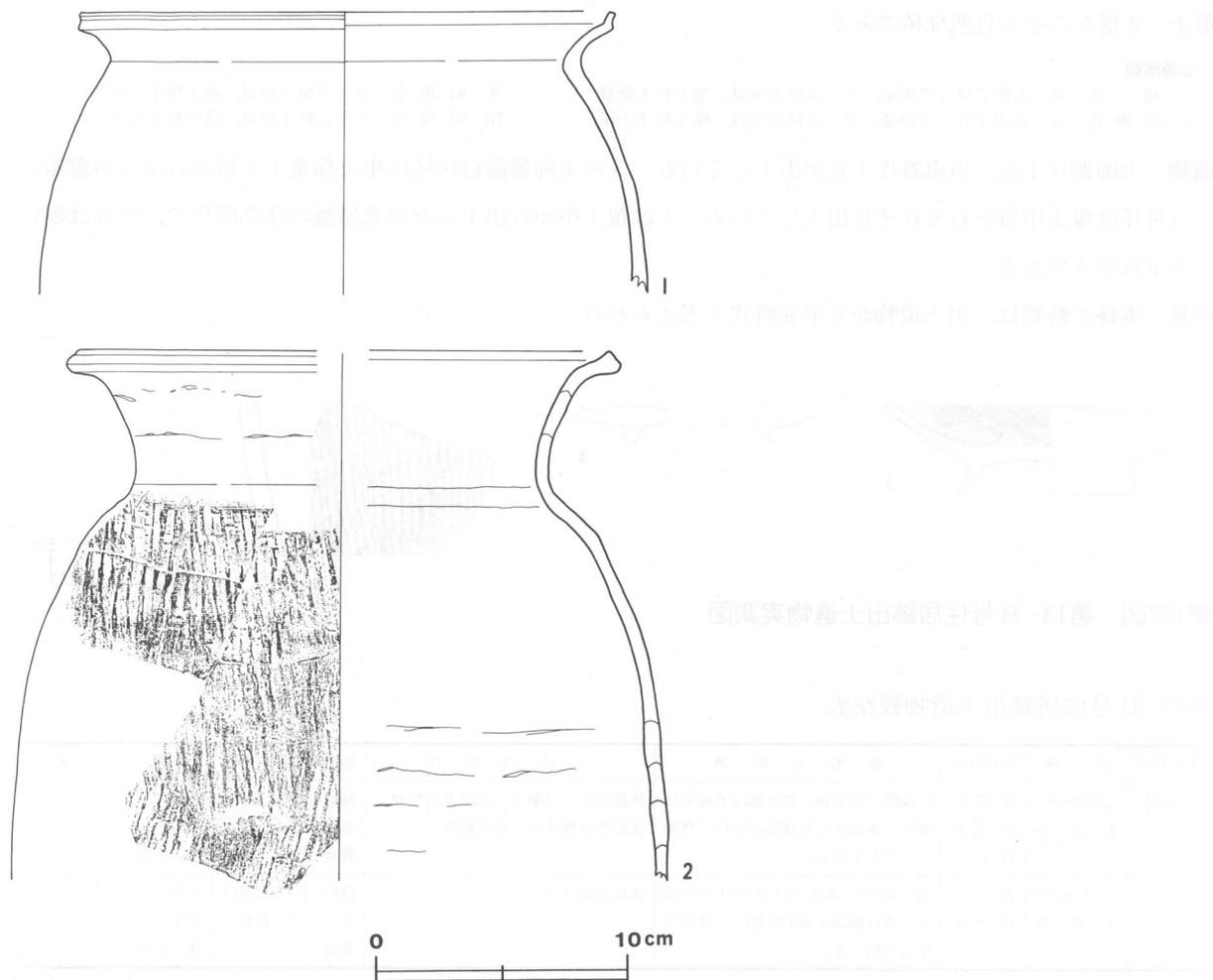
- 1 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量，焼土小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック微量，ローム粒子少量

遺物 土師器片106点，須恵器片4点が出土している。1，2の土師器甕は，竈前方の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から平安時代と考えられる。



第130图 第13-A・B号住居跡実测图



第131図 第13-A号住居跡出土遺物実測図

第13-A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第131図 1	甕 土師器	A 21.0 B (11.4)	体部上位から、口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部は上方にのみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母、にぶい橙色 普通	P59 30% 覆土中層
2	甕 須恵器	A [21.1] B (21.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部は上方にのみ上げられている。	口縁部内・外面クロナデ。体部外面平行叩き。	砂粒・石英・長石・雲母、灰色 普通	P60 20% 覆土上層

第13-B号住居跡 (第130図)

位置 調査3区の西部, K11h3区。

重複関係 本跡は第9-B, 13-A号住居跡を掘り込んでいるので, 本跡が新しい。

規模と平面形 本跡の東側4分の1が調査区域外へ延びていることと, 他の住居跡との重複により規模や平面形は明確でないが, 長軸 [3.91] m, 短軸 [3.61] mの方形と考えられる。

主軸方向 N-18°-E

壁 壁高は12cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

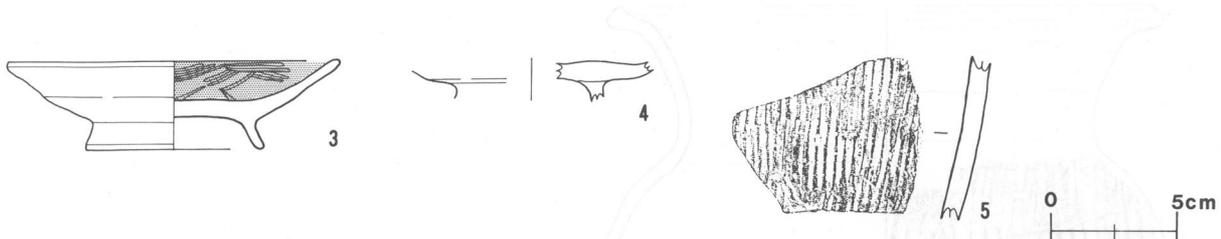
覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 7 褐色 ローム中ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子少量
- 9 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量
- 10 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子少量

遺物 土師器片 1点, 須恵器片 1点が出土している。3の土師器高台付坏は中央部覆土下層から, 4の須恵器高台付坏は覆土中層からそれぞれ出土している。5は覆土中から出土した須恵器甎の体部破片で, 外面は縦位の平行叩きである。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から平安時代と考えられる。



第132図 第13-B号住居跡出土遺物実測図

第13-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第132図 3	高台付坏 土師器	A 13.1 B 3.5 D 7.0	口縁部一部欠損。高台部は直線的に開く。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き。内面黒色処理。体部外面横ナデ。高台貼付。	砂粒・石英・長石・雲母, にぶい橙色 普通	P61 80% 覆土下層
4	高台付坏 土師器	A (1.6) B (0.8)	高台部から体部下位にかけての破片。高台部は直線的に開く。体部下位は外傾する。	体部外面ナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア, 橙色 普通	P62 10% 覆土上層

第41号住居跡 (第106図)

位置 調査1区北部, F14g1区。

重複関係 本跡は第37号住居跡を掘り込んでいることから, 本跡が新しい。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが, 長軸 [4.50] m, 短軸 [4.30] mの方形と考えられる。

主軸方向 N-18°-E

壁 壁高は26cmで, 外傾して立ち上がる。壁溝は, 南壁下, 西壁下で確認され, 上幅10~25cm, 下幅3~9cm, 深さ6cmで, 断面形はU字形である。

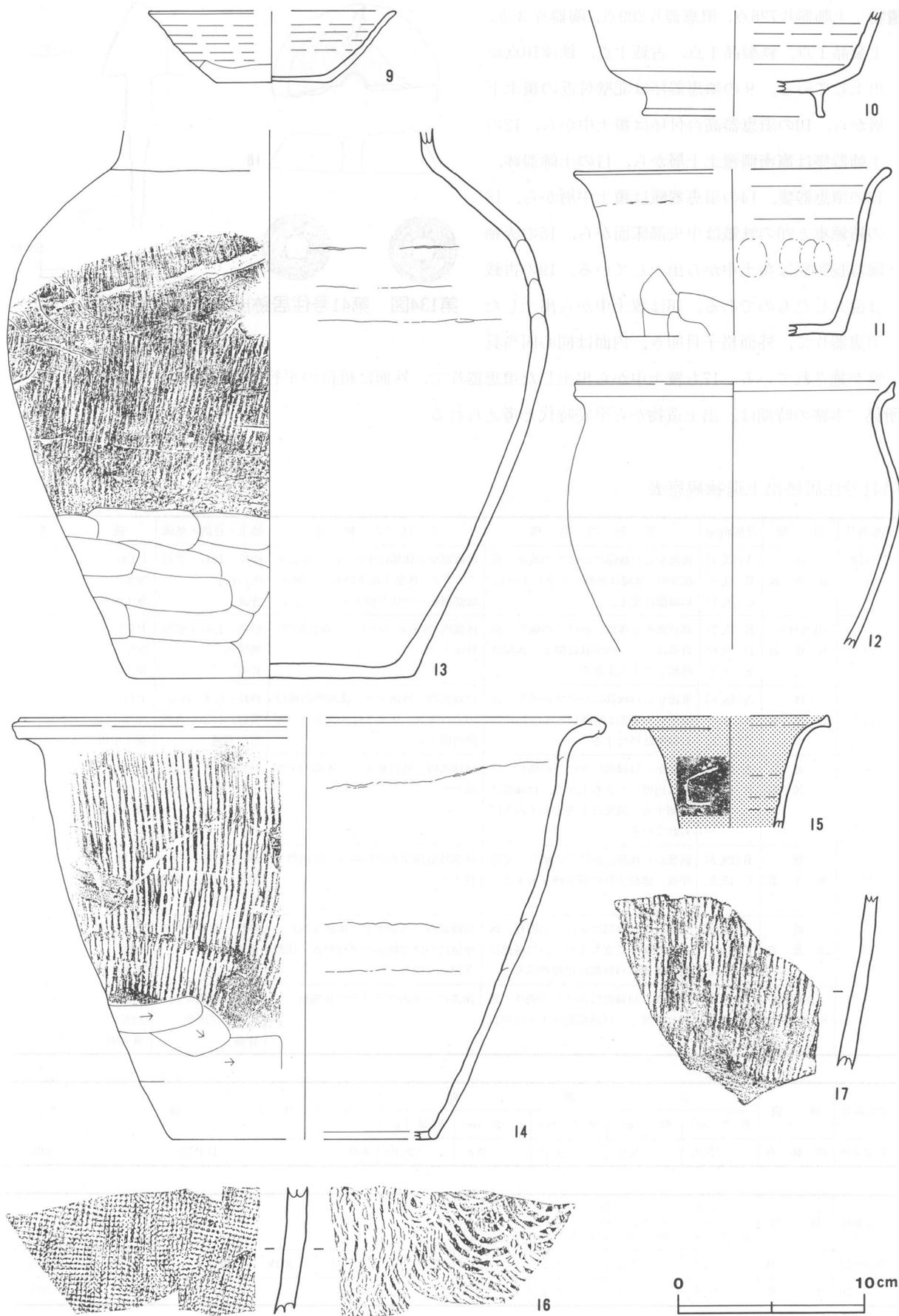
床 全体的に平坦で, 出入り口から竈にかけての中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に構築されているが, 耕作による攪乱を受けているためほとんど残存していない。

覆土 19層からなり, 攪乱を受けているが自然堆積と考えられる。

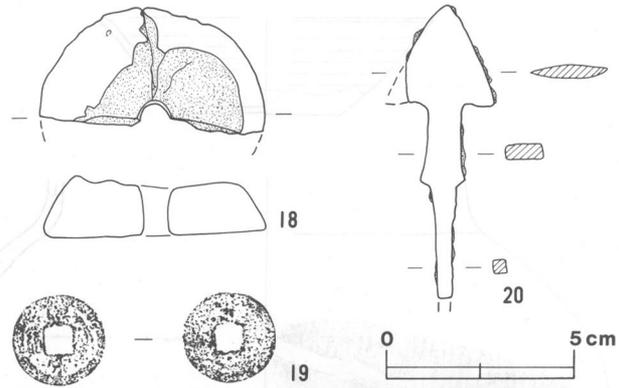
土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック少量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子少量, 炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子少量
- 8 褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子少量, 炭化粒子少量
- 10 黒褐色 ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック少量
- 11 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 粘土粒子少量
- 12 黒褐色 ローム中ブロック少量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量
- 13 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子少量, 粘土粒子少量
- 14 褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量
- 24 黒褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子少量
- 25 極暗褐色 ローム中ブロック少量, ローム粒子少量
- 26 暗褐色 ローム中ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 27 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
- 28 黒褐色 ローム粒子少量



第133图 第41号住居跡出土遺物実測図(1)

遺物 土師器片726点, 須恵器片209点, 陶器片3点, 土製品1点, 鉄製品1点, 古銭1点, 鉄滓10点が出土している。9の須恵器坏は北壁付近の覆土下層から, 10の須恵器高台付坏は覆土中から, 12の土師器甕は竈南側覆土上層から, 11の土師器鉢, 13の須恵器甕, 14の須恵器甌は覆土中層から, 18の紡錘車と20の鉄鏝は中央部床面から, 15の灰釉陶器長頸瓶は覆土中から出土している。19の古銭は混入したものである。16は覆土中から出土した須恵器片で, 外面格子目叩き, 内面は同心円当具



第134図 第41号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

痕が施されている。17も覆土中から出土した須恵器片で, 外面に縦位の平行叩きが施されている。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から平安時代と考えられる。

第41号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第133図 9	坏 須恵器	A [13.4] B 3.9 C [6.1]	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部回転へら切り後ナデ。	砂粒・長石・雲母 灰白色 普通	P 150 20% 覆土中層
10	高台付坏 須恵器	B (5.7) D [9.6] E 1.3	高台部から体部にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。高台部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 褐灰色 普通	P 151 20% 覆土中
11	鉢 須恵器	A [16.8] B 9.0 C [11.8]	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。体部下位へら削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母, にふい赤褐色, 普通	P 148 30% 覆土中層
12	甕 土師器	A 10.4 B (6.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外傾する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母, にふい褐色 普通	P 147 40% 覆土上層
13	甕 須恵器	B (29.5) C 15.5	底部から体部にかけての破片。底部平底。体部上位に最大径を有する。	体部外面縦位の平行叩き。底部削り後ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母, にふい黄褐色 普通	P 152 50% 覆土中層
14	甌 須恵器	A [30.8] B [14.0] C 22.7	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部は外反する。口唇部に沈線が巡る。	口縁部内・外面ナデ。体部上位から中位にかけて縦位の平行叩き。体部下位へら削り。	砂粒・長石・雲母 褐灰色 普通	P 153 40% 覆土中層
15	長頸瓶 灰釉陶器	A [10.4] B (6.1)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は外反し, 口縁端部は上下に突出する。	頸部内・外面ロクロナデ後施釉。	砂粒・黒色斑点 オリープ灰色 普通	P 149 10% 覆土中

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第134図18	紡錘車	[5.9]	5.9	(1.7)	0.8	(28.0)	床直	D P 13 50%

図版番号	種別	計測値				備考				
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)					
第134図19	古銭	2.5	2.5	0.1	2.7	M 7	判読不明	銅銭	覆土中	100%
20	鉄鏝	(7.8)	(2.3)	0.4	(11.0)	M 8	床直			70%

第51号住居跡 (第136図)

位置 調査1区の北部, G13a8区。

重複関係 本跡は第52号住居跡を掘り込んでいるので, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸5.00m, 短軸4.98mの方形である。

主軸方向 N-3°-E

壁 壁高は15~36cmで, 外傾して立ち上がる。壁溝は, 南壁下から西壁下にかけて確認され, 上幅12~22cm, 下幅3~12cm, 深さ3~10cmで, 断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で, 出入り口から竈にかけての中心部が踏み固められている。

竈 北壁中央部構築されているが, 耕作による攪乱を受けており, 掘り方だけを確認した。規模は煙道部から焚口部まで126cm, 壁外への掘り込みは67cmである。火床部は火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量 | 6 灰褐色 焼土粒子少量, 粘土粒子多量 |
| 2 暗褐色 ローム小ブロック微量, 焼土小ブロック微量, 粘土粒子少量 | 7 灰褐色 焼土粒子少量, 粘土粒子中量 |
| 3 暗褐色 ローム中ブロック少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量 | 8 褐灰色 焼土粒子少量, 粘土粒子中量 |
| 4 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 | 9 明褐灰色 粘土粒子多量 |
| 5 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 | |

ピット 7か所(P1~P7)。P1~P4は長径50~70cm, 短径38~56cmの楕円形, 深さ29~45cmで, 支柱穴である。P5は径34cmの円形, 深さ40cmで, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は径34cmの円形, 深さ9cmある。P7は径35cmの円形, 深さ22cmで, いずれも補助柱穴と考えられる。

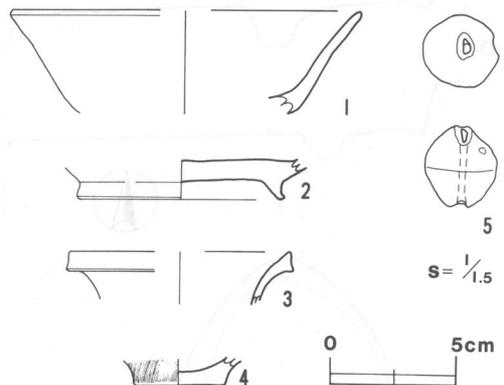
覆土 14層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------------------|------------------------------------|
| 1 極暗褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子微量, 焼土粒子微量 | 8 暗褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子微量, 焼土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 3 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子少量 | 10 黒褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子微量, 焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子微量 | 11 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 12 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 |
| 6 暗褐色 ローム小ブロック微量, 焼土粒子少量 | 13 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子少量, 粘土粒子少量 |
| 7 黒褐色 ローム粒子微量 | 14 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |

遺物 土師器片291点, 須恵器片5点, 土製品1点が出土している。2の須恵器高台付坏は東壁際から, 4のミニチュア土器, 3の須恵器長頸瓶及び1の須恵器坏は覆土中からそれぞれ出土している。5の土玉は混入したものである。

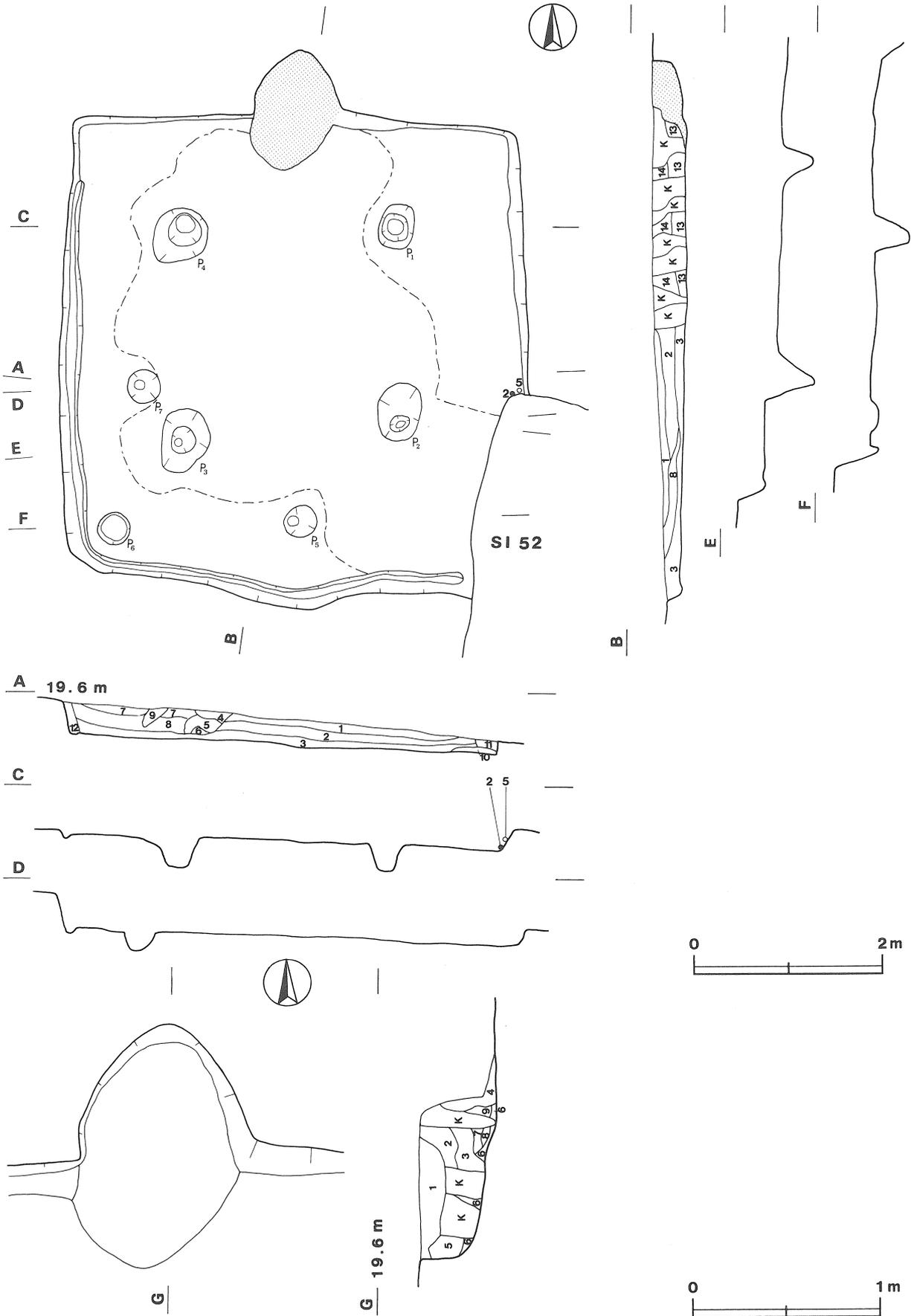
所見 本跡の時期は, 2が床面から出土していることから, 平安時代と考えられる。



第135図 第51号住居跡出土遺物実測図

第51号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第135図 1	須恵器 坏	A [13, 8] B (4.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面クロナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P176 20% 覆土中
2	須恵器 高台付坏	B (1.6) D 8.2 E 0.8	高台部破片。高台部は「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ切り後ナデ。高台部内・外面ナデ。貼付。	砂粒・長石・雲母 灰色 普通	P177 20% 東壁際



第136图 第51号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第135図 3	長頸瓶 須恵器	A [8.8] B (1.9)	口縁部破片。口縁部は外反して立ち上がり、端部は上下に突出する。	口縁部外面自然釉。	砂粒・長石 灰色 普通	P175 5% 覆土中
4	ミニチュア 土師器	B (0.9) C 3.5	底部から体部下端にかけての破片。 底部平底。	体部下端細かい刷毛目調整。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P174 20% 覆土中

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第135図5	土玉	1.4	1.4	1.6	0.2	(3.0)	東壁際	D P14

第59号住居跡 (第115図)

位置 調査1区の北部，G13f9区。

重複関係 本跡は第57号住居跡を掘り込んでいるので，本跡が新しい。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが，残存する壁や床から長軸 [3.16] m，短軸 [3.14] m の方形と考えられる。

主軸方向 N-12°-E

壁 壁高は25～55cmで，外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦である。

竈 北壁中央部に砂粒まじりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで141cm，両袖最大幅126cm，壁外への掘り込みは45cmである。袖の内壁は火熱を受けて部分的に赤変している。火床部は床面を60cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|---------|------------------------|
| 1 黄褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，粘土粒子多量 | 10 暗赤褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量，粘土小ブロック少量，粘土粒子中量 | 11 暗褐色 | 焼土小ブロック少量，粘土小ブロック少量 |
| 3 黄褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子少量，粘土粒子中量 | 12 黄褐色 | 焼土粒子少量，炭化粒子少量，粘土粒子多量 |
| 4 黄褐色 | ローム粒子微量，粘土粒子多量 | 13 黄褐色 | 焼土小ブロック少量，粘土粒子多量 |
| 5 暗赤褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子中量，炭化粒子少量 | 14 暗褐色 | 焼土粒子少量，灰粒子少量，粘土粒子中量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 15 黒褐色 | 焼土粒子少量，粘土粒子少量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化粒子少量 | 16 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，粘土粒子少量 |
| 8 明褐色 | 焼土粒子少量，灰粒子多量 | 17 黄褐色 | 焼土小ブロック少量，灰粒子少量，粘土粒子多量 |
| 9 赤褐色 | 焼土粒子多量 | | |

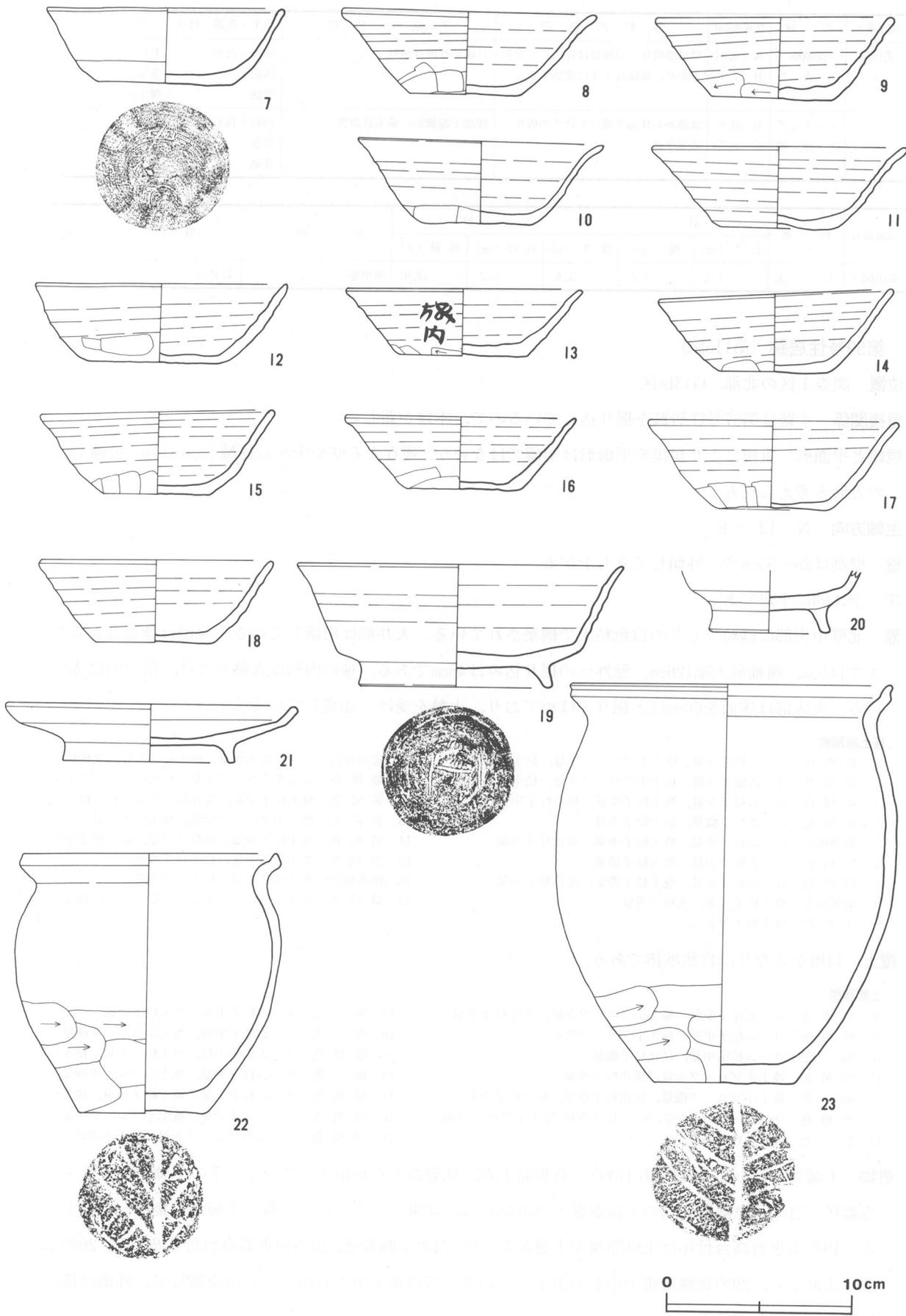
覆土 14層からなり，自然堆積である。

土層解説

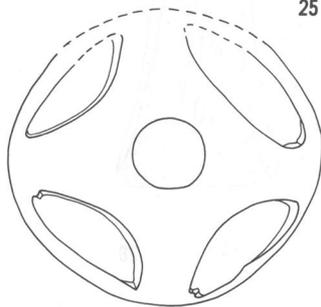
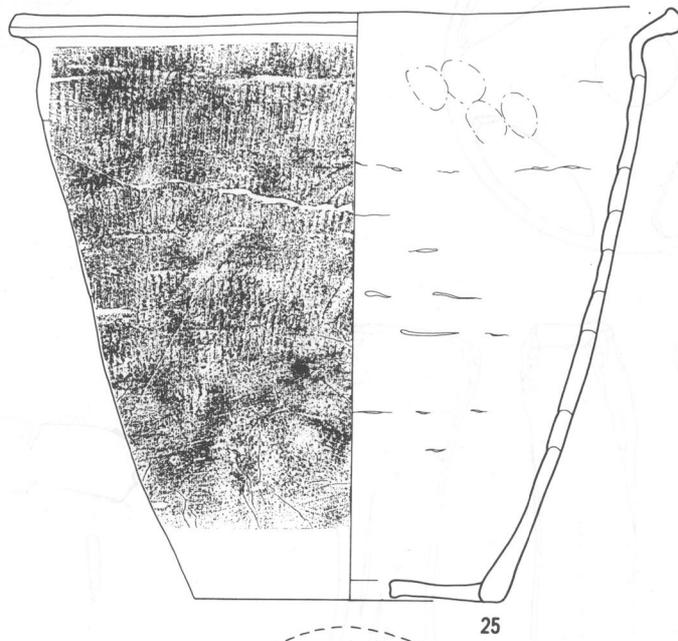
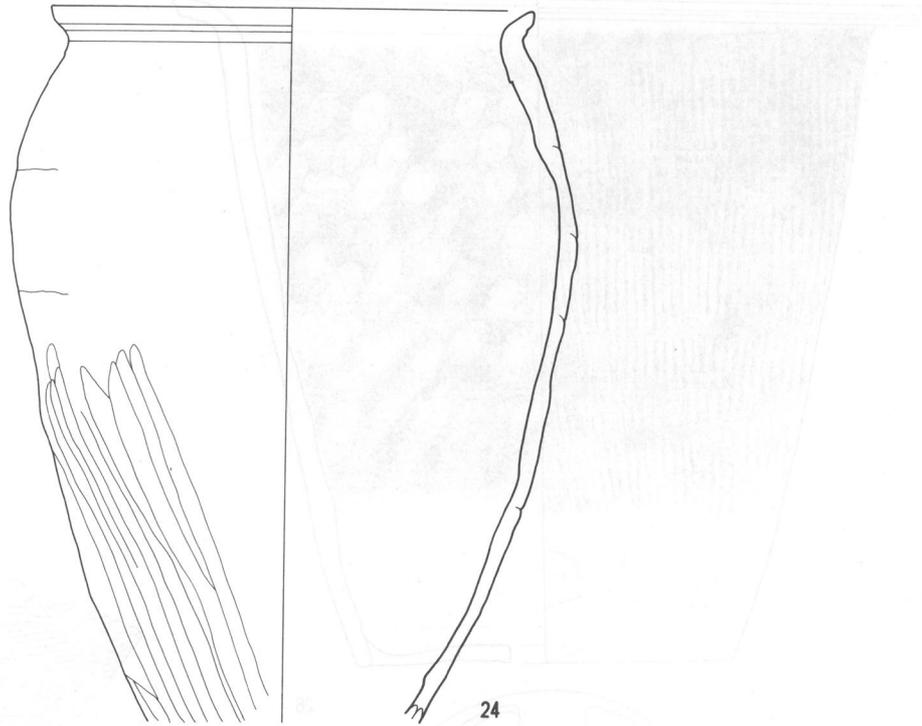
- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|-----------------------|
| 8 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，炭化粒子少量 | 15 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子少量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土小ブロック微量 | 16 褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック微量 |
| 10 褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 | 17 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子少量，粘土粒子少量 |
| 11 暗褐色 | 焼土小ブロック少量，炭化粒子少量 | 18 褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック少量 |
| 12 褐色 | 焼土小ブロック微量，炭化粒子少量，粘土粒子中量 | 19 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化粒子少量 |
| 13 黒褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，焼土小ブロック少量 | 20 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック少量 |
| 14 褐色 | ローム粒子多量 | 21 暗褐色 | ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量 |

遺物 土師器片746点，須恵器片174点，石製品1点，鉄製品1点が出土している。7の土師器坏，8～18の須恵器坏，21の須恵器盤と23の土師器甕と28の砥石は，北東コーナー付近の覆土下層から集中して出土している。19の須恵器高台付坏は東壁際覆土下層から，22，24の土師器甕，20の須恵器高台付坏及び25，26の須恵器甌は床面から，29の鉄鎌は覆土中から出土している。27は覆土中から出土した須恵器片で，外面に横位の平行叩きが施されている。

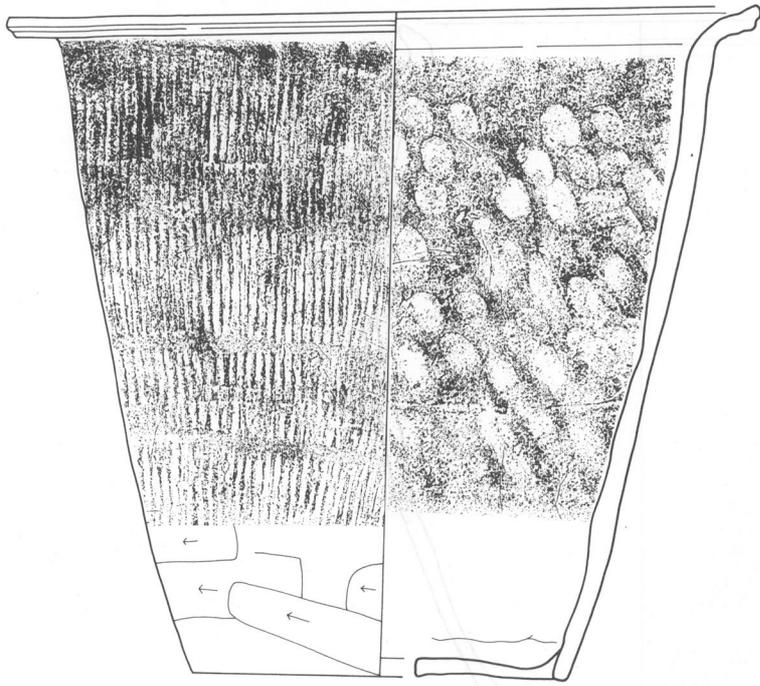
所見 本跡の時期は，出土遺物から平安時代と考えられる。



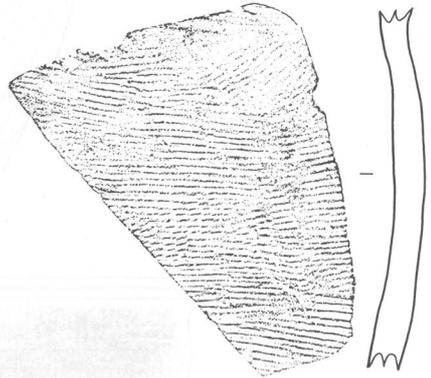
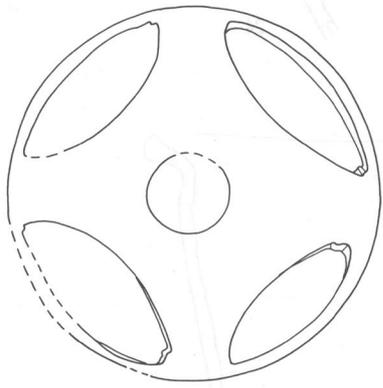
第137图 第59号住居跡出土遺物実測図(1)



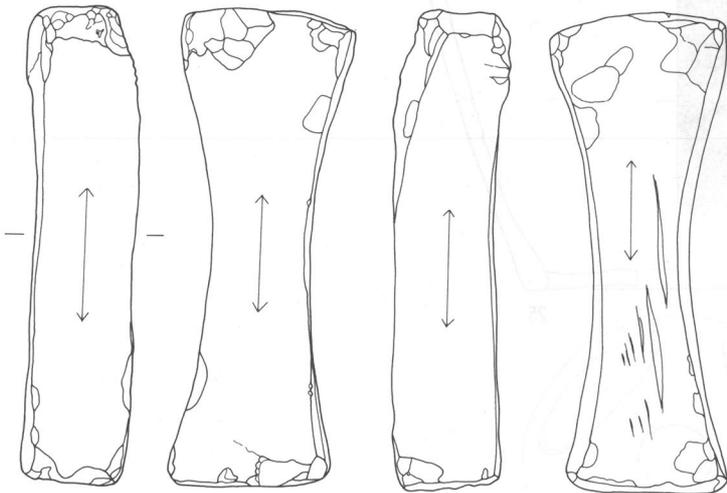
第138图 第59号住居跡出土遺物実測図(2)



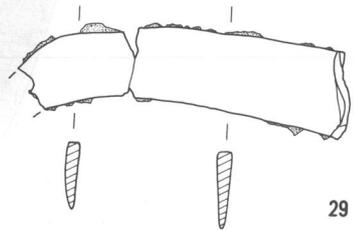
26



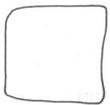
27



28



29



第139图 第59号住居跡出土遺物実測図(3)

第59号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第137図 7	坏 土師器	A 12.6	底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけてナデ。底部回転糸切り後へら削り。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P202 95% 覆土下層
		B 4.2				
		C 7.2				
8	坏 須恵器	A 13.5	体部一部欠損。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端へら削り。底部へら削り。	砂粒・石英・長石 明赤褐色 不良	P203 90% 覆土下層
		B 4.5				
		C 5.8				
9	坏 須恵器	A 12.7	口縁部と体部の一部欠損。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端へら削り。底部回転へら切り後へら削り。	砂粒・石英・長石・ 雲母、褐灰色 普通	P207 90% 床直
		B 4.4				
		C 6.3				
10	坏 須恵器	A 13.2	口縁部と体部の一部欠損。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端へら削り。底部回転へら切り後へら削り。	砂粒・石英・長石・ 雲母、黄灰色 普通	P208 90% 覆土下層
		B 4.7				
		C 5.9				
11	坏 須恵器	A 13.7	口縁部と体部の一部欠損。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。底部回転へら削り。	砂粒・石英・長石・ 雲母、オリーブ黒色、普通	P209 95% 覆土下層
		B 4.5				
		C 6.6				
12	坏 須恵器	A 13.4	口縁部一部欠損。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部中位にかけて外面口クロナデ。体部中位から下位にかけてへら削り。体部内面口クロナデ。底部回転へら切り後へら削り。	砂粒・石英・長石 にぶい黄褐色 普通	P210 90% 覆土下層
		B 4.4				
		C 7.0				
13	坏 須恵器	A 12.5	底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端へら削り。底部回転へら切り後へら削り。体部外面に墨書。	砂粒・長石・雲母 灰色 普通	P211 100% 覆土下層
		B 3.7				
		C 6.8				
14	坏 須恵器	A 12.9	底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端へら削り。底部回転へら切り後へら削り。	砂粒・石英・長石 黄灰色 普通	P212 95% 覆土下層
		B 4.1				
		C 5.8				
15	坏 須恵器	A 12.5	底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端へら削り。底部回転へら切り後へら削り。	砂粒・石英・長石 黄灰色 普通	P213 90% 覆土下層
		B 4.7				
		C 5.7				
16	坏 須恵器	A 12.3	体部一部欠損。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端へら削り。底部回転へら削り後ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、黄灰色 普通	P214 90% 覆土下層
		B 4.0				
		C 6.0				
17	坏 須恵器	A 13.6	口縁部一部欠損。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端へら削り。底部回転へら切り後へら削り。	砂粒・石英・雲母 褐灰色 普通	P215 80% 覆土下層
		B 4.7				
		C 6.1				
18	坏 須恵器	A 12.4	口縁部と体部の一部欠損。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。底部へら削り。	砂粒・石英・長石 黄灰色 普通	P216 75% 覆土下層
		B 4.5				
		C 6.2				
19	高台付坏 須恵器	A 17.4	口縁部一部欠損。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。底部回転へら切り後ナデ。底部中央にへら記号。高台部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、黄褐色 普通	P217 90% 覆土中
		B 6.7				
		D 10.4 E 1.2				
20	高台付坏 須恵器	B (3.4) D [6.4] E 1.2	高台部から体部にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転へら切り後ナデ。高台部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石 暗灰黄色 普通	P218 30% 床直
		A 15.5				
		B 3.2				
21	盤 須恵器	A 15.5	口縁部一部欠損。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。底部回転へら削り。高台部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母 黄灰色 普通	P219 90% 覆土中
		B 3.2				
		D 9.1 E 1.0				
22	小型甕 土師器	A 13.6	口縁部一部欠損。底部平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部上位から中位にかけて外面ナデ。体部下位へら削り。体部内面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・石英・長石・ 雲母 暗褐色 普通	P205 95% 床直
		B 14.1				
		C 6.8				
23	甕 土師器	A 17.4	底部平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。体部下位へら削り。体部内面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・石英・長石・ 雲母、暗褐色 普通	P204 70% 覆土下層
		B 21.6				
		C 7.6				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第138図 24	甕 土師器	A 19.0 B (28.5)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位から中位にかけてナデ。中位から下位にかけてヘラ磨き。内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母、明褐色 普通	P206 60% 床直
25	瓶 須恵器	A 25.8 B 23.7 C 12.2	多孔式。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は上方に短くつまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部外面上位から中位にかけて縦位の平行叩き。下位へラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英・長石 灰色 普通	P221 50% 床直
第139図 26	甌 須恵器	A 29.6 B 27.1 C 14.8	多孔式。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。体部下位へラ削り。	砂粒・石英・長石・雲母、灰色 普通	P220 95% 床直

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第139図28	砥石	19.2	4.6	7.2	(703.0)	凝灰岩	覆土中	Q11

図版番号	種別	計測値				備考	
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第139図29	鉄鎌	(13.2)	3.5	0.6	(51.0)	M10	覆土中 60%

第65号住居跡（第140図）

位置 調査1区の中央部，H13a7区。

規模と平面形 長軸3.64m，短軸3.41mの方形である。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は9～15cmで，外傾して立ち上がる。壁溝は，東壁下から南壁下，西壁下，北西コーナーにかけて確認され，上幅20～35cm，下幅5～16cm，深さ7cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で，出入口から竈にかけての中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に構築されているが，耕作による攪乱を受けているためほとんど残存していない。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|-------|-----------------------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，粘土粒子中量 | 5 赤褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子少量，粘土粒子中量 |
| 2 赤褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子中量，炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム小ブロック中量，焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム小ブロック少量，焼土粒子微量 | 8 赤褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子中量 |

ピット P1は長径25cm，短径20cmの楕円形，深さ15cmで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

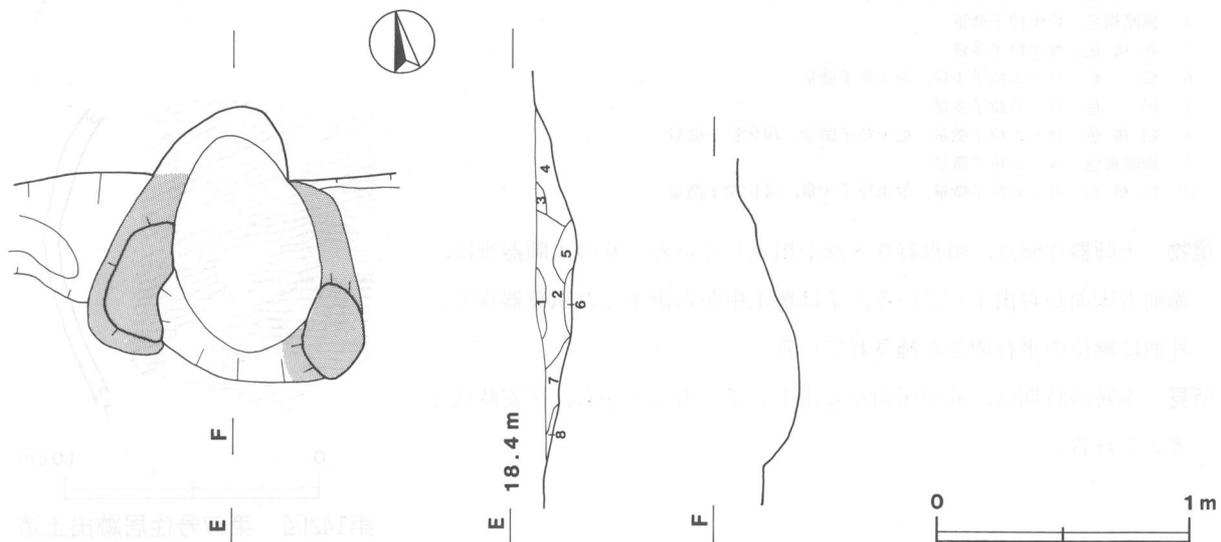
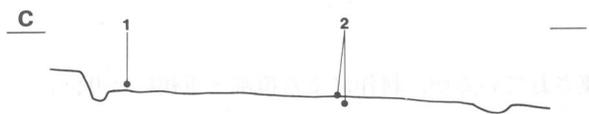
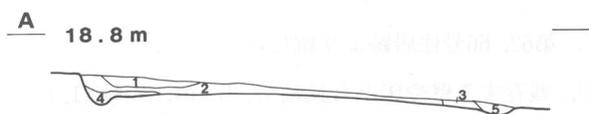
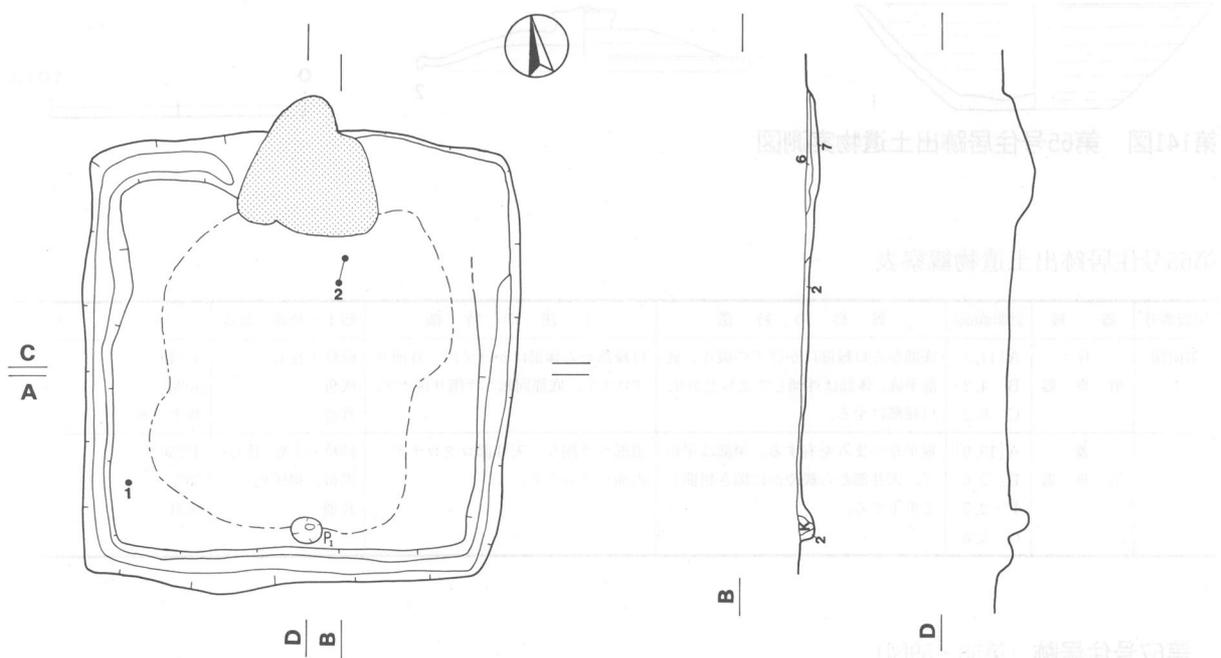
覆土 7層からなり，自然堆積である。

土層解説

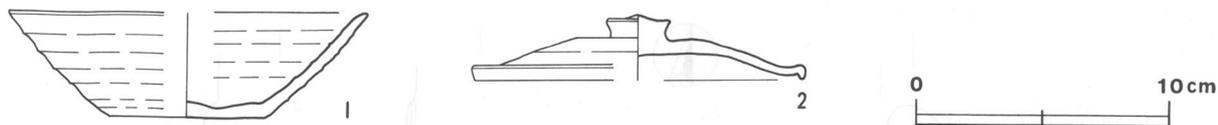
- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量，粘土粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量 | | |

遺物 土師器片125点，須恵器片38点が出土している。1の須恵器坏は西壁際覆土下層から，2の須恵器蓋は竈前方の床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から平安時代と考えられる。



第140图 第65号住居跡実測图



第141図 第65号住居跡出土遺物実測図

第65号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第141図 1	須恵器 坏	A [14.2] B 4.2 C 6.2	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面クロナデ。底部回転ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P249 40% 覆土下層
2	須恵器 蓋	A [13.0] B 2.6 F 2.5 G 0.8	扁平なつまみを有する。頂部は平坦で、天井部から緩やかに開き屈曲して垂下する。	頂部ヘラ削り。天井部クロナデ。内面クロナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、褐灰色 普通	P250 50% 床直

第67号住居跡 (第58・59図)

位置 調査1区の中央部, G13e5区。

重複関係 本跡は第62, 66号住居跡を掘り込んでいるので, 第62, 66号住居跡より新しい。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが, 残存する壁や床から長軸 (2.27) m, 短軸 (1.10) mの, 方形または長方形と考えられる。

主軸方向 N-3°-W

床 平坦で踏み固められている。

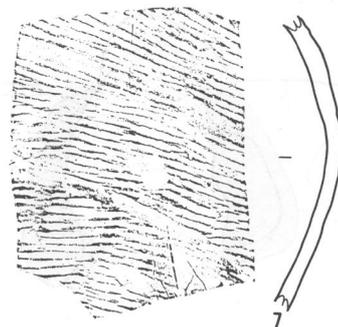
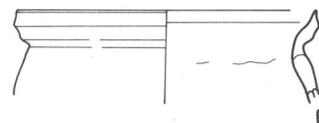
竈 北壁中央部から東寄りに砂粒まじりの白色粘土で構築されているが, 耕作による攪乱と重複により, ほとんど残存していない。規模は煙道部から焚口部まで133cm, 壁外への掘り込みは47cmである。火床部は床面を3cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量, 焼土小ブロック微量
- 4 極暗褐色 焼土粒子微量
- 5 赤褐色 焼土粒子多量
- 6 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子多量
- 8 暗褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量
- 9 極暗褐色 ローム粒子微量
- 10 暗褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片88点, 須恵器片8点が出土している。6の土師器甕は, 竈前方床面から出土している。7は覆土中から出土した須恵器片で, 外面に縦位の平行叩きが施されている。

所見 本跡の時期は, 6が床面から出土していることから, 平安時代と考えられる。



第142図 第67号住居跡出土遺物実測図

第67号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第142図 6	小型甕 土師器	A 11.8 B (3.4)	体部上位から口縁部にかけての破片。頸部で「く」の字状に折れ、口縁部は外傾し、端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 にふい褐色 2次焼成	P255 10% 床直

第72-B号住居跡（第124図）

位置 調査1区の中央部，G13e7区。

重複関係 本跡は第68, 72-A号住居跡を掘り込んでいるので，本跡が新しい。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが，残存する壁や床から長軸 [4.30] m，短軸 [4.00] mの方形と考えられる。

主軸方向 N-7°-E

壁 壁高は20～45cmで，外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈1 東壁に構築されている。重複と耕作による攪乱を受けており，袖部と思われる砂混じりの粘土がわずかに残存している。

竈1土層解説

- | | |
|------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子少量，粘土粒子微量 | 4 暗赤褐色 ローム粒子微量，焼土小ブロック少量，焼土粒子中量 |
| 2 黒褐色 焼土小ブロック少量，炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 ローム粒子微量，焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 3 赤褐色 焼土小ブロック中量，粘土粒子少量 | 6 暗赤褐色 焼土小ブロック少量，焼土粒子少量，炭化粒子少量 |

竈2 北壁中央部に構築されている。天井部と袖部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで90cm，両袖最大幅107cm，壁外への掘り込みは30cmである。火床部は床面を3cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈2土層解説

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗赤褐色 ローム粒子微量，焼土粒子中量，炭化粒子少量，粘土粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子微量，焼土粒子少量，粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子微量，焼土粒子少量，粘土粒子少量 | |

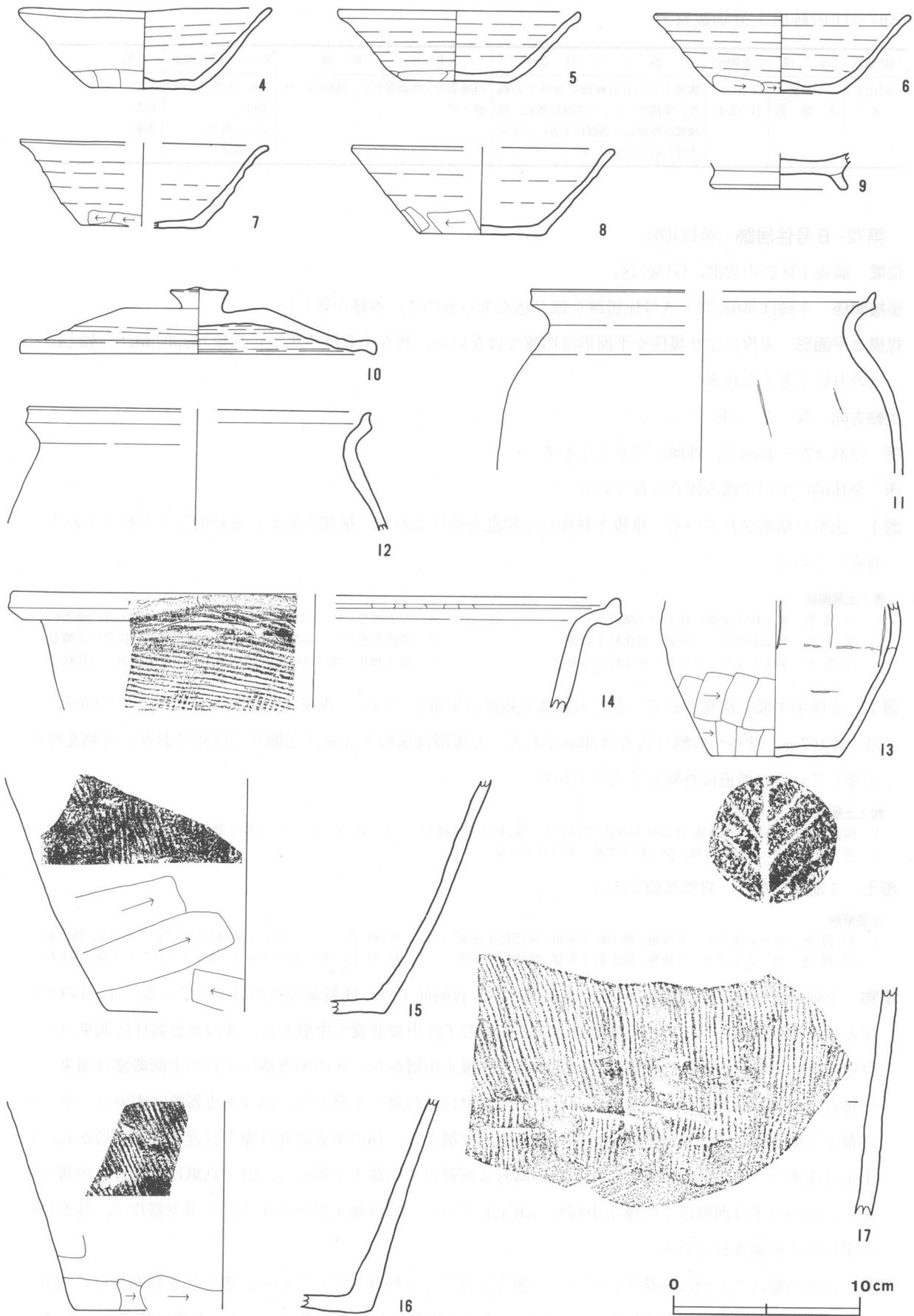
覆土 4層からなり，自然堆積である。

土層解説

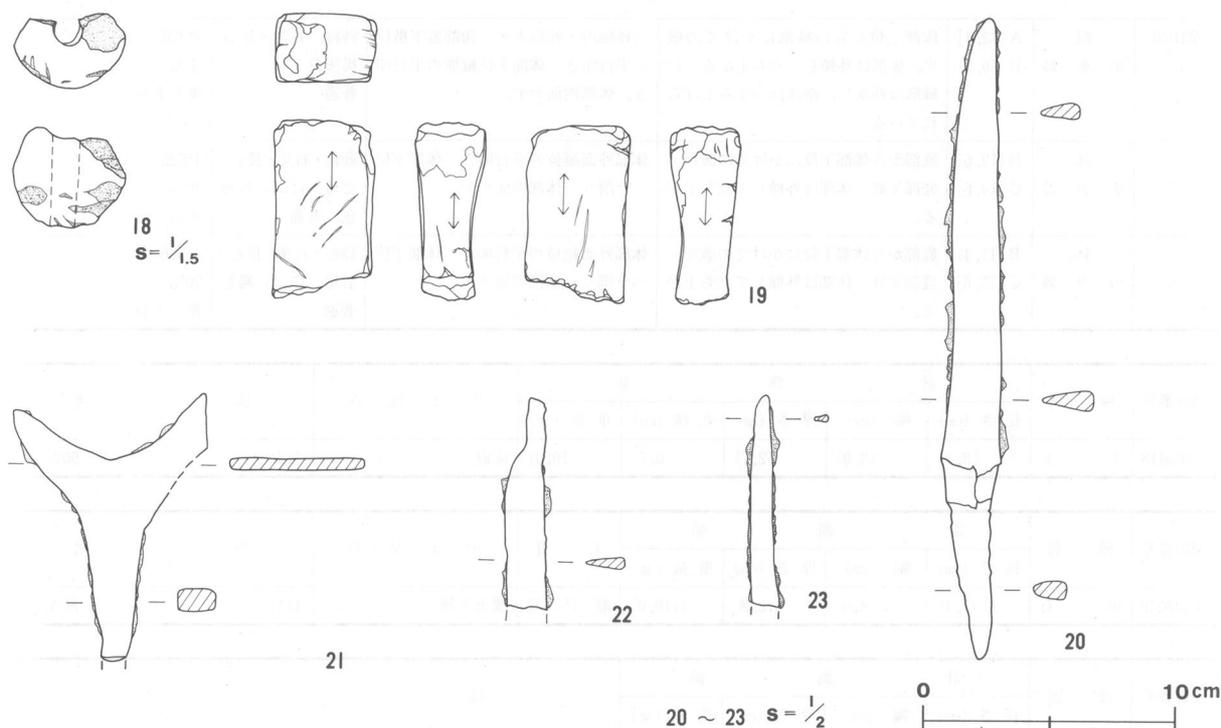
- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム中ブロック少量，焼土粒子少量，炭化粒子少量 | 3 黒褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム小ブロック少量，焼土粒子少量，炭化粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，粘土粒子少量 |

遺物 土師器片154点，須恵器片83点，土製品1点，石製品1点，鉄製品3点が出土している。4, 6の須恵器坏と10の須恵器蓋と11, 12の土師器甕と20と23の刀子は中央部覆土中層から，5の須恵器坏は北東コーナー付近の覆土中層から，7の須恵器坏は北壁付近の覆土中層から，8の須恵器坏と13の土師器甕は南東コーナー付近の覆土下層から，9の土師器高台付坏は南壁付近の覆土下層から，14の須恵器甌は南西コーナー付近の覆土下層から，15の須恵器鉢は東壁付近の覆土下層から，16の須恵器鉢は竈1付近の覆土下層から，18の土玉は南東コーナー付近の床面から，19の砥石は西壁近くの覆土下層から，21の鉄鏃は東壁近くの覆土下層から，22の刀子は西壁近くの覆土中層から出土している。17は覆土中から出土した須恵器片で，外面に縦位の平行叩きが施されている。

所見 本跡の竈は2か所に構築されている。竈1はほとんど残存していないが，竈2は比較的良好に残存していることから，竈1は使用后放棄され，新たに竈2を構築したものと考えられる。本跡の時期は，5, 8, 9, 13, 14, 15, 16が覆土下層から出土していることから，平安時代と考えられる。



第143图 第72-B号住居跡出土遺物実測図(1)



第144図 第72-B号住居跡出土遺物実測図(2)

第72-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第143図 4	坏 須恵器	A 13.4 B 4.6 C 5.7	底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口ロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部へら削り。	砂粒・石英・長石 灰色 普通	P272 100% 覆土中層
5	坏 須恵器	A 12.8 B 4.0 C 5.6	口縁部一部欠損。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口ロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部へら削り。	砂粒・石英・長石・ 雲母、灰色 普通	P273 90% 覆土下層
6	坏 須恵器	A 13.5 B 4.3 C 6.7	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口ロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部へら削り。	砂粒・石英・長石・ 雲母、黄灰色 普通	P274 70% 覆土上層
7	坏 須恵器	A [13.2] B 4.5 C [6.4]	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部から体部にかけて内・外面口ロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部へら削り。	砂粒・石英・長石・ 雲母、黒褐色 普通	P522 30% 覆土上層
8	坏 須恵器	A [14.0] B 4.7 C 6.7	底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口ロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部へら削り。	砂粒・石英・長石・ 雲母、黄灰色 普通	P523 30% 覆土下層
9	高台付坏 土師器	B (1.6) D 7.0 E 1.0	高台部破片。高台部は「ハ」の字状に開く。	坏部内面黒色処理。底部回転へら切り後ナデ。高台部内・外面ナデ。貼付。	砂粒・石英・長石・ 雲母、にぶい褐色 普通	P524 20% 覆土下層
10	蓋 須恵器	A 19.0 B 3.7 C 3.1	頂部平坦。天井部は緩やかに開き、屈曲して垂下する。	頂部へら削り。天井部内・外面口ロナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、にぶい黄橙色、普通	P275 55% 覆土中層
11	甕 土師器	A [18.4] B (9.8)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外反し、端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、にぶい赤褐色、普通	P527 25% 覆土上層
12	甕 土師器	A [18.4] B (7.3)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外反し、端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、にぶい赤褐色、普通	P528 5% 覆土中層
13	小型甕 土師器	B (8.4) C 7.0	底部から体部中位にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へら削り。体部内面へらナデ。底部木葉痕。	砂粒・石英・長石・ 雲母、灰褐色 普通	P271 50% 覆土中

第143図 14	甌 須恵器	A [32.4] B (6.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。頸部直下横位の平行叩き。体部上位縦横の平行叩き。体部内面ナデ。	砂粒、石英・長石 褐灰色 普通	P276 5% 覆土下層
15	鉢 須恵器	B (12.6) C [14.8]	底部から体部下位にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き。体部下位へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母、にぶい黄褐色、普通	P525 20% 床直
16	鉢 須恵器	B (11.4) C [15.6]	底部から体部下位にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き。体部下位へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母、にぶい褐色 普通	P526 30% 覆土下層

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第144図18	土玉	[3.1]	(3.0)	(2.7)	0.7	(10.0)	床直	DP24 50%

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第144図19	砥石	(7.1)	4.0	2.8	(110.0)	凝灰岩	覆土下層	Q17 80%

図版番号	種別	計測値				備考		
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第144図20	刀子	16.8	1.5	0.5	19.0	M18	鉄製	覆土下層 100%
21	鉄鏃	(6.7)	4.5	0.3~0.6	(16.0)	M19	鉄製	覆土下層 狩股
22	刀子	(5.6)	1.2	0.3	(5.0)	M20	鉄製	床直 50%
23	刀子	(5.7)	0.7	0.2	(3.0)	M57	鉄製	覆土上層 30%

第73号住居跡 (第145図)

位置 調査1区の中央部, G13g7区。

重複関係 本跡は第74, 80号住居跡を掘り込んでいるので, 本跡が新しい。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが, 残存する壁や床から長軸 [4.75] m, 短軸 [4.26] mで, 長方形と考えられる。

主軸方向 N-24°-E

壁 壁高は10~25cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

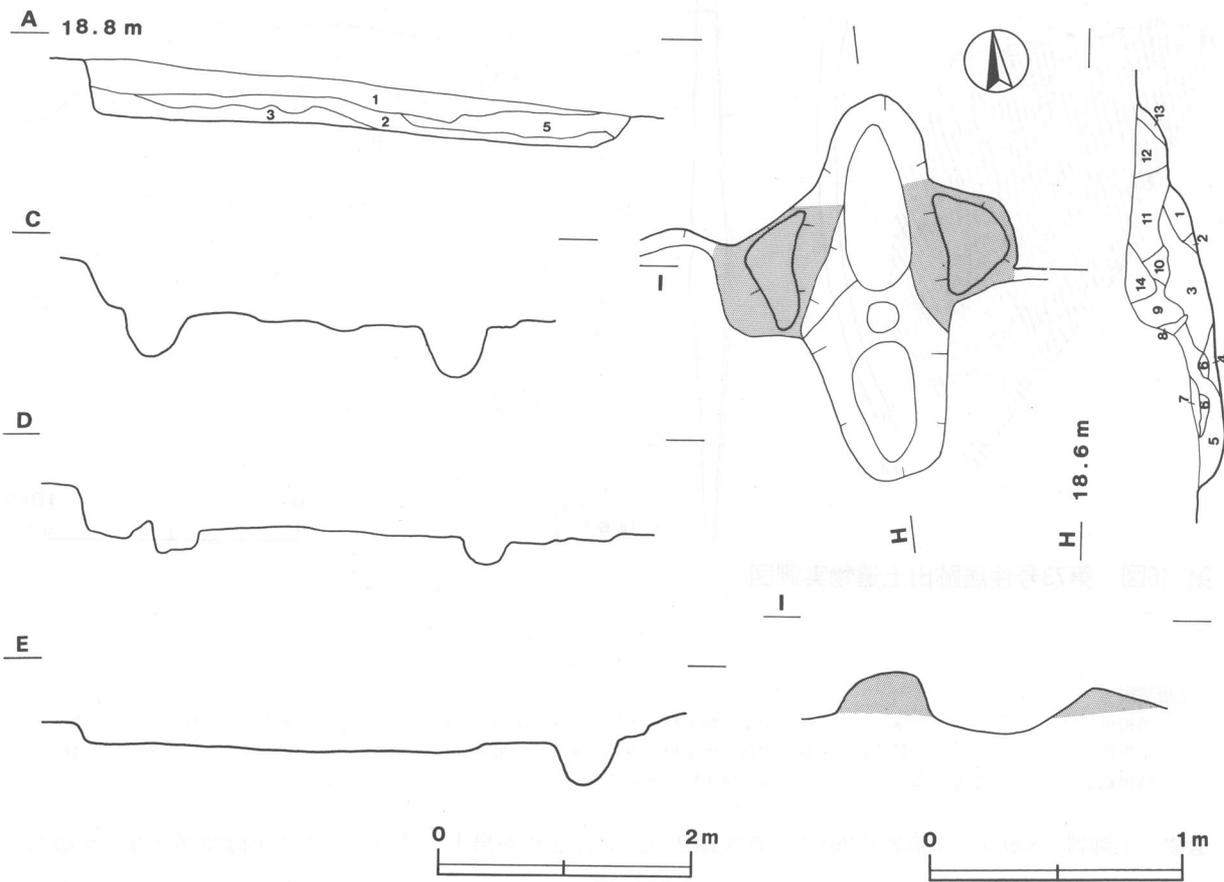
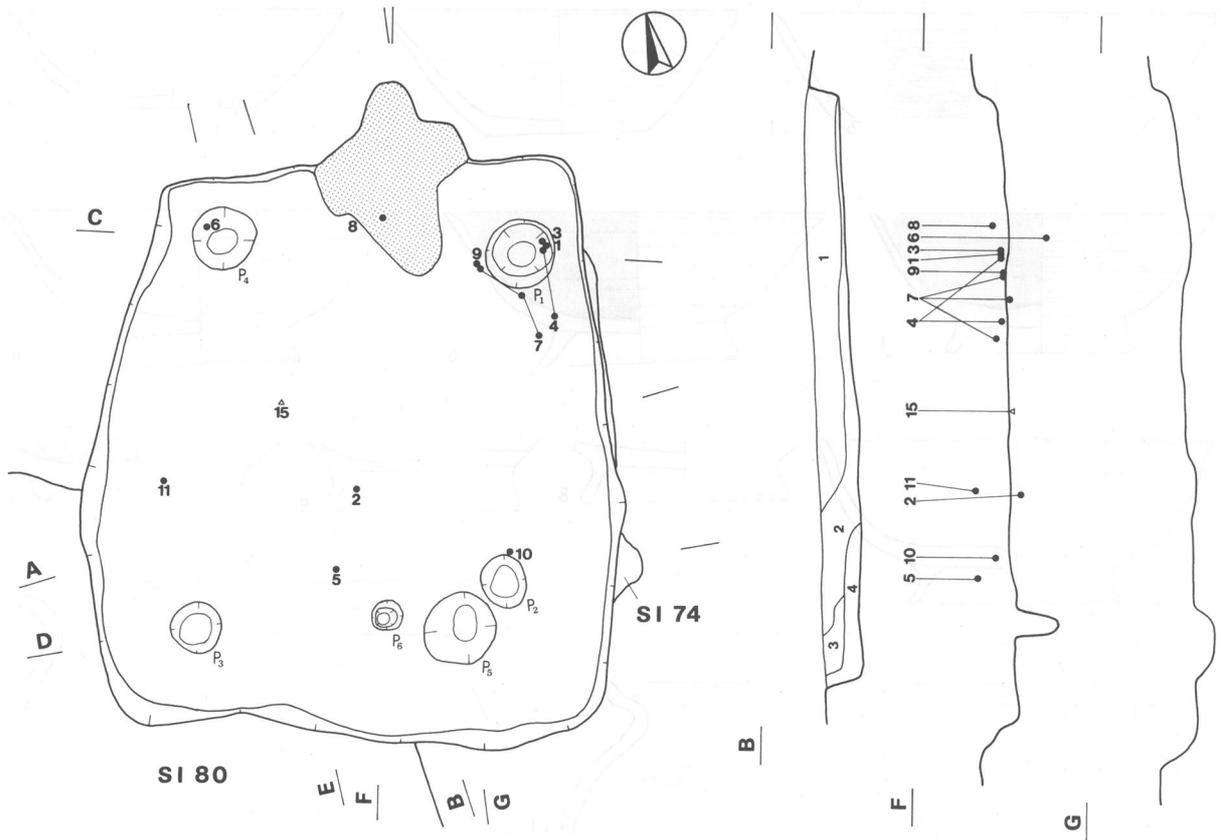
竈 北東壁中央部に構築されている。天井部と袖部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで153cm, 壁外への掘り込みは67cmである。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

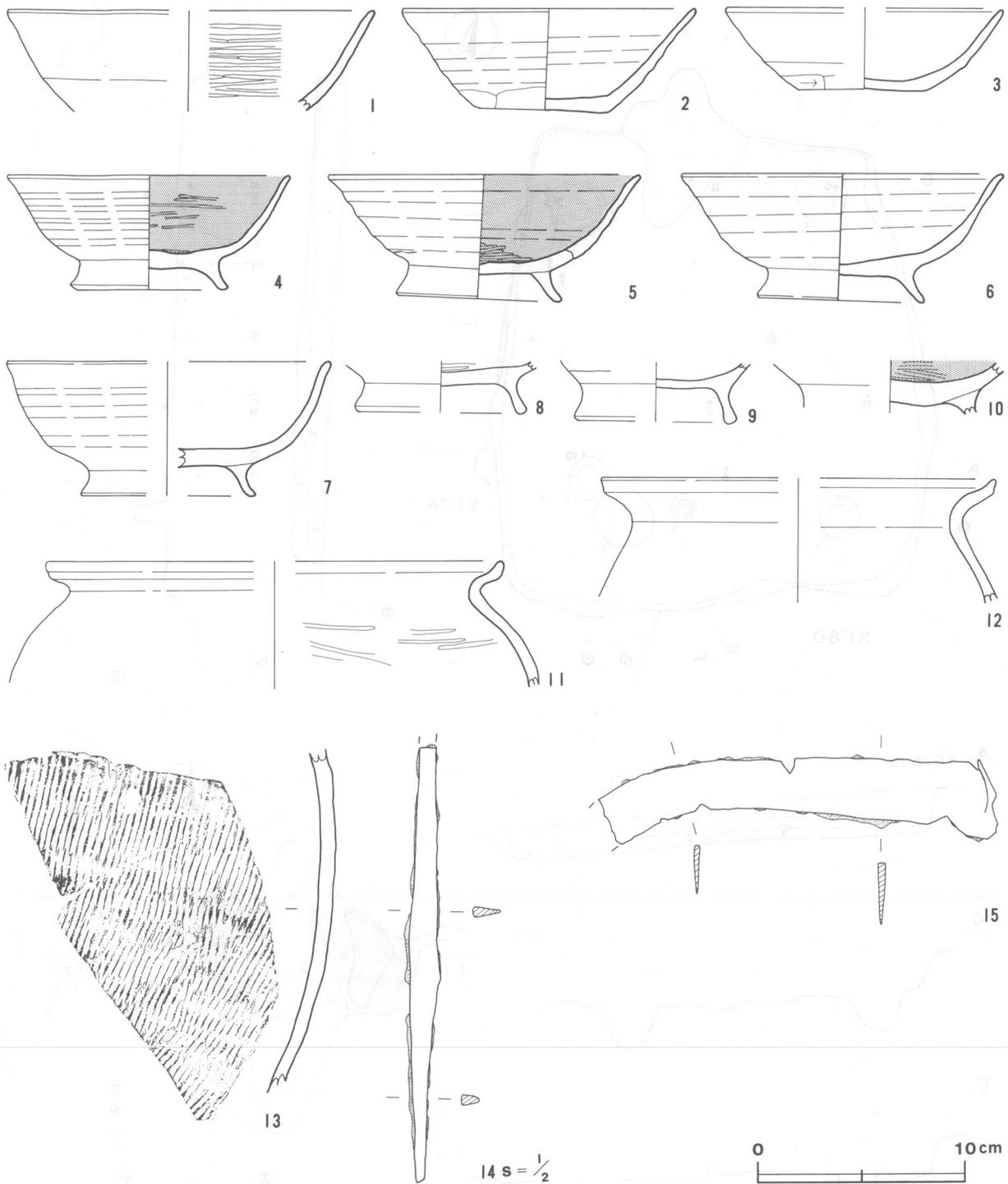
- | | | | |
|--------|------------------------------|---------|----------------------------|
| 1 赤褐色 | 焼土中ブロック多量, 焼土粒子中量, 粘土小ブロック少量 | 8 灰褐色 | 焼土中ブロック少量, 焼土粒子中量, 粘土粒子多量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子中量, 粘土粒子微量 | 9 灰褐色 | 焼土粒子少量, 粘土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子多量 | 10 褐色 | 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量, 粘土粒子中量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量 | 11 黒褐色 | ローム粒子微量, 焼土小ブロック少量, 粘土粒子少量 |
| 5 極暗褐色 | ローム粒子微量, 焼土小ブロック少量, 粘土粒子少量 | 12 極暗褐色 | ローム粒子微量, 焼土小ブロック少量, 粘土粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量 | 13 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 粘土粒子少量 |
| 7 灰褐色 | 焼土粒子少量, 粘土粒子中量 | 14 灰褐色 | 焼土粒子微量, 粘土粒子微量 |

ピット 6か所 (P1~P6)。P1からP4は径40~60cmの円形, 深さ15~42cmで, 主柱穴と考えられる。P5は長径42cm, 短径36cmの楕円形, 深さ20cmである。P6は径25cmの円形, 深さ33cmである。

覆土 5層からなり, 自然堆積である。



第145图 第73号住居跡実测图



第146図 第73号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量 | | |

遺物 土師器片809点, 須恵器片261点, 鉄製品2点, 鉄滓2点が出土している。1の土師器杯と3の須恵器杯と4の土師器高台付杯は北東コーナー付近の覆土下層から, 2の須恵器杯は中央部床面から, 5の土師器高台付杯は中央部覆土中層から, 6の土師器高台付杯はピット4内から, 7の土師器高台付杯は東壁近くの床

面から、8の土師器高台付坏は竈内から、9の土師器高台付坏は北東コーナー付近の床面から、10の土師器高台付坏はピット2の北側覆土下層から、11の土師器甕は西壁近くの覆土中層から、15の鉄鎌は中央部床面から、12の土師器甕と14の刀子は覆土中から出土している。13は覆土中から出土した須恵器片で、外面に縦位の平行叩きが施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から、平安時代考えられる。

第73号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第146図 1	坏 土師器	A [17.8] B (4.9)	坏体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて外面ナデ。内面へラ磨き。	砂粒・長石・スコリア、橙色 普通	P529 30% 床直
2	坏 須恵器	A 14.0 B 4.7 C 6.2	口縁部一部欠損。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部へラ削り。	砂粒・石英・長石・雲母、暗灰黄色 普通	P285 70% 床直
3	坏 土師器	A [13.4] B 3.9 C 6.2	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端へラ削り後ナデ。底部へラ削り。	砂粒・石英・スコリア、にぶい橙色 普通	P534 40% 床直
4	高台付坏 土師器	A 13.6 B 5.6 D 7.5 E 1.5	口縁部一部欠損。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部から体部にかけて外面口クロナデ。内面へラ磨き。高台部内・外面ナデ。内面黒色処理。	砂粒・長石・雲母 灰黄褐色 普通	P283 90% 床直
5	高台付坏 土師器	A 14.9 B 6.4 D 7.0	高台部は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて外面口クロナデ。内面へラ磨き。底部回転へラ切り後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・長石・パミス、にぶい黄橙色 普通	P281 100% 覆土中層
6	高台付坏 土師器	A 15.5 B 6.4 D 8.0 E 1.5	口縁部一部欠損。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。高台部内・外面ナデ。	砂粒・長石・スコリア、にぶい黄橙色、普通	P282 70% ピット4内
7	高台付坏 土師器	A [15.4] B 6.5 D [8.4] E 1.5	高台部から口縁部にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。高台部内・外面ナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P530 40% 床直
8	高台付坏 土師器	B (2.3) D [8.0] E 1.7	高台部から体部下位についての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。	体部内面へラ磨き。体部回転へラ切り後ナデ。高台部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石 にぶい赤褐色 普通	P531 30% 覆土下層
9	高台付坏 土師器	B (2.2) D 7.5 E 1.5	高台部から体部下位にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ナデ。底部回転へラ切り後ナデ。高台部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P532 40% 床直
10	高台付坏 土師器	B (2.0) E (1.1)	高台部から体部下位にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。	体部外面口クロナデ。内面へラ磨き。黒色処理。高台部内・外面ナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P533 20% 覆土下層
11	甕 土師器	A [22.0] B (5.9)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P535 20% 覆土中層
12	甕 土師器	A [19.0] B (5.7)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外反し、端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母、にぶい褐色 普通	P536 5% 覆土中

図版番号	種別	計測値				備考			
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)				
第146図14	刀子	(14.0)	1.2	0.3	(9.0)	M22	鉄製	覆土中	80%
15	鉄鎌	(19.4)	3.9	0.3	(60.0)	M21	鉄製	床直	80%

第74号住居跡 (第147図)

位置 調査1区の北部, G13g7区。

重複関係 本跡は第73号住居跡に掘り込まれているので, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.04m, 短軸3.96mの方形である。

主軸方向 N-112°-E

壁 壁高は13~15cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

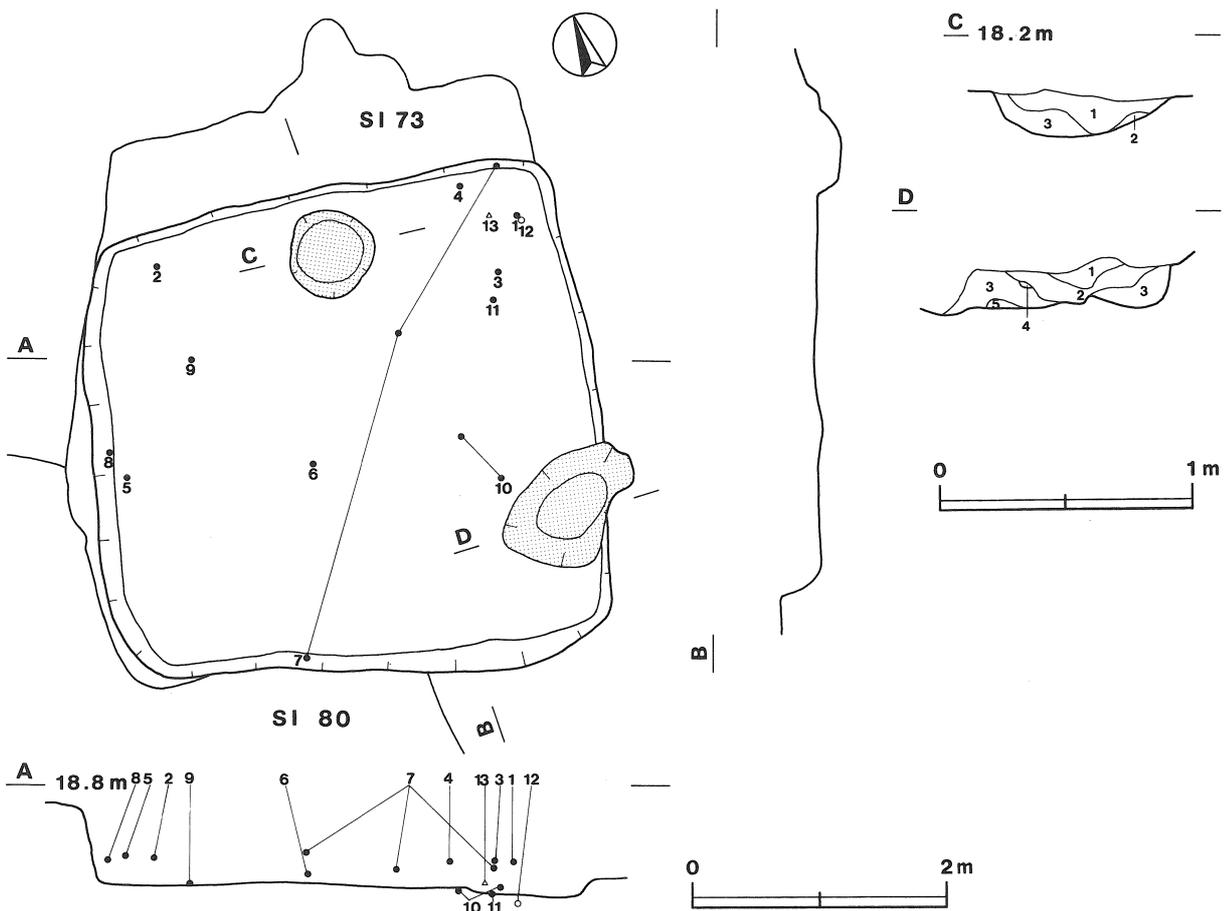
竈 東壁中央部に構築されているが, ほとんど残存していない。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土小ブロック少量, 焼土粒子中量, 灰粒子少量 | 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, 灰粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 灰粒子少量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | |

北壁中央付近にも径70cmの円形で, 深さ35cmのくぼみがあるが, 覆土中に焼土が含まれており, 竈だった可能性はある。

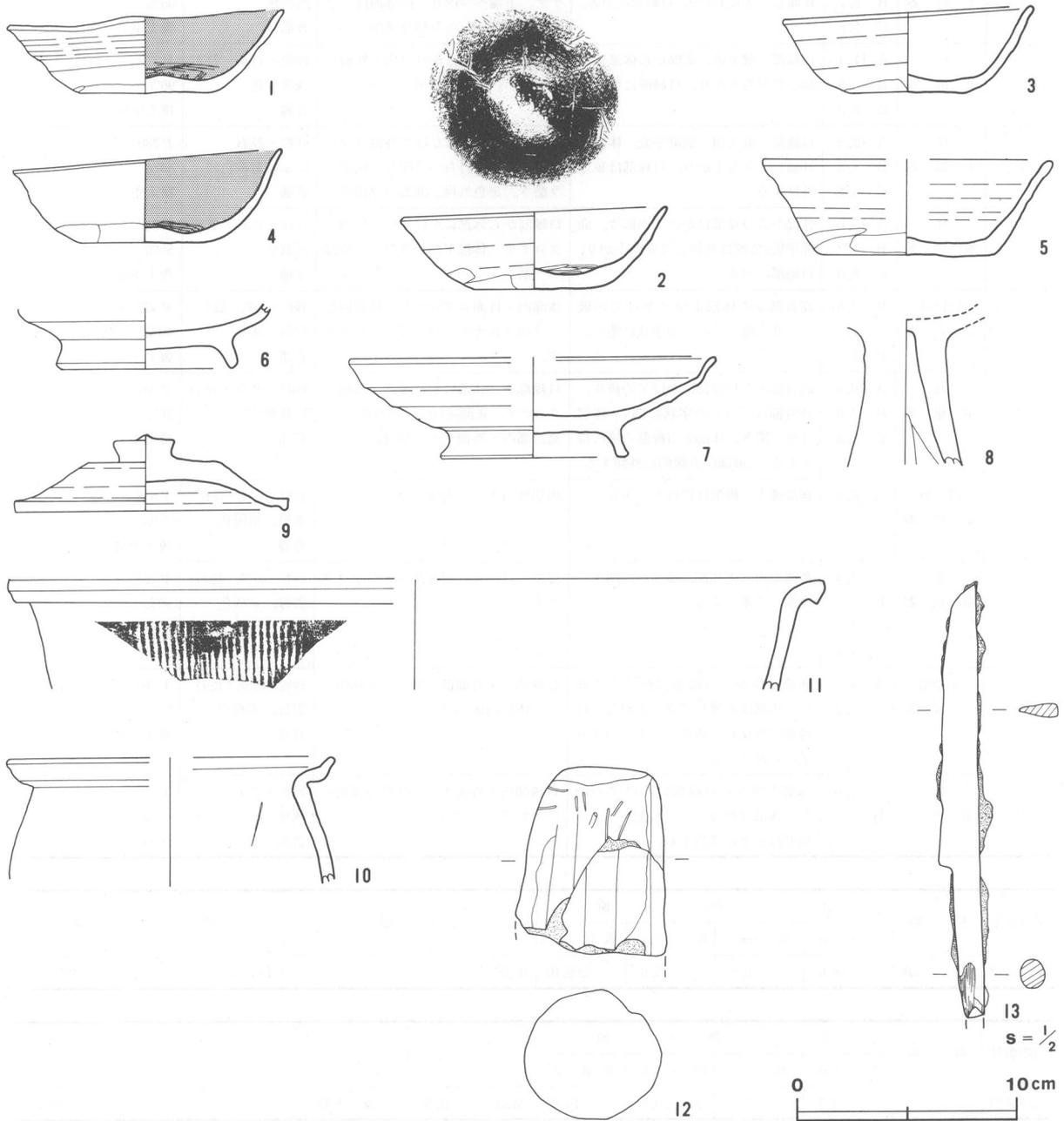
遺物 土師器片315点, 須恵器片85点, 土製品1点, 鉄製品1点, 鉄滓23点が出土している。1と3の土師器坏は北東コーナー付近の覆土中層から, 2の土師器坏は北西コーナー付近の覆土中層から, 13の刀子は北東コーナー付近の覆土下層から, 4の土師器坏は北壁際覆土中層から, 5の須恵器坏と8の須恵器高坏は西壁



第147図 第74号住居跡実測図

際覆土中層から、6の須恵器高台付坏と10の土師器甕は中央部覆土下層から、7の須恵器盤は覆土下層から、9の須恵器蓋は中央部床面から、11の須恵器甑と12の支脚は北東コーナー付近の床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土した遺物から、平安時代と考えられる。



第148図 第74号住居跡出土遺物実測図

第74号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第148図 1	坏 土師器	A 12.6 B 3.7 C 6.0	底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて外面クロコナデ。内面ヘラ磨き。底部網代状痕。内面黒色処理。	砂粒・雲母 黒褐色 普通	P277 100% 覆土下層
2	坏 土師器	A 11.9 B 3.7 C 5.6	口縁部一部欠損。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて外面クロコナデ。下端ヘラ削り。体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後削り。	砂粒・石英・長石 黒褐色 普通	P278 95% 覆土中層
3	坏 土師器	A 11.4 B 3.9 C 5.2	口縁部一部欠損。底部から体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面クロコナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・石英・長石 浅黄橙色 普通	P279 90% 覆土中層
4	坏 土師器	A 12.2 B 4.3 C 5.8	口縁部一部欠損。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部から体部にかけて外面クロコナデ。下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。黒色処理。底部ヘラ削り。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P280 80% 覆土中層
5	坏 須恵器	A [13.0] B 4.3 C 8.0	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面クロコナデ。体部下端ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 灰黄色 普通	P286 50% 覆土中層
6	高台付坏 須恵器	B (2.8) D 7.7 E 1.2	高台部から体部下位にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、灰色 普通	P537 40% 覆土中
7	盤 須恵器	A [16.6] B 4.6 C 8.3	高台部から口縁部にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は強く開き、体部と口縁部の境に稜がある。口縁部は直線的に外傾する。	口縁部から体部にかけて内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台部内・外面ナデ。貼付。	砂粒・石英・長石 灰黄褐色 普通	P284 50% 覆土中層
8	高盤 須恵器	B (6.9)	脚部破片。脚部は円柱形である。	脚部外面ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、暗灰色 普通	P538 5% 覆土中層
9	蓋 須恵器	A 12.4 B 3.5 F 2.7 G 1.1	頂部平坦。天井部は緩やかに開き、屈曲して垂下する。	頂部ヘラ削り。天井部内・外面クロコナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、黄灰色 普通	P288 90% 床直
10	小型甕 土師器	A [14.4] B (5.9)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内傾して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。体部内面ヘラナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、赤褐色 普通	P287 20% 覆土下層
11	甕 須恵器	A (37.0) B [5.0]	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は上下に突出する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。内面ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P539 5% 床直

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第148図12	支脚	(8.6)	(6.8)	5.9	(269.0)	床直	D P25 40%

図版番号	種別	計測値				備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
第148図13	刀子	(13.2)	1.4	0.4~0.8	(16.0)	M23 鉄製 覆土下層 90%

第75号住居跡 (第149図)

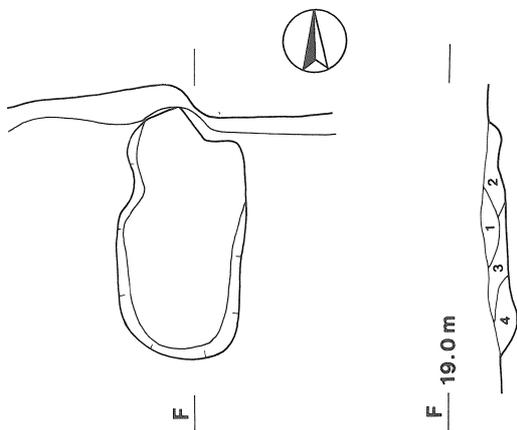
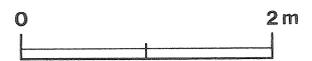
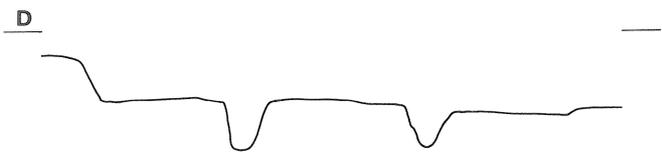
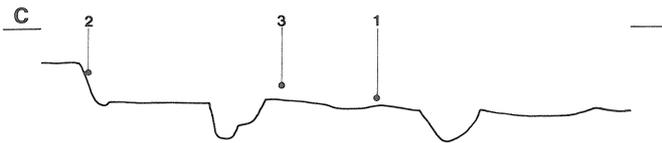
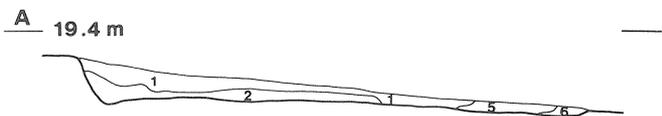
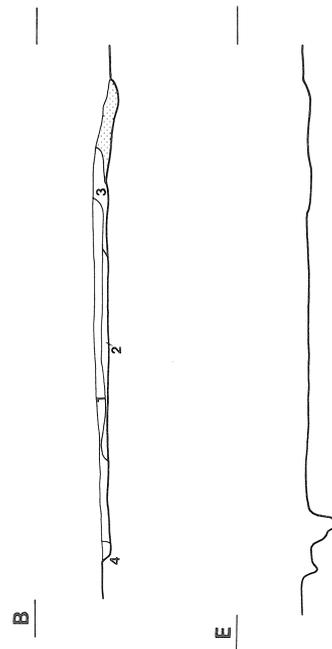
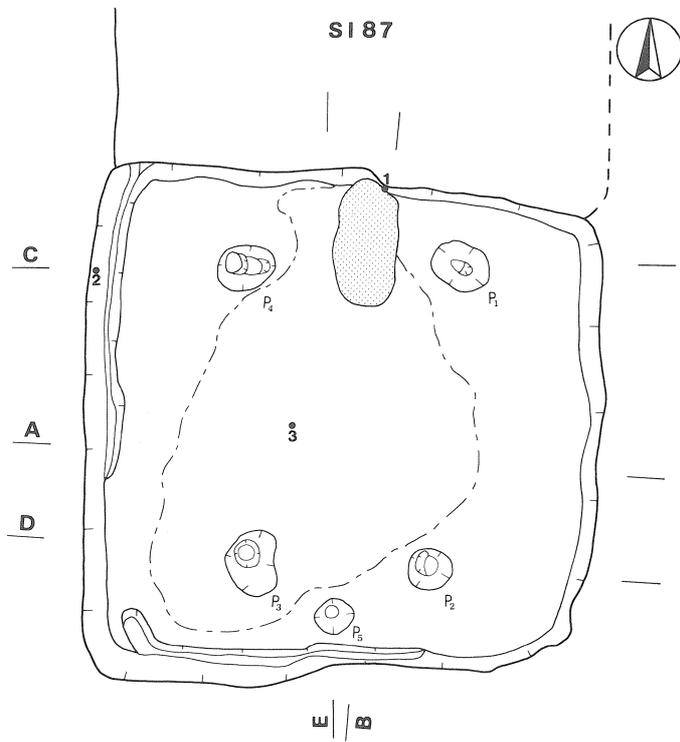
位置 調査1区の中央部, H13a5区。

重複関係 本跡は第87号住居跡を掘り込んでいるので、本跡の方が新しい。

規模と平面形 長軸4.10m, 短軸4.08mの方形である。

主軸方向 N-4°-E

壁 壁高は10~35cmで、外傾して立ち上がる。壁溝は、南壁下、西壁下で確認され、上幅13~25cm, 下幅4~



第149图 第75号住居跡実測图

6 cm, 深さ 3 cm で, 断面形は U 字形である。

床 全体的に平坦で, 出入口から竈にかけての中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に構築されているが, 耕作による攪乱を受けており, 掘り方だけを確認した。煙道部から焚口部まで 100 cm, 火床部は床面を 12 cm ほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量
- 2 赤褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子中量, 粘土粒子少量

ピット 5 か所 (P₁~P₅)。P₁から P₄は長径 44~51 cm, 短径 33~40 cm 円形及び楕円形, 深さ 27~41 cm で, いずれも支柱穴である。P₅は径 30 cm の円形, 深さ 24 cm で, 出入口口施設に伴うピットと考えられる。

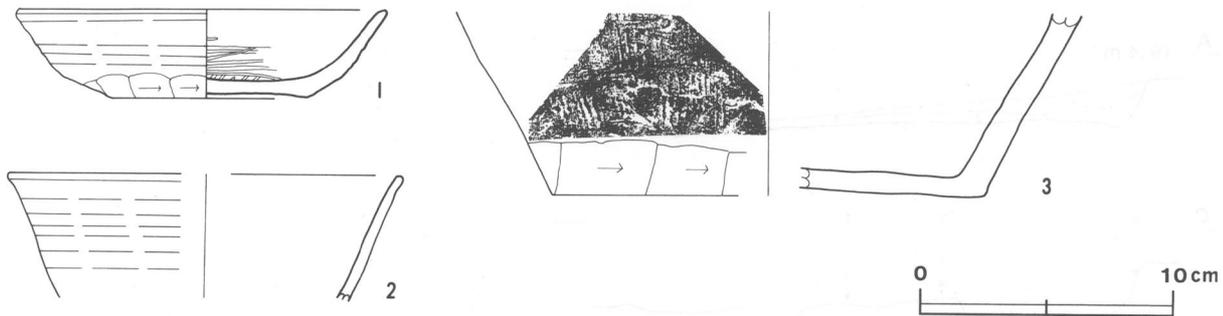
覆土 6 層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子少量, 粘土粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量
- 5 極暗褐色 ローム粒子微量, 焼土小ブロック少量, 粘土粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子微量

遺物 土師器片 81 点, 須恵器片 7 点が出土している。1 の須恵器坏は竈内から, 2 の土師器坏は西壁際から, 3 の須恵器鉢は中央部覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から平安時代と考えられる。



第150図 第75号住居跡出土遺物実測図

第75号住居跡出土遺物観察表

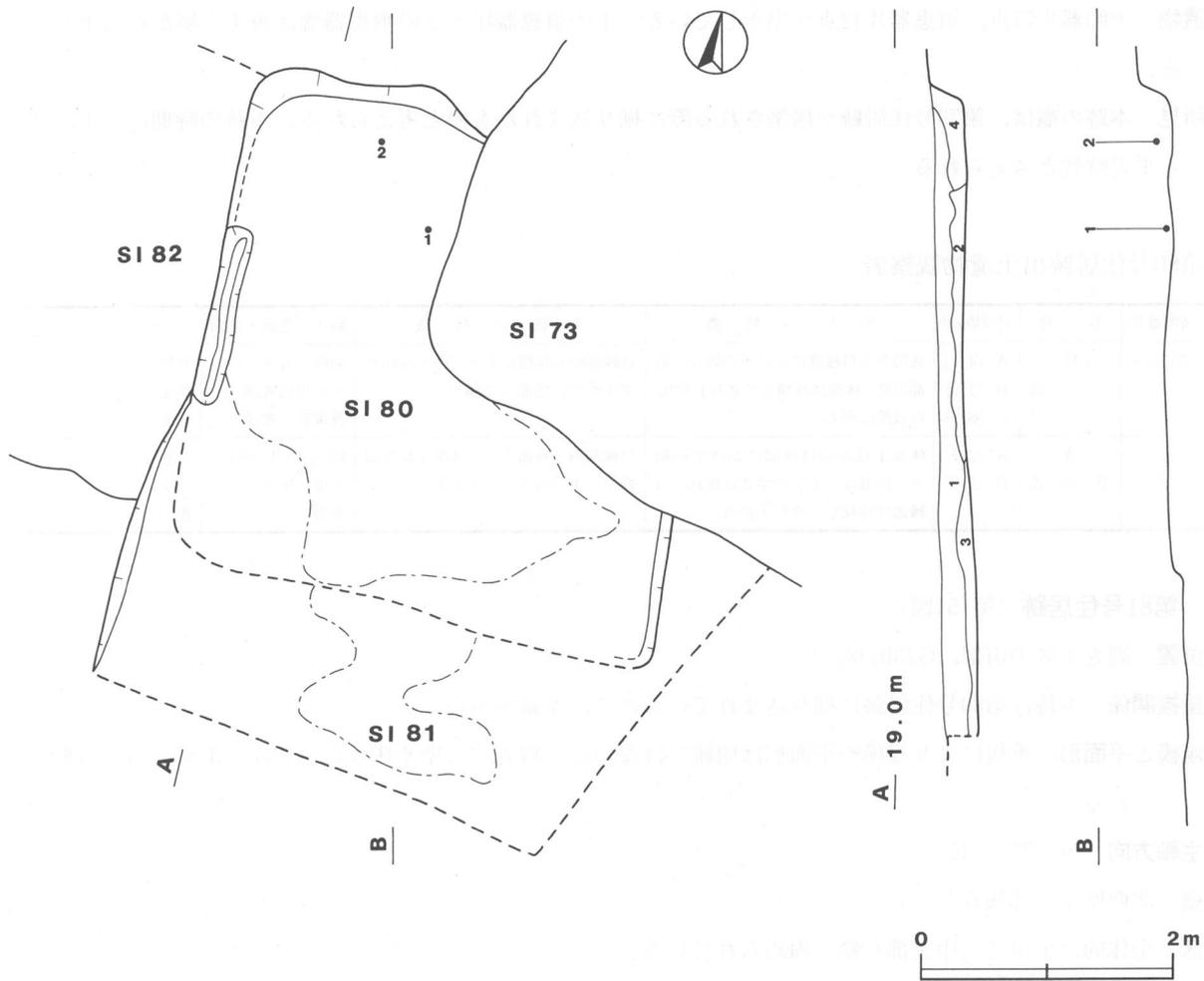
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第150図 1	坏 土師器	A 14.6 B 3.5 C 7.8	口縁部一部欠損。底部平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて外面クロコナデ。体部下端手持ちへら削り。体部内面へら磨き。底部へら削り。	砂粒・石英・長石・雲母, 黄褐色 普通	P289 90% 覆土下層
2	坏 須恵器	A [15.5] B (5.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部は短く外反する。	口縁部から体部にかけて内・外面クロコナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P540 10% 覆土中層
3	鉢 須恵器	B (7.3) C [17.2]	底部から体部下位にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面へら削り。体部内面ナデ。底部削り後ナデ。	砂粒・石英・長石 灰色 普通	P541 10% 覆土下層

第80号住居跡 (第151図)

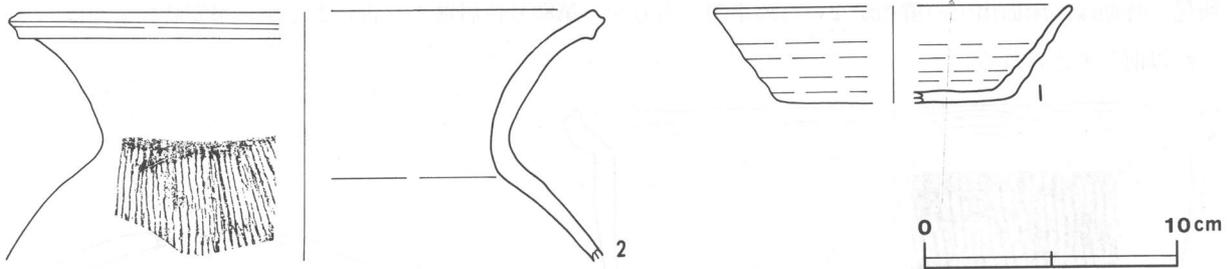
位置 調査 1 区の南部, G13h7 区。

重複関係 本跡は第81号住居跡を掘り込み, 第73号住居跡に掘り込まれているので, 第81号住居跡より新しく, 第73号住居跡より古い。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが, 残存する壁や床から長軸 [4.02] m, 短軸 [3.96]



第151図 第80・81号住居跡実測図



第152図 第80号住居跡出土遺物実測図

mの方形と考えられる。

主軸方向 N-1°-W

壁 壁高は26cmで、外傾して立ち上がる。壁溝は、西壁下から確認され、上幅7~24cm、下幅5~8cm、深さ3cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量
 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子少量、炭化粒子少量

3 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子少量
 4 暗褐色 ローム粒子微量、ローム粒子少量

遺物 土師器片77点，須恵器片12点が出土している。1の須恵器坏と2の須恵器甕は覆土下層から出土している。

所見 本跡の竈は，第73号住居跡が構築される際に掘り込まれたものと考えられる。本跡の時期は，1，2から平安時代と考えられる。

第80号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第152図 1	坏 須恵器	A [14.2] B (3.9) C [8.9]	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。底部へラ削り。	砂粒・石英・バミ ス・黒色斑点 黄灰色，普通	P302 20% 覆土下層
2	甕 須恵器	A [22.7] B (9.8)	体部上位から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に折れ，口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部上位外面縦位の平行叩き。内面ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母，灰色 普通	P303 10% 覆土下層

第81号住居跡 (第151図)

位置 調査1区の南部，G13h7区。

重複関係 本跡は第80号住居跡に掘り込まれているので，本跡が古い。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが，残存する壁や床から一辺が [3.80] m の方形と考えられる。

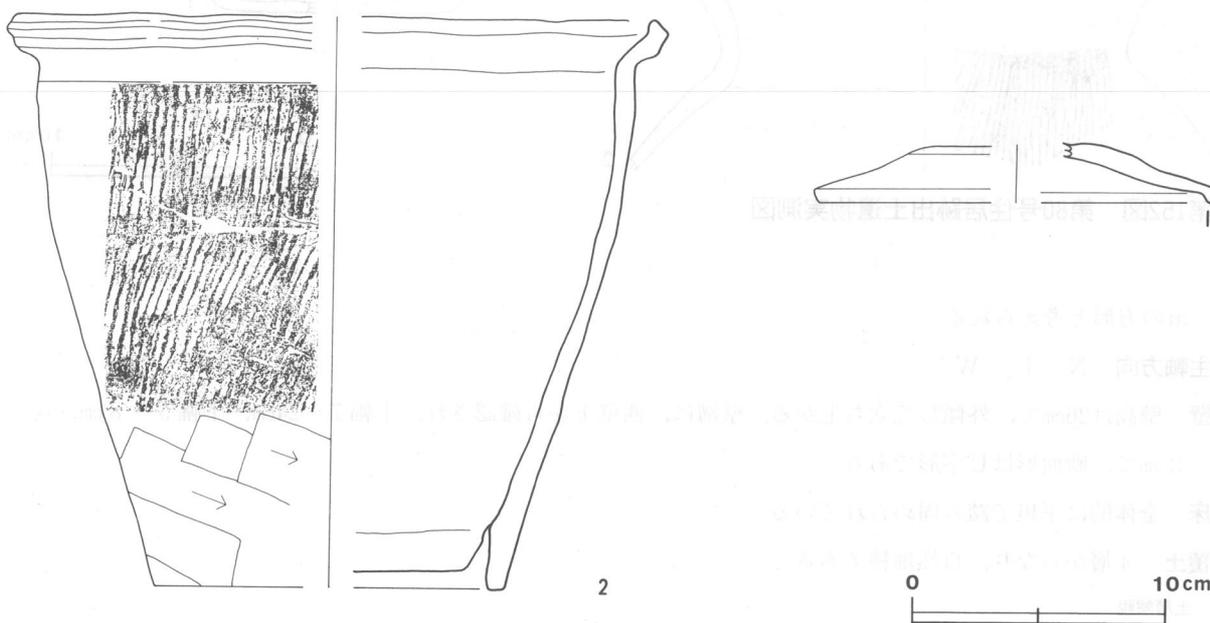
主軸方向 N-23°-E

壁 北西壁が一部残存している。

床 全体的に平坦で，中央部が踏み固められている。

遺物 土師器片31点，須恵器片19点，陶器片1点が出土している。1の須恵器蓋と2の須恵器甕は，いずれも覆土中から出土している。

所見 時期は，床面出土の遺物がないため不明であるが，第80号住居跡より古いことから平安時代または，それ以前と考えられる。



第153図 第81号住居跡出土遺物実測図

第81号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第153図 1	蓋 須恵器	A [15.5] B (1.3)	つまみ欠損。頂部は平坦で、天井部は緩やかに開き、屈曲して垂下する。	天井部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母 灰白色 普通	P 556 30% 覆土中
2	甗 須恵器	A [25.2] B (22.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部外面上位から中位にかけて縦位の平行叩き。体部下位へら削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石 灰色 普通	P 555 40% 覆土中

第82号住居跡 (第154図)

位置 調査1区の中央部, G13g6区。

重複関係 本跡は第80号住居跡を掘り込み、第69号住居跡に掘り込まれているので、第80号住居跡より新しく、第69号住居跡より古い。

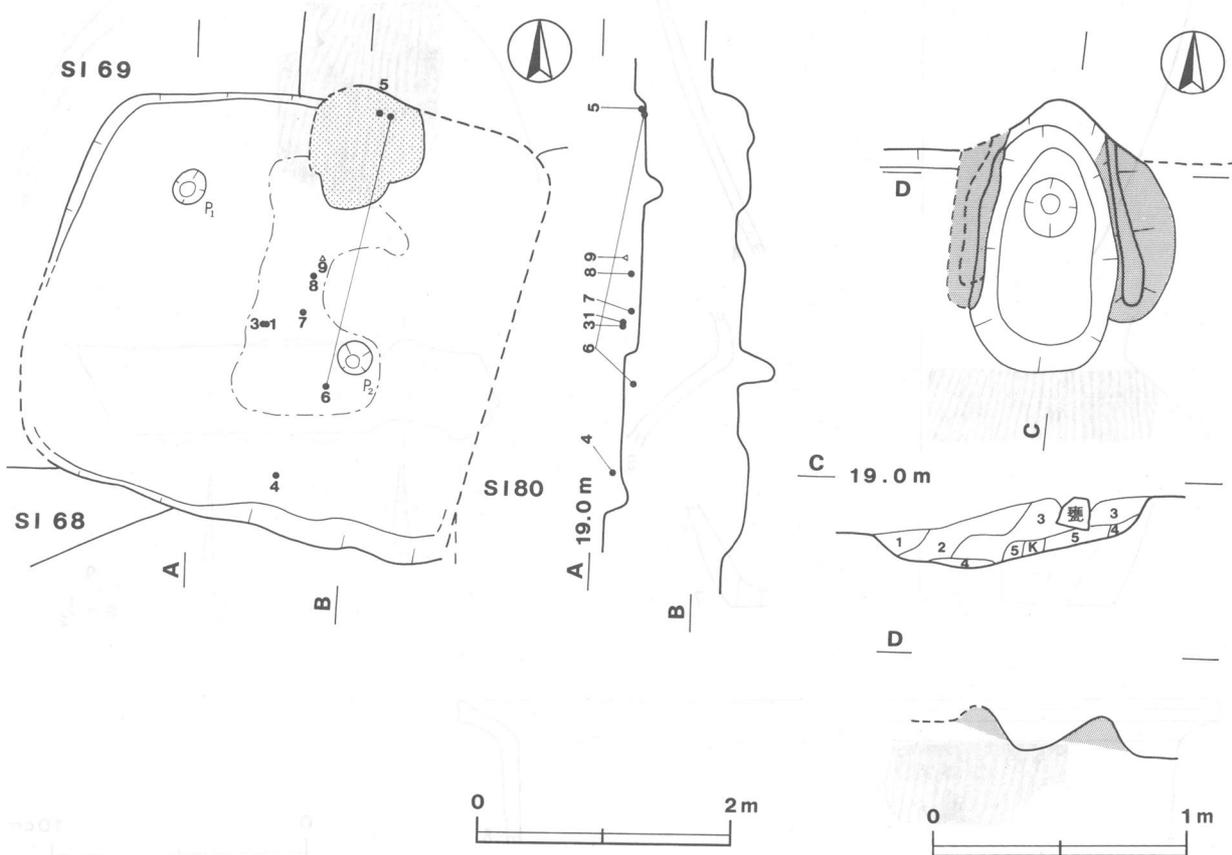
規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが、残存する壁や床から長軸 (3.50) m, 短軸3.37mで、方形と考えられる。

主軸方向 N-13°-E

壁 壁高は10~25cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で、竈から中央部にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央部に構築されている。天井部と左袖部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで108cm, 壁外への掘り込みは22cmである。右袖最大幅24cmで、内壁は火熱を受けて赤変している。火床部は床面を5cm

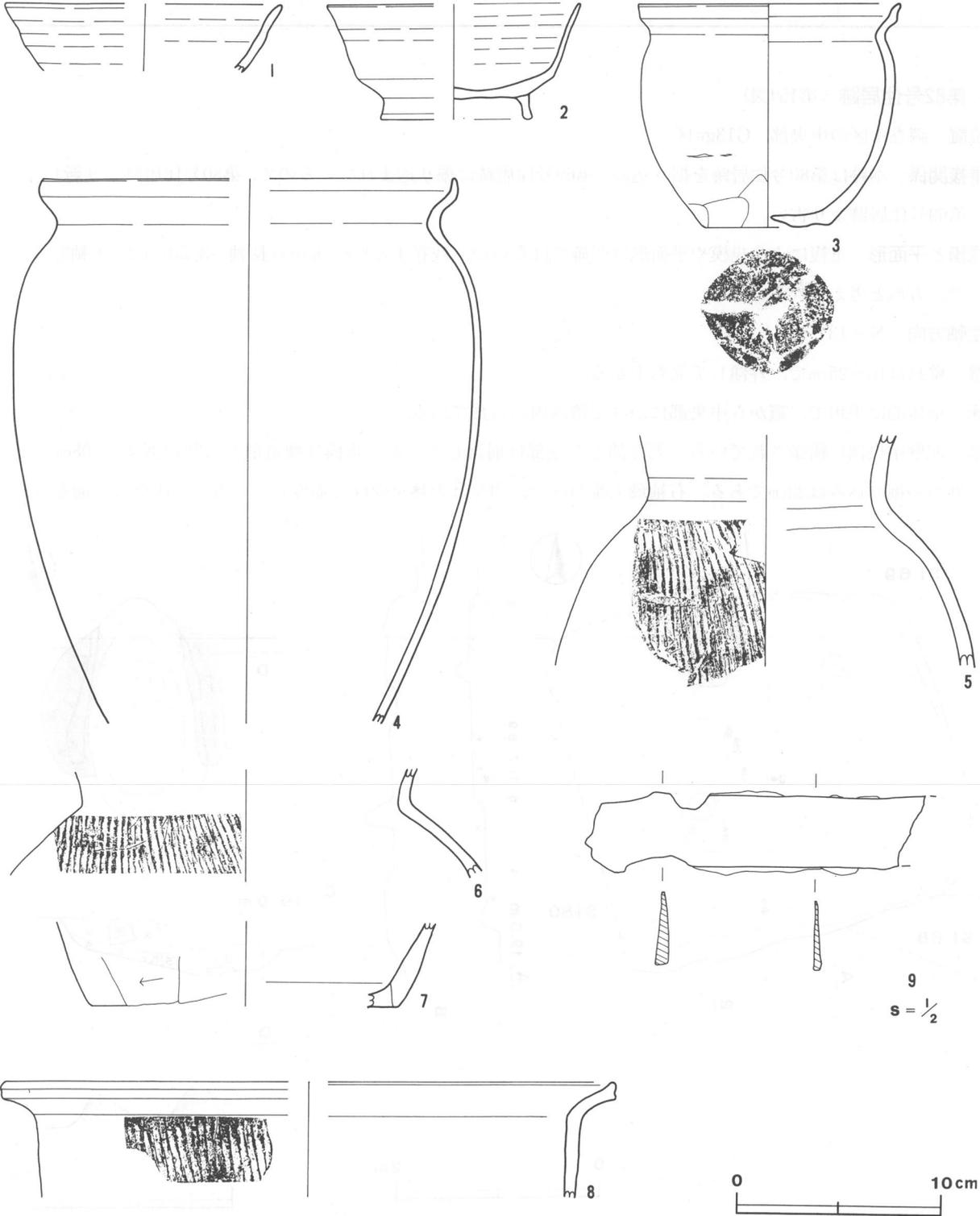


第154図 第82号住居跡実測図

ほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量, 灰粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 焼土小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 灰粒子少量



第155図 第82号住居跡出土遺物実測図

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₁は長径30cm, 短径25cmの楕円形, 深さ15cmで主柱穴である。P₂は径27cmの円形, 深さ28cmである。床面を丁寧に精査したが他にピットを確認することはできなかった。

遺物 土師器片71点, 須恵器片42点, 陶器片1点, 鉄製品1点が出土している。3, 4の土師器甕と1の須恵器坏は覆土下層から, 7, 8の須恵器甕と6の須恵器甕は中央部床面から, 2の須恵器高台付坏と5の須恵器甕は竈内から, 9の鉄鎌は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から, 平安時代と考えられる。

第82号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第155図 1	坏 須恵器	A [13.6] B (3.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。	砂粒・石英・長石・雲母, 灰色 普通	P 557 15% 覆土下層
2	高台付坏 須恵器	A [12.5] B 5.7 D [7.4] E 1.2	高台部から口縁部にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台部内・外面ナデ。貼付。	砂粒・石英・長石 灰色 普通	P 306 40% 竈内
3	小型甕 土師器	A 12.9 B 11.0 C 6.0	口縁部一部欠損。底部平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し, 端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部上位から中位にかけてナデ。下位ヘラ削り。内面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・石英・長石・雲母, 明赤褐色 普通	P 304 90% 覆土下層
4	甕 土師器	A [20.2] B (26.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 最大径が上位にある。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部上位外面ナデ。中位から下位にかけてヘラ磨き。内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母, 明赤褐色 普通	P 305 20% 覆土下層
5	甕 須恵器	B (11.4)	体部から頸部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 頸部は外傾する。	頸部内・外面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。内面ナデ。	砂粒・石英・長石 灰色 普通	P 558 15% 竈内
6	甕 須恵器	B (5.1)	体部上位から頸部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 頸部で「く」の字状に折れる。	頸部内・外面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母, にふい黄褐色, 普通	P 559 5% 床直
7	甕 須恵器	B (4.2) C [15.0]	多孔式。体部下位の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部下端外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母, 黄灰色 普通	P 307 5% 床直
8	甕 須恵器	A [30.0] B (5.7)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外反し, 1条の沈線が巡る。	口縁部内・外面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 灰色 普通	P 560 5% 床直

図版番号	種別	計測値				備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
第155図9	鉄鎌	(11.2)	2.7	0.3~0.4	(24.0)	M25 鉄製 覆土下層 60%

第99号住居跡 (第156図)

位置 調査2区西部, L12g₁区。

規模と平面形 長軸 [2.55] m, 短軸 [2.27] mと推測されるが, 平面形は不整形である。

主軸方向 不明である。

壁 北西壁と東壁南側が残存し, 壁高は4~14cmで, 緩斜して立ち上がる。

床 全体的に平坦で, 中央部が若干踏み固められている。

ピット 1か所。長径22cmの円形で, 深さ22cmである。性格は不明である。

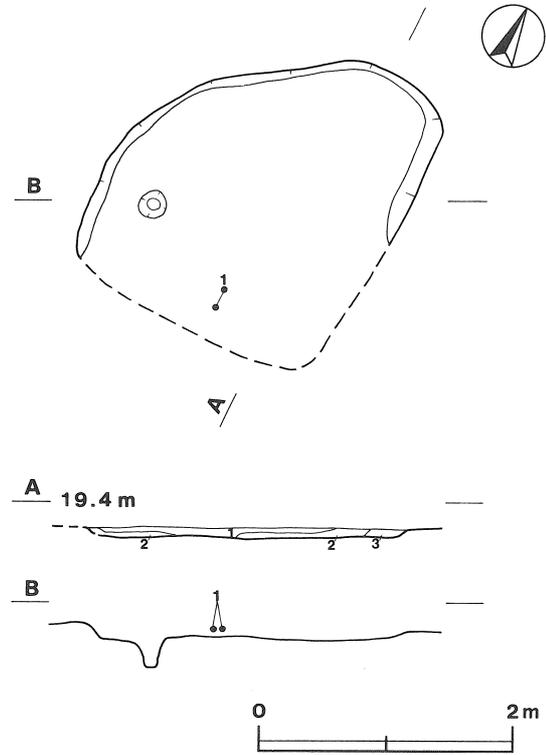
覆土 3層の自然堆積である。

土層解説

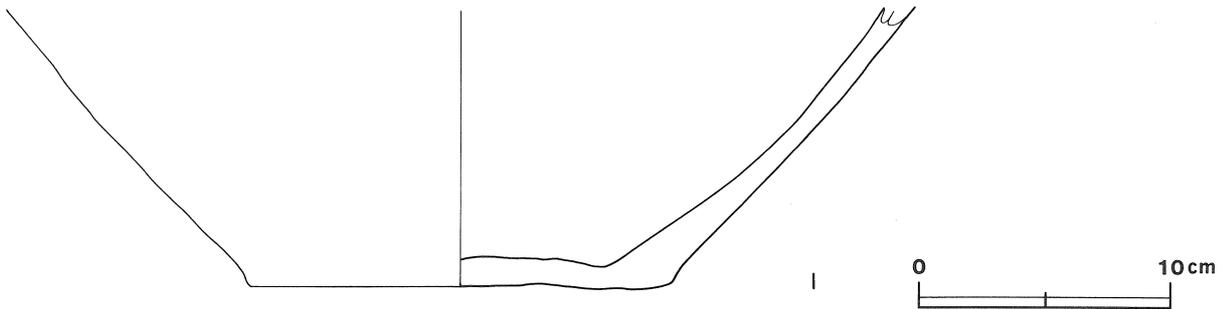
- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片65点，須恵器片9点，鉄滓5点である。1の須恵器の甕が炭化物とともに南壁推定ライン近くの覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態が不明瞭であるが，出土遺物から平安時代と思われる。竈が確認できず，遺構も小型で平面形が不明瞭であること，鉄滓が確認されていることから，住居以外の目的で使用された可能性も考えられる。



第156図 第99号住居跡実測図



第157図 第99号住居跡出土遺物実測図

第99号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第157図 1	甕 須恵器	B [11.0] C [16.2]	口縁部欠損。平底で，体部は外傾して直線的に立ち上がる。	体部外面平行叩き。体部外面下半へラ削り。	砂粒・長石 褐灰色 普通	P 351 10% 覆土中

第111号住居跡 (第158図)

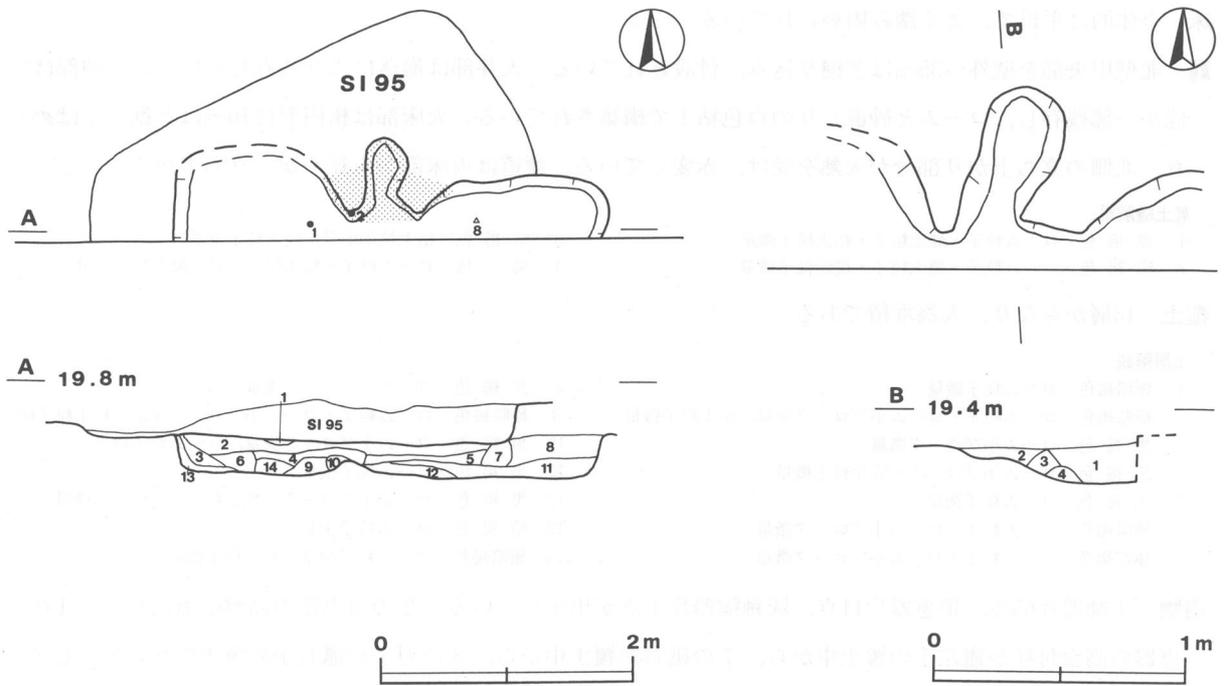
位置 調査2区西部，L11g9区。

重複関係 本跡の上に第95号住居跡があるため，本跡が古い。

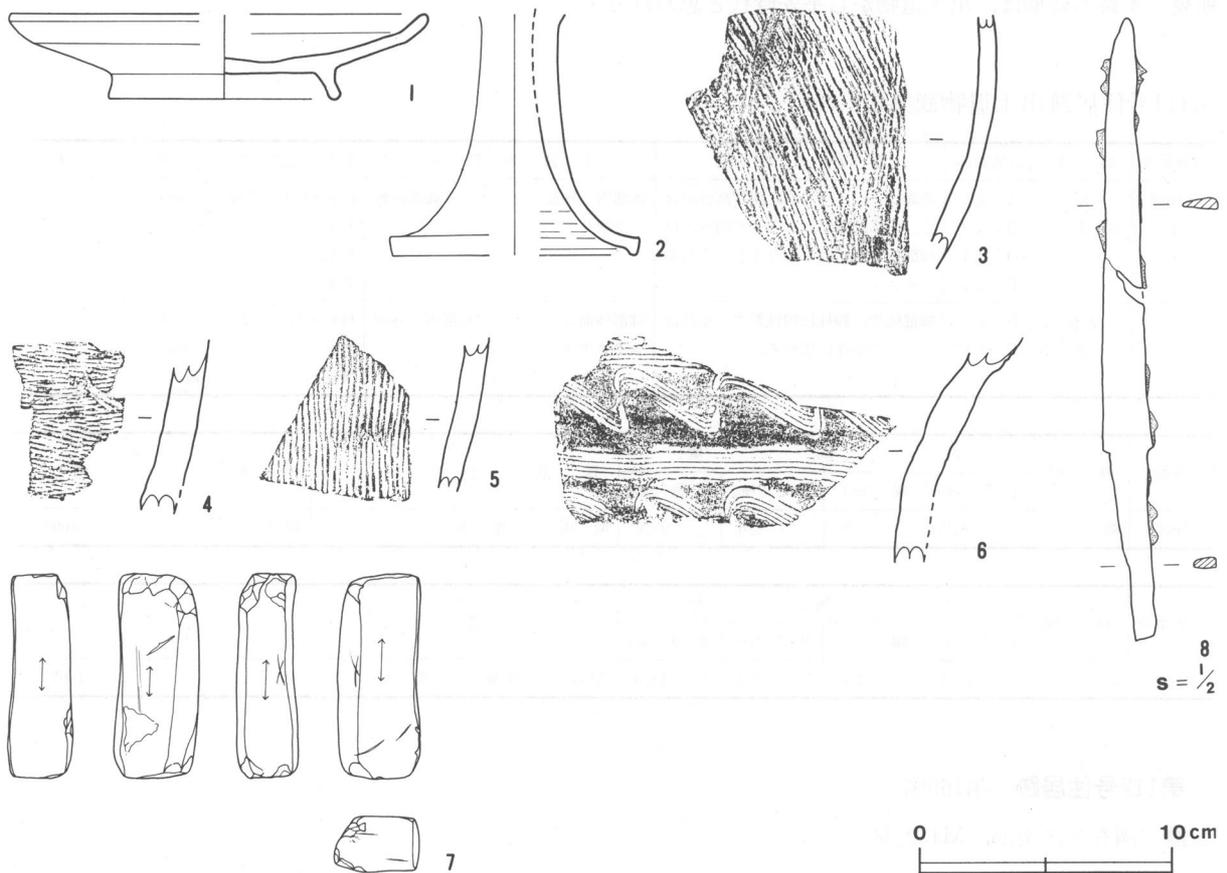
規模と平面形 本跡の大半が調査区外であるため，規模，平面形とも不明であるが，調査区内では長軸3.44m 短軸 (0.45) mと確認されている。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は30~35cmで，外傾して立ち上がる。北壁の一部が攪乱により残存していない。



第158图 第111号住居跡実測図



第159图 第111号住居跡出土遺物実測図

床 全体的に平坦で、よく踏み固められている。

竈 北壁中央部を壁外へ35cmほど掘り込み、付設されている。天井部は崩落により残存していない。袖部は壁際が一部残存し、ロームと砂混じりの白色粘土で構築されている。火床部は楕円形に10cmほど掘りくぼめられ、北側の立ち上がり部分が火熱を受け、赤変している。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 3 暗褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子・粘土粒子多量、焼土粒子少量 |

覆土 14層からなり、人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|---------|-------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム小ブロック微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子微量 | 9 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量、粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック微量 | 10 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 7 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック微量 | 14 極暗褐色 | ローム粒子少量、粘土粒子微量 |

遺物 土師器片65点、須恵器片11点、灰釉陶器片1点が出土している。2の須恵器の高盤が竈内から、1の須恵器の高台付坏が竈左手の覆土中から、7の砥石が覆土中から、8の刀子が竈右手の覆土中から出土している。3, 4, 5は覆土中から出土した須恵器片で、外面に平行叩きが施されている。6は覆土中から出土した須恵器甕の体部破片で、5条の沈線間に櫛描波状文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代と思われる。

第111号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第159図 1	盤 須恵器	A 16.6	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して大きく開き、口縁部でやや屈曲し、外上方に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母・石英 灰色 普通	P400 90% 覆土中
		B 3.0				
		D 9.1				
		E 1.1				
2	高盤 須恵器	D [9.7]	脚部破片。脚柱は円柱形で、裾部は「ハ」の字状に広がる。	脚部外面ロクロナデ。裾部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・雲母 灰色 普通	P401 20% 竈内
		E (9.7)				

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第159図7	砥石	8.2	3.2	2.6	95.0	凝灰岩	覆土中	Q24 100%

図版番号	種別	計測値				備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
第159図8	刀子	16.4	1.3	0.3	18.0	M33 鉄製 覆土中 100%

第112号住居跡 (第160図)

位置 調査2区南部、M13c2区。

重複関係 本跡を第10号溝が掘り込んでおり、本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.17m、短軸3.33mの長方形。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は18~53cmで、北壁を除き、垂直に立ち上がる。北壁は緩斜して立ち上がる。東壁と西壁の一部が第

10号溝によって掘り込まれ、残存していない。

床 全体的に平坦で、よく踏み固められている。

竈 北東コーナー部を壁外へ30cmほど掘り込み、付設されている。砂混じりの灰色粘土で構築された左袖部の一部が残るのみで、他は第10号溝によって掘り込まれ、残存していない。

竈土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック微量

ピット 4か所。P₁~P₄は長径17~30cm, 短径15~20cmの楕円形で、深さは12~22cmである。性格は不明である。

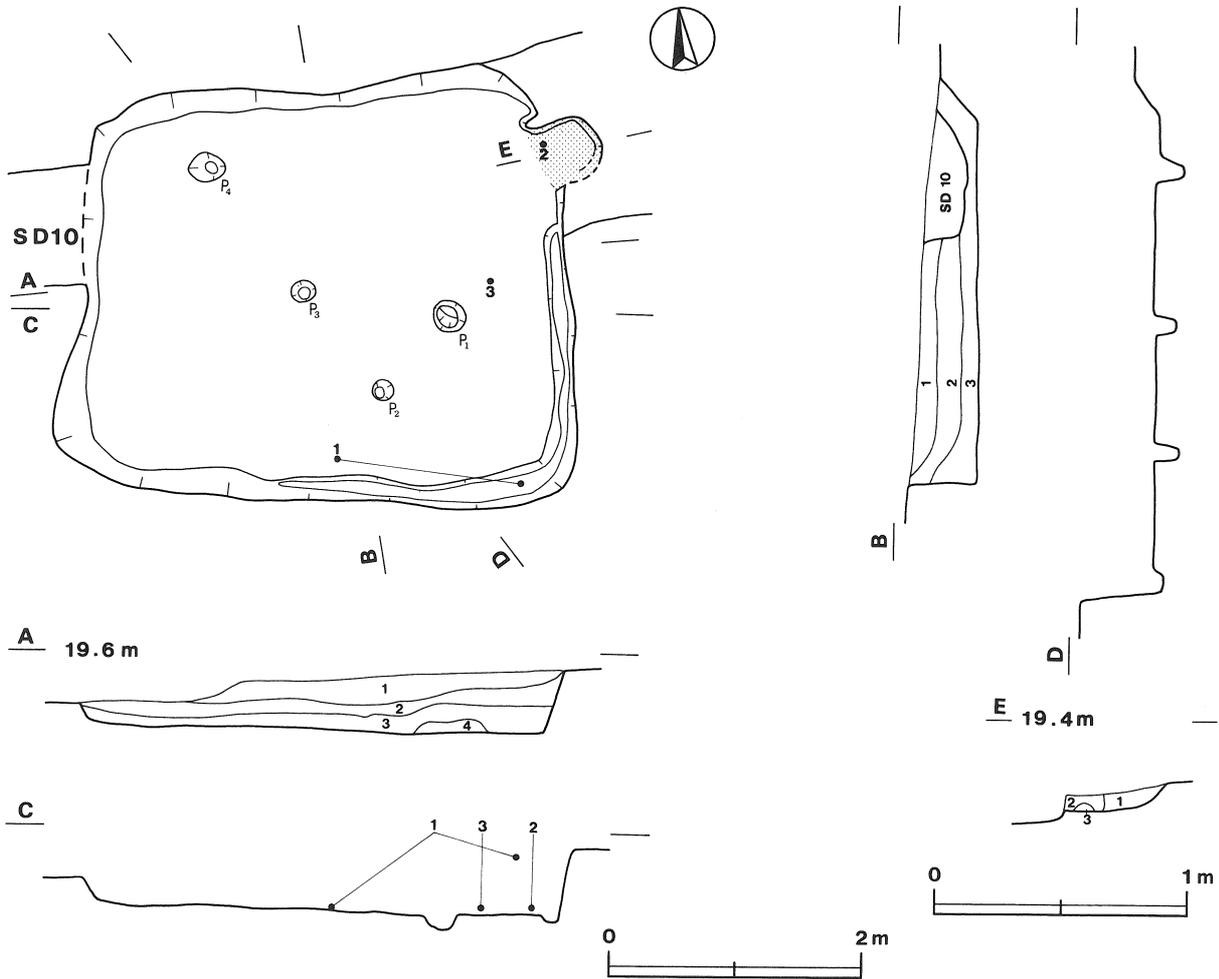
覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説

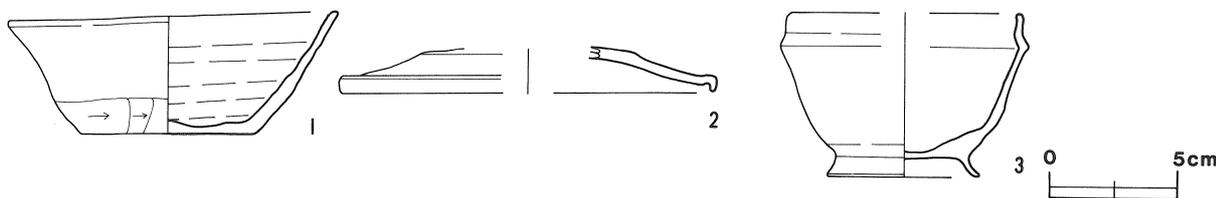
- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

遺物 土師器片120点, 須恵器片83点, 鉄滓2点が出土している。1の須恵器の坏が南東コーナー部壁下の覆土中と南壁下の床面直上から、2の須恵器の蓋が竈手前の覆土中から、3の須恵器の小型短頸壺が東部の床面直上から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代と考えられる。



第160図 第112号住居跡実測図



第161図 第112号住居跡出土遺物実測図

第112号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第161図 1	坏 須恵器	A 13.1 B 4.9 C 6.9	平底で体部は外傾して立ち上がり、上半部でやや外反気味になる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面下端へラ削り。底部へラ削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P402 90% 床直・覆土中
2	蓋 須恵器	A [14.8] B (1.8)	摘み欠損。天井頂部は平坦で中位に稜を持ち、外反気味に下降する。端部はわずかに下方に屈曲する。	天井部内・外面ロクロナデ。天井頂部外面へラ削り。	砂粒・長石・バミス 灰色 普通	P403 30% 覆土中
3	小型短頸壺 須恵器	A [9.2] B 6.5 D 6.0 E 0.8	平底に「ハ」の字状に高台が付き、体部下位は内彎気味に立ち上がり、中位で直線的に立ち上がる。頸部は直線的に立ち上がり、口縁部はやや内傾する。	口縁部、頸部、体部外面ロクロナデ 底部回転へラ削り。	砂粒・長石・バミス 暗青灰色 普通	P404 50% 床直

第122号住居跡（第162図）

位置 調査4区中央部，I11b7区。

重複関係 第103号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.02m，短軸3.95mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は20～30cmで，垂直に立ち上がる。北西コーナー部が20cmほど第103号土坑に掘り込まれており，上端が残存しない。

壁溝 幅15～45cm，深さ5～8cmで，断面形はU字形である。壁下を全周している。

床 全体的に，平坦でよく踏み固められている。

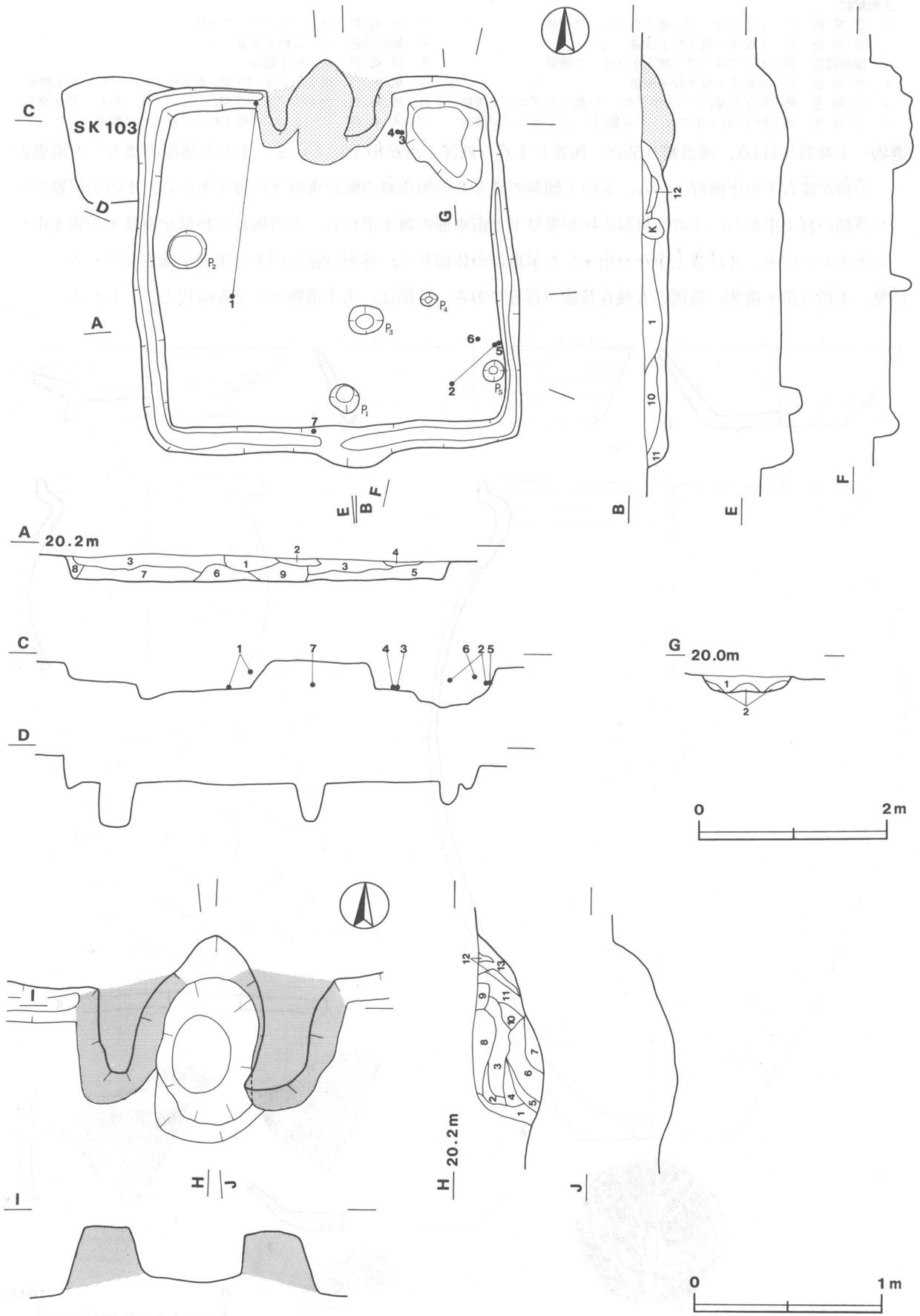
竈 北壁中央部に壁外へ25cmほど掘り込み，付設されている。規模は長さ110cm，幅140cmである。天井部は崩落し，残存していない。袖部の残存状況は良好で，砂混じりの灰色粘土によって構築されている。火床部は楕円形に4cmほど掘りくぼめられている。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	8 灰褐色	粘土粒子・粘土小ブロック中量，焼土小ブロック微量
2 灰褐色	粘土粒子中量，焼土粒子微量	9 黒褐色	粘土粒子少量，焼土小ブロック微量
3 灰褐色	粘土粒子多量，焼土小ブロック微量	10 暗赤褐色	焼土粒子中量，粘土粒子微量
4 赤褐色	焼土小ブロック・粘土粒子中量，炭化粒子微量	11 極暗褐色	焼土中ブロック中量
5 黒褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・灰微量	12 暗赤褐色	焼土小ブロック少量
6 赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量，灰少量	13 黒褐色	焼土粒子微量
7 暗赤褐色	焼土粒子・焼土小ブロック多量		

ピット 5か所。P1は径30cmの円形で，深さは22cmである。位置から出入り口ピットと考えられる。P2～P5は長径18～43cm，短径15～40cmの楕円形で，深さは18～46cmで，性格は不明である。また，竈東側，北東コーナー付近に長径113cm，短径85cmの不整形のくぼみが存在し，深さ16cmで，底面は平坦である。上層がローム中ブロックを中量含む黒褐色土，下層がローム粒子を多量に含む褐色土であり，性格は不明である。

覆土 12層からなり，自然堆積である。



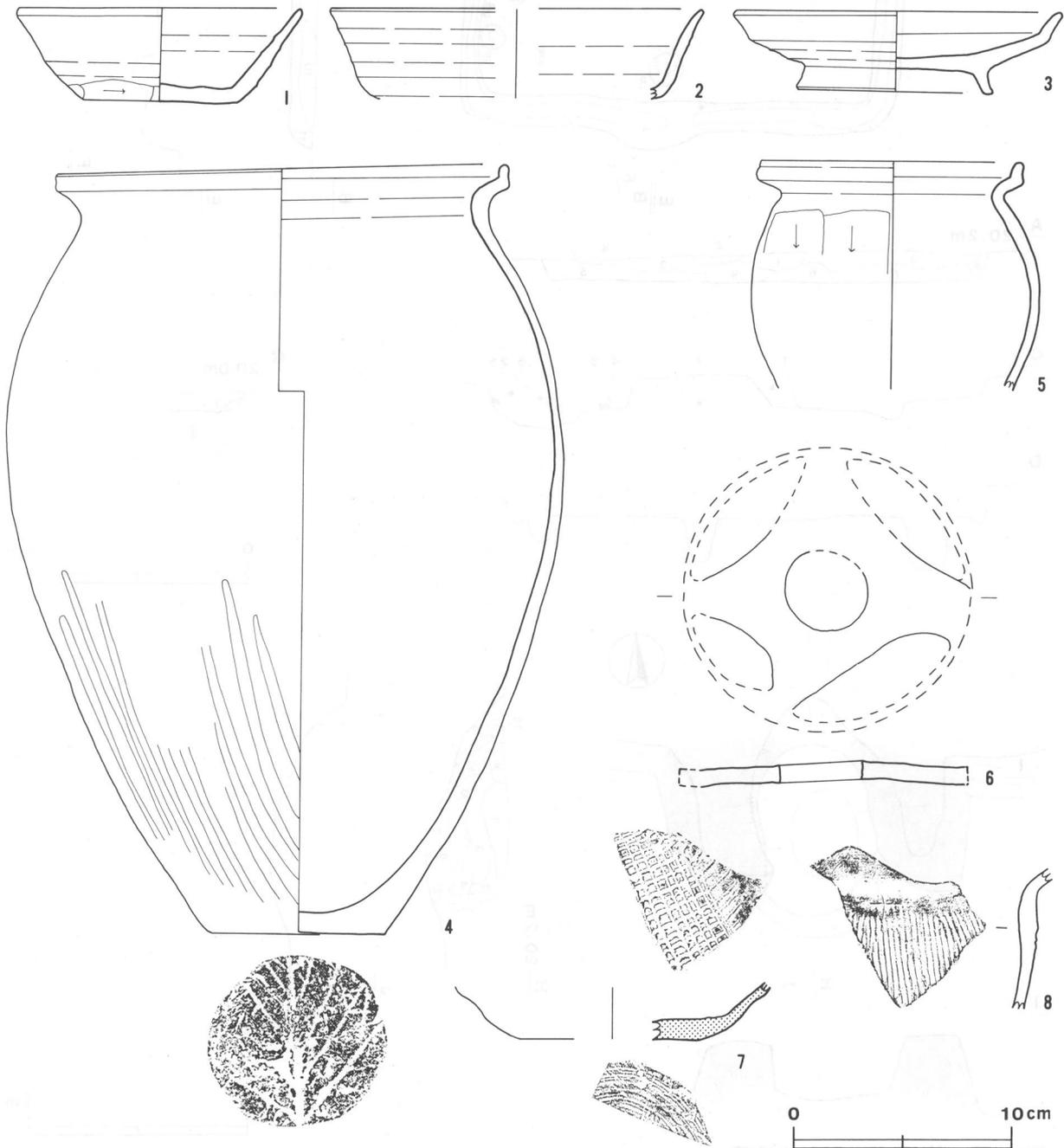
第162图 第122号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック微量 | 7 黒褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 極暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック微量 | 9 暗褐色 | 焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | 焼土小ブロック少量, 焼土中ブロック・粘土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック微量 | 11 黒褐色 | 焼土小ブロック少量, ローム小ブロック・粘土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 焼土粒子・焼土小ブロック少量, ローム小ブロック微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |

遺物 土師器片413点, 須恵器片59点, 陶器片1点, 鉄滓1点が出土している。4の土師器の甕と3の須恵器の盤が竈右手の床面直上から, 5の土師器の甕と6の須恵器の甑が東壁下の覆土中から, 1の須恵器の坏が西部の覆土中から, 2の須恵器の坏が東壁下と南東部の覆土中から, 7の陶器の卸皿が南壁下の覆土中から出土している。8は覆土中から出土した須恵器の体部片で, 外面に縦位の平行叩きが施されている。

所見 本跡は出土遺物, 遺構とも残存状態が良好である。時期は, 出土遺物から平安時代と考えられる。



第163図 第122号住居跡出土遺物実測図

第122号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第163図 1	坏 須恵器	A 13.0 B 4.4 C 7.0	平底で体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面 下端へラ削り。底部へラ削り。	砂粒・長石・雲母・ スコリア, にぶい 黄橙色, 普通	P 425 70% 覆土中
2	高台付坏 須恵器	A [17.2] B (4.1)	坏部破片。体部は内彎気味に立ち上 がった後外傾し, 口縁部はわずかに 外反する。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P 426 10% 覆土中
3	盤 須恵器	A 15.0 B 3.8 D 9.0 E 1.0	平底に「ハ」の字状に開く高台が付 く。体部は外傾して立ち上がり, 口 縁部は稜を持ち外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。 底部回転へラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰黄褐色 普通	P 427 95% 床直
4	甕 土師器	A 20.7 B 35.5 C 8.0	平底で体部は内彎して立ち上がり, 上位に最大径を持つ。頸部は「く」 の字に外反し, 口縁部は稜を持ち, 端部は直立してつまみ上がる。	口縁部, 頸部内・外面横ナデ。体部 外面下半へラ削り。底部に木葉痕。	砂粒・雲母・長石・ 石英 にぶい褐色 普通	P 423 90% 床直
5	甕 土師器	A 12.2 B (10.5)	底部欠損。体部は内彎して立ち上 がり, 上位に最大径を持つ。頸部は鋭 く「く」の字状に外反し, 端部は摘 み上がる。	口縁部, 頸部, 内・外面横ナデ。体 部外面へラ削り。	砂粒・長石・石英 黒褐色 普通	P 424 30% 覆土中
6	甗 須恵器	C [13.1]	底部破片。底部に五孔を穿つ。	底部へラナデ。へラで孔を切る。	砂粒・雲母・長石 灰褐色 普通	P 428 5% 覆土中
7	卸皿 陶器	B (2.4) C [8.4]	底部, 体部破片。平底で体部は内彎 気味に立ち上がり, 中位から外反す る。	水挽き成形。全面に灰釉がかかり, 内面には碁盤状の刻みがある。底部 回転へラ削り。	砂粒 にぶい黄色 普通	P 429 5% 覆土中

第125号住居跡 (第164・165図)

位置 調査4区中央部, I11c1区。

重複関係 第124号住居跡の上にあり, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸 [5.05] m, 短軸 [4.72] mの方形と推定される。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は5~25cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 幅35~40cm, 深さ8cm前後で, 断面形はU字形である。西壁下の一部と南西コーナー一部壁下に確認され
ている。

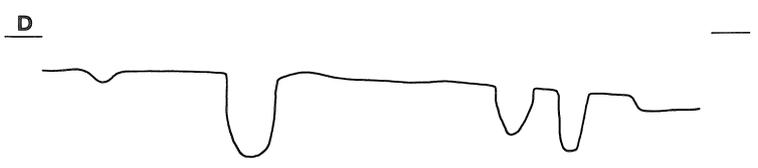
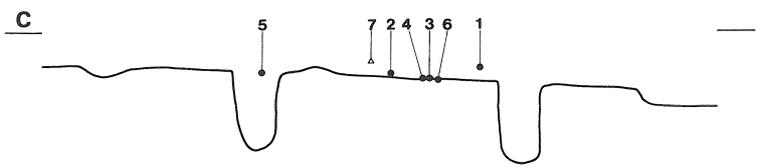
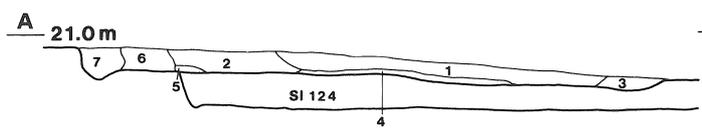
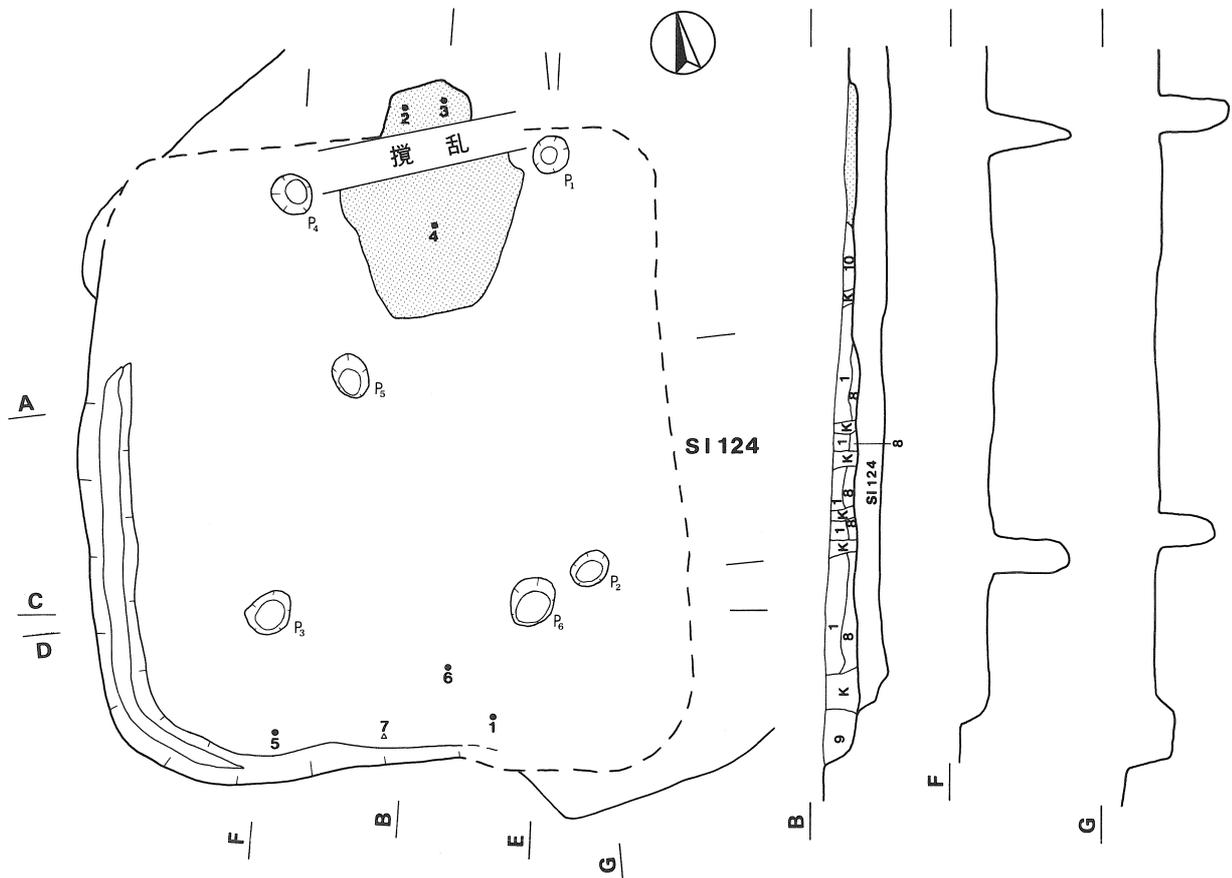
床 全体的に平坦で, あまり踏み固められていない。

竈 北壁推定ラインに, 長径180cm, 短径130cmの範囲で楕円形に焼土が確認されており, ここに竈が付設され
ていたと考えられる。砂混じりの灰色粘土で構築された両袖部の一部が残存するのみで, 他は攪乱によって
残存しない。

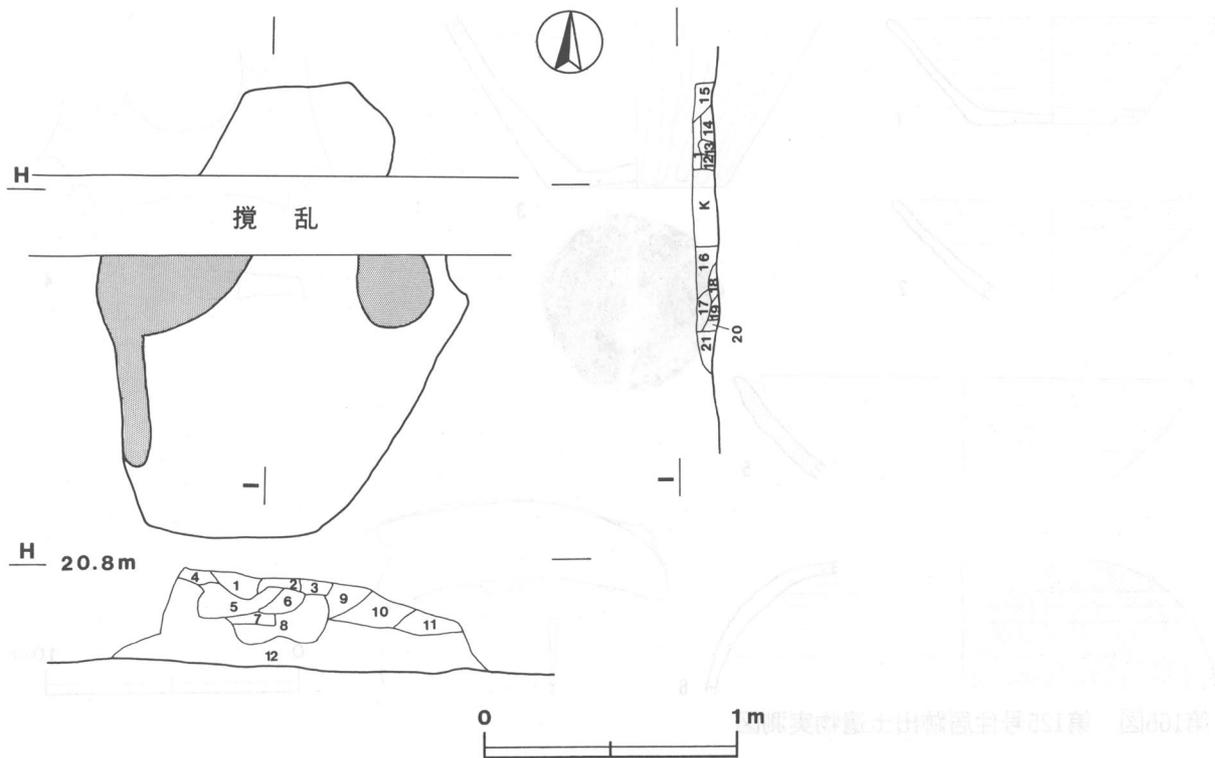
竈土層解説

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 焼土小ブロック少量, 炭化小ブロック微量 | 12 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 赤褐色 焼土大ブロック多量, 焼土中ブロック中量 | 13 暗赤褐色 焼土粒子多量 |
| 3 褐灰色 焼土中ブロック少量, 焼土粒子微量 | 14 暗赤褐色 焼土粒子中量 |
| 4 赤褐色 焼土小ブロック中量, 炭化物・粘土粒子微量 | 15 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化物微量 |
| 5 暗赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック中量, 炭化物・粘土粒子微量 | 16 暗赤褐色 粘土粒子中量, 炭化物微量 |
| 6 赤褐色 焼土小ブロック多量, 粘土粒子少量 | 17 暗赤褐色 焼土粒子少量 |
| 7 黒褐色 焼土小ブロック・粘土粒子微量 | 18 赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物中量 |
| 8 極暗褐色 焼土小ブロック・粘土小ブロック微量 | 19 黒褐色 焼土中ブロック少量 |
| 9 灰褐色 焼土小ブロック・粘土粒子少量 | 20 暗赤褐色 焼土粒子少量・粘土粒子微量 |
| 10 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子微量 | 21 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 11 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量 | |

ピット 6か所。P1~P4は長径30~40cm, 短径26~33cmの楕円形で, 深さは55~65cmである。位置から主柱



第164图 第125号住居跡実測图



第165図 第125号住居跡竈実測図

穴と考えられる。P5, P6は長径36~44cm, 短径38~46cmの楕円形で, 性格は不明である。

覆土 10層からなり, 攪乱を受けているが自然堆積である。

土層解説

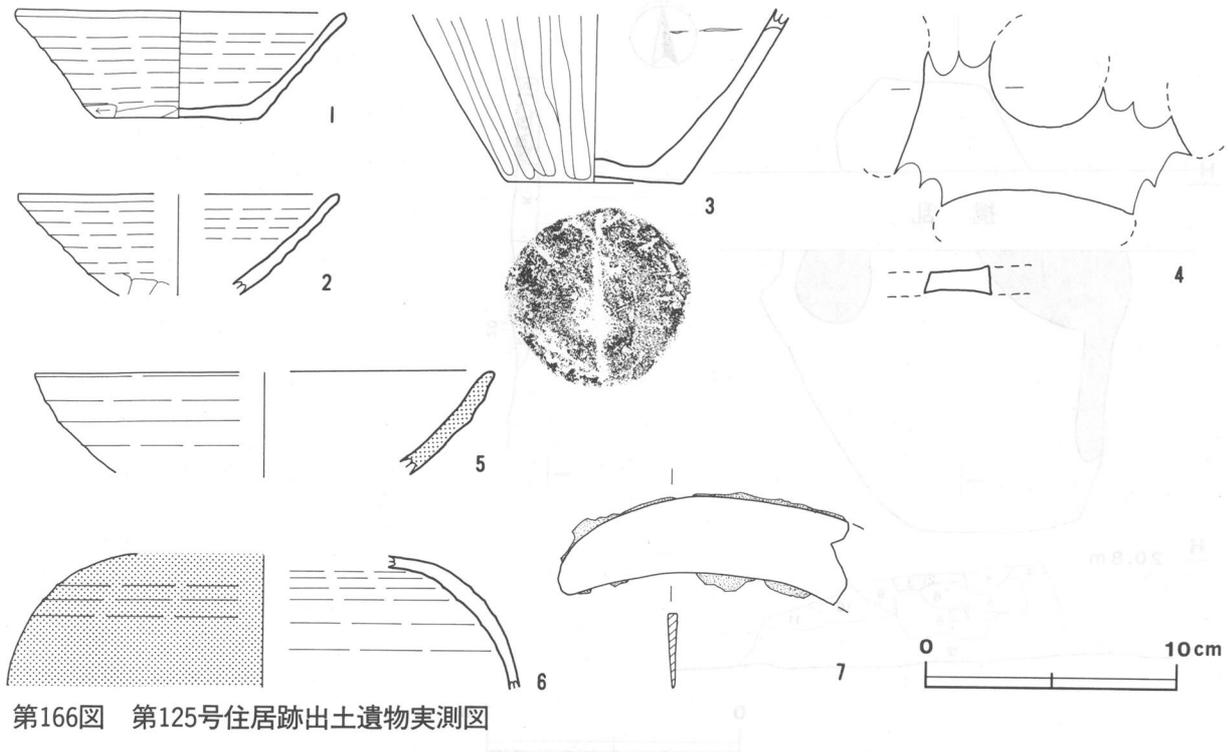
- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1 極暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 極暗褐色 粘土小ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック多量, 焼土粒子微量 | 9 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子少量, 粘土粒子微量 | 10 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量 |

遺物 土師器片368点, 須恵器片59点, 灰釉陶器片2点, 鉄製品1点が出土している。3の土師器の坏と4の土師器の甎と2の須恵器の坏が竈内から, 6の灰釉陶器の壺と1の須恵器の坏が南部の覆土中から, 7の鉄製品の鎌がその西側の覆土中から, 5の陶器の椀が西側の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から平安時代と思われる。

第125号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第165図 1	坏 須恵器	A 12.9 B 4.3 C 6.3	平底で体部は外傾して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面下端へら削り。底部へら削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P443 100% 覆土中
2	坏 須恵器	A 12.8 B 4.0	口縁部, 体部破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端へら削り。	砂粒・長石・雲母 灰色 普通	P444 20% 竈内
3	甎 土師器	B (6.7) C 7.0	底部, 体部下半破片。平底で体部は外傾して立ち上がる。	体部内面へらナデ。体部外面へら磨き。底部に木葉痕。	砂粒・長石・石英・ 雲母・スコリア にふい褐色, 普通	P439 20% 竈内
4	甎 土師器	C (10.7)	底部破片。底部に五孔を穿つと推定される。	へら状工具による整形。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P440 5% 竈内



第166図 第125号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第166図 5	椀 陶器	A [18.1] B (4.1)	底部欠損。体部は内彎気味に立ち上がる。	水挽き成形。口縁部、体部内・外面に釉がかかる。	砂粒 オリーブ黄色 良好	P442 5% 覆土中
6	壺 灰釉陶器	B (5.2)	体部破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面に灰釉がかかる。	砂粒・石英・長石 暗オリーブ 普通	P441 5% 覆土中

図版番号	種別	計測値				備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
第166図7	鉄鎌	(11.5)	3.4	0.3	40.0	M40 覆土中 50%

第14号住居跡 (第32図)

位置 調査3区の西部, K10g0区。

重複関係 本跡は, 第11号住居跡に掘り込まれているので, 本跡が古い。

規模と平面形 第11号住居跡に東半分を掘り込まれているため規模や平面形は明確でないが, 長軸3.44m, 短軸 [3.23] mの方形と考えられる。

主軸方向 N-7°-E

壁 壁高は23~32cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈 北壁中央に砂粒まじりの白色粘土で構築されているが, 重複と耕作により攪乱を受けているため, 掘り方だけを確認した。規模は煙道部から焚口部まで77cm, 壁外への掘り込みは20cmである。火床面は床面を7cm掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土中ブロック少量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子少量, 粘土粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土中ブロック少量, 焼土粒子多量, 炭化粒子多量, 灰粒子多量
- 3 暗赤褐色 焼土中ブロック多量, 焼土小ブロック多量, 炭化粒子少量, 灰粒子多量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック多量, 焼土粒子多量, 炭化粒子多量, 灰粒子多量
- 5 黒褐色 焼土小ブロック多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量
- 6 赤褐色 焼土中ブロック多量, 焼土粒子少量
- 7 赤褐色 焼土粒子微量, 粘土粒子多量
- 8 灰赤色 焼土小ブロック中量, 粘土粒子少量
- 9 赤褐色 焼土小ブロック中量, 粘土粒子少量
- 10 赤褐色 焼土中ブロック中量, 炭化粒子微量, 粘土粒子微量
- 11 赤褐色 焼土中ブロック多量, 炭化粒子微量, 粘土粒子微量

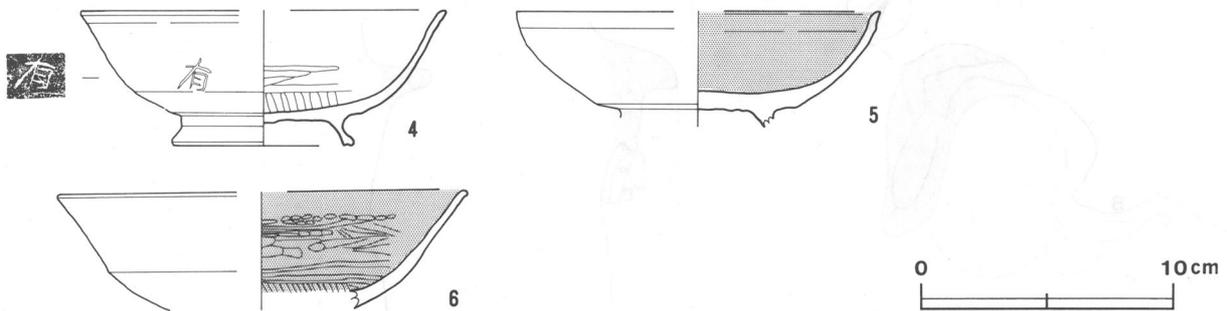
覆土 4層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

遺物 土師器片199点, 須恵器片4点が出土している。4の高台付坏は中央部と南壁近くの床面から, 5の土師器高坏は覆土下層から, 6の土師器坏は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から平安時代と考えられる。



第167図 第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第167図 4	高台付坏 土師器	A [14.4] B 5.7 C 7.2	高台部から口縁部にかけての破片。高台部は直線的に開く。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。体部内面へラ磨き。高台部内・外面ナデ。体部外面に「有」の線刻。	砂粒・石英・長石・雲母 橙色 普通	P63 40% 床直
5	高台付坏 土師器	A [14.4] B 4.6	高台部欠損。体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて外面横ナデ。内面へラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・石英・長石・バミス 橙色 普通	P64 40% 竈内
6	高台付坏 土師器	A [16.2] B (4.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はやや外反する。	口縁部から体部上位外面横ナデ。体部下位外面削り後ナデ。内面へラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア, にぶい 橙色 普通	P65 10% 覆土中層

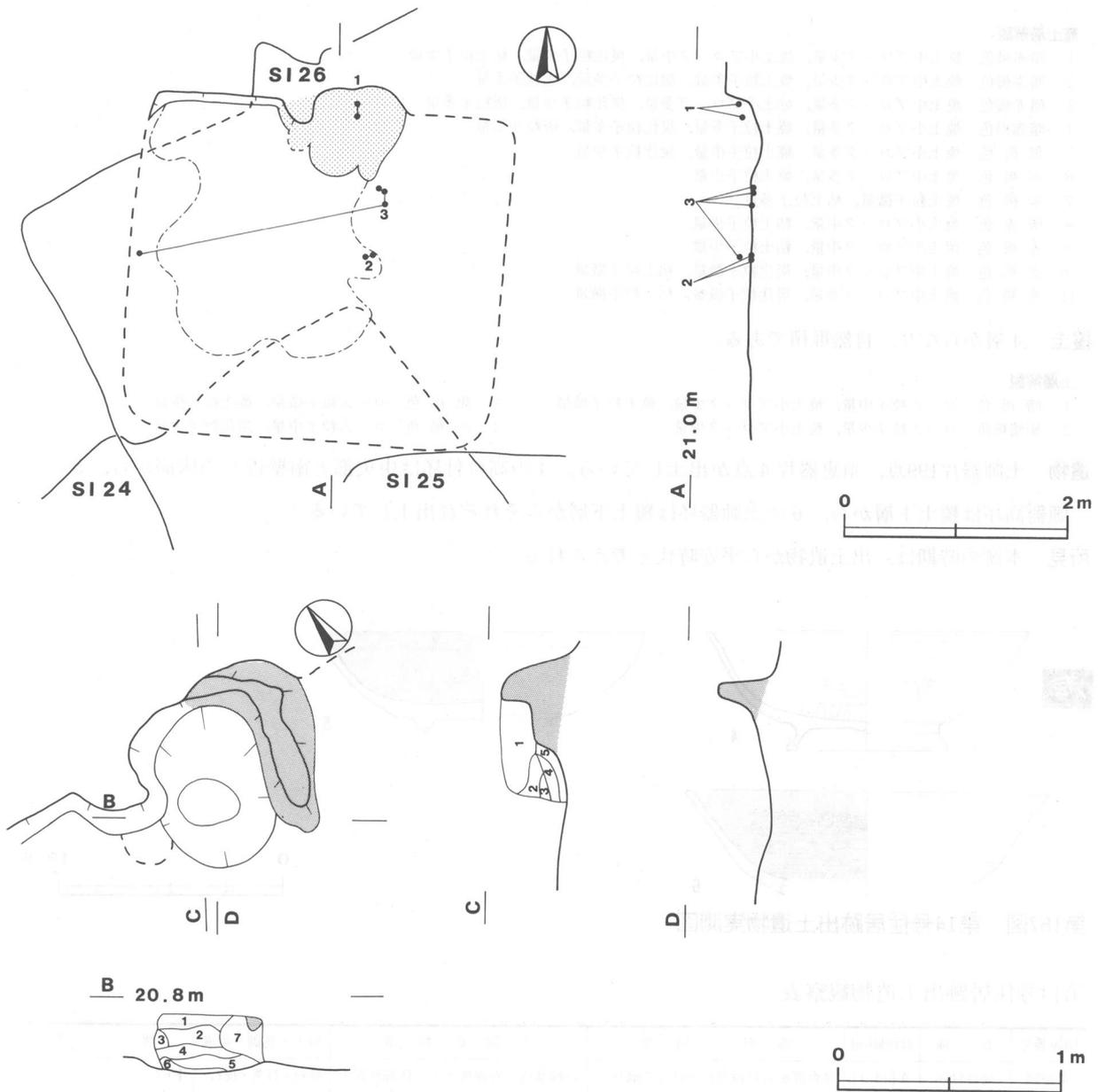
第27号住居跡 (第168図)

位置 調査3区西部, K11d2区。

重複関係 本跡は第26号住居跡を掘り込んでいるので, 本跡が新しい。

規模と平面形 上面が耕作により削平され, 規模や平面形は明確ではないが, 残存する壁や床から一辺が[3.30]mの方形と考えられる。

主軸方向 N-13°-E



第168図 第27号住居跡実測図

壁 北東壁の一部と北コーナー部が残っている。残存する壁高は3cmで、立ち上がりは明確でない。

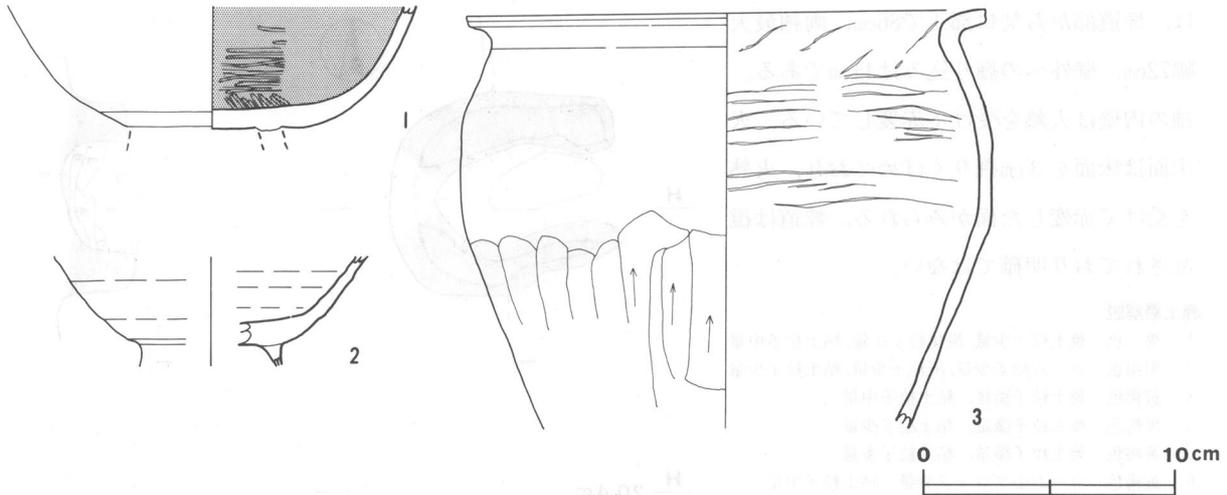
床 全体的に平坦で、中央部から竈にかけて踏み固められている。

竈 北東壁中央部に砂粒混じりの白色粘土で構築されている。上部が耕作により削平されているため、掘り方だけを確認した。規模は煙道部から焚口部まで85cm、最大幅89cm、壁外への掘り込みは20cmである。火床面は床面を9cm掘りくぼめており、火熱を受けて部分的に赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック少量、焼土粒子少量、粘土小ブロック少量
- 3 極暗褐色 焼土小ブロック少量、焼土粒子中量、粘土小ブロック少量
- 4 極暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック少量、焼土粒子中量、粘土粒子少量
- 5 黒色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子少量、粘土粒子少量
- 6 黒褐色 焼土粒子少量、炭化物少量、粘土粒子少量
- 7 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック少量、粘土粒子少量

覆土 5層からなり、自然堆積である。



第169図 第27号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- 13 灰褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
- 14 褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子少量
- 15 極暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量
- 16 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 粘土粒子少量
- 17 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量

遺物 土師器片129点, 須恵器片7点, 鉄滓1点が出土している。1の土師器高台付坏は竈内から, 2の土師器高台付坏と3の土師器甕が, 中央部覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から平安時代と考えられる。

第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第169図 1	高台付坏 土師器	B (4.8)	体部破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面上位ナデ。下位へラ削り後ナデ。体部内面へラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P100 40% 覆土中層
2	高台付坏 土師器	B (4.4)	高台部から体部下位にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母, にぶい橙色 普通	P101 20% 覆土下層
3	甕 土師器	A 20.5 B (16.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は強く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 橙色 普通	P102 40% 覆土下層

第30号住居跡 (第42・170図)

位置 調査3区の中央部, K11d4区。

重複関係 本跡は第31号住居跡を掘り込んでいるので, 本跡が新しい。

規模と平面形 耕作による攪乱を受け, 床面だけを確認したので規模や平面形は明確ではないが, 長軸[2.80] m, 短軸 [2.60] mで方形と考えられる。

主軸方向 N-91°-E

壁 壁高は13cmで, 外傾して立ち上がる。

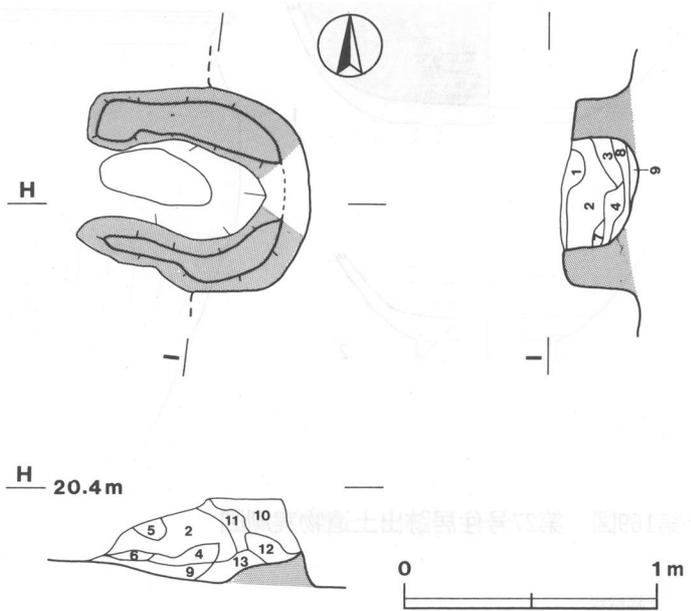
床 全体的に平坦で, 中央部がやや踏み固められている。

竈 東壁のやや南寄りに砂粒まじりの白色粘土で構築されている。天井部は耕作により削平されている。規模

は、煙道部から焚口部まで86cm、両袖最大幅72cm、壁外への掘り込みは44cmである。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床面は床面を3cm掘りくぼめており、火熱を受けて赤変した面がみられる。煙道は攪乱されており明確ではない。

竈土層解説

- 1 褐色 焼土粒子少量,炭化粒子少量,粘土粒子中量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量,灰粒子少量,粘土粒子少量
- 3 黄褐色 焼土粒子微量,粘土粒子中量
- 4 黒褐色 焼土粒子微量,粘土粒子少量
- 5 黄褐色 焼土粒子微量,粘土粒子多量
- 6 黄褐色 ローム小ブロック少量,粘土粒子中量
- 7 赤褐色 焼土粒子多量,粘土粒子少量
- 8 暗赤褐色 焼土小ブロック少量,焼土粒子中量,炭化粒子少量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量,焼土粒子少量
- 10 暗褐色 焼土粒子少量,炭化粒子少量,粘土粒子中量
- 11 黒褐色 焼土粒子微量,粘土粒子中量
- 12 極暗褐色 焼土中ブロック少量,粘土粒子少量
- 13 極暗褐色 焼土粒子少量,粘土粒子少量



第170図 第30号住居跡竈実測図

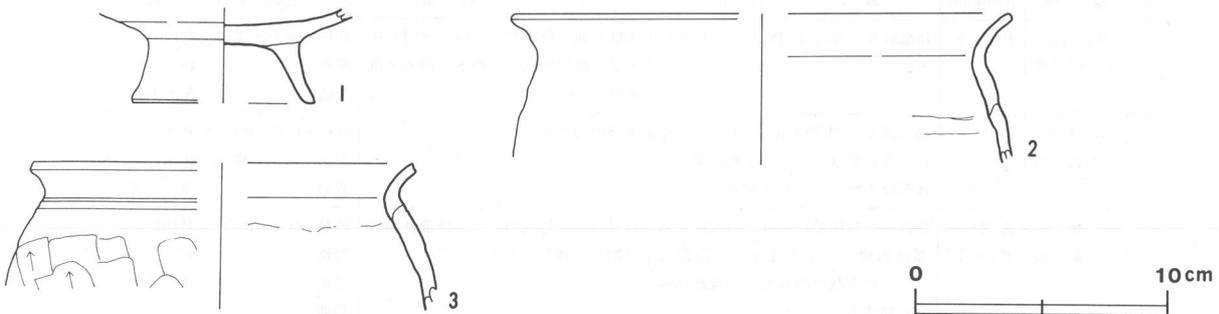
覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量,焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量,ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック微量,ローム粒子少量
- 4 黒色 ローム粒子微量

遺物 土師器片100点,須恵器片4点が出土している。1の土師器高台付坏が竈内から,2,3の土師器甕が床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は,出土遺物から平安時代と考えられる。

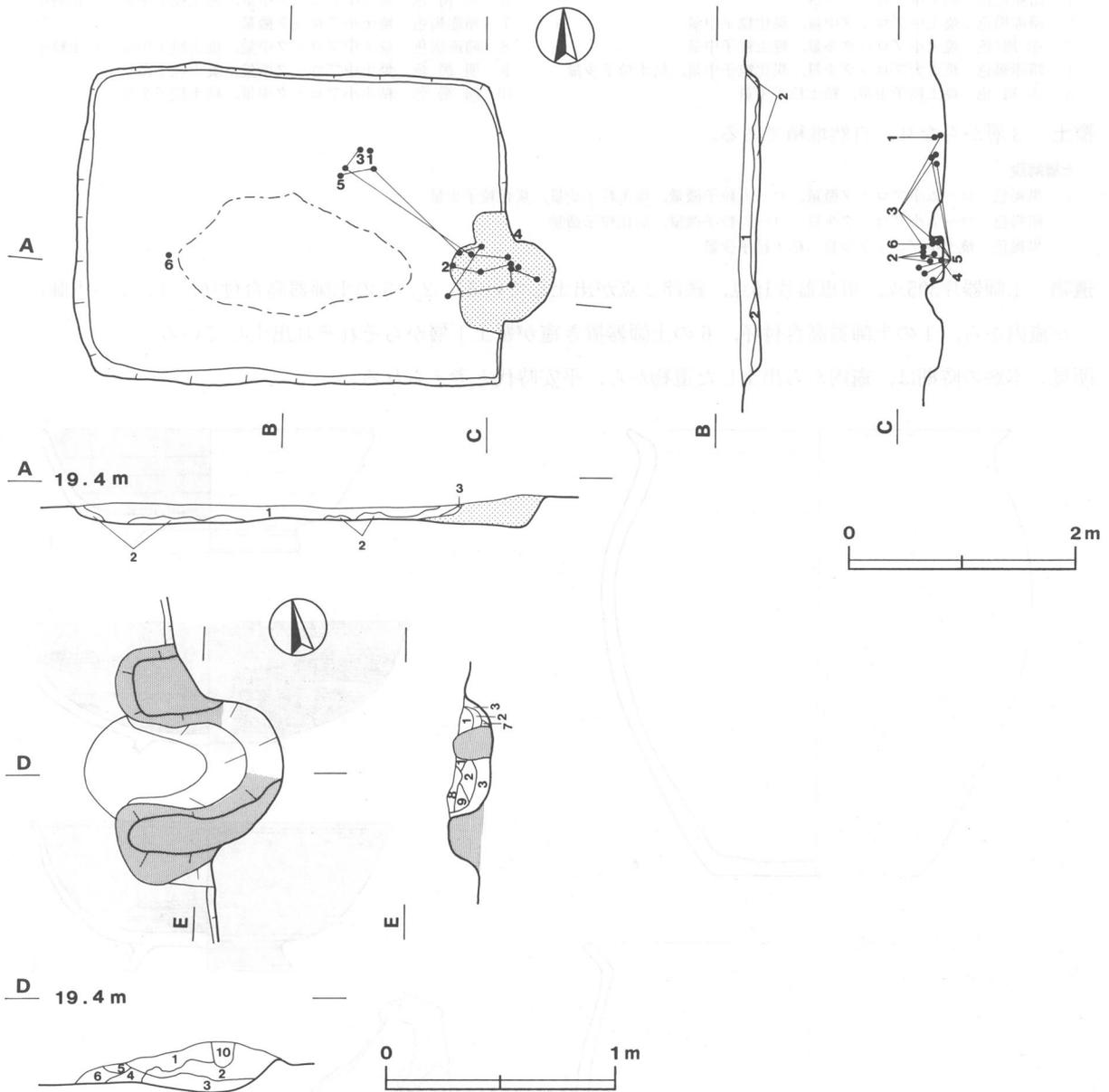


第171図 第30号住居跡出土遺物実測図

第30号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第171図 1	高台付坏 土師器	B (3.5) D [3.6] E 2.4	高台部から体部下位にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。高台部内・外面ナデ。	砂粒・長石にふい橙色普通	P106 40% 竈内
2	甕 土師器	A [19.4] B (6.0)	体部上位から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に開く。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。体部内面ヘラナデ。	砂粒・石英・長石・雲母,にふい褐色普通	P107 10% 床直
3	甕 土師器	A [15.0] B (5.4)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内傾して立ち上がり,頸部は「ハ」の字状に開く。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	砂粒・長石・バミス 橙色普通	P108 10% 床直

第32号住居跡 (第172図)



第172図 第32号住居跡実測図

位置 調査3区の東部, K11b9区。

規模と平面形 長軸3.55m, 短軸2.75mの長方形である。

主軸方向 N-106°-E

壁 壁高は9~16cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で, 中心部が踏み固められている。

竈 東壁中央からやや南寄りに構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで80cm, 両袖最大幅104cm, 壁外への掘り込みは35cmである。左袖は補強材に土師器甕の破片を用い, その周りは砂粒まじりの白色粘土で構築している。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床面は床面を6cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土中ブロック少量 | 6 黒褐色 | 焼土小ブロック中量, 焼土粒子中量, 炭化物中量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土中ブロック中量, 炭化粒子中量 | 7 暗赤褐色 | 焼土小ブロック微量 |
| 3 赤褐色 | 焼土小ブロック多量, 焼土粒子中量 | 8 暗赤灰色 | 焼土中ブロック中量, 焼土粒子中量, 粘土粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土大ブロック少量, 炭化粒子中量, 粘土粒子少量 | 9 明黒色 | 焼土中ブロック微量, 焼土粒子微量 |
| 5 赤褐色 | 焼土粒子中量, 粘土粒子多量 | 10 暗褐色 | 粘土小ブロック中量, 粘土粒子少量 |

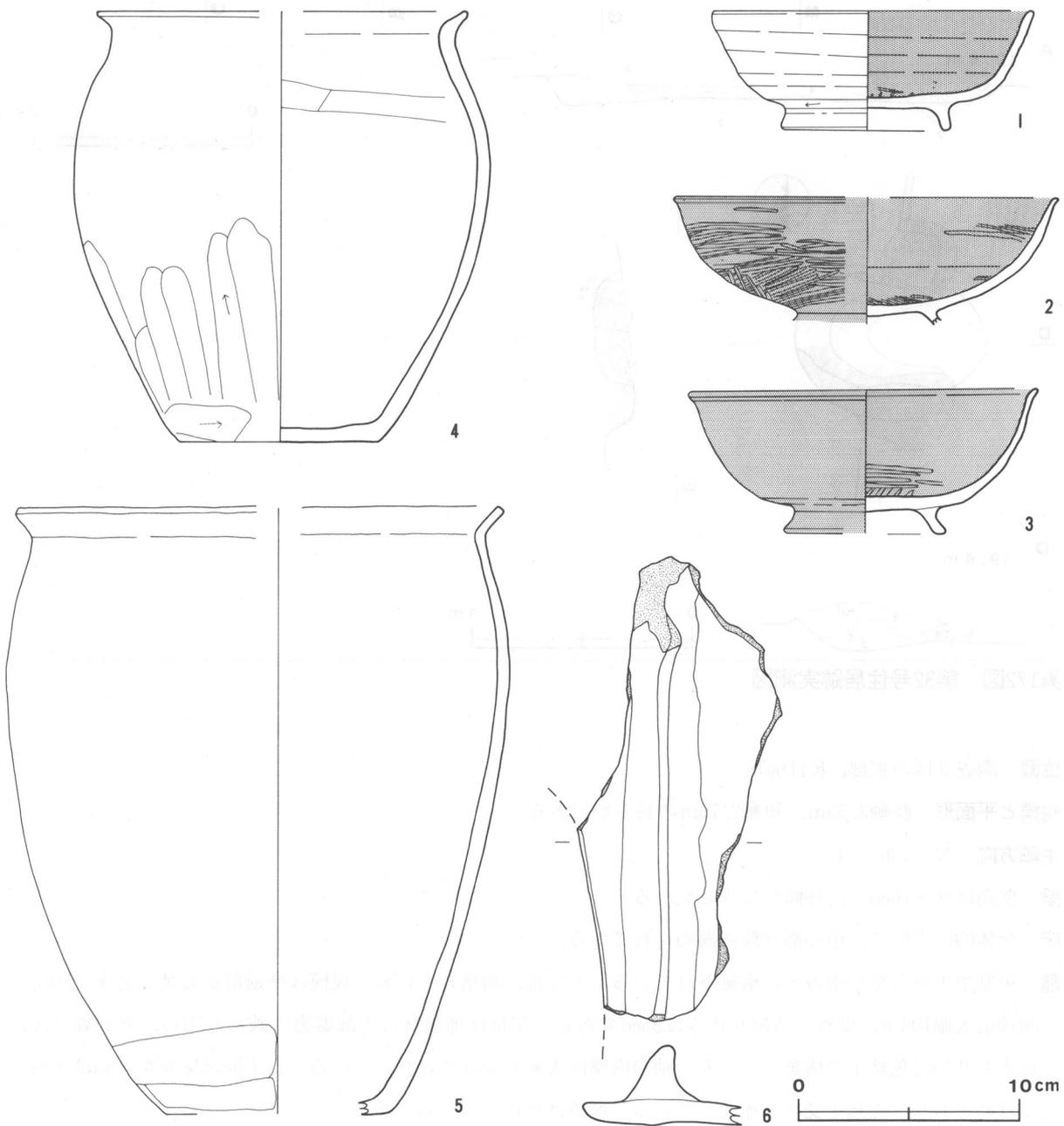
覆土 3層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子微量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土小ブロック少量, 粘土粒子少量

遺物 土師器片305点, 須恵器片15点, 鉄滓2点が出土している。2, 3の土師器高台付坏, 4, 5の土師器甕が竈内から, 1の土師器高台付坏, 6の土師器置き竈が覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 竈内から出土した遺物から, 平安時代と考えられる。



第173図 第32号住居跡出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第173図 1	高台付 土師器	A 14.5 B 5.6 D 7.4 E 1.0	高台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。内面へラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・石英・長石・雲母 灰褐色 普通	P114 100% 覆土下層
2	高台付 土師器	A[17.4] B(5.8)	高台部上位から口縁部にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く外傾する。	口縁部・体部内・外面へラ磨き。黒色処理。	砂粒・石英・長石・雲母 黒色 普通	P115 70% 竈内
3	高台付 土師器	A[15.8] B 6.7 D 7.2 E 1.1	高台部から口縁部にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く外傾する。	口縁部・体部内面へラ磨き。外面ナデ。底部へラ切り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・雲母 にふい褐色 普通	P116 70% 竈内
4	甕 土師器	A[16.8] B 19.7 C 9.0	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は外傾し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 にふい褐色 普通	P117 80% 竈内
5	甕 土師器	A[22.1] B 27.7 C(10.0)	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母、にふい赤褐色、普通	P118 60% 竈内
6	置き 土師器	B(6.5)	体部破片。体部外面には縦位の突帯が付く。	体部外面ナデ。体部内面に輪積み痕を残す。	砂粒・石英・長石・雲母、明赤褐色 普通	P119 5% 覆土下層

第33号住居跡（第174図）

位置 調査3区の東部，M12c7区。

規模と平面形 長軸2.52m，短軸2.20mの長方形である。

主軸方向 N-35°-E

壁 壁高は17~21cmで，外傾して立ち上がる。壁溝はほぼ全周し，上幅13~22cm，下幅4~10cm，深さ3cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で，中心部が踏み固められている。

竈 北東壁中央に構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで64cm，壁外への掘り込みは30cmである。袖はほとんど残っていない。火床面は床面を3cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|---------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子中量，粘土粒子少量 | 4 暗褐色 焼土粒子少量，粘土粒子中量 |
| 2 暗赤褐色 焼土中ブロック中量，焼土粒子中量，粘土粒子少量 | 5 黒褐色 焼土粒子中量，粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子少量，炭化粒子中量 | |

ピット P1は長径69cm，短径59cmの楕円形で，深さ29cmある。底面は平坦，壁は外傾して立ち上がる。性格は不明である。

P1土層解説

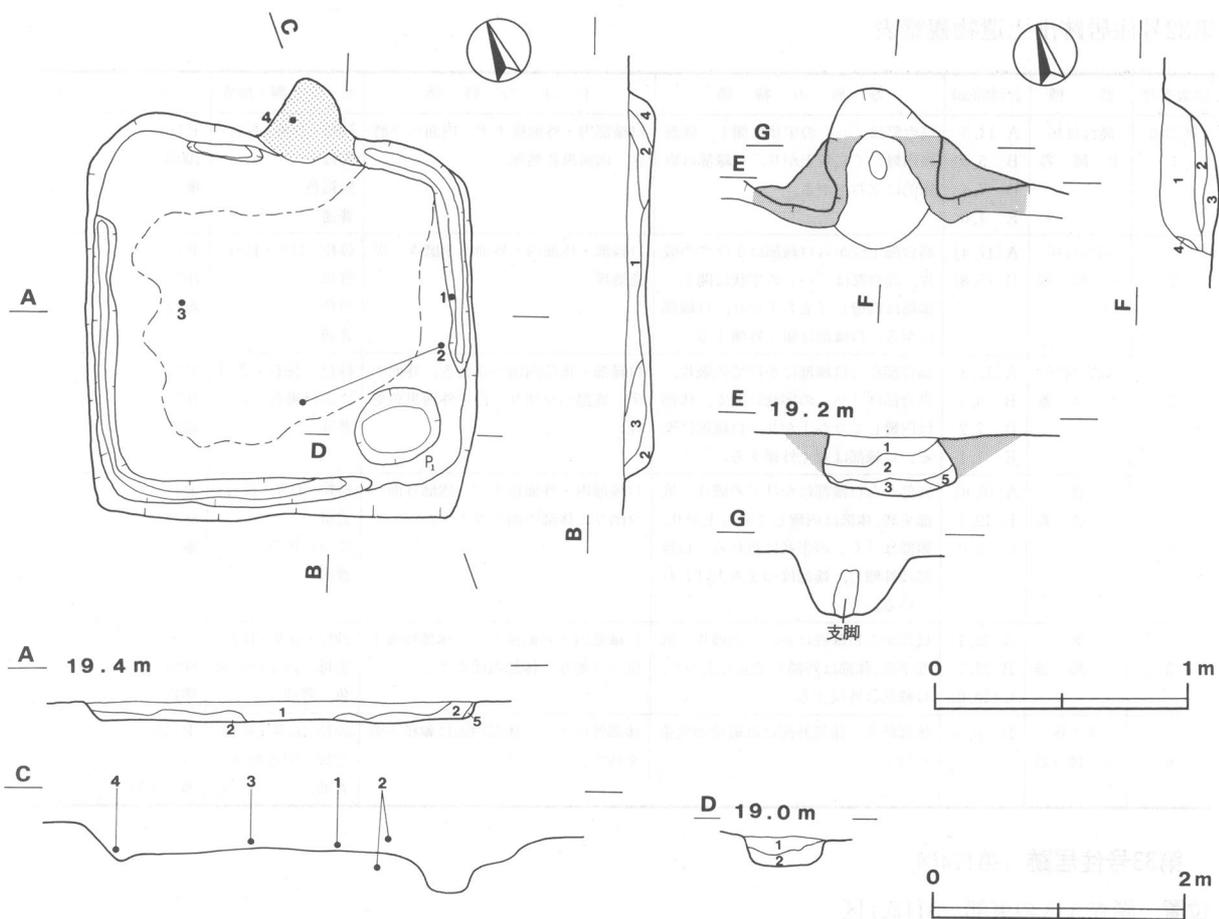
- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム小ブロック中量，焼土粒子微量 | 2 黒褐色 ローム小ブロック多量，焼土小ブロック少量 |
|-------------------------|----------------------------|

覆土 5層からなり，自然堆積である。

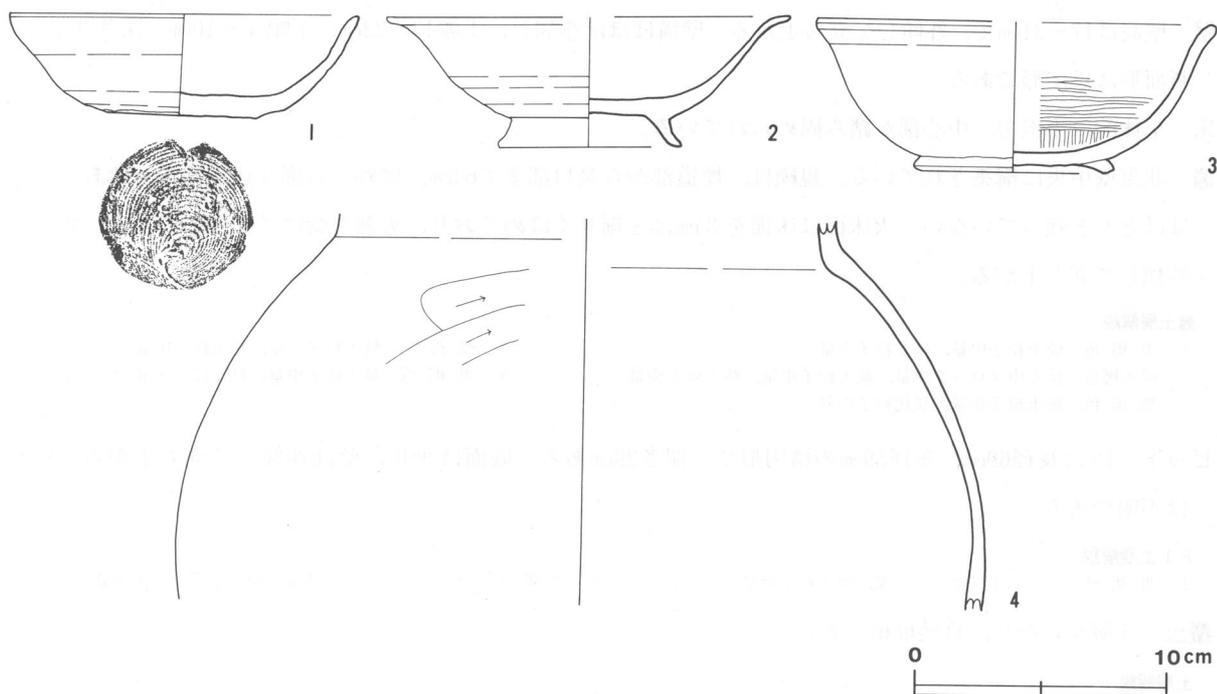
土層解説

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量，炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子微量，焼土粒子少量，粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム中ブロック微量，ローム粒子少量，焼土中ブロック中量 | 5 暗赤褐色 ローム粒子少量，焼土粒子中量 |
| 3 黒色 ローム小ブロック微量 | |

遺物 土師器片179点，須恵器片6点が出土している。1の土師器片が東壁下の壁溝から，2，3の土師器高台



第174图 第33号住居迹实测图



第175图 第33号住居迹出土遗物实测图

付坏が覆土下層から、4の土師器甕が竈内からそれぞれ出土している。

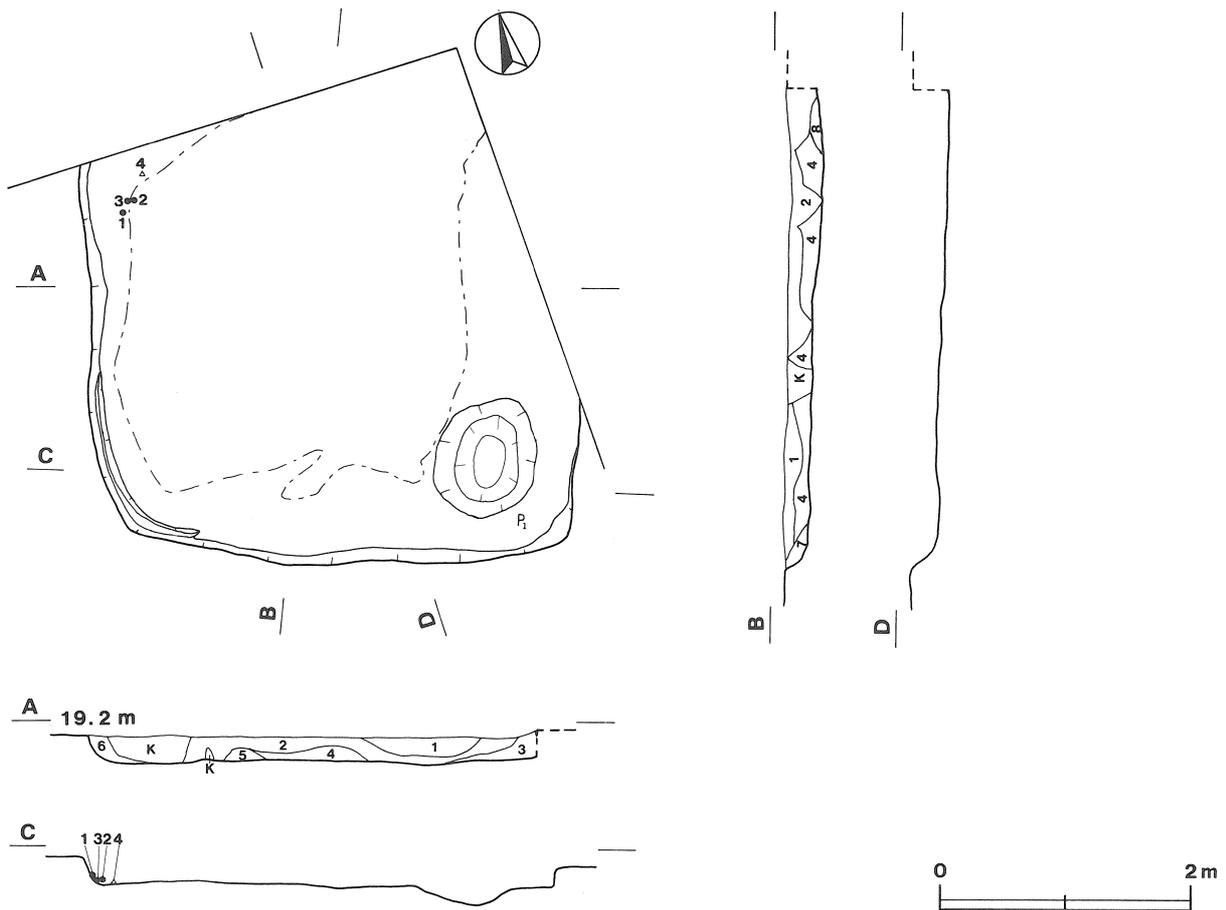
所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代と考えられる。

第33号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第175図 1	坏 土師器	A 13.8 B 3.9~ 4.3 C 6.0	底部から口縁部にかけての破片。底部は平底でやや突出している。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く外傾する。	口縁部内・外面ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア にふい赤褐色 普通	P120 70% 覆土下層
2	高台付坏 土師器	A [16.0] B 5.2 D 7.2 E 1.2	高台部から口縁部にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	坏部内・外面クロナデ。底部回転へら切り後ナデ。高台部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 橙色 普通	P121 60% 覆土下層
3	高台付坏 土師器	A [15.8] B 6.0 D 7.2	高台部から口縁部にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に短く開く。口縁部は短く外反する。	坏部外面ナデ。坏部内面へら磨き。高台部貼付。	砂粒・石英・雲母 にふい黄橙色 普通	P122 20% 覆土下層
4	甕 土師器	B (15.5)	体部上位の破片。体部上位は内彎して立ち上がる。	外面へら削り後ナデ。内面ナデ。	砂粒・石英・長石 にふい赤褐色 2次焼成	P504 10% 竈内

第34号住居跡 (第176図)

位置 調査3区の東端部, J12i2区。



第176図 第34号住居跡実測図

規模と平面形 本跡は北側と東側 3分の1が調査区域外へ延びているので、規模や平面形は明確ではないが、長軸(3.90)m、短軸3.70mで長方形と考えられる。

主軸方向 N-20°-E

壁 壁高は19~22cmで、外傾して立ち上がる。壁溝は南西コーナー下に確認され、上幅10~17cm、下幅2~6cm、深さ2cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット P1は長径100cm、短径82cmの楕円形、深さ12cmで、南東コーナー付近に掘り込まれている。底面は皿状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。覆土中にローム粒子、焼土ブロック、炭化粒子を中量含んでいる。性格は不明である。

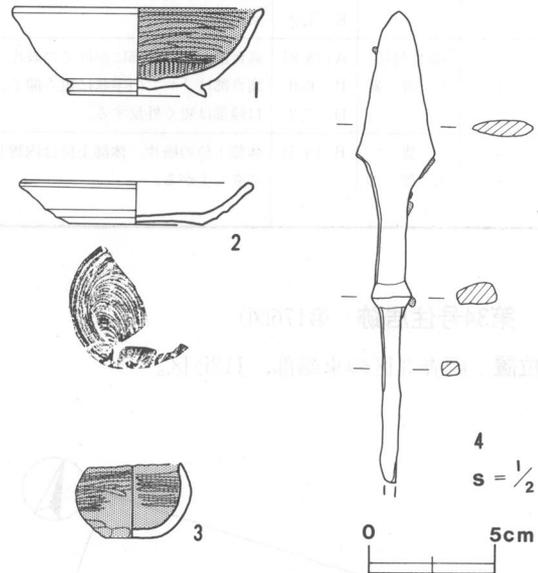
覆土 8層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック微量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック少量, 炭化物少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック微量, 炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック中量
- 6 褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量

遺物 土師器片137点、須恵器片5点、土師質土器1点、鉄製品1点が出土している。1の土師器高台付環、3のミニチュア土器、2の土師質土器の皿及び4の鉄鏃が西壁付近の床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、1、2が床面から出土していることから、平安時代と考えられる。



第177図 第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表

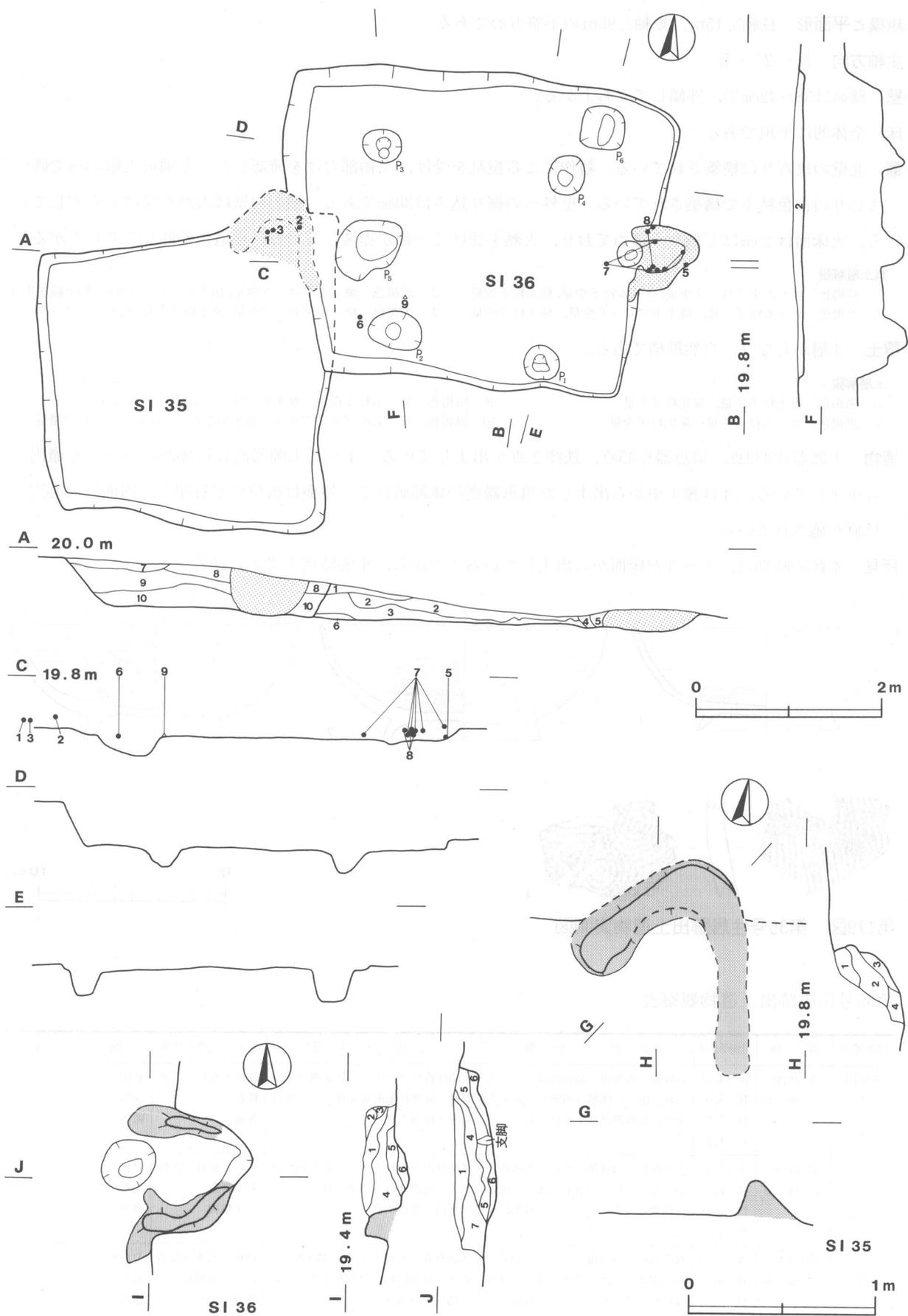
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第177図 1	高台付環 土師器	A 9.8	口縁部一部欠損。高台部は「ハ」の字状に短く開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	坏部外面ロクロナデ。坏部内面へラ磨き。底部回転へラ切り。高台部内・外面ナデ。内面黒色処理。	砂粒・石英・雲母にふい黄橙色 普通	P123 95% 床直
		B 3.5				
		D 5.4				
2	皿 土師質土器	A 8.8	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部外面ロクロナデ。体部内面ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・長石・雲母、橙色 普通	P125 50% 床直
		B 1.7				
		C 5.2				
3	ミニチュア 土師器	A 3.7	底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面へラ磨き。底部へラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・雲母 黒色 普通	P124 100% 床直
		B 2.9				
		C 2.3				

図版番号	種別	計測値				備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
第177図4	鉄鏃	(12.5)	2.0	0.6	(17.0)	M5 床直 90%

第35号住居跡 (第178図)

位置 調査3区の東部、K11b6区。

重複関係 本跡は第36号住居跡を掘り込んでいるので、本跡が新しい。



第178图 第35・36号住居跡実測図

規模と平面形 長軸3.15m, 短軸2.95mの不整形である。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は38~42cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦である。

竈 北壁の東寄りに構築されている。耕作による攪乱を受け, 左袖部だけを確認した。左袖最大幅32cmで砂粒まじりの白色粘土で構築されている。壁外への掘り込みは30cmである。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床面は2cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて一部が赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 粘土粒子少量 3 黒褐色 焼土小ブロック少量, 粘土小ブロック少量, 粘土粒子中量
2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 粘土粒子少量 4 黒褐色 焼土中ブロック少量, 焼土粒子中量, 粘土小ブロック少量

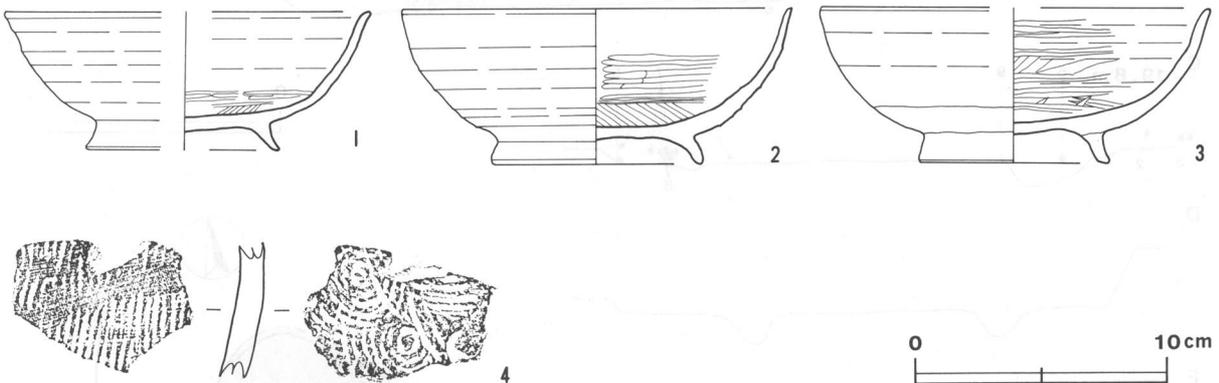
覆土 4層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- 7 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子少量 9 暗褐色 ローム粒子微量, 焼土小ブロック少量
8 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子少量 10 黒褐色 ローム小ブロック微量, 焼土小ブロック少量, 粘土粒子微量

遺物 土師器片339点, 須恵器片45点, 鉄滓2点が出土している。1~3土師器高台付坏が, いずれも竈内から出土している。4は覆土中から出土した須恵器甕の体部破片で, 外面は縦位の平行叩き, 内面は同心円当具痕が施されている。

所見 本跡の時期は, 1~3が床面から出土していることから, 平安時代と考えられる。



第179図 第35号住居跡出土遺物実測図

第35号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第179図 1	高台付坏 土師器	A [14.5] B 5.5 D 7.7 E 1.1	口縁部一部欠損。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は短く外反する。	坏部外面ロクロナデ。坏部内面ヘラ磨き。底部回転糸切り後ナデ。高台部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P126 80% 竈内
2	高台付坏 土師器	A 15.4 B 6.2 D 8.2 E 1.1	高台部から口縁部にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	坏部外面ロクロナデ。坏部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 2次焼成	P127 50% 竈内
3	高台付坏 土師器	A [15.4] B 6.2 D 7.5 E 1.3	高台部から口縁部にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	坏部外面ロクロナデ。坏部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石 にぶい黄褐色 普通	P128 40% 竈内

第36号住居跡（第178図）

位置 調査3区の東部，K11b7区。

重複関係 本跡は第35号住居跡に掘り込まれているので，本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.20m，短軸3.28mの長方形である。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は5～33cmで，外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈 東壁中央に砂粒まじりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで86cm，両袖最大幅68cm，壁外への掘り込みは49cmである。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて一部が赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土小ブロック少量，粘土粒子中量 | 5 黒褐色 焼土粒子少量，粘土粒子中量 |
| 2 黒褐色 焼土小ブロック微量，粘土粒子少量 | 6 黒褐色 焼土粒子微量，粘土粒子微量 |
| 3 黒色 焼土粒子少量，粘土小ブロック少量，粘土粒子少量 | 7 黒褐色 ローム小ブロック少量，粘土小ブロック中量，粘土粒子中量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子微量，焼土小ブロック少量，粘土粒子中量 | |

ピット 6か所（P1～P6）。P1からP4は長径37～55cm，短径34～40cmの円形及び楕円形，深さ25～29cmでいずれも支柱穴である。P5は長径47cm，短径45cm長方形，深さ38cmで，性格は不明である。P6は長径81cm，短径50cmの不整楕円形，深さ21cmで，位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層からなり，自然堆積である。

土層解説

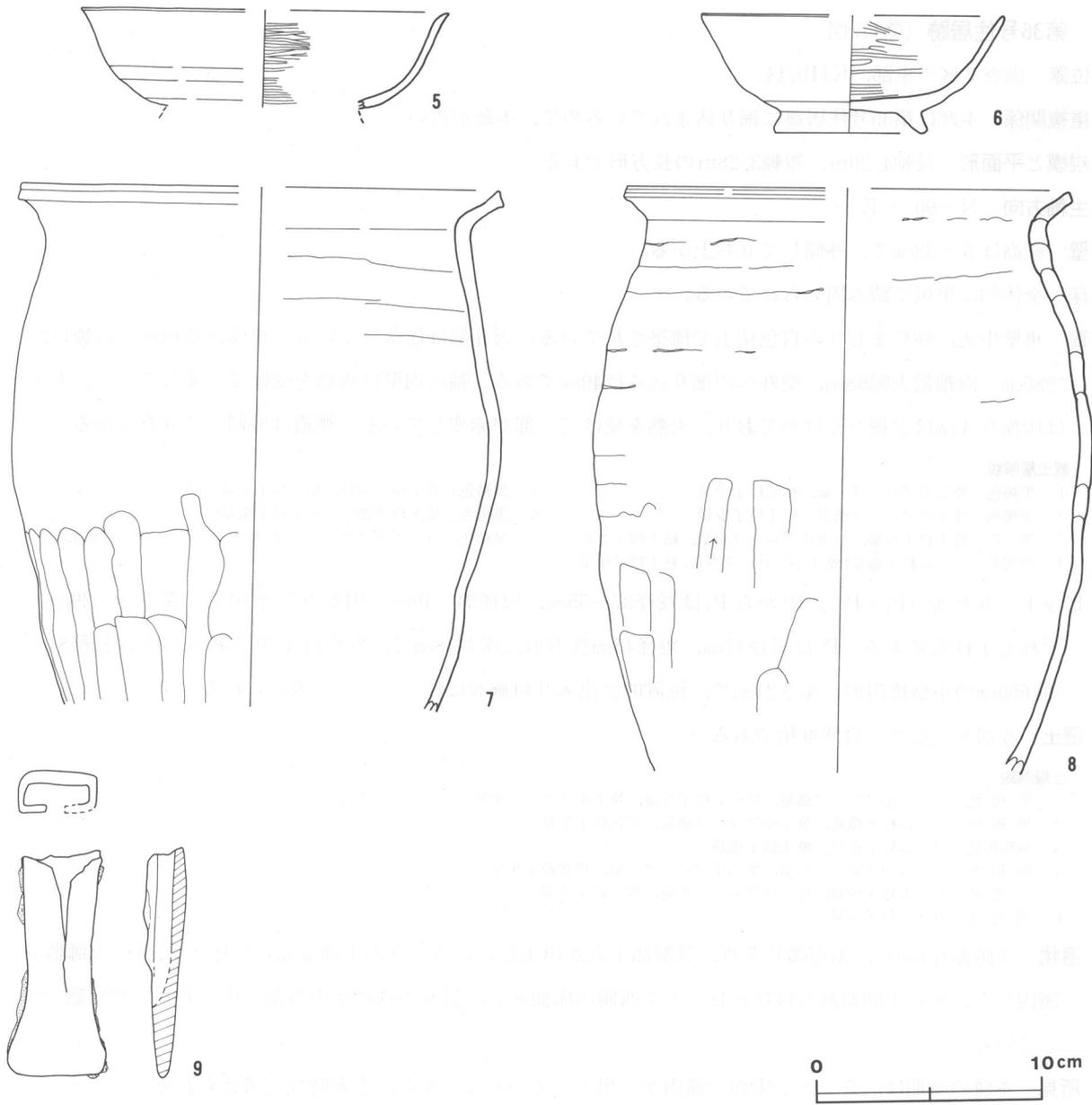
- 1 黒褐色 ローム小ブロック微量，ローム粒子少量，焼土小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量，焼土小ブロック微量，炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子微量，焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック少量，焼土小ブロック少量，炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量，焼土中ブロック少量，焼土粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片156点，須恵器片7点，鉄製品1点が出土している。5の土師器高台付坏と7，8の土師器甕が竈内から，6の土師器高台付坏がピット2西側の床面から，M6の鉄斧が南西部の床に刺さった状態で出土している。

所見 本跡の時期は，5～8が床面や竈内から出土していることから，平安時代と考えられる。

第36号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第180図 5	高台付坏 土師器	A [16.1] B (4.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	坏部外面ロクロナデ。坏部内面ヘラ磨き。	砂粒・石英・長石・雲母，黒褐色 普通	P129 30% 竈内
6	高台付坏 土師器	A [13.3] B 5.3 D 6.7 E 1.1	高台部から口縁部にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	坏部外面ロクロナデ。坏部内面ヘラ磨き。高台部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 にふい橙色 普通	P130 40% 床直
7	甕 土師器	A [21.1] B (23.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P131 50% 竈内
8	甕 土師器	A [19.6] B (25.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母，にふい褐色 普通	P132 40% 竈内



第180図 第36号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
第180図9	鉄斧	(10.2)	4.4	1.8	(158.5)	M6 床直 80%

第47号住居跡 (第46図)

位置 調査1区の北部, F13f8区。

重複関係 本跡は第46号住居跡を掘り込んでいることから, 本跡が新しい。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが, 残存する壁や床から長軸(3.94)m, 短軸(3.52)mの方形または長方形と考えられる。

主軸方向 N-105°-E

壁 壁高は10~18cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で、やや踏み固められている。

竈 東壁中央部構築されているが、耕作による攪乱を受け、袖の一部を残し、ほとんど残存していない。

ピット 6か所 (P1~P6)。P1, P3, P4, P5は径19~29cmの円形、深さ20~24cmで、いずれも支柱穴である。

P2は長径36cm, 短径29cmの楕円形、深さ17cmで、性格は不明である。P6は長径68cm, 短径52cmの楕円形、深さ32cmで、性格は不明である。

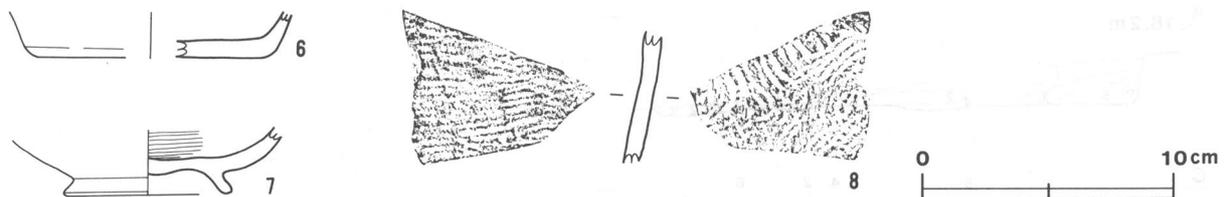
覆土 7層からなり、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 5 褐色 | ローム中ブロック多量, ローム粒子多量 |
| 2 極暗褐色 | ローム小ブロック微量, ローム粒子微量, 焼土粒子微量 | 6 極暗褐色 | ローム中ブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子中量 | 20 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量, 焼土粒子微量 | | |

遺物 土師器片412点, 須恵器片17点, 陶器片2点が出土している。7の土師器高台付坏が竈前方の床面から、6の須恵器坏が覆土中からそれぞれ出土している。8は覆土中から出土した須恵器片で、外面平行叩き、内面は同心円当具痕が施されている。

所見 本跡の時期は、7が床面から出土していることから、平安時代と考えられる。



第181図 第47号住居跡出土遺物実測図

第47号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第181図 6	坏 須恵器	B (1.8) C [9.0]	底部から体部下位にかけての破片。 底部平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転 ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 灰黄色 普通	P 506 20% 覆土下層
7	高台付坏 土師器	B (2.3) D 6.6 E 0.7	高台部から体部下位にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。 体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ナデ。体部内面ヘラ磨き。 底部回転ヘラ切り後ナデ。高台部内 ・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 にふい赤褐色 普通	P 164 30% 床直

第63号住居跡 (第182図)

位置 調査1区の中央部, G13g9区。

規模と平面形 長軸3.93m, 短軸3.73mの方形である。

主軸方向 N-16°-E

壁 壁高は15cmほどで、外傾して立ち上がる。

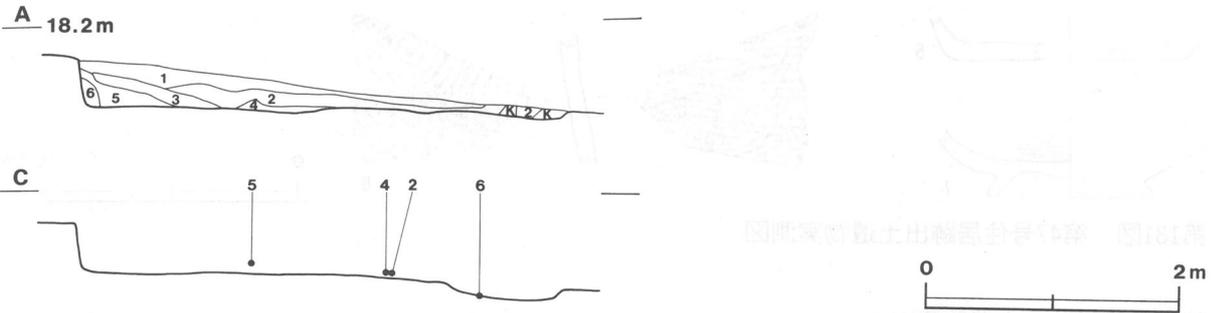
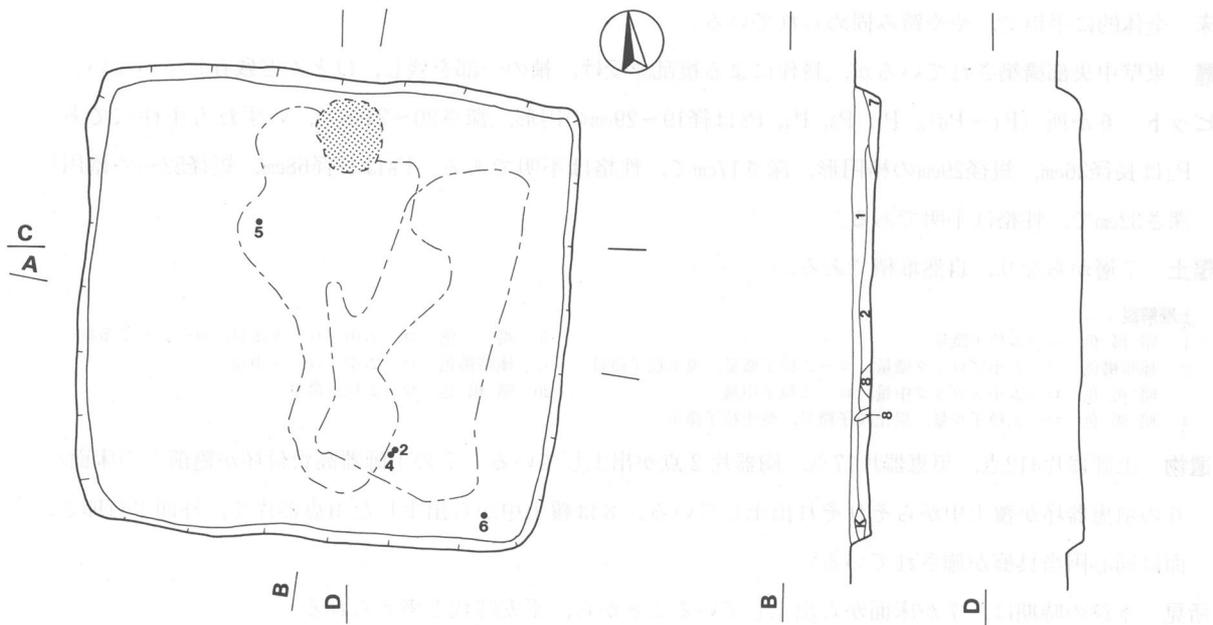
床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈 ほとんど残存しておらず、掘り方だけを確認した。火床部は火熱を受けて赤変している。

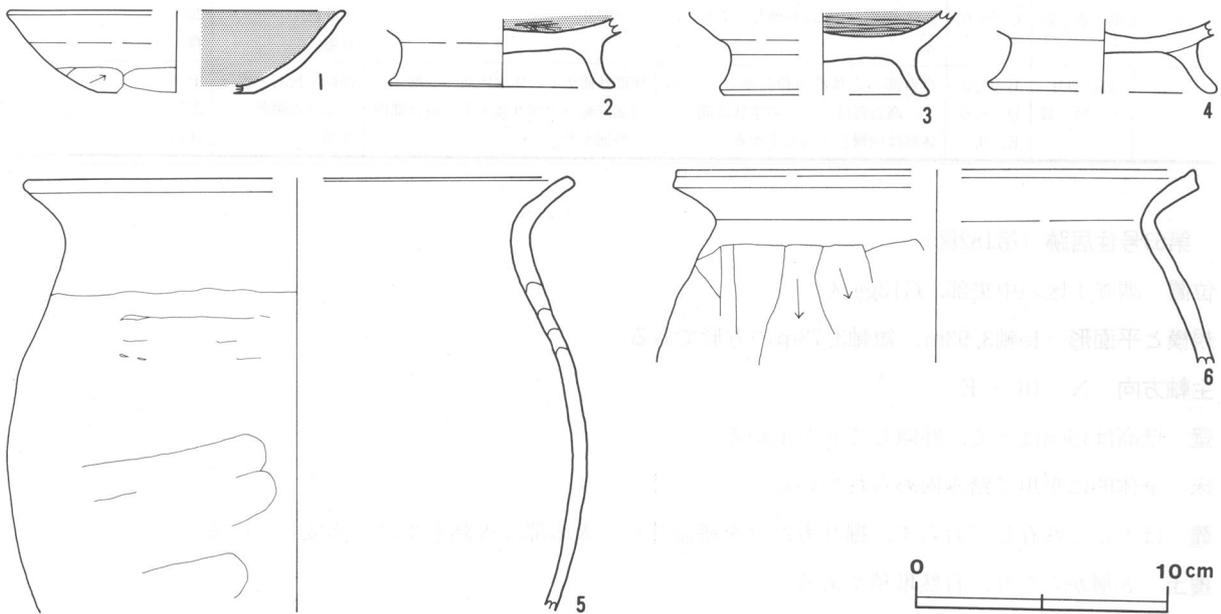
覆土 8層からなり、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子微量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量, 焼土粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子少量 | 7 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子中量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |



第182图 第63号住居跡実測図



第183图 第63号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片370点, 須恵器片57点, 鉄滓2点が出土している。1の土師器坏は覆土中から, 5の土師器甕は中央部北寄りの覆土下層から, 2, 3の土師器高台付坏は中央部南寄りの覆土下層から, 4の土師器高台付坏は中央部覆土下層から, 6の土師器甕は南東コーナー付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から, 平安時代と考えられる。

第63号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第183図 1	坏 土師器	A [13.2] B 3.3 C [6.2]	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部外面ナデ。体部中位から下位にかけて外面へラ削り。内面黒色処理。底部へラ削り。	砂粒・石英・長石にふい橙色普通	P 509 20% 覆土中
2	高台付坏 土師器	B (2.2) D [9.0] E 1.7	高台部破片。高台部は「ハ」の字状に開く。	体部内面へラ磨き。内面黒色処理。高台部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P 234 10% 覆土下層
3	高台付坏 土師器	B (3.3) D [8.1] E 1.5	高台部から体部下位にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。内面へラ磨き。黒色処理。高台部内・外面ナデ。	砂粒・雲母 にふい橙色 普通	P 507 40% 覆土下層
4	高台付坏 土師器	B (2.4) D [8.6] E 2.1	高台部から体部下位にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。	高台部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石 にふい黄橙色 普通	P 508 30% 覆土下層
5	甕 土師器	A [21.4] B (17.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。体部内面ナデ。	砂粒・長石 にふい褐色 普通	P 235 20% 覆土下層
6	甕 土師器	A [20.4] B (7.7)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外反し, 端部は短くつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・長石 にふい褐色 普通	P 510 10% 覆土中層

第85号住居跡 (第184図)

位置 調査1区の南部, H13f5区。

規模と平面形 本跡の西側3分の1が調査区域外へ延びているので規模や平面形は明確ではないが, 残存する壁や床から長軸3.30m, 短軸(3.04)mで, 方形または長方形と考えられる。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は10~20cmで, 外傾して立ち上がる。壁溝は, 北壁下と南壁下に確認され, 上幅12~25cm, 下幅4~13cm, 深さ4~8cmで, 断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で, 竈から中央部にかけて踏み固められている。

竈 東壁中央部よりやや南寄りに構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚口部まで62cm, 両袖最大幅76cm, 壁外への掘り込みは45cmである。袖部の内壁は火熱を受けて赤変している。火床部は床面を11cmほど掘りくぼめており火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

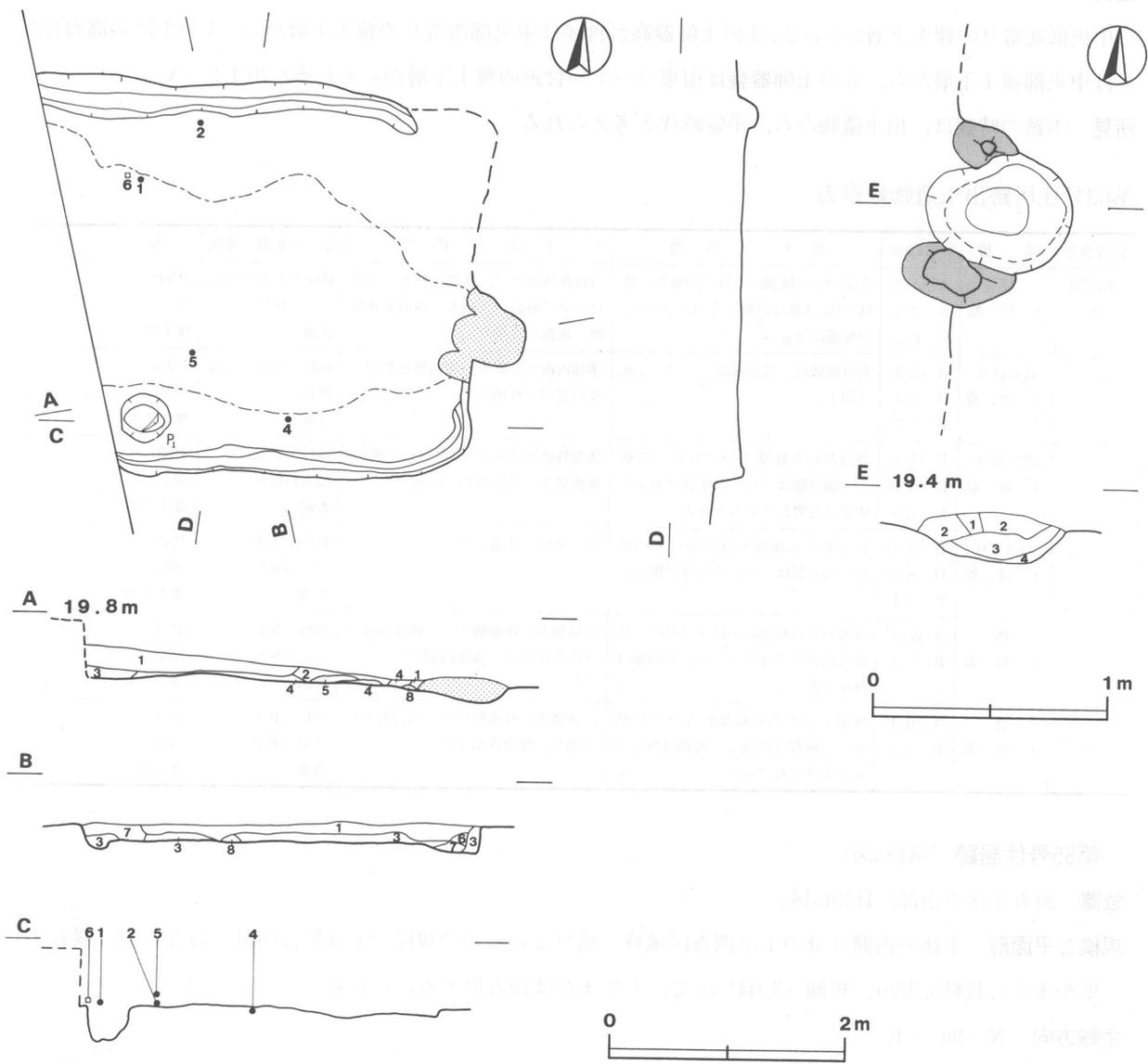
- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 粘土粒子少量 3 赤褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子多量, 炭化粒子少量
2 暗赤褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量 4 赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量

ピット P1は径40cmの円形, 深さ31cmで, 支柱穴と考えられる。床面を丁寧に精査したが, 他にピットを確認することはできなかった。

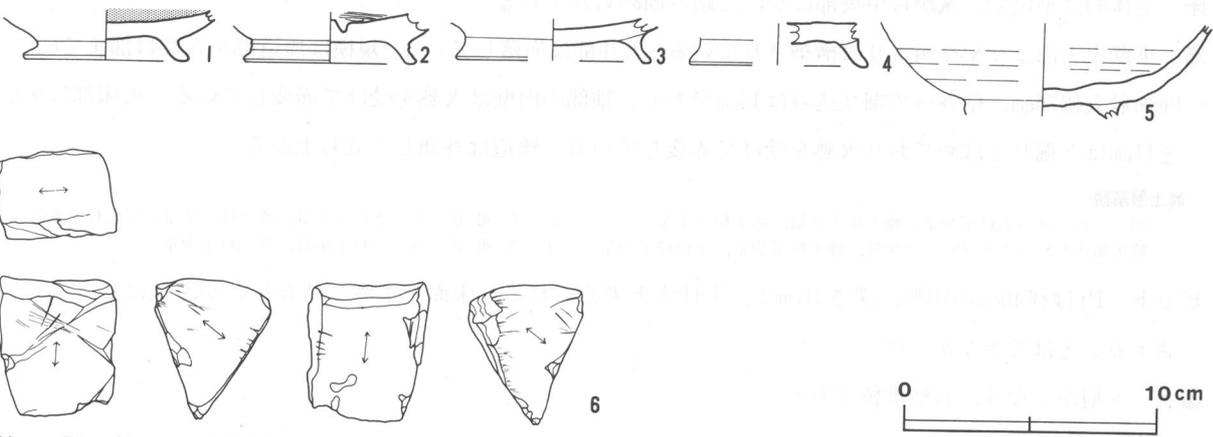
覆土 8層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子少量 5 褐色 ローム粒子中量
2 暗褐色 ローム小ブロック多量, 焼土粒子中量, 炭化物微量 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量
3 褐色 ローム粒子多量 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
4 暗褐色 ローム粒子中量 8 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子多量



第184图 第85号住居跡実測图



第185图 第85号住居跡出土遺物実測图

遺物 土師器片176点, 須恵器片18点, 石製品1点が出土している。5の土師器高台付坏は中央部覆土下層から, 1, 2, 4の土師器高台付坏は床面から, 6の砥石は中央部やや西寄りの床面から, 3の土師器高台付坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から平安時代と考えられる。

第85号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第185図 1	高台付坏 土師器	B (1.7) D 6.3 E 0.7	高台部から体部下端にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部下端は外傾して立ち上がる。	体部外面ナデ。体部内面へラ磨き。内面黒色処理。高台部内・外面ナデ。	砂粒・石英・雲母にふい黄褐色 普通	P312 10% 床直
2	高台付坏 土師器	B (1.4) D 6.8 E 0.9	高台部から体部下端にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部下端は外傾して立ち上がる。	体部外面ナデ。体部内面へラ磨き。内面黒色処理。底部回転へラ切り後ナデ。高台部内・外面ナデ。	砂粒・長石 橙色 普通	P313 10% 床直
3	高台付坏 土師器	B (1.2) D [7.6] E 1.0	高台部破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部内面へラ磨き。高台部内・外面ナデ。	体部内面へラ磨き。高台部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母, 明赤褐色 普通	P566 30% 覆土中
4	高台付坏 土師器	D [7.0] E (1.1)	高台部破片。高台部は「ハ」の字状に開く。	体部内面へラ磨き。内面黒色処理。高台部内・外面ナデ。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P567 10% 床直
5	高台付坏 土師器	B (3.7) E (0.5)	高台部から体部下位にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面クロナデ。底部回転へラ切り後ナデ。	砂粒・石英・長石にふい橙色 普通	P565 30% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第185図6	砥石	(5.6)	(4.7)	3.6	(133.5)	凝灰岩	覆土下層	Q19

第91号住居跡 (第186図)

位置 2区西部, L11e9区。

規模と平面形 長軸4.64m, 短軸4.0mの長方形である。

主軸方向 N-100°-E

壁 壁高は4~25cmで, 外傾して立ち上がる。南東部の壁は攪乱により, 残存していない。

壁溝 幅4~14cm, 深さ3~5cmで, 断面形はU字形である。南東部壁は攪乱されているため不明であるが, 北東部を除き, 壁下を回っていると推定できる。

床 平坦で, 全体的に踏み固められている。中央部の南側から長径70cm, 短径33cmの長楕円形で焼土が, 長径45cm, 短径25cmの楕円形で炭化材が確認されている。

竈 南東部コーナーに焼土と粘土があり, 竈があったと考えられるが, 攪乱により残存しておらず, 範囲も不明である。

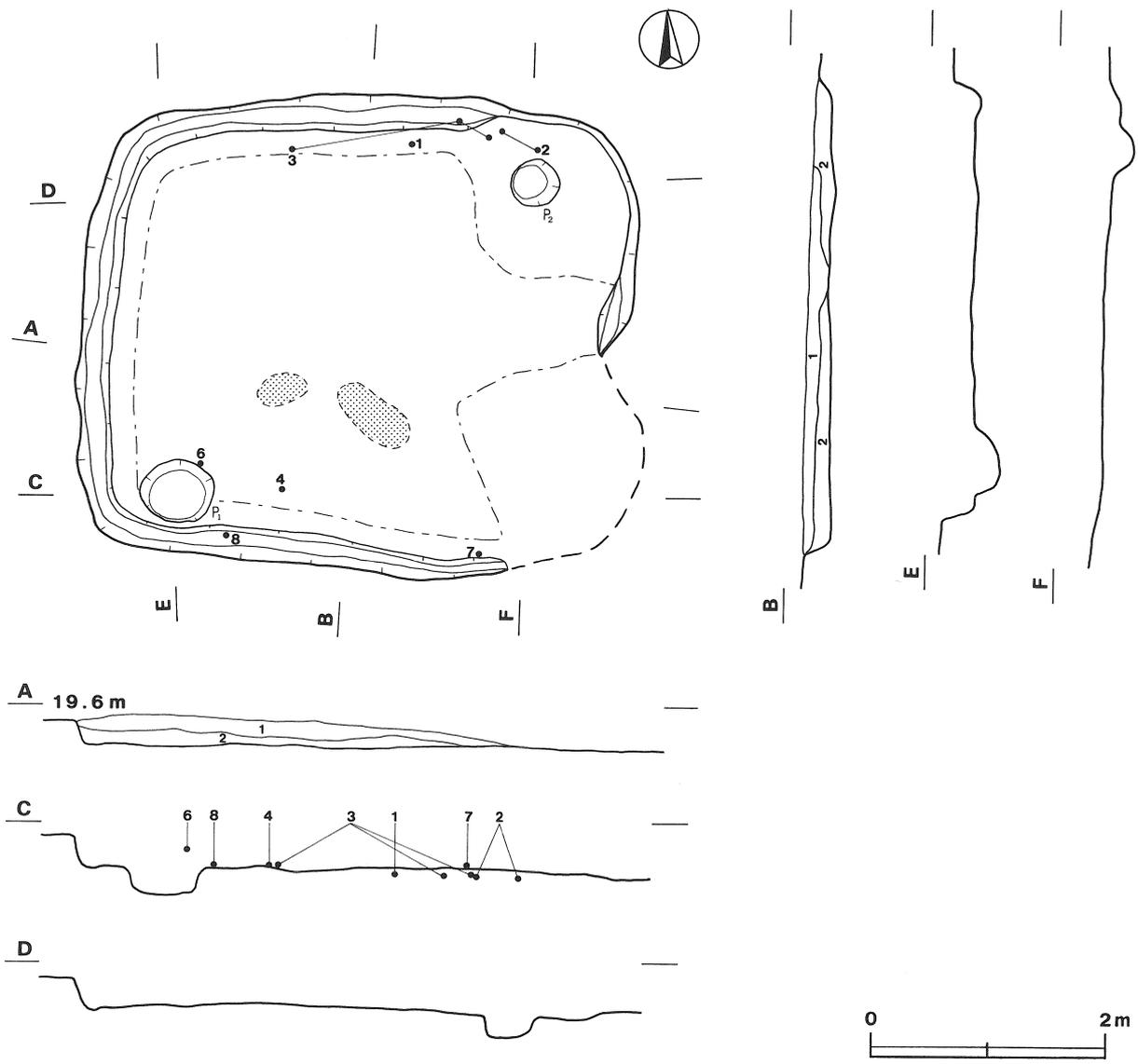
ピット 2か所。P1, P2は径40~60cmの円形で, 深さ18~23cmである。位置から支柱穴と考えられる。

覆土 2層からなり, 自然堆積である。

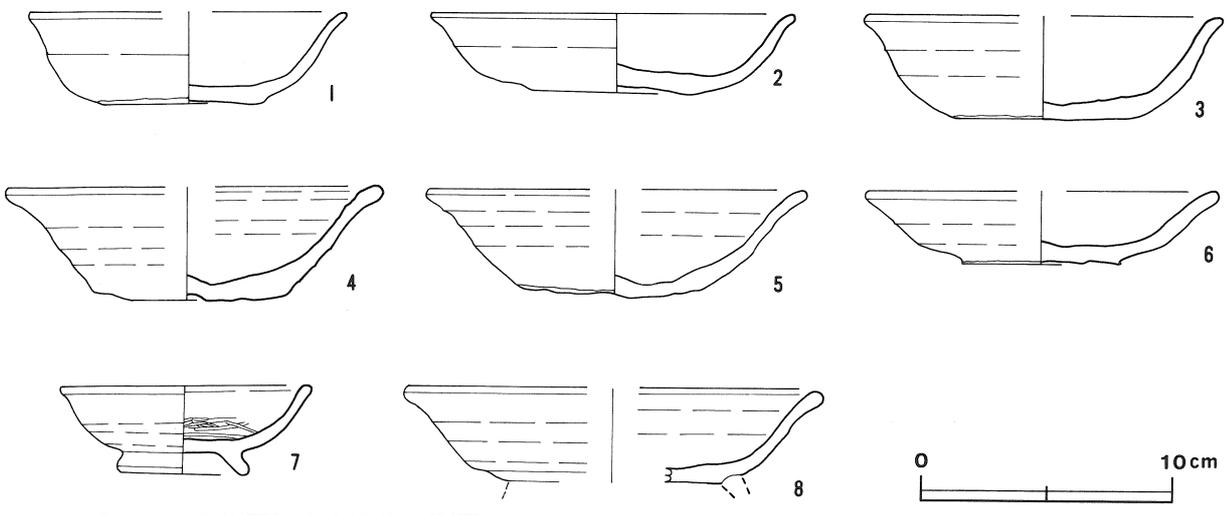
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 2 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック・ローム大ブロック微量

遺物 土師器片531点, 須恵器片4点出土している。7の土師器の高台付坏が南壁近くの覆土中から, 6の土師器坏がピット1付近の覆土中層から, 2, 3の土師器の坏が北壁近くの床面直上から, 1の土師器の坏が北



第186图 第91号住居跡実測図



第187图 第91号住居跡出土遺物実測図

壁近くの床面直上から、4の土師器坏が南壁近くの床面から、8の土師器高台付坏が南壁際からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代と考えられる。

第91号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第187図 1	坏 土師器	A [12.6] B 3.6 C 5.1	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面下に四重の沈線。底部回転糸切り。	雲母・砂粒・スコリア、にぶい黄橙色、普通	P330 70% 床直
2	坏 土師器	A 14.4 B 3.2 C 6.9	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	石英・長石・砂粒にぶい橙色普通	P331 60% 床直
3	坏 土師器	A [14.2] B 4.1 C 6.6	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部から体部にかけて内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り後ナデ。	砂粒・長石にぶい橙色普通	P581 40%
4	坏 土師器	A [14.2] B 4.6 C 7.8	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部から体部にかけて内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・スコリア、明赤褐色普通	P582 50% 覆土中
5	坏 土師器	A [14.8] B 4.3 C 7.6	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部から体部にかけて内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・スコリア、にぶい橙色普通	P583 40% 覆土中
6	坏 土師器	A [14.0] B (2.9) C [6.2]	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部から体部にかけて内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り後ナデ。	砂粒・石英・長石にぶい橙色普通	P585 30% 覆土中
7	高台付坏 土師器	A 9.9 B 3.7 D 4.9 E 0.9	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。	砂粒・石英・長石 灰褐色 普通	P332 100% 覆土中
8	高台付坏 土師器	A [16.6] B (3.7) D [8.2]	坏部破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部から体部にかけて内・外面ロクロナデ。	砂粒・スコリアにぶい赤褐色普通	P584 20% 南壁際

第92号住居跡（第188図）

位置 2区西部中央，M11a0区。

重複関係 第68号土坑，第74号土坑が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.94m，短軸3.45mの長方形である。

主軸方向 N-80°-E

壁 壁高は4～8cmで，緩やかに傾斜して立ち上がる。西側中央部の壁は，攪乱によって残存していない。

壁溝 上幅12～28cm，深さ1～6cmで，断面形はU字形である。西側中央部と南側西寄りの壁下を除き，確認されている。

床 平坦で，全体的に踏み固められている。

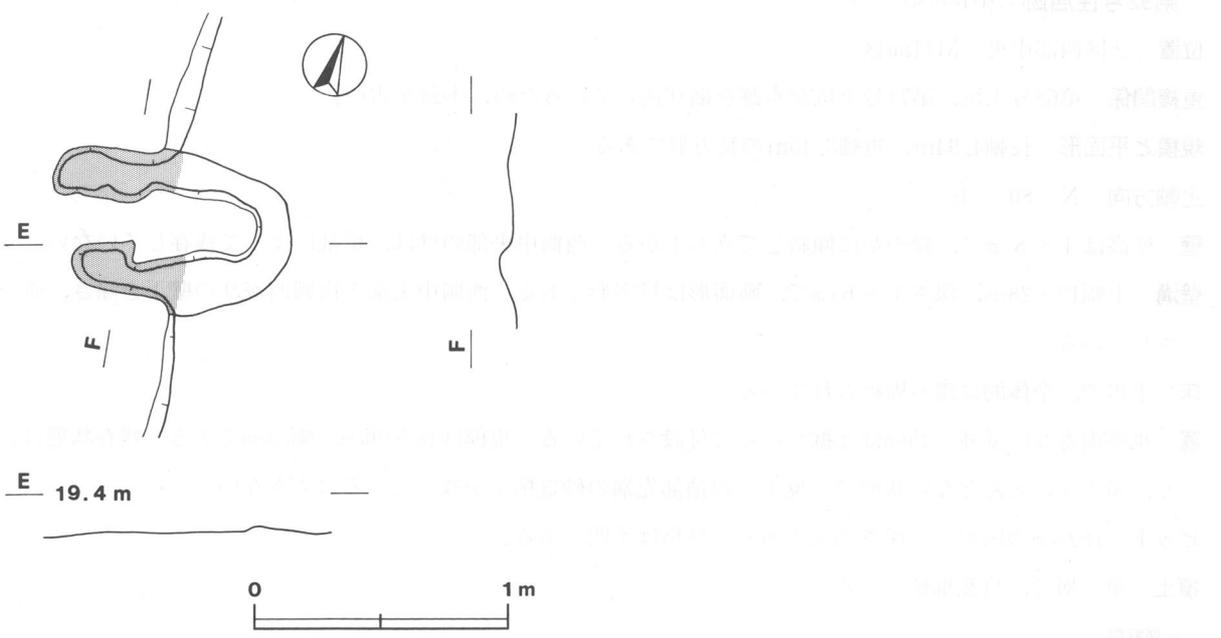
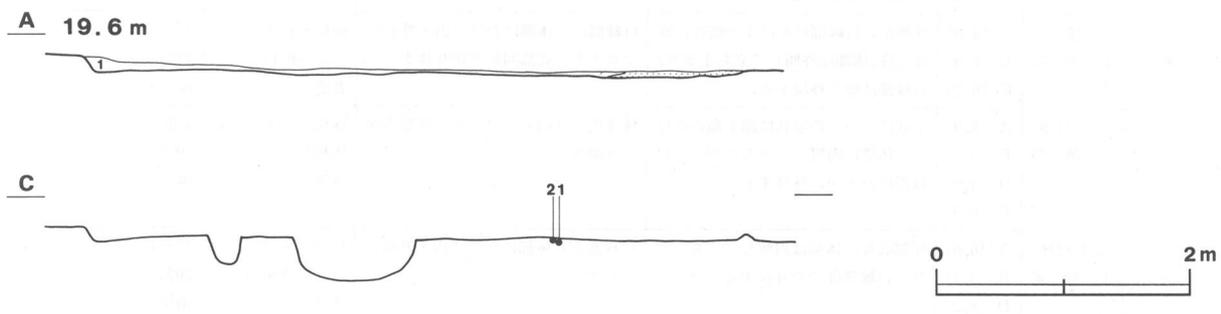
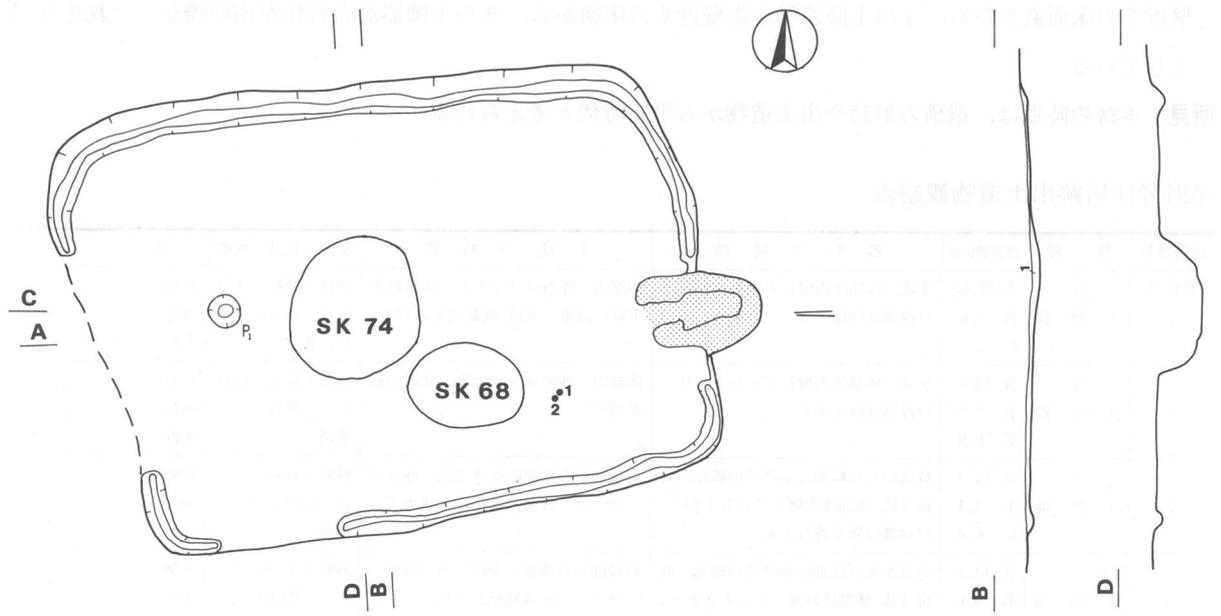
竈 東壁南寄りに壁外へ45cmほど掘り込んで付設されている。規模は長さ96cm，幅55cmである。残存状態は悪く，覆土がほとんどない状態で，焼土と両袖部先端の砂質粘土が残っているにすぎない。

ピット 径25cmの円形で，深さ23cmである。性格は不明である。

覆土 単一層で，自然堆積である。

土層解説

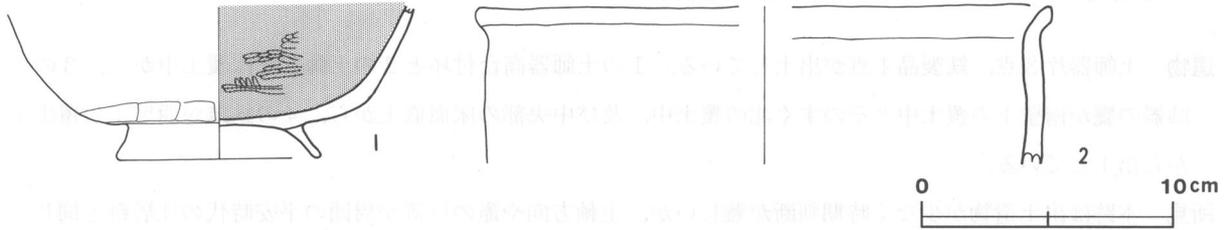
1 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量・炭化粒子微量



第188图 第92号住居跡実測图

遺物 土師器片92点，須恵器片29点が出土している。1の土師器の高台付杯と2の土師器甕が南東部床面直上から出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から平安時代と思われる。



第189図 第92号住居跡出土遺物実測図

第92号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第189図 1	高台付杯 土師器	B (5.9) D 7.9 E 1.3	口縁部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面へラ磨き。体部外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。内面黒色処理。	砂粒・長石・石英 灰褐色 普通	P 333 40% 床直
2	甕 土師器	A [22.6] B (6.3)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は直立して立ち上がり，口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石 にふい赤褐色 普通	P 586 5% 床直

第93号住居跡 (第190図)

位置 調査2区西部，L11j9区。

重複関係 第18号土壇，第30号土坑と重複する。第18号土壇，第30号土坑が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.24m，短軸2.50mの長方形である。

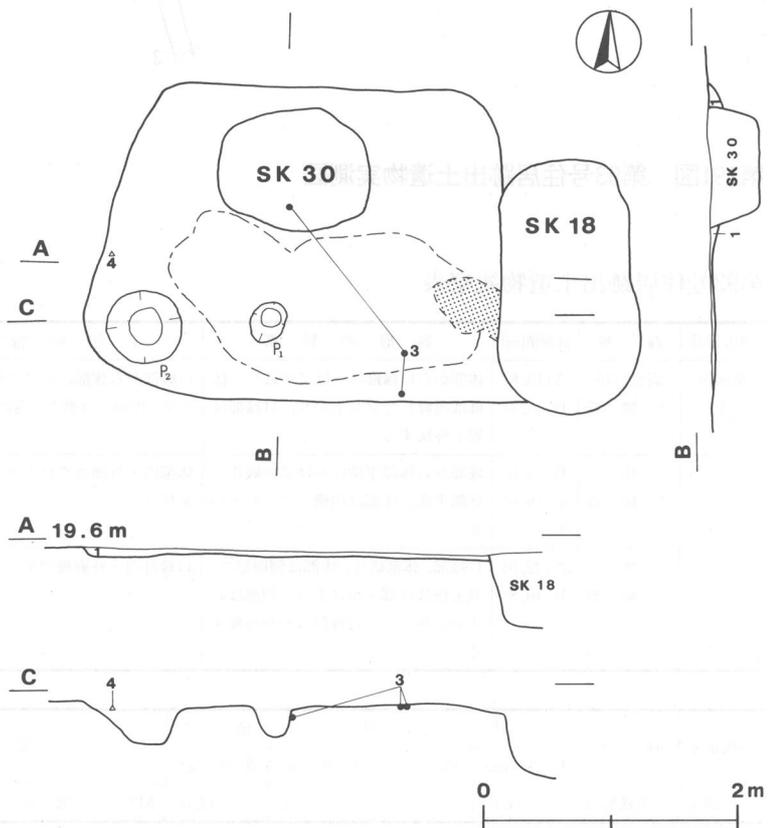
主軸方向 N-93°-E

壁 壁高は2～6cmで，緩斜して立ち上がる。東壁の一部が第18号土壇によって掘り込まれており，残存していない。

床 平坦で，南側がよく踏み固められている。

竈 南東部の床に焼土があり，東壁南側に竈があったと推定できるが，第18号土壇に掘り込まれており，残存していない。

ピット 2か所 (P1, P2)。P1は長径



第190図 第93号住居跡実測図

34cmの楕円形で、深さ22cmである。性格は不明である。P₂は径30cmの円形で、深さ28cmである。位置から主柱穴と考えられる。

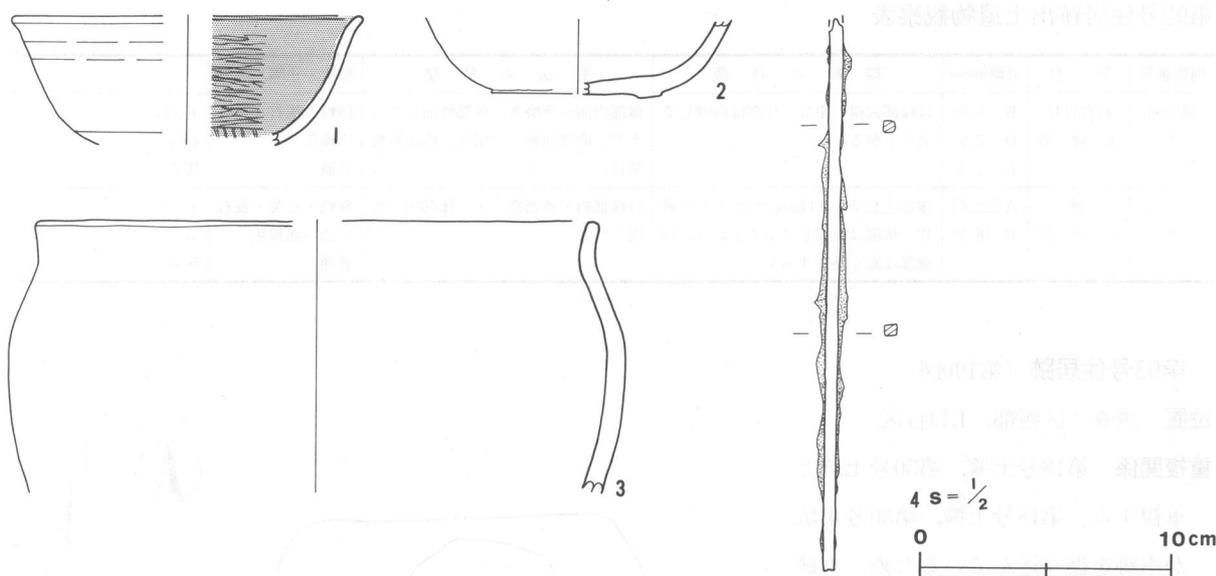
覆土 単一層で、自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片3点、鉄製品1点が出土している。1の土師器高台付坏と2の土師器坏は覆土中から、3の土師器の甕が南壁下の覆土中とそのすぐ北の覆土中、及び中央部の床面直上から、4の鉄鏃が西壁下の覆土中から出土している。

所見 本跡は出土遺物が少なく時期判断が難しいが、主軸方向や竈の位置が周囲の平安時代の住居跡と同じであることから、平安時代の遺構と思われる。



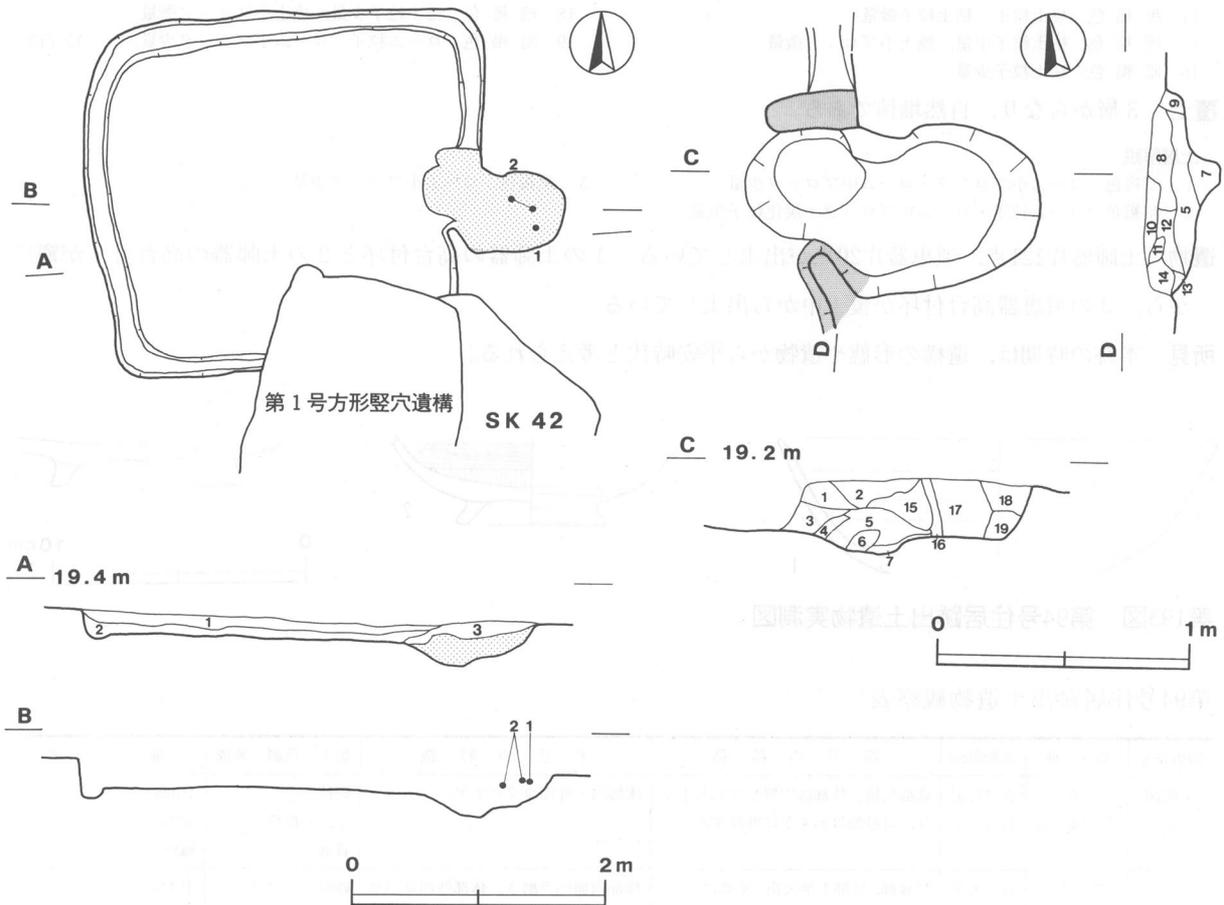
第191図 第93号住居跡出土遺物実測図

第93号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第191図 1	高台付坏 土師器	A [13.8] B (5.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部から体部にかけて外面ロクロナデ。内面へら磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア、にぶい褐色 普通	P 587 5% 覆土中
2	坏 土師器	B (3.0) C [6.8]	底部から体部下位にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P 588 5% 覆土中
3	甕 土師器	A [22.0] B (10.8)	口縁部、体部破片。体部は倒卵形で、最大径は体部上位にある。頸部はわずかに外反し、口縁部はやや外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母・石英 暗褐色 普通	P 334 10% 床直 覆土中

図版番号	種別	計測値				備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
第191図 4	不明鉄製品	(14.6)	0.3	0.3	14.0	M27 覆土中

第94号住居跡 (第192図)



第192図 第94号住居跡実測図

位置 調査2区西部, L12i₂区。

重複関係 第1号方形竪穴状遺構, 第42号土坑が本跡を掘り込んでいるため, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.15m, 短軸2.85mの長方形。

主軸方向 N-88°-E

壁 壁高は15~22cmで, 外傾して立ち上がる。南壁の一部と南東コーナー部が第1号方形竪穴遺構に掘り込まれており, 残存していない。北東コーナー部の上層から中層にかけて焼土が確認された。

壁溝 幅6~16cm, 深さ6~12cmで, 断面形はU字形である。北壁下と西壁下, 東壁下北部と南壁下西部で確認されている。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。北部中央で焼土と粘土が確認されている。

竈 東壁中央部に壁外へ72cmほど掘り込み, 付設されている。規模は, 長さ117cm, 幅67cmである。北側の袖が一部残存しており, 砂混じりの灰色粘土で構築されている。火床は6cmほど掘りくぼめられ, 楕円形に作られている。煙道は火床部から45cmほどの位置で傾斜して立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| 1 灰褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック微量 |
| 2 極暗褐色 粘土粒子・ローム粒子微量 | 8 灰褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子微量 | 9 褐色 ローム粒子多量 |
| 4 暗赤褐色 焼土粒子中量 | 10 黒褐色 ローム小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 11 灰褐色 粘土粒子多量 |
| 6 灰褐色 粘土粒子少量 | 12 黒褐色 ローム小ブロック・粘土小ブロック微量 |

竈土層解説

- 13 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 14 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子微量
- 15 灰褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック微量
- 16 暗褐色 粘土粒子少量
- 17 灰褐色 粘土粒子多量, 粘土小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 18 暗褐色 粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 19 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量

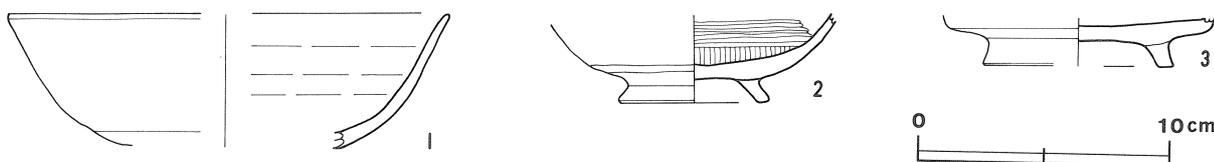
覆土 3層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量

遺物 土師器片121点, 須恵器片20点が出土している。1の土師器の高台付坏と2の土師器の高台付坏が竈内から, 3の須恵器高台付坏が覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や遺物から平安時代と考えられる。



第193図 第94号住居跡出土遺物実測図

第94号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第193図 1	坏 土師器	A [17.3] B (5.3)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P335 30% 竈内
2	高台付坏 土師器	B (3.5) D [5.8] E 0.9	口縁部, 体部上半欠損。平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面へラ磨き。体部外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	P336 20% 竈内
3	高台付坏 須恵器	B (1.9) D [3.8] E 1.1	高台部破片。高台部は「ハ」の字状に開く。	高台部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石 灰色 普通	P589 10% 覆土中

第95号住居跡 (第194図)

位置 調査2区西部, L11g9区。

重複関係 第111号住居跡の上に本跡があるため, 本跡が新しい。

規模と平面形 本跡の大半が調査区域外であるため, 規模, 平面形とも不明であるが, 調査区内では長軸 (3.22)m, 短軸 (2.00)mと確認されている。

主軸方向 本跡の大半が調査区域外であるため, 不明である。

壁 壁高は5~18cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で, あまり踏み固められていない。

覆土 3層からなり, 自然堆積である。

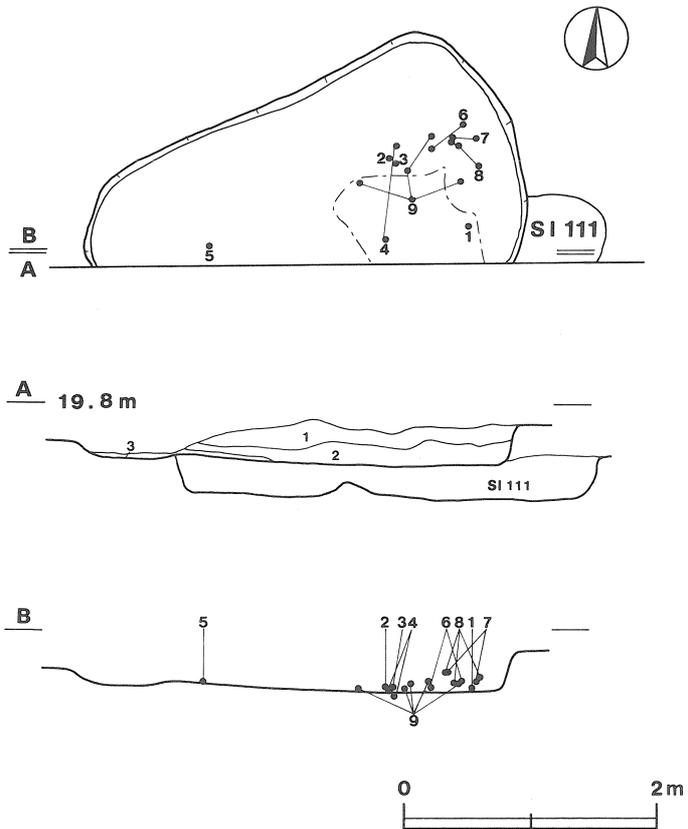
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

遺物 土師器片176点, 須恵器片28点, 鉄滓2点が出土している。1の土師器の高台付坏が西側の床面直上から正位で, 9の円筒状の土師器が中央部の床面直上から, 2と3の土師器の高台付坏がすぐ南西の床面直上から正位で, さらに6の土師器の鉢と7の土師器甕と8の土師器の甕がその南西の床面直上から, 4の土師

器の高台付坏と5の土師器の高台付坏が中央部の床面直上から正位で、それぞれ出土している。

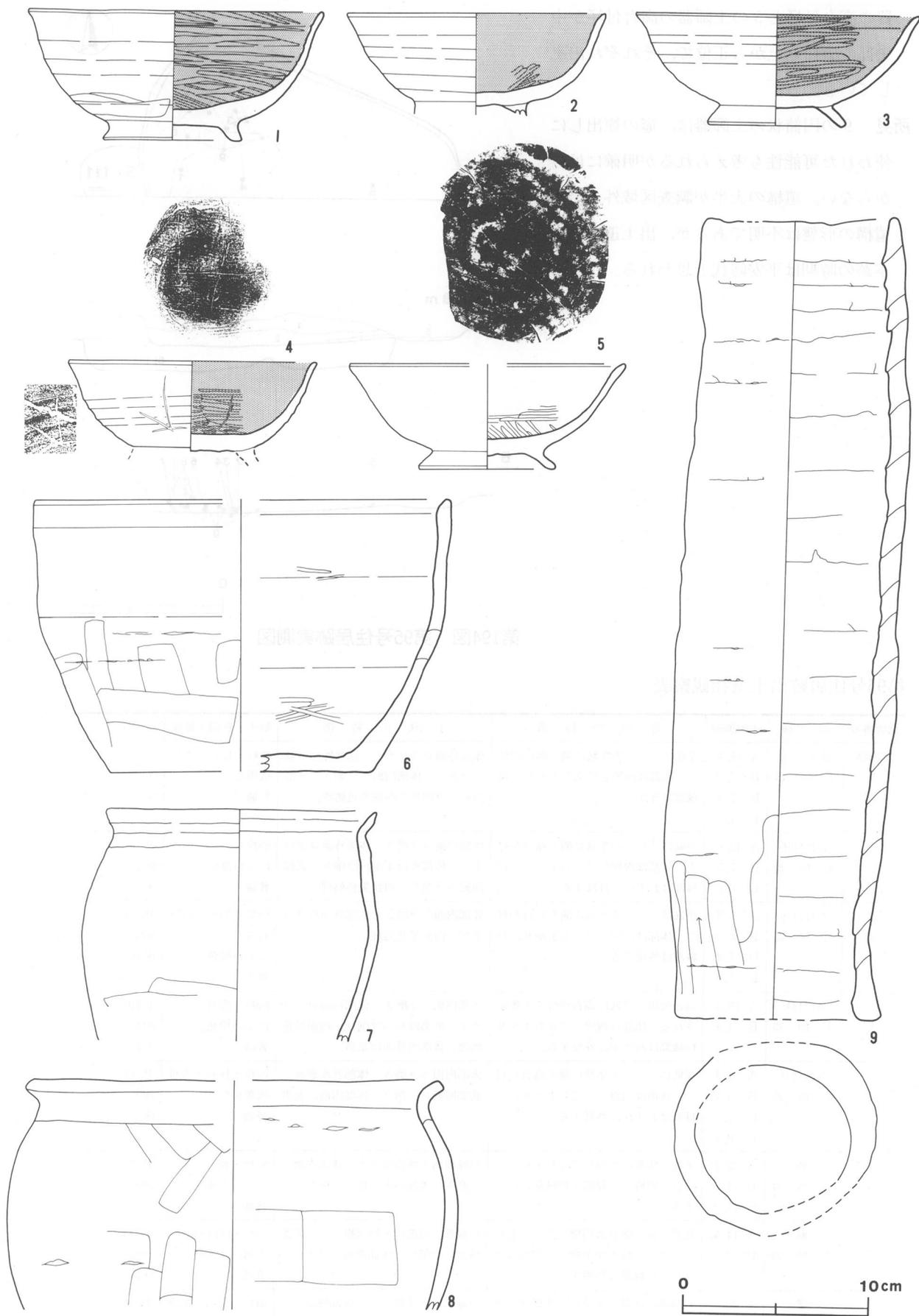
所見 9の円筒状の土師器は、竈の煙出しに使われた可能性も考えられるが明確には分からない。遺構の大半が調査区域外のため遺構の形態は不明であるが、出土遺物から本跡の時期は平安時代と思われる。



第194図 第95号住居跡実測図

第95号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第195図 1	高台付坏 土師器	A 15.9 B 7.0 D 7.4 E 1.1	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面ロクロナデ。体部外面下端へラ削り。体部内面へラ磨き。底部回転へラ削り。内面黒色処理。	砂粒・長石・雲母 灰褐色 普通	P 337 80% 床直
2	高台付坏 土師器	A 13.8 B (5.5) E (0.6)	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き。体部外面ロクロナデ。体部外面下端へラ削り。底部回転へラ削り。内面黒色処理。	砂粒 にふい橙色 普通	P 338 80% 床直
3	高台付坏 土師器	A 15.3 B 6.0 D 7.4 E 1.0	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部内面へラ磨き。体部外面ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 にふい橙色 普通	P 339 70% 床直
4	高台付坏 土師器	A 13.3 B (4.8)	高台欠損。平底に高台が付くと推定される。体部は内彎して立ち上がり口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き。体部外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。内面黒色処理。体部内外面に刻書。	砂粒・雲母 にふい橙色 普通	P 340 60% 床直
5	高台付坏 土師器	A [14.8] B 5.7 D 7.3 E 0.9	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き。体部外面磨減。底部回転へラ削り。体部内面に刻書	砂粒・長石・雲母 灰黄褐色 普通	P 341 70% 床直
6	鉢 土師器	A [22.2] B (14.7) C 14.0	平底。体部は外傾して立ち上がり、中位で内彎し、頸部と口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き。体部外面下位へラ削り。	砂粒・長石 にふい赤褐色 普通	P 342 50% 床直
7	甌 土師器	A [14.5] B (12.4)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、中位で最大径を持つ。頸部は外反し、口縁部は外傾する。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	砂粒・長石・石英・雲母、灰褐色 普通	P 343 40% 床直
8	甗 土師器	A [22.0] B (12.4)	口縁部、体部上半破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で強く外反し口縁部は短く外傾する。	口縁部、頸部横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	砂粒・雲母・石英 にふい褐色 普通	P 344 30% 床直



第195图 第95号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第195図 9	円筒形土器 土 師 器	A 10.3 B (43.4)	無底。体部下半から直線的に立ち上がる。口縁部欠損。	体部外面へう削り。体部内・外面に輪積痕が残る。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P345 80% 床直

第97号住居跡（第196図）

位置 調査2区西南部，M12d1区。

重複関係 第3号井戸が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形 西側が第3号井戸によって掘り込まれているため規模は不明であるが，長軸3.95m，短軸[3.70] mの方形と推定される。

主軸方向 N-21°-E

壁 東壁と南壁が残存している。壁高は10~18cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 幅7~12cm，深さ2~8cmで，断面形はU字形である。北壁下の一部と東壁下，南壁下東側で確認されている。

床 全体的に平坦で，各柱穴の内側から竈にかけて，よく踏み固められている。

竈 北壁推定ラインのやや東寄りの部分に付設されている。規模は，長さ80cm，幅90cmである。天井部はすでに崩落しているが，袖部の一部が残存しており，砂混じりの灰色粘土で構築されている。火床は楕円形に8cmほど掘りくぼめられ，熱を受け，赤変硬化している。煙道は緩やかに立ち上がる。煙道に長さ26cm，幅20cm，厚さ20cmの石が確認されており，竈の補強として使用したと考えられる。右袖部からは，坏底部が確認され，袖部の補強として利用されたと考えられる。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 灰褐色 粘土粒子多量 | 4 黒褐色 焼土小ブロック・粘土小ブロック少量 |
| 2 褐灰色 焼土小ブロック・粘土粒子・粘土小ブロック少量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック多量，粘土粒子中量 |
| 3 灰褐色 粘土粒子・粘土小ブロック少量 | |

ピット 5か所。P1~P4は径28~60cmの楕円形で，深さは28~52cmである。位置から，主柱穴と考えられる。

P5は径14cmの楕円形で，深さは24cmである。位置から，出入口ピットと考えられる。

覆土 3層からなり，自然堆積である。

土層解説

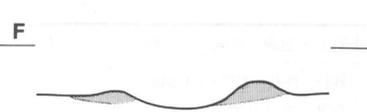
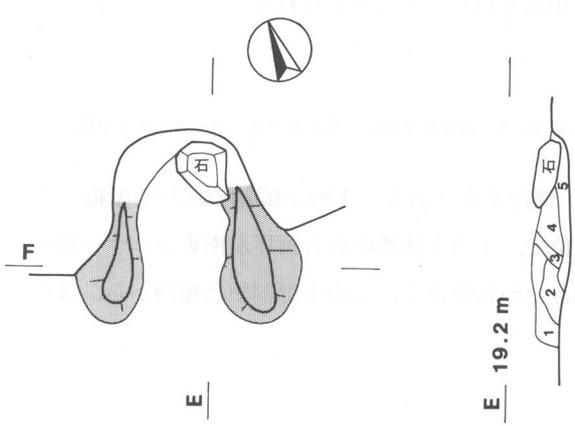
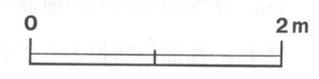
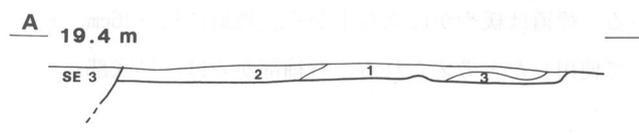
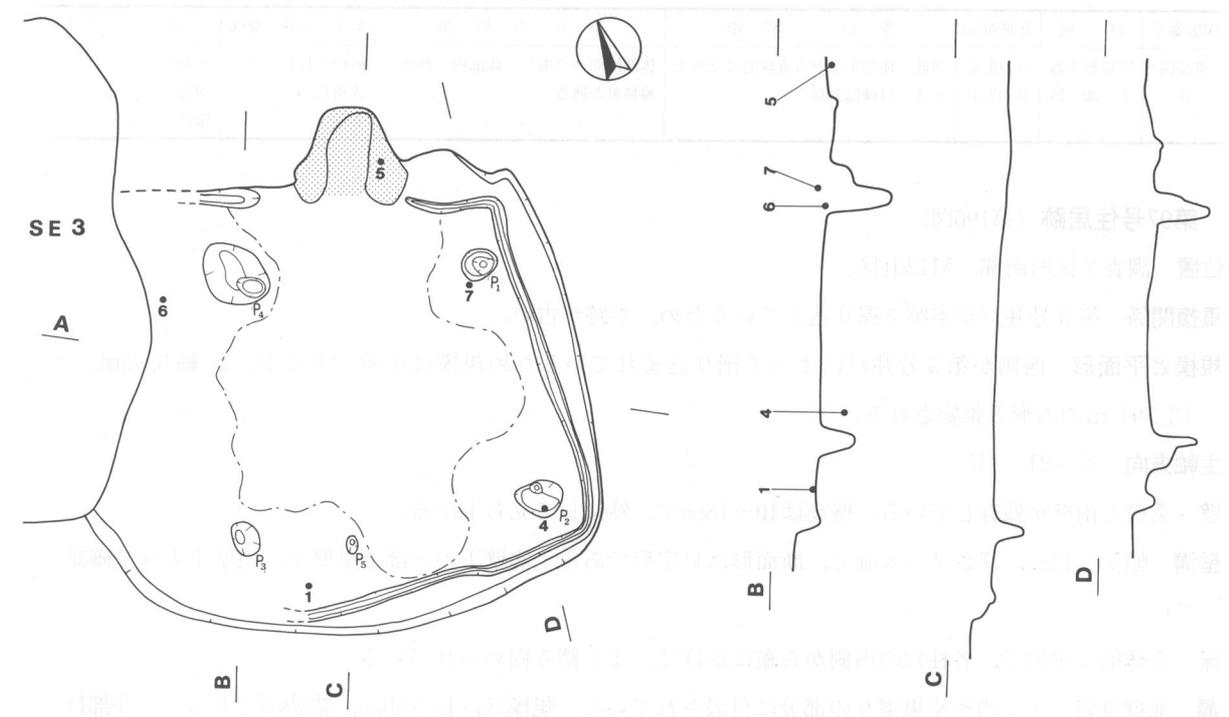
- | | |
|----------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 3 黒褐色 炭化粒子微量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，灰微量 |
| 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化材微量 | |

遺物 土師器片217点，須恵器片24点，土師質土器片2点，鉄滓7点である。1の土師器の坏が南壁近くの覆土中から，7の土師質土器の皿が北東部の覆土中から逆位で，4の土師器の高台付坏が南東コーナー部分近くの床面直上から，6の土師質土器の皿が西壁近くの床面直上から逆位で，5の土師器甕は竈内から，3の土師器坏は覆土中から出土している。

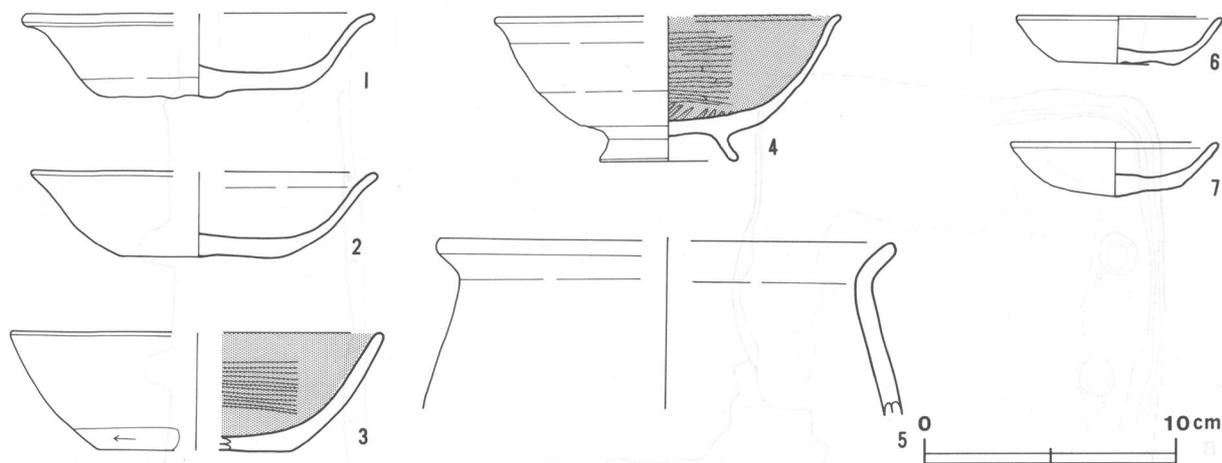
所見 本跡の時期は，出土遺物から，平安時代と思われる。

第97号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第197図 1	坏 土 師 器	A [13.9] B 3.0 C 8.0	平底で，底部内面中央に，厚みを持つ。体部は外上方に内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部外面へう削り。	砂粒・長石・雲母・石英・スコリア 橙色，普通	P346 60% 覆土中
2	坏 土 師 器	A [13.6] B 3.4 C 6.1	平底で体部は外上方に内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう削り。	砂粒・長石 にふい赤褐色 普通	P347 40% 覆土中



第196図 第97号住居跡実測図



第197図 第97号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第197図 3	坏 土師器	A [14.8] B 4.7 C [7.6]	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて外面ナデ。体部下端手持ちへら削り。内面へら磨き。黒色処理。底部へら削り。	砂粒・長石 灰白色 普通	P 591 30% 覆土中
4	高台付坏 土師器	A [13.6] B 5.8 D 5.4 E 1.0	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く、体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部内面へら磨き。体部外面ロクロナデ。底部回転へら削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・スコリア 橙色 普通	P 348 70% 床直
5	甕 土師器	A [17.8] B (6.6)	体部上位から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に折れ、口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母、黒褐色 普通	P 592 5% 竈内
6	皿 土師質土器	A 8.2 B 2.0 C 4.7	平底で底部内面中央にやや厚味を持つ。体部は内彎気味に外上方に大きく開いて立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へら削り。	砂粒・雲母・長石・石英、橙色 普通	P 349 100% 床直
7	皿 土師質土器	A 8.2 B 2.1 C 5.4	平底で底部内外面中央にやや厚味を持つ。体部は内彎気味に外上方に大きく開いて立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へら削り。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P 350 100% 覆土中

第98号住居跡 (第198図)

位置 調査2区西部, L12f2区。

規模と平面形 長軸3.90m, 短軸3.45mの方形である。

主軸方向 N-94°-E

壁 北東部と北西部が攪乱により残存していない。壁高は8~20cmで、緩斜して立ち上がる。

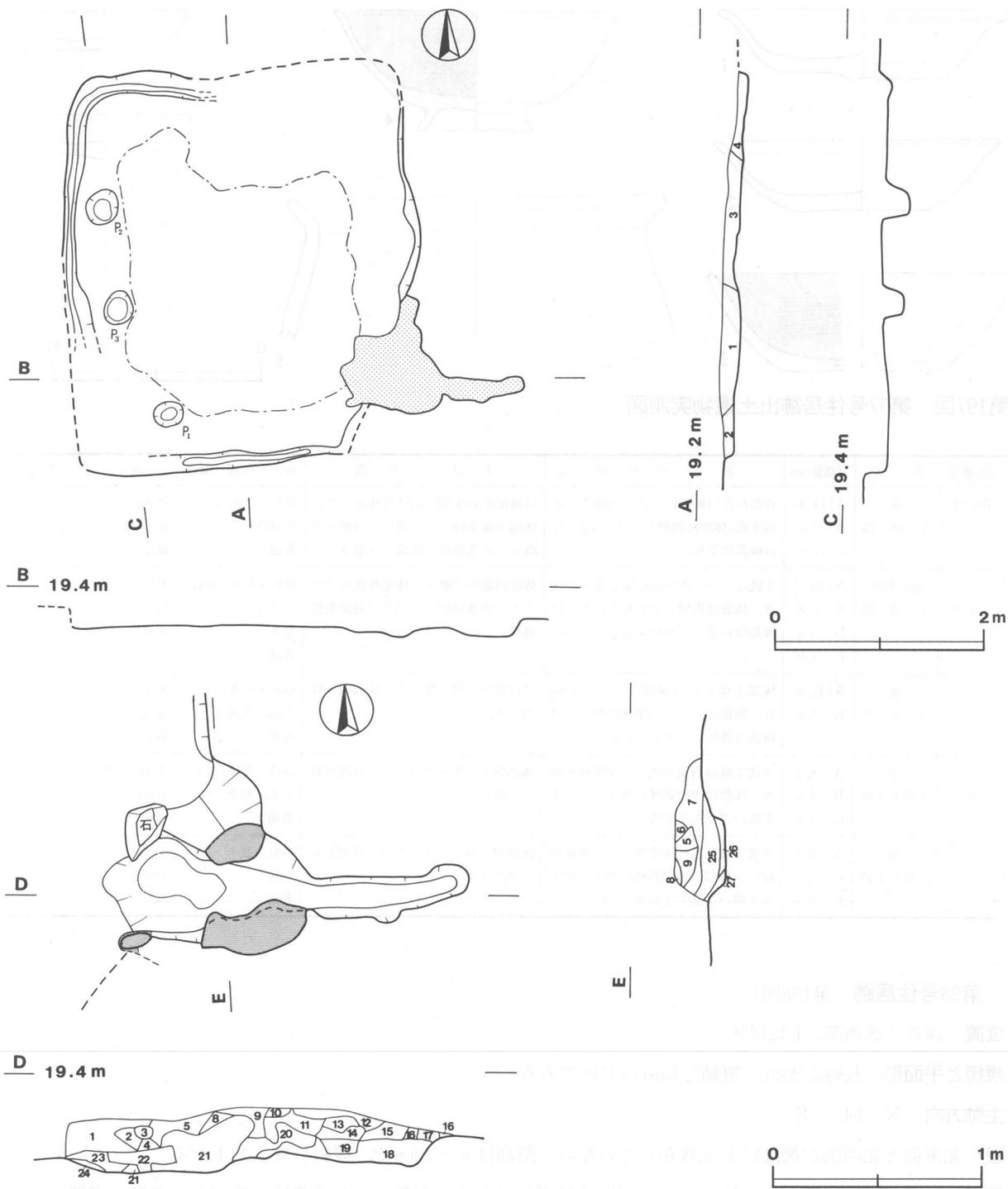
壁溝 幅10~22cm, 深さ4~10cmで、断面形はU字形である。攪乱により詳細は不明だが、北壁, 南壁, 西壁の残存部分の壁下から確認されている。

床 南側の一部が攪乱されているが、全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 南東コーナー部に壁外へ130cmほど掘り込み、付設されている。規模は長さ175cm, 幅54cmである。両袖部の一部が残存しており、砂混じりの灰色粘土で構築されている。火床は楕円形に5cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床から90cmほど伸び、傾斜して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 6 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |



第198図 第98号住居跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------|---------|---------------------------|
| 9 褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック多量 | 19 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化物少量 |
| 10 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック多量 | 20 暗赤褐色 | 炭化物・焼土粒子少量 |
| 11 極暗褐色 | 焼土粒子中量 | 21 赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化物・炭化粒子少量 |
| 12 黒褐色 | 焼土粒子少量 | 22 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量 |
| 13 暗褐色 | 焼土粒子微量 | 23 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量 |
| 14 赤褐色 | 焼土粒子多量 | 24 暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 15 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 25 暗褐色 | 焼土小ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子少量 |
| 16 褐色 | ローム粒子多量 | 26 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 17 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 27 褐色 | ローム粒子多量 |
| 18 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・焼土小ブロック少量 | | |

ピット 3か所。P₁～P₂は長径28～33cmの楕円形で、深さ15～26cmである。位置から、主柱穴と考えられる。

P₃は長径32cmの楕円形で、深さ21cmである。位置から、出入り口ピットと考えられる。

覆土 4層からなり、自然堆積である。

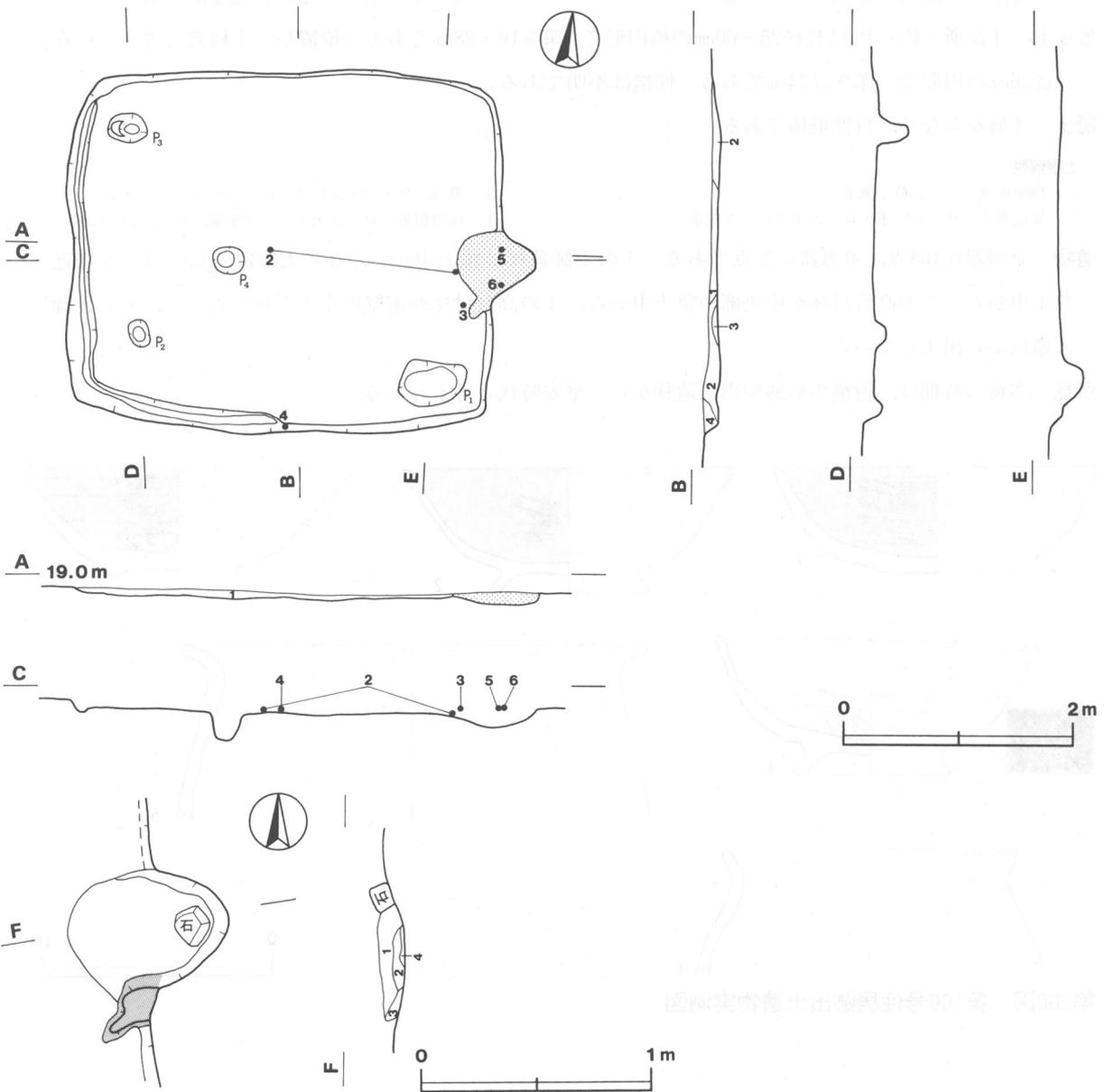
土層解説

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1 極暗褐色 ローム粒子微量 | 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 4 極暗褐色 ローム大ブロック少量、ローム粒子微量 |

遺物 土師器片533点、須恵器片54点、陶器片1点、鉄滓8点である。いずれも細片で覆土中からの出土である。

所見 本跡は、出土遺物は細片が多く、古墳時代から平安時代にわたっているため、時期判断が難しいが、平安時代の遺物が多いこと、遺構の形態などから時期は平安時代と思われる。

第100号住居跡 (第199図)



第199図 第100号住居跡実測図

位置 調査2区西部, L12g4区。

規模と平面形 長軸3.80m, 短軸3.15mの長方形である。

主軸方向 N-86°-E

壁 壁高は4~10cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 幅12~20cm, 深さ5~8cmで, 断面形はU字形である。南壁下中央部から, 西壁下にかけて確認されている。

床 全体的に平坦で, 中央部がよく踏み固められている。

竈 東壁中央部を壁外へ34cmほど掘り込み, 付設されている。規模は長さ69cm, 幅85cmである。両袖部とも壁際の一部しか残存していないが, 砂混じりの灰色粘土で構築されている。火床部は円形に5cmほど掘りくぼめられている。煙道は火床から緩やかに立ち上がり, 厚さ10cm程度の方形の石が確認されている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック少量 | 3 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック少量 | 4 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂少量 |

ピット 4か所。P1~P3は長径25~60cmの楕円形で, 深さ10~28cmである。位置から主柱穴と考えられる。P4は径26cmの円形で, 深さは24cmである。性格は不明である。

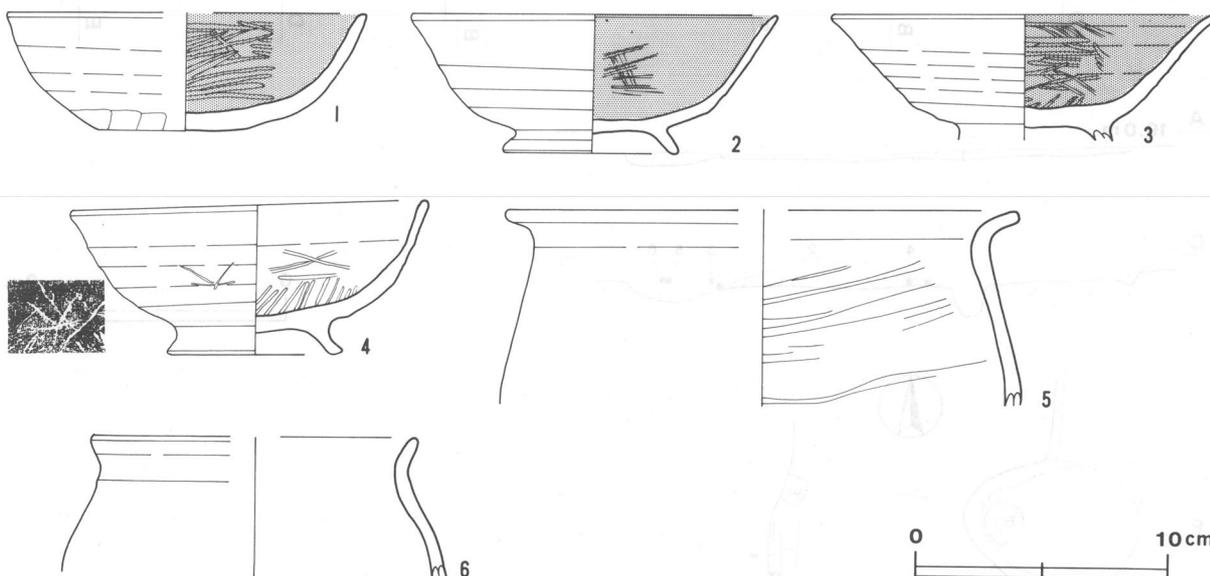
覆土 4層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|--------|---------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック微量 | 4 極暗褐色 | ローム大ブロック少量, ローム粒子微量 |

遺物 土師器片108点, 須恵器片3点である。1の土師器坏は覆土中から, 3の土師器の高台付坏が竈近くの覆土中から, 2の高台付坏が中央部の覆土中から, 4の高台付坏が南壁近くの下層から, 5, 6の土師器甕は竈内から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代と考えられる。



第200図 第100号住居跡出土遺物実測図

第100号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第200図 1	坏 土師器	A [14.2] B 4.7 C 6.0	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。内面へら磨き。黒色処理。底部へら削り。	砂粒・スコリア にふい橙色 普通	P 593 60% 覆土中
2	高台付坏 土師器	A 14.4 B 5.6 D 6.8 E 1.0	高台部から口縁部にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて外面ロクロナデ。内面へら磨き。黒色処理。高台部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 にふい橙色 普通	P 352 80% 覆土下層
3	高台付坏 土師器	A 15.0 B (5.0) E (0.7)	平底に高台が付く。体部は外上方に直線的に開き、口縁部はわずかに外反する。	体部内面へら磨き。体部外面ロクロナデ。体部外面下半へら削り。内面黒色処理。	砂粒・石英・長石 にふい橙色 普通	P 353 80% 覆土中
4	高台付坏 土師器	A 14.1 B 6.2 D 6.8 E 1.3	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部内面へら磨き。体部外面ロクロナデ。底部回転へら削り。体部外面中に「大」の刻書。	砂粒・長石 にふい褐色 普通	P 354 70% 覆土下層
5	甕 土師器	A [20.0] B (7.8)	体部上位から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に折れ、口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。体部内面へらナデ。	砂粒・石英・長石・雲母、橙色 普通	P 594 5% 竈内
6	甕 土師器	A [12.8] B (5.5)	体部上位から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に折れ、口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母 灰褐色 普通	P 595 5% 竈内

第101号住居跡（第201図）

位置 調査2区西部，L12e4区。

重複関係 本跡は、第102号住居跡によって掘り込まれ、第27号土坑を掘り込んでいるため、第102号住居跡より古く、第27号土坑より新しい。

規模と平面形 北側が第102号住居跡によって掘り込まれ、規模は不明だが、長軸(3.18)m、短軸2.95mの方形と推定される。

主軸方向 N-95°-E

壁 壁高は18~22cmで、垂直に立ち上がる。北壁が第102号住居跡によって掘り込まれ、東壁の一部が攪乱によって残存していない。

壁溝 幅15~20cm、深さ4~6cmで、断面形はU字形である。西壁下中央部から、南壁下にかけて確認されている。

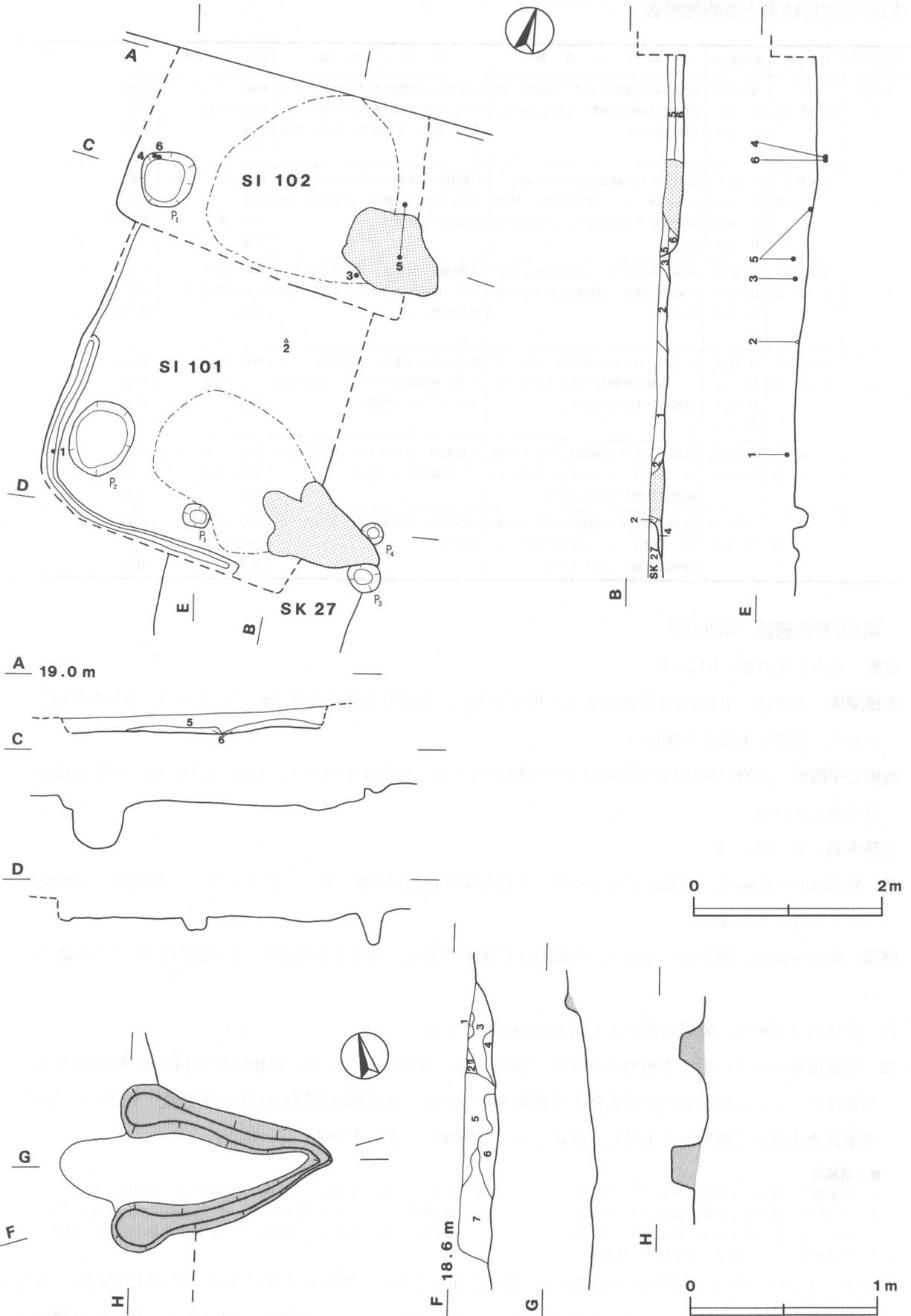
床 全体的に平坦で、竈周辺部がよく踏み固められている。

竈 東壁南東コーナー近くを壁外へ80cmほど掘り込み、付設されている。規模は長さ144cm、幅90cmである。袖部はロームと、砂混じりの灰色粘土で構築されている。火床部は楕円形に3cmほど掘りくぼめられている。煙道は火床部から緩やかに上昇し、煙出し近くで外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|------------------------|---------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子中量，灰小ブロック少量 | 5 黒褐色 粘土小ブロック中量，焼土小ブロック少量，灰小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子中量，灰小ブロック少量 | 6 暗赤褐色 ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・灰小ブロック少量 |
| 3 橙色 焼土粒子中量，灰小ブロック微量 | 7 暗赤褐色 粘土中ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・灰少量 | |

ピット 4か所。P1は長径27cmの楕円形で、深さは16cmである。性格は不明である。P2は長径80cm、短径66cmの楕円形で、深さ30cmである。住居跡に伴う土坑と思われるが、性格は不明である。P3、P4は径26cm~36cmの円形で、深さ32cm~39cmである。煙出しの両側に対に並ぶ形で確認されたが、性格は不明である。



第201图 第101・102号住居跡実測図

覆土 4層からなり、自然堆積である。

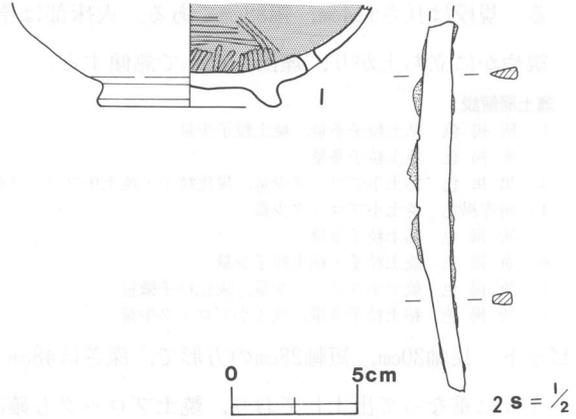
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、粘土大ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片41点、須恵器片1点が出土している。

1の土師器の高台付坏が南西コーナー壁下の覆土中から、2の刀子が北東部の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代と考えられる。南西コーナー部近くに土坑を伴っており、すぐ北に重複する第102号住居跡も南西コーナー部に同じような土坑を伴っている。どちらも覆土に焼土を含むが性格は不明である。



第202図 第101号住居跡出土遺物実測図

第101号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第202図 1	高台付坏 土師器	B (4.1) D 7.0 E 0.8	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面へラ磨き。底部回転へラ削り。体部下位に焼成後に穿孔した孔が一つ。内面黒色処理。	砂粒・雲母にふい褐色 普通	P355 30% 覆土中

図版番号	種別	計測値				備考		
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第202図2	刀子	(9.9)	0.8	0.3	8.0	M28	鉄製	覆土中 70%

第102号住居跡 (第201・203図)

位置 調査2区西部, L12d4区。

規模と平面形 本跡は、北側が調査区外であり、東壁が流出しているため、規模は不明であるが、長軸 [3.05] m, 短軸 (2.00) mの長方形と推定される。

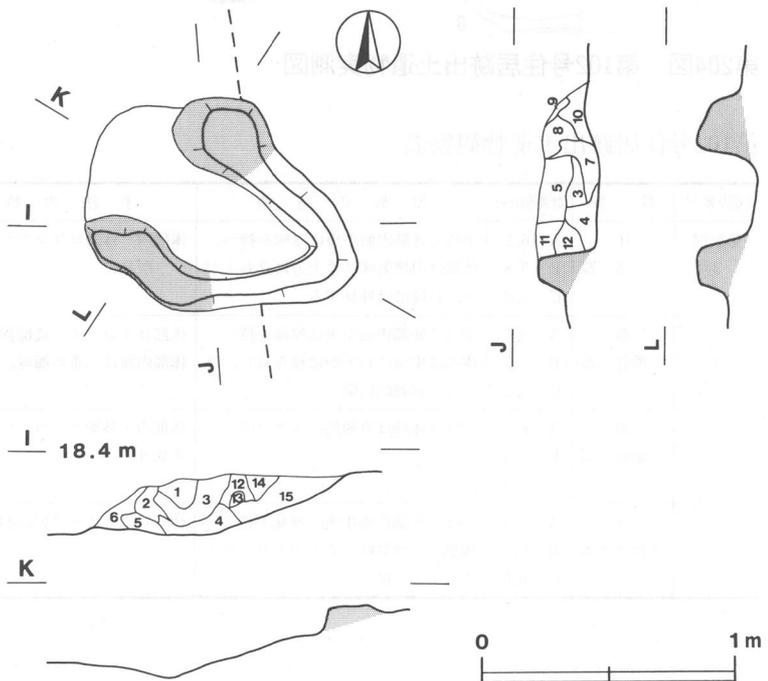
主軸方向 N-96°-E

重複関係 本跡は、第101号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が新しい。

壁 壁高は10~20cmで、外傾して立ち上がる。北側が調査区外であり、東壁が流出によって残存していない。

床 全体的に平坦で、竈周辺部から中央部がよく踏み固められている。

竈 東壁推定ライン南東コーナー部に砂混じりの灰色粘土で構築されてい



第203図 第102号住居跡竈実測図

る。規模は長さ114cm、幅88cmである。火床部は楕円形に10cmほど掘りくぼめられている。煙道は火床から緩やかに立ち上がり、煙出し近くで急傾する。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|-----------------------|
| 1 灰褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子少量 | 9 褐灰色 粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 赤褐色 焼土粒子多量 | 10 黄褐色 粘土粒子多量 |
| 3 黒褐色 粘土小ブロック少量, 炭化粒子・焼土中ブロック微量 | 11 赤褐色 焼土粒子中量, 粘土粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 焼土小ブロック少量 | 12 暗赤褐色 焼土粒子中量 |
| 5 灰褐色 粘土粒子多量 | 13 黒褐色 焼土粒子少量 |
| 6 黄褐色 焼土粒子・粘土粒子少量 | 14 黒褐色 焼土粒子微量 |
| 7 黒褐色 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 15 赤褐色 焼土粒子多量 |
| 8 灰褐色 粘土粒子多量, 焼土小ブロック少量 | |

ピット 長軸30cm、短軸28cmの方形で、深さは48cmである。下層から土師質土器が2枚、横向きに突き刺さるように重なって出土しており、焼土ブロックも確認された。第101号住居跡のP₂と同じような位置で確認されており、規模や平面形も類似している。住居跡に伴う土坑と思われるが、性格は不明である。

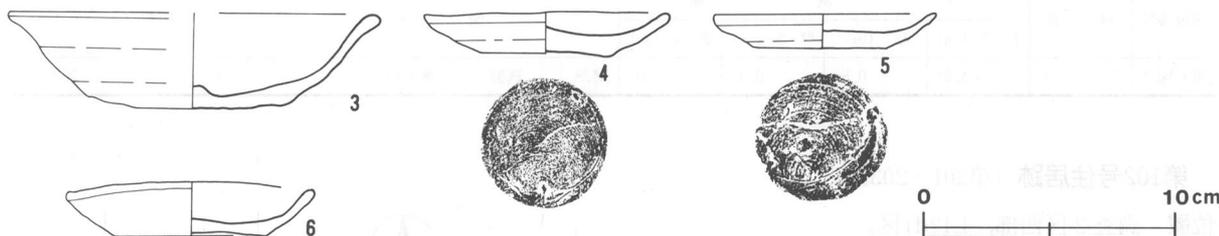
覆土 2層からなり、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------|--------------------------|
| 5 黒褐色 ローム粒子微量 | 6 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
|---------------|--------------------------|

遺物 土師器片57点、須恵器片4点、土師質土器片3点が出土している。3の土師器の坏が竈右脇の覆土中から、4の土師質土器の皿と、6の土師質土器の皿がP₁内から、5の土師質土器の皿が竈左脇の床面直上と竈内から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や遺物から、平安時代と思われる。



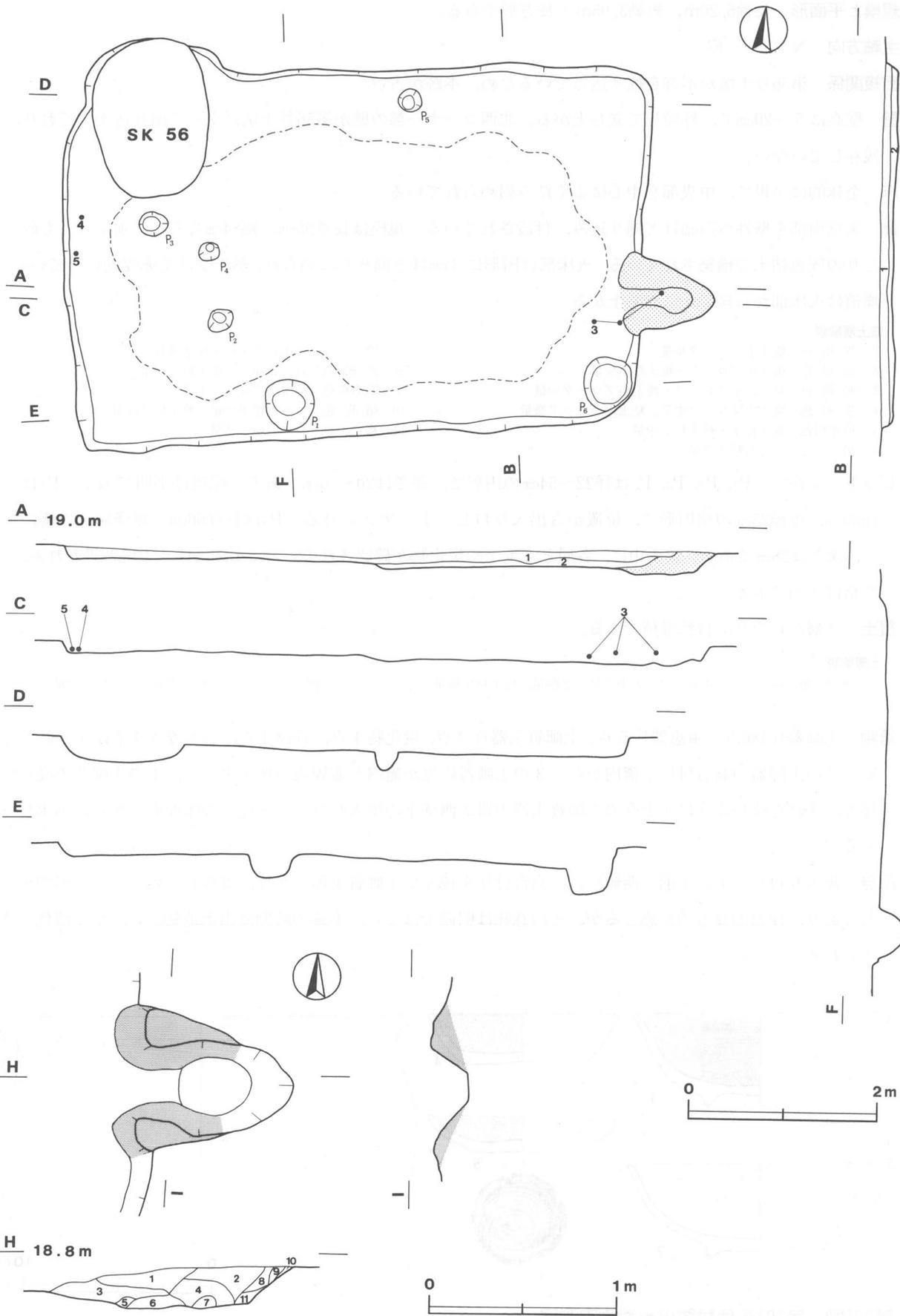
第204図 第102号住居跡出土遺物実測図

第102号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第204図 3	坏 土師器	A [16.2] B 3.8 C 7.8	平底で底部内面中央に厚味を持つ。体部は内彎気味に外上方に立ち上がり、口縁部は外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・スコリア 明赤褐色 普通	P356 40% 竈内
4	皿 土師質土器	A 9.7 B 1.7 C 5.2	平底で底部内面中央に厚味を持つ。体部は中位にわずかに稜を有し、外上方に直線的に開く。	体部ロクロナデ。底部回転糸切り。体部内面に二重の圏線。	砂粒・長石・石英・スコリア、にぶい 橙色、普通	P357 100% ピット内
5	皿 土師質土器	A 8.2 B 1.4 C 2.5	平底で体部は直線的に大きく開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母・スコリア、内面灰褐色 外面橙色、普通	P359 95% 竈内 床直
6	皿 土師質土器	A 9.8 B 2.2 C 6.0	平底で底部内面中央に厚味を持つ。体部は内彎気味に立ち上がり、外上方に大きく開く。	体部ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・スコリア、明赤褐色、普通	P358 100% ピット内

第103号住居跡 (第205図)

位置 調査2区北部, L12f7区。



第205图 第103号住居跡実測図

規模と平面形 長軸6.20m, 短軸3.95mの長方形である。

主軸方向 N-83°-E

重複関係 第56号土坑が本跡を掘り込んでいるため, 本跡が古い。

壁 壁高は5~20cmで, 外傾して立ち上がる。北西コーナー部の壁が第56号土坑によって掘り込まれており, 残存していない。

床 全体的に平坦で, 中央部を中心によく踏み固められている。

竈 東壁南部を壁外へ74cmほど掘り込み, 付設されている。規模は長さ95cm, 幅84cmである。両袖部とも砂混じりの灰色粘土で構築されている。火床部は円形に3cmほど掘りくぼめられ, 熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 焼土小ブロック少量 | 7 橙色 焼土粒子・粘土粒子多量 |
| 2 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量 | 8 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック少量 | 9 暗赤褐色 焼土小ブロック少量 |
| 4 赤褐色 焼土小ブロック中量, 粘土中ブロック微量 | 10 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子中量 | 11 褐色 ローム粒子多量 |
| 6 褐色 ローム粒子多量 | |

ピット 6か所。P1, P2, P4, P5は径22~54cmの円形で, 深さは20~26cmである。性格は不明である。P3は長径30cm, 短径25cmの楕円形で, 位置から出入り口ピットと考えられる。P6は長径60cm, 短径50cmの楕円形で, 深さは28cmである。覆土中に, 各層とも焼土や炭化物が確認されている。本跡に伴う土坑と思われるが, 性格は不明である。

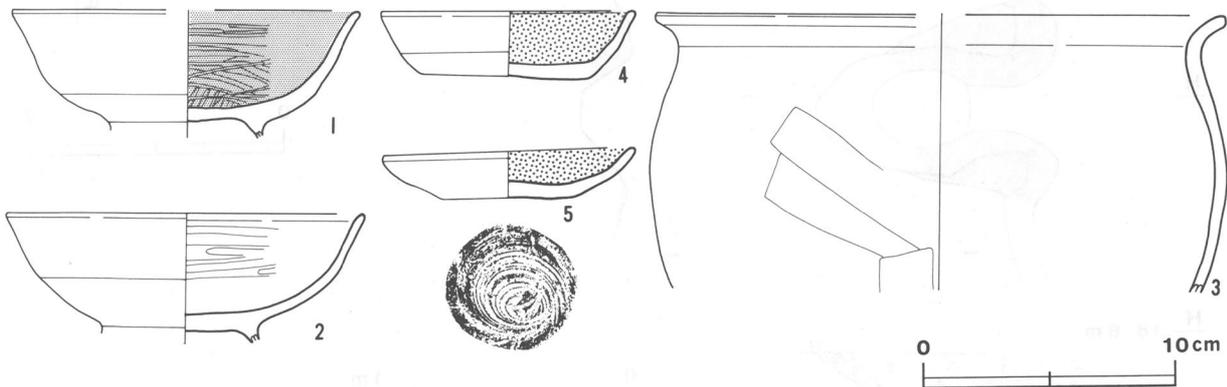
覆土 2層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|----------------------|
| 1 灰褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子微量 | 2 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
|-----------------------------------|----------------------|

遺物 土師器片186点, 須恵器片5点, 土師質土器片2点, 炭化物1点, 鉄滓1点, ベンガラ1点が出土している。2の土師器の高台付坏が竈内から, 3の土師器の甕が竈内と竈周辺の覆土中から, 1の土師器の高台付坏と, それを挟むように4と5の土師質土器の皿が西壁下の出入り口ピット近くの床面直上から, 出土している。

所見 出入り口ピットの手前(西側)に, 高台付坏を挟んで土師質土器が2枚, 置かれているような形で出土しており, 作為的なものを感じるが, その意味は明確ではない。本跡の時期は出土遺物から, 平安時代と考えられる。



第206図 第103号住居跡出土遺物実測図

第103号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第206図 1	高台付坏 土師器	A [13.8] B 5.1 E (0.6)	平底に「ハ」の字状に開いた高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き。体部外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 灰褐色 普通	P360 60% 竈内・覆土中
2	高台付坏 土師器	A 14.2 B (5.0) E (0.4)	平底に「ハ」の字状に開いた高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き。体部内面下位から底部内面に掛けて摺り跡。体部外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。	砂粒・スコリア・ 雲母、橙色 普通	P361 60% 竈内
3	甕 土師器	A [22.6] B (11.0)	底部、体部下欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	砂粒・石英・長石 にふい橙色 普通	P362 30% 竈内・覆土中
4	皿 土師質土器	A 10.0 B 2.9 C 6.4	平底で体部は外傾しながら立ち上がり、中位に弱い稜を持つ。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内面赤彩。	砂粒・長石・石英・ スコリア、橙色 普通	P363 95% 床直
5	皿 土師質土器	A 9.9 B 2.0 C 4.8	平底で体部は内彎気味に大きく開きながら立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内面赤彩。	砂粒・長石 橙色 普通	P364 80% 床直

第105号住居跡 (第207図)

位置 調査2区中央部，M12a5区。

規模と平面形 長軸3.46m，短軸3.18mの方形である。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は7～16cmで，垂直に立ち上がる。

壁溝 幅8～18cm，深さ3～12cmで，断面形はU字形である。壁下を全周している。

床 全体的に，平坦でよく踏み固められている。

竈 南東コーナー部を壁外へ53cmほど掘り込み，付設されている。規模は長さ80cm，幅105cmである。天井部，袖部とも残存せず，火床部も確認できなかった。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化物・焼土小ブロック少量 3 暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・粘土小ブロック少量
2 暗褐色 ローム粒子・炭化物・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量

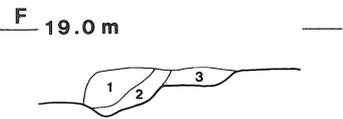
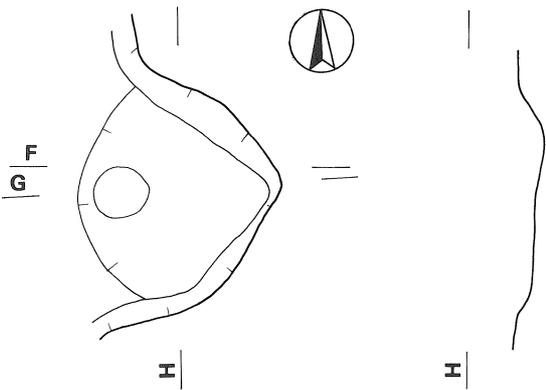
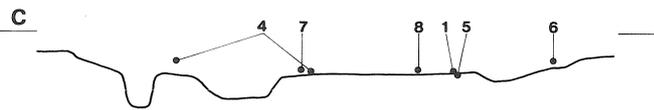
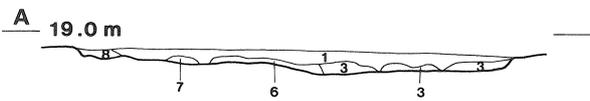
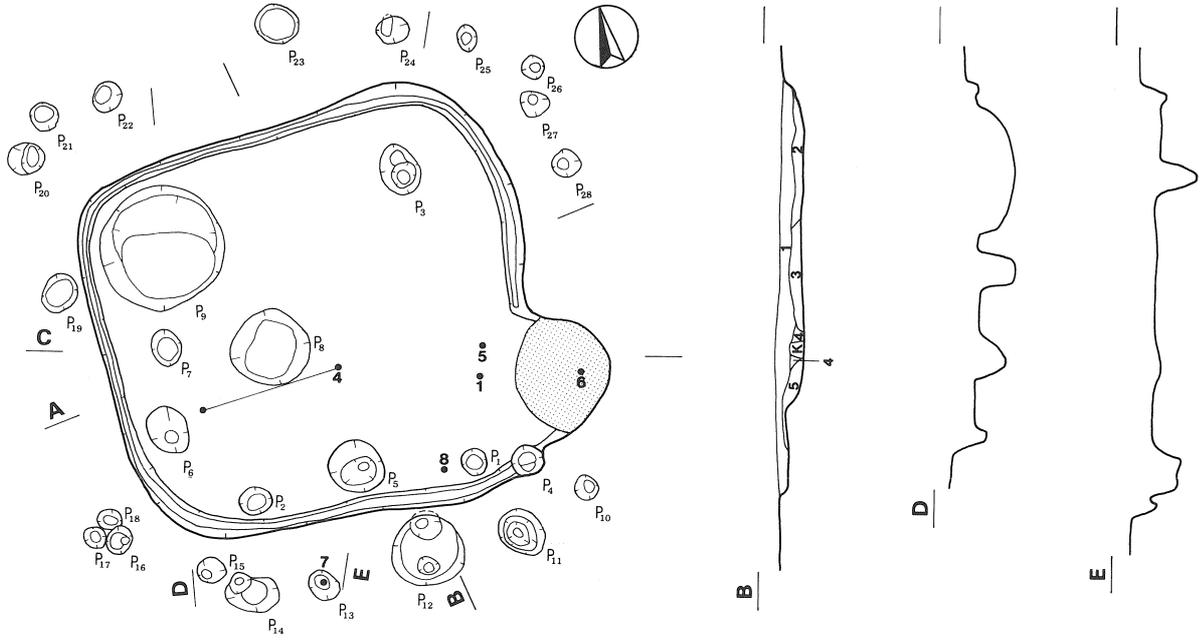
ピット 28か所。P₁，P₂，P₃は長径24～42cm，短径19～32cmの楕円形で，深さは17～31cmである。位置から主柱穴と考えられる。P₄～P₆は長径25～65cm，短径22～42cmの楕円形で，深さは21～25cmである。P₆は覆土中に木柱の炭化材が確認された。位置から補助柱穴と考えられる。P₇は長径30cm，短径25cmの楕円形で，深さは29cmである。位置から出入り口ピットと考えられる。P₈は径60cm前後の円形で，深さは16cmである。覆土中に，各層とも焼土や炭化物が確認されており，床面が固い。本跡に伴う土坑と思われるが，性格は不明である。P₉は径100cm前後の円形で，深さは25cmである。覆土中から，木柱の炭化材が確認されている。本跡に伴う土坑と思われるが，性格は不明である。P₁₀～P₂₈は長径18～60cm，短径16～56cmの楕円形で，深さは14～48cmである。本跡の周囲をほぼ等間隔に巡っている。補助柱穴と思われる。

覆土 8層からなり，土層2～土層7は，焼土と炭化材を含み，本跡の焼失に伴う堆積物と考えられる。土層1と8は，本跡焼失後に自然堆積したものと考えられる。

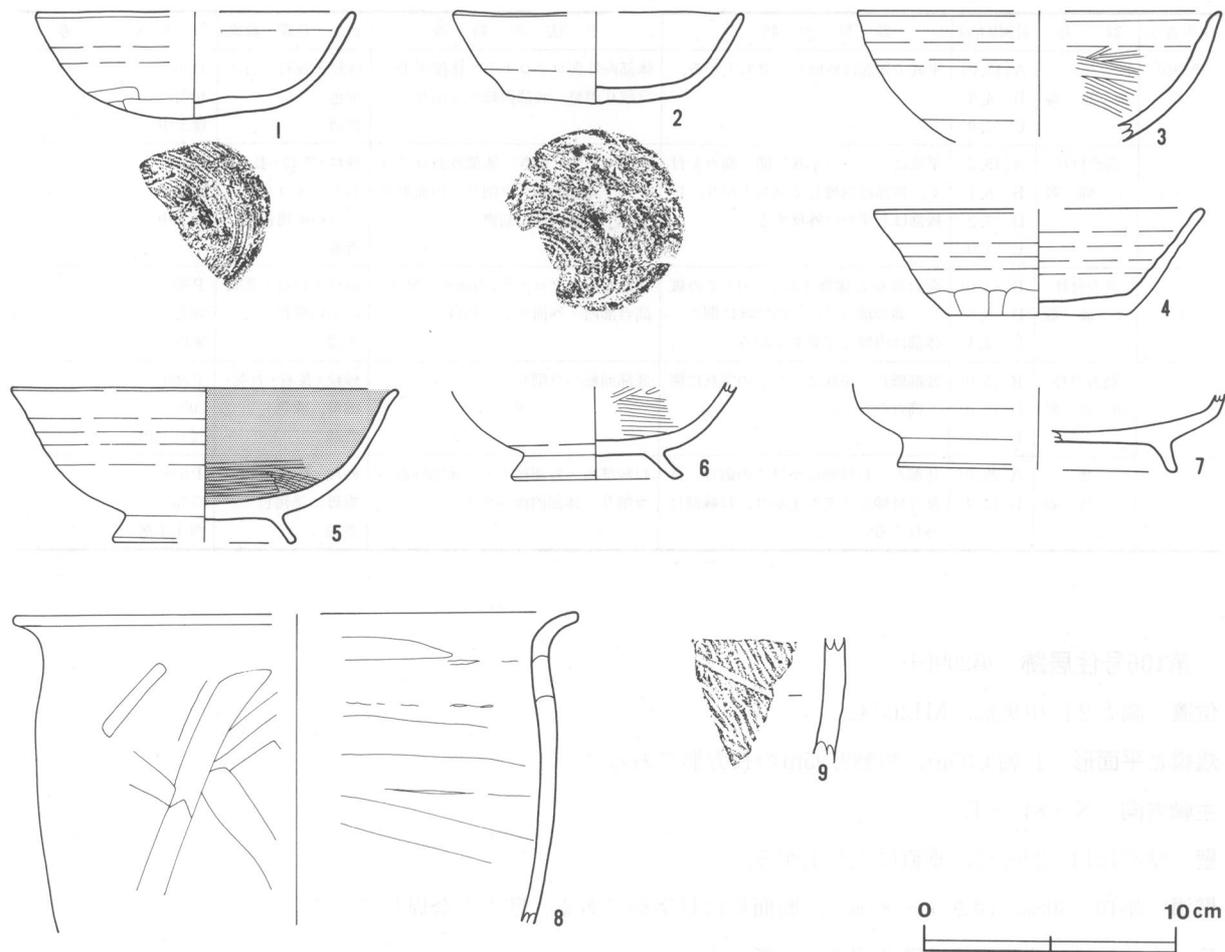
土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・焼土粒子少量，ローム粒子微量 5 極暗褐色 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化材少量
2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量 6 極暗褐色 焼土粒子・炭化物少量，焼土中ブロック微量
3 極暗褐色 焼土粒子・炭化材中量，ローム粒子・灰微量 7 極暗褐色 焼土粒子・炭化材少量，ローム粒子微量
4 黒褐色 焼土小ブロック少量・ローム粒子微量 8 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器片192点，須恵器片233点，陶器片1点，炭化材17点，鉄滓1点が出土している。2の土師器の坏



第207图 第105号住居跡実測図



第208図 第105号住居跡出土遺物実測図

と6の土師器高台付坏が竈内から、1の土師器の坏と5の土師器の高台付坏が竈手前の覆土中から、4の須恵器の坏が中央部と南西部の覆土中から、7の須恵器の高台付坏がP13の覆土中から、8の土師器甕が南壁近くの覆土下層から、3の土師器高台付坏が覆土中から出土している。9は覆土中から出土した須恵器片で、外面に縦位の平行叩きが施されている。

所見 本跡は、床面から多量の炭化材や焼土が確認されたことから、焼失家屋と考えられ、本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代と思われる。

第105号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第208図 1	土師器 坏	A [12.6] B 4.3 C [6.0]	丸底気味の平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面クロナデ。体部下 半へら削り。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 褐色 普通	P 365 40% 覆土中
2	土師器 坏	A [11.5] B 3.7 C 6.9	平底で、体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面横ナデ。底部回転糸切 り後、へら削り調整。	砂粒・長石 にふい橙色 普通	P 366 70% 竈内
3	土師器 高台付坏	A 14.4 B 5.0	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて外面クロ ナデ。内面へら磨き。	砂粒・長石・雲母 灰黄褐色 普通	P 596 30% 覆土中

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第208図 4	坏 須 恵 器	A [13.0] B 4.3 C 7.0	平底で体部は外傾して立ち上がる。	体部内外面ロクロナデ。体部下半へラ削り調整。底部回転へラ削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P368 40% 覆土中
5	高台付坏 土 師 器	A [15.3] B 6.1 D [7.2] E 1.0	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き。体部外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。内面黒色処理。底部内面に刻書。	砂粒・雲母・長石・ 石英・スコリア にふい赤褐色 普通	P367 80% 覆土中
6	高台付坏 土 師 器	B (3.6) D 6.6 E 1.1	高台部から体部下位にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。内面へラ磨き。高台部内・外面ナデ。貼付。	砂粒・長石・雲母 にふい橙色 普通	P597 40% 竈内
7	高台付坏 須 恵 器	B (5.0) D [11.0] E 1.2	底部破片。平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転へラ削り。	砂粒・長石・石英・ 雲母、灰色 普通	P369 20% ピット内
8	甕 土 師 器	A [22.0] B (12.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母、黒褐色 普通	P598 5% 覆土下層

第106号住居跡（第209図）

位置 調査2区中央部，M12is区。

規模と平面形 長軸3.35m，短軸2.95mの長方形である。

主軸方向 N-84°-E

壁 壁高は14~22cmで，垂直に立ち上がる。

壁溝 幅10~30cm，深さ4~8cmで，断面形はU字形である。壁下を全周している。

床 全体的に，平坦でよく踏み固められている。

竈 東壁南東コーナー近くを壁外へ65cmほど掘り込み，付設されている。規模は長さ105cm，幅68cmである。

天井部は崩落し，袖部も残存していない。火床部は4cmほど掘りくぼめられている。煙道は火床部から緩やかに上昇し，煙出し近くで垂直に立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 炭化物・粘土粒子・粘土小ブロック少量，焼土粒子微量 | 11 黄褐色 ローム粒子中量，砂少量 |
| 2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量 | 12 灰黄褐色 粘土小ブロック・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 粘土粒子中量・炭化物・焼土小ブロック微量 | 13 暗赤褐色 焼土粒子多量 |
| 4 黄褐色 粘土粒子多量，粘土小ブロック少量，焼土小ブロック微量 | 14 黒褐色 粘土小ブロック・粘土粒子少量 |
| 5 黄褐色 焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量 | 15 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 炭化粒子・粘土中ブロック少量 | 16 黒褐色 焼土小ブロック・粘土小ブロック少量 |
| 7 黒褐色 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 17 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 8 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 18 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 9 黄褐色 粘土粒子多量，焼土小ブロック微量 | 19 褐色 ローム粒子多量 |
| 10 暗赤褐色 焼土粒子多量 | |

ピット 径60cm前後の円形で，深さは35cmである。覆土は3層からなり，各層にローム粒子やローム小ブロックが確認され，自然堆積である。本跡に伴う土坑と思われるが，性格は不明である。

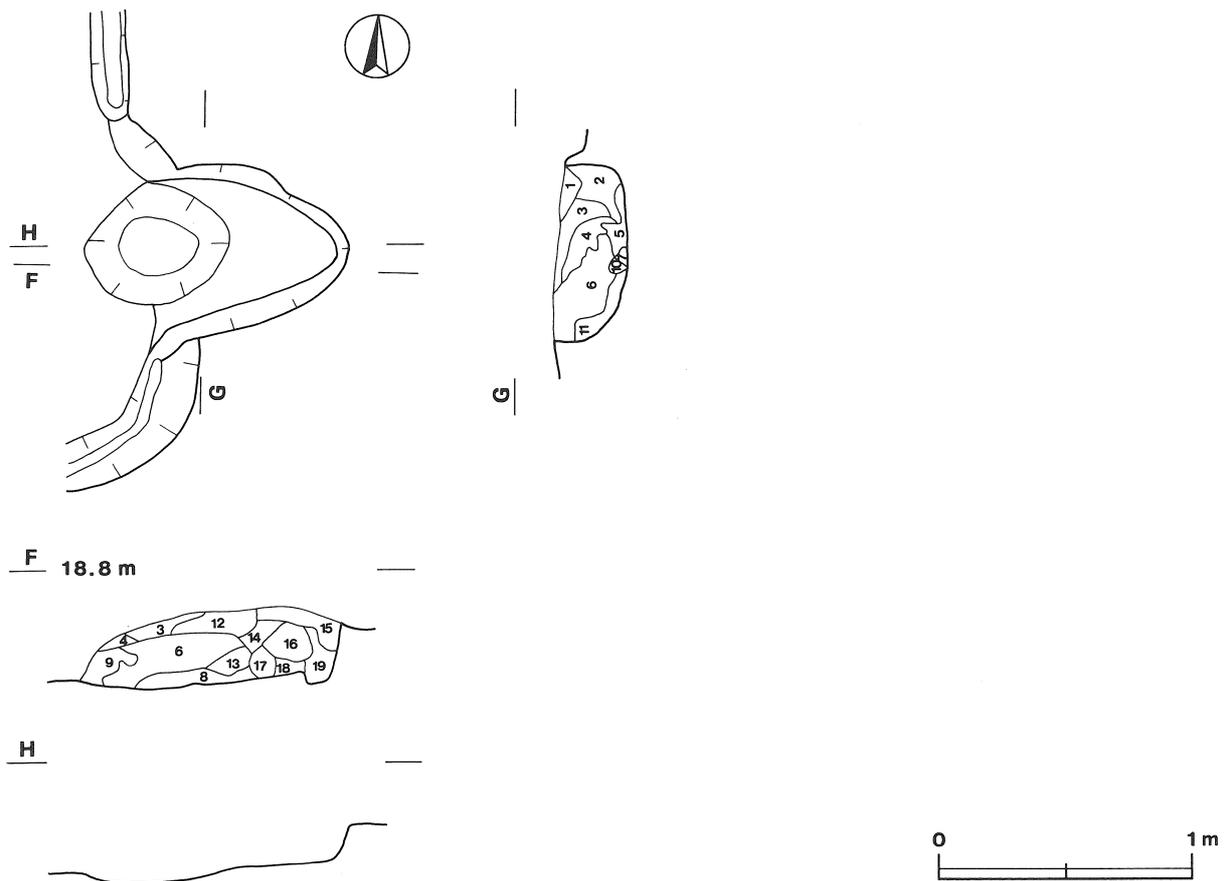
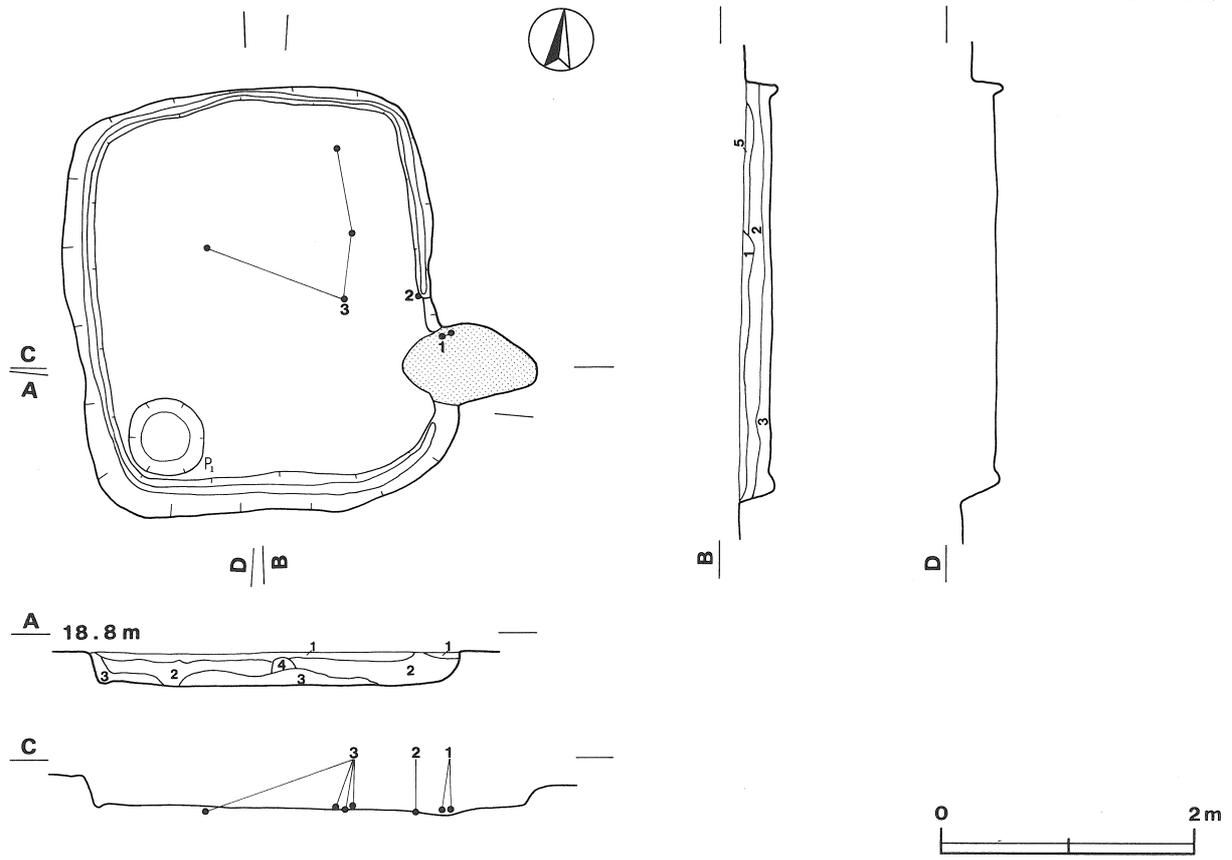
覆土 5層からなり，自然堆積である。

土層解説

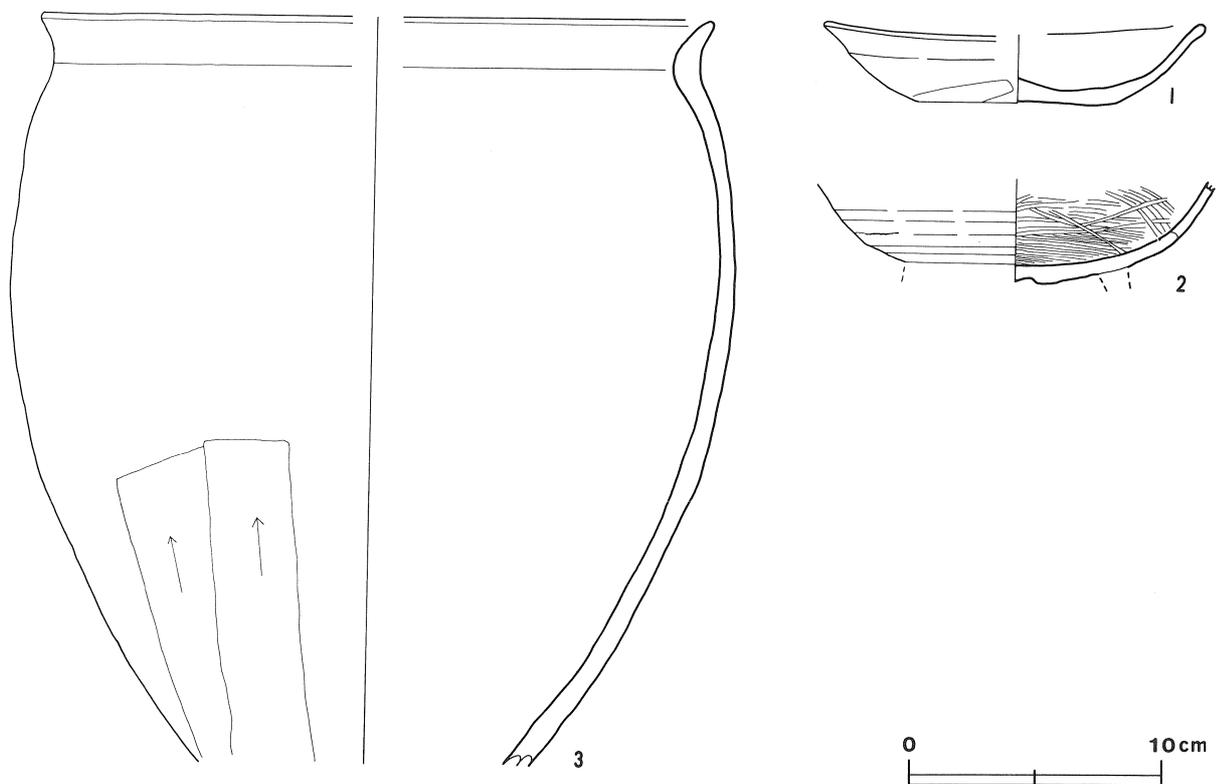
- | | |
|-----------------------------------|---------------|
| 1 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 4 褐色 ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量 | |

遺物 土師器片73点，須恵器片3点が出土している。1の土師器の坏が竈内とその手前の床面直上から，2の土師器の高台付坏が竈前の床面直上から，3の土師器の甕が北東部と中央部の床面直上から出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から平安時代と思われる。



第209图 第106号住居跡実测图



第210図 第106号住居跡出土遺物実測図

第106号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第210図 1	坏 土師器	A [15.2] B 3.3 C 7.6	平底で底部内面中央に厚味を持つ。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面下半へら削り。底部へら削り。	砂粒・雲母・スコリア、にふい橙色普通	P 371 50% 竈内・床直
2	高台付坏 土師器	B (3.9)	底部、体部下半破片。丸底気味の平底で高台が欠損。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面へら磨き。体部外面ロクロナデ。底部回転へら削り。	砂粒・長石・雲母・バミスにふい黄褐色普通	P 372 30% 床直
3	甕 土師器	A [26.4] B (29.8)	底部欠損。体部はやや長胴で上位に最大径を持つ。頸部から口縁部にかけて外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位へら削り。	砂粒・長石・石英黒褐色普通	P 373 40% 床直

第107 - A号住居跡 (第211・212図)

位置 調査2区南部, M12d5区。

重複関係 本跡を拡張して第107 - B号住居跡が作られたと思われ、壁は第107 - B号住居跡を作る時に破壊されたと考えられる。また、土層断面から、第108号住居跡が第107 - B号住居跡を掘り込んでいる。さらに、第83号土坑と第85号土坑が本跡を掘り込んでいる。従って本跡が最も古いと思われる。

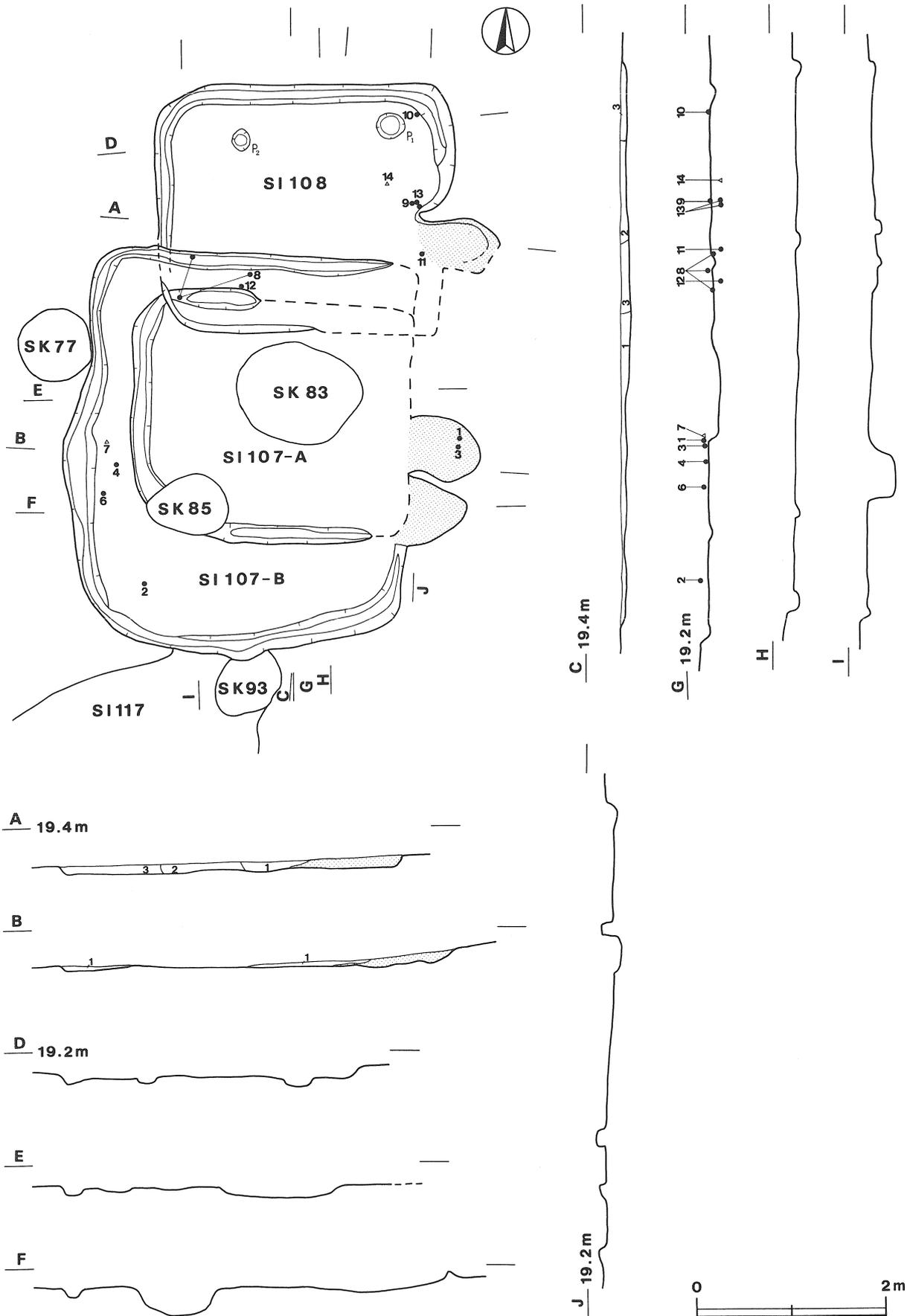
規模と平面形 長軸2.95m, 短軸 [2.59] mの長方形と推定できる。

主軸方向 N-96° - E

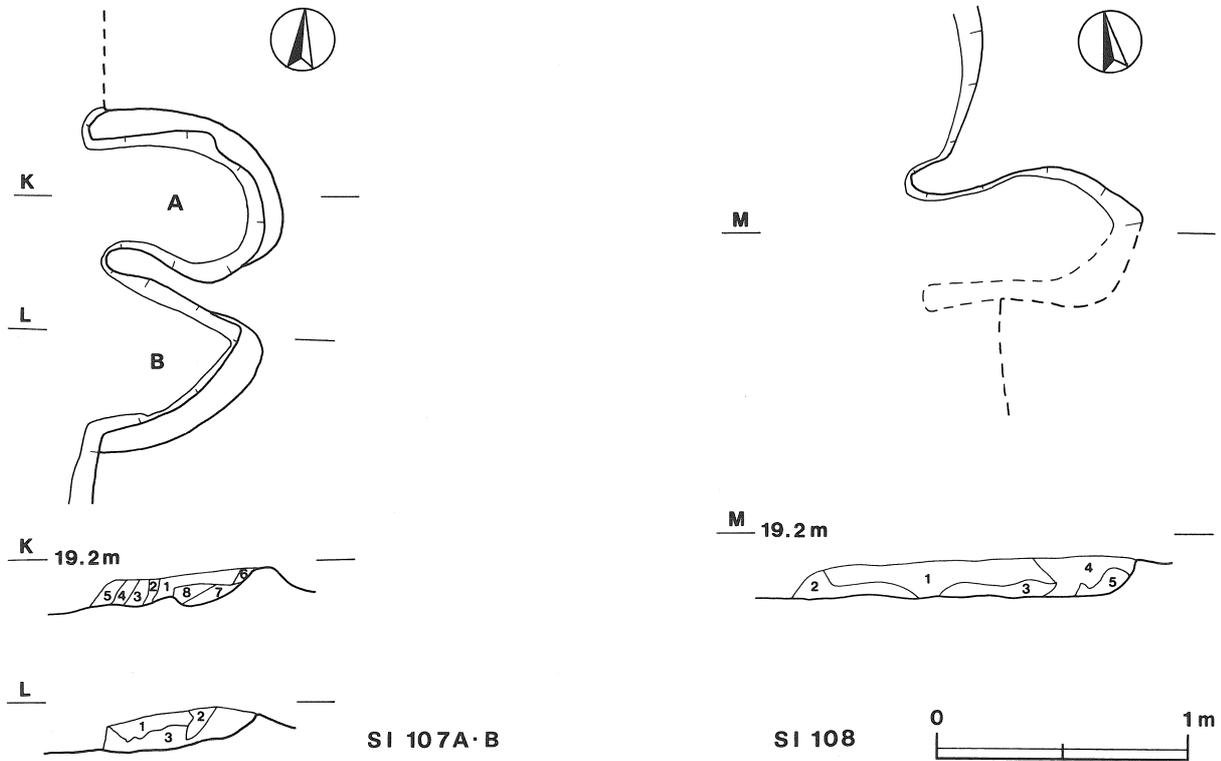
壁 第107 - B号住居跡を作る時に破壊されたと思われ、残存していない。

壁溝 幅12~25cm, 深さ4~10cmで、断面形はU字形である。東側と、北側の一部を除き、確認されている。

床 全体的に平坦で、あまり踏み固められていない。



第211图 第107-A・B・108号住居跡実測図



第212図 第107-A・B・108号住居跡竈実測図

竈 東壁推定ラインを壁外へ掘り込み、付設されている。規模は長さ87cm、幅53cmで、天井部は崩落している。右袖部は壁近くしか残存していないが、左袖部が良好に残存し、砂混じりの灰色粘土で構築されている。火床部は円形に2cmほど掘りくぼめられ、火熱を受け赤変している。煙道は火床部先のくぼみから緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 5 極暗褐色 砂中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 砂少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 赤褐色 焼土粒子多量, 砂中量 |
| 3 灰褐色 砂中量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 暗赤褐色 焼土粒子中量, 砂少量 |
| 4 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量 | 8 暗赤褐色 ローム粒子・炭化物・灰小ブロック少量, 焼土粒子微量 |

覆土 第107-B号住居跡を作る時に破壊されており、存在しない。

遺物 本跡に伴うと考えられる遺物は出土していない。

所見 本跡は、出土遺物がなく時期判断が難しいが、遺構の形態から第107-B号住居跡とさほど時代が離れていないと考えられるので、平安時代と思われる。

第107-B号住居跡 (第211・212図)

位置 調査2区南部, M12d5区。

重複関係 本跡は第107-A号住居跡を拡張して作られたと思われ、第107-A号住居跡の壁を破壊している。また、土層断面から、第108号住居跡に掘り込まれている。さらに、第83号土坑と第85号土坑が本跡を掘り込んでいる。従って本跡は、第107-A号住居跡より新しく、第108号住居跡、第83号土坑、第85号土坑より古い。

規模と平面形 長軸4.30m、短軸3.70mの長方形である。

主軸方向 N-97°-E

壁 壁高は7～11cmで、外傾して立ち上がる。北壁が108号住居跡によって掘り込まれ、東壁の一部が攪乱によって残存していない。

壁溝 幅10～35cm、深さ2～10cmで、断面形はU字形である。東壁の一部を除き、壁下に確認されている。

床 全体的に平坦で、あまり踏み固められていない。

竈 第107-A号住居跡竈の南側に隣接し、東壁を壁外へ65cmほど掘り込み、付設されている。規模は長さ62cm、幅80cmで、天井部は崩落している。両袖部とも、ロームと砂混じりの灰色粘土で構築されているが、残存状況はあまりよくない。左袖部は第107-A号住居跡竈の右袖部をそのまま利用したと思われる。火床部は平坦で、火熱を受け赤変している。煙道は火床部から、緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黄褐色 焼土小ブロック中量、ローム粒子・炭化物少量、焼土粒子・砂少量 3 褐色 ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量
2 赤褐色 焼土粒子・粘土粒子中量、ローム粒子・砂小ブロック少量

覆土 単一層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

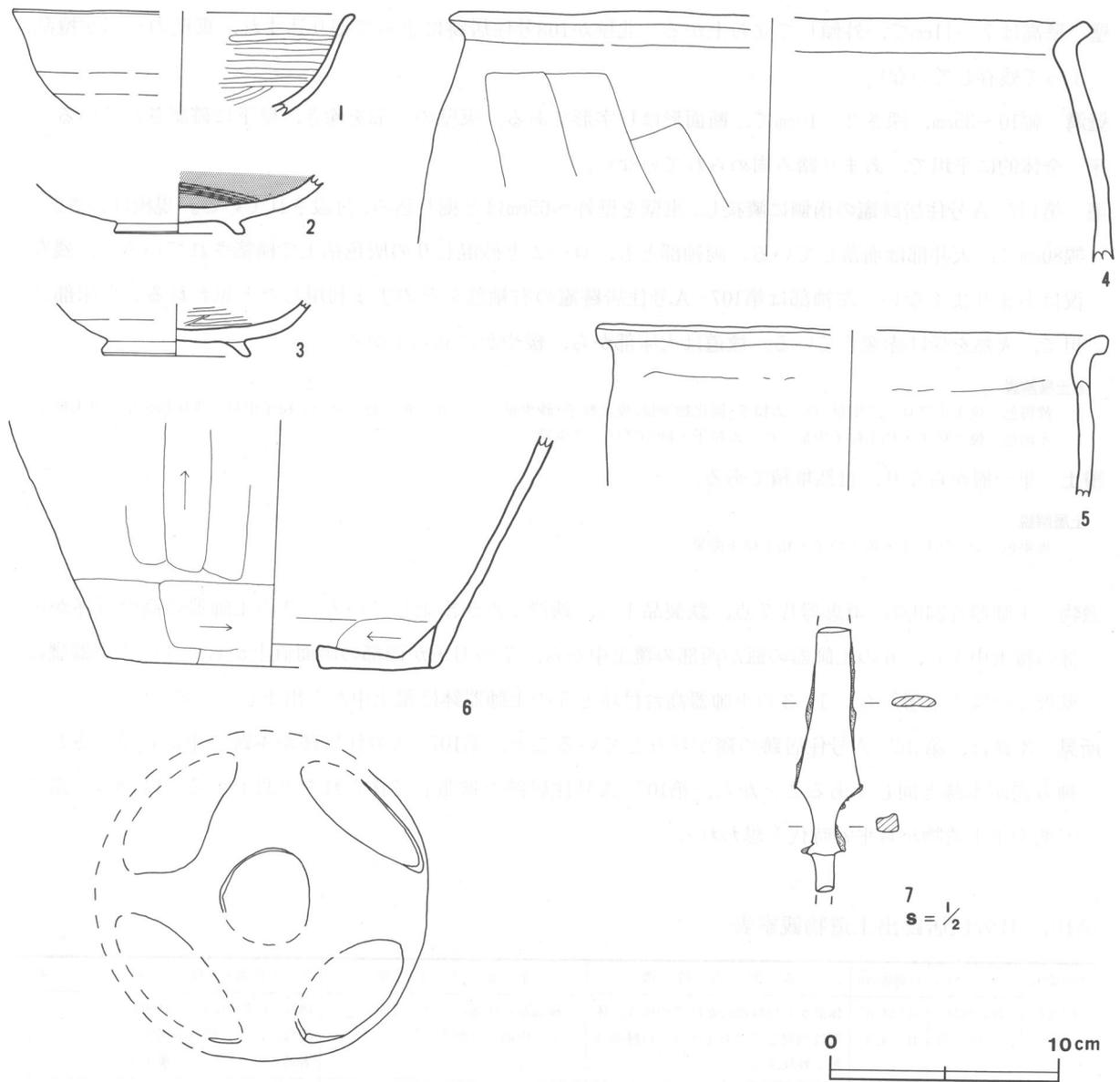
遺物 土師器片240点、須恵器片7点、鉄製品1点、鉄滓1点が出土している。2の土師器の高台付坏が南西部の覆土中から、6の土師器の甑が西部の覆土中から、7の刀子が西部の床面直上から、4の土師器甕は東壁近くの覆土下層から、1、3の土師器高台付坏と5の土師器鉢は覆土中から出土している。

所見 本跡は、第107-A号住居跡の竈が残存していること、第107-A号住居跡が本跡の中から確認され、主軸方向が本跡と同じであることから、第107-A号住居跡を拡張して作られたと思われる。時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代と思われる。

第107-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第213図 1	高台付坏 土師器	A [14.8] B (4.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部から体部にかけて外面クロコナデ。内面へら磨き。	砂粒・石英・長石・雲母、にぶい橙色普通	P599 10% 覆土中
2	高台付坏 土師器	B (2.2) D 5.4 E 0.5	体部上半欠損。平底に「ハ」の字状に開く短い高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面へら磨き。内面黒色処理。底部内面に「十」字状の刻文。	砂粒・雲母・長石にぶい橙色普通	P374 10% 覆土中
3	高台付坏 土師器	B (2.3) D 6.3 E 0.7	高台部から体部下位にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に短く開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面クロコナデ。体部内面へら磨き。底部回転糸切り後ナデ。高台部内・外面ナデ。	砂粒・雲母 明赤褐色普通	P600 30% 覆土中
4	甕 土師器	A [27.3] B (10.3)	体部上位から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に折れ、口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石にぶい赤褐色普通	P602 5% 覆土下層
5	鉢 土師器	A [22.0] B (7.0)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は直立し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・スコリア 橙色普通	P601 5% 覆土中
6	甑 土師器	B (10.3) C [14.4]	体部上半欠損。平底に五個の孔を持つと推定される。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面へら削り。	砂粒・長石・雲母・石英・小礫・バミスにぶい黄褐色普通	P375 10% 覆土中

図版番号	種別	計測値				備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
第213図7	鉄 鍔	(7.7)	2.0	0.3～0.5	14.0	M29 床直 70%



第213図 第107-B号住居跡出土遺物実測図

第108号住居跡 (第211・212図)

位置 調査2区南部, M12d5区。

重複関係 本跡は第107-A号住居跡, 第107-B号住居跡を掘り込んでおり, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.21m, 短軸2.64mの方形である。

主軸方向 N-93°-E

壁 壁高は3~10cmで, 緩斜して立ち上がる。東壁と南壁がそれぞれ一部, 攪乱によって残存していない。

壁溝 幅15~30cm, 深さ2~6cmで, 断面形はU字形である。南東コーナー部壁下から, 北壁下, 西壁下にかけて確認されている。

床 全体的に平坦で, あまり踏み固められていない。

竈 東壁中央部を壁外へ50cmほど掘り込み, 付設されている。規模は長さ90cm, 幅 [57] cmで, 天井部は崩落している。左袖部が残存し, ロームと砂混じりの灰色粘土で構築されている。火床部は平坦で, 火熱を受け, 一部が赤変している。煙道は火床部から平坦なまま伸び, 煙出し近くで垂直に立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黄褐色 粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 明赤褐色 焼土粒子・粘土粒子中量
- 4 赤褐色 ローム粒子・焼土中ブロック・粘土粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量

ピット 2か所。P₁, P₂は長径24~30cm, 短径20~26cmの楕円形で, 深さは9~10cmである。位置から, 主柱穴と考えられる。

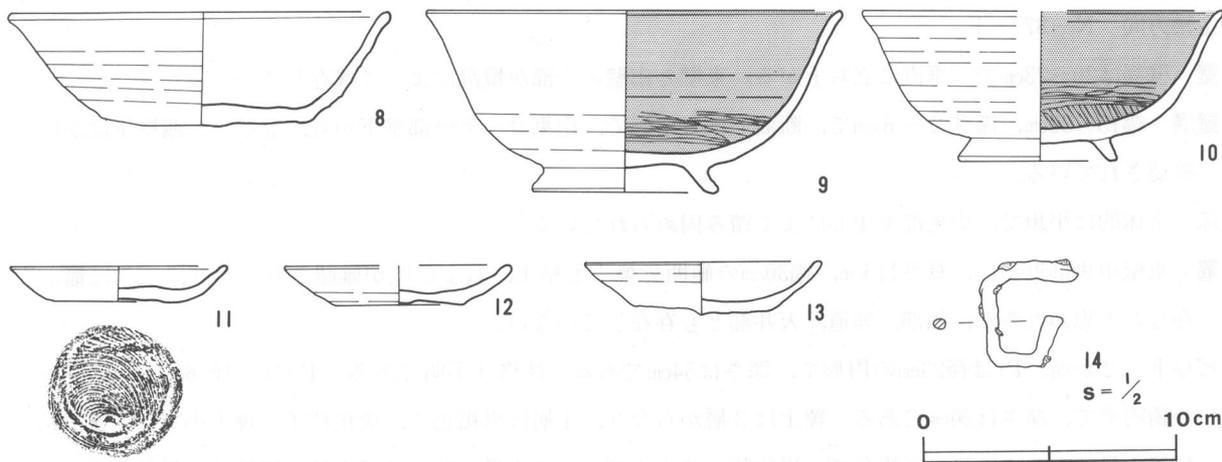
覆土 3層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・粘土小ブロック少量, ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

遺物 土師器片95点, 須恵器片8点, 土師質土器片3点, 鉄製品1点, 鉄滓3点が出土している。10の土師器の高台付坏が北東部の床面直上から, 8の土師器の坏と12の土師質土器の皿が南西部の床面直上から, 9の土師器の高台付坏と13の土師質土器の皿が竈前左手の床面直上から, 11の土師質土器の皿が竈前右手の床面直上から, 14の鉄製留金具が竈近くの床面直上から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から平安時代と思われる。



第214図 第108号住居跡出土遺物実測図

第108号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第214図 8	土師器 坏	A 14.8 B 4.6 C 7.8	平底で体部は内彎気味に立ち上がり口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・バミ ス, にふい橙色 普通	P376 80% 床直
9	土師器 高台付坏	A [16.4] B 7.3 D 7.3 E 1.0	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	体部内面ヘラ磨き。体部外面ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・スコリア・ 石英 にふい橙色 普通	P377 70% 床直
10	土師器 高台付坏	A [14.3] B 6.0 D 6.3 E 0.9	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	体部内面ヘラ磨き。体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・ 長石 にふい橙色 普通	P378 10% 床直
11	土師質土器 皿	A 8.4 B 1.5 C 5.0	平底で底部内面中央にやや厚味を持つ。体部は外傾して大きく開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 にふい褐色 普通	P379 100% 床直

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第214図 12	皿 土師質土器	A [9.0]	平底で底部内・外面中央にやや厚味を持つ。体部は外傾して大きく開き内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へら削り。	砂粒 鈍い褐色 普通	P380 80% 床直
		B 1.6				
		C 5.0				
13	皿 土師質土器	A 9.5	平底で体部は外傾して大きく開き、内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へら削り。	砂粒・スコリア・ 雲母、橙色 普通	P381 70% 床直
		B 1.8				
		C 5.4				

図版番号	種別	計測値				備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
第214図14	不明鉄製品	(2.7)	2.8	0.3	4.0	M30 床直

第109号住居跡 (第216図)

位置 調査2区南部, M12d7区。

重複関係 本跡は, 第110号住居跡に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 第110号住居跡に掘り込まれており, 規模は不明であるが, 長軸 [3.13] m, 短軸3.07mの方形と推定される。

主軸方向 N-87°-E

壁 壁高は20~23cmで, 垂直に立ち上がる。東壁と南壁の一部が攪乱によって残存していない。

壁溝 幅15~30cm, 深さ2~6cmで, 断面形はU字形で, 南東コーナー部壁下から, 北壁下, 西壁下にかけて確認されている。

床 全体的に平坦で, 中央部を中心によく踏み固められている。

竈 東壁中央部近くに, 長さ115cm, 幅30cmの範囲で焼土と粘土, および灰が確認されており, ここに竈が存在したと思われるが, 袖部, 煙道, 天井部とも存在していない。

ピット 2か所。P1は径23cmの円形で, 深さは54cmである。性格は不明である。P2は長径76cm, 短径68cm, の楕円形で, 深さは26cmである。覆土は3層からなり, 1層は黒褐色で, 炭化粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量である。2層は暗褐色で, 炭化物・焼土小ブロック少量, 粘土粒子中量, 灰粒子少量である。3層は暗褐色で, ローム粒子・焼土粒子少量である。自然堆積か人為堆積かは不明である。竈と推定した範囲の下から確認されており, 本跡の竈に関する土坑かどうかは不明である。

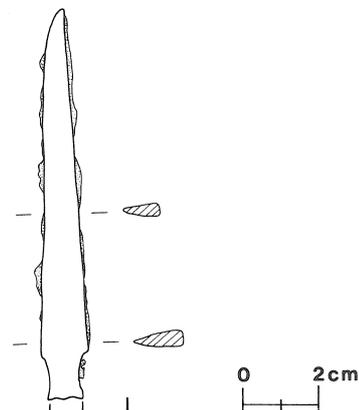
覆土 5層からなり, 自然堆積である。

土層解説

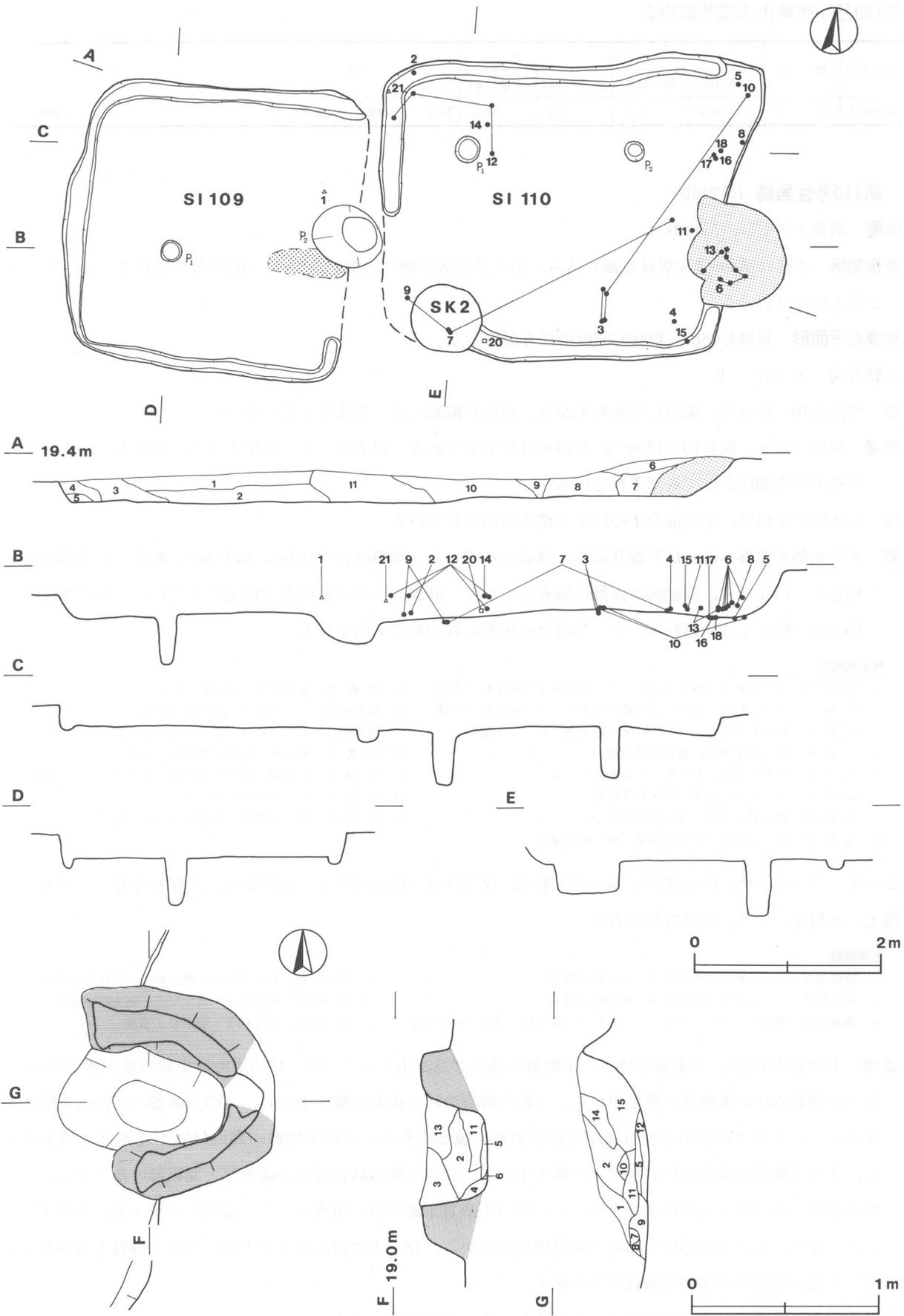
- 1 極暗褐色 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片397点, 須恵器片75点, 灰釉陶器片1点, 鉄製品1点, 鉄滓1点が出土している。1の刀子が東部覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から平安時代と思われる。



第215図 第109号住居跡出土遺物実測図



第216图 第109・110号住居跡実測図

第109号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				備考			
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)				
第215図1	刀子	(10.4)	1.2	0.4	11.0	M31	鉄製	覆土中	80%

第110号住居跡 (第216図)

位置 調査2区南部, M12d8区。

重複関係 本跡は第109号住居跡を掘り込み, 第2号土坑に掘り込まれており, 第109号住居跡より新しく, 第2号土坑より古い。

規模と平面形 長軸4.08m, 短軸3.33mの長方形である。

主軸方向 N-87°-E

壁 壁高は16~18cmで, 緩斜して立ち上がる。西壁が攪乱によって残存していない。

壁溝 幅13~30cm, 深さ10~12cmで, 断面形はU字形である。南東コーナー部壁下から, 南壁下と, 北壁下から西壁下中央部にかけて確認されている。

床 全体的に平坦で, 中央部を中心によく踏み固められている。

竈 東壁南部を壁外へ60cmほど掘り込み, 付設されている。規模は長さ105cm, 幅115cmである。天井部は崩落し残存していないが, 両袖部は良好に残存しており, 砂混じりの白色粘土で構築されている。火床部は円形に10cmほど掘りくぼめられている。煙道は火床から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|---------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 9 黒褐色 | 炭化粒子多量, 焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・焼土中ブロック・粘土粒子少量 | 10 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック少量 | 11 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子少量 | 12 赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 5 褐灰色 | 灰粒子多量, 炭化粒子・焼土粒子少量 | 13 黒褐色 | 砂中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量 |
| 6 灰褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・粘土中ブロック少量 |
| 7 赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子少量 | 15 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子・炭化物少量, 焼土粒子微量 | | |

ピット 2か所。P₁, P₂は径20~30cmの円形で, 深さは56~60cmである。位置から, 主柱穴と考えられる。

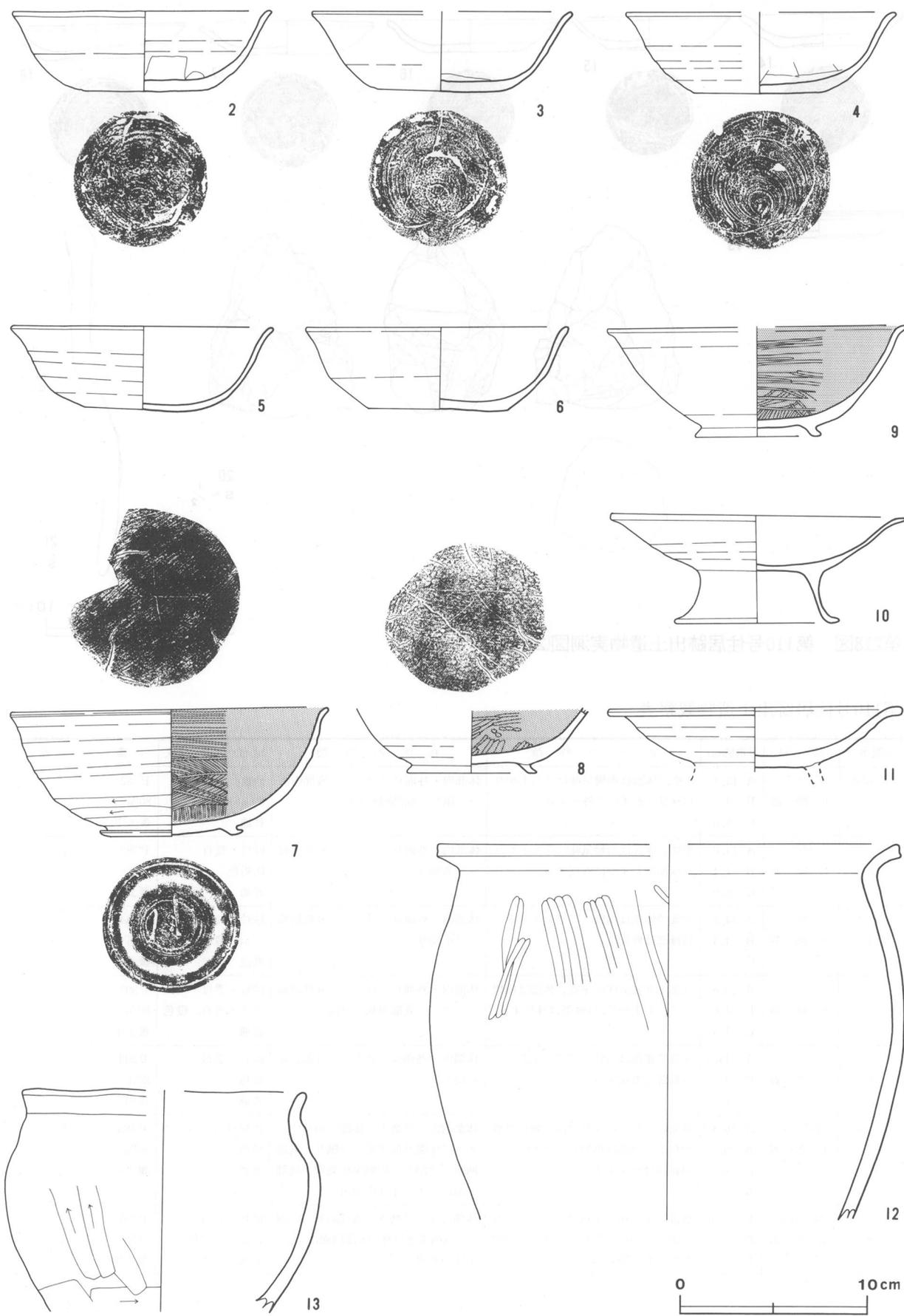
覆土 6層からなり, 自然堆積である。

土層解説

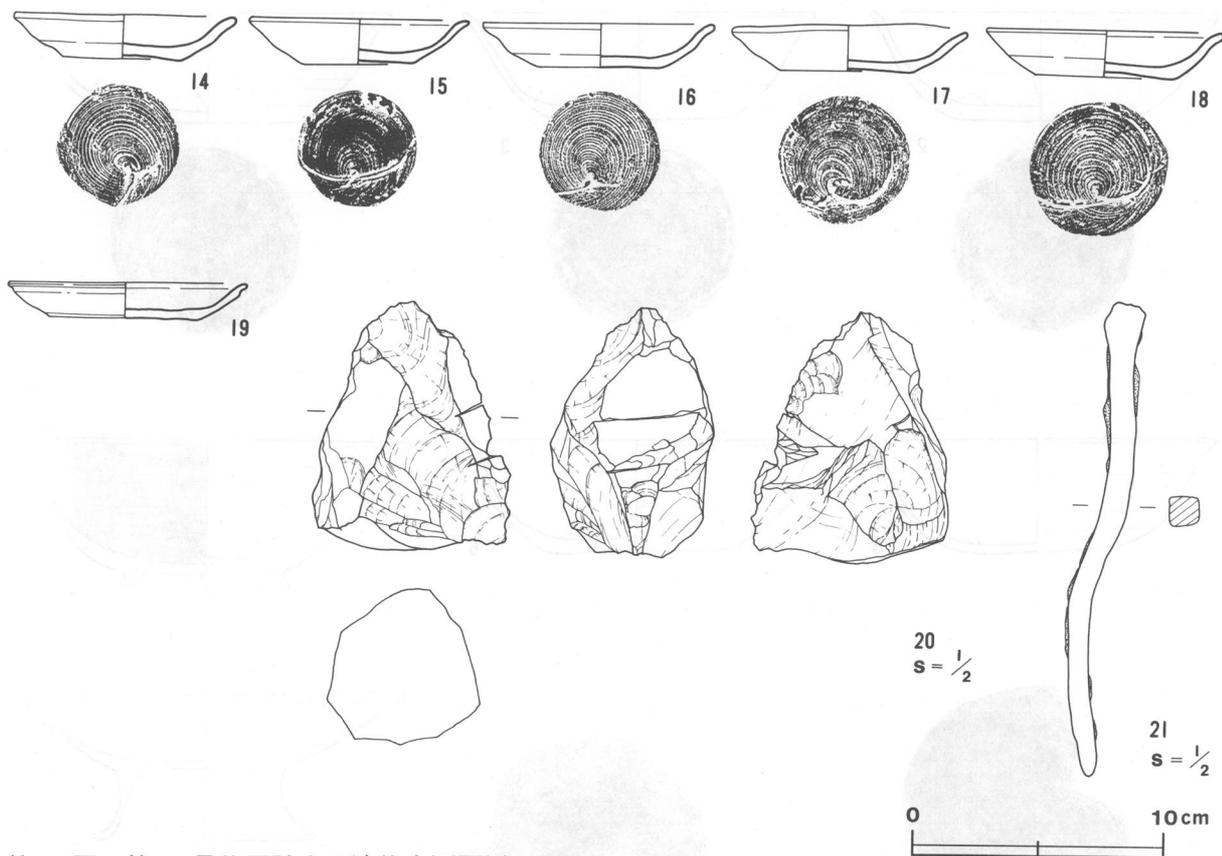
- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|-------------------|
| 6 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 10 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 8 極暗褐色 | 焼土小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 11 黒褐色 | 炭化粒子・焼土粒子微量 |

遺物 土師器片376点, 須恵器片18点, 土師質土器片2点が出土している。19の土師質土器の皿が覆土中から, 2の土師器の坏が北西部の覆土中から, 3の土師質の坏が南部の覆土中から, 4の土師器の坏が南東部の覆土中から, 7の土師器の高台付坏が東部と西部の覆土中から, 9の土師器の高台付坏が北西部の覆土中から, 8の土師器の高台付坏が東壁下の覆土中から, 10の土師器高台付坏が南東部と北東部の覆土中から, 14の土師質土器の皿が北西部の覆土中から, 15の土師質土器の皿が南東コーナー部壁下の覆土中から出土している。また, 6の土師器坏と13の土師器甕が竈内から, 18の土師質土器の皿と16, 17の土師質土器の皿が重なって竈左袖部の左手の床面直上から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から平安時代と思われる。



第217图 第110号住居跡出土遺物実測図(1)



第218図 第110号住居跡出土遺物実測図(2)

第110号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第217図 2	坏 土師器	A 13.8 B 4.4 C 6.5	平底で体部は内彎気味に立ち上がり 口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部内面 へら削り。底部回転糸切り。	砂粒 にふい橙色 普通	P 382 80% 覆土中
3	坏 土師器	A [14.0] B 4.4 C 6.9	平底で体部は内彎気味に立ち上がり 口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転 へら糸切り。	砂粒・長石 灰褐色 普通	P 383 70% 覆土中
4	坏 土師器	A [14.5] B 4.4 C 7.2	平底で体部は内彎して立ち上がり、 口縁部は外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転 へら糸切り。	砂粒・長石 にふい橙色 普通	P 384 50% 覆土中
5	坏 土師器	A 13.8 B 4.6 C 7.4	底部は丸底気味の平底。体部は内彎 して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部内面 へらナデ。底部回転へら削り。	砂粒・雲母・スコ リア・長石、橙色 普通	P 392 80% 覆土中
6	坏 土師器	A 14.1 B 4.6 C 7.5	平底で体部は内彎して立ち上がり、 口縁部は外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転 糸切り。	砂粒・雲母 橙色 普通	P 393 80% 竈内
7	高台付坏 土師器	A 16.8 B 6.9 D 7.7 E 0.6	丸底に「ハ」の字状に開く短い高台 が付く。体部は内彎して立ち上がり 口縁部は外反する。	体部内面へら磨き。体部外面ロクロ ナデ。体部外面下半へら削り。底部 回転へら削り。内面黒色処理。底部 内面に「十」字状の刻書。	砂粒・長石・バミス 橙色 普通	P 385 80% 覆土中
8	高台付坏 土師器	B (3.4) D 6.8 E 0.4	体部上半欠損。平底に「ハ」の字状 に開く短い高台が付く。体部は内彎 して立ち上がる。	体部内面へら磨き。底部回転へら削 り。内面黒色処理。体部内面に「大」 字状の刻書。	砂粒・長石 にふい赤褐色 普通	P 387 30% 覆土中

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第217図 9	高台付坏 土 師 器	A [16.0] B 5.9 D 6.7 E 0.5	平底に「ハ」の字状に開く短い高台が付く。体部は内彎して立ち上がり口縁部は外反する。	体部内面へラ磨き。体部外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石にふい黄橙色 普通	P386 40% 覆土中
10	高台付坏 土 師 器	A 16.0 B 6.1 D 8.6	平底に「ハ」の字状に開く足高高台が付く。体部は内彎気味に開いて立ち上がり、口縁部は外反する。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・スコリア・長石・雲母、橙色 普通	P394 95% 覆土中
11	高台付坏 土 師 器	A 15.6 B (3.5)	平底に「ハ」の字状に開く高台が付くと推定される。体部は内彎気味に開きながら立ち上がり、口縁部は強く外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部内面へラナデ。底部回転へラ削り。	砂粒・長石・雲母・バミス 橙色 普通	P395 70% 竈内
12	甕 土 師 器	A [24.2] B (20.3)	底部・体部下半欠損。体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状に外反する。口唇部はわずかに摘み上げられる。	口縁部内外面横ナデ。体部外面へラ磨き。	砂粒・石英・長石 暗赤褐色・赤黒色 普通	P389 30% 覆土中
13	甕 土 師 器	A [15.0] B (12.0)	体部は球形で上位に最大径を持つ。頸部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	砂粒・長石・石英 赤褐色 普通	P388 30% 覆土中
第218図 14	皿 土師質土器	A 8.7 B 1.8 C 4.6	平底で突出気味。体部は内彎気味に外に大きく開き、口縁部は外反する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P390 70% 覆土中
15	皿 土師質土器	A 8.6 B 2.0 C 4.4	平底で底部内面中央にやや厚味を持つ。体部は内彎気味に外に開き、口縁部は外反する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石 橙色 普通	P391 70% 覆土中
16	皿 土師質土器	A 9.3 B 1.4 C 4.7	平底で体部は内彎しながら大きく開いて立ち上がり、口縁部は外反する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・スコリア、にふい橙色 普通	P396 100% 床直
17	皿 土師質土器	A 9.3 B 2.0 C 5.1	平底で体部は内彎気味に大きく開いて立ち上がり、口縁部は外反する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・バミス、にふい橙色 普通	P397 100% 床直
18	皿 土師質土器	A 9.3 B 1.9 C 5.5	平底で底部内面中央にやや厚味を持つ。体部は内彎気味に大きく開いて立ち上がり、口縁部は外反する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・スコリア・バミス・石英 にふい橙色、普通	P398 100% 床直
19	皿 土師質土器	A 9.3 B 1.5 C 5.8	平底で体部は内彎気味に大きく開きながら立ち上がり、口縁部に稜を持ち、わずかに外反する。	水挽き成形。底部回転へラ削り。	砂粒・長石・スコリア・雲母 明暗赤褐色、普通	P399 80% 覆土中

図版番号	種 別	計 測 値					石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第218図20	剥 片	6.6	5.1	4.4		134.0	黒 曜 石	覆土下層	Q23

図版番号	種 別	計 測 値				備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
第218図21	鉄 釘	(12.6)	0.8	0.7	31.0	M32 覆土中層

第113号住居跡 (第219図)

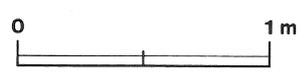
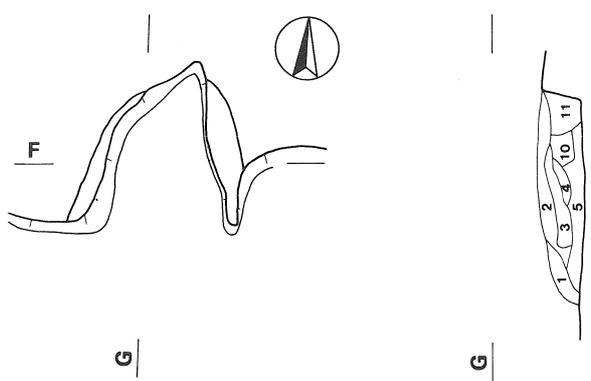
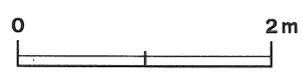
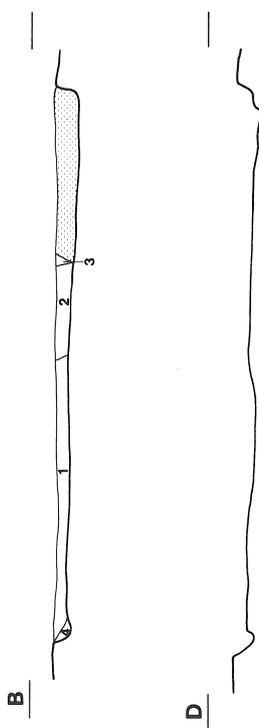
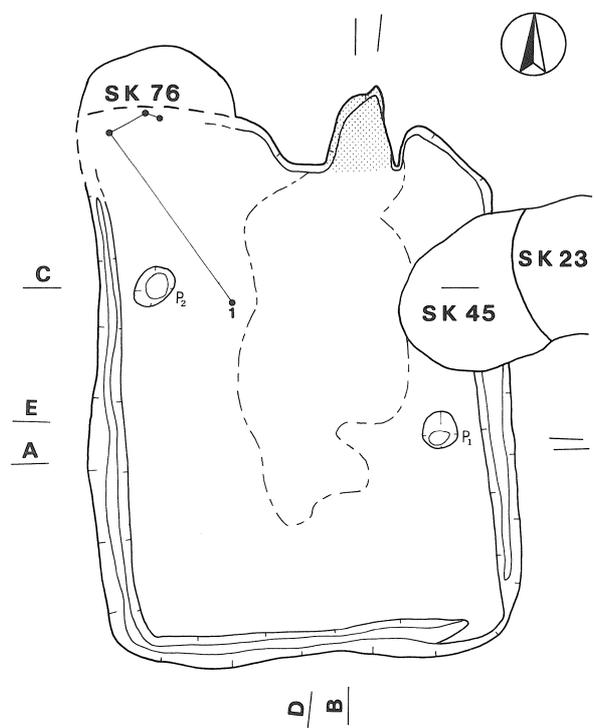
位置 調査2区南部，M12c3区。

規模と平面形 長軸4.34m，短軸3.37mの長方形である。

主軸方向 N-2°-E

重複関係 第45号土坑が本跡を掘り込んでおり，本跡は第76号土坑を掘り込んでいるため，本跡は第76号土坑より新しく，第45号土坑より古い。

壁 壁高は8~20cmで，外傾して立ち上がる。北西コーナー部の壁が第76号土坑によって，東壁の一部が第45



第219图 第113号住居跡実測図

号土坑によって掘り込まれており、残存していない。

床 全体的に平坦で、竈周辺部から中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁南東コーナー部近くに壁外へ30cmほど掘り込み、付設されている。規模は長さ70cm、幅70cmである。

右袖部は良好に残存するが、左袖部は壁際の一部しか残存していない。両袖部とも砂混じりの灰色粘土で構築されている。火床部は円形に5cmほど掘りくぼめられている。煙道は火床から緩やかに立ち上がり、煙出し近くで急傾する。

竈土層解説

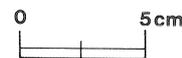
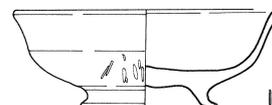
- | | | | |
|-------|----------------------------|---------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子中量, 焼土小ブロック微量 | 7 極暗褐色 | 炭化粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量, 砂中量 |
| 2 黄褐色 | ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量, 砂多量 | 8 黄褐色 | 焼土粒子少量, 粘土粒子中量, 砂中量 |
| 3 赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子中量, 砂多量 | 9 暗褐色 | 炭化粒子中量, 砂少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 砂中量 | 10 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子中量, 焼土小ブロック微量 | 11 暗赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土中ブロック中量, 砂少量 |
| 6 赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子多量 | | |

ピット 2か所。P1~P2は長径30~36cm、短径25~27cmの楕円形で、深さは17~38cmである。P1~P2とも性格は不明である。

覆土 4層からなり、各層ともロームブロックが混じっているが、覆土が薄く、自然堆積か人為堆積かは不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量



遺物 土師器片176点、須恵器片22点が出土している。1の土師器の高台付坏が北西コーナー部壁下の床面直上と中央部北寄りの床面直上から、出土している。

第220図 第113号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代と考えられる。

第113号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第220図 1	高台付坏 土師器	A 10.6 B 3.9 D 6.9 E 0.6	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面横ナデ。底部回転へう削り。	砂粒・長石・スコリア にふい橙色 普通	P405 70% 床直

第114号住居跡 (第221図)

位置 調査2区南部, L12d8区。

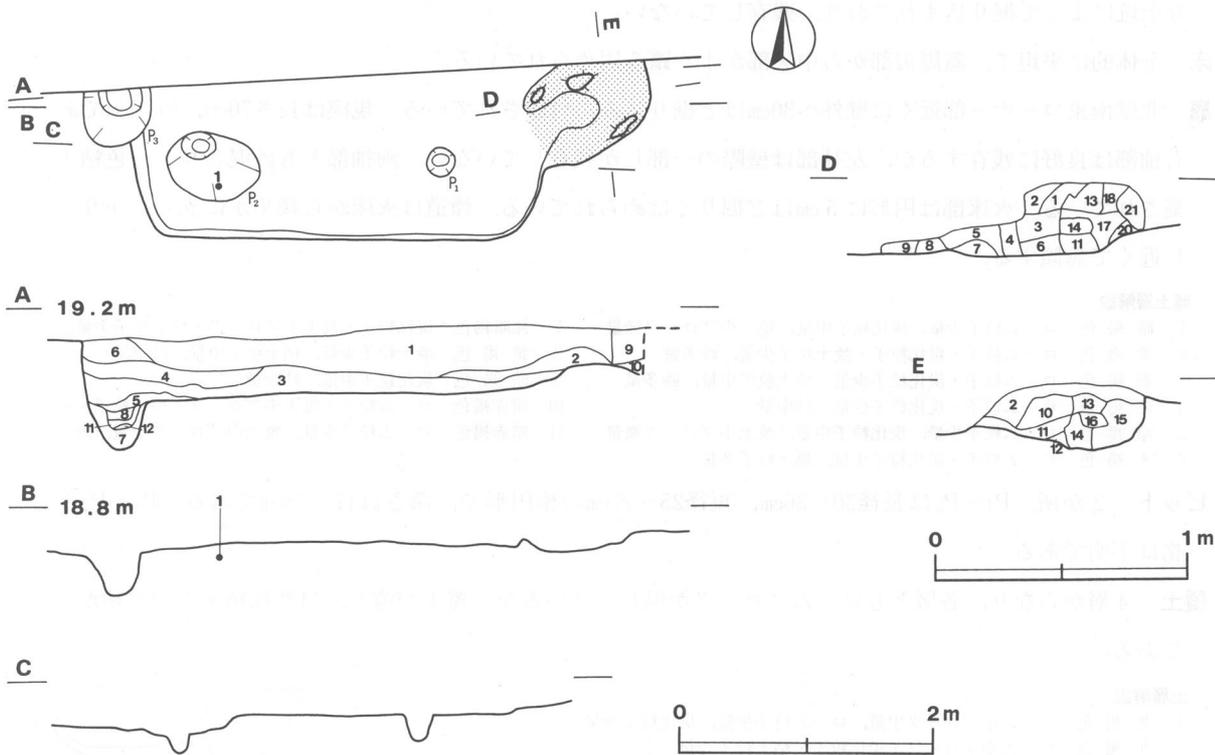
規模と平面形 本跡の北側が調査区域外のため規模は不明だが、長軸4.43m、短軸(1.31)mの長方形と推定される。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は4~8cmで、緩斜して立ち上がる。

床 全体的に平坦で、よく踏み固められている。

竈 東壁を壁外へ80cmほど掘り込み、付設されている。天井部は崩落して残存せず、砂混じりの灰色粘土で構築された左袖部の一部が確認された。火床部は楕円形に4cmほど掘りくぼめられ、火熱を受け、赤変している。



第221図 第114号住居跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|---------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 13 黒褐色 | 粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子微量 | 14 極暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 粘土粒子少量 | 15 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・粘土粒子少量 | 16 黒褐色 | 焼土粒子微量, 粘土粒子少量 |
| 6 極暗褐色 | 焼土粒子微量 | 17 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量, 粘土粒子微量 |
| 7 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 18 極暗褐色 | 焼土粒子少量, 粘土粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子中量 | 19 極暗褐色 | 粘土中ブロック少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック微量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 | 20 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 10 黒褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子微量 | 21 黒褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック微量 |
| 11 黒褐色 | 粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | | |

ピット 3か所。P1は径22cmの円形で、深さは21cmである。P2は長径75cm、短径50cmの楕円形で、深さは28cmである。両者とも、位置から支柱穴と考えられる。P3は上端の部分が崩落して広がっているが、本来は径40cmほどの楕円形と推定される。深さは35cmで、位置から出入り口ピットと考えられる。

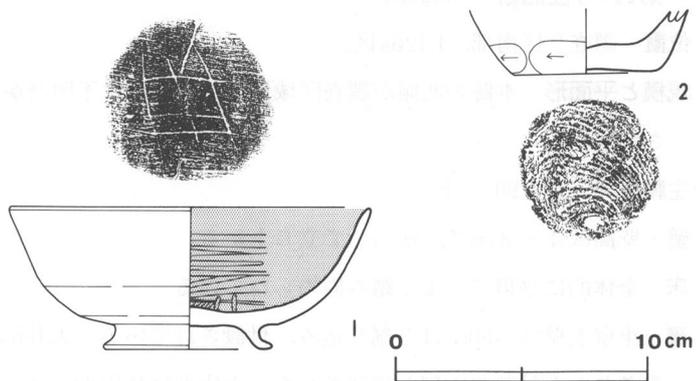
覆土 12層からなり、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土中ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化物少量, 炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 7 褐色 | ローム粒子中量 |
| 8 暗褐色 | ローム中ブロック中量, ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量 |
| 9 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 10 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 11 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子少量 |
| 12 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子多量 |

遺物 土師器片79点, 須恵器片2点, 炭化材

1点が出土している。2の土師器の甕が覆土中から、1の土師器の高台付坏がP2内



第222図 第114号住居跡出土遺物実測図

の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代と思われる。

第114号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第222図 1	高台付坏 土師器	A [14.2] B 5.7 D 6.6 E 0.9	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き。体部外面ロクロナデ。体部外面下半へラ削り。内面黒色処理。底部内面に刻書。	砂粒・スコリア・バミス・雲母 明赤褐色 普通	P406 40% ビット内
2	甕 土師器	B (2.6) C 5.6	底部破片。平底で体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下半へラ削り。底部回転糸切り。	砂粒・小礫・バミス・石英、橙色 普通	P407 5% 覆土中

第115-A号住居跡（第14図）

位置 調査2区南部，M13a7区。

重複関係 第115-B号住居跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.90m，短軸 [4.00] mの長方形と推定される。

主軸方向 N-29°-W

壁 壁高は27～38cmで，外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で，あまり踏み固められていない。

竈 北西壁推定ライン北部に，径40cmの範囲で円形に焼土と粘土が確認されており，ここに竈が付設されていたと考えられるが，天井部，袖部，火床部とも残存していない。

覆土 2層からなるが，自然堆積か人為堆積かは不明である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量 2 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量

遺物 土師器片66点，須恵器片6点が出土している。ほとんどが細片である。

所見 本跡の大半を第115-B号住居跡によって掘り込まれているため，遺構の形態が明瞭ではないが，出土遺物から時期は平安時代と思われる。

第115-B号住居跡（第14図）

位置 調査2区南部，M13a7区。

重複関係 本跡は第115-C号住居跡と第115-A号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が最も新しい。

規模と平面形 本跡は第115-A号住居跡と重複しているため規模は不明であるが，長軸[4.53]m，短軸4.48mの方形と推定される。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は20～29cmで，外傾して立ち上がる。重複や攪乱により，北壁と東壁，西壁がそれぞれ一部残存するだけである。

床 全体的に平坦で，あまり踏み固められていない。

竈 北壁付近に，長径40cm，短径30cmの楕円形に粘土が確認され，長径100cm，短径40cmの楕円形に焼土が確認されている。ここに竈が付設されていたと考えられるが，天井部，袖部，火床部とも残存していない。

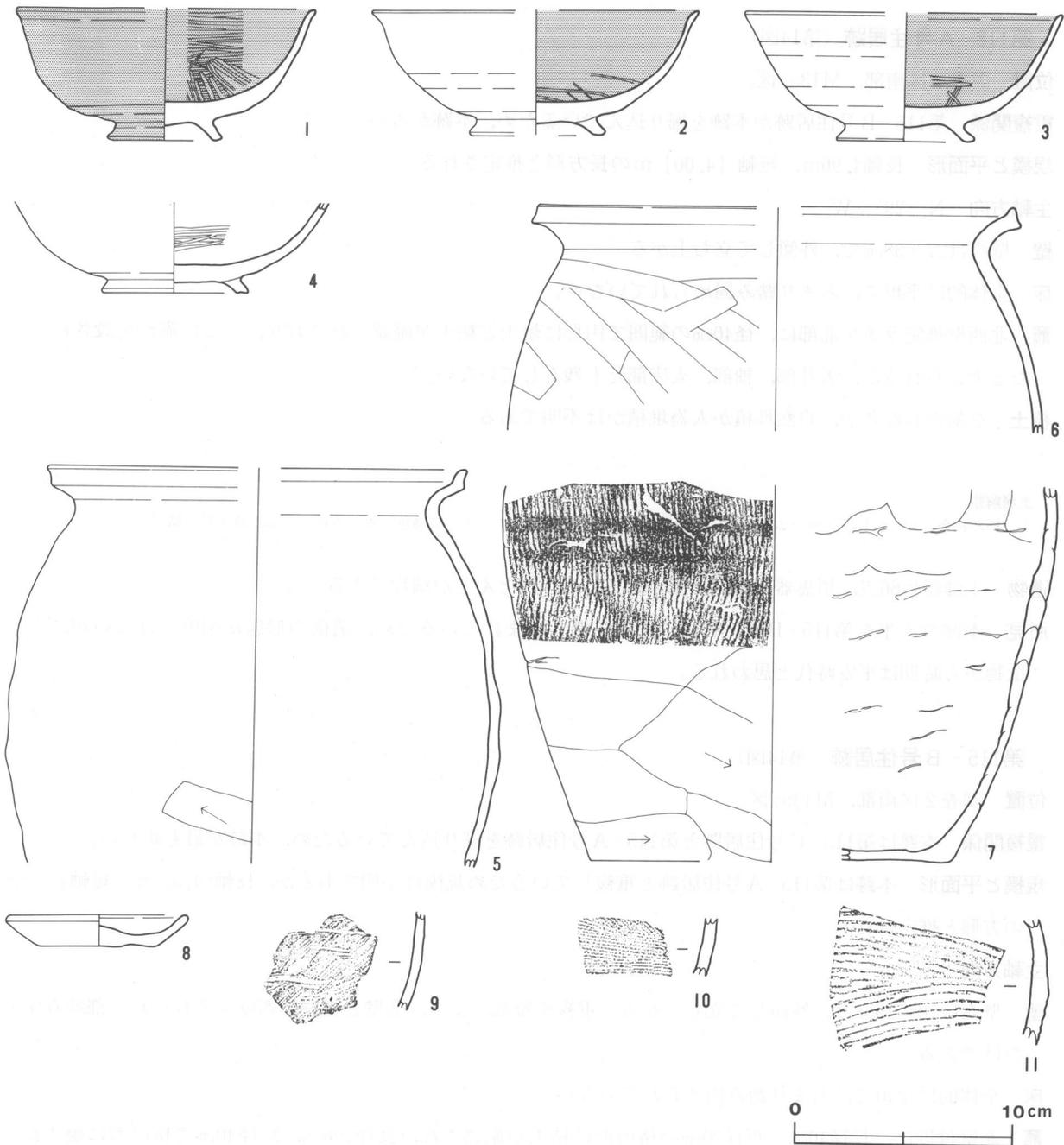
ピット 2か所。P1は長径50cm，短径45cmの楕円形で，深さは17cmである。位置から支柱穴と考えられる。P2は長径70cm，短径63cmの楕円形で，深さは39cmである。位置から出入口ロピットと考えられる。

覆土 10層からなり，自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 3 黒褐色 ローム粒子微量 | 8 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子微量 | 9 極暗褐色 ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 10 黒褐色 ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 | 11 暗褐色 ローム中ブロック中量 |
| 7 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 12 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量 |

遺物 土師器片507点，須恵器片47点，灰釉陶器片1点，土師質土器片1点が出土している。1の土師器の高台付坏が南部の床面直上から，2の土師器の高台付坏がP1の覆土中から，3の土師器の高台付坏が北部の



第223図 第115-B号住居跡出土遺物実測図

覆土中から、5と7の土師器と須恵器の甕が竈付近の床面直上から、8の土師質土器の皿が南西部の床面直上から出土している。9、10は覆土中から出土した土師器片で、外面に刷毛目整形が施されている。11は覆土中から出土した須恵器片で、外面に平行叩きが施されている。

所見 本跡は攪乱が激しく、第115-A号住居跡や第115-C住居跡と重複しているため、遺構の形態が明瞭ではないが、床面から出土した遺物から、平安時代の遺構と思われる。

第115-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第223図 1	高台付坏 土師器	A [13.6] B 6.1 D 5.2 E 0.8	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き。体部外面ロクロナデ。体部外面下半へラ削り。底部回転へラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英・雲母 にふい黄橙色 普通	P 408 40% 床直
2	高台付坏 土師器	A [14.8] B 5.8 D [6.0] E 0.8	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、中位に沈線が巡る。口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き。体部外面ロクロナデ。体部外面下半へラ削り。底部回転へラ削り。内面黒色処理。	砂粒・長石 灰黄褐色 普通	P 409 50% ビット内
3	高台付坏 土師器	A [14.6] B 5.9 D 6.3 E 0.7	平底に「ハ」の字状に開く高台が付き、体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き。体部外面ロクロナデ。底部回転へラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・スコリア にふい橙色 普通	P 410 30% 覆土中
4	高台付坏 土師器	B (4.2) D 6.5 E 0.8	高台部から体部下位にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に短く開く。体部は内彎して立ち上がる	体部外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。高台部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 にふい橙色 普通	P 603 40% 覆土中
5	甕 土師器	A [19.0] B (18.3)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径を持ち、頸部は「く」の字に外反する。口縁部は稜を持ち、端部は外反気味に摘み上がる。	口縁部、頸部内外面横ナデ。体部外面へラ削り。	砂粒・長石・石英・スコリア にふい橙色 普通	P 412 35% 床直
6	甕 土師器	A [21.8] B (10.4)	体部から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に折れ、口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母、にふい赤褐色、普通	P 604 5% 覆土下層
7	甕 須恵器	B (17.3) C 16.5	底部、体部下半破片。平底で体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面叩き。体部外面下半へラ削り。	砂粒・雲母・長石 にふい橙色 普通	P 413 40% 床直
8	皿 土師質土器	A 8.1 B 1.5 C 5.4	平底で底部内面中央に厚味を持つ。体部は外傾しながら立ち上がる。	水挽き成形。底部回転へラ削り。	砂粒・雲母 浅黄褐色 普通	P 414 80% 床直

第116号住居跡（第224図）

位置 調査2区東部，L14d3区。

規模と平面形 本跡は南東部が調査区外であり、北西壁と南西壁が攪乱により残存せず、規模は不明であるが、長軸 [2.36] m，短軸 [2.08] mの方形と推定される。

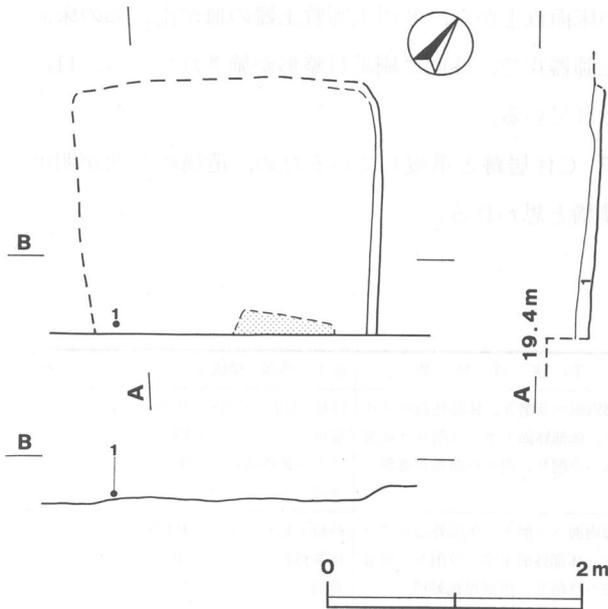
主軸方向 N-34°-W

壁 壁高は13cmで、緩斜して立ち上がる。北西壁と南西壁が攪乱によって残存していない。

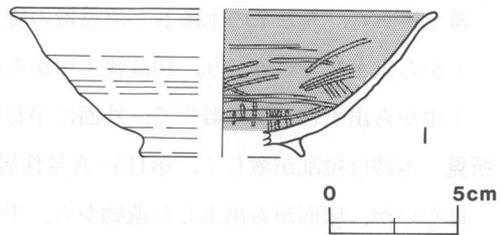
床 全体的に平坦で、あまり踏み固められていない。

竈 南東部に、長さ65cm，幅20cmに焼土と粘土が確認されており、ここに竈が存在したと思われるが、袖部、煙道、天井部とも残存していない。

覆土 単一層で、自然堆積である。



第224図 第116号住居跡実測図



第225図 第116号住居跡出土遺物実測図

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片23点、須恵器片2点、灰釉陶器片1点が出土している。1の土師器の高台付杯が北部コーナーの覆土中から出土している。

所見 本跡は攪乱が激しく遺構の形態が明瞭ではないが、時期は出土遺物から平安時代と考えられる。

第116号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第225図 1	高台付杯 土師器	A [16.8] B 5.9 D [6.4] E 0.9	平底に「ハ」の字に開く短い高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がり口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き。体部外面ロクロナデ。体部外面下半へラ削り。内面黒色処理。	砂粒・スコリア・雲母・長石 橙色 普通	P415 40% 覆土中

第117号住居跡 (第226図)

位置 調査2区南部, M12e5区。

重複関係 本跡は第93号土坑, 第127号土坑, 第128号土坑に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 本跡の大半が調査区外にあるため規模は不明であるが, 長軸3.88m, 短軸(2.44)mの長方形と推定される。

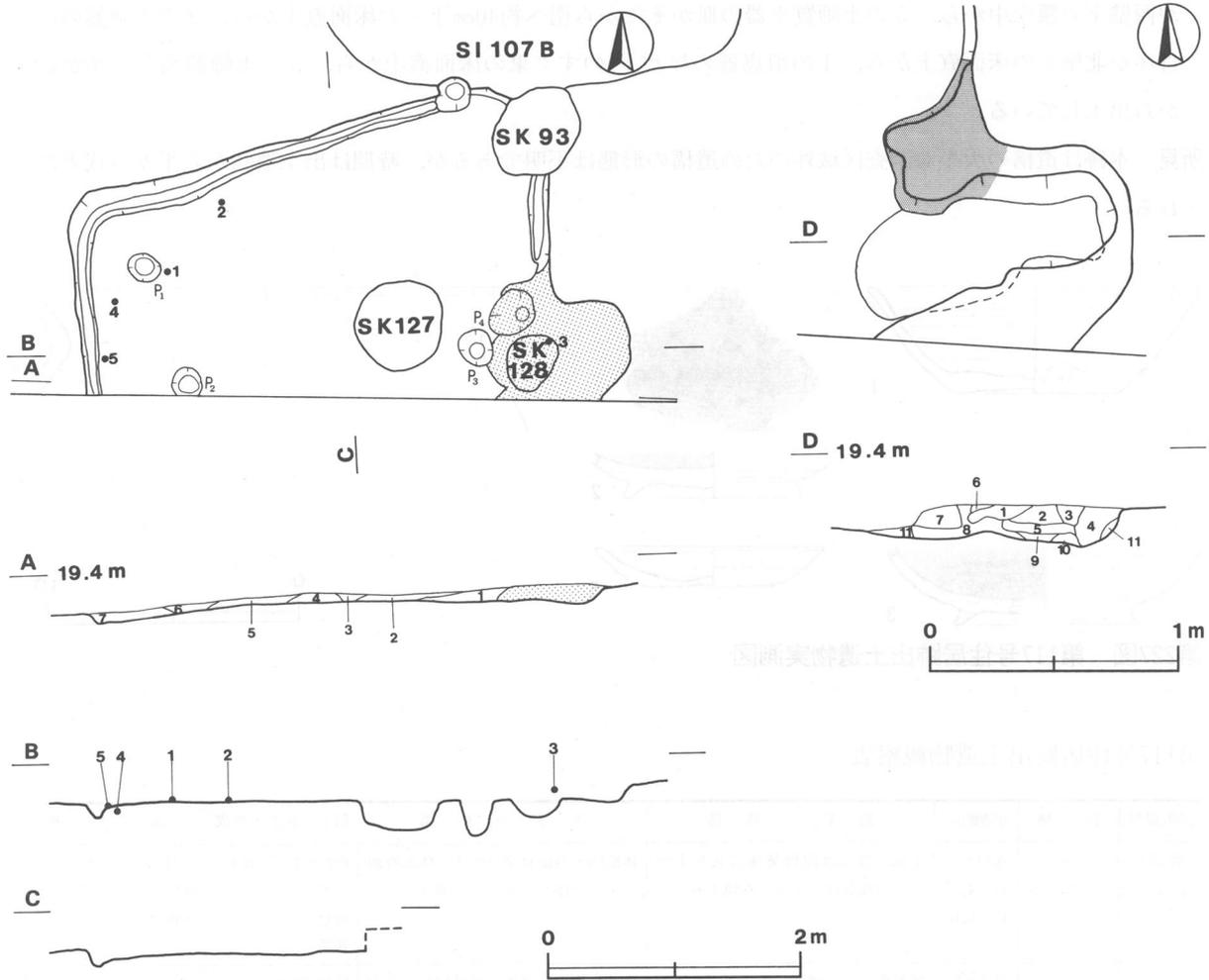
主軸方向 N-83°-W

壁 壁高は3~5cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 幅12~25cm, 深さ5~10cmで, 断面形はU字形である。南側が調査区外で不明であるが, 壁下を全周していたと推定される。

床 全体的に平坦で, よく踏み固められている。

竈 東壁の調査区境界近くに, 壁外へ60cmほど掘り込み, 付設されている。右袖部が調査区外のため規模は不



第226図 第117号住居跡実測図

明だが、長さ115cm、幅[100] cmである。天井部は崩落して残存せず、砂混じりの白色粘土で構築された左袖部の一部が確認されている。火床部は楕円形に2 cmほど掘りくぼめられ、火熱を受けて赤変している。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|----------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子多量 | 7 灰褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子少量 | 8 黒褐色 焼土粒子・焼土小ブロック微量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子微量 | 9 暗赤褐色 炭化粒子・焼土粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 極赤褐色 焼土粒子微量 |
| 5 赤褐色 粘土粒子中量, 炭化粒子・灰少量, 焼土粒子微量 | 11 黒褐色 焼土粒子微量 |
| 6 灰黄色 粘土粒子中量 | |

ピット 4か所。P₁は径25cmの円形で、深さは8 cmである。位置から主柱穴と考えられる。P₂は径25cmの円形で、深さは21cmある。位置から出入り口ピットと考えられる。P₃, P₄は長径30~40cm, 短径25~33cmの楕円形で、深さは30~34cmである。性格は不明である。

覆土 7層からなり、人為堆積である。

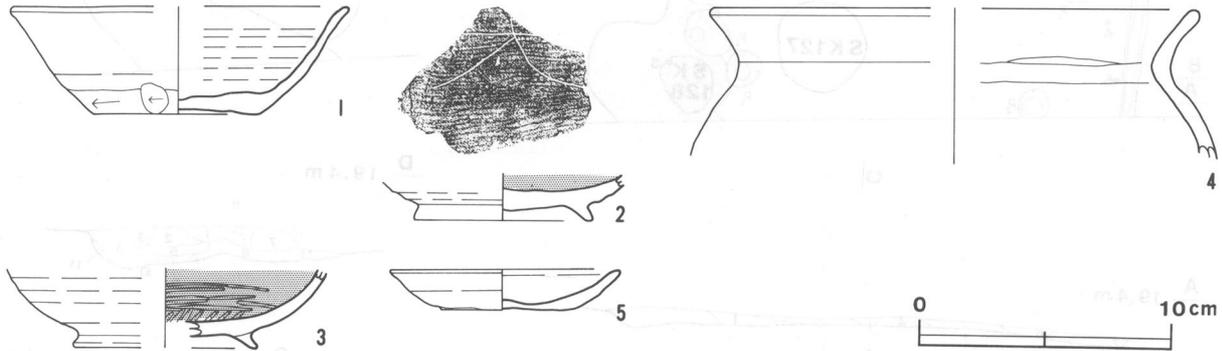
土層解説

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子・粘土粒子少量 | 5 極暗褐色 粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 ローム小ブロック・粘土小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量 | 7 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量 | |

遺物 土師器片114点, 須恵器片13点, 灰釉陶器片1点, 土師質土器片1点が出土している。4の土師器の甕

が西壁下の覆土中から、5の土師質土器の皿がそこから南へ約40cm下った床面直上から、2の土師器の高台付坏が北壁下の床面直上から、1の須恵器の坏がP1のすぐ東の床面直上から、3の土師器高台付坏が竈内から出土している。

所見 本跡は遺構の大半が調査区域外のため遺構の形態は不明であるが、時期は出土遺物から平安時代と思われる。



第227図 第117号住居跡出土遺物実測図

第117号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第227図 1	坏 須恵器	A [13.2] B 4.3 C 6.6	平底で体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面下半へラ削り。底部へラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P 419 40% 床直
2	高台付坏 土師器	B (1.5) D 7.1 E 0.6	底部破片。平底に「ハ」の字状に開く短い高台が付く。	底部内面へラ磨き。底部回転へラ削り。内面黒色処理。底部内面に「大」の字状の刻文。	砂粒・雲母・バミスにふい橙色 普通	P 416 20% 床直
3	高台付坏 土師器	B (3.1) D [7.2] E 0.7	高台部から体部にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に短く開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。内面黒色処理。高台部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P 605 30% 竈内
4	甕 土師器	A [19.2] B (6.0)	口縁部、体部上半破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は外反する。口縁部は短く外傾する。	頸部内・外面横ナデ。体部内面へラナデ。	砂粒・小礫・雲母・スコリア・石英 橙色、普通	P 417 10% 覆土中
5	皿 土師質土器	A 9.1 B 1.5 C 6.0	平底で底部内面中央にやや厚味を持つ。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	水挽き成形。底部回転へラ削り。	砂粒・スコリア・長石、橙色 普通	P 418 100% 床直

第118号住居跡 (第76図)

位置 調査4区中央部, I10c0区。

重複関係 本跡は、第127号住居跡、第128号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.63m, 短軸3.32mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は4~20cmで、外傾して立ち上がる。北壁と西壁の一部が、攪乱によって残存していない。

床 全体的に平坦で、よく踏み固められている。

竈 北壁中央部に、壁外へ50cmほど掘り込み、付設されている。規模は長さ125cm, 幅135cmである。天井部は残存せず、砂混じりの白色粘土で構築された袖部が一部残存するのみである。煙道、火床部とも明確には確

認できなかった。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土小ブロック少量, 粘土小ブロック微量 | 7 黒褐色 ローム中ブロック・焼土小ブロック少量 |
| 2 褐灰色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック少量 | 8 褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 焼土小ブロック・粘土粒子少量 | 9 褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量 |
| 4 赤褐色 焼土小ブロック中量, 粘土粒子少量 | 10 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子多量, 粘土粒子微量 | 11 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 6 暗褐色 ローム粒子中量 | |

ピット 3か所。P1は長径70cm, 短径55cmの楕円形で, 深さは25cmである。位置から主柱穴と考えられる。P2は径28cmの円形で, 深さは60cmである。位置から出入り口ピットと考えられる。P3は長径68cm, 短径61cmの楕円形で, 深さは15cmである。竈の脇にあり, 覆土から炭化物と焼土ブロックが確認されていることから, 灰出穴と考えられる。

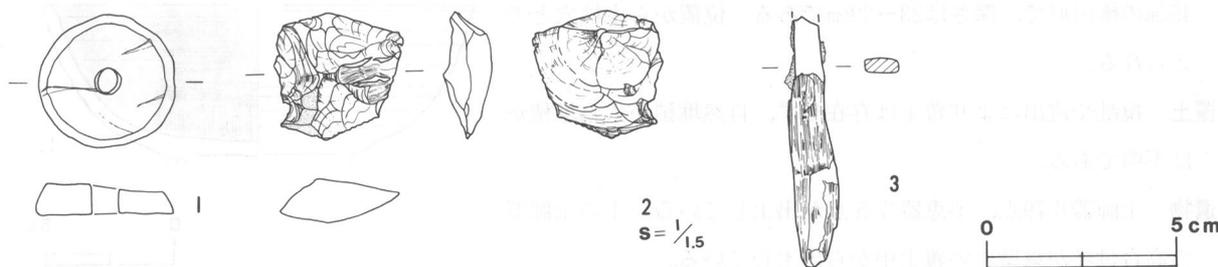
覆土 1層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- 5 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量

遺物 土師器片515点, 須恵器片88点, 陶器片4点が出土している。1の紡錘車が覆土中層から, 2の剥片が竈付近の覆土中層から, 3の刀子が南東コーナー付近の覆土中から出土している。

所見 本跡は攪乱を受けており, 出土遺物が古墳時代後期から近世にわたり, 時期判断が難しいが, 竈周辺から出土した遺物などから, 時期は平安時代と思われる。



第228図 第118号住居跡出土遺物実測図

第118号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考	
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)				
第228図1	紡錘車	3.6	3.6	0.9	0.7	17.0	緑泥片岩	覆土中層	Q28	100%
2	剥片	3.3	3.3	1.2		10.0	黒曜石	覆土中層	Q29	

図版番号	種別	計測値				備考		
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第228図3	刀子	(6.7)	0.8	0.4	9.0	M36 鉄製	覆土中	10%

第120号住居跡 (第229図)

位置 調査2区東部, L14c1区。

重複関係 本跡は第10号溝に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 攪乱や流出により, 壁の大半が残存せず規模は不明であるが, 確認された床面やピットの位置から, 長軸 [3.55] m, 短軸 [3.00] m の長方形と推定される。

主軸方向 N-19°-W

壁 壁高は15cmで, 緩斜して立ち上がる。

床 全体的に平坦で, 北東コーナー部がよく踏み固められている。

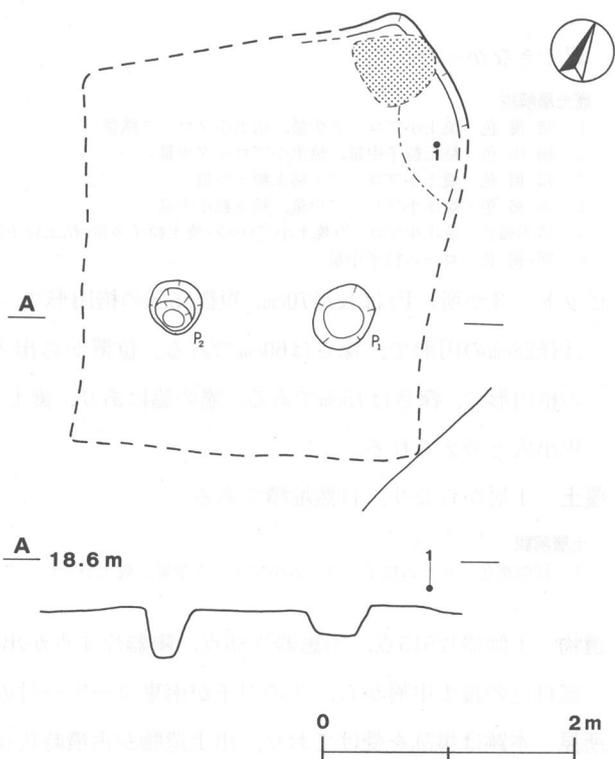
竈 北東コーナー部に, 長さ60cm, 幅50cmに粘土と焼土が確認され, ここに竈が付設されていたと考えられるが, 天井部, 袖部, 火床部, 煙道とも残存していない。

ピット 2か所。P1, P2は長径43~55cm, 短径40~45cmの楕円形で, 深さは23~39cmである。位置から支柱穴と考えられる。

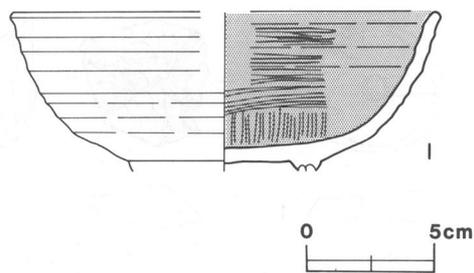
覆土 攪乱や流出により覆土は存在せず, 自然堆積か人為堆積かは不明である。

遺物 土師器片79点, 須恵器片5点が出土している。1の土師器の高台付坏が東壁下の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から平安時代と思われる。



第229図 第120号住居跡実測図



第230図 第120号住居跡出土遺物実測図

第120号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第230図 1	高台付坏 土師器	A [16.8] B (6.3)	平底に高台が付く。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き。体部外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。内面黒色処理。	砂粒・長石・石英・パミス・雲母 明黄褐色, 普通	P 422 60% 覆土中

第121号住居跡 (第231図)

位置 調査2区東部, L13h7区。

重複関係 第75号土坑, 第103号土坑, 第113号土坑が本跡を掘り込んでいるため, 本跡が古い。

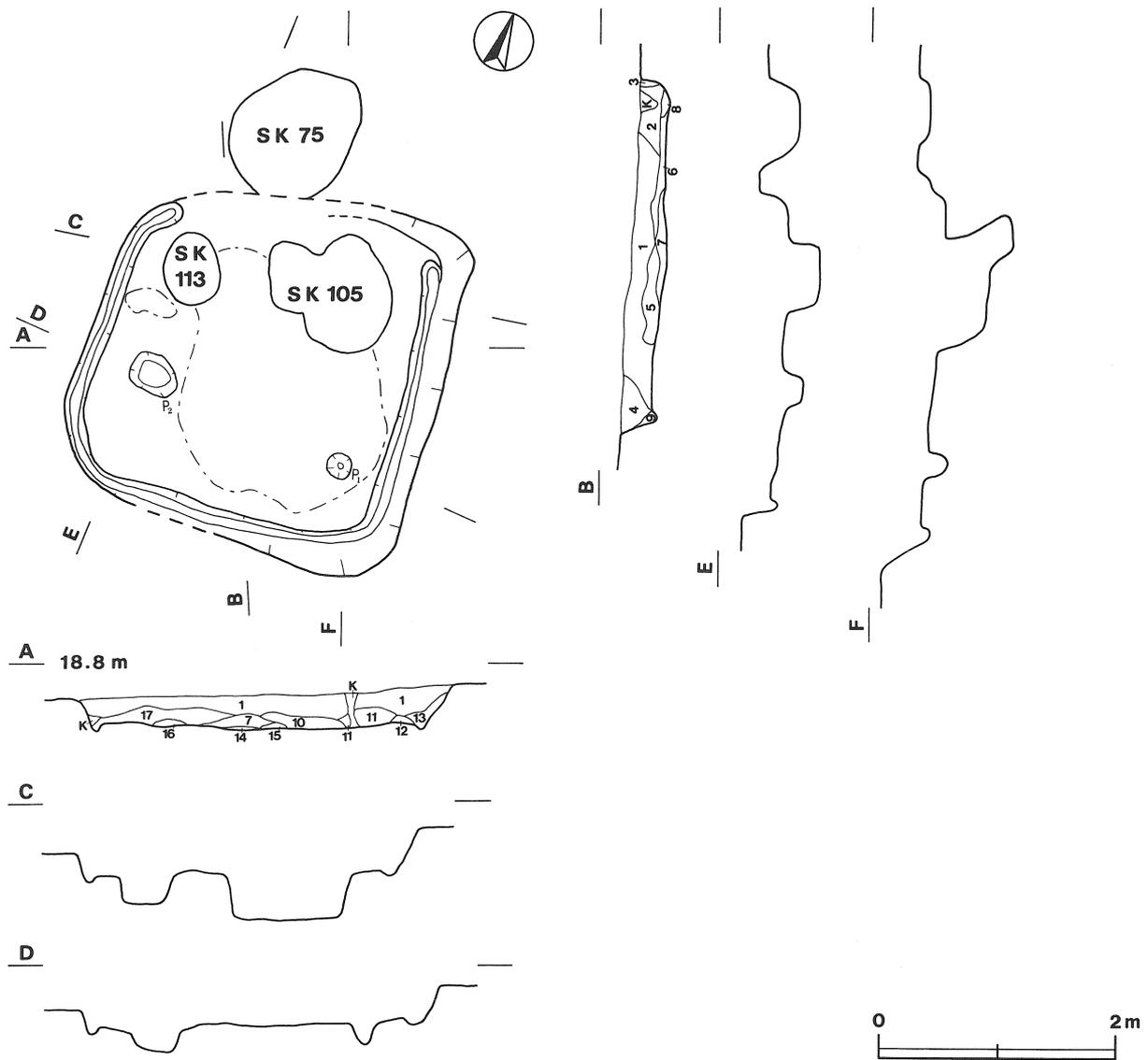
規模と平面形 長軸3.13m, 短軸3.01mの方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は13cm~32cmで, 外傾して立ち上がる。北壁の一部が第75号土坑によって掘り込まれ, 残存していない。

壁溝 幅10~30cm, 深さ4~7cmで, 断面形はU字形である。北壁下を除き, 各壁下から確認されている。

床 全体的に平坦で, 中央部を中心によく踏み固められている。



第231図 第121号住居跡実測図

竈 北壁中央部に焼土と粘土が確認されており、ここに竈が存在したと思われるが、第75号土坑によって掘り込まれており、残存していない。

ピット 2か所。P1は径20cmの円形で、深さは21cmである。P2は長径45cm、短径30cmの楕円形で、深さは18cmである。両者とも位置から支柱穴と考えられる。

覆土 17層からなり、人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|---------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック・焼土粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム小ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 13 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 14 灰褐色 | 粘土粒子・粘土中ブロック多量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | 焼土粒子・焼土小ブロック少量 |
| 7 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック微量 | 16 褐色 | ローム粒子多量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 17 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック少量 | | |

遺物 土師器片89点、須恵器片3点が出土している。どれも細片である。

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代と思われる。

第126-A号住居跡 (第232図)

位置 調査3区中央部, K11a6区。

重複関係 第126-B号住居跡を掘り込んでおり, 本跡が新しい。

規模と平面形 壁がほとんど残存しておらず, 規模も平面形も不明であるが, わずかに残存している壁や竈の位置から, 長軸 [4.00] m, 短軸 [2.27] mの長方形と推定した。

主軸方向 N-58°-W

壁 南西壁の一部と南東壁の一部がわずかに残存し, 壁高は18cmで垂直に立ち上がる。

床 全体的に, 平坦で, よく踏み固められている。

竈 北西壁推定ラインに付設されている。規模は, 長さ100cm, 幅78cmである。天井部は崩落し, 残存していないが, 両袖部が良好に残り, 砂混じりの灰色粘土で構築されている。火床部は楕円形に7cmほど掘りくぼめられ, 火熱を受けて赤変している。煙道は火床から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量 | 7 黒褐色 粘土小ブロック中量, 焼土小ブロック少量 |
| 2 褐灰色 粘土粒子多量 | 8 灰褐色 粘土粒子多量, 焼土小ブロック微量 |
| 3 褐灰色 粘土粒子少量 | 9 黒褐色 粘土粒子・焼土小ブロック微量 |
| 4 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子少量 | 10 灰褐色 粘土粒子・粘土小ブロック中量, 焼土小ブロック少量 |
| 5 黒褐色 粘土粒子・焼土粒子微量 | 11 褐灰色 粘土粒子多量, 焼土小ブロック少量 |
| 6 黒褐色 焼土小ブロック中量, 粘土小ブロック微量 | 12 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |

覆土 5層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック微量 | 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック微量 |
| 2 黒褐色 ローム小ブロック微量 | 6 黒褐色 焼土小ブロック・粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム小ブロック少量 | |

遺物 土師器片80点, 須恵器片4点が出土している。3の土師器の坏と, 4の土師器の高台付坏が竈の右側の覆土中から, 1の土師器の坏が南西壁下の覆土中と床から, 2の土師器坏が南西壁下の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から平安時代と思われる。

第126-A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第232図 1	坏 土師器	B (4.1) C 6.8	口縁部欠損。突出気味の平底で, 体部は内彎して立ち上がる。	体部内面へラ磨き。体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア, にぶい黄橙色, 普通	P445 30% 床直・覆土
2	坏 土師器	A [18.2] B (5.7)	底部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部でわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・石英にぶい橙色 普通	P446 20% 覆土中
3	坏 土師器	A [12.2] B (3.3)	口縁部, 体部上半破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に突出した稜がある。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラ磨き。	砂粒・雲母・長石褐色 普通	P447 5% 覆土中
4	高台付坏 土師器	A [14.3] B 7.0 D 6.9 E 1.4	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き。体部外面へラ削り。底部回転糸切り。内面黒色処理。	砂粒・長石・雲母 灰褐色 普通	P450 60% 覆土中